

**2020年度
人間環境学部
講義概要 (シラバス)**



法政大学

科目一覽

【発行日：2020/5/1】最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

研究会修了論文 [人間環境学部教員] 秋学期授業/Fall	1
コース修了論文 [人間環境学部教員] 秋学期授業/Fall	1
【C2002】 民法法Ⅰ [中川 義宏] 春学期授業/Spring	2
【C2003】 民法法Ⅱ [中川 義宏] 秋学期授業/Fall	3
【C2004】 国際法Ⅰ [岡松 暁子] 春学期授業/Spring	4
【C2005】 国際法Ⅱ [土屋 志穂] 秋学期授業/Fall	4
【C2007】 行政学 [山口 二郎] 年間授業/Yearly	5
【C2008】 国際関係論 [岡松 暁子] 春学期授業/Spring	6
【C2009】 アメリカ法の基礎 [永野 秀雄] 春学期授業/Spring	7
【C2010】 地方自治論 [阿部 慶徳] 春学期授業/Spring	7
【C2011】 憲法の基礎 [春山 習] 秋学期授業/Fall	8
【C2012】 刑法の基礎 [渡辺 靖明] 春学期授業/Spring	9
【C2013】 環境法Ⅰ [横内 恵] 春学期授業/Spring	10
【C2014】 環境法Ⅱ [永野 秀雄] 秋学期授業/Fall	11
【C2015】 環境法Ⅲ [横内 恵] 秋学期授業/Fall	12
【C2016】 環境法Ⅳ [今井 康介] 秋学期授業/Fall	13
【C2017】 国際環境法 [岡松 暁子] 秋学期授業/Fall	14
【C2019】 労働環境法 [水野 圭子] 春学期授業/Spring	15
【C2020】 自治体環境政策論Ⅰ [小島 聡] 春学期授業/Spring	16
【C2021】 自治体環境政策論Ⅱ [小島 聡] 秋学期授業/Fall	17
【C2023】 アメリカ環境法 [永野 秀雄] 秋学期授業/Fall	18
【C2024】 エネルギー政策論 [菊地 昌廣] 春学期授業/Spring	19
【C2025】 地球環境政治論 [横田 匡紀] 春学期授業/Spring	20
【C2026】 地域協力・統合 [大中 一彌] 秋学期授業/Fall	21
【C2100】 ミクロ経済学Ⅰ [芦田 登代] 春学期授業/Spring	22
【C2101】 ミクロ経済学Ⅱ [芦田 登代] 秋学期授業/Fall	23
【C2102】 マクロ経済学Ⅰ [今 喜史] 春学期授業/Spring	23
【C2103】 マクロ経済学Ⅱ [今 喜史] 秋学期授業/Fall	24
【C2104】 現代企業論 [長谷川 直哉] 春学期授業/Spring	25
【C2105】 ビジネスヒストリー [長谷川 直哉] 秋学期授業/Fall	26
【C2106】 経営学入門 [金藤 正直] 春学期授業/Spring	27
【C2107】 環境経営と会計 [金藤 正直] 秋学期授業/Fall	28
【C2108】 公共経済学 [小田 圭一郎] 春学期授業/Spring	29
【C2109】 簿記入門Ⅰ・Ⅱ (2015年度以前入学者) [大下 勇二] 年間授業/Yearly	30
【C2110】 環境経済論Ⅰ [國則 守生] 春学期授業/Spring	31
【C2111】 環境経済論Ⅱ [國則 守生] 秋学期授業/Fall	32
【C2112】 環境経営論Ⅰ [金藤 正直] 春学期授業/Spring	33
【C2113】 環境経営論Ⅱ [金藤 正直] 秋学期授業/Fall	34
【C2116】 CSR論Ⅰ [長谷川 直哉] 春学期授業/Spring	35
【C2117】 CSR論Ⅱ [長谷川 直哉] 秋学期授業/Fall	36
【C2118】 国際環境政策Ⅰ [國則 守生] 春学期授業/Spring	37
【C2119】 国際環境政策Ⅱ [人間環境学部教員] 秋学期授業/Fall	38
【C2120】 途上国経済論Ⅰ [武貞 稔彦] 春学期授業/Spring	39
【C2121】 途上国経済論Ⅱ [武貞 稔彦] 秋学期授業/Fall	40
【C2122】 国際経済協力論Ⅰ [武貞 稔彦] 春学期授業/Spring	41
【C2123】 国際経済協力論Ⅱ [武貞 稔彦] 秋学期授業/Fall	42
【C2126】 環境ビジネス論 [竹ヶ原 啓介] 秋学期授業/Fall	43
【C2127】 平和学 [植村 充] 春学期授業/Spring	44
【C2128】 人間の安全保障 [植村 充] 秋学期授業/Fall	45
【C2129】 環境マネジメントスタディーズⅠ [池原 庸介] 春学期授業/Spring	46
【C2130】 環境マネジメントスタディーズⅡ [池原 庸介] 秋学期授業/Fall	47
【C2131】 簿記入門Ⅰ (2016年度以降入学者) [大下 勇二] 春学期授業/Spring	48
【C2132】 簿記入門Ⅱ (2016年度以降入学者) [大下 勇二] 秋学期授業/Fall	49

【C2133】	行政法Ⅰ [横内 恵] 春学期授業/Spring	50
【C2134】	行政法Ⅱ [横内 恵] 秋学期授業/Fall	51
【C2200】	現代社会論Ⅰ [佐伯 英子] 春学期授業/Spring	52
【C2201】	現代社会論Ⅱ [佐伯 英子] 春学期授業/Spring	53
【C2202】	現代社会論Ⅲ [佐伯 英子] 秋学期授業/Fall	54
【C2203】	NPO・ボランティア論 [新田 英理子] 秋学期授業/Fall	55
【C2204】	フィールド調査論 [西城戸 誠] 春学期授業/Spring	56
【C2205】	フィールド調査論 [廣本 由香] 秋学期授業/Fall	57
【C2207】	社会統計論 [藤本 隆史] 春学期授業/Spring	58
【C2208】	ファシリテーション論 [鈴木 まり子] 春学期授業/Spring	59
【C2209】	グローバル・コミュニケーション [ESTHER STOCKWELL] 春学期授業/Spring	60
【C2210】	地域形成論 [小島 聡] 秋学期授業/Fall	61
【C2211】	地域経済論 [湯澤 規子] 春学期授業/Spring	62
【C2212】	地域福祉論 [宮脇 文恵] 春学期授業/Spring	63
【C2213】	地域コモンズ論 [船戸 修一] 秋学期授業/Fall	64
【C2214】	都市環境論Ⅰ [難波 匡甫] 春学期授業/Spring	65
【C2215】	都市環境論Ⅱ [難波 匡甫] 秋学期授業/Fall	66
【C2217】	環境社会論Ⅰ [西城戸 誠] 春学期授業/Spring	67
【C2218】	環境社会論Ⅱ [西城戸 誠] 秋学期授業/Fall	68
【C2219】	環境社会論Ⅲ [西城戸 誠] 秋学期授業/Fall	69
【C2220】	労働環境論Ⅰ [長峰 登記夫] 春学期授業/Spring	70
【C2221】	労働環境論Ⅱ [長峰 登記夫] 秋学期授業/Fall	71
【C2223】	NGO活動論 [小野 行雄] 春学期授業/Spring	72
【C2225】	ローカルスタディーズⅠ [船戸 修一] 秋学期授業/Fall	73
【C2226】	ローカルスタディーズⅡ [坂本 昭夫] 秋学期授業/Fall	74
【C2227】	災害政策論 [中川 和之] 春学期授業/Spring	74
【C2228】	科学技術社会論 [詫間 直樹] 秋学期授業/Fall	76
【C2229】	社会開発論 [新村 恵美] 秋学期授業/Fall	77
【C2231】	開発教育 [福田 紀子] 春学期授業/Spring	78
【C2232】	国際社会学 [新藤 慶] 秋学期授業/Fall	79
【C2233】	文化経営論 [荒川 裕子] 秋学期授業/Fall	80
【C2240】	ファシリテーション論 [鈴木 まり子] 春学期授業/Spring	81
【C2300】	西欧近代批判の思想 [越部 良一] 春学期授業/Spring	82
【C2301】	仏教思想 [小島敬裕] 秋学期授業/Fall	83
【C2303】	比較演劇論Ⅰ [平野井 ちえ子] 春学期授業/Spring	84
【C2304】	比較演劇論Ⅱ [平野井 ちえ子] 秋学期授業/Fall	85
【C2307】	日本美術史論 [豊田 和平] 秋学期授業/Fall	86
【C2308】	西洋美術史論 [板橋 美也] 秋学期授業/Fall	87
【C2309】	生命の現在と倫理 [吉永 明弘] 秋学期授業/Fall	88
【C2310】	環境倫理学 [吉永 明弘] 秋学期授業/Fall	88
【C2311】	環境哲学基礎論 [吉永 明弘] 春学期授業/Spring	89
【C2312】	日本環境史論Ⅰ [根崎 光男] 春学期授業/Spring	89
【C2313】	日本環境史論Ⅱ [根崎 光男] 秋学期授業/Fall	90
【C2314】	ヨーロッパ環境史論Ⅰ [辻 英史] 春学期授業/Spring	91
【C2315】	ヨーロッパ環境史論Ⅱ [辻 英史] 秋学期授業/Fall	92
【C2316】	環境人類学Ⅰ [難波 美芸] 春学期授業/Spring	93
【C2317】	環境人類学Ⅱ [高橋 五月] 秋学期授業/Fall	94
【C2321】	環境人類学Ⅲ [難波 美芸] 秋学期授業/Fall	95
【C2322】	環境表象論Ⅰ [梶 裕史] 春学期授業/Spring	96
【C2323】	環境表象論Ⅱ [梶 裕史] 秋学期授業/Fall	97
【C2400】	サイエンスカフェⅠ [石井 利典] 春学期授業/Spring	98
【C2401】	サイエンスカフェⅡ [宮川 路子] 秋学期授業/Fall	99
【C2402】	サイエンスカフェⅢ [高田 雅之] 春学期授業/Spring	100
【C2403】	自然環境論Ⅰ [杉戸 信彦] 春学期授業/Spring	101
【C2404】	自然環境論Ⅱ [杉戸 信彦] 秋学期授業/Fall	102
【C2405】	自然環境論Ⅲ [杉戸 信彦] 春学期授業/Spring	103
【C2406】	エネルギー論Ⅰ [北川 徹哉] 春学期授業/Spring	104

【C2407】	地球科学史Ⅰ [谷本 勉] 春学期授業/Spring	105
【C2408】	地球科学史Ⅱ [谷本 勉] 秋学期授業/Fall	106
【C2409】	環境健康論Ⅰ [朝比奈 茂] 春学期授業/Spring	107
【C2410】	環境健康論Ⅱ [朝比奈 茂] 秋学期授業/Fall	108
【C2411】	気候変動論Ⅰ [松本 倫明] 春学期授業/Spring	109
【C2412】	気候変動論Ⅱ [松本 倫明] 秋学期授業/Fall	110
【C2413】	自然環境政策論Ⅰ [高田 雅之] 春学期授業/Spring	111
【C2414】	自然環境政策論Ⅱ [高田 雅之] 秋学期授業/Fall	112
【C2416】	環境科学Ⅰ [藤倉 良] 春学期授業/Spring	113
【C2417】	環境科学Ⅱ [藤倉 良] 秋学期授業/Fall	114
【C2418】	環境科学Ⅲ [藤倉 良] 春学期授業/Spring	115
【C2419】	衛生・公衆衛生学Ⅰ [宮川 路子] 春学期授業/Spring	116
【C2420】	衛生・公衆衛生学Ⅱ [宮川 路子] 秋学期授業/Fall	117
【C2421】	衛生・公衆衛生学Ⅲ [宮川 路子] 春学期授業/Spring	118
【C2422】	エネルギー論Ⅱ [北川 徹哉] 秋学期授業/Fall	119
【C2423】	大気と社会Ⅰ [丸本 美紀] 春学期授業/Spring	120
【C2424】	大気と社会Ⅱ [北川 徹哉] 秋学期授業/Fall	121
【C2429】	サイエンスカフェⅣ [渡邊 誠] 春学期授業/Spring	122
【C2430】	環境モデル論Ⅰ [渡邊 誠] 春学期授業/Spring	123
【C2431】	環境モデル論Ⅱ [渡邊 誠] 秋学期授業/Fall	124
【C2432】	自然災害論 [杉戸 信彦] 秋学期授業/Fall	126
【C2433】	自然環境論Ⅳ [中井 達郎] 秋学期授業/Fall	127
【C2500】	公害防止管理論Ⅰ [大岡 健三] 春学期授業/Spring	128
【C2501】	公害防止管理論Ⅱ [大野 香代] 春学期授業/Spring	129
【C2502】	廃棄物・リサイクル論 [鎗木 儀郎] 秋学期授業/Fall	130
【C2503】	環境教育論 [野田 恵] 春学期授業/Spring	131
【C2504】	キャリア入門 [長峰 登記夫] 春学期授業/Spring	132
【C2505】	食と農の環境学Ⅰ [西川 邦夫] 春学期授業/Spring	133
【C2506】	食と農の環境学Ⅱ [湯澤 規子] 春学期授業/Spring	134
【C2507】	食と農の環境学Ⅲ [湯澤 規子] 秋学期授業/Fall	135
【C2508】	スポーツビジネス論Ⅰ [岩村 聡] 春学期授業/Spring	136
【C2509】	スポーツビジネス論Ⅱ [岩村 聡] 秋学期授業/Fall	137
【C2554】	アーティストと社会貢献 [庄野 真代] 春学期授業/Spring	137
【C2559】	現代思想と人間Ⅰ [竹本 研史] 春学期授業/Spring	138
【C2560】	現代思想と人間Ⅱ [竹本 研史] 秋学期授業/Fall	139
【C2563】	キャリアアチャレンジ [人間環境学部教員] 春学期授業/Spring	140
【C2564】	キャリアアチャレンジ [人間環境学部教員] 秋学期授業/Fall	141
【C2570】	人間環境特論(地域資源社会論) [湯澤 規子] 秋学期授業/Fall	141
【C2575】	人間環境特論(市民参加×まちづくり～地域コンサルティングの現場から) [佐谷 和江] 秋学期授業/Fall	142
【C2576】	人間環境学特論(持続可能性と海洋) [中田 達也] 春学期授業/Spring	143
【C2577】	人間環境特論(沖縄環境論) [廣本 由香] 秋学期授業/Fall	144
【C2578】	人間環境特論(スポーツと法) [小川 和茂] 秋学期授業/Fall	145
【C2600】	人間環境学への招待 [人間環境学部教員] 春学期授業/Spring	146
【C2602】	人間環境学への招待 [人間環境学部教員] 春学期授業/Spring	147
【C2701】	基礎演習 [人間環境学部教員] 秋学期授業/Fall	148
【C2703】	基礎演習 [人間環境学部教員] 秋学期授業/Fall	149
【C2704】	基礎演習 [人間環境学部教員] 秋学期授業/Fall	150
【C2706】	基礎演習 [人間環境学部教員] 秋学期授業/Fall	151
【C2707】	基礎演習 [人間環境学部教員] 秋学期授業/Fall	152
【C2708】	基礎演習 [人間環境学部教員] 秋学期授業/Fall	153
【C2712】	基礎演習 [人間環境学部教員] 秋学期授業/Fall	154
【C2714】	基礎演習 [人間環境学部教員] 秋学期授業/Fall	155
【C2716】	基礎演習 [人間環境学部教員] 秋学期授業/Fall	156
【C2717】	基礎演習 [人間環境学部教員] 秋学期授業/Fall	157
【C2718】	基礎演習 [人間環境学部教員] 秋学期授業/Fall	158
【C2719】	基礎演習 [人間環境学部教員] 秋学期授業/Fall	159
【C2720】	基礎演習 [人間環境学部教員] 秋学期授業/Fall	160

【C2722】	基礎演習 [人間環境学部教員] 秋学期授業/Fall	161
【C2723】	基礎演習 [人間環境学部教員] 秋学期授業/Fall	162
【C2724】	基礎演習 [人間環境学部教員] 秋学期授業/Fall	163
【C2725】	基礎演習 [人間環境学部教員] 秋学期授業/Fall	164
【C2726】	基礎演習 [人間環境学部教員] 秋学期授業/Fall	165
【C2729】	基礎演習 [人間環境学部教員] 秋学期授業/Fall	166
【C2733】	基礎演習 [人間環境学部教員] 秋学期授業/Fall	167
【C2800】	情報処理基礎 [小林 信彦] 春学期授業/Spring	168
【C2801】	情報処理基礎 [小林 信彦] 秋学期授業/Fall	169
【C2802】	情報処理基礎 [松本 倫明] 春学期授業/Spring	170
【C2803】	情報処理基礎 [松本 倫明] 秋学期授業/Fall	171
【C2804】	情報処理基礎 [渡邊 誠] 秋学期授業/Fall	172
【C2805】	情報処理基礎 [小林 信彦] 秋学期授業/Fall	173
【C2806】	情報処理基礎 [小林 信彦] 春学期授業/Spring	174
【C2807】	ネットワークとマルチメディア [松本 倫明] 秋学期授業/Fall	175
【C2809】	統計とデータ分析 [渡邊 誠] 春学期授業/Spring	176
【C2812】	ネットワークとマルチメディア [松本 倫明] 春学期授業/Spring	177
【C2900】	英語Ⅰ (スキルアップ科目) [平野井 ちえ子] 春学期授業/Spring	178
【C2903】	英語Ⅰ (スキルアップ科目) [板橋 美也] 春学期授業/Spring	179
【C2909】	英語Ⅱ (スキルアップ科目) [磯部 芳恵] 秋学期授業/Fall	180
【C2915】	英語Ⅲ (スキルアップ科目) [磯部 芳恵] 春学期授業/Spring	181
【C2921】	英語Ⅳ (スキルアップ科目) [磯部 芳恵] 秋学期授業/Fall	182
【C2950】	テーマ別英語1 (スキルアップ科目) [王 川菲] 春学期授業/Spring	183
【C2956】	テーマ別英語3 (スキルアップ科目) [R. G. ジェイムズ] 春学期授業/Spring	185
【C2959】	テーマ別英語4 (スキルアップ科目) [R. G. ジェイムズ] 秋学期授業/Fall	186
【C3000】	研究会 A [朝比奈 茂] 年間授業/Yearly	187
【C3003】	研究会 A [板橋 美也] 年間授業/Yearly	188
【C3004】	研究会 A [杉戸 信彦] 年間授業/Yearly	189
【C3005】	研究会 A [岡松 暁子] 年間授業/Yearly	190
【C3006】	研究会 A [梶 裕史] 年間授業/Yearly	191
【C3007】	研究会 A [北川 徹哉] 年間授業/Yearly	192
【C3009】	研究会 A [國則 守生] 年間授業/Yearly	193
【C3010】	研究会 A [小島 聡] 年間授業/Yearly	194
【C3011】	研究会 A [小島 聡] 年間授業/Yearly	195
【C3012】	研究会 A [ESTHER STOCKWELL] 年間授業/Yearly	196
【C3015】	研究会 A [武貞 稔彦] 年間授業/Yearly	197
【C3017】	研究会 A [辻 英史] 年間授業/Yearly	198
【C3018】	研究会 A [永野 秀雄] 年間授業/Yearly	199
【C3019】	研究会 A [永野 秀雄] 年間授業/Yearly	200
【C3020】	研究会 A [長峰 登記夫] 年間授業/Yearly	201
【C3022】	研究会 A [西城戸 誠] 年間授業/Yearly	203
【C3023】	研究会 A [根崎 光男] 年間授業/Yearly	204
【C3024】	研究会 A [長谷川 直哉] 年間授業/Yearly	205
【C3025】	研究会 A [日原 傳] 年間授業/Yearly	206
【C3026】	研究会 A [平野井 ちえ子] 年間授業/Yearly	207
【C3027】	研究会 A [藤倉 良] 年間授業/Yearly	208
【C3028】	研究会 A [金藤 正直] 年間授業/Yearly	208
【C3029】	研究会 A [松本 倫明] 年間授業/Yearly	209
【C3030】	研究会 A [宮川 路子] 年間授業/Yearly	210
【C3031】	研究会 A [宮川 路子] 年間授業/Yearly	211
【C3034】	研究会 A [渡邊 誠] 年間授業/Yearly	212
【C3035】	研究会 A [高田 雅之] 年間授業/Yearly	213
【C3036】	研究会 B [杉戸 信彦] 年間授業/Yearly	214
【C3037】	研究会 B [岡松 暁子] 春学期授業/Spring	215
【C3038】	研究会 A [梶 裕史] 年間授業/Yearly	216
【C3039】	研究会 B [北川 徹哉] 年間授業/Yearly	217
【C3040】	研究会 B [ESTHER STOCKWELL] 年間授業/Yearly	218

【C3043】	研究会 B	〔武貞 稔彦, 竹本 研史〕	年間授業/Yearly	219
【C3046】	研究会 A	〔谷本 勉〕	年間授業/Yearly	220
【C3047】	研究会 B	〔長峰 登記夫〕	年間授業/Yearly	220
【C3048】	研究会 B	〔根崎 光男〕	年間授業/Yearly	221
【C3049】	研究会 B	〔長谷川 直哉〕	年間授業/Yearly	222
【C3052】	研究会 A	〔高田 雅之〕	年間授業/Yearly	223
【C3054】	研究会 B	〔永野 秀雄〕	春学期授業/Spring	224
【C3060】	研究会 B	〔渡邊 誠〕	年間授業/Yearly	225
【C3062】	研究会 B	〔金藤 正直〕	年間授業/Yearly	226
【C3064】	研究会 B	〔高橋 五月〕	年間授業/Yearly	227
【C3065】	研究会 B	〔小島 聡〕	春学期授業/Spring	228
【C3066】	研究会 B	〔小島 聡〕	秋学期授業/Fall	229
【C3071】	研究会 A	〔高橋 五月〕	年間授業/Yearly	230
【C3072】	研究会 A	〔竹本 研史〕	年間授業/Yearly	231
【C3073】	研究会 A	〔横内 恵〕	年間授業/Yearly	232
【C3074】	研究会 A	〔佐伯 英子〕	年間授業/Yearly	233
【C3075】	研究会 A	〔湯澤 規子〕	年間授業/Yearly	234
【C3076】	研究会 A	〔吉永 明弘〕	年間授業/Yearly	235
【C3081】	研究会 B	〔横内 恵〕	年間授業/Yearly	236
【C3083】	研究会 B	〔佐伯 英子〕	年間授業/Yearly	237
【C3085】	研究会 B	〔湯澤 規子〕	年間授業/Yearly	238
【C3087】	研究会 B	〔吉永 明弘〕	年間授業/Yearly	239
【C3090】	研究会 B	〔國則 守生〕	年間授業/Yearly	240
【C3091】	研究会 B	〔西城戸 誠〕	年間授業/Yearly	241
【C3095】	研究会 B	〔高田 雅之〕	年間授業/Yearly	242
【C3200】	人間環境セミナー	(災害の時代を生き抜く実践知) [人間環境学部教員]	春学期授業/Spring	243
【C3201】	人間環境セミナー	(食と健康) [人間環境学部教員]	秋学期授業/Fall	244
【C3204】	人間環境セミナー	(デジタル社会を考える) [人間環境学部教員]	秋学期授業/Fall	245
【C3300】	フィールドスタディ	[人間環境学部教員]	春学期授業/Spring	246
【C3301】	フィールドスタディ	[人間環境学部教員]	秋学期授業/Fall	247
【C3454】	SCOPE Seminar	[Atsuko Watanabe]	秋学期授業/Fall	247
【C3455】	SCOPE Seminar	[Masaatsu TAKEHARA]	秋学期授業/Fall	248
【C3457】	SCOPE Seminar	[Atsuko Watanabe]	春学期授業/Spring	249
【C3458】	SCOPE Seminar	[Masaatsu TAKEHARA]	春学期授業/Spring	250
【C3459】	SCOPE Seminar	[Hidemi YOSHIDA]	秋学期授業/Fall	251
【C3460】	SCOPE Seminar	[Hidemi YOSHIDA]	春学期授業/Spring	252
【C3461】	SCOPE Seminar	[Shamik Chakraborty]	秋学期授業/Fall	253
【C3462】	SCOPE Seminar	[Shamik Chakraborty]	春学期授業/Spring	254

OTR400HA

研究会修了論文

人間環境学部教員

配当年次／単位：4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Aタイプ研究会を原則として2年以上継続して履修し、その成果をまとめた論文を作成する。（詳細は「履修の手引き」参照。）

【到達目標】

各自でテーマを決め、研究会修了論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各A研究会の中で指導していく。問題意識とテーマ設定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導する。下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回	テーマの設定と構成①	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第3回	テーマの設定と構成②	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第4回	テーマの設定と構成③	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第5回	資料の収集①	論文に関連する資料を収集する。
第6回	資料の収集②	論文に関連する資料を収集する。
第7回	資料の収集③	論文に関連する資料を収集する。
第8回	資料の収集④	論文に関連する資料を収集する。
第9回	情報の整理①	収集した情報を整理する。
第10回	情報の整理②	収集した情報を整理する。
第11回	情報の整理③	収集した情報を整理する。
第12回	執筆①	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第13回	執筆②	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第14回	執筆③	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究会修了論文は基本的に課外学習として行うので、各教員の指示にしたがって、計画的に進めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各教員が指示する。

【参考書】

各教員が指示する。

【成績評価の方法と基準】

構成、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件であり、さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

長文の論文執筆は負担の大きな作業ではあるが、それゆえに終了時の達成感、満足度も大きい。ぜひ、チャレンジして頂きたい。

【その他の重要事項】

- ①各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。
- ②Bタイプ研究会受講者は登録できない。（Bタイプ研究会受講者は「コース修了論文」を履修することが可能である。詳細は「履修の手引き」参照。）
- ③研究会修了論文は秋学期科目であるため、「秋学期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This is a course for writing thesis (for type A seminar participants). Students will be able to plan and write scientific paper based on their research.

OTR400HA

コース修了論文

人間環境学部教員

配当年次／単位：4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間環境学部での学びを踏まえた、成果をまとめた論文を作成する。（詳細は「履修の手引き」参照。）

【到達目標】

各自でテーマを決め、コース修了論文を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

指導教員に従い、個別に指導していく。問題意識とテーマ設定、先行研究の調査、データ分析、論文完成に至る作業プロセスなど、具体的に指導する。下記の授業計画は、あくまで一例であるので、各指導教員の指示に従うこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	論文の書き方	基本的な論文の書き方を学ぶ。
第2回	テーマの設定と構成①	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第3回	テーマの設定と構成②	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第4回	テーマの設定と構成③	論文のテーマを決定し、テーマに応じた論文構成を作る。
第5回	資料の収集①	論文に関連する資料を収集する。
第6回	資料の収集②	論文に関連する資料を収集する。
第7回	資料の収集③	論文に関連する資料を収集する。
第8回	資料の収集④	論文に関連する資料を収集する。
第9回	情報の整理①	収集した情報を整理する。
第10回	情報の整理②	収集した情報を整理する。
第11回	情報の整理③	収集した情報を整理する。
第12回	執筆①	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第13回	執筆②	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。
第14回	執筆③	論文の執筆を行う。引用文献や目次などを作って論文を整える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コース修了論文は、基本的に課外学習として行うので、各教員の指示にしたがって、計画的に進めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各教員が指示する。

【参考書】

各教員が指示する。

【成績評価の方法と基準】

構成、参考文献など、論文としての体裁が整っていることが最低条件であり、さらに内容の独創性に応じて評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

長文の論文執筆は負担の大きな作業ではあるが、それゆえに終了時の達成感、満足度も大きい。ぜひ、チャレンジして頂きたい。

【その他の重要事項】

- ①各自のテーマに従って、関連する論文や文献についてよく研究し、計画的に進めること。
- ②コース修了論文の指導教員の決定については、事前に指導教員とよく相談し、内諾を得ること。指導教員の決定に関するプロセスについては、学務部の掲示および履修の手引きを参照し、慎重に行うこと。また、コース修了論文は、秋学期科目であるため、「秋学期履修登録期間」に登録を忘れないように注意すること。
- ③Aタイプ研究会受講者は登録できない。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This is a course for writing thesis (for type B seminar participants). Students will be able to plan and write scientific paper based on their research.

LAW200HA

民法法 I

中川 義宏

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【Outline and objectives】

Through the study of “civil law”(mainly contract law and tort law), we can get the legal mindset. We will learn about trials as appropriate.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私法の一般法について定めた法律である「民法」（その中でも主に契約法と不法行為法）の学習を通じて、法的なものの考え方（リーガルマインド）を身に付ける。適宜、裁判実務についても学習する。

【到達目標】

我が国は法治国家であり、紛争が生じた場合、最終的には、司法権を行使する裁判所が、法律に従って、終局的な解決を図る。本講では、民事紛争を解決する際の拠り所となる民法について、主に契約法と不法行為法を中心に、裁判実務を交えて学習し、その学習を通じて、学生たちは、法的なものの考え方（リーガルマインド）を身に付けることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は基本的には講義形式で進めるが、理解度を深めるために適宜学生による授業内での発表も予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	法律学入門	法律学とは何か、何のために法律を学ぶのかについて考える。
第 2 回	民法入門	民法の全体構造を概観し、民法の体系的な理解を図る。
第 3 回	裁判実務入門	裁判（民事・刑事）の仕組みと手続きの流れについて学習する。
第 4 回	契約法総論	契約とは何か、日常生活でよく利用される売買契約を例に挙げて、権利義務の発生・消滅について学習する。
第 5 回	意思表示	意思の不存在（心裡留保、虚偽表示）、瑕疵ある意思表示（錯誤、詐欺、強迫）について学ぶ。
第 6 回	時効	消滅時効、取得時効について学習する。
第 7 回	物権と債権	物権（物を直接支配する権利）と債権（特定の者に対し特定の行為を請求する権利）の概念、物権の中の所有権、抵当権について学ぶ。
第 8 回	典型契約	民法に規定されたの典型契約のうち、贈与、売買、消費貸借、賃貸借、雇用、請負契約について学ぶ。
第 9 回	不動産登記	不動産（土地・建物）の登記実務について学習する。
第 10 回	不法行為法総論	不法行為とは何か、日常生活でよく発生する交通事故を例に挙げて、不法行為の要件と効果について学習する。
第 11 回	名誉棄損	不法行為の一類型である名誉棄損による不法行為について、裁判例を挙げて学習する。
第 12 回	プライバシー侵害	不法行為の一類型であるプライバシー侵害による不法行為について、裁判例を挙げて学習する。
第 13 回	使用者責任	不法行為の一類型である使用者責任の要件と効果について、裁判例を挙げて学習する。
第 14 回	試験および解説、民法法 I のまとめ	試験を実施し、その解説をしながら、社会生活における法律の役割について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない（使用しない）。

【参考書】

六法。その他の参考書は講義の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

講義の第 14 回目に期末試験を行い、成績評価はこの期末試験と平常点（授業での学習状況及び参加度）を基準に評価する。期末試験 50 点、平常点 50 点の 100 点満点のうち 60 点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

LAW200HA

民事法Ⅱ

中川 義宏

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 5/Thu.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私法の一般法について定めた法律である「民法」（その中でも主に親族法と相続法）及び民法の特別法に当たる「労働法」の学習を通じて、法的なものの考え方（リーガルマインド）を身に付ける。適宜、裁判実務についても学習する。

【到達目標】

我が国は法治国家であり、紛争が生じた場合、最終的には、司法権を行使する裁判所が、法律に従って、終局的な解決を図る。本講では、民事紛争・家事紛争を解決する際の拠り所となる民法の中の親族法と相続法を中心に、また、就職後に必ず必要となる知識の労働法について、裁判実務を交えて学習し、その学習を通じて、学生たちは、法的なものの考え方（リーガルマインド）を身に付けることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は基本的には講義形式で進めるが、理解度を深めるために適宜学生による授業内での発表も予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	法律学入門	法律学とは何か、何のために法律を学ぶのかについて考える。
第2回	民法・家族法入門	民法の全体構造を概観し、その中の家族法（親族法と相続法）の基礎を学習する。
第3回	労働法入門	労働法の全体構造を概観し、就職に際して最低限押さえておきたい労働法の基礎的知識について学習する。
第4回	裁判実務入門	離婚や相続をめぐる家事紛争について、これらの紛争が裁判を通じてどのように解決されていくのか、裁判実務について学習する。
第5回	婚姻・離婚	婚姻に関し、その成立と効力、夫婦財産制、離婚について学習する。
第6回	親子・親権・後見・扶養	親子関係（実子、養子、養子縁組）、親権の効力、後見制度、扶養義務について学習する。
第7回	相続人・相続分・遺産分割	相続の際に相続人は誰になるのか、相続の割合は法律上どうなるのか、遺産分割はどのようにして行われるのかについて学習する。
第8回	遺言・遺留分	遺言書の書き方、遺留分について学習する。
第9回	労働契約・就業規則・解雇	労働契約の成立から終了まで、労働基準法の中の総則、労働契約、就業規則、解雇を中心に学習する。
第10回	賃金・労働時間・休息・休日・年次有給休暇・育児制度	労働基準法の中の賃金、労働時間、休息、休日、年次有給休暇の諸概念、育児介護休業法の中の育児制度について学ぶ。
第11回	パワハラ・セクハラ	職場で起きるパワハラやセクハラについて、裁判例を通じて学習する。
第12回	社会保険制度	労働者が怪我や失業、加齢などにより働けなくなった場合に給付を受けるための制度（医療保険、年金保険、介護保険、雇用保険、労災保険）について学習する。
第13回	同一労働同一賃金の原則	正規雇用・非正規雇用の問題、同一労働同一賃金の原則について学ぶ。
第14回	試験および解説、民事法Ⅱのまとめ	試験を実施し、その解説をしながら、社会生活における法律の役割について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない（使用しない）。

【参考書】

六法。その他の参考書は講義の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

講義の第14回目に期末試験を行い、成績評価はこの期末試験と平常点（授業での学習状況及び参加度）を基準に評価する。期末試験50点、平常点50点の100点満点のうち60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【Outline and objectives】

Through the study of “civil law”(mainly family law and law of succession) and “labor law”, we can get the legal mindset. We will learn about trials as appropriate.

LAW200HA

国際法 I

岡松 暁子

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際法は、主として国家間関係を規律する法である。平等な主権国家で成り立っている国際社会は、国家と国家が合意を結ぶことで国際秩序が維持されている。本講義では、この国家間の合意の総論部分（国際法の基礎理論）を扱う。適宜事例を分析することにより、国際紛争においていかなる国際法の解釈問題が争点となっているかを検討し、国際秩序の形成および紛争解決における国際法の役割と意義を考察する。

【到達目標】

国際法の基礎理論を学び、国際法の基本的な法的枠組みを把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

国際法の総論（理論）部分についての講義を行う。
教室での講義が可能になるまでの間、オンデマンドによるビデオ講義のほか、ZOOM による質疑応答を行う。
詳細は、授業支援システムで確認のこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	本講義の対象範囲
第 2 回	国際法の基本原理	国際法概念、近代国際法の特徴
第 3 回	法源 (1)	条約、国際慣習法
第 4 回	法源 (2)	法の一般原則、補助法源としての判例、学説
第 5 回	国際法と国内法の関係	論理的関係、国際法における国内法、国内法における国際法
第 6 回	国家・国家機関 (1)	国家承認、政府承認
第 7 回	国家・国家機関 (2)	国家承継、国家機関
第 8 回	国家管轄権	国家管轄権の意義、国家管轄権の適用基準、国家管轄権の競合、国家免除
第 9 回	国際組織法 (1)	国際組織の要件・類型・分類、国際組織の歴史的発展
第 10 回	国際組織法 (2)	国際組織の構造、国際組織の意思決定、国際組織の機能、国際組織の法主体性
第 11 回	国家責任法 (1)	国家責任の概念、国際違法行為責任の基本構造
第 12 回	国家責任法 (2)	国家責任の発生要件、国家責任の解除、外交保護制度
第 13 回	国家領域 (1)	領域主権、領土保全原則、領域使用の管理責任
第 14 回	国家領域 (2)	領域権原の取得原因、日本の領域紛争

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
教科書の該当部分を読んでおくこと。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

小寺彰・岩沢雄司・森田章夫編『講義国際法 [第 2 版]』有斐閣、2010 年、4,730 円
岩沢雄司編『国際条約集』有斐閣、3,080 円

【参考書】

小寺彰・森川幸一・西村弓編『国際法判例百選 [第 2 版]』有斐閣、2011 年、2,724 円

【成績評価の方法と基準】

小テスト (30%)
期末レポート (70%)

【学生の意見等からの気づき】

特にコメントはありません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This course introduces students to the legal order and rules that govern the international society. Students may learn the basic international theory and gain better understanding by reading leading cases.

LAW200HA

国際法 II

土屋 志穂

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際法は、主として国家間関係を規律する法である。平等な主権国家で成り立っている国際社会は、国家と国家が合意を結ぶことで国際秩序が維持されている。本講義では、主としてその各論部分を扱う。第一に、国際関係の基本単位としての国家管轄権の発現態様である実体法に焦点を当て、個別分野における国際的な規制枠組を検討する。第二に、国際法秩序の維持と国際法の履行確保のための方式や制度について考察する。

【到達目標】

国際社会における具体的な事象を法的に分析する素地を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

国際法の各論部分についての講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	本講義の対象
第 2 回	海洋法 (1)	海洋法の歴史的発展、内水、領海
第 3 回	海洋法 (2)	排他的経済水域、公海
第 4 回	海洋法 (3)	大陸棚、深海底
第 5 回	南極、宇宙	南極の法的地位、宇宙空間の利用
第 6 回	個人の管轄 (1)	国籍、犯罪人引渡し・庇護
第 7 回	個人の管轄 (2)	国際犯罪、国際刑事裁判所
第 8 回	国際人権法	人権の国際的保障、人道的介入
第 9 回	紛争の平和的解決 (1)	国際社会における紛争解決手続きの特徴、平和的解決と強制的解決
第 10 回	紛争の平和的解決 (2)	非裁判的手続
第 11 回	紛争の平和的解決 (3)	裁判的手続
第 12 回	国際安全保障、軍縮・軍備管理	武力不行使原則、集団安全保障、自衛権、平和維持活動、核の国際管理、軍縮
第 13 回	国際人道法 (1)	武力紛争法規の適用対象、敵対行為の規制、軍事目標主義
第 14 回	国際人道法 (2)	戦争犠牲者の保護、武力紛争法規の履行確保、軍縮・軍備管理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
教科書の該当部分を読んでおくこと。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

小寺彰・岩沢雄司・森田章夫編『講義国際法 [第 2 版]』有斐閣、2010 年、4,730 円
岩沢雄司編『国際条約集』有斐閣、3,080 円

【参考書】

小寺彰・森川幸一・西村弓編『国際法判例百選 [第 2 版]』有斐閣、2011 年、2,724 円

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100%。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【その他の重要事項】

履修者は国際法 I を履修済みであることが望ましいが、それを履修の条件とはしない。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This course introduces students to the specific international legal framework in various fields. Students may learn the legal process of peace making and gain better understanding by reading leading cases.

POL200HA

行政学

山口 二郎

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：水 2/Wed.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は政策行政系の科目である。

行政の役割と活動について説明し、行政を担う官僚組織について、その構造、歴史、特徴、動態を解説する。また、政府における政策形成過程についても、解説する。

【到達目標】

政府の役割と限界についての確に理解すること。

現代官僚制の役割と限界についての確に理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

現代行政の構成要素、官僚組織、行政制度、政府体系、政策形成過程について講義を展開する。今年度は当分の間、教室での授業ができないため、YouTubeを通して授業を行う。URLは毎週水曜日に教育支援システムで掲示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	1 行政とは何か	近現代におけるリスクの変容と政府活動の拡大
	1 リスクと行政	
第2回	1 リスクと行政 続	グローバル化とリスクの変化及び行政活動の変質
第3回	2 政府の役割	政府と市場の比較にもとづく、政府の役割と限界についての説明
第4回	2 政府の役割 続	公共性の意義と政府の役割
第5回	3 行政の発展段階と行政概念の展開	民主化、産業化がもたらす行政活動の拡大 福祉国家と行政
第6回	II 近代官僚制と行政	官僚制の概念の歴史的展開
	1 近代官僚制の成立とウェーバーの官僚制論	マックス・ウェーバーの官僚制概念
第7回	1 近代官僚制の成立 続	官僚制と合理性 グローバル化と官僚制の変容
第8回	2 官僚制の構造と機能	官僚制における整理と病理、機能と逆機能
第9回	2 官僚制の構造と機能 続	官僚制における服従と自発、忠誠と反逆
第10回	3 行政責任と行政裁量	官僚制の裁量と民主的統制
第11回	3 行政責任と行政裁量 続	日本の行政における責任の概念と政策の失敗
第12回	4 官僚組織と現代社会	20世紀文明としての官僚制 フォーダイズムと官僚制組織
第13回	5 ポスト 311 の官僚制と行政	科学技術の発達と専門権力 民主政治と専門権力の関係
第14回	5 ポスト 311 の官僚制と行政 続	政策決定における個人と組織
第15回	5 ポスト 311 の官僚制と行政 続	日本官僚制における無責任体制 官僚制の「優越性」とは何か
第16回	III 政策と行政	政策の定義
	1 政策の概念	
第17回	1 政策の概念 続	政策の類型化 政策類型と政策決定過程の対応
第18回	2 政策の循環	政治史システムと政策の循環 政策の連鎖 フィードバックの重要性
第19回	3 政策課題の形成	政策の守備範囲 作為と不作為をめぐる権力
第20回	3 政策課題の形成 続	行政需要とは何か 行政需要の充足と政策
第21回	4 政策の形成と作成	合理的政策作成モデル 多元的政策形成モデル
第22回	5 政策の選択	政策選択の合理化モデル 合理性の意義と限界
第23回	6 政策の実施	政策実施と官僚制の裁量 政策実施に対する市民的統制
第24回	7 政策の評価	政策評価の基準 政策評価の活用方法とその限界 官僚制と自己修正能力

第25回	IV 日本の行政の構造と動態	日本における行政制度の歴史的展開 日本官僚制の歴史的特徴
	1 日本の統治機構と官僚制	
第26回	2 議院内閣制と官僚制	議院内閣制における行政 議院内閣制と政官関係
第27回	2 議院内閣制と官僚制 続	戦後日本における「官僚支配」の実態 政権交代と政治主導の意味
第28回	3 日本の社会経済システムと行政	日本における市場と官僚制 遅れてきた福祉国家と官僚制

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の該当部分を事前に読んでおく

講義で言及される政治、行政現象に関して、新聞、テレビ、雑誌等の報道をフォローする。

参考文献をなるべくたくさん読む

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

西尾勝 行政学 有斐閣

【参考書】

開講時に文献リストを配布する

【成績評価の方法と基準】

課題レポート

期末試験（状況を見ながら形式を検討する。レポートに振り返る可能性もある）

【学生の意見等からの気づき】

現実起こる行政にかかわる問題を取り上げ、適宜学生からの意見を求めて、双方向的な議論も行いたい。

【Outline and objectives】

This lecture aims at providing basic framework and concepts to understand modern bureaucracy in terms of organization structure, history and dynamics.

POL100HA

国際関係論

岡松 暁子

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際社会における平和の構築について考察する。前半は、「戦争と平和」をテーマとし、世界史、冷戦期の国際関係、冷戦後の国際秩序、を中心に学ぶ。後半は、戦争がなくても平和ではない、という認識の下、よりよい国際社会の構築をめざした国際社会の取り組みについて学ぶ。

【到達目標】

国際社会の諸問題について、基本的な事象とそれらの主要な分析枠組みを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

国際社会における平和というものを考察するにあたり、まず、戦争と平和の歴史をたどり、特に第二次世界大戦後の超大国による国際秩序について分析する。さらに、冷戦後の国際社会における新たな紛争と秩序構築について、民族問題、環境問題、貧困問題等に焦点を当てて検討する。

教室での講義が可能になるまでの間、ZOOM によるオンライン授業を行う。

詳細は、授業支援システムで確認のこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序論：平和とは何か	平和の概念について
第 2 回	戦争と平和の歴史	戦争と平和の歴史につき、特に近代を中心に概観する。
第 3 回	冷戦期の国際関係 (1)	国際関係の分析枠組としての理論と現実
第 4 回	冷戦期の国際関係 (2)	軍拡競争と軍縮
第 5 回	冷戦期の国際関係 (3)	核兵器・原子力を巡る諸問題
第 6 回	冷戦後の国際関係	冷戦後の新たな国際問題の特徴
第 7 回	民族自決と紛争	脱植民地化と民族自決、民族紛争
第 8 回	国際安全保障	集団安全保障と日本
第 9 回	人間の安全保障	新たな平和の概念
第 10 回	南北問題の歴史の変遷	南北問題と南南問題
第 11 回	貧困と開発	途上国問題
第 12 回	人権	国際人権保障の困難性
第 13 回	地球環境問題	地球環境問題の特質
第 14 回	国際協力と日本の役割	国際社会における日本の取り組み

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。授業で行った範囲をよく復習すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示する。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100%。

【学生の意見等からの気づき】

これまでと同様に進めます。

【関連の深いコース】

履修の手引き（P100. 「7 コース制」）を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

The course provides an introduction to international peace studies. The themes of this course are; “War and Peace” and “Human Security”.

LAW200HA

アメリカ法の基礎

永野 秀雄

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、アメリカに興味のある方を対象に、その法制度の基本的な特徴を講義します。憲法上の問題を中心に、統治制度や人権保障のあり方などを検討していきます。それぞれのテーマでは、興味深い判例を紹介していきます。

【到達目標】

学生が、この授業をとおして、アメリカ法の基本的な制度を理解できるようになるとともに、社会問題の解決策がひとつではなく、様々なアプローチがあることを理解できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

この講義では、法学を専門としていない学生を対象に、アメリカ法の基礎を講義します。まず、導入部としてアメリカの歴史と法の発展を学びます。これに続いて、連邦制度と、独自の三権分立を学びます。この後、わが国の憲法にも大きな影響を与えて続けている人権法について、その代表的なトピックを学習します。そして、社会に出てからも役に立つ労働法、独占禁止法、契約法、不法行為法などを講義します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	アメリカ法の歴史	植民地時代、独立革命、連邦憲法の制定、英米法の特徴
第2回	連邦制度	特に憲法、軍隊等をもつ州政府について
第3回	連邦議会	連邦議会の特色、日本の議会との差異
第4回	大統領	大統領の権限、大統領府の組織
第5回	司法権	連邦裁判所、法曹、陪審制、州の司法権との関係
第6回	表現の自由	表現の自由の限界、報道の自由
第7回	集会・結社の自由、通信の秘密	これらの自由とその限界
第8回	信教の自由	信教の自由の限界と国教樹立の禁止
第9回	プライバシーの保護	個人、家族、ライフスタイルのプライバシー
第10回	法の下での平等（1）	人種差別の規制
第11回	法の下での平等（2）	男女差別等の規制
第12回	労働法・社会保障法	米国の社会労働法制の特徴
第13回	経済的自由とその限界	独占禁止法等の仕組み
第14回	契約法・不法行為法	米国の特色ある制度について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

法律の勉強は積み重ねですので、前回までに配布されたプリントとノートで、基本的な用語や論理を勉強して下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布します。

【参考書】

松井茂記『アメリカ憲法入門（第7版）』（有斐閣、2012年）。

【成績評価の方法と基準】

定期試験（100%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

これからも、アメリカ法に興味を持って頂ける授業をしていきたいと思えます。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、プロジェクター

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【Outline and objectives】

In this class, you will learn the basic characteristics of the U.S. legal system. Focusing on federal constitutional issues, we will examine governance systems and human rights issues. Each theme introduces interesting Supreme Court cases.

POL200HA

地方自治論

阿部 慶徳

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地方自治の基礎を学ぶことにより、他の自治体政策に関する科目を理解できるようになることを目的とする。地方自治の最新の動向を、市民としての主体性を持って理解し、自らの考察を踏まえて判断できるような教養を身につける。

【到達目標】

他の自治体政策に関する科目を理解できるように、地方自治に関連する基礎知識を幅広く学習する。このことにより、地方自治体が様々な公共サービスを提供し、自らの生活といかに関連しているかを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的に講義方式で授業を行う。映像や新聞記事等を活用して可能な限り地方自治の最近の動きを伝える。また、取り扱った内容に関連して、適宜リアクションペーパーの提出を求める場合がある。2020.4.28 修正【授業の進め方と方法】春学期の少なくとも前半は、オンラインでの開講となることが予想されます。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度お知らせします。本授業の開始日は、2020年5月7日とし、その日までに具体的なオンライン授業の方法などを学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1回	地方自治の理念・基本的な考え方	地方自治の理念の重要性や、地方自治がなぜ必要なのかを講義する。
2回	地方自治の基本制度	二層制、行政機構・公務員、広域行政、指定都市・中核市制度など、基本的な制度の解説する。
3回	政府間関係と地方分権	国と地方政府としての都道府県、市町村の関係や、地方分権がどのように進展したかを解説する。
4回	地方財政	中央政府と比較して、地方政府の財政がいかに運営されているのかを解説する。
5回	法令と条例・規則・要綱	中央政府が制定する法律の範囲内で、地方政府がいかに条例などを制定して自治体行政を運営しているかを解説する。
6回	直接請求権・市民参加	自治体に対して認められている直接請求権制度について解説するほか、同制度を利用した市民参加などについても講義する。
7回	自治体とNPO等との協働	様々な行政課題に対し、NPOや地域社会との協働がいかになされているのか、またその課題について解説する。
8回	自治体の政策体系と行政サービス	自治体の政策が、各行政分野ごとにいかに異なり、自治体内で「調整」されているのかを解説する。
9回	地方自治と地域社会の今 目的問題のトピック	実際の社会現象を取り上げ、今までの講義で学んできた地方自治論の観点からどのような分析が可能なかを解説する。
10回	地方政治	首長と地方議会などの地方政治における政治アクターの活動を解説する。
11回	戦後の地方自治の歴史的な流れ	戦後の地方自治制度・地方政治の変化について解説する。また、革新自治体についても講義する。
12回	戦前の地方自治の歴史的な流れ	戦前の地方自治制度について解説する。
13回	現代の地方自治の課題	現在の地方自治の課題を、今までの講義をふまえて解説し、1 - 12回の講義のまとめを行う。
14回	試験・まとめと解説	試験・まとめと解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず復習をすること。講義で取り上げた内容に関連した新聞記事を検索するなど情報収集に努めること。自分の住んでいる自治体の財政状況などを調べること。

日常的に地方自治に関連のありそうな新聞記事を読む習慣を身につけること。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。プリントなどを適宜配布する。

【参考書】

特に参考書は指定しない。必要に応じて講義中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績は、期末の論述試験（70％）に授業内の小レポート・リアクションペーパーの提出状況等（30％）を加味し、総合的に評価する。2020.4.28 修正【成績評価の方法と基準】当面の間、オンラインでの開講となったことに伴い、成績の評価方法と基準も変更する可能性があります。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムでお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

The purpose of this lecture is to learn the basics of local autonomy so that you can understand subjects related to other lectures of local government policies. It is aim in this lecture to acquire the basic knowledge to be involved as taxpayers in the local government and to think it independently as citizens.

LAW200HA

憲法の基礎

春山 習

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

憲法は民法や刑法といった他の法律、法学とどのように異なるのだろうか。人権、自由、平和など抽象的なことばが多い日本国憲法は、具体的にどのような場面で問題になるのだろうか。また、そうした問題に対してどのように法的な解決を与えるべきだろうか。この授業では、こうした問題意識を手がかりにし、ジェンダーや家族などの具体例も交えながら、日本国憲法の人権保障を中心にその基本原理を学ぶ。

【到達目標】

- ①法学および憲法学の基本的な用語や考え方を理解し、説明すること。
- ②判例、学説を踏まえ、自分なりの法解釈を説得的に展開すること。
- ③現実社会のあり方を憲法と結びつけて考え、それについて自分の意見を持つこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

事前にアップロードもしくは配布したレジュメを用いて講義形式で行う。また、学期中にレポートを課す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	法学の基本的な考え方と法解釈の方法を学ぶ。
2	憲法とは何か	憲法と他の法律の差異、憲法の実在意義について学ぶ。
3	日本国憲法の基本原理	日本国憲法の歴史とその基本原理を大日本帝国憲法との対比をまじえて学ぶ。
4	平和主義	憲法9条とはどのような規範なのか、その現状はどうなっているかについて考える。
5	権利の享有主体	人権は誰もが同じように持っているわけではない。その意味と理由を学ぶ。
6	法の下での平等（1）	法の下での平等の意味について考える。
7	法の下での平等（2）	性別、家族に関する平等について考える。
8	思想・良心の自由	教育現場での日の丸・君が代をめぐる問題を中心に考える。
9	信教の自由と政教分離	憲法と宗教の関係を考える。
10	表現の自由（1）	表現の自由はなぜ保障されるべきか考える。
11	表現の自由（2）	現代的な表現の自由の問題について考える。
12	生存権	健康で文化的な最低限度の生活とはなにかを考える。
13	教育を受ける権利	学校教育と人権について考える。
14	新しい人権	憲法13条の意義とプライバシーや自己決定権などについて学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

新井誠ほか編『憲法 II 人権』（日本評論社、2016）1900円＋税
高橋和之編『新・判例ハンドブック憲法 [第2版]』（日本評論社、2018）1400円＋税

【参考書】

芦部信喜『憲法 第7版』（岩波書店、2019年）
長谷部恭男ほか編『憲法判例百選 I・II 第7版』（有斐閣、2019）

【成績評価の方法と基準】

試験期間に行われる筆記試験（70%）および学期内におけるレポート（30%）で評価する。

到達目標に達しているかどうかの評価の基準となる。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につき特になし。

【学生が準備すべき機器他】

授業前にレジュメをプリントアウトし、持参すること。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

What's the essence of a Constitutional law? What's the difference between Con. law, Civil law and Criminal law? The concepts "Human rights", "Liberty", "Peace", what do they mean? To answer these questions, in this class, we learn the principles of the Constitution of Japan, especially Human rights.

LAW200HA

刑法の基礎

渡辺 靖明

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「刑法」とは、「犯罪」と「刑罰」とを定めた法律のことです。それでは、どのような行為が「犯罪」として処罰の対象となるのでしょうか。また、その前提となる刑法の原則とはどのようなもののでしょうか。この授業では、これらについて具体的な事例を通じて学び、刑法の社会における意義と役割とを考えます。

【到達目標】

犯罪や刑罰に関する報道等に接すると、私たちは、その犯罪の被害者や遺族に純粋に同情し、また加害者への怒りに共感します。しかし、犯罪を減らし社会をより良くするには、加害者が犯罪をしてしまった理由・要因等にも思いを巡らせる必要があるのではないでしょうか。そもそも、犯罪の抑止にとって、刑罰が最適なのでしょうか。刑罰以外に有効な手段や政策はないのでしょうか。こうした多角的な視野から、犯罪の原因とその抑止策や刑罰制度の在り方などを考えられるようになる。これがこの授業の最終的な目標です。

そのためには、法と倫理・道徳との異同、刑法の意義・役割、刑罰の目的や刑法と他の法律との関係を踏まえて、刑法の一般原則及び犯罪の一般的・個別的な成立要件等、さらにこれに関する判例（裁判所の判断）及び学説の議論を理解する必要があります。この授業では主としてこれらの基礎知識を修得していきます。

レジュメには、適宜〔確認問題〕・〔検討問題〕を設けます。基礎知識修得の目安は、その各問題の解答と理由とを理解できるようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

各回ごとにレジュメを配布し、具体的事例について検討して、各テーマごとの理解をはかります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	「刑法」とは何か。	法（律）の意義、法の体系及び「刑法」の意義を学ぶ。
第2回	殺人罪①－犯罪の一般的成立要件	犯罪の一般的成立要件及び刑法における人の「生」と「死」をめぐる議論などを学ぶ。
第3回	殺人罪②－犯罪の故意・過失	犯罪の故意と過失、故意犯処罰の原則、責任主義などについて学ぶ。
第4回	殺人罪③－罪刑法定主義	胎児性致死傷と罪刑法定主義との関係などを学ぶ。
第5回	傷害罪	傷害の意義及び傷害と傷害致死との関係（刑法の因果関係）などを学ぶ。
第6回	自殺関与・同意殺人罪	刑法における被害者の同意の意義及び同意の有効性と刑法の最終手段性の原則との関係などを学ぶ。
第7回	安楽死・尊厳死	終末期医療における安楽死・尊厳死と刑法との関係などを学ぶ。
第8回	刑罰論	刑法の刑罰と民法の損害賠償・行政法の行政処分との違いや、国家が市民に刑罰を科すことの正当な根拠をめぐる議論などについて学ぶ。
第9回	脅迫罪・強要罪・監禁罪、強制わいせつ罪・強制性交等罪	意思決定の自由、性的自由に対する罪の基礎を学ぶ。
第10回	住居侵入罪	住居権・住居の平穏に対する罪の基礎を学ぶ。
第11回	名誉毀損罪・侮辱罪 真実性の証明による免責	名誉に対する罪の基礎及び刑法における名誉の保護と表現の自由の保障との関係を学ぶ。
第12回	財産に対する罪	財産に対する罪の共通原則及び個別の犯罪の基礎を学ぶ。
第13回	放火罪・偽造罪	放火罪（公共危険犯）、偽造罪（取引の安全に対する罪）の基礎を学ぶ。
第14回	賄賂罪	汚職の罪（国家の作用に対する罪）の基礎を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布レジュメや刑法の参考書等で予習・復習をする。特に復習時には配布レジュメ中の各事例や〔確認問題〕・〔検討問題〕を中心に理解を深める。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間が標準となる。

【テキスト（教科書）】

なし。配布レジュメを使用します。

【参考書】

特に指定はしません。お勧めの参考書は、授業時に説明します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、刑法の基礎知識を問う定期試験 80 %、期末レポート 20 % の総合評価で行う予定です。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度のアンケートでは、確認問題等が多くあったため復習しやすかった、学生生活に密接に関連した身近な事例や先生の丁寧な解説もユニークで分かりやすく面白かったといった好意的な評価が多くありました。その一方で、言い換えの説明が繰り返されてくどく感じた、声が聞き取りづらいところもあった、短期間で理解を深めるには法律用語が難しくレジュメ内に補足・備考などがあればなおよかった、などの指摘もありました。良い評価に慢心せず、改善すべき点への指摘も踏まえて、一層受講・理解のしやすい講義となるように努力を重ねたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムでは、本授業に関する連絡や、各回の終了した毎にその回のレジュメのアップなどをします。支援システムをこまめにチェックしてください。

【その他の重要事項】

「憲法の基礎」、「行政法の基礎」、「民事法Ⅰ・Ⅱ」等の他の法律系科目も併せて履修しておく、「刑法の基礎」の授業内容の理解が一層深まるでしょう。また、秋学期開講の「環境法Ⅳ」（環境刑法）では、主として環境犯罪について学びます。「刑法の基礎」を履修しておけば、「環境法Ⅳ」の授業の内容をより深く理解できます。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

What kind of action is subject to punishment as a crime? What is the basic principle of criminal law to consider crime and punishment? We will learn it through concrete examples. And we will think the meaning and role of criminal law in society.

LAW300HA

環境法Ⅰ

横内 恵

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境法の制度や理論の発展の歴史を踏まえて、環境法の主要分野の現在の法制度やそれをめぐる訴訟の基本的な内容を解説します。

【到達目標】

本講義は、様々な環境問題に対する事前の防止や事後的な解決において法の果たす役割について、理論的かつ総合的に理解することを到達目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにもなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

本授業の開始日は 4 月 27 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

成績評価の具体的な方法と基準は、授業開始日までに学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	環境法とは何かについて、解説する
第 2 回	環境法の基本的な考え方	教科書等を用いて、当該テーマについて解説する
第 3 回	環境法の手法	教科書等を用いて、当該テーマについて解説する
第 4 回	わが国の環境法の歴史	教科書等を用いて、当該テーマについて解説する
第 5 回	環境基本法	教科書等を用いて、当該テーマについて解説する
第 6 回	大気汚染防止法	教科書等を用いて、当該テーマについて解説する
第 7 回	水質汚濁防止法	教科書等を用いて、当該テーマについて解説する
第 8 回	土壌汚染対策法	教科書等を用いて、当該テーマについて解説する
第 9 回	環境アセスメント	教科書等を用いて、当該テーマについて解説する
第 10 回	循環基本法・リサイクル法	教科書等を用いて、当該テーマについて解説する
第 11 回	廃棄物処理法	教科書等を用いて、当該テーマについて解説する
第 12 回	自然公園法	教科書等を用いて、国立公園の法制度について開設する
第 13 回	高レベル放射性廃棄物処理	最終処分場の立地選定について解説する
第 14 回	試験・まとめと解説	授業のまとめおよび期末試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。授業前に教科書の該当範囲を読んでください。授業後は、レジュメとノートを読み返しなが教科書を熟読してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

北村喜宣『環境法〔第 4 版〕』（弘文堂、2017 年）。（本体 3,300 円＋税）

【参考書】

必要に応じて授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

「環境法Ⅲ」に先立って本講義を履修することを推奨します。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

The programme gives undergraduate students basic theoretical and methodological knowledge in environmental administrative law.

LAW300HA

環境法Ⅱ

永野 秀雄

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、われわれが直面する環境問題について、これを解決する法分野のひとつである環境私法を学びます。

【到達目標】

環境問題に現実にかかわる上で必要な知識です。社会人として、この問題に直面したときに、法的な枠組みを用いて考えることができるようにすることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

この講義では、まず、環境私法の基礎理論となっている不法行為法を学びます。次に、民事差止訴訟や国家賠償法等について、わかりやすく解説します。また、環境問題を裁判によらずに解決するための紛争処理制度について概観します。その後、大気、水質、騒音、土壌といった具体的な環境汚染に関する民事判例について、その特徴を確認しながら検討していきます。最後に、風評被害訴訟を検証します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	環境問題と環境私法	環境問題と法の関係、環境法の中の環境私法の役割
第2回	不法行為法（1）	意味、成立要件、種類
第3回	不法行為法（2）	損害、請求権者、損害賠償の調整
第4回	不法行為法（3）	時効、共同不法行為
第5回	複合的大気汚染と共同不法行為	判例法の展開
第6回	民事差止訴訟等	環境問題における民事差止訴訟、消滅時効・除斥期間
第7回	土地工作物責任等	環境問題における土地工作物責任の応用、国家賠償法の適用
第8回	公害紛争処理制度等	公害紛争処理制度、協定による民事的紛争解決
第9回	大気汚染訴訟	大気汚染訴訟に関する判例理論の発展
第10回	水質汚濁・地下水関連訴訟	水質汚濁・地下水関連訴訟の具体例
第11回	騒音訴訟等	騒音訴訟、振動訴訟、悪臭訴訟、日照・通風・風害に関する訴訟の具体例
第12回	眺望権・景観権に関する訴訟	眺望権・景観権の具体例と限界
第13回	土壌汚染訴訟、企業資産における土壌汚染と情報開示	土壌汚染訴訟の具体例、企業資産における土壌汚染と情報開示の問題点
第14回	環境問題に起因する風評被害訴訟	環境問題に起因する風評被害訴訟における因果関係、損害評価の難しさ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

法律の勉強は積み重ねですので、前回までに配布されたプリントとノートで、基本的な用語や論理を勉強して下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

定期試験（100%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

環境法の知識のない学生にも、そのレベルに幅があるので、学生の理解を確認しながら進めていきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、プロジェクター。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【Outline and objectives】

In this class, you will learn private environmental law, one of the legal fields of law that solves the current environmental problems.

LAW300HA

環境法Ⅲ

横内 恵

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境アセスメント、産業廃棄物、高レベル放射性廃棄物、環境リスクの各分野につき、判例も検討対象に含めて、行政法理論との関係で理解を深めます。その際には、関連法令や判決文を実際に参照しながら、基礎的な調査能力を習得することをも目指します。

【到達目標】

本講義は、「環境法Ⅰ」の履修を前提として、個別の環境法制の検討を通して、環境法政策の実務的な課題をとらえるとともに、それをめぐる法的論点の理解を深めることを到達目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で、ときに教科書やスライドを利用しながら、授業を進めます。各分野につき設問を用意し、レポート課題や授業中の質疑応答を通して、受講生自ら調べて考えて表現することを求めることもあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション・イントロダクション	本講義を受講するにあたっての注意事項等を説明する
第2回	環境アセスメント（1）	教科書を用いて当該テーマについて解説する
第3回	環境アセスメント（2）	教科書を用いて当該テーマについて解説する
第4回	環境アセスメント（3）	当該テーマに関する訴訟につき、判例を紹介しながら解説する
第5回	環境アセスメント（4）	SEA等、当該テーマの今後の課題について、諸外国と比較しながら解説する
第6回	廃棄物処理法（1）	教科書を用いて廃棄物処理法の概要を解説
第7回	廃棄物処理法（2）	産廃処理施設設置に際する環境アセスメントのあり方について解説する
第8回	廃棄物処理法（3）	産廃処理施設設置に際する地方自治体の事前協議と住民参加のあり方について解説する
第9回	高レベル放射性廃棄物（1）	高レベル放射性廃棄物処理について解説する
第10回	高レベル放射性廃棄物（2）	高レベル放射性廃棄物最終処分場の立地選定手続について解説する
第11回	高レベル放射性廃棄物（3）	高レベル放射性廃棄物最終処分場の立地選定手続についてドイツの手続と比較しながら課題を検討する
第12回	環境リスク制御法制（1）	環境リスク制御の法理論的問題について解説する
第13回	環境リスク制御法制（2）	環境リスク制御のあり方について、具体的な制度を題材として開設する
第14回	試験・まとめと解説	授業のまとめおよび期末試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。準備学習については、講義中に指示します。授業後に、レジュメやノートをしっかり読んで復習してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

北村喜宣『環境法〔第4版〕』（弘文堂、2017年）。（本体 3,300円＋税）

【参考書】

必要に応じて授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

本講義は、「環境法Ⅰ」履修済みの人を主な対象としています。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

The programme gives undergraduate students special knowledge and skills within several environmental fields.

LAW300HA

環境法Ⅳ

今井 康介

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題について法的なアプローチを行う場合、3つのアプローチがあります。民法的なアプローチ、行政法的なアプローチ、そして刑罰的なアプローチです。各アプローチには、それぞれの原則や理論、メリット・デメリットがあります。

環境法Ⅳの授業では、刑罰的なアプローチ、特に刑事罰の独自性、特殊性、有効性、そしてその限界を扱います。

環境刑法の基本的な問題や現在の制度の問題点を学ぶことにより、自らが将来、会社や企業で環境犯罪を行わないようにするだけでなく、多角的な視点から環境問題や環境法制を考えられるようになることが、最終的な目的です。

【到達目標】

例えば、山の中にいらなくなったパソコンを捨ててくるのは、不法投棄（廃棄物処理法違反）です。それでは、自分の敷地の一角に放置しておくのは、犯罪なのでしょうか？ 燃えるゴミと燃えないゴミを分別しないで捨てたら捕まるのでしょうか？ コンビニのゴミ箱に家のゴミを捨てたら犯罪なのでしょうか？ 従業員が環境犯罪を犯した場合、会社や会社の社長は処罰されるのでしょうか？

この授業を受講すると、これらの場合にどのように考えるべきかが分かるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式での授業になります。授業では、適宜、身近な問題を例にして、受講生に自分の考えや意見を述べてもらい、考えながら講義を受けてもらえるようにします。

教科書や参考書については、第1回の講義で詳しく案内します。講義で配る配付資料は、授業支援システムで公開しています。多くの法律が登場するので、適宜、六法やインターネットで法律の条文を参照してください。

2019年度の講義とは異なる内容を扱うので、再履修の人は注意してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス スタート環境刑法	授業の進め方、評価方法についての説明します。 環境刑法はどのような学問か、どのような特色があるか、なぜ環境刑法を学ぶのか、環境刑法を学ぶと将来どのような場合に役に立つかについて説明します。
第2回	環境刑法の基礎理論	法律とはどういうものか、法律に違反するとどうなるのかを学びます。また、刑罰はなぜ科されるのか、どのような環境を保護するために刑罰は利用されるのかを学びます。
第3回	動物の保護	2019年に改正のあった、動物愛護法を中心に、なぜ動物を保護するのか、人間が作る法律は、本当に動物を保護しているのかという点を学びます。
第4回	水の保護	我々の飲料水や、川の水質はどのように保護されているのかを学びます。また浦安事件などの、水質汚濁事件も学びます。
第5回	大気保護	大気汚染とは、どのようなものか、大気汚染に対し法律はどのような対応をしているか、アスベストによる大気汚染規制を学びます。
第6回	土の汚染	土壌汚染とは、どのようなものか、農用地の汚染と市街地の汚染は何が違うか、豊洲市場の移転で問題となった土壌汚染とはどのようなものかを中心に、土壌汚染対策法の罰則を学びます。
第7回	廃棄物の処理①	廃棄物の処理を規制しなければいけない理由を、廃棄物関連の事件から学びます。また、行政対象暴力事件についても学びます。
第8回	廃棄物の処理②	廃棄物処理法が規制している「廃棄物」とは何かについて学びます。

第9回	廃棄物の処理③ + 会社の罰則（法人処罰）	廃棄物の不法投棄や焼却は、いつから禁止されているのか、どのような行為が禁止されているかを学びます。また、会社をどのように処罰するのか、会社はどれくらい重く処罰されるのかを学びます。
第10回	廃棄物の処理④ + 現代社会における環境犯罪対策	工場や企業が注意すべき、廃棄物を受け渡す際の罰則について取り組みます。 また、環境保護法制をサポートする組織犯罪処罰法や課税通報を学びます。
第11回	環境犯罪の捜査と刑事裁判の仕組み	誰が環境犯罪を捜査するのか？ どのタイミングで捜査するのか？ 逮捕とは？ 被疑者となった場合に何が出来るか？ 刑事裁判はどのように進むかを学びます。
第12回	有罪判決と有罪判決後の問題	裁判で有罪判決を受けた場合、さらに争うことが出来るか、有罪判決を受けるとどのような影響があるか、さらに廃棄物再審事件を題材として、環境犯罪の司法実務の問題を探ります。
第13回	総復習と補足	12回の講義までで終わらなかった箇所や補足が必要な箇所を取り上げます。また2020年に発生した事件を取り上げて、環境刑法の視点から、実際の事件を分析します。
第14回	試験・まとめと解説	学生からの質問に回答した後、評価のための試験を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の前あるいは講義の後に、テキストの該当部分を読むと理解が深まります。

環境問題は、よくニュースになります。そのため、報道された環境問題をテーマにして、何が法的に問題なのか考えると、この講義がよりいっそう実り豊かなものになります。本授業の準備学習・復習時間は、大学設置基準に鑑み、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

今井康介『ニュースから読み解く環境刑法 入門編』（大日本法規、2019年）、2000円（税抜）、ISBN:978-4991111600 を使用する予定です。詳しくは、初回の授業時に指示します。

【参考書】

環境刑法の重要問題を取り上げた参考書として、長井園編『未来世代の環境刑法1 Textbook 基礎編』（信山社、2019年）、4200円（税抜）、ISBN:978-4797286748 をおすすめします。講義の後に同書を読むと、より一層深い理解をすることが出来ます。その他の参考文献については、初回の授業時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

原則として講義の最後に行う授業内試験で評価します（70%）。場合にはレポートや課題等も加味して、判断します（30%）。詳しくは、初回の講義の際に説明します。

【学生の意見等からの気づき】

反響が強かった、身近な環境問題を取り上げられるように心がけたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

環境刑法を理解するためには、刑法の基礎知識が必要になります。それゆえ、本講座の受講生には、春学期に開講される「刑法の基礎」（渡辺晴明先生）の履修をおすすめしています。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

There are three legal approaches. In this lesson, we deal with the peculiarity of the criminal approach, identity and its limitations. The goal of this lesson is to learn the basics of the environmental criminal law and to think about environmental problems from the perspective of penalties.

LAW200HA

国際環境法

岡松 暁子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際環境法は、国際環境問題の特質ゆえに、形成、発展、形態、内容、履行確保において様々な特徴がある。本講義では、個別条約や判例を題材として、国際環境諸条約に見られるそのような特徴を抽出し、検討していく。

【到達目標】

国際環境問題に関する国際法の枠組みを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

国際環境法の理論、判例についての講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	本講義の対象
第2回	国際環境法の対象と接近方法	アプローチ
第3回	国際環境法の形成（1）	国際環境法の生成
第4回	国際環境法の形成（2）	国際環境法の発展
第5回	国際環境法の展開	国際環境法の歴史的展開
第6回	国際環境法の性質（1）	持続可能な発展
第7回	国際環境法の性質（2）	世代間衡平、予防的アプローチ
第8回	国際環境法の性質（3）	共通に有しているが差異ある責任、人類共通の関心事
第9回	国際環境法の定立形式	枠組条約と議定書
第10回	国際環境法の制度化	締約国会議、事務局、外部機関
第11回	国際環境法の手続的義務	事前通報・協議制度、報告・審査制度、情報交換、事前の情報に基づく同意、環境影響評価、モニタリング
第12回	国際環境法上の義務の履行確保	不遵守手続
第13回	人権と環境	人権の国際的保障と環境
第14回	武力紛争と環境	国際人道法における環境保護

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。教科書の該当部分を読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

岩沢雄司編『国際条約集』有斐閣。

【参考書】

西井正弘編『地球環境条約』有斐閣、2005年。
その他、適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100%）による。授業内に任意で行うリアクションペーパーは、加点要素としてのみ考慮する。

【学生の意見等からの気づき】

これまでと同様の方法で進める。

【その他の重要事項】

旧科目名称「国際環境法Ⅰ」を修得済の場合、本科目の履修はできない。

【関連の深いコース】

履修の手引き（P100.「7コース制」）を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This course introduces students to the theory of international environmental law. Students may learn the specific legal framework of international environmental issues and gain better understanding by reading leading cases.

LAW300HA

労働環境法

水野 圭子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

電通自殺事件に象徴されるように、労働の場において、労働時間、休憩、休暇といった労働条件によって形成される労働環境は極めて重要な問題を提起しています。このような労働者の健康、安全衛生、労働災害といった従来からの問題だけではなく、パワーハラスメント、セクシャルハラスメント、マタニティーハラスメントなど人格権に対する対策、少子高齢化社会を念頭に置いたワーク・ライフ・バランスのとれた労働環境、障害を持つ労働者に対する合理的配慮など様々な新しい問題にも労働環境といった観点から考察することが求められています。このような労働環境を形成する法律と判例について基本的な知識と理解を習得することを目的とします。

【到達目標】

1. 「労働環境法」とかかわりのある労働法上の基本的な法規制および重要な判例について理解する。
2. 「労働環境法」と関わりのある労働法上の基本的な法規制および重要な判例についての基本的な問題（ワークルール検定・法学会検定レベル）を解答できるようにする。
3. その次の段階として、「労働環境法」と関わりのある労働法上の法規制および重要な判例について、社会保険労務士・労働基準監督官の試験程度の問題についても、難易度が高くないものであれば、解答できるようにする。
4. 「労働環境法」として取り上げる労働法上の基本的な法規制および重要な判例について、論理的に解説できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

コロナウイルス感染症（COVID - 19）の感染拡大防止のため、外出自粛が求められる中、授業がどのように行われるか、不安を感じていらっしゃると思います。

残念ながら、春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにとりまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

学生の皆さんの通信容量とネット環境が整うまで、映像を利用した講義は行いません。レジュメ、資料、課題を学習支援システムにUPし、それをダウンロードし学習を進め、課題を提出するという形式で授業を進めてきます。本授業の開始日は4月29日とします。なお、最初に関連情報・資料を学習支援システムで発信する日を、授業開始日としますので、学習支援システムにレジュメ・課題等がUPされるが29日となります。

今日の状況は大変厳しいものがありますが、労働法・労働環境という観点から見ると、様々な問題を提起しています。採用内定の取り消しや、一時帰休、収入の現象などといったニュースもすでに報じられています。このような状況を検討する課題をも取扱うことを予定しています。教科書と六法は使用しますので準備をお願いいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、「労働環境法」に関する説明。	講義の進め方や評価方法の説明。「労働環境法」「労働法」の簡単な全体像の説明。
第2回	法学の基礎知識	「労働環境法」を履修するにあたって必要な最低限度の法学に関する知識についての説明。
第3回	労働環境を構築する労働法の仕組み	労働環境を作る労働条件がどのようにまもられているのか。
第4回	労働時間・休憩・休暇・休息時間といった労働環境	労働時間規制について
第5回	労働時間・休憩・休暇・休息時間といった労働環境	法定労働時間と時間外労働
第6回	柔軟な労働時間制度について	休憩・休息時間・休日・年次有給休暇休むことについて
第7回	労働安全衛生法（概要）	変形労働時間制やみなし労働時間制などの多様な労働時間規制について。
第8回	労働者災害補償保険法（制度概要・業務災害）	労働者の安全衛生の確保。産業界の問題点。
第9回	労働者災害補償保険法（制度概要・業務災害）	労災保険は誰が保険料を払い、どのような場合に労働者に保険が給付されるのか
第10回	労働者災害補償保険法（制度概要・業務災害）	過労死や過労自殺の問題と労災認定の基準について
第11回	少子化とワークライフバランス	過労死・過労自殺の事例検討
		女性の社会進出と労働環境の整備、社会的な影響について検討する

第12回	少子化とワークライフバランス	女性の社会進出と労働環境の整備、社会的な影響について検討する
第13回	障害・マイノリティと労働環境	障害を持った労働者に対する合理的配慮等について検討する
第14回	ハラスメントと人権格差侵害	セクシュアル・ハラスメントやパワーハラスメント・マタニティハラスメントに対する法的規制と判例

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の終わりに、次回の該当箇所を指示するので、教科書の該当する部分を熟読し、講義に臨むこと。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

高橋賢司『労働法講義 第2版』

（中央経済社 2018年）3800円

六法を用意すること。六法についてはガイダンスで説明する。

【参考書】

1. 浜村彰ほか『ベーシック労働法（第6版）』（有斐閣、2015年）1,900円+税
2. 下記のサイトは「成績評価の方法と基準」に関連するので、参照すること。

・ワークルール検定

<http://workrule-kentei.jp/>

【成績評価の方法と基準】

1. 「試験」（80%）

期末試験として1回実施。論述形式の問題を出題する。

2. 「授業中に実施する確認問題」（20%）

講義中に確認問題を出題する（1回の講義で1～2問程度）。これらの問題を学期を通じて実施する。問題の難易度は、ワークルール検定の初級レベルとなる。

【学生の意見等からの気づき】

教科書に、具体的な事例を配布プリントに記載するなどして、さらに具体的なイメージを持てるような講義としたい。

【その他の重要事項】

講義内容は、受講者の問題関心や理解度に応じて、適宜変更する場合がある。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【Outline and objectives】

As symbolized by the Dentsu suicide case, the working environment created by working conditions such as working hours, breaks and annual paid vacations poses a very important issue in the workplace.

Measures to address not only conventional issues such as mental and physical health of workers, but also human rights such as power, sexual, and maternity harassment are also required to be considered from the viewpoint of improving the working environment.

In an aging society with a declining birthrate, a work environment with a good work-life balance is required. In addition, rational consideration for workers with disabilities is also an issue that has been required in recent years. These new issues will also be considered from the perspective of improving the working environment. The aim is to acquire basic knowledge and understanding of laws and precedents that form such a working environment.

POL300HA

自治体環境政策論 I

小島 聡

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策学の視点で、都市空間における自然環境の保全、ヒートアイランド対策、下水道政策、都市公園政策など、自治体環境政策に関する多様なテーマについて検討する。さらに地域の未来を考えるために、第2次大戦後から現代までの自治体環境政策史について検討する。トピックとして、公害規制、廃棄物処理、都市の開発コントロール、景観政策、アーバンデザインなどを取り上げる予定である。この授業の目的は、学生が自治体環境政策の基礎知識や政策型思考について学ぶことである。

【到達目標】

学生の到達目標は以下のとおりである。

- ・地域環境政策と自治体の役割について理解する。
- ・現代史と地域の未来への広い視野を形成する。
- ・地域の課題発見や課題解決に関する政策型思考を身につける。
- ・地域人（市民、自治職員、NPO関係者、事業者など）としての知的感受性を涵養する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は、配布資料、パワーポイントに基づく講義を中心として、適宜、授業内において、学生とのコミュニケーションを図る。さらに、リアクションペーパーやミニレポートを活用する。

※2020年度春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとりまなう各回の授業計画の変更は学習支援システムでその都度提示する。本授業は4月28日を開始日とし、その日から1週間程度で学習支援システムによりガイダンス資料を提供することをもって第1回とする。第2回以降のオンライン授業の方法もその際に提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション～そもそも「政策」とは何だろうか？	イントロダクションとして、自治体環境政策が公共政策であることをふまえて、「政策」の概念とその基本構造を確認する。
第2回	自治体政策の風景	環境政策を含む自治体政策を風景に喩えて、体系性と総合性という視点から構図を確認する。
第3回	都市の緑を守る	都市空間における緑地保全について、里山、宗教空間、農地などの緑資源について検討する。
第4回	都市の緑を創る	都市空間における公共施設や民間施設の緑化について検討した後、現代都市の緑戦略の方向性について総括する。
第5回	都市の水辺と地域の総合プロデューサー	都市空間における水辺環境の保全、水と緑を一体的にとらえる都市環境政策と自治体の役割について検討する。
第6回	自治体政策のドラマと問題構造	自治体政策をドラマに喩えて、政策過程のモデルと、政策が対象とする公共問題の構造について確認する。
第7回	ヒートアイランドの問題構造と都市政策	21世紀の都市問題であるヒートアイランドを手がかりとして、公共問題の構造と政策アプローチについて検討する。
第8回	自治体環境政策と社会資本整備～下水道	自治体環境政策における社会資本整備として、下水道について検討する。
第9回	自治体環境政策と社会資本整備～都市公園	自治体環境政策における社会資本整備として、都市公園について検討する。
第10回	自治体環境政策と環境規制	廃棄物や公害をケースとしながら、自治体環境政策における環境規制について検討する。
第11回	第1世代の自治体環境政策と高度経済成長の時代	高度経済成長期において都市の「生活環境の防衛」を目的として登場した第1世代の自治体環境政策について、当時の社会情勢とともに検討する。
第12回	地域の「環境再生」への挑戦	環境破壊の世紀であった20世紀に対して、21世紀の課題である地域の「環境再生」と政策について検討する。

第13回 第2世代の自治体環境政策から現代の景観政策へ

1960年代後半から80年代において、地域空間の質の高めるために登場した第2世代の自治体環境政策について、歴史的町並み保全を中心について検討し、さらに現代の景観政策に言及する。

第14回 アーバンデザインから考える都市の未来

第2世代の自治体環境政策の時代から始まったアーバンデザインについて、横浜の政策実践を回顧しながら、都市の未来について検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は以下の授業時間外の学習を行う（この授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする）。

- ・講義内容をより深く理解するために配布資料を読む。
- ・配布資料を参照しながら自らのノートを整理する。
- ・ミニレポートを作成する。
- ・参考文献を読む。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。

【参考書】

参考文献は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績は、論述試験（85%）＋参加姿勢（5%）＋ミニレポート（10%）で評価する。

※当面の間、オンラインでの開講になったことにもよる、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、第1回のガイダンス資料（学習支援システムで提供）で提示する。

【学生の意見等からの気づき】

- ・地域社会や自治体を通して現代社会を理解する機会になるようです。
- ・授業全体の構成、内容と分量、進行スピード、配布資料、パワーポイントなどの活用については、再考しながら継続的に改善を図っていききたいと思います。
- ・対話型授業を取り入れながら、学生の思考を促す工夫をしていきたいと思えます。

【その他の重要事項】

- ・基幹科目の「地方自治論」はこの講義の導入的な位置にありますので、合わせて履修することを強く推奨します。
- ・ローカル・サステナビリティコースの他のコース科目をあわせて履修することを推奨します。
- ・ローカル・サステナビリティコースで履修する学生はもちろんですが、他のコースで履修する学生にとっても、地域社会に関連するテーマや「持続可能な地域社会」を理解するためには、自治体政策に関する基礎知識は必須です。
- ・「自治体環境政策論I」と「自治体環境政策論II」は連続しており、前者から後者への順序で履修することを強く推奨します。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【Outline and objectives】

In this class, from the viewpoint of public policy studies, we will examine the various themes about the environmental policy of local government, such as preservation of the natural environment in urban space, control of "Heat island", sewer policy, city park policy. Furthermore, in order to consider the future of the community, we will explore the history of local environmental policy from after the Second World War to the present age. The topic to take up will be pollution regulatory, waste administration, control of urban development, local scene preservation policy, urban design, etc. The purpose of this class is for students to learn about the basic knowledge of local environmental policy and the method of a policy ideation.

POL300HA

自治体環境政策論Ⅱ

小島 聡

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「持続可能な地域社会」に向けた自治体政策について総合的に検討する。特にグローバルな政策や再生可能エネルギー政策、環境政策統合、SDGs、交通政策、都市の持続可能性リスク、循環型社会の構築など、近年の重要なテーマに焦点を合わせる。この授業の目的は、学生が、「持続可能な地域社会」の創造への自治体の役割や政策型思考について学ぶことである。

【到達目標】

学生の到達目標は以下のとおりである。
 ・「持続可能性」、「持続可能な地域社会」の含意について理解する。
 ・「持続可能な地域社会」に向けた自治体政策の動向について理解する。
 ・地域の持続可能性課題の発見や解決に関する政策型思考を身につける。
 ・地域人（市民、自治体職員、NPO関係者、事業者など）としての知的感受性を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は、配布資料、パワーポイントに基づく講義を中心として、適宜、授業内において、学生とのコミュニケーションを図る。さらに、リアクションペーパーやミニレポートを活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション～「持続可能な地域社会」とは？	イントロダクションとして「持続可能性・持続可能な発展」という概念を確認しながら、「持続可能な地域社会」という政策理念について検討する。
第2回	「持続可能な地域社会」の多様性～都市の「変容」と過疎地域の「存続」	「持続可能な地域社会」の社会像の多様性を確認しながら、「変容」と「存続」という2つの方向性を提示する。
第3回	「グローバル」言説を再考する	「グローバル」を考え、ローカルに行動する」という政策言説を再考しながら、政策規範として再構成する。
第4回	第3世代の自治体環境政策～地球温暖化の「緩和策」	グローバルな時代における第3世代の自治体環境政策として、地球温暖化の「緩和策」について検討する。
第5回	第3世代の自治体環境政策～地球温暖化への「適応策」	グローバルな時代における第3世代の自治体環境政策として、地球温暖化への「適応策」について検討する。
第6回	地域分散型エネルギーシステムと自治体政策	東日本大震災を契機として全国各地で始まった自治体のエネルギー政策の動向について検討する。
第7回	責任共有の政策論理と自治体政策	「環境ガバナンス」にかかわる多様な主体（自治体、市民、企業、NPOなど）による責任共有とマルチステークホルダー・プロセス、地域間の責任共有と自治体間の政策協調・政策連携について検討する。
第8回	持続可能性の多面的構成と「持続可能な地域社会」への政策規範・政策課題	持続可能性の環境的側面、経済的側面、社会的側面などの多面的構成を確認しながら、「持続可能な地域社会」に向けた包括性・統合性という政策規範について、地域における具体的な政策課題とともに検討する。
第9回	「環境政策統合」と自治体政策のイノベーション	「持続可能な地域社会」に向けて多様な政策領域を視野に入れる「環境政策統合」の考え方と、具体的な政策実践について検討する。
第10回	SDGsと自治体政策	国連で採択されたSDGsの自治体政策への反映について検討する。
第11回	「持続可能な都市」の政策動向	「持続可能な都市」に関するヨーロッパの提唱や国内の動向を確認した後、政策実践のケースとして交通政策について検討する。
第12回	都市の持続可能性リスク	「持続可能な都市」というコインの裏側にある災害、人口減少社会における「縮小都市」などの長期的な都市の持続可能性リスクとその回避について検討する。

第13回 過疎地域の持続可能性と地域間連帯 過疎地域の持続可能性問題を再確認しながら、都市～農山漁村の地域間連帯について検討する。

第14回 循環型社会への自治体の政策責任 循環型社会への移行に関する自治体の政策責任と政策展開について検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は以下の授業時間外活動を行う（この授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする）。

- ・講義内容をより深く理解するために配布資料を読む。
- ・配布資料を参照しながら自らのノートを整理する。
- ・ミニレポートを作成する。
- ・参考文献を読む。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。

【参考書】

参考文献は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績は、論述試験（85%）＋参加姿勢（5%）＋ミニレポート（10%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

- ・各地の事例について、地方紙の記事をまとめて配布し紹介していますが、最新動向を理解する方法として役立つようです。
- ・授業全体の構成、内容と分量、進行スピード、配布資料、パワーポイントの活用については、再考しながら継続的に改善を図っていきたいと思います。
- ・対話型授業を取り入れながら、学生の思考を促す工夫をしていきたいと思えます。

【その他の重要事項】

- ・基幹科目の「地方自治論」はこの講義の導入的な位置にありますので、合わせて履修することを推奨します。
- ・ローカル・サステナビリティコースの他のコース科目を合わせて履修することを推奨します。
- ・ローカル・サステナビリティコースで履修する学生はもちろんですが、他のコースで学ぶ学生にとっても、地域社会に関するテーマや「持続可能な地域社会」について理解するためには、自治体政策に関する知識は必須です。
- ・「自治体環境政策論Ⅰ」と「自治体環境政策論Ⅱ」は連続しており、前者から後者への順序で履修することを強く推奨します。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【Outline and objectives】

In this class, we will examine the public policy of local government synthetically towards “Sustainable community”. Especially, we will focus on some important themes in recent years, such as “Glocal policy”, renewable energy policy, environmental policy integration, “SDGs”, sustainability risk of urban society, traffic policy, construction of a recycle-oriented society, etc. The purpose of this class is for students to learn about the role of local government for creating “Sustainable community”, and the method of a policy ideation.

LAW300HA

アメリカ環境法

永野 秀雄

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、アメリカ環境法の基本を学びます。アメリカ環境法には、優れた環境影響評価、土壌汚染対策、自然保護に関する法制度があります。その一方で、大気汚染の防止については、世界的潮流から距離を置いています。このような特徴を学びます。

【到達目標】

社会に出て、国際的な影響力のあるアメリカ環境法に関係する業務に向き合ったときのために、基本的な理解力をつけることを目指します。また、アメリカ環境法の特徴を学ぶことで、わが国の環境法を考えるとときに、比較して検討できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

この講義では、法学を専門としていない学生を対象に、アメリカ環境法を講義します。まず、その概要をみた後、アメリカが公害問題にどのように対応してきたかを学びます。これに続いて、環境影響評価、大気・水・土壌といった個別の法規制について検討していきます。そして、現在注目を集めている自然保護とエネルギーに関する法制度を学習します。また、特徴のある州法を例に挙げて議論します。最後に、軍に対する環境法規制を考えてみたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	アメリカ環境法の概要	連邦政府と州の環境法、政府機関や環境NGOの果たす役割
第2回	アメリカ環境法の歴史	環境規制の始まりと現代的展開
第3回	連邦環境政策法（1）	環境影響評価の仕組み
第4回	連邦環境政策法（2）	具体的事例の検討
第5回	大気汚染防止法	規制内容と具体的訴訟
第6回	水質汚濁防止法	規制内容と具体的訴訟
第7回	土壌汚染対策に関する規制	スーパーファンド法等
第8回	廃棄物・化学物質に関する規制	資源保護回復法等
第9回	自然保護（1）	海、河川、湿地等の保護
第10回	自然保護（2）	森林の保護・国立公園制度
第11回	自然保護（3）	絶滅危惧種等の保護
第12回	エネルギー法	化石エネルギー、核エネルギーと法、自然エネルギーと法
第13回	コモンローと環境法	州法で特徴のある環境規制
第14回	軍と環境法	軍に対する国内外での環境規制

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

法律の勉強は積み重ねですので、前回までに配布されたプリントとノートで、基本的な用語や論理を勉強して下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布します。

【参考書】

諏訪雄三『アメリカは環境に優しいのかー環境意思決定とアメリカ型民主主義の功罪』（新評論、1996年）、畠山武道『アメリカの環境保護法』（北海道大学図書刊行会、1992年）。

【成績評価の方法と基準】

定期試験（100%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

動画等を用いたわかりやすい授業をこれからも実施していく予定です。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、プロジェクター

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【Outline and objectives】

In this lesson, you will learn the basics of American environmental law. The U.S. Environmental Law has a good legal system for environmental impact assessment (National Environmental Policy Act), soil pollution control (Comprehensive Environmental Response, Compensation and Liability Act) and nature protection (ex. Endangered Species Act). On the other hand, in the field of air pollution prevention, the United States officially notified the United Nations on Nov.4, 2019 that it was leaving the 2015 Paris Agreement to combat climate change. Let's learn these legal features.

POL300HA

エネルギー政策論

菊地 昌廣

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 6/Wed.6

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様々なエネルギー資源の選択、エネルギー利用による地球温暖化、エネルギー資源の価格変動など、多様化する社会問題と経済問題に如何に対処すべきか等の課題、我々の生活の基盤となる電気エネルギーの自由化を踏まえた安定供給確保等の課題を踏まえて、将来のエネルギー政策を国際的、国内的視野に立って議論する。

【到達目標】

- ①エネルギーの基本的技術構造の説明能力を習得する。
- ②社会構造とエネルギー利用の関連性の説明能力を習得する。
- ③国内政治とエネルギー利用の関連性の説明能力を習得する。
- ④エネルギー需給構造について国際的要因の説明能力を習得する。
- ⑤エネルギー政策立案時の視点や立案のポイントを理解する。
- ⑥質疑応答・討論によりエネルギー問題について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

エネルギーに関する基本的な要素を理解した後、社会問題とエネルギー利用に関連した課題、国内政治とエネルギー需給に関連した課題、エネルギーの国内需要と供給に関連する国際的な課題を議論する。最後にエネルギー政策立案の考え方を習得する。
講義はパワーポイントによる資料を使用して実施し、特にテキストは使用しない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	講義内容の概観	授業のテーマと到達目標等本講義の意義について説明する。また、現在のエネルギー利用の実態と付帯する社会問題、経済問題等本講義の議論点について概括するとともに、エネルギーを議論するときの基礎となる各エネルギーの供給メカニズムや利用時のエネルギー損失等、議論の背景となる要因について議論する。
第2回	エネルギー消費と産業構造	GDPとエネルギー消費の関係等、社会生活とエネルギーとの係わりについて解説すると共に資源から利用可能な状態までの国際的なエネルギー需給バランス等、エネルギーライフサイクルとエネルギー利用の産業構造について議論する。
第3回	省エネルギーとエネルギーミックス（再生可能エネルギー、新エネルギー）	エネルギー利用効率向上のために採られてきた省エネルギー対策と国際社会から自立した化石燃料に依存しない持続可能な再生可能エネルギーや新エネルギーの活用について議論する。
第4回	新たなエネルギー資源開発や化石エネルギー価格の変動要因	シェールガス、シェールオイル、メタンハイドレードなど新エネルギー資源の確保問題や、国際経済成長戦略と原油、天然ガス、石炭などの在来型化石燃料の価格変動要因との関連について、最近の情勢を分析しつつ議論する。
第5回	エネルギー安定供給（エネルギーセキュリティ）	エネルギー政策の一つの要素であるエネルギーセキュリティ問題について、歴史的経緯や考慮すべき要素を議論する。
第6回	エネルギー政策の歴史とエネルギー関連法令	近代産業発展に伴って採用されてきた我が国のエネルギー政策を解説すると共に現在のエネルギー関連法令について議論する。
第7回	エネルギー税制	国家がエネルギー政策を推進するためには、その資金が必要であり、資金確保のための適切な税制とその用途、活用法の実態を議論する。

第8回 電力自由化政策と電力自由化のメカニズム

電力を含むエネルギーは公共財としての側面を有しているが、福島原発事故以降採られてきた電力自由化の動きと、国民に安定的な電力供給体制構築のためのエネルギー価格を構成する要素を議論する。
地球温暖化から派生する気候変動や食糧問題等を踏まえて、エネルギーを国際社会が安心安全な環境で使用するために配慮すべきエネルギー利用形態とそのリスクについて、京都議定書と昨年のバリ合意の内容を比較しつつ議論する。

第9回 エネルギー利用とリスク

第10回 国際戦略としてのエネルギー需給問題

資源小国である我が国は海外からの供給を前提としていることから、原油価格変動に注視している状況にあり、世界のエネルギー供給戦略と我が国の利用戦略について歴史的視点から議論する。

第11回 エネルギー政策立案のメカニズムと政策の方向性

エネルギー基本計画策定、実施関連法令立案等具体的なエネルギー政策を立案するためのメカニズムを紹介すると共に今後の国内エネルギー政策の方向性について議論する。

第12回 エネルギー産業を介した地方創生方策

エネルギー基本計画により再生可能エネルギーなどの活用の活性化が推進されており、このような産業を介した地方創生のための方策について議論する。

第13回 将来のエネルギー需給予測と消費展望

将来の内外のエネルギー需給予測を世界各国の経済発展との関連で解説すると共に、今後の世界エネルギー需給についての将来展望について議論する。

第14回 講義内容のレビューと質疑応答

これまでの講義内容をレビュー質疑応答を行うことにより、講義内容の理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。授業日前に次回講義で使用する資料を授業支援システムを介して配信する。受講生は、授業支援システムへ登録し、資料の受領が行えるようにしておくこと。受講日までにその内容をよく予習することを求める。
エネルギー問題に関する報道内容等に留意し、講義の論点についての事前の情報収集が授業内容の理解を促進させる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義はパワーポイントによる資料を使用して実施し、特にテキストは使用しない。

【参考書】

- 本講義を受講するに当たって、以下の文献を推奨する。
- 1) 十市 勉 (2005) 『21世紀のエネルギー地政学』（産経新聞出版）
 - 2) 小池康郎 (2011) 『文系人のためのエネルギー入門』（勁草書房）
 - 3) 三浦隆利、他 (2008) 『エネルギー・環境への考え方』（養賢堂）
 - 4) 藤原淳一郎 (2010) 『エネルギー法研究』（松岳社）
 - 5) エネルギー・経済統計要覧、日本エネルギー経済研究所（最新年度版）
 - 6) その他、エネルギー白書等政府刊行物

【成績評価の方法と基準】

平常点：10点
期末試験結果90点（論述式試験による）

【学生の意見等からの気づき】

自らエネルギーに関連する内外の動きを敏感にとらえ、予習しておくことが受講に効果的である。

【学生が準備すべき機器他】

事前に授業支援システムで配信する講義レジメのプリント

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

In order to establish the energy utility policy, we learn and discuss many background and elements related to the energy from domestic and international views.

POL300HA

地球環境政治論

横田 匡紀

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の概要

パリ協定、気候変動問題の事例にも示されるように、なぜ地球環境問題をめぐるグローバルな合意形成は困難に直面するのでしょうか？米国のトランプ政権の誕生は環境政策にどのような影響を及ぼすのでしょうか？地球環境問題への解決やSDGsに向けて国際社会が合意し、持続可能な世界を構築するためには、合意形成のメカニズムを理解することが必要となります。

この講義は地球環境問題をめぐるグローバルな合意形成のメカニズムを対象とし、パリ協定、気候変動問題、SDGs、トランプ政権などの事例をとりあげるとともに、国際関係論、グローバル・ガバナンス論の理論枠組みを理解していくことを目的とする。学生には、地球環境政治をめぐる様々な問題を考え、グローバル市民社会の一員としてSDGsや持続可能な世界のあり方を考える視座を獲得してもらうことをめざす。

【到達目標】

- ・パリ協定、気候変動問題、SDGs、トランプ政権などを事例に、地球環境問題をめぐる合意形成のメカニズムを国際関係論の視点から理解できるようにになる。
- ・地球環境問題をめぐる国際機構や環境NGO、企業といった様々なアクターの活動が理解できるようにになる。
- ・SDGsやプラスチック汚染など近年の地球環境ガバナンスの課題を理解できるようにになる。
- ・日本やアメリカの地球環境外交を理解できるようにになる。
- ・ヨーロッパやアジアなど地域レベルごとの多様な環境ガバナンスの現状を理解できるようにになる。
- ・グローバル・ガバナンス、地球環境ガバナンスといった国際関係論の視点を理解できるようにになる。
- ・トランプ政権による地球環境政策への影響を理解できるようにになる。
- ・貿易と環境、環境と安全保障といった複合的な問題をめぐる合意形成のメカニズムを理解できるようにになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

この講義では、国際関係論やグローバル・ガバナンスの視点からこの問題にアプローチし、どのようなアクター（国際機構、NGO、企業など）がどのような手段（国際レジームなど）で、どのような問題（気候変動問題やSDGsなど）に取り組み、どのような成果と課題があるのかを確認していく。また講義の各論点とSDGsとの関連についても言及し、SDGsに対する理解を深めることができるように配慮する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	なぜ地球環境政治論を学ぶのか：人類世、地球の限界
第2回	地球環境ガバナンスの展開	地球環境政治の歴史的展開：国連人間環境会議からSDGsまで
第3回	気候変動ガバナンス（1）	パリ協定などの気候変動ガバナンスの概要
第4回	気候変動ガバナンス（2）	気候変動ガバナンスの新たな展開：気候正義、気候安全保障、ダイバーストメント
第5回	地球環境ガバナンスの課題（1）：生物多様性と化学物質管理の問題をめぐるグローバル・ガバナンス	名古屋議定書などの生物多様性や水俣条約などの化学物質管理をめぐるグローバル・ガバナンスの概要
第6回	地球環境ガバナンスの課題（2）：SDGs、プラスチック	SDGsやプラスチック汚染など近年の地球環境ガバナンスの課題を学ぶ
第7回	欧州の環境ガバナンス	先進的な環境政策をとる欧州での環境ガバナンスの展開：規範パワー、排出量取引、再生可能エネルギー、REACH
第8回	アジアの環境ガバナンス	アジア地域の環境ガバナンスの動向：黄砂、酸性雨、PM2.5、煙霧（Haze）
第9回	地球環境ガバナンスにおけるアメリカ	アメリカの地球環境外交：オバマ政権とトランプ政権、エネルギー政策、環境正義
第10回	トランスナショナルな地球環境ガバナンス（1）	NGOや企業などの非国家アクターの役割：地球環境条約に関わる活動

第11回	トランスナショナルな地球環境ガバナンス（2）	NGOや企業などの非国家アクターの活動の新たな展開：CSR、FSC、MSC、ESG投資など
第12回	地球環境ガバナンスにおける日本の役割	日本の地球環境外交：持続可能な発展、地球サミット、京都議定書、名古屋議定書、水俣条約
第13回	地球環境政治の見方（1）	リアリズムとリベラリズム
第14回	地球環境政治の見方（2）	コンストラクティヴィズム、グローバル・ガバナンス論、パワートランジション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。講義の各項目について理解できるようにしておく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

佐渡友哲・信夫隆司・根本英雄編『国際関係論（第3版）』弘文堂、2018年

【参考書】

- 環境経済・政策学会編『環境経済・政策学事典』丸善出版、2018年
 リチャード・E. ソーニア、リチャード・A. メガク編『グローバル環境ガバナンス事典』明石書店、2018年
 竹本和彦編『環境政策論講義』東京大学出版会、2020年
 角倉一郎『新・地球環境政策』昭和堂、2010年
 亀山康子・森島寿編『グローバル社会は持続可能か』岩波書店、2015年
 新澤秀則・高村ゆかり編『気候変動政策のダイナミズム』岩波書店、2015年
 小西雅子『地球温暖化は解決できるのか』岩波ジュニア新書、2016年
 太田宏『主要国の環境とエネルギーをめぐると比較政治』東信堂、2016年
 宇治梓紗『環境条約交渉の政治学』有斐閣、2019年
 蟹江憲史『持続可能な開発目標とは何か』ミネルヴァ書房、2017年
 鄭方婷『重複レジームと気候変動交渉』現代図書、2017年
 ナオミ・クライン『これがすべてを変える上・下』岩波書店、2017年
 J. リフキン『グローバル・グリーン・ニューディール』NHK出版、2020年
 村田晃嗣ほか『国際政治学をつかむ 新版』有斐閣、2015年
 中西寛・石田淳・田所昌幸『国際政治学』有斐閣、2013年
 大矢根聡編『コンストラクティヴィズムの国際関係論』有斐閣、2013年
 三船恵美『基礎から学ぶ国際関係論（改訂版）』泉文社、2015年
 大芝亮『国際政治理論』ミネルヴァ書房、2016年
 今井宏平『国際政治理論の射程と限界』中央大学出版部、2017年
 鈴木基史『グローバル・ガバナンス論講義』東京大学出版会、2017年
 西谷真規子編『国際規範はどう実現されるか』ミネルヴァ書房、2017年

【成績評価の方法と基準】

中間レポートの提出を前提として、期末試験90%、平常点10%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生のペースに配慮すること。

【その他の重要事項】

講義内容に関わるドキュメンタリービデオを随時用いていきます。進度により講義内容を変更することがあります。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

For better understandings of sustainable world society, this course aim to provide a wide range of knowledge about global environmental politics from viewpoints of discipline of the International Relations Course topics.

- ・ History of global environmental governance.
- ・ Global climate governance(The Kyoto Protocol, The Paris Agreements).
- ・ Global biodiversity governance.
- ・ Global chemical governance.
- ・ Global environmental governance of SDGs and Plastic issue
- ・ Environmental governance of the European Union.
- ・ Environmental governance in Asia
- ・ Environmental policy in the U.S.
- ・ Transnational environmental governance (Non-state actors, NGOs, Business and local actors).
- ・ Japan's global environmental diplomacy.
- ・ Theories of global governance (Realism, Liberalism, Constructivism and Global governance)

ARSA400GA

地域協力・統合

大中 一彌

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ヨーロッパとは何か」という問いに、自分なりの答えを言えるようになるのがこの授業の目的です。この授業を適切に位置づけるために、法政大学 Web シラバスの検索結果（2019年度）を参考にしながら、ヨーロッパの問題を扱うさいに、どのような切り口がありうるかを以下簡単にご紹介させていただきます。まず、法学部なら、第二次世界大戦後の統合をめぐる政治過程に焦点をあてるやり方があります（「ヨーロッパ統合論」「EUの政治と社会」）。経済学部なら、同じく第二次世界大戦後のヨーロッパ経済史に焦点をあてるやり方があります（「ヨーロッパ経済論」）。また、生命科学部には、食糧需給の観点から共通農業政策（CAP）を扱う授業があります（「国際食糧需給論」）。グローバル教養学部（GIS）には、ウクライナ危機や難民問題のような現在進行中のトピックから出発し、英語を使用言語として実施されている授業もあります（「European Integration」）。これらの授業と比較した時の、本授業「地域協力・統合」の特色は、上述のような実学的な切り口はとらず、高校までの世界史の知識を確かめながら、これからの国際社会で活躍する人材が身に付けておくべき教養として、思想史や文化史に焦点をあてつつ、「ヨーロッパとは何か」について認識を深めることにあります。

【到達目標】

- ①「ヨーロッパ」の地理的広がりについて、みずからの考えを述べることができる。
- ②古代ギリシア、ヘレニズム、古代ローマの文化的・政治的・哲学的遺産と「ヨーロッパ」を関連付けて（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
- ③西ローマ帝国崩壊前後以降、10世紀にいたるゲルマン人、ノルマン人、スラブ人の民族大移動と「ヨーロッパ」の形成を、各国史との関係で（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
- ④カトリシズムを軸として形成される中世の西ヨーロッパと、正教を軸として形成される東ヨーロッパやイスラーム世界を関係づけつつ（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
- ⑤ルネサンスを含むヒューマンイズムの人間論上の意義、大航海時代における非ヨーロッパ地域への影響、宗教改革後の諸戦争がもたらした信仰と政治の関係性について、（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
- ⑥ヨーロッパ各国における絶対主義および啓蒙専制主義のもとの商業の発展をつうじて発生した「ヨーロッパ中心主義」的な意識に関し、肯定・否定の両面から論じることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式。授業支援システムをつうじた小テスト（全員必須）やレポート（任意）の提出を行う。授業内における積極的発言、運営への協力を「ざぶとん点」として評価対象にしている。
※秋学期になっても遠隔授業が続いていた場合、Google Hangouts Meetなどの双方向リアルタイムのビデオ会議を利用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	受講上の約束事	授業内容の紹介、注意事項の説明 ※プリント「地域協力・統合 受講者への注意」を配布
2	ヨーロッパの地理的定義	ユーラシア大陸から突き出た「半島」としてのヨーロッパ：東の境界は？
3	人の移動と石器・青銅器・鉄器時代	ヨーロッパ各地に広がるケルトの文化
4	考古学的定義	ギリシア世界
5	神話と政治	「ヨーロッパ」の語源とされる諸神話や、「アジア」と対比した際のギリシア世界の特質とされるものについて学ぶ
6	ヘレニズムと地中海世界	「ギリシア文明」の地理的拡大
7	古代ローマ	ローマの盛衰と遺産としての法制度や建築
8	西ローマの崩壊と民族大移動	統一的な地中海世界の終わり＝「文明」の崩壊のイメージ及びアジア諸民族の侵入
9	「周縁」としてのヨーロッパ	いわゆるノルマン人の全ヨーロッパへの進出、スラブ人の中東欧への進出
10	フランク王国と「12世紀のルネサンス」	西ヨーロッパにおけるカトリシズムを軸とした中世的秩序の形成

11	大航海時代とルネサンス、宗教改革	ポルトガルによるアフリカ大陸西岸の航海、ユマニズム的な「人間の尊厳」の観念、プロテスタンティズムの発生によるカトリック圏としての西ヨーロッパの分裂
12	16世紀-17世紀初頭のヨーロッパ政治史	ハプスブルク家、オスマン・トルコ、テューダー朝のイギリス、ユグノー戦争、三十年戦争（cf. 映画『最後の谷』）
13	「主権」の発動たる戦争、その悲惨を目の当たりにした人々による平和の希求	ジャック・カロ「戦争の悲惨」。クリュセ、コメニウス、ベンラ 17世紀に芽生えた統合の思想
14	啓蒙思想と革命	君主を含めた主権者同士の連合から、民主主義、ナショナリズムの時代への移行。主権者としての国民による「連邦主義」の可能性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・ほぼ毎週小テストを実施します。これは全員必須で、授業支援システム（インターネット）上で受験します。

【テキスト（教科書）】

授業支援システム上で PDF ファイルのかたちで配布する。

【参考書】

授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

- ・期末テストは行わない 0%
- ・小テストの受験。授業支援システム上で授業外実施 45%
- ・学生による発表、運営への協力 10%
- ・授業への参加の積極性【良い発言をした授業参加者に得点が加算される「ざぶとんコーナー」】 10%
- ・レポート【希望者のみ】 35%

【学生の意見等からの気づき】

高校や大学1年時の学習との橋渡しを意識し、NHKの高校講座世界史を参照するなどしている。

【学生が準備すべき機器他】

- ・教材の配布や小テストの受験など、すべてネット上で行うため、スマートフォンでも可だが、できればパソコンやタブレットの利用に習熟していることが望ましい。
- ・「授業支援システム」を利用するので、初回授業後、仮登録を各自行う。
- ・「授業支援システム」>「成績簿」でリアルタイムの自分の成績を見ることが出来る。
- ・連絡はメールをお願いします。メールアドレスは授業支援システムを見て下さい。

【Outline and objectives】

What is Europe? This question, which many present-day Europeans ask themselves, is the main theme of this course. Starting with the geographical notion of Europe as a "continent", students will familiarize themselves with its basic archaeological, ethnic, religious, philosophical, and historical aspects. Students will be encouraged to explore these areas to reflect on the modern idea of Europe as a haven of peace and the possibility or impossibility of a single European identity.

ECN200HA

ミクロ経済学 I

芦田 登代

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

【Outline and objectives】

This class provides an introduction to microeconomic theory. The purpose of this class is to foster the logical thinking skill by understanding the market mechanism and the principles behind it. Furthermore, we aim to think about the real situation from an economic point of view, and also to acquire the fundamental skill required to solve the environmental issues.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

市場における代表的な意思決定者である消費者と企業の経済行動を理解し、需要曲線と供給曲線が導かれることを学ぶ。また、それが、現実の経済問題に対して果たしている役割を理解することで、家計・企業・政府が、どのような行動基準に基づいた行動をとっているのか、それぞれの最適な選択を理解することが目的である。経済学を初めて学ぶ人を対象に、ミクロ経済学の基本を、分かりやすく解説したい。

【到達目標】

個々の経済主体の意思決定が、市場や制度を通してどのような影響をもたらしているのかを体系的に理解することが、講義の目的である。利己的な経済行動を前提としても、ある理想的な条件のもとでは、それが社会の構成員全体の利益にバランスよく分配され、結果的に平和で民主的な社会の形成とかがわかりがあることを理解する。さらにその上で、現代の社会を主体的に考察することを通じ市場経済の限界を深く考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月6日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	この授業の概要や進め方の説明、人間環境学部としてのミクロ経済学を学ぶ意義についての解説
第2回	経済学の十大原理	経済学の基盤となる考え方の整理
第3回	経済政策	科学的判断における相違・価値観の相違・認識と現実
第4回	相互依存と貿易からの利益	比較優位の理論
第5回	市場機能（市場における需要と供給の作用）	競争市場、需要曲線と供給曲線
第6回	市場機能（弾力性）	需要の弾力性、供給の弾力性
第7回	市場機能（需要・供給および政府の政策）	価格規制、税金
第8回	復習	経済学の概念、市場機能の復習
第9回	市場と厚生（効率性）	消費者余剰、生産者余剰、市場の効率性
第10回	公共部門（外部性）	市場の失敗
第11回	公共部門（公共財と共有資源）	様々な種類の財、フリーライダー問題、共有地の悲劇
第12回	公共部門（税制の設計）	税と効率、税と公平、効率と公平のトレードオフ
第13回	復習	市場と厚生・公共部門の復習
第14回	試験・まとめ	試験・まとめ（市場の働きと限界を考える）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

N. グレゴリー・マンキュー (2019) 『マンキュー経済学：ミクロ編 [第4版]』東洋経済新報社

【参考書】

大瀧雅之 (2018) 『アカデミックナビ 経済学』勁草書房

【成績評価の方法と基準】

当面の間、オンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解を確認しながら進めていきたいと思えます。レジュメと資料は web サイトに掲載するだけでなく、授業時にも配布します。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

ECN200HA

ミクロ経済学Ⅱ

芦田 登代

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

市場における代表的な意思決定者である消費者と企業の経済行動を理解し、それが現実の経済問題に果たしている役割の理解を深める。本講では企業理論や労働市場を中心に解説し、身近な出来事や、政治・経済の動向をもとに経済の仕組みを理解できるように授業を進める。

【到達目標】

ミクロ経済学Ⅰでの学習に引き続き、ミクロ経済学の基礎を学ぶ。利己的な経済行動を前提としても、ある理想的な条件のもとでは、それが社会の構成員全体の利益にバランスよく分配され、結果的に平和で民主的な社会の形成とかわりがあることを理解する。さらにその上で、現代社会を主体的に考察することを通じ市場経済の限界を深く考える。日本の経済の取り巻く問題や身近な出来事を経済学の考え方に基づいて理解し、説明できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義中心に進め、適時演習・解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本講義の概要や進め方の説明、経済学の考え方の復習
第2回	ミクロ経済学Ⅰの復習 1	市場機能
第3回	ミクロ経済学Ⅰの復習 2	公共部門の経済学
第4回	企業行動と産業組織（生産の費用）	費用とは何か
第5回	企業行動と産業組織（競争市場における企業）	競争の意味、利潤最大化と競争企業の供給曲線
第6回	企業行動と産業組織（独占・独占的競争）	独占が生じる理由と弊害
第7回	企業行動と産業組織（寡占）	寡占とは何か
第8回	復習	企業行動と産業組織の復習
第9回	労働市場の経済学（生産要素市場）	企業の労働需要、労働供給、労働市場の均衡
第10回	労働市場の経済学（勤労所得と差別）	均衡賃金に関する決定要因
第11回	労働市場の経済学（所得不平等と貧困）	不平等の尺度、所得再分配に関する政治哲学、貧困を減らすための政策
第12回	復習	労働市場の経済学の復習
第13回	ミクロ経済学のフロンティア	行動経済学
第14回	試験・まとめ	企業行動と産業組織、労働市場の経済学のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

N. グレゴリー・マンキュー (2019) 『マンキュー経済学：ミクロ編 [第4版]』東洋経済新報社

【参考書】

大瀧雅之 (2018) 『アカデミックナビ 経済学』勁草書房

【成績評価の方法と基準】

演習・宿題 10%、期末試験 90%

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解を確認しながら進めていきたいと思っています。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科日は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This class provides an introduction to microeconomic theory. The purpose of this class is to foster the logical thinking skill by understanding the market mechanism and the principles behind it. Furthermore, we aim to think about the real situation from an economic point of view, and also to acquire the fundamental skill required to solve the environmental issues.

ECN200HA

マクロ経済学Ⅰ

今 喜史

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本経済は、たとえば30年前と比較してどれほど豊かになっているのか？そして現在から30年後には、私たちの暮らしはどれほど豊かになるのだろうか？マクロ経済学Ⅰでは、一国経済の「豊かさ」をそもそもどのように計測するのかという議論から説き起こし、持続的な経済成長の意義とその要因を考察する。とくに、現在の日本で課題となっている財政赤字と少子高齢化に着目し、経済学の観点からいかなる政策対応が望まれるのかを議論する。

【到達目標】

- ①日本の直面するマクロ経済問題を自分の言葉で説明することができる
- ②統計データを的確に使用する意義を理解する
- ③持続的な経済成長のために何が必要かを論じることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

(4月20日変更) 春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにもなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月7日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	マクロ経済学への導入	社会科学としてのマクロ経済学の分析手法について理解する
第2回	豊かさを測る経済指標	国民経済計算（SNA）の概要を学ぶ
第3回	歴史の中の日本経済	国内総生産（GDP）の推移をデータから確認する
第4回	GDPが見落としているもの	環境への負荷や健康状態など、統計で金銭評価されにくい「豊かさ」を把握する方法について議論する
第5回	財政とマクロ経済	政府のマクロ経済政策が必要とされる理由を考える
第6回	財政支出と景気	政府支出の増加が景気を改善するメカニズムを理解する
第7回	乗数効果への反論	政府支出がマクロ経済に与える副作用を考える
第8回	財政の持続可能性	日本の国債残高の現状を学び、今後いかなる問題が生じうるのかを展望する
第9回	経済成長の理論	先進国が長期的な経済成長を実現してきた理由を考える
第10回	資本蓄積と技術革新	持続的な経済成長が起こるメカニズムを理論的に考察する
第11回	人的資本の重要性	少子高齢化や教育の普及が経済成長を左右することを理解する
第12回	グローバル化は経済成長を加速させるのか	貿易などの国際経済政策がマクロ経済に及ぼす影響を議論する
第13回	経済成長と所得分配、民主主義	豊かな国ほど所得の不平等が拡大する傾向があるのか議論する
第14回	まとめと期末試験	講義全体を総括し、期末試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

平口良司・稲葉大『マクロ経済学（新版）』有斐閣、2020年。
大瀧雅之『アカデミックナビ 経済学』勁草書房、2018年。
福田慎一・照山博司『マクロ経済学・入門（第5版）』有斐閣、2016年。
アセモグル・レイブソン・リスト（岩本康志訳）『マクロ経済学』東洋経済新報社、2019年。

【成績評価の方法と基準】

(4月20日変更) 春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにもない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーなどで寄せられた個別の質問に対し、回答する時間なるべく講義内に設けます。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This course provides a concise introduction to the macroeconomic issues, especially taking account of modern Japanese economy. Topics covered are following: How to measure the wealth of nations? What determines the long-run economic growth of nations? Why should we care about the government debt? Students are asked to form their opinion based on rigorous theoretical foundations and relevant empirical studies.

ECN200HA

マクロ経済学Ⅱ

今 喜史

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本銀行の金融緩和政策は、政府によるマクロ経済政策の大きな柱であり、私たちの暮らしに大きな影響を及ぼす。しかしその効果に対しては、いまだ賛否両論が存在するのが現状である。マクロ経済学Ⅱでは、金融の基礎的な概念を理解したうえで、インフレ目標をはじめとする新たな金融緩和の手段の有効性と懸念される副作用について議論する。とくに、中国やヨーロッパ諸国の金融政策と比較しつつ、グローバル経済の中で金融緩和のもつ意味がどのように変化してきたのかを学ぶ。

【到達目標】

- ①現代の社会について主体的に考察し、金融政策の是非をめぐる論点を理解する
- ②統計データを的確に使用する意義を理解する
- ③国際的な観点から、日本のマクロ経済政策の課題を位置づけることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で進めます。不定期で、小テストを兼ねたリアクションペーパーに講義時間内に回答していただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	マクロ経済と金融政策をめぐる論点を整理する
第2回	景気変動の読み方	日本の国内総生産（GDP）の変動を寄与度分解によって理解する
第3回	金融の基礎	資産や利率など、金融の基本概念を学ぶ
第4回	利率の決定と投資	均衡利率の決定メカニズムを理解する
第5回	日本銀行と「伝統的」金融政策	準備預金制度の概要を学び、金融緩和政策の意味を理解する
第6回	「非伝統的」金融緩和政策	量的緩和やマイナス金利など、日本銀行が採用した新たな政策手段の意図と効果を理解する
第7回	インフレ・デフレと貨幣	政府が「デフレからの脱却」を政策目標として掲げることの意味を考える
第8回	金融緩和の副作用	金融緩和政策を続けることで、将来に起こりうる問題を展望する
第9回	国際金融と為替レート	外国為替市場のしくみを学び、円高や円安とは何かを理解する
第10回	金融政策と円高・円安	金利裁定の理論を学び、為替レートの決定要因を理解する
第11回	為替レートのマクロ経済学	為替レートの変化が景気に与える影響を学ぶ
第12回	ヨーロッパの通貨制度	共通通貨ユーロを導入したヨーロッパの金融政策を日本と比較する
第13回	中国の通貨制度	中国の資本規制の意義と今後の見通しについて議論する
第14回	まとめと期末試験	講義全体を総括し、期末試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

平口良司・稲葉大『マクロ経済学（新版）』有斐閣、2020年。
大瀧雅之『アカデミックナビ 経済学』勁草書房、2018年。
福田慎一・照山博司『マクロ経済学・入門（第5版）』有斐閣、2016年。
アセモグル・レイブソン・リスト（岩本康志訳）『マクロ経済学』東洋経済新報社、2019年。

【成績評価の方法と基準】

講義の最終回に行う期末試験（100%）により評価します。また、不定期に行うリアクションペーパーに回答して提出した場合、ボーナス得点として期末試験の得点に加算します。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーなどで寄せられた個別の質問に対し、回答する時間をなるべく講義内に設けます。

【その他の重要事項】

同じ担当者による春学期「マクロ経済学Ⅰ」とは独立した内容で講義を行いますが、「マクロ経済学Ⅰ」も併せて履修することで理解が深まると思います。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Macroeconomics II gives students a thorough introduction to monetary policy issues. Starting from the basic concepts of monetary economics, we overview both the proponents and opponents of the current monetary policy conducted by the Bank of Japan. We also study some international macroeconomic policies, including the effectiveness of monetary policy under the flexible exchange rate regimes, capital controls, and currency unions.

MAN200HA

現代企業論

長谷川 直哉

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

SDGs やパリ協定の登場によって、化石燃料依存型経済から脱炭素経済への移行が求められています。企業は SDGs を達成する上で重要なパートナーと位置づけられており、企業が果たすべき役割はこれまで以上に拡がりをみせています。本講義では、大量生産・大量消費時代の終焉、地球環境問題の深刻化、企業の社会的責任に対する関心の高まり、知識集約型社会への移行という外部環境の変化を踏まえ、企業を取り巻く様々な現代的課題を取り上げつつ、企業経営のあり方を概観します。

【到達目標】

ヒト・モノ・カネ・情報等の各要素を効率的に機能させる株式会社制度と様々な経営課題に立ち向かう企業の姿勢を理解し、SDGs が求める持続可能な社会における企業の役割に対する理解を深めることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

株式会社の基本機能（経営管理、マーケティング、ファイナンス、人的資源管理）、株式会社の組織と戦略（経営組織、経営戦略、製品開発等）、現代企業が直面する諸課題（気候変動、SDGs、脱炭素等）に関する基本理論と事例を取り上げます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 企業とは何か	講義の全体像 株式会社の誕生と発展
第 2 回	製品・サービスの提供	市場における優位性の獲得
第 3 回	株式会社の仕組みと課題	株式会社は誰のものか
第 4 回	大企業の機能と専門経営者の誕生	所有と経営の分離
第 5 回	[ケース①：サントリー] 企業規模の拡大と組織 [ケース②：本田技研工業]	規模の利益と経営の効率化（コーポレートガバナンス）
第 6 回	日本的経営の構造 [ケース③：キヤノン]	日本的経営の成果と課題
第 7 回	経営管理の理念と機能 [ケース④：熊本黒川温泉]	マネジメントの実際
第 8 回	外部講師による特別講義 < 1 >	企業担当者による講義（詳細は開講時に提示）
第 9 回	ICT・IoT と企業経営 [ケース⑤：ミツカン]	先端技術の活用と経営変革
第 10 回	競争戦略とマネジメント	市場競争力の源泉
第 11 回	製品開発戦略 [ケース⑥：ユニクロ]	製品開発のコンセプトとプロセス
第 12 回	外部講師による特別講義 < 2 >	機関投資家による講義（詳細は開講時に提示）
第 13 回	SDGs と ESG 投資 [ケース⑦：スタジオリ]	持続可能な開発目標と企業経営の未来
第 14 回	企業間競争ケーススタディ	飲料メーカーの競争戦略

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料や参考書を使用して必ず復習をして下さい。新聞等で報道される経済問題や企業動向のトピックを継続的にウォッチし、現代企業が生き残りをかけてどのような戦略的行動をとろうとしているのか考えてみましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、レジュメを配布します。

【参考書】

長谷川直哉編著『企業家活動に学ぶ ESG 経営』文真堂、2019 年
長谷川直哉編著『統合思考と ESG 投資』文真堂、2018 年
長谷川直哉編著『価値共創時代の戦略的パートナーシップ』文真堂、2017 年
長谷川直哉編著『企業家活動でたどるサステイナブル経営史』文真堂、2016 年

【成績評価の方法と基準】

特別講義レポート：30 %
期末試験：70 %

講義で取り上げた内容に関する基礎的事項を理解し、課題に対して自己の見解を論理的に展開しているか等を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

経営学の初学者を対象にケーススタディを織り交ぜて、分かりやすい講義を行います。

【学生が準備すべき機器他】

特に準備する必要はありません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

【実務経験】

損害保険会社の資産運用部門において、約 15 年間投資業務を担当しました。1999 年、ESG 投資の先駆的な取り組みである SRI（社会的責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業の ESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。また、(公財) 国際金融情報センターに出身し、カントリーリストや国際金融システムに関する調査・研究に従事しました。

【関連視角】

証券アナリスト検定会員（CMA）

【Outline and objectives】

The emergence of the SDGs and the Paris Agreement have called for a shift from a fossil fuel-based economy to a decarbonized economy. Companies are positioned as key partners in achieving the SDGs, and the role they need to play is expanding more than ever. This lecture focuses on various issues surrounding companies, based on the changes in the external environment, such as the end of the age of mass production and mass consumption, the growing An overview of corporate management, taking up contemporary issues.

MAN200HA

ビジネスヒストリー

長谷川 直哉

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

戦前・戦後の日本経済の発展をリードした代表的な企業家の活動について説明します。過去から現在に至る企業および企業家活動の展開を振り返ることで、企業と社会の関係性や企業の社会的責任（CSR）や SDGs（持続可能な開発目標）とビジネスの関係について学びます。併せて、企業を評価するために必要な情報や知識を提供します。

【到達目標】

日本企業の成長プロセスを振り返り、企業が長年培ってきた「知の蓄積」の実像や SDGs を先取りした事例を理解し、現代社会で問われている企業活動の社会的意義を的確に評価する知識を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、わが国の代表的な企業や企業家のケースを取り上げて解説します。また、外部講師による特別講話を行う予定です。講義にはパワーポイントを使用し、必要に応じて DVD 等を視聴します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション 高峰謙吉 [三共商店]	ビジネスヒストリーを学ぶ意義 製薬ベンチャー
第 2 回	豊田佐吉 [豊田自動織機 製作所]	自動織機のパioneer
第 3 回	鈴木道雄 [鈴木式織機株 式会社]	オートバイ・軽自動車製造の先駆者
第 4 回	波多野鶴吉 [郡是製糸]	人を大切に経営
第 5 回	大原孫三郎 [倉敷紡績・ 倉敷絹織]	日本版 CSR の先駆者
第 6 回	武藤山治 [鐘淵紡績]	人道主義経営
第 7 回	岡田良一郎 [大日本報徳 社]	企業家の経営理念を支えた報徳思想
第 8 回	中島知久平 [中島飛行機]	航空機製造の先駆者
第 9 回	伊庭貞号・鈴木馬左也 [住友財閥]	別子銅山の煙害を克服した SDGs の 先駆者
第 10 回	鳥井信治郎 [サントリー]	個性あるマーケティング活動
第 11 回	小林一三 [阪急東宝グ ループ]	宝塚歌劇を生み出した私鉄経営の先駆 者
第 12 回	石橋正二郎 [プリザスト ン]	足袋屋から国産タイヤメーカーへ
第 13 回	樋口廣太郎 [アサヒビー ル]	スーパードライの生みの親
第 14 回	立石一真 [オムロン]	考えるオートメーションの開発

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料と参考書を使用して必ず復習して下さい。企業家のホームページに掲載されている「企業の歴史」などをウォッチし、各企業が生き残りをかけてどのような取り組みを行ってきたのかを考えてみましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、レジュメを配布します。

【参考書】

長谷川直哉編著『企業家に学ぶ ESG 経営』文真堂、2019 年
長谷川直哉編著『企業家活動でたどるサステイナブル経営史: CSR 経営の先
駆者に学ぶ』文真堂、2016 年
長谷川直哉編著『企業家活動でたどる日本の金融事業史』文真堂、2013 年
長谷川直哉著『スズキを創った男-鈴木道雄』三重大学出版会、2005 年

【成績評価の方法と基準】

期末試験 : 80%

リアクションペーパー : 20% (5 回)

講義で取り上げた内容に関する基礎的事項を理解し、課題に対して自己の見解を論理的に展開しているか等を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ケーススタディを中心に、分かりやすい講義を行います。

【学生が準備すべき機器他】

特に準備する必要はありません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】**【実務経験】**

損害保険会社の資産運用部門において、約 15 年間投資業務を担当しました。1999 年、ESG 投資の先駆的な取り組みである SRI（社会的責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業の ESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。また、(公財) 国際金融情報センターに出向し、カントリーリスクや国際金融システムに関する調査・研究に従事しました。

【関連資格】

証券アナリスト検定会員（CMA）

【Outline and objectives】

This lecture describes the activities of leading entrepreneurs who have led the development of the Japanese economy before and after the war. By looking back on the development of corporate and entrepreneurial activities from the Meiji era to the present, we will learn about the relationship between business and society, corporate social responsibility (CSR), and the relationship between the SDGs (Sustainable Development Goals) and business. It also provides the information and knowledge needed to evaluate a company.

MAN200HA

経営学入門

金藤 正直

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営学は、企業の実践的課題に対する解決策を理論的に明らかにすることが中心となる。しかし、その課題や解決策は、企業外部の経済環境の変化によって比較的短いスパンで様変わりしやすく、また、多様に存在する。そこで、本講義では、内容のポイントを絞って、体系的に学習することを目的とする。

【到達目標】

本講義では、理論的な内容だけではなく、企業の実践的取組みについても触れるために、企業が実際にどのような方針（戦略）を立て、その方針に基づいてどのような仕組み（組織）を作り、その仕組みの中でどのように運営（管理）しているのか、という一連の経営活動を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義では、テキストと配布資料をもとに進めていくが、各講義の内容に関連する映像資料や新聞・雑誌記事も活用し、その中で取り上げられている企業のビジネスモデルやその課題について履修者と一緒にディスカッションしていくとともに、その解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション 企業と経営－経営学とは何か－	講義の概要と、経営学の目的と意義を説明する。
第 2 回	企業の種類－企業と何か－	企業の種類とその種類を説明する。
第 3 回	経営戦略－概念と特徴－	経営戦略の概念や特徴を説明する。
第 4 回	経営戦略－種類と策定方法－	経営戦略の種類とその策定方法を説明する。
第 5 回	経営戦略－新しい戦略－	新たな企業戦略（環境戦略、サステナビリティ戦略、地域戦略）を説明する。
第 6 回	経営組織－概念と種類－	経営組織の概念とその種類（形態）を説明する。
第 7 回	経営組織－形態と特徴－	経営組織の形態（基本と応用）とその特徴を説明する。
第 8 回	経営組織－新しい組織－	新たな経営組織（サプライチェーン、産業クラスター、コラボレーション）を説明する。
第 9 回	経営管理－機能と仕組み－	経営管理の 2 つの機能（経営機能と管理機能）とともに、企業経営の管理技法を説明する。
第 10 回	経営管理－経営資源の管理①－	企業の人的資源である「ヒト」、材料や仕掛品などの「モノ」の管理方法を説明する。
第 11 回	経営管理－経営資源の管理②－	企業経営をうまく実施するうえで重要な役割を果たす会計（「カネ」）や「情報」の管理方法を説明する。
第 12 回	ケーススタディ①	企業の実践的取組みを取り上げ、これまでの講義内容をもとに検討する。
第 13 回	ケーススタディ②	第 12 回での検討内容をもとに全員でディスカッションし、新たなビジネスモデルを提案する。
第 14 回	講義のまとめ	講義のポイントを整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義は、企業経営の知識や考え方だけではなく、今後の活動（ゼミナール活動など）において必要とされる研究・調査の方法の基礎基本も身に付けてもらうために、テキストの内容を論理的に説明し、解説するだけではなく、参加型（双方向型）形式も取り入れて進めていきます。

そのために、毎回の講義で紹介される資料（テキストだけではなく、その内容に関連する他の著書や新聞・雑誌記事など）を使用して予習・復習してください。なお、本講義の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示します。

【参考書】

講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

本講義の成績は以下の 3 点に基づいて評価します。

①事例分析・検討ペーパーの提出（40 %）

- ②ディスカッションへの参加（20 %）
- ③試験（40 %）

【学生の意見等からの気づき】

毎年、受講生からの意見や要望などを考慮に入れ、講義内容の改善に努めています。

【学生が準備すべき機器他】

学生の皆さんに準備してもらおう機器は特にありませんが、配布資料に関連する内容を口頭で説明してもらおう場合もありますので、メモできるもの（付箋など）も持ってきてください。

【その他の重要事項】

- ①テキスト、配付資料、映像資料を用いて授業を進めていきます。
- ②必要に応じて新聞・雑誌記事などのコピーも配布します。
- ③質問などは電子メールで連絡ください。なお、電子メールのアドレスは講義の最初にアナウンスします。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

The purpose of this lecture is to systematically learn the management method in companies.

MAN200HA

環境経営と会計

金藤 正直

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

会計は、企業などの組織が行った経済活動の状況を定量的に測定し、この結果を情報利用者（ステイクホルダー）に伝達するための情報システムである。その領域は、マイクロ会計（家計、企業、政府を対象とした会計）、メゾ会計（地域を対象とした会計）、マクロ会計（国を対象とした会計）の3つに分類される。本講義では、マイクロ会計のうち、企業を対象とした会計をもとに、環境会計またはサステナビリティ会計を学習することを目的とする。

【到達目標】

本講義では、企業会計の基礎的なフレームワークを学習した後、環境経営やサステナビリティ経営の財務的・非財務的内容を理解し、分析することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義では、企業で実践されている会計（財務会計や管理会計）、環境会計、サステナビリティ会計の取組みを、環境省や GRI（Global Reporting Initiative）などで公表されているガイドラインや、有価証券報告書、環境報告書、サステナビリティ報告書を利用しながら理解することを目指す。また、必要に応じて関連する新聞や雑誌記事などのコピーを配布し、そうした取組みをより詳細に理解していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション 企業経営と会計－会計学とは何か－	講義の概要とともに、企業における経営と会計の関係を通じて会計学の目的や意義を説明する。
第 2 回	会計の基礎概念と基本的技法	会計の基礎概念と基本的技法を説明する。
第 3 回	会計の仕組み①－貸借対照表の特徴と仕組み－	貸借対照表の特徴と構成要素（資産、負債、純資産）を説明する。
第 4 回	会計の仕組み②－損益計算書の特徴と仕組み－	損益計算書の特徴と構成要素（収益、費用）を説明する。
第 5 回	経営分析の方法	経営分析の必要性と、分析方法を説明する。
第 6 回	ケーススタディ①	第 2 回から第 4 回までの講義内容を企業の会計情報を分析し、評価する。
第 7 回	環境経営と環境会計	環境会計の概念と基本的機能、また、第 5 回までの講義内容との関係を説明する。
第 8 回	環境会計情報①	環境保全コストの定義、内容、測定方法を説明する。
第 9 回	環境会計情報②	環境保全効果と経済効果の定義、内容、測定方法を説明する。
第 10 回	環境経営分析	環境経営分析指標の特徴と種類を説明する。
第 11 回	ケーススタディ②	第 7 回から第 10 回までの講義内容をもとに、企業の環境会計情報を分析し、評価する。
第 12 回	新たな環境会計－環境管理会計の概要－	企業内部で活用する環境管理会計の技法とその特徴を説明する。
第 13 回	サステナビリティ経営と会計	CSV 経営や SDGs 経営のための会計システムを説明する。
第 14 回	講義のまとめ	講義のポイントを整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義は、今後の活動（ゼミナール活動など）で必要とされる研究・調査の方法の基礎基本を身に付けてもらうために、配布資料を用いて会計学の専門的で難解な用語、概念、技法を平易に説明し、解説するだけでなく、参加型（双方向型）形式も取り入れて進めていきます。そのために、毎回の講義で紹介される資料（配布資料だけでなく、その内容に関連する他の著書や新聞・雑誌記事など）を使用して予習・復習してください。なお、本講義の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を配布します。

【参考書】

講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

本講義の成績は以下の 3 点に基づいて評価します。

- ①事例分析・検討ペーパーの提出（40 %）
- ②ディスカッションへの参加（20 %）
- ③試験（40 %）

【学生の意見等からの気づき】

毎年、受講生からの意見や要望などを考慮に入れ、講義内容の改善に努めています。

【学生が準備すべき機器他】

学生の皆さんに準備してもらう機器は特にありませんが、配布資料に関連する内容を口頭で説明する場合がありますので、メモできるもの（付箋など）を持ってきてください。

【その他の重要事項】

- ・配布資料を用いて授業を進めていきます。
- ・必要に応じて新聞・雑誌記事なども配布します。
- ・質問等は電子メールで連絡ください。なお、電子メールのアドレスは講義の最初にアナウンスします。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

The purpose of this lecture is to learn environmental accounting and sustainability accounting based on the framework of corporate accounting.

ECN200HA

公共経済学

小田 圭一郎

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 5/Wed.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は、ミクロ経済学の基礎理論に基づき、公共政策を分析するための基本的フレームワークを身につける。

【到達目標】

学生は、市場経済における公共部門の役割について学ぶ。

具体的には、以下の事項を理解する：

- ・市場経済の利点（厚生経済学の基本定理）と限界（市場の失敗）
- ・公共財の効率的配分
- ・外部性の市場的解決
- ・環境問題の市場的解決方法としての環境税と排出権取引
- ・情報非対称性問題へのゲーム理論的解決方法の基礎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行う。数回程度の宿題を課す。

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月11日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	公共経済学の概観と授業の進め方
第2回	ミクロ経済学①	最適化問題の定式化
第3回	ミクロ経済学②	厚生経済学の基礎
第4回	市場の失敗	市場メカニズムが適切に機能しない状況
第5回	公共財①	定義・効率的配分条件
第6回	公共財②	リンダール均衡、クラークメカニズム
第7回	ゲーム理論	ゲーム理論の初歩
第8回	外部効果①	定義、コースの定理
第9回	外部効果②	市場的解決方法
第10回	環境政策①	環境問題の定式化
第11回	環境政策②	環境税と排出権取引
第12回	情報非対称性問題①	情報非対称性問題の一般的考え方
第13回	情報非対称性問題②	環境政策における逆選択問題の定式化
第14回	試験・まとめと解説	試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、ミクロ経済学の初歩について適宜復習を行うとともに、毎回の講義で紹介される資料等を使用して予習・復習をすること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

神取道宏（2014）『ミクロ経済学の力』日本評論社。

他は初回授業時に指示。

【成績評価の方法と基準】

「到達目標」記載事項の理解度に応じて評価を行う：

- ・期末試験（90%）
- ・平常点（10%）

【学生の意見等からの気づき】

分析の基礎となる諸概念について直観を与えるような説明を行う。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムから資料をダウンロードし、授業に持参すること。

【その他の重要事項】

特になし。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This course will introduce students the basic ideas of public economics. Students will develop theoretical knowledge for analyzing public policies.

MAN100FA

簿記入門Ⅰ・Ⅱ（2015年度以前入学者）

大下 勇二

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：水 2/Wed.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

簿記・会計は「ビジネスの言語」と呼ばれる。企業の公表する損益計算書や貸借対照表は、その経済活動を一定のルールに従い記録した帳簿に基づき作成される。この帳簿記録の技術を「簿記」という。本講義はこの「簿記」の技術を授業のテーマとする。

【到達目標】

簿記入門Ⅰ/Ⅱでは簿記の基礎と日商簿記3級程度の修得を目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業では、複式簿記による帳簿記録のルールを理解し、それに基づいて簡単な貸借対照表および損益計算書を作成できるまでのレベルを目標に、具体的には、複式簿記の原理、帳簿記録の方法、決算の概要、決算書の作成方法を、テキストに従い、板書講義、パワー・ポイントのスライドによる解説および記帳・計算演習をおこなって習得する。

春学期の授業に関しては、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月22日とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
第1回	簿記の意義としくみ (1)	簿記の意義と基礎について解説します。
第2回	簿記の意義としくみ (2)	貸借対照表の構成要素である資産・負債・純資産(資本)について解説し、資本等式、財産法による損益計算の方法について学びます。
第3回	簿記の意義としくみ (3)	損益計算書の構成要素である収益・費用について解説し、損益法による損益計算の方法を学びます。
第4回	仕訳と転記 (1)	取引簿記上の取引、取引の種類、取引要素の結合関係、具体的な取引分類を解説し、複式簿記の原理を学習します。
第5回	仕訳と転記 (2)	取引簿記上の取引、取引の種類、取引要素の結合関係、具体的な取引分類を解説し、複式簿記の原理を学習します。
第6回	仕訳と転記 (3)	複式簿記の原理に基づいて、具体的な記録方法である「仕訳」について学習します。
第7回	仕訳帳と元帳 (1)	帳簿組織の種類と役割、複式簿記の原理に基づいて、仕訳帳への記入練習を行います。
第8回	仕訳帳と元帳 (2)	勘定記入仕訳帳から総勘定元帳への転記について学習します。
第9回	仕訳帳と元帳 (3)	取引から仕訳、その勘定口座への転記の作業を習得します。
第10回	決算 (1)	試算表の作成 合計試算表、残高試算表および合計残高試算表の特徴と役割を理解し、その作り方を学習します。
第11回	決算 (2)	決算の意味と手続き、精算表の仕組み、6桁精算表の作り方を中心に決算手続きを学習します。
第12回	決算 (3)	総勘定元帳の締切り、仕訳帳の締切りと繰越試算表の作成、損益計算書および貸借対照表の作成を中心に決算手続きの最後までを学習します。
第13回	決算 (4)	精算表の作成、帳簿の締切り、損益計算書・貸借対照表の作成に関する練習問題に取り組みます。
第14回	現金と預金	現金・預金の記帳 現金、現金出納帳、現金過不足、当座預金、小口現金を学習します。

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
第1回	繰越商品・仕入・売上 (1)	3分法、分記法、仕入帳と売上帳を中心に商品売買の記帳を練習します。
第2回	繰越商品・仕入・売上 (2)	商品有高帳の記帳を練習し、商品販売損益の計算の仕組みを理解します。

第3回	売掛金と買掛金	掛取引の記帳 売掛金と買掛金、人名勘定、売掛金元帳と買掛金元帳の処理を練習します。
第4回	その他の債権と債務	貸付金・借入金、未収金・未払金、立替金・預り金、仮払金・借入金、商品券の各勘定の役割と記入方法を練習します。
第5回	受取手形と支払手形	手形の種類、約束手形の仕組みと処理、手形の裏書と売却の処理を学びます。
第6回	有価証券	有価証券の処理、有価証券の利息と配当金の処理を学習します。
第7回	有形固定資産 (1)	有形固定資産の取得、減価償却について学習します。
第8回	有形固定資産 (2)	減価償却費の計算と記帳方法、有形固定資産の売却の処理について学習します。
第9回	貸倒損失と貸倒引当金、資本	貸倒れの処理と資本の処理を学習します。
第10回	収益と費用 (1)	収益と費用、費用・収益の繰延べと見越しの処理を学習します。
第11回	収益と費用 (2)	費用・収益の繰延べと見越し、消耗品の処理を学習します。
第12回	税金、伝票	税金の処理と伝票を用いた記入方法を学習します。
第13回	財務諸表 (1)	決算手続きと決算整理の処理を学習します。
第14回	財務諸表 (2)	決算整理から8桁精算表および財務諸表の作成を学習します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ずテキストを事前に読んでおき、例題を解いておくことが求められます。また、「仕訳トレーニング」という問題プリントを配布しますので、次回までに解答しておくことが必要です。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

渡部・片山・北村『検定 簿記講義 3級』（最新版）中央経済社。
『検定 簿記ワークブック 3級』（最新版）中央経済社。

【参考書】

最初の授業で指示する予定です。

【成績評価の方法と基準】

春学期の成績評価に関しては、成績評価の方法と基準を変更します。具体的な方法と基準は、学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】

テキストの例題、練習問題および仕訳トレーニングの問題を実際に解いてもらい、授業内容の理解の程度に注意しながら授業を進めて行きます。

【その他の重要事項】

〔関連科目〕

この講義は、2年次の会計学入門Ⅰ/Ⅱ、3・4年次の財務会計論Ⅰ/Ⅱ、税務会計論Ⅰ/Ⅱ、国際会計論Ⅰ/Ⅱ、監査論Ⅰ/Ⅱ、原価計算論Ⅰ/Ⅱ、管理会計論Ⅰ/Ⅱ、経営分析Ⅰ/Ⅱ、経営分析Ⅲ/Ⅳ、経営分析論Ⅰ/Ⅱ、企業経営論Ⅰ/Ⅱなど会計専門科目の基礎となるものです。複式簿記による記帳の方法および会計処理を習得・理解しておくことが、これら会計専門科目の学習を大いに促進します。

〔その他注意事項〕

簿記を習得するためには、講義に毎回出席し、実際に記帳練習をしたり計算問題を解くことが不可欠です。一度欠席するとその後の授業の理解が困難になることがあるので、欠席しないように心がけて下さい。

【Outline and objectives】

The objective of this subject is to understand the book-keeping of an introductory level.

ECN300HA

環境経済論 I

国則 守生

配当年次/単位：2～4年 / 2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

市場経済を取りまく重要な構成要素（基盤）の1つである環境をいかに安定的、持続的に維持していくのかという問題意識を背景として、環境経済学で取り扱われる重要な概念・考え方を学ぶ機会とする。なかでも、近年、国際的な環境問題を取り扱ううえで注目されている環境問題に対する経済的手段（economic instruments）を理解し、その役割を検討・評価する。そのために、市場経済のパフォーマンスの検討から始めて、環境問題に対処するためにどのような考え方、政策が行わなければならないか、市場経済を補完・超克するための環境政策の基礎的な視点を検討する。

【到達目標】

さまざまな経済活動にともなって発生している環境問題の解決を考えるためには、環境問題と経済活動との関わりを体系的に理解する必要がある。この授業では、経済学の側面から環境問題の捉え方や問題の解決・軽減のためにどのような対処方法があるのかを幅広い立場から検討することを目標とする。

具体的には、最初に、環境問題が過去、どうして市場経済で対処が難しかったのか、また現在でも困難であり続ける要因は何なのか、そして対処するにはどのような枠組みが必要なのかなどを学ぶ。そのために、環境経済学で取り扱われる「外部性」、「公共財」などの概念や性質を理解する。その後、近年、注目を浴びている環境問題に対する経済的手段を理解するために必要とされる基礎的事項を学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月8日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。基本的には、講義および資料に基づく学習形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方および経済における環境の果たす役割の概観
第2回	日本を中心としたローカルな環境問題	公害問題やその後の環境問題についての概観
第3回	ミクロ経済学のレビュー (1)	「市場」とは何かについて考える
第4回	ミクロ経済学のレビュー (2)	分析道具として、限界概念、余剰概念などを議論
第5回	ミクロ経済学のレビュー (3)	パレート効率性による市場での効率性の評価とその前提条件
第6回	公共財の課題 (1)	環境問題の公共財的側面
第7回	公共財の課題 (2)	リンダール均衡の考え方と現実への対応と課題
第8回	環境問題の捉え方 (1)	負の外部性問題としての環境問題の視点
第9回	環境問題の捉え方 (2)	環境税の基礎理論（そのメリットと限界）
第10回	環境問題の捉え方 (3)	規制的手段と経済的手段の比較

- 第11回 環境問題の捉え方 (4) 環境税の種類（ピグー税、ボーメル・オーツ税など検討）
- 第12回 環境問題の捉え方 (5) 環境問題における当事者間交渉の可能性とコース定理
- 第13回 環境問題の捉え方 (6) その他の経済的手段
- 第14回 まとめ 環境問題に対する政策等の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。とくに、重要な概念とその適用に関し、毎回、復習すること。また、配布印刷物にもよく目を通し、その理解と問題意識の涵養につとめること。受講に当たっては、ミクロ経済学 I、II の履修（同時履修も含めて）が望ましい。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しないが、必要に応じて担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】

以下の書籍が概念等を学ぶ上で参考となる。

R. K. ターナー他 (2001) 『環境経済学入門』（大沼沢）東洋経済新報社（¥ 3,190）

栗山浩一・馬奈木俊介 (2016) 『環境経済学をつかむ』第3版、有斐閣（¥ 2,640）

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

重要な概念についてはできるだけいくつかの解説方法も含めて繰り返し説明したい。

【その他の重要事項】

授業後、必要に応じてエクササイズ（課題ホームワーク）を課すので、必ず解答・提出すること。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This lecture deals with how to modify the market to keep the environment in good shape. Special attention is paid to economic instruments such as environmental taxes as a proper measure for the local and global environment.

ECN300HA

環境経済論Ⅱ

國則 守生

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では社会的共通資本とは何かの基礎を学んだあと、自然資源などの持続可能な利用組織としてのコモンズのあり方、環境改善のメリットとその対策のための費用負担との関係、市場評価の難しい環境評価の課題などを通じて、環境・資源問題の具体的な問題を考える際に必要な枠組みや課題について考える。なかでも、長期の環境問題などに対して残された課題は何なのか、市場が存在しない環境を経済評価する際の問題点などについて、基礎的な考え方を議論し、持続可能な社会の構築に向けて環境の側面からアプローチする。

【到達目標】

この授業は、環境経済学における基礎的かつ重要な考え方や概念などを環境経済論Ⅰに引き続き学習し、それらを適用する力を身につけることを目指す。とくに、持続可能な資源利用、長期の環境問題、環境の経済的な評価などに注目して現在社会で環境との共生を目指すための経済的対応を理解することをテーマとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。具体的には、自然資源などの安定的な利用組織としてのコモンズや環境改善のメリットとその対策費用負担との関係、環境評価の基礎の理解などを通じて、環境・資源問題の具体的な問題を考える際に必要な枠組を講義する。とくに、長期の環境問題などに対して、残された課題は何なのか、市場が存在しない環境をどのように経済評価するのかなどに関して、その基礎を講義する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	環境経済論Ⅰのレビューと社会的共通資本の考え方
第2回	環境とコモンズ（1）	「コモンズの悲劇」とローカル・コモンズ、グローバル・コモンズ
第3回	環境とコモンズ（2）	ローカル・コモンズの長期的な存立条件
第4回	再生可能資源の課題	漁獲（努力）モデルと過剰漁獲問題
第5回	資源価格と利子率の関連（1）	非再生可能資源におけるホテリング・ルール
第6回	資源価格と利子率の関連（2）	長期的な資源価格推移とバックストップ技術
第7回	環境とコスト・ベネフィット分析（1）	潜在的パレート改善の考え方とその限界
第8回	環境とコスト・ベネフィット分析（2）	前提条件と社会的効用関数からの解釈
第9回	環境と割引率	割引の基本的な考え方、長期の社会的割引の考え方など
第10回	環境とリスク	リスクの考え方とコスト・ベネフィット分析への応用
第11回	環境の価値評価（1）	伝統的トラベル・コスト法の考え方
第12回	環境の価値評価（2）	ヘドニック価格法の考え方
第13回	環境の価値評価（3）	表明選考法（CVM, choice experiment method など）の考え方
第14回	まとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。学習毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。とくに、重要な概念とその適用に関し、毎回、復習すること。また、配布印刷物などによく目を通し、問題意識の涵養につとめること。講義は環境経済論Ⅰに連続して組み立てられている。また、受講に当たってはミクロ経済学Ⅰ、Ⅱの履修（同時履修も含めて）が望ましい。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しない。作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】

とくに指定しないが、以下の書籍が概念などを学ぶうえで参考となる。
栗山浩一・馬奈木俊介（2016）『環境経済学をつかむ』第3版、有斐閣（¥2,640）
宇沢弘文（2000）『社会的共通資本』岩波新書 696（¥924）

【成績評価の方法と基準】

授業後のエクササイズ（10%）および期末に実施される定期試験での筆記試験（90%）の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

重要な概念についてはできるだけいくつかの解説方法を含めて繰り返し説明したい。

【その他の重要事項】

授業後、必要に応じてエクササイズ（課題ホームワーク）を課すので、必ず解答・提出すること。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Following Environmental Economics I, this lecture covers the topics of the theory of commons, natural resource management, and cost-benefit analysis for the environment. Since there's no market for the environment, how to evaluate it plays a vital role in environmental economics. The theory of social common capital is also explained at the outset.

MAN300HA

環境経営論 I

金藤 正直

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境経営とは、企業や自治体などの組織が、環境保全を考慮に入れた戦略あるいは政策を策定し、それに基づいて組織を編成し、全体管理していく一連の行為である。本講義では、企業の環境経営を経営学的視点と会計学的視点から学習していくとともに、これらの視点の相互関係にも注目しながら、環境経営の全体像も理解していくことを目的とする。なお、ここでは、現在注目されているサステナビリティ経営（CSV 経営または SDGs 経営）の現状やその取組みについても触れていく。

【到達目標】

本講義では、理論的な内容だけではなく、企業の実践的取組みについても触れるために、企業が環境問題や社会課題の解決を通じて経済的価値と社会的価値の向上を目指す方針（戦略）をどのように立て、それを実現するためにどのような仕組み（組織）を作り、その仕組みの中でどのように運営（管理）しているのか、という一連の経営活動を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義では、企業で実践されている環境経営やサステナビリティ経営のための戦略、組織、管理の特徴について、著書や論文、また企業の環境報告書やサステナビリティ報告書を活用しながら理解することを目指す。さらに、講義内容に関連する内容について取り上げた新聞・雑誌記事および映像資料なども多用しながら、両経営の実践的取組みへの理解をさらに深めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション 環境経営とは何か	講義の概要と、企業における環境経営やサステナビリティ経営の目的や意義を説明する。
第2回	環境経営の現状	海外や国内の企業で行われている環境経営やサステナビリティ経営の現状を説明する。
第3回	環境経営の全体像	企業の実践例をもとに、環境経営やサステナビリティ経営の全体像を説明する。
第4回	経営戦略①	従来の経営戦略や企業の実践例をもとに、環境経営やサステナビリティ経営のための戦略の特徴を説明する。
第5回	経営戦略②	企業が策定すべき環境経営戦略やサステナビリティ経営戦略（CSV 戦略、触媒的イノベーション戦略など）を説明する。
第6回	経営組織①	従来の経営組織や企業の実践例をもとに、第4回で触れた経営戦略を実現していく経営組織の特徴を説明する。
第7回	経営組織②	第5回で触れた経営戦略を実現していくために編成すべき経営組織（コラボレーション、パートナーシップなど）を説明する。
第8回	経営管理①	環境に関する国際規格（ISO14001）などを用いたマネジメントシステムを説明する。
第9回	経営管理②	社会的責任に関する国際規格（ISO26000）や国連グローバルコンパクトなどを用いたマネジメントシステム（サプライチェーン・マネジメント（SCM））を説明する。
第10回	環境経営と会計	環境経営やサステナビリティ経営を支援する会計システムを説明する。
第11回	ケーススタディ①	企業の実践的取組みを取り上げ、これまでの講義内容をもとに検討する。
第12回	ケーススタディ②	第11回での検討内容をもとに全員でディスカッションし、新たなビジネスモデルを提案する。
第13回	新たな環境経営	現在注目されている新たな環境経営やサステナビリティ経営（再生可能エネルギー、フードロス、健康経営、地域循環共生圏など）を説明する。
第14回	講義のまとめ	講義のポイントを整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義は、企業経営の知識や考え方だけではなく、今後の活動（ゼミナール活動など）において必要とされる研究・調査の方法の基礎基本も身に付けてもらうために、配付資料を用いて講義内容を論理的に説明し、解説するだけではなく、参加型（双方向型）形式も取り入れて進めていきます。そのために、毎回の講義で紹介される資料（配布資料だけではなく、その内容に関連する他の著書や新聞・雑誌記事など）を使用して予習・復習してください。なお、本講義の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を配布します。

【参考書】

講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

本講義の成績は以下の3点に基づいて評価します。

- ①事例分析・検討ペーパーの提出（40%）
- ②ディスカッションへの参加（20%）
- ③試験（40%）

【学生の意見等からの気づき】

毎年、受講生からの意見や要望などを考慮に入れ、講義内容の改善に努めています。

【学生が準備すべき機器他】

学生の皆さんに準備してもらう機器は特にありませんが、配布資料に関連する内容を口頭で説明する場合がありますので、メモできるもの（付箋など）を持ってきてください。

【その他の重要事項】

- ・配布資料や映像資料を用いて授業を進めていきます。
- ・必要に応じて新聞・雑誌記事なども配布します。
- ・質問等は電子メールで連絡ください。なお、電子メールのアドレスは講義の最初にアナウンスします。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

The purpose of this lecture is to systematically learn the management method for solving environmental and social issues in companies.

MAN300HA

環境経営論Ⅱ

金藤 正直

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、国内の企業や地域で注目されている新たな環境経営やサステナビリティ経営（再生可能エネルギー、フードロス、従業員の健康維持・増進、地域循環共生圏、地方創生のための経営）を、経営学的視点と会計学的視点から学習していくとともに、これらの視点的相互関係にも注目しながら、両経営の全体像も理解していくことを目的とする。

【到達目標】

本講義では、企業や地域で実践されている新たな環境経営やサステナビリティ経営における方針（政策、施策、事業計画または戦略）、仕組み（組織）、運営（管理）という一連の流れとその取組内容を理論的に明らかにし、習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義では、講義内容に関連する著書や論文、報告書、新聞・雑誌記事、映像資料などを多用しながら、企業や地域で実践されている新たな環境経営やサステナビリティ経営のための政策・施策・事業計画または戦略、組織体制、マネジメントの現状とその特徴を理解することを目指していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション 新たな環境・サステナビリティ経営の現状	講義の概要と、海外や国内の企業や地域で実践されている新たな環境経営またはサステナビリティ経営の現状を説明する。
第2回	新たな環境・サステナビリティ経営の意義と方法	SDGs（持続可能な開発目標）とともに、CSV（Creating Shared Value）の概念を整理するとともに、これらの概念に基づいて、新たな環境・サステナビリティ経営の意義と方法（サプライチェーン・マネジメント（SCM）、産業クラスター・マネジメント（ICM）、バランス・スコアカード（BSC））を説明する。
第3回	サプライチェーン・マネジメント（SCM）	SCMの研究や企業の実践例をもとに、環境保全や持続可能なSCMの概念と仕組みを説明する。
第4回	産業クラスター・マネジメント（ICM）	ICMの研究や企業の実践例をもとに、環境保全や持続可能なICMの概念と仕組みを説明する。
第5回	バランス・スコアカード（BSC）	BSCの研究や企業の実践例をもとに、環境保全や持続可能なBSCの概念と仕組みを説明する。
第6回	再生可能エネルギー事業①	資源エネルギー庁で整理されている再生可能エネルギーの概念とともに、国内の動向や課題を説明する。
第7回	再生可能エネルギー事業②	再生可能エネルギー事業の先進事例（飯田市や下川町など）について紹介し、その特徴を説明する。
第8回	フードロス・マネジメント①	農林水産省、消費者庁、環境省におけるフードロスの取組を紹介しつつ、国内の動向や課題を説明する。
第9回	フードロス・マネジメント②	フードロス対策の実践例（サルベージ・パーティ、3010運動など）について紹介し、その特徴を説明する。
第10回	健康経営①	経済産業省や厚生労働省の取組を紹介し、国内の動向や課題を説明する。
第11回	健康経営②	健康経営の先進企業の取組を紹介し、その特徴を説明する。
第12回	地域循環共生圏①	環境省の取組を紹介しつつ、国内の先進事例を取り上げ、その特徴を説明する。
第13回	地域循環共生圏②	内閣府・内閣官房の地方創生の取組を紹介しつつ、地域循環共生圏との関係も説明する。
第14回	講義のまとめ	講義のポイントを整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義は、企業経営の知識や考え方だけではなく、今後の活動（ゼミナール活動など）において必要とされる研究・調査の方法の基礎基本も身に付けてもらうために、配布資料を用いて講義内容を論理的に説明し、解説するだけではなく、参加型（双方向型）形式も取り入れて進めていきます。

そのために、毎回の講義で紹介される資料（配布資料だけではなく、その内容に関連する他の著書や新聞・雑誌記事など）を使用して予習・復習してください。なお、本講義の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を配布します。

【参考書】

講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

本講義の成績は以下の3点に基づいて評価します。

- ①事例分析・検討ペーパーの提出（40%）
- ②ディスカッションへの参加（20%）
- ③試験（40%）

【学生の意見等からの気づき】

毎年、受講生からの意見や要望などを考慮に入れ、講義内容の改善に努めています。

【学生が準備すべき機器他】

学生の皆さんに準備してもらう機器は特にありませんが、配布資料に関連する内容を口頭で説明する場合がありますので、メモできるもの（付箋など）を持ってきてください。

【その他の重要事項】

- ・配布資料や映像資料を用いて授業を進めていきます。
- ・必要に応じて新聞・雑誌記事なども配布します。
- ・質問等は電子メールで連絡ください。なお、電子メールのアドレスは講義の最初にアナウンスします。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

The purpose of this lecture is to learn new methods for improving environmental and social values in companies and regions.

MAN300HA

CSR 論 I

長谷川 直哉

配当年次/単位：2～4年 / 2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会において企業が直面する社会的課題について検討します。SDGs や CSR に関心が高まっている背景には、社会が必ずしもよい方向に進んでいないという認識を人々が抱いているからに他なりません。サステナビリティ（持続可能性）という視点から、社会と企業の関係について理解を深めることを目指します。将来の企業選択にも役立つように、企業を見る目を養います。

【到達目標】

SDGs（持続可能な開発目標）、CSR（企業の社会的責任）、パリ協定（脱炭素）、責任投資原則、ESG 投資など、気候変動を巡る世界的な政策動向と日本企業の対応について理解を深めることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

サステナビリティという言葉が現代社会のキーワードとして提示され、社会課題の解決に向けて、企業はこれまで以上に幅広い責任を果たしていくことが求められています。本講義では、SDGs や CSR に関する理論やケースを取り上げ、企業経営におけるサステナビリティ意義とビジネスモデル変革の方向性を説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス CSR の基本概念 企業と社会の問題領域	講義の進め方 講義の全体像
第 2 回	グローバル経済の進展とその影響	1980 年代の米国と英国で進展した市場主義経済の光と影
第 3 回	サステナビリティ（持続可能性）と CSR	地球サミット以降の CSR の展開
第 4 回	SDGs と企業経営	SDGs の本質と企業経営に及ぼす影響
第 5 回	欧州のサステナビリティ戦略①	欧州における SDGs の取り組み
第 6 回	欧州のサステナビリティ戦略②	欧州における SDGs の取り組み
第 7 回	外部講師による特別講義 < 1 >	企業のサステナビリティ担当者による講義（詳細は開講時に提示）
第 8 回	責任投資原則と機関投資家の責任	責任投資原則が機関投資家の行動に及ぼす影響
第 9 回	CSR 金融①	社会的責任投資（SRI）と企業評価
第 10 回	CSR 金融②	ESG 投資と企業評価
第 11 回	外部講師による特別講義 < 2 > II	企業のサステナビリティ担当者による講義（詳細は開講時に提示）
第 12 回	サステナビリティを巡る政策動向	ISO26000 統合報告書 SBT/TCFD
第 13 回	デジタルトランスフォーメーション	脱炭素を加速するデジタル革命
第 14 回	SDGs と企業経営	企業家に学ぶ ESG 経営

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

国内では 1,000 社程度の企業がサステナビリティ報告書を発行しています。この授業で習得した知識を活かして、興味のある企業のサステナビリティ報告書を読んでみましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、レジュメを配布します。

【参考書】

長谷川直哉編著『企業家に学ぶ ESG 経営』文真堂、2019 年、3410 円税込

長谷川直哉編著『統合思考と ESG 投資』文真堂、2018 年、3080 円税込

長谷川直哉編著『価値共創時代の戦略的パートナーシップ』文真堂、

2017 年、2970 円税込

長谷川直哉編著『企業家活動でたどるサステナブル経営史』文真堂、

2016 年、2750 円税込

【成績評価の方法と基準】

特別講義レポート： 30 %

期末試験： 70 %

講義で取り上げた内容に関する基礎的事項を理解し、課題に対して自己の見解を論理的に展開しているか等を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ケーススタディを織り交ぜて、分かりやすい講義を行います。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験】

損害保険会社の資産運用部門において、約 15 年間投資業務を担当しました。1999 年、ESG 投資の先駆的な取り組みである SRI（社会的責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業の ESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。また、(公財) 国際金融情報センターに出向し、カントリーリストや国際金融システムに関する調査・研究に従事しました。

【Outline and objectives】

This lesson examines the social issues facing businesses in modern society. The growing interest in SDGs and CSR is due to the perception that society is not necessarily going in the right direction. We aim to deepen our understanding of the relationship between society and companies from the perspective of sustainability. Cultivate the eyes of companies to help them choose future companies.

MAN300HA

CSR 論Ⅱ

長谷川 直哉

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

CSR 論Ⅰで習得した知識を基に、SDGs（持続可能な開発目標）や Business Ethics（経営倫理）が時代と共にどのように変遷してきたのかを辿ります。持続可能な社会において求められる企業の役割と企業経営者の倫理観について理解を深めることめざします。

【到達目標】

SDGs が求める課題は、企業だけでは解決できません。多様な主体とのパートナーシップを通じた課題解決に必要とされる現代社会では、多面的な物の見方や解決策の策定が求められます。企業と社会の関係を巡る国内外の経済思想や企業倫理の変遷を学ぶことで、現代社会が直面している課題の解決に必要な基礎知識の習得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義では、経営学・経済学・法政策等の視点から欧米諸国と日本の SDGs/CSR および Business Ethics に関する基本理論や背景となる思想の展開を概観します。また、具体的事例や実践的課題を取り上げ、現代社会において進行している現象を通じて、企業と社会の相互関係や経営者の倫理観について検討していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義の進め方
第 2 回	社会構造の変化 近代産業の勃興と経済倫理①-見えざる手と道徳哲学	現代社会が直面する構造変化 『道徳感情論』にみる経済と倫理の関係性
第 3 回	A. スミス 近代産業の勃興と経済倫理Ⅱ-功利主義思想	産業革命の勃興と企業倫理
第 4 回	J. ベンサム、J. ミル 近代産業の勃興と経済倫理Ⅲ-資本主義の精神と倫理	近代資本主義の思想的背景
第 5 回	M. ウェーバー CSR の胎動	新自由主義への反動と CSR の胎動
第 6 回	外部講師による特別講義 < 1 >	企業のサステナビリティ担当者による講義（詳細は開講時に提示）
第 7 回	日本企業の倫理と CSR ①	明治～戦前期における企業経営と CSR
第 8 回	日本企業の倫理と CSR ②	高度成長期の企業経営と CSR
第 9 回	CSR から CSV（共通価値の創造）へ	マイケル・ポーターの経営論
第 10 回	外部講師による特別講義 < 2 >	企業のサステナビリティ担当者による講義（詳細は開講時に提示）
第 11 回	気候非常事態と企業経営	気候変動と企業経営
第 12 回	CSR 先進企業事例	ケーススタディ
第 13 回	SDGs 先進企業事例	ケーススタディ
第 14 回	SDGs とデジタルトランスフォーメーションと	SDGs を支えるデジタル革命

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関心のある企業のホームページや文献で創業の理念や創業から現代に至るビジネスモデルの変遷を調べてください。企業がどのような価値観を背景に SDGs に取り組んでいるか考えてみましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、レジュメを配布します。

【参考書】

長谷川直哉編著『企業家に学ぶ ESG 経営』文真堂、2019 年、3410 円税込
長谷川直哉編著『統合思考と ESG 投資』文真堂、2018 年、3080 円税込
長谷川直哉編著『価値共創時代の戦略的パートナーシップ』文真堂、2017 年、2970 円税込
長谷川直哉編著『企業家活動でたどるサステナブル経営史』文真堂、2016 年、2750 円税込

【成績評価の方法と基準】

特別講義レポート：30%

期末試験：70%

講義で取り上げた内容に関する基礎的事項を理解し、課題に対して自己の見解を論理的に展開しているか等を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ケーススタディを織り交ぜて、分かりやすい講義を行います。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験】

損害保険会社の資産運用部門において、約 15 年間投資業務を担当しました。1999 年、ESG 投資の先駆的な取り組みである SRI（社会的責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業の ESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。また、(公財)国際金融情報センターに出向し、カンントリーリストや国際金融システムに関する調査・研究に従事しました。

【Outline and objectives】

In this lesson, based on the knowledge acquired in CSR theory, we will follow how the SDGs (Sustainable Development Goals) and Business Ethics (Business Ethics) have changed with the times. We aim to deepen our understanding of the role of companies required in a sustainable society and the ethics of business executives.

ECN300HA

国際環境政策 I

國則 守生

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では環境問題を国際的な観点、地球規模の観点から議論する際に必要となる考え方を環境経済学の立場から紹介・議論する。地球規模の環境問題は同世代内だけでなく、世代間問題の公平性に関わる側面が顕著であることを確認していく。具体的には、前半で環境問題を軽減・解決を図るために先進各国で採用されてきたさまざまな経済的手段（economic instruments）について、規制的手段や自主的手段などとの比較を含めて、学習する。とくに各国で経済的手段がいかに利用されているかを概観するとともに、環境税、排出権（量）取引などの効果と課題等について議論する。後半では、酸性雨、オゾン層破壊、地球温暖化などの越境・地球環境問題を対象に、経済的手段の国際協調の側面を取り扱う。

【到達目標】

本授業は国際的、越境のおよび全球的な観点から、環境政策と経済との多様な繋がりを理解することを目指す。とくに、採用される政策手段のさまざまな特徴と課題を環境経済学の側面から検討することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それとともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月28日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。授業は講義とともに資料に基づく学習の形態とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	環境問題の拡がりとその類型
第2回	OECD 諸国での環境政策の多様性	時代的変遷とその特徴
第3回	環境税賦課の影響	環境税の帰着問題
第4回	環境と経済的手段 (1)	OECD 諸国での課徴金と環境税
第5回	環境と経済的手段 (2)	OECD 諸国での排出権（量）取引の種類
第6回	環境と経済的手段 (3)	その他の環境に関する経済的手段
第7回	環境と経済的手段 (4)	環境関連税制（environmentally related taxes）
第8回	越境環境問題 (1)	国内環境問題との対比
第9回	越境環境問題 (2)	酸性雨問題
第10回	国際環境協定の可能性 (1)	完全協力解、非協力解、提携 (coalition) など
第11回	国際環境協定の可能性 (2)	自律的な国際環境協定や国際協定の難易度
第12回	地球環境問題 (1)	オゾン層破壊と国際協定
第13回	地球環境問題 (2)	地球温暖化問題と現状実施されている経済的対応の評価
第14回	地球環境問題 (3)	地球温暖化問題と地域間、世代間対立の課題、社会的割引率のあり方など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。とくに、復習に当たっては、各回、新出の概念とそのインプリケーションに注目し、まとめておくこと。受講に当たっては、環境経済論 I、II の履修（同時に含めて）が望ましい。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しないが、必要に応じて担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】

とくに指定しないが、以下の書籍が概念等を学ぶ上で参考となる。

R. K. ターナー他 (2001) 『環境経済学入門』（大沼あゆみ訳）東洋経済新報社（¥ 3,190）

栗山浩一・馬奈木俊介 (2016) 『環境経済学をつかむ』第3版、有斐閣（¥ 2,640）

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

学習の定着をはかるため、重要な概念の利用等について繰り返し説明し、理解を深めるよう配慮する。

【その他の重要事項】

旧科目名称「国際環境政策」を修得済の場合、本科目の履修はできません。

授業後、必要に応じてエクササイズ（課題ホームワーク）を課すので、必ず解答・提出すること。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

教員は政府系政策金融機関の研究部門にて地球温暖化問題に関する研究経験があり、本講義中の地球温暖化問題の一部に考え方、分析などが反映されている。

【Outline and objectives】

This lecture is concerned with the multifaceted, international aspects of environmental problems. Especially the lecture finds that global environmental problems are typically susceptible to intra- and inter-generational equity agenda.

ECN300HA

国際環境政策 II**人間環境学部教員**

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、環境政策およびエネルギー政策の国内の状況、国際比較や国際協調のあり方をテーマとします。国際環境政策 I の内容を踏まえ、エネルギー問題を含む環境問題について統計などの諸資料を活用しながら現状について客観的な理解を深めます。また、国内外の環境政策、エネルギー政策の経緯や潮流を理解することで、地球環境問題と環境問題と一体となっているエネルギー問題の解決のための国際社会や国際協調のあり方、日本の対応などについて学びます。

【到達目標】

各種統計資料等に基づいた国内の状況および国際比較を通じて、各学生が将来に向けて現代社会の重要課題である環境問題と環境問題と一体となっているエネルギー問題について、データと事実に基づいて広い視野から主体的に考察できるようになること、そして、将来に向けて新たな問題意識の発掘や醸成および課題解決について思考、議論できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

特に環境問題と表裏の関係にあるエネルギー問題を含めて、国際環境政策 I で扱うことができなかった問題について、基礎的事項と国際的な取り組みの動向等をスライドを利用して講義形式で解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の狙い、構成、成績評価としてのレポートの概要など
第 2 回	エネルギーセキュリティ (1)	エネルギー安全保障とは（概念と歴史的経緯）
第 3 回	エネルギーセキュリティ (2)	今日のエネルギー安全保障（至近の情勢、注目点）
第 4 回	エネルギーセキュリティ (3)	途上国のエネルギー安全保障（途上国固有の課題）
第 5 回	エネルギーセキュリティ (4)	安全保障の対策と国際エネルギーガバナンス（政策の選択肢、国際協力）
第 6 回	エネルギー市場 (1)	エネルギー市場の概要
第 7 回	エネルギー市場 (2)	国際的なエネルギー市場
第 8 回	エネルギー市場 (3)	国内のエネルギー市場
第 9 回	エネルギー市場 (4)	エネルギー・環境政策と市場
第 10 回	環境政策 (1)	地球温暖化とエネルギー、国際交渉 (ICAO、IMO 含む)
第 11 回	環境政策 (2)	省エネ、日本の取り組みと世界動向
第 12 回	環境政策 (3)	カーボンプライシング動向
第 13 回	環境政策 (4)	ビジネス界の取り組み (ESG)
第 14 回	まとめ	質疑、フリーディスカッションなど

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。事前に資料を読んでおくこと。復習では、授業を振り返るとともに、授業を通じて、関心を持ったトピックスについて、関連情報を収集し、問題意識の醸成に努めることで授業の内容理解と授業への積極的な参加が期待されます。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。担当教員が作成した資料（スライド）をもとに毎回授業を進めます。

【参考書】

特定の参考書はありません。担当教員が作成した個々のテーマの資料（スライド）に参考とすべき書籍・論文があれば個別に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

合計 3 回のレポート提出（各 33・1/3 %）をもとに総合判断します。定められたレポートの提出期限をまもること。

【学生の意見等からの気づき】

今年度より担当のため特になし。

【その他の重要事項】

春学期開講の「国際環境政策 I」の履修を推奨します。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

教員（3 名）はエネルギー経済に関する（一財）日本エネルギー経済研究所での研究活動に従事しており、本講義はそこでの研究活動の考え方、分析方法などが一部反映されている。

【Outline and objectives】

Themes of this lecture series are on (1) environment and energy policies in Japan and the world, and (2) approaches for overcoming the challenges for so-called 3Es (Energy Security Enhancement, Economic Efficiency, and Environmental Protection). Those themes will be analyzed from Japan's past experiences/current undertakings as well as other countries' approaches. Engagement of the international community to such a framework as UNFCCC is also an important theme to be analyzed in this lecture series.

The objectives of this lecture series are:

- to objectively understand the current energy and environmental issues with the use of statistical data as well as policies analyses,
- to understand the global environment and energy policies from both historical and current perspectives, and
- to establish views for overcoming those challenges surrounding global environment and energy issues from multilateral/ bilateral approaches as well as Japan's approaches.

ECN300HA

途上国経済論 I

武貞 稔彦

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の経済は、様々な資源の供給元や市場として世界各国との相互依存を強めている。この講義は、世界人口の半数以上が暮らす、開発途上国と呼ばれる国や地域の経済と社会について、固有の歴史／文化的背景も含め日本とのかわりを念頭におきながら基礎的な知識の習得をめざす。

【到達目標】

本講義においては、ア) 途上国経済の分析枠組み、特徴、イ) 主要地域や主要国の経済・社会の特徴について学び、ウ) 日本社会や経済の世界における位置づけをよりよく理解し、エ) 将来社会に出た際に諸外国の人々と基礎的な知識に基づいた意味あるコミュニケーションができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

途上国経済論 I においては、途上国の社会と経済を見る際に使われる分析枠組み、主要地域ごとの歴史と社会の概要、日本と特に関係が深いアジア諸国の経済と社会を中心に学ぶ。

学生の将来に関わりの深い日本企業の活動や、新聞などでとりあげられる現実の出来事、ニュースと関連づけて講義を行うことにより、自らの日々の生活にひきつけた現実社会の理解を目指す。

またリアクションペーパー（教員からの簡単な質問への回答と、学生からの質問やコメントを記入するもの）を配布、時間内に記入のうえ回収することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション：開発途上国とは。途上国経済を見る目	開発途上国とよばれる国や地域はどのようなところか、概念を整理する。同時に、途上国を見る際に頻繁に使われる分析枠組み（評価軸）を再考する。
第 2 回	経済成長の理論と途上国経済の位置づけ	経済学の世界では経済成長はどのようなものだと考えられているかを紹介し、途上国経済を扱う「開発経済学」の発展を概観する。
第 3 回	日本は途上国だったのか？：戦後日本の経済成長と現在の開発途上国経済	戦後日本は急速な経済成長をとげたが、現在の開発途上国にとって日本はどのような点で手本足り得るかを考える。
第 4 回	途上国社会・経済の概況 (1)：アジア地域	アジア地域の「途上国」と呼ばれる国や地域が「キャッチアップ」を果たす過程で、政府・国家がどのような役割を果たしたのか、東アジアと南アジアをとりあげ、歴史的な視点から概観する。特に、分析の視点として「植民地」について考える。
第 5 回	途上国社会・経済の概況 (2)：ラテンアメリカ地域	アジアと異なる「植民地」経験を持つラテンアメリカ地域が、その後どのように経済発展を遂げたか（または遂げられなかったか）を概観する。
第 6 回	途上国社会・経済の概況 (3)：アフリカ	アジアと異なる「植民地」経験を持つアフリカ地域が、その後どのように経済発展を遂げたか（または遂げられなかったか）を概観する。
第 7 回	途上国社会・経済の概況 (4)：映像でみる途上国社会経済	映像を通じて、途上国の社会と経済について知る。
第 8 回	主要国／地域の社会と経済 (1)：韓国－危機とその克服	韓国は、目覚ましい経済成長を遂げた NIES の代表である。一旦は先進国の仲間入りを果たした韓国の歩んだ道筋と 1997 年の IMF 危機以降の経済・社会の状況について理解する。
第 9 回	主要国／地域の社会と経済 (2)：台湾－その生い立ちと国際社会における立場	台湾も、韓国とならび目覚ましい経済成長を遂げた NIES の一つである。現在の台湾の国際社会・国際経済における地位はその特殊な生い立ちに影響されていることを理解する。

第 10 回	主要国／地域の社会と経済 (3)：香港およびシンガポール－小さな街の大きな経済	アジア NIES の一つである香港とシンガポールをとりあげ、資源のない国（都市）の経済成長について考える。
第 11 回	主要国／地域の社会と経済 (4)：インドネシア－多様性の中の権威主義的開発体制	アセアン（Association of South East Asian Nations）の一員として NIES に続き経済成長を遂げたインドネシアをとりあげ、政治体制と経済成長（経済発展）の関係について考える。
第 12 回	主要国／地域の社会と経済 (5)：マレーシア－カリスマと経済成長	強力なリーダーによる経済成長戦略を通じて発展したマレーシア経済・社会を概観する。
第 13 回	民主主義と経済成長	アジア的価値がアジア諸国の経済成長をもたらしたのか。民主主義と経済成長の関係、アジア諸国を例に考える。
第 14 回	経済成長、進歩、貧困	先進国、途上国いずれもが経済成長を通じて社会の進歩、貧困の撲滅を目指してきた。現代の途上国は経済成長によって貧困をなくすことができるのか、という問いを概観する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。各回に指定される参考文献および参考図書は講義の事前／事後に適宜参照し、講義内容の理解を深めることが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】

グラボウスキー他（2008 年）『経済発展の政治経済学』（日本評論社）
渡辺利夫編（2007 年）『アジア経済読本（第 4 版）』（東洋経済新報社）

【成績評価の方法と基準】

中間レポートと期末試験による。成績配分は中間レポート 20%、期末試験 80%を予定する。リアクションペーパーについては、加点要素とする場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

学生が記入したリアクションペーパーに対する、教員からのコメントなどを充実することを目指す。

【学生が準備すべき機器他】

講義ではスライドを主に利用する。講義資料として配布したもののスライドなどは、授業支援システム上に掲示する。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は、途上国への経済協力の実務に携わっていた経験がある。本講義に関しては途上国での駐在も含めた業務経験で得られた知見が活用されている。

【Outline and objectives】

This is a first part of the course on the economy and society of developing countries. Students will be able to obtain a reference framework and to understand basic structure of developing countries' economy including particular historical, cultural, and geographical settings.

ECN300HA

途上国経済論Ⅱ

武貞 稔彦

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の経済は、様々な資源の供給元や市場として世界各国との相互依存を強めている。この講義は、世界人口の半数以上が暮らす、開発途上国と呼ばれる国や地域の経済と社会について、固有の歴史／文化的背景も含め日本とのかかわりを念頭におきながら基礎的な知識の習得をめざす。

【到達目標】

本講義においては、途上国経済論Ⅰに引き続き、ア) 主要地域や主要国の経済・社会の特徴について学び、イ) 日本社会や経済の世界における位置づけをよりよく理解し ウ) 南北問題や世界貿易など、個々の国や地域が置かれている「構造」への理解を深めることで、エ) 将来社会に出た際に諸外国の人々と基礎的な知識に基づいた意味あるコミュニケーションができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

途上国経済論Ⅱにおいては、新興国と呼ばれる経済成長著しい国、今後の経済発展が見込まれる国などの歴史と社会の概要、国際経済の成り立ちなどを講義形式で学ぶ。

学生の将来に関わりの深い日本企業の活動や、新聞などでとりあげられる現実の出来事、ニュースと関連づけて講義を行うことにより、自らの日々の生活にひきつけた現実社会の理解を目指す。

またリアクションペーパー（教員からの簡単な質問への回答と、学生からの質問やコメントを記入するもの）を配布、時間内に記入のうえ回収することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション：途上国経済を見る目	途上国経済論Ⅰの概要の復習とⅡの主題についての概観。
第2回	世界経済の歴史	「経済」と呼ばれるものの誕生も含め、「世界経済」の成り立ち、発展について概観する。
第3回	世界貿易の構造をめぐる議論	国際経済の主要な活動である貿易について、その理論、構造、課題を概観する。
第4回	途上国社会・経済の概況(1)：中国(1) 社会主義と資本主義	中国は世界有数の大国であり、計画経済から市場経済へと緩やかに転換しつつ経済成長を続けている。議論の前提として社会主義／共産主義の考え方についての理解を深める。
第5回	途上国社会・経済の概況(2)：中国(2) 持続的経済成長と大国としての復活	世界経済にインパクトを与える存在となった中国の社会と経済について概観する。
第6回	途上国社会・経済の概況(3)：インドー目覚めた大国	インドは、近年、経済成長著しいBRICsの一つ。イギリス植民地から独立した後のインドの長い経済停滞、1990年代以降の目覚ましい経済発展という大きな流れを理解する。
第7回	途上国社会・経済の概況(4)：映像でみる途上国社会経済	映像を通じて、途上国の社会と経済について知る。
第8回	主要国／地域の社会と経済(5)：タイー東南アジアの「先進国」	東南アジア諸国のなかでも NIES に続く目覚ましい経済発展を遂げたタイ。アジア通貨危機の発端となるなど途上国の中の「先進国」の経済社会を概観する。
第9回	主要国／地域の社会と経済(6)：ベトナムー戦場から市場へ	1960年代にベトナム戦争で大きな傷を受けたベトナムが新興経済国の一角として名乗りを上げる過程を概観する。
第10回	主要国／地域の社会と経済(7)：ブラジルー南米の大国	ブラジルはインドや中国とならび21世紀に入って新興国として台頭著しい。豊かな自然を抱える大国の姿を概観する。
第11回	主要国／地域の社会と経済(8)：南アフリカーアパルトヘイト	アパルトヘイトという大きな問題を克服して以降の南アフリカ経済の新興国としての経済成長を概観する。
第12回	主要国／地域の社会と経済(9)：ボツワナー資源の呪いを越えて	アフリカ大陸にありながら世界でも有数の高経済成長を続けたボツワナの経済社会を概観する。

- 第13回 国際経済の中の域内協力 ASEAN（東南アジア諸国連合）を例に、グローバル化がすすむ国際社会における域内協力の重要性を概観する。
- 第14回 まとめ：途上国経済および世界経済の未来 講義全般の復習を行うとともに、今後の世界経済、途上国経済の姿について想像する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。各回に指定される参考文献および参考図書該当部分を講義の事前／事後に適宜参照し、講義内容の理解を深めることが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】

グラボウスキー他（2008年）『経済発展の政治経済学』（日本評論社）
渡辺利夫編（2007年）『アジア経済読本（第4版）』（東洋経済新報社）

【成績評価の方法と基準】

中間レポートと期末試験による。成績配分は中間レポート20%、期末試験80%を予定する。リアクションペーパーについては、加点要素とする場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

学生が記入したリアクションペーパーに対する、教員からのコメントなどを充実することを目指す。

【学生が準備すべき機器他】

講義ではスライドを主に利用する。講義資料として配布したものやスライドなどは、授業支援システム上に掲示する。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は、途上国への経済協力の実務に携わっていた経験がある。本講義に関しては途上国での駐在も含めた業務経験で得られた知見が活用されている。

【Outline and objectives】

This is a second part of the course on the economy and society of developing countries. Students will be able to obtain a reference framework and to understand basic structure of developing countries' economy including particular historical, cultural, and geographical settings.

ECN300HA

国際経済協力論 I

武貞 稔彦

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル化が進化する世界において、国と国の間に所得だけではなく様々な格差が広がっている。経済協力は、そういった格差を是正し、新しい国や社会さらには世界を、共に築き上げていく手段の一つである。人々がより善く生きることができるとして社会の構築に受講生が関わるために、この講義では国際経済協力に関する基礎的な知識の習得を目的とする。

【到達目標】

本講義を通じて獲得を目指す基礎的な知識は、具体的には、経済協力の歴史、仕組み、その背景にある途上国開発の理論、これまでの経済協力の成果や影響、近年の新たな課題と取り組みを含む。これら基礎的な知識をもとに、日本が国際社会で果たす役割、一人ひとりがなす得ることについて、受講生が自分なりの意見や考えを持ち、人に伝えられるようになることが期待される。加えて「持続可能な開発目標（SDGs）」におけるパートナーシップの意義についても説明できるようになることが期待される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連。
経営学部のディプロマポリシーのうち、「DP1-3」、「DP5」に関連が特に強く、「D4」に関連がかなりある。

【授業の進め方と方法】

【4月20日追記】 当面の予定は以下の通りです。

4月24日 第1回 ガイダンス1（授業の進め方などについて）

5月1日 休講日

5月8日 第2回 ガイダンス2（授業のテーマなどについて）

5月15日 第3回 講義内容に入ります。

（詳細は学習支援システムの本授業ページ冒頭を確認してください。）

====

国際経済協力論 I においては、講師の経済協力の実務経験の紹介も交えながら、日本の取り組みを中心に、経済協力の歴史や背景、その仕組みについての理解を深めるための講義を進める。必要に応じて映像教材を活用し、多くの学生にとってなじみのない開発途上国の人々の暮らしや問題について、言葉だけでは語りつくせないイメージを得る一助とする。またリアクションペーパー（教員からの簡単な質問への回答と、学生からの質問やコメントを記入するもの）を配布、時間内に記入のうえ回収することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション：国際経済協力とは？	国際経済協力とはどのような取り組みか、またなぜそのような取り組みが必要とされているのかについて理解する。
第2回	開発途上国とは？	開発途上国と呼ばれる国や地域はどのようなところで、どのように生まれたのかを理解し、われわれが途上国をみる際の視点を再考する。
第3回	国際社会と経済協力の歴史（1）（1945年～1960年代）：戦後世界と南北問題	第二次世界大戦後の国際秩序形成の過程と南北問題の登場、初期の経済協力の取り組みについて概観する。
第4回	国際社会と経済協力の歴史（2）（1970年～1980年代）：経済協力への失望と変化の兆し	経済協力の初期の取り組みへの反省と幻滅、その後の変化につながる新たな考え方の登場を概観する。
第5回	国際社会と経済協力の歴史（3）（1990年代～現在）：冷戦後の世界とグローバル化	冷戦終結後の国際秩序と、グローバル化下における経済協力の位置づけを概観する。
第6回	日本の経済協力の歩み（1）：被援助国から援助国へ	第二次世界大戦後の日本は援助を受ける国であったこと、その経験がその後の日本の経済協力に与えた影響について理解する。
第7回	日本の経済協力の歩み（2）：援助国としてのスタート	日本の援助国としての取り組みについて、1950年代～1970年代までの社会経済の変化とあわせ概観する。
第8回	日本の経済協力の歩み（3）：援助大国と日本の責任	日本の援助国としての取り組みについて1980年代～2000年以降の社会経済の変化とあわせ概観する。
第9回	経済協力の仕組みと方法	日本の経済協力の仕組みと現状（特徴）につき、統計資料などをとって理解する。

第10回	経済協力の現場に関わる人々：政府、援助機関、企業、NGO(NPO)	日本の経済協力はどのような人々に担われているのかを理解する。特に政府（「官」）ではなく、「民」の果たしている役割の大きさについて理解する。
第11回	経済協力をめぐる議論の大きな流れ（1）：経済成長と人間開発	経済協力の基本的な目標の変遷について大きな流れとして理解する。「経済」重視から「人間」重視に移り変わる様子を、具体的な戦略（アプローチ）の変遷を通じて理解する。
第12回	経済協力をめぐる議論の大きな流れ（2）：持続可能な開発と環境	環境をめぐる問題が経済協力の分野でとりあげられてきた経緯を知り、時代ごとに異なる環境問題の様相について理解する。
第13回	経済協力の評価と効果をめぐる議論	これまでの経済協力には効果があったのか、という問いに対する答えを概観する。そのうえでこれからの経済協力について考えるための材料を得る。
第14回	日本が経済協力を行う理由	日本は途上国への経済協力を続けるべきか、そうだとすればその理由は何か、日本国民がそれらの問いをどう考えているかを知る。そのうえで自分なりの答えを考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。受講生は各回に指定される参考文献および参考図書該当部分を、講義の事前／事後に適宜参照し、講義内容の理解を深めることが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】

斎藤文彦（2005年）『国際開発論』（日本評論社）
勝間清編著（2012年）『テキスト国際開発論：貧困をなくすミレニアム開発目標へのアプローチ』（ミネルヴァ書房）
牧田東一編著（2013年）『国際協力のレッスン：地球市民の国際協力論入門』（学陽書房）
外務省（毎年発行）『日本の開発協力』（ODA 白書）

【成績評価の方法と基準】

中間レポート（20%）と期末試験（80%）による。リアクションペーパーは加点要素とする場合がある。

【4月20日修正】

期末試験は行いません。成績評価は、授業時に求めるリアクションペーパーや小課題（30%）、中間レポート（30%）、期末レポート（40%）によることを予定しています。

【学生の意見等からの気づき】

学生が記入したリアクションペーパーに対する、教員からのコメントなどの対応の充実を目指す。また、提供される情報が多いため、理解しやすい形でメリハリをつけることが求められているところ授業運営に引き続き留意したい。

【学生が準備すべき機器他】

講義ではスライドを主に利用する。講義資料として配布したものやスライドなどは、授業支援システム上に掲示する。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

担当者は、途上国への経済協力に携わっていた経験がある。本講義においては、途上国駐在も含めた経済協力実務で得られた知見が活用されている。

【Outline and objectives】

This is a first part of the course on economic cooperation for developing countries putting emphasis on Japanese Official Development Assistance (ODA). Students will be able to understand basic knowledge and background of economic cooperation for developing countries.

ECN300HA

国際経済協力論Ⅱ

武貞 稔彦

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバリゼーションが進展する世界において、国と国の間に所得だけではなく様々な格差が広がっている。経済協力は、そういった格差を是正し、新しい国や社会さらには世界を、共に築き上げていく手段の一つである。人々がより善く生きることが出来る社会の構築に受講生が関わるために、この講義では国際経済協力に関する基礎的な知識の習得を目的とする。

【到達目標】

本講義を通じて獲得する基礎的な知識は、具体的には、経済協力の歴史、仕組み、その背景にある途上国開発の理論、これまでの経済協力の成果や影響、近年の新たな課題と取組みを含む。これら基礎的な知識をもとに、日本が国際社会で果たす役割、一人ひとりがなす得ることについて、受講生は自分なりの意見や考えを持てるようになることが期待される。加えて「持続可能な開発目標（SDGs）」におけるパートナーシップの意義についても説明できるようにすることが期待される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連。
経営学部のディプロマポリシーのうち、「DP1-3」、「DP5」に関連が特に強く、「D4」に関連がかなりある。

【授業の進め方と方法】

国際経済協力論Ⅱにおいては、国際経済協力の取り組みにおいて近年注目を浴びているテーマについてより深く解説する。特に、誰が、なぜ経済協力をを行うのか、経済協力の目的とされている「開発」とは一体何を意味するのか、という点を中心に各テーマにアプローチする。

必要に応じて映像教材を活用し、多くの学生にとってなじみのない開発途上国の人々の暮らしや問題について、言葉だけでは語りつくせないイメージを得る一助とする。

またリアクションペーパー（教員からの簡単な質問への回答と、学生からの質問やコメントを記入するもの）を配布、時間内に記入のうえ回収することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション：国際経済協力論Ⅰの復習と国際経済協力をめぐる課題の俯瞰	春学期講義の簡単な概括とあわせ、秋学期にとりあげるテーマについて「持続可能な開発目標（SDGs）」とあわせて全体像を紹介する。
第2回	開発と文化：経済協力の目的を問い直す視点	開発の目標がいかに歴史的に形作られてきたかを知り、多様な文化／社会と開発の関係を概観する。
第3回	新たな主体による経済協力（1）NGO(NPO)と市民社会	近年、経済協力において主たるアクターとなっているNGO(NPO)の活動について概観する。
第4回	新たな主体による経済協力（2）民間企業	一般に営利を追求すると思われる民間企業が、経済協力の分野で行っている活動を紹介し、その背景を概観する。
第5回	開発とジェンダー／マイクロクレジットという試み	ノーベル平和賞を受賞したグラミン銀行（バングラデシュ）を事例に、開発とジェンダーの関係について概観する。
第6回	人間の安全保障と経済協力	近年注目される「人間の安全保障」という考え方を知り、国際社会による「人間の安全保障」実現に向けた行動を概観する。
第7回	紛争と平和構築：テロとの戦いと脆弱国家の復興支援	経済協力和紛争／平和の関係について、近年の新たな取り組みをもとに考える。
第8回	アフリカ（1）：アフリカの苦悩 激しい貧困と機能しない国家	アフリカ諸国とそこに暮らす人々がおかれている厳しい状況について概観する。
第9回	アフリカ（2）：アフリカに対して何ができるのか	これまでのアフリカ支援の評価と今後の課題について概観する。
第10回	フェア・トレード（1）：なぜ今、フェア・トレードが重要か？	フェア・トレードとよばれる取り組みがなぜ必要とされているのかについて理解する。
第11回	フェア・トレード（2）：フェア・トレードの試みとその評価	具体的なフェア・トレードの取り組みを紹介し、その課題や現状について概観する。

第12回	国際経済協力や開発による自然・社会環境への影響	開発による環境への影響はどのようなものか概観し、環境への影響を回避／最小限にするためにとられる対策について理解する。
第13回	地球環境問題と経済協力：気候変動（地球温暖化）を中心に	気候変動（地球温暖化）を事例に、国際社会における環境と開発のバランスの議論を概観する。
第14回	まとめ：持続可能な開発目標（SDGs）と支援、パートナーシップ	さまざまな国際協力の課題や現状を踏まえて、これからの支援やパートナーシップのあり方について概観する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。受講生は各回に指定される参考文献および参考図書該当部分を、講義の前／事後に適宜参照し、講義内容の理解を深めることが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】

斎藤文彦（2005年）『国際開発論』（日本評論社）
勝間靖編著（2012年）『テキスト国際開発論：貧困をなくすミレニアム開発目標へのアプローチ』（ミネルヴァ書房）
牧田東一編著（2013年）『国際協力のレッスン：地球市民の国際協力論入門』（学陽書房）
外務省（毎年発行）『日本の国際協力』（ODA 白書）

【成績評価の方法と基準】

中間レポート（20%）と期末試験（80%）による。リアクションペーパーは加点要素とする場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

学生が記入したリアクションペーパーに対する、教員からのコメントなどの対応の充実を目指す。また、提供される情報が多いため、理解しやすい形でメリハリをつけることが求められているところ授業運営に引き続き留意したい。

【学生が準備すべき機器他】

講義ではスライドを主に利用する。講義資料として配布したものとスライドなどは、授業支援システム上に掲示する。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

担当者は、途上国への経済協りに携わっていた経験がある。本講義においては、途上国駐在も含めた経済協力実務で得られた知見が活用されている。

【Outline and objectives】

This is a second part of the course on economic cooperation for developing countries putting emphasis on Japanese Official Development Assistance (ODA). Students will be able to understand basic knowledge and background of economic cooperation for developing countries including contemporary topics in the international society regarding Sustainable Development Goals (SDGs).

MAN300HA

環境ビジネス論

竹ヶ原 啓介

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 5/Wed.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題と経済との関わりを考える素材として「環境ビジネス」を取り上げる。再生可能エネルギー、省エネ、資源リサイクル、環境リスク管理など、様々な分野で展開される企業活動の分析を通じて環境問題を捉え直すことにより、環境と経済の関わりについて複眼的な考察が出来るようになることを目標とする。授業では、主要分野の環境ビジネスについて、内外の具体例を素材にファイナンスの基本的な考え方を交えて検討すると共に、実際に企業分析を体験することで理解を深めていく。

【到達目標】

環境ビジネスを構成する多様な企業活動について、総合的な理解を深め、主要な分野についてビジネスモデルを分析し、その成長性やリスクについて具体的に議論が出来るようになる。様々な企業情報に触れると同時に、汎用性の高いツールとしてファイナンスの基本的な視点を学ぶことにより、様々なビジネスモデルを検討する際に、自然にファイナンス的な見方が出来るようになる。また、企業分析と発表・フィードバックを経験することで、プレゼンテーション能力の向上を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

環境ビジネスについて、市場規模や構成、雇用などを巨視的な視点から理解すると共に、エネルギー、資源リサイクル、リスク管理、水、自然資本保全など主要なテーマ毎に、ケーススタディ等を通じて具体的に分析しつつ学習する。その際、ファイナンスの基本的な考え方、基礎的な分析ツールを知ることにより、汎用性のある知識の習得を目指す。また、個別企業分析とプレゼンを担当することで、実際の企業を素材に環境ビジネスの実像に触れるとともに、教員からのフィードバックを通じてプレゼンテーション能力の涵養を図る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本授業で取り上げていくテーマを紹介し、受講後の到達点イメージを共有する。
第2回	環境ビジネス概論	環境ビジネスの基本的な性格と市場規模など全体像の把握を行うと共に、分析のフレームワークについての知識を整理する。
第3回	環境と金融①	近時注目を集める環境金融の考え方を理解するとともに、ファイナンスの基本的な考え方やツールについて学ぶことにより、各論以降の検討に向けた基礎を構築する。
第4回	環境と金融②	前回の続き。NPV、IRRなどの考え方、キャッシュフロー表の構成などの基本を理解する。
第5回	環境と金融③／プレゼンチーム分けと事前ミーティング	前回の続き。また、講義後半で行う企業分析のチーム分けを確定し、チームメンバーの顔合わせを行う。
第6回	ケース1：再生可能エネルギービジネス1	太陽光発電や風力、バイオマスを素材に、再生可能エネルギービジネスについて、その事業性や普及に向けた課題等を考える。
第7回	ケース2：省エネビジネス	再生可能エネルギーと並ぶ温暖化対策ビジネスである省エネについて考える。ESCOなどを通じて、省エネがビジネスとして成立するポイントについて考える。
第8回	ケース3 3Rビジネス1／企業分析プレゼン①	規制が作り出した巨大産業であるリサイクルビジネスの基本構造を理解し、容器包装や金属など具体的な事例を踏まえて成功モデルを探る。なお、今回から講義の後半に企業分析・プレゼンを実施する予定。
第9回	ケース3 3Rビジネス2／企業分析プレゼン②	前回の続き。
第10回	ケース4：環境リスク管理ビジネス／企業分析プレゼン③	法規制導入を機に拡大が期待されるが、予想とは異なるパスを辿った土壌・地下水汚染対策ビジネスの基本構造を理解し、成功モデル・戦略を探る。

第11回	ケース5：水ビジネス／企業分析プレゼン④	希少化する淡水資源と人口増加をバランスさせる切り札として期待される水ビジネス。国内では上下水道インフラの更新、海外では新興国への進出による成長が期待されているビジネスの現状と展望を考える。
第12回	ケース6：自然資本・生物多様性保全ビジネス／企業分析プレゼン⑤	自然資本／生物多様性という概念と、これをビジネスと接続する視点を確認しつつ、幾つかの優れた事例を通じて、関連ビジネスについて考える。
第13回	ケース7：ESG投資と環境ビジネス1／企業分析プレゼン⑥	欧米の長期投資家を嚆矢に、現在我が国でも影響力を強めているESG投資など「環境金融」の機能について考える。
第14回	まとめ／企業分析プレゼン⑦	前回の続きと全体の振り返り。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ファイナンスと関くと身構えてしまいがちですが、予備知識は一切不要です。むしろ復習を重視して下さい。自分が関心のある業界／企業が環境問題にどのように関わっているか、問題意識をもって講義に臨めば得るものが多いでしょう。

講義では、毎回ミニレポート課題を宿題として課します（次の講義で提出）。また、チームで企業の環境ビジネスを分析・プレゼンしてもらいます。教室での質疑、講師からのフィードバックを含め、過去の受講生の多くが、この経験が有用だったと振り返っています。毎回の準備学習・復習と宿題対応で各2時間を標準としますが、プレゼンは準備に少なくとも延べ数時間が必要で、こうした分析・プレゼン資料作成作りへの積極的な参加が必要です。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用せず、担当教員が作成したレジュメや参考資料を授業支援システム等を通じて配布します。講義は、基本的にこのレジュメを参照しながら行われるので、受講する学生は忘れずに持参するようにして下さい。また、毎回課す課題は、当日教室で配布します。

【参考書】

環境省 環境経済情報ポータルサイト

http://www.env.go.jp/policy/keizai_portal/index.html

このほか、講義において適宜紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

授業の集大成である企業分析・プレゼンテーションへの参加と内容・貢献度（45%）と、数多くの事例に触れるために毎回宿題として課す課題の提出状況とその内容（45%）、平常点（10%）から、総合的に判断する。なお、プレゼンテーションに関して個別指導を行う関係上、受講希望者が多い場合に人数調整を行うことがある。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

資料配布、課題提出には原則として授業支援システムを利用する。プレゼンテーション作成にパワーポイントを使用する。

【その他の重要事項】

分析・プレゼン社数は6～7件程度を想定しているが、受講者数に応じて増減する可能性がある。

教員は現役の銀行役員であり、環境ビジネスの調査企画、ESG評価等に関する実務経験を有しているほか、数多くの政府委員会に委員として参加している。本講義は、こうした経験を基に構成されたプログラムである。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to consider the relationship between environmental issues and the economy from the aspect of "environmental business." By rethinking environmental issues through analysis of corporate activities conducted in various fields such as renewable energy, energy saving, resource management, environmental risk management, etc, we aim to provide a multi-faceted view of the relationship between the environment and the economy.

POL200HA

平和学

植村 充

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 6/Fri.6

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

安住の地を求めて移動する難民、混迷を極める内戦、頻発するテロ事件、そして感染症の世界的流行などのニュースに私たちは日常的に触れています。越境的に生じるこれらの諸問題を解決するには、事象の正確な把握とその分析が不可欠です。本講義においては、平和学がこれまでに積み重ねてきた知に触れ、これらの問題に対するアプローチを探ります。これによって国際社会に生じる問題に主体的に取り組む姿勢を身につけます。

【到達目標】

第1に、平和学の誕生から現在までの変遷、その特徴、他学問領域との関連、そして平和学における諸論点を横断的に理解します。また平和を希求する試みは、国際関係論とも強い親和性があるため、国際社会を構成する各主体（アクター）の特徴と関係性について理解します。第2に、それらの知識を活用して、紛争、平和構築、難民、多文化共生社会、といった具体的な課題に取り組む主体と手法の多様性を主体的に考察できるようにします。最終的に各受講者が世界の諸問題について自身で学びを深めていける能力を養成します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、講義形式を採ります。適宜グループワークを用いるので学生間での積極的な意見の交換を求めます。

また毎回、簡単なリアクションペーパーを課します。リアクションペーパーに書いて頂いた内容は次回の講義においてコメントします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション：平和学とは何か	平和学誕生の背景、その特徴、現代社会における役割と課題を概説する。特に「平和」とはどのような状態を指すのか、平和学が対象とする課題はなにかを理解する。
第2回	紛争と平和研究(1)	主権国家体制の成立から現代にいたるまでの暴力発生様態の変容を理解する。従来、暴力の主な発生要因といえば国家間の戦争であったが、現代はより要因が多様化している点を理解する。
第3回	紛争と平和研究(2)	崩壊国家と内戦の様相を植民地主義の歴史と各地域の事例を踏まえて概説する。
第4回	人道支援・人道的介入・平和構築(1)	国家の崩壊や諸々の内戦に対して国際社会が用いてきたアプローチを理解し、具体的な事例からその問題点と展望を理解する。第4回は人道支援・人道的介入を考える。
第5回	人道支援・人道的介入・平和構築(2)	内戦の終結した国にとって次なる課題は平和状態をいかに構築し、維持するかということである。第5回は国家建設をはじめとする平和構築のアプローチを考える。
第6回	国連と平和	国際平和を希求する目的をもって誕生した国連の平和に関する取り組みと現代的課題を理解する。
第7回	市民・NGOと平和	従来より平和研究における主要なアクターとして市民やNGO活動の重要性が指摘されてきた。国境を越えた彼らの連帯と国際平和への関りについて理解する。
第8回	地域共同体と平和	国際社会を形成するアクターとして地域共同体の役割と性質を理解する。特にアフリカ連合(AU)や欧州連合(EU)、ASEANを取り上げ近隣の紛争や難民危機についていかに対処してきたかを理解する。
第9回	差別・排除の克服と平和	世界では社会の分断をおおるような差別や排除が日々行われ、時に深刻な暴力的状況を生み出されている。ここでは差別・排除の生じる要因を理解し、解決への取り組みを考える。

第10回 グローバルな経済格差と開発援助

戦争の不在だけでは平和とは言えない。ここでは発展途上国と先進国の間にある経済格差に注目し、「積極的平和」などの概念も踏まえ、現在の課題と国際社会のアプローチを理解する。

第11回 人の移動と平和研究(1)

現代社会において、人の移動は重要なトピックとなっている。ここでは特に世界各地で生じる難民問題について、難民発生メカニズムを理解し、日本そして国際社会がいかに難民問題に対応してきたかを理解する。

第12回 人の移動と平和研究(2)

難民に限らず、世界には多様な理由で越境を行う人々がいる。日本でいえば技能実習生の問題など、脆弱性を持つ移動する人々の権利保障に焦点をあてる。

第13回 平和研究の日本的文脈(1)

核軍縮や日米安全保障条約の変容を理解し、日本を取り巻く国際社会の様相について考察する。

第14回 平和研究の日本的文脈(2)

日本国憲法の平和主義や戦後賠償問題を巡る学術界の議論を踏まえ、主体的に日本に関わる問題の理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して予習・復習を適宜すること。また本講義で取り上げる国際社会における諸課題には、普段のニュースや他講義でも触れることがあると思います。主体的な取り組みのためにも、アンテナを張って積極的に知識を吸収してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。講義の際に、毎回資料を配布します。事前に読んで欲しい資料は授業支援システムに掲載します。

【参考書】

日本平和学会編(2018)『平和をめぐる14の論点 - 平和研究が問い続けること -』法律文化社
 児玉克哉・佐藤安信・中西久枝(2004)『初めて出会う平和学 - 未来はここからはじまる -』有斐閣アルマ
 長有紀枝(2012)『入門 人間の安全保障 - 恐怖と欠乏からの自由を求めて -』中公新書

【成績評価の方法と基準】

期末試験(70%)と小レポート(20%)および出席・リアクションペーパー(10%)による。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の受講者から、講義の最後にリアクションペーパーを書くことによって理解が深まったとの意見を頂きました。自分で学習した知識をアウトプットするのは重要な学習方法ですので、積極的に記述を行ってください。また講義中に近年の研究動向を理解するために論文講読を行います。積極的に読み解いてください。

【その他の重要事項】

講義ではスライドを利用します。関連資料は、授業支援システムに掲載します。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

We always come in contact with the news such as refugee issues, civil wars and terrorism. In order to solve these cross-border problems, it is essential for us to understand these incidents precisely and analyze them critically. In this course, we study the knowledge which has been accumulated in the field of peace studies, and research the methodological approach to these issues. By so doing, students acquire a positive attitude to work on the problems in international society.

POL300HA

人間の安全保障

植村 充

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 6/Fri.6

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1994 年に「人間の安全保障」という概念が提唱されてから、およそ 25 年が経過しました。この間同概念を基盤として、国際社会では多様な試みがなされてきました。安全保障の焦点を従来の国家安全保障から個人の人權や生命、そして生活に当てる試みが生まれたことで、何が達成され、また課題として残されているのか。本講義では、この「人間の安全保障」について関連学問分野に体系的に学習します。

【到達目標】

安全保障概念の変遷、人間の安全保障に対する国際機関・国家・NGO の政策、人間の安全保障という概念を基軸として見つめ直される諸課題について理解します。特に諸課題の現状を冷静に把握し、これを解決する手段として国際社会がどのような方策を立ててきたのかを学習します。これによって、越境的に生じる政治経済社会問題を学生自身が主体的に考察し、当事者の視点を踏まえて議論できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、講義形式を採ります。適宜グループワークを用いるので学生間での積極的な意見の交換を求めます。毎回、簡潔なリアクションペーパーを課します。リアクションペーパーで頂いたコメントは次回の授業においてフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション：人間の安全保障とは何か	「人間の安全保障」の概念が成立した経緯、その意義、他の学問領域との関連を概説する。
第 2 回	安全保障の歴史と概念の変容	従来、安全保障は伝統的に国家同士の戦争から国家の主権をいかに守るかという国家安全保障を想定してきた。しかしその後、安全保障の対象は多様化する。その多様化の歴史的経緯を理解する。
第 3 回	現代世界における人間の安全保障	1990 年代以降に確立された「人間の安全保障」概念が誕生してから 25 年が経過しようとする今、どのような成果を残し、課題を抱えているのかを理解する。
第 4 回	崩壊国家と内戦の様相	人間の安全保障の重要性が最も顕わになるのは、国家が国民の安全を保障できない、崩壊国家や内戦の場合である。ここでは、冷戦終結後に生じた内戦や脆弱な国家の出現とその原因を理解する。
第 5 回	人間の安全保障と国際法	人間の安全保障の概念は国際法の発展にも寄与してきた。特に国家主権や人道的介入、平和に対する権利など、従来の概念に対する影響を看過することはできない。ここでは人間の安全保障と既存の国際法の関係を理解する。
第 6 回	国際機関と人間の安全保障	人間の安全保障を推進する主体として、国際連合をはじめとする国際機関の活動は重要な論点である。特に国際連合が果たしてきた成果とその限界について理解する。
第 7 回	国際社会・NGO と人間の安全保障	国際社会を構成する日本以外の諸外国と NGO が人間の安全保障という概念に基づきいかに活動してきたか、理解する。
第 8 回	日本と人間の安全保障	1990 年代後半以降、人間の安全保障は日本外交の柱の一つとなってきた。この回では、人間の安全保障に対する国際社会への日本政府の取り組みを概説する。

第 9 回 貧困と開発援助の諸相

人間らしく生きるためには、暮らしの安定性と持続性が必要である。しかしながら、主に途上国で深刻な貧困状態が継続し、人間の安全保障に対する脅威の一つになっている。今回は、貧困の実態と開発援助の諸相を考える。

第 10 回 テロリズムと人間の安全保障

現代国際社会で人間の安全保障に対する著しい脅威として、世界各地で生ずるテロリズムがある。この回では、越境的に生じるテロの問題を理解し、国際社会の取り組みを考える。

第 11 回 難民・国内避難民問題 part1

世界各地には紛争や内戦によって移動を余儀なくされた避難民が多く存在する。この回では難民の発生要因、難民キャンプでの生活、解決策について考える。

第 12 回 難民・国内避難民問題 part2

2015 年に発生した欧州難民危機では地中海やバルカン半島を経由して多くの避難民が欧州地域に押し寄せた。大量の避難民を前に EU はいかに対処したか。各構成国の反応も踏まえつつ概説する。

第 13 回 人間の安全保障の日本的文脈

日本で発生する自然災害や避難所で生じる問題も重要な人間の安全保障である。この回では日本で生じる脅威について検討する。

第 14 回 講義の振り返りとまとめ

第 13 回までの講義内容と議論をまとめながら、人間の安全保障に関する今後の展望を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。「人間の安全保障」という概念は聞きなれないかもしれませんが、関連する諸課題は講義で説明するように我々の身近にあります。積極的に新聞やニュースに触れ、主体的な授業参加を奨励します。また適宜英語資料を用います。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。講義の際に、毎回資料を配布します。講義前に読んで頂く資料がある場合には授業支援システムを活用します。

【参考書】

東大作編著 (2017) 『人間の安全保障と平和構築』2017 年 日本評論社
高橋哲哉・山影進編 (2008) 『人間の安全保障』2008 年 東京大学出版会
長有紀枝 (2012) 『入門 人間の安全保障 -恐怖と欠乏からの自由を求めて-』中公新書

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (70%)、小レポート (20%)、出席およびリアクションペーパー (10%)。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の受講者から、講義の最後にリアクションペーパーを書くことによって理解が深まったとの意見を頂きました。自分で学習した知識をアウトプットするのは重要な学習方法ですので、積極的に記述を行ってください。また講義中に近年の研究動向を理解するために論文講義を行います。積極的に読み解いてください。

【学生が準備すべき機器他】

講義ではスライドを利用します。講義までに読んでくる関連資料は、授業支援システムに掲載します。

【その他の重要事項】

特になし。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Twenty five years have passed since the concept, “human security,” was proposed in 1994. Various attempts have been made on the basis of this concept in international society. We consider what has been achieved, and what are left as uncompleted agendas, by shifting the focus from issues concerning nation states to the human right and life of people. In this course, we study about “human security” with a systematic method.

MAN300HA

環境マネジメントスタディーズ I

池原 庸介

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、気候変動による人類や生態系への影響が激甚化しており、「気候危機」という言葉が定着しつつある。いよいよ2020年よりパリ協定がスタートし、脱炭素社会の実現に向けた取り組みが世界的に加速しています。本講では、気候変動問題に係る国際交渉や国内外の政策動向、そして近年国際舞台で重視されている非国家主体と呼ばれる自治体、企業、投資家、そしてNPO（非営利組織）の取り組みについて理解を深めます。講義では、世界の最新動向も交えた解説を通じて、活きた知識を身につけます。

【到達目標】

気候変動問題を正しく理解し、2016年に発効した国際枠組み「パリ協定」の下で、世界が脱炭素社会の実現に向けてどのように取り組んでいるか、政府や企業、非営利組織など様々な観点から包括的に理解すること。3ヶ月間の学習で、気候変動問題に詳しくなり、他者に説明し議論できるレベルに到達することが期待されます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義では、社会科学・自然科学の両面から気候変動問題およびその解決に向けた世界の取り組みについて全体像を概観します。講義形式で理解を深めてゆき、環境マネジメントスタディーズII（秋学期）のディスカッションにおいても議論に貢献できる十分な知識を涵養します。なお、春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となり、それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は4月27日とし、学習支援システム上の資料配信によって具体的なオンライン授業の進め方などを提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 深刻化する気候変動問題 気候変動の科学①	講義の進め方 気候変動問題とは IPCC（気候変動に関する政府間パネル）第5次評価報告書が示す将来予測、炭素予算など
3	気候変動の科学②	予測される気候変動の影響
4	国連気候変動枠組み条約と国際交渉	国際的な気候変動交渉の流れ
5	京都議定書と市場メカニズム	法的拘束力を持つ削減目標と柔軟性メカニズム
6	パリ協定の成立	国際合意の難しさ、全員参加型の気候変動対策、脱炭素に向けた取り組み
7	パリ協定下での各国の政策動向	主要各国の気候変動・エネルギー政策
8	日本の気候変動・エネルギー政策	日本の中長期目標とその課題、世界からの評価
9	非国家主体による気候行動①	非国家主体による取り組みの重要性、リマ・パリ行動アジェンダ
10	非国家主体による気候行動②	世界の産業界の動向、各種国際イニシアチブ
11	非国家主体による気候行動③	ESGの観点から企業に求められる取り組み
12	世界のエネルギー政策	『脱炭素』を実現する世界のエネルギーのあり方
13	再生可能エネルギー普及拡大の動き	各国の再生可能エネルギー政策、企業などによる再生可能エネルギーの活用
14	試験、まとめ	全体総括、授業内テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習は不要だが、各回講義資料（毎回配布）の復習は必須。次の授業までに復習を行っておくことで、後の授業の理解度も格段に高まります。その際は、講義資料を表面的になぞるだけでなく、他人に教えるつもりで自分の言葉で説明できるよう心掛けると効果的です。これを継続すれば、春学期の3ヶ月間で、気候変動問題への理解度は高いと自負できるレベルに到達可能。※気候変動は、裾野が広く且つ複雑な環境問題であるため、まずは関心のある企業の取り組みや再生可能エネルギーなどにふれ、少しずつ深掘りしていくことが重要。下記の参考書を活用し、徐々に全体像をとらえていくと効果的。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、担当教員が作成した印刷資料（ハンドアウト）を配布。

【参考書】

- 小西雅子『地球温暖化は解決できるのかーパリ協定から未来へ！』岩波ジュニア新書、2016年（¥946）
- WWF ジャパン『企業の温暖化対策ランキング』各編報告書（電気機器編、金融・保険業編など11編を発行済み）
※各編の報告書は、いずれもウェブサイト上で閲覧、ダウンロードが可能
<https://www.wwf.jp/activities/activity/214.html>
- 梶屋 治紀『これからのエネルギー』岩波ジュニア新書、2013年（¥902）
- 小宮山 宏、山田 興一『新ビジョン 2050 地球温暖化、少子高齢化は克服できる』日経 BP 社、2016年（¥1,980）

【成績評価の方法と基準】

- ①平常点（小テスト含む）：50%
- ②期末試験：50%
- ①小テストでは、気候変動問題に関する基礎的事項や用語を理解しているかを問う。
- ②パリ協定の下での世界の脱炭素に向けた動向、各主体の取り組みなどについて理解し、課題に対して自らの考えを論理的に展開しているかを評価。
※春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する可能性があります。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】

- ・国際組織に勤務する担当教官の経験等に基づく国連会議の話題や企業の取組み事例などが分かり易かったとの声が得られたため、今年度もそうした内容を積極的に取り扱います。
- ・授業で配布するハンドアウトは白黒印刷のため、グラフなどが読みにくい箇所があったとの声を受け、資料のPDFファイルを授業後に授業支援システムにアップロードすることとします。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムに掲載する講義資料のPDFファイルを閲覧する場合はパソコンが必要。

【その他の重要事項】

環境マネジメントスタディーズII（秋学期）の履修予定者は、本科目を事前に履修することを推奨。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

As adverse effects of climate change become far more serious recently, a new term "climate crisis" has been widely used. With the Paris Agreement starting in 2020, climate actions toward a zero-carbon society are accelerated globally than ever before. Students can learn about UN climate negotiations, climate policies in and outside Japan as well as ambitious efforts to address the issue by non-state actors such as cities, businesses, investors and NPOs, which are considered to play pivotal roles to realize a zero-carbon society.

MAN300HA

環境マネジメントスタディーズⅡ

池原 庸介

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境マネジメントスタディーズⅠで学んだことをベースに、気候変動問題をはじめ、森林の伐採、水産物の過剰漁獲などの問題にも範囲を広げ、人間活動が地球環境や自然資本に与えている負荷の大きさを理解し、持続可能な社会の実現に向けて求められる解決策、課題等について、演習（ゼミ）形式で理解を深める。

【到達目標】

人間活動が地球環境に与えている負荷の大きさを示す指標『エコロジカル・フットプリント』を用いて地球環境の実情を理解し、森や海を守り、気候変動問題を解決していくために何が必要かを自ら考え議論することができる。企業の取り組みについて調べ、発表を行うことで、プレゼンテーションスキルを向上させる。（調べるポイント等については、事前に授業の中で詳しく解説）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

人間活動、特に企業活動や生活者の消費行動が、どのようなかたちで地球環境に負荷を与えているかに焦点を当て、様々なトピックの資料を読みディスカッションを行う演習（ゼミ）形式で理解を進めていく。グループ対抗での疑似交渉やロールプレイなども実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス エコロジカル・フットプリント（EF）	LPI（生きている地球指数）、EFを通じた地球環境の実情の理解
2	気候危機の解決に向けたエネルギーのあり方	エネルギーのあり方を各人が考え、グループ対抗で疑似交渉を実施
3	企業の温暖化対策①	企業の取り組みを評価する際に重視すべき視点（長期目標、ライフサイクルなど）
4	企業の温暖化対策②	学生による発表とディスカッション
5	企業の温暖化対策③	学生による発表とディスカッション
6	企業の温暖化対策④	学生による発表とディスカッション
7	企業の温暖化対策⑤	学生による発表とディスカッション
8	企業の温暖化対策⑥	学生による発表とディスカッション
9	持続可能な森林資源の活用に向けて①	森を守る調達・消費行動（紙パルプ調達とFSC認証）
10	持続可能な森林資源の活用に向けて②	森を守る調達・消費行動（パーム油調達とRSPO認証）
11	持続可能な森林資源の活用に向けて③	ロールプレイとディスカッション（RSPO）
12	持続可能な水産資源の活用に向けて①	海を守る調達・消費行動（水産物調達とMSC）
13	持続可能な水産資源の活用に向けて②	海を守る調達・消費行動（養殖水産物調達とASC）
14	試験、まとめ	全体総括、授業内テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
- 企業の温暖化対策について、下記の【参考書】に示す『企業の温暖化対策ランキング』の報告書の中から関心のある業種を選び、少しずつ読み進めていく。各社の取り組みレベルを見極める力が養われ、この分野の理解が深まる。
- 4回～8回の授業において、企業の温暖化対策に関する発表を実施（各人1回）。パワーポイントによる発表資料を準備
- ※ 日ごろから、環境に関するニュースや記事などを読み、興味関心のある分野を増やしていくと効果的。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

原則として、担当教員が作成した印刷資料を配布。

【参考書】

- 小西雅子『地球温暖化は解決できるのかーパリ協定から未来へ！』岩波ジュニア新書、2016年（¥946）
- WWF ジャパン『企業の温暖化対策ランキング』各編報告書（電気機器編、食料品編など11編の報告書を発行済み）
- ※ 各編の報告書は、いずれもウェブサイト上で閲覧、ダウンロードが可能。
<https://www.wwf.or.jp/activities/2017/10/1392731.html>
- WWF『生きている地球レポート2018』
- ※ レポートは、ウェブサイト上で閲覧、ダウンロードが可能。
https://www.wwf.or.jp/activities/data/201810lpr2018_jpn_sum.pdf

【成績評価の方法と基準】

①平常点（発表含む）：50%

②期末試験：50%

①企業の環境対策について調査し発表（調査するポイント等については、授業内であらかじめ解説）。

②各回で取り上げた内容を通じ、エコロジカル・フットプリントを用いて地球環境の実情を理解し、与えられた課題に対して自らの考えを論理的に展開しているか等を評価。

【学生の意見等からの気づき】

発表やグループディスカッション、ロールプレイなどを通じて、とても理解が深まったという声が多かったため、今年度も踏襲する。

ディスカッションやグループワークをもう少し増やしてほしいという声もあったため、あらたにグループ対抗での交渉体験の機会を盛り込む予定。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料は原則として、授業支援システム上に掲載。それらを見る場合はパソコンが必要。また、発表資料（原則としてパワーポイント）の作成にもパソコンが必要。

【その他の重要事項】

環境マネジメントスタディーズⅠ（春学期）を事前に履修することを推奨。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

By referring to the Ecological Footprint indices, students can learn about to what extent human activities burden the global environment and natural capital from the viewpoint of climate change, deforestation, excessive fish catch, etc. You can also foster better understanding of what are needed toward realizing a truly sustainable society through small-group discussion and role playing methods.

MAN100FA

簿記入門Ⅰ（2016年度以降入学者）

大下 勇二

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

簿記・会計は「ビジネスの言語」と呼ばれる。企業の公表する損益計算書や貸借対照表は、その経済活動を一定のルールに従い記録した帳簿に基づき作成される。この帳簿記録の技術を「簿記」という。本講義はこの「簿記」の技術を授業のテーマとする。

【到達目標】

簿記入門Ⅰ/Ⅱでは簿記の基礎と日商簿記3級程度の修得を目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業では、複式簿記による帳簿記録のルールを理解し、それに基づいて簡単な貸借対照表および損益計算書を作成できるまでのレベルを目標に、具体的には、複式簿記の原理、帳簿記録の方法、決算の概要、決算書の作成方法を、テキストに従い、板書講義、パワー・ポイントのスライドによる解説および記帳・計算演習をおこなって習得する。

春学期の授業に関しては、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月22日とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
第1回	簿記の意義としくみ (1)	簿記の意義と基礎について解説します。
第2回	簿記の意義としくみ (2)	貸借対照表の構成要素である資産・負債・純資産(資本)について解説し、資本等式、財産法による損益計算の方法について学びます。
第3回	簿記の意義としくみ (3)	損益計算書の構成要素である収益・費用について解説し、損益法による損益計算の方法を学びます。
第4回	仕訳と転記 (1)	取引簿記上の取引、取引の種類、取引要素の結合関係、具体的な取引分類を解説し、複式簿記の原理を学習します。
第5回	仕訳と転記 (2)	取引簿記上の取引、取引の種類、取引要素の結合関係、具体的な取引分類を解説し、複式簿記の原理を学習します。
第6回	仕訳と転記 (3)	複式簿記の原理に基づいて、具体的な記録方法である「仕訳」について学習します。
第7回	仕訳帳と元帳 (1)	帳簿組織の種類と役割、複式簿記の原理に基づいて、仕訳帳への記入練習を行います。
第8回	仕訳帳と元帳 (2)	勘定記入仕訳帳から総勘定元帳への転記について学習します。
第9回	仕訳帳と元帳 (3)	取引から仕訳、その勘定口座への転記の作業を習得します。
第10回	決算 (1)	試算表の作成 合計試算表、残高試算表および合計残高試算表の特徴と役割を理解し、その作り方を学習します。
第11回	決算 (2)	決算の意味と手続き、精算表の仕組み、6桁精算表の作り方を中心に決算手続きを学習します。
第12回	決算 (3)	総勘定元帳の締切り、仕訳帳の締切りと繰越試算表の作成、損益計算書および貸借対照表の作成を中心に決算手続きの最後までを学習します。
第13回	決算 (4)	精算表の作成、帳簿の締切り、損益計算書・貸借対照表の作成に関する練習問題に取り組みます。
第14回	現金と預金	現金・預金の記帳 現金、現金出納帳、現金過不足、当座預金、小口現金を学習します。

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
第1回	繰越商品・仕入・売上 (1)	3分法、分記法、仕入帳と売上帳を中心に商品売買の記帳を練習します。
第2回	繰越商品・仕入・売上 (2)	商品有高帳の記帳を練習し、商品販売損益の計算の仕組みを理解します。

第3回	売掛金と買掛金	掛取引の記帳 売掛金と買掛金、人名勘定、売掛金元帳と買掛金元帳の処理を練習します。
第4回	その他の債権と債務	貸付金・借入金、未収金・未払金、立替金・預り金、仮払金・借入金、商品券の各勘定の役割と記入方法を練習します。
第5回	受取手形と支払手形	手形の種類、約束手形の仕組みと処理、手形の裏書と売却の処理を学びます。
第6回	有価証券	有価証券の処理、有価証券の利息と配当金の処理を学習します。
第7回	有形固定資産 (1)	有形固定資産の取得、減価償却について学習します。
第8回	有形固定資産 (2)	減価償却費の計算と記帳方法、有形固定資産の売却の処理について学習します。
第9回	貸倒損失と貸倒引当金、資本	貸倒れの処理と資本の処理を学習します。
第10回	収益と費用 (1)	収益と費用、費用・収益の繰延べと見越しの処理を学習します。
第11回	収益と費用 (2)	費用・収益の繰延べと見越し、消耗品の処理を学習します。
第12回	税金、伝票	税金の処理と伝票を用いた記入方法を学習します。
第13回	財務諸表 (1)	決算手続きと決算整理の処理を学習します。
第14回	財務諸表 (2)	決算整理から8桁精算表および財務諸表の作成を学習します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ずテキストを事前に読んでおき、例題を解いておくことが求められます。また、「仕訳トレーニング」という問題プリントを配布しますので、次回までに解答しておくことが必要です。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

渡部・片山・北村『検定 簿記講義 3級』（最新版）中央経済社。
『検定 簿記ワークブック 3級』（最新版）中央経済社。

【参考書】

最初の授業で指示する予定です。

【成績評価の方法と基準】

春学期の成績評価に関しては、成績評価の方法と基準を変更します。具体的な方法と基準は、学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】

テキストの例題、練習問題および仕訳トレーニングの問題を実際に解いてもらい、授業内容の理解の程度に注意しながら授業を進めていきます。

【その他の重要事項】

〔関連科目〕

この講義は、2年次の会計学入門Ⅰ/Ⅱ、3・4年次の財務会計論Ⅰ/Ⅱ、税務会計論Ⅰ/Ⅱ、国際会計論Ⅰ/Ⅱ、監査論Ⅰ/Ⅱ、原価計算論Ⅰ/Ⅱ、管理会計論Ⅰ/Ⅱ、経営分析Ⅰ/Ⅱ、経営分析Ⅲ/Ⅳ、経営分析論Ⅰ/Ⅱ、企業経営論Ⅰ/Ⅱなど会計専門科目の基礎となるものです。複式簿記による記帳の方法および会計処理を習得・理解しておくことが、これら会計専門科目の学習を大いに促進します。

〔その他注意事項〕

簿記を習得するためには、講義に毎回出席し、実際に記帳練習をしたり計算問題を解くことが不可欠です。一度欠席するとその後の授業の理解が困難になることがあるので、欠席しないように心がけて下さい。

【Outline and objectives】

The objective of this subject is to understand the book-keeping of an introductory level.

MAN100FA

簿記入門Ⅱ（2016年度以降入学者）

大下 勇二

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

簿記・会計は「ビジネスの言語」と呼ばれる。企業の公表する損益計算書や貸借対照表は、その経済活動を一定のルールに従い記録した帳簿に基づき作成される。この帳簿記録の技術を「簿記」という。本講義はこの「簿記」の技術を授業のテーマとする。

【到達目標】

簿記入門Ⅰ/Ⅱでは簿記の基礎と日商簿記3級程度の修得を目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業では、複式簿記による帳簿記録のルールを理解し、それに基づいて簡単な貸借対照表および損益計算書を作成できるまでのレベルを目標に、具体的には、複式簿記の原理、帳簿記録の方法、決算の概要、決算書の作成方法を、テキストに従い、板書講義、パワー・ポイントのスライドによる解説および記帳・計算演習をおこなって習得する。

春学期の授業に関しては、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月22日とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
第1回	簿記の意義としくみ (1)	簿記の意義と基礎について解説します。
第2回	簿記の意義としくみ (2)	貸借対照表の構成要素である資産・負債・純資産(資本)について解説し、資本等式、財産法による損益計算の方法について学びます。
第3回	簿記の意義としくみ (3)	損益計算書の構成要素である収益・費用について解説し、損益法による損益計算の方法を学びます。
第4回	仕訳と転記 (1)	取引簿記上の取引、取引の種類、取引要素の結合関係、具体的な取引分類を解説し、複式簿記の原理を学習します。
第5回	仕訳と転記 (2)	取引簿記上の取引、取引の種類、取引要素の結合関係、具体的な取引分類を解説し、複式簿記の原理を学習します。
第6回	仕訳と転記 (3)	複式簿記の原理に基づいて、具体的な記録方法である「仕訳」について学習します。
第7回	仕訳帳と元帳 (1)	帳簿組織の種類と役割、複式簿記の原理に基づいて、仕訳帳への記入練習を行います。
第8回	仕訳帳と元帳 (2)	勘定記入仕訳帳から総勘定元帳への転記について学習します。
第9回	仕訳帳と元帳 (3)	取引から仕訳、その勘定口座への転記の作業を習得します。
第10回	決算 (1)	試算表の作成 合計試算表、残高試算表および合計残高試算表の特徴と役割を理解し、その作り方を学習します。
第11回	決算 (2)	決算の意味と手続き、精算表の仕組み、6桁精算表の作り方を中心に決算手続きを学習します。
第12回	決算 (3)	総勘定元帳の締切り、仕訳帳の締切りと繰越試算表の作成、損益計算書および貸借対照表の作成を中心に決算手続きの最後までを学習します。
第13回	決算 (4)	精算表の作成、帳簿の締切り、損益計算書・貸借対照表の作成に関する練習問題に取り組みます。
第14回	現金と預金	現金・預金の記帳 現金、現金出納帳、現金過不足、当座預金、小口現金を学習します。

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
第1回	繰越商品・仕入・売上 (1)	3分法、分記法、仕入帳と売上帳を中心に商品売買の記帳を練習します。
第2回	繰越商品・仕入・売上 (2)	商品有高帳の記帳を練習し、商品販売損益の計算の仕組みを理解します。

第3回	売掛金と買掛金	掛取引の記帳 売掛金と買掛金、人名勘定、売掛金元帳と買掛金元帳の処理を練習します。
第4回	その他の債権と債務	貸付金・借入金、未収金・未払金、立替金・預り金、仮払金・借入金、商品券の各勘定の役割と記入方法を練習します。
第5回	受取手形と支払手形	手形の種類、約束手形の仕組みと処理、手形の裏書と売却の処理を学びます。
第6回	有価証券	有価証券の処理、有価証券の利息と配当金の処理を学習します。
第7回	有形固定資産 (1)	有形固定資産の取得、減価償却について学習します。
第8回	有形固定資産 (2)	減価償却費の計算と記帳方法、有形固定資産の売却の処理について学習します。
第9回	貸倒損失と貸倒引当金、資本	貸倒れの処理と資本の処理を学習します。
第10回	収益と費用 (1)	収益と費用、費用・収益の繰延べと見越しの処理を学習します。
第11回	収益と費用 (2)	費用・収益の繰延べと見越し、消耗品の処理を学習します。
第12回	税金、伝票	税金の処理と伝票を用いた記入方法を学習します。
第13回	財務諸表 (1)	決算手続きと決算整理の処理を学習します。
第14回	財務諸表 (2)	決算整理から8桁精算表および財務諸表の作成を学習します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ずテキストを事前に読んでおき、例題を解いておくことが求められます。また、「仕訳トレーニング」という問題プリントを配布しますので、次回までに解答しておくことが必要です。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

渡部・片山・北村『検定 簿記講義 3級』（最新版）中央経済社。
『検定 簿記ワークブック 3級』（最新版）中央経済社。

【参考書】

最初の授業で指示する予定です。

【成績評価の方法と基準】

春学期の成績評価に関しては、成績評価の方法と基準を変更します。具体的な方法と基準は、学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】

テキストの例題、練習問題および仕訳トレーニングの問題を実際に解いてもらい、授業内容の理解の程度に注意しながら授業を進めていきます。

【その他の重要事項】

〔関連科目〕

この講義は、2年次の会計学入門Ⅰ/Ⅱ、3・4年次の財務会計論Ⅰ/Ⅱ、税務会計論Ⅰ/Ⅱ、国際会計論Ⅰ/Ⅱ、監査論Ⅰ/Ⅱ、原価計算論Ⅰ/Ⅱ、管理会計論Ⅰ/Ⅱ、経営分析Ⅰ/Ⅱ、経営分析Ⅲ/Ⅳ、経営分析論Ⅰ/Ⅱ、企業経営論Ⅰ/Ⅱなど会計専門科目の基礎となるものです。複式簿記による記帳の方法および会計処理を習得・理解しておくことが、これら会計専門科目の学習を大いに促進します。

〔その他注意事項〕

簿記を習得するためには、講義に毎回出席し、実際に記帳練習をしたり計算問題を解くことが不可欠です。一度欠席するとその後の授業の理解が困難になることがあるので、欠席しないように心がけて下さい。

【Outline and objectives】

The objective of this subject is to understand the book-keeping of an introductory level.

LAW200HA

行政法Ⅰ

横内 恵

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月4/Mon.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

行政法とは、行政の活動を根拠づけたり規制したりする法の体系です。本講義ではそのうち、行政の組織のあり方や、行政法の基本原則、行政活動の類型などについて、具体例を示しながら解説します。

【到達目標】

行政の様々な活動を法的に理解・考察できるようになることを、本講義の到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月27日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。成績評価の具体的な方法と基準は、授業開始日までに学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション、行政組織の基礎概念	教科書を用いて、当該テーマについて解説する
第2回	国の行政の仕組み、地方の行政の仕組み	教科書を用いて、当該テーマについて解説する
第3回	法律による行政の原理	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第4回	行政法の一般原則	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第5回	行政の規範定立	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第6回	行政行為（1）	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第7回	行政行為（2）	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第8回	行政契約	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第9回	行政指導	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第10回	行政計画	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第11回	行政の実効性確保手段	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第12回	行政裁量	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第13回	行政手続	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第14回	試験・まとめと解説	授業のまとめ及び試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。授業前に教科書の該当箇所を読んでください。授業後は、レジュメを見ながら教科書と判例集を熟読してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・教科書：北村和生、佐伯彰洋、佐藤英世、高橋明男『行政法の基本〔第7版〕』（法律文化社、2019年）。（本体2,700円＋税）
・判例集：大橋真由美、北島周作、野口貴公美『行政法判例50！』（有斐閣、2017）。（本体1,800円＋税）

【参考書】

必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験100%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

公務員試験の受験を考えていることは、本科目の履修を強く推奨します。「行政法Ⅱ」の履修希望者は、先に本講義を履修してください。

2017年度以前に「行政法の基礎」の単位を修得済の場合、本科目の履修はできません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

The programme gives undergraduate students basic theoretical and methodological knowledge in administrative law.

LAW200HA

行政法Ⅱ

横内 恵

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「行政法Ⅰ」の授業内容を前提として、違法または不当な行政活動を是正したり、国民の権利を保護したりするための救済制度について、具体的な事例を取り上げながら解説します。

【到達目標】

行政と国民の間の紛争をいかに法的に解決するかについて、論理的に考えられるようになることを本講義の到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って、判例集を参照しながら授業を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	行政救済法概説	教科書を用いて、当該テーマについて解説する
第 2 回	取消訴訟：処分性	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第 3 回	取消訴訟：原告適格	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第 4 回	取消訴訟：判決の効力	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第 5 回	無効等確認訴訟	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第 6 回	不作為の違法確認訴訟	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第 7 回	義務付け訴訟と差止訴訟	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第 8 回	当事者訴訟	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第 9 回	民衆訴訟・機関訴訟	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第 10 回	行政不服審査制度	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第 11 回	国家賠償法：公権力の行使、公の营造物	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第 12 回	国家賠償法：違法性、故意・過失	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第 13 回	国家賠償法：規制権限不行使	教科書や判例集を用いて、当該テーマについて解説する
第 14 回	試験・まとめと解説	授業のまとめ及び試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。授業前に教科書の該当箇所を読んでください。授業後は、レジュメを見ながら教科書と判例集を熟読してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・教科書：北村和生、佐伯彰洋、佐藤英世、高橋明男『行政法の基本〔第7版〕』（法律文化社、2019年）。（本体 2,700 円＋税）
 ・判例集：大橋真由美、北島周作、野口貴公美『行政法判例 50 ！』（有斐閣、2017）。（本体 1,800 円＋税）

【参考書】

必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

本講義は、「行政法Ⅰ」履修済みの人を主な対象としています。公務員試験の受験を考えていることは、本科目の履修を強く推奨します。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

The programme gives undergraduate students basic theoretical and methodological knowledge in administrative law.

【Outline and objectives】

In this course, students are expected to gain foundational knowledge of sociological theory and the ability to apply such knowledge to issues we face in contemporary society. Specific topics to be covered include inequality, education, gender, race and ethnicity, and globalization. Each class consists of lectures, discussions, and activities, and it is essential that each student is prepared to participate actively.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会学理論は、社会を分析し理解するための重要な道具である。本科目では、講義、ディスカッション、その他のアクティビティを通して理論とその使い方を知り、「社会的に社会を見る」面白さを体験する。まずは現代社会がどのように形作られてきたかを理解するために近代化についての理論を学び、その後は個人と社会の関係、労働と経済的格差、教育、多様性等の問題とそれに関連する理論を、具体的な事例や日常生活と関連づけながら多面的・多角的に検討する。

【到達目標】

本科目は現代社会が直面している諸問題を社会学の概念や理論を使って分析することによって、それぞれの学生が自分で考え、それを言語化する力をつけることを目標とする。新たな視点を得ることで「当たり前」を疑い、主体的に調べ、議論する力を涵養することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月23日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	「社会を社会的に考える」とは	社会的想像力、理論と概念の重要性、持続可能な社会の構築のために
第2回	社会とは何か	近代化により社会はどのように変化したのか。分業、連帯、支配の諸類型
第3回	個人とは何か	アイデンティティはどのように形成されるのか。自己と他者
第4回	個人と社会	社会的存在としての人間、社会化
第5回	資本主義	労働をめぐる諸問題
第6回	経済的格差と貧困	－日本社会の現状と国際比較から考える
第7回	教育	格差との関係、文化資本、文化的再生産
第8回	管理社会	「従順な身体」、権力とまなざし
第9回	ジェンダー	女らしさ、男らしさ、平等を考える
第10回	セクシュアリティ	異性愛規範と現代社会
第11回	人種とエスニシティ	日本社会における多様性と人権
第12回	ディアスポラとグローバル化	移民と難民
第13回	社会はどう変わるのか	民主主義と政治
第14回	試験、まとめ	内容の理解度を試験し、フィードバックを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは用いない。

【参考書】

奥村隆 2014『社会学の歴史1』有斐閣
クリストファー・ソープ他、沢田博訳 2015『社会学大図鑑』三省堂
クリス・ユール・クリストファー・ソープ、田中真知訳 2017『10代からの社会学大図鑑』三省堂

【成績評価の方法と基準】

当面の間、オンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用します。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

SOC200HA

現代社会論Ⅱ

佐伯 英子

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「社会」は、多くの場合その構成員全ての経験や考えを平等に反映したものではない。この歪みのひとつがジェンダーであり、社会を理解し議論する上で欠かすことのできない視点である。この授業では、家族、教育、労働、政治を含む社会の様々な側面をジェンダーの観点から検討する。学生一人一人が講義で紹介する概念や具体的な事例を理解するだけでなく、調査を行ってその内容をまとめ、共有することで主体的に学び、考える力を身につけることを目指す。

【到達目標】

本科目は、ジェンダーの規範が個人の経験や社会の構築に与える影響を、基本的な理論と概念、国内の歴史の変遷、諸外国との比較を通して探る。日常生活や現代日本社会における制度、規範を多角的・多面的に分析することから新たな知見を獲得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月24日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ジェンダーの視点で社会を分析する意義、本科目の進め方
第2回	ジェンダーとは何か	性別と性差、ジェンダーの規範
第3回	ジェンダーとセクシュアリティ	性自認とセクシュアリティ
第4回	家族の歴史と現在	多様な家族のかたち、家父長制、少子高齢化
第5回	子ども	家庭において子どもは何を学び育つのか
第6回	学校教育	顕在的カリキュラムと潜在的カリキュラム
第7回	知識	科学、医療、テクノロジー
第8回	賃金労働	長時間労働と家族、賃金格差、ワークライフバランス
第9回	ケア・ワーク	家事労働、育児と介護
第10回	生殖	リプロダクティブ・ライツ
第11回	暴力	性犯罪と性暴力、法制度
第12回	グローバル化と多様化する社会	差異、人権
第13回	政治	民主主義、政治参画、持続可能な社会の構築
第14回	テスト、まとめ	内容の理解度を試験し、フィードバックを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは用いない。

【参考書】

伊藤公雄・牟田和恵編 2015 『ジェンダーで学ぶ社会学』世界思想社
千田有紀・中西祐子・青山薫 2013 『ジェンダー論をつかむ』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

当面の間、オンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用します。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

In this course, we examine various aspects of contemporary society (e.g., family, education, labor, and politics) from perspectives of gender. By introducing historical changes and international comparisons, the course is designed for students to analyze issues from different points of view. In addition to comprehending concepts, theory, and specific cases, students are required to write a report based on their research.

現代社会論Ⅲ

佐伯 英子

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちは「身体」や「生命」について理解を深めようとする際、しばしば医学や生物学等の自然科学に頼ろうとします。しかし、「健康」とは何か、性別や人種におけるカテゴリーはどのようにつくられるか、「美しい身体」や「正しい身体」という規範にどのような意味があるのか、生殖医療や臓器移植等の技術を通して私たちはどこまで「いのち」をコントロールすることができ、すべきなのか、といった問いには、社会科学的視点が欠かせません。それは、「身体」が極めて個人的な体験であると共に社会的、文化的、歴史的な要因に左右されるものであり、また、「生命」という概念の定義が社会や文化の文脈の中で作りだされるものだからです。社会学は「常識」や「当たり前」を疑うことを可能にしますが、身体社会学はその醍醐味を特にダイレクトに感じることでできる領域であると言えます。受講者ひとりひとりが自分で社会を観察し、考え、議論することを通して、身体と医療の社会学の内容の理解と共に、社会学的想像力を身につけることのできる授業とすることを目指します。

【到達目標】

本科目では、一般的に自明なものであると考えられている「身体」及び「生命」を社会学的観点から捉えることにより新しい知見を得ることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業では主に講義、ディスカッション、その他のアクティビティ等を行います。身体社会学という領域は近年、急速な発展を遂げましたが、一方でその蓄積や議論の多くは日本語に翻訳されていないため、多くの学生にとってアクセスの難しいものでもあります。講義では理論を含めたこのような流れを、画像や短い映像資料を使用しながらわかりやすく紹介し、理解を深めるための枠組みを作ります。また、小グループでのディスカッションやアクティビティを通して学生の授業への積極的な参加を促し、ひとりひとりの学びを効果的に深めることができるよう、工夫します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要とねらい；なぜ「身体」を社会学するのか；「生命」とは何か；私たちのからだは「自然」か
第2回	身体社会学とは何か	社会学的想像力；構築主義；身体化(embodiment)；私たちは身体の使い方をどう学習するか
第3回	階級と身体	ハビトゥスと文化資本；労働と身体；貧困と身体；消費活動；食；健康と病
第4回	人種と身体	植民地主義と人種；レイシズム；人種に関するカテゴリーの歴史の変遷
第5回	ジェンダー	「男らしさ」「女らしさ」と身体；「性別」とは何か；性自認と身体
第6回	ボディイメージと摂食障害	「美」のための産業；体重と美に関する基準の変化；拒食症と過食症
第7回	美容医療	身体加工；アイデンティティ；ボディイメージに関する課題を使ったアクティビティ
第8回	「正しい」身体とは何か、逸脱は何を意味するか	スティグマ；結合双生児；心身二元論；「個人」とは何か；医療介入の決定権は誰が握るか
第9回	優生思想	日本におけるハンセン病の歴史；隔離政策；優生政策；優生思想は過去のものか
第10回	いのちの始まりと生命倫理	リプロダクティブ・ライツ；人工妊娠中絶；いのちの始まりをどう理解するか；出生前診断
第11回	生殖補助医療	不妊治療の社会的意味；第三者の関わる生殖補助医療（精子・卵子提供と代理出産）とその倫理的側面
第12回	終末期医療と尊厳死、脳死と臓器移植	いのちの終わりは誰が決めるか；死に関する権利；「いのちの神聖さ」と「いのちの尊厳」；臓器移植の国際比較；技術は私たちの「いのち」に関する理解をどう変えるか、その倫理的側面
第13回	身体と未来	どこまでが身体か；サイボーグ；機械と人間の融合；技術と身体（義肢；人工内耳）；身体は誰のものか

第14回 テスト、まとめ

内容の理解度を試験しし、フィードバックを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。各回に指定されたテキストを読んで授業に備え、授業の後は講義内容について復習してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは用いません。

【参考書】

柘植あづみ『生殖技術－不妊治療と再生医療は社会に何をもたらすか』みすず書房（2012年）
安藤泰至、高橋都編『シリーズ生命倫理学 終末期医療』丸善出版（2012年）
小松美彦・市野川容孝・田中智彦編『いのちの選択——今、考えたい脳死・臓器移植』岩波書店（2010年）
毎日新聞『境界を生きる』取材班『境界を生きる 性と生のほごまで』毎日新聞社（2013年）
磯野真穂『なぜふつうに食べられないのか 拒食と過食の文化人類学』春秋社（2015年）
谷本菜穂『美容整形と化粧の社会学—プラスチックな身体』新曜社（2008年）
マーゴ・デメット『ボディ・スタディー—性、人種、階級、エイジング、健康/病の身体学への招待』（2017年）
アリス・ドムラット・ドレガー『私たちの仲間 結合双生児と多様な身体 of the 未来』緑風出版（2004年）

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパーも含む）30%；課題20%；期末テスト50%

【学生の意見等からの気づき】

引き続き、コメントシートやディスカッションで出された考えを紹介しながら、双方向の授業を行います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用します。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This course on Sociology of the Body and Medicine will examine sociocultural aspects of our knowledge and experiences on the body. Through the considerations of topics including social class, gender, race, eugenics, and bioethics, we will grapple with issues for which there are no easy answers.

SOC200HA

NPO・ボランティア論

新田 英理子

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 5/Wed.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分がより良くありたいと願うように、社会をより良くしたいと願うときに、ボランティア、NPO（Nonprofit Organization）について、多面的、多角的に理解していることで、社会との向き合い方の幅を広げることができます。日本において、NPO が一般的になってきたのは、ここ 20 年ほどです。ボランティアは、「奉仕」を越えて、ソーシャルグッド、ソーシャルビジネス、NPO の担い手として、ますます注目を集めています。また、NPO・ボランティアと親和性の近い言葉として、市民社会・市民という言葉があります。この授業では、NPO やボランティアを多角的、多様に理解すると同時に、SDGs 達成に向けて活動する、NPO の実践者、ボランティアの実践者からの情報提供も受けます。それらを通じて、ひとりひとりが、市民として、社会とどのように向き合い、関わっていくのか、理解を深め、考える機会とします。

【到達目標】

・NPO の意味、役割、これまでの歴史、運営や財源、行政や企業との関係などについて理解を深めるとともに、現代社会の持続可能性と持続可能性について考えます。
・ボランティアの意味、役割、これまでの歴史、NPO との関係について理解するとともに、SDGs とボランティア、SDGs と市民について、考えます。
・NPO・ボランティアが取り組んできた課題への理解を通して、社会の変化や現代社会の課題について問題意識をもち、自分たちひとりひとりができることについて考えます。
・今後のより良い社会のあり様を、どのように考えていけばよいか。市民一人ひとりが、社会とどのように向き合い、関わるべきか、学生自身も含めて考えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

・原則として毎回ごとに、テーマにそった講義を行います。
・毎回、小グループで話し合い、グループの意見をリアクションペーパーに書き、提出してもらいます。
・毎回、リアクションペーパー（感想・質問・意見）を提出してもらいます。
・リアクションペーパーの質問については、次回の授業の冒頭でコメントし、前回授業の振り返りの時間をとります。また、リアクションペーパーの意見等をもとに、学生からも意見を出してもらい、学生間で様々な視点や考えを学びあいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	・授業の目標、内容、進め方についての説明 ・私たちの生活と、持続可能性
第 2 回	NPO の基礎知識～NPO とは何か	・NPO 歴史的背景 ・NPO の意味と意義 ・日本社会における NPO 種類 (NPO、NGO、CSO など)
第 3 回	SDGs の基礎知識～SDGs とは何か	・SDGs の歴史的背景 ・SDGs の意味と異議 ・SDGs の担い手としての NPO、ボランティアの意味
第 4 回	NPO・ボランティアの実践～事例を通して①	貧困/格差の問題と向き合う、NPO・ボランティアの実践事例（路上生活者支援）を通して、持続可能性について考える
第 5 回	NPO・ボランティアの実践～事例を通して②	差別/格差の問題と向き合う、NPO・ボランティアの実践事例（LGBT 等）を通して、持続可能性について考える
第 6 回	NPO 法人制度（NPO 法の目的と内容）	・NPO 法とは ・NPO 法の制定過程 ・他の法人制度との比較 ・公益法人制度改革
第 7 回	NPO・ボランティアの実践～事例を通して③	環境問題（プラスチックごみ問題）と向き合う、NPO・ボランティアの実践事例（クリーンアップ等）を通して、持続可能性について考える
第 8 回	NPO・ボランティアの実践～事例を通して④	生物多様性と向き合う NPO・ボランティアの実践事例（希少種保全等）を通して、持続可能性について考える

第 9 回	組織と個人 市民社会とは何か	・市民社会とは ・NPO のミッションを実現するための組織構造 ・行政組織や企業組織との違い ・外国にルーツをもつ人たちが抱える問題と向き合う NPO・ボランティアの実践事例（学習支援等）を通して、持続可能性について考える
第 10 回	NPO・ボランティアの実践～事例を通して⑤	子どもの貧困問題、フードロス問題と向き合う NPO・ボランティアの実践事例（フードバンク等）を通して、持続可能性について考える
第 11 回	NPO・ボランティアの実践～事例を通して⑥	・パートナーシップによって課題を解決するとは ・NPO・ボランティアにとってのパートナーシップの概念を理解する
第 12 回	パートナーシップ①	・パートナーシップによって価値を創出するとは ・SDGs のグローバルパートナーシップの概念を理解する
第 13 回	パートナーシップ②	全体を通しての授業の振り返り ・半期を通じて、調べてきた NPO・ボランティア活動の発表 ・補足
第 14 回	授業の振り返りと発表と補足	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
・毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
・各回のレジュメ（パワーポイント資料）配布するので、授業後、各自授業内容を振り返り内容をよく理解し、自分なりの考えを整理してみる。疑問点等があれば、次回授業のリアクションペーパーで提出してください。
・欠席した場合も授業支援システムからレジュメをダウンロードして授業内容を把握しておくこと。
・参考書等で授業内容と関連する内容を読み、考察を深めること。
・各自で、関心のある分野の NPO の事例をインターネット等で調べたり、NPO 支援センターなどで情報収集したり、実際にボランティア参加してみることをお勧めします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。

【参考書】

「基本解説。そうだったのか SDGs」SDGs 市民社会ネットワーク発行 1000円
「市民社会とNPO」かながわ女性会議発行 600円
「知っておきたいNPOのこと基本編」日本NPOセンター発行 500円
その他、授業内でも紹介します。授業で聞くだけでなく、参考書のいずれかを購入するか、各自でNPOに関する本や小冊子を手直し、授業とあわせて理解や考察を深めるようにしてください。

【成績評価の方法と基準】

平常点（参加姿勢、コメントペーパーの内容、授業中の発言など）：40%
テスト・レポート：60%
なお、原則として、4 回以上無断で欠席した者は、成績評価を行わない。講義中のスマートフォンの使用は禁止する（授業改善アンケートへの回答作業は除く）。パソコン・タブレットの使用については許可制とする。ルールを守らない場合は、平常点で減点対象とする。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

・現在も SDGs を達成するために活動している CSO のネットワーク組織で活動をしています。
・また、20 年間、NPO として NPO を支援し、活動を行ってきた経験のもとに、具体的な事例や体験談を交えて授業を行います。
・学生による発表を随時取り入れたいと思いますので、授業計画を一部変更することもあります。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

In this class, we will receive reports from NPO/volunteer practitioners, who understand NPOs and volunteer work from multiple points of view. Through such experiences, students in this class will have opportunities to deepen their understanding of such work and consider how they want to engage with society as citizens.

SOC200HA

フィールド調査論

西城戸 誠

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会調査に限らず、「調べる」ことは私たちが日常的に行って営みであり、物事を多様な方法で知ることは、個人にとっても社会にとっても重要なことである。本講義では、社会調査に関わる基本的な知識、技術を習得することによって、「調べる」ことの重要性、社会科学の基本的な考え方、量的調査・質的調査の方法論、調査倫理を学ぶ。仮説の設定、調査票の作成、リサーチデザインの作成については受講者を個別に指導する。さらに方法論の観点から実証研究を評価する視点を学び、現代の社会について主体的に考察する方法を講義する。

【到達目標】

さまざまな社会調査の基本的な知識、技術について修得をすることが授業の到達目標である。社会科学の基本的な考え方、社会調査や調査倫理といったリサーチリテラシーに加えて、メディアリテラシーの基礎も学習し、現代の社会について主体的に考察する力を涵養する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

社会調査に関する知識、技法についての講義が中心であるが、受講者のグループワークまたは個人的な作業も同時に実施する。

【本講義は4/27（月）から開講する。オンライン授業で実施する。詳細については、学習支援システムを参照のこと。なお、定員制であるため、学習支援システムで指示を見ること】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	社会調査とは何か（1）社会調査の概要	本講義の内容についてのガイダンスと、受講者の選抜等を実施する。また、社会調査とは何か、その歴史的展開と学ぶ意義を講義する。
第2回	社会調査とは何か（2）問題関心と「問い」	社会調査における問題関心と「問い」の作り方について講義する。
第3回	社会調査とは何か（3）社会調査のための情報収集	社会調査を企画・設計するための既存資料へのアクセス法と活用術について説明する。
第4回	社会科学の方法の基礎（1）－「説明」「記述」	社会調査における「記述」と「説明」について講義する。
第5回	社会科学の方法の基礎（2）－「因果関係」「仮説」	「概念」、「変数」、「因果関係」、「仮説」などについて講義する。
第6回	量的調査入門（1）－サンプリングの原理	サンプリングの考え方、原理について講義する。
第7回	量的調査入門（2）－量的調査の一連の流れを学ぶ	調査の企画・設計と調査票作成のプロセスを説明する。
第8回	量的調査入門（3）－仮説から調査票を作成する	仮説の設定と、概念の操作化を経て調査票を作成するプロセスを学ぶ
第9回	量的調査入門（4）－ワーディングと調査票作成	ワーディングを学び、調査票を具体的に作成する。
第10回	フィールドワーク入門（1）－質的調査の概要	フィールドワークの発展とデータ収集の手法について講義する。
第11回	フィールドワーク入門（2）－インタビューの技法	インタビューの種類と実践について講義する。
第12回	フィールドワーク入門（3）－質的データの整理	参与観察法とアクション・リサーチについて講義する。
第13回	フィールドワーク入門（4）－質的調査の実践から方法を学ぶ	質的調査の具体例から、質的調査の方法を実践的に学ぶ。
第14回	2つの調査方法論の比較	量的、質的調査の相違点を整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容に関する復習を行い、次回の講義内容に備えること。また、課題に対してグループワークまたは個人的な作業を求める。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布
佐久間充, 1984, 『ああダンブ街道』岩波新書。

【参考書】

宮内泰介, 2004, 『自分で調べる技術』岩波アクティブ新書。
高根正昭, 1979, 『創造の方法学』講談社現代新書。

【成績評価の方法と基準】

平常点・講義中の課題（50%）、最終レポートの提出（50%）

【学生の意見等からの気づき】

教員の滑舌の悪さは先天的なものであるため、改善しづらいのであるが、改めてお詫びしたい。また、講義内容の分量が多く、話し方が早口になってしまいう点も、内容を厳選することで可能な限り対処したい。

【学生が準備すべき機器他】

場合によってはPCを用いることがある。その際には事前に貸し出しをしておくか、自前で準備しておくこと。

【その他の重要事項】

本講義の定員は30名前後である。受講希望者は第1回目の講義で決定する。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to acquire basic knowledge and skills related to social research. In addition, students will deepen their understanding of the importance of "examination", the basic concept of social science, methodologies for quantitative and qualitative research, and research ethics.

SOC200HA

フィールド調査論

廣本 由香

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、社会調査とは何かを学び、調査に必要とされる知識や技法を身につけることを目的とする。講義では、第一に、社会調査の考え方や調査計画、調査法、調査倫理を学び、調査・研究を遂行させるリサーチリテラシーを高める。第二に、情報を伝達する媒体（メディア）を使いこなすメディアリテラシーの基礎を学習することで、既存のデータや先行研究からわかることには限りがあることを理解する。第三に、メディアの機能を理解し、多様な形態のメディアへアクセスして情報を入手し、その情報を批判的に分析し、その情報から論理的あるいは創造的に表現して行動する能力を練磨する。第四に、リサーチ・クエッションと仮説の設計を通して社会のなかにある「問い」について考察する力をつける。

【到達目標】

学生の到達目標は次のとおりとする。

- (1) リサーチリテラシーとメディアリテラシーを習得する
- (2) リサーチクエッションと仮説を設計する
- (3) 調査企画・設計を行う

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

この講義ではレジュメを使った講義形式を中心に進めるが、グループワークまたは個人作業も同時に実施する。そのため特別な事情を除いて欠席しないことが受講条件となる。また、履修者数の状況を見て、フィールドワーク（学外での実習等）を実施する計画である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	講義のガイダンス	講義のねらいと進め方、成績評価について説明する。（受講希望者が定員数を超えた場合は選抜を実施）
第2回	社会調査とは何か（1） 社会調査の基礎的知識	社会調査の定義、社会調査を学ぶ意義、社会調査の歴史的展開、リサーチリテラシーについて解説する。
第3回	社会調査とは何か（2） 文献・資料調査	書籍や論文の探し方、資料や統計データの探し方、新聞記事・インターネット記事の活用方法を解説する。
第4回	社会調査とは何か（3） リサーチクエッションの 作り方	社会調査における問題関心の明確化とリサーチクエッションの作り方を説明する。
第5回	社会調査とは何か（4） 社会調査の基礎	社会調査における「記述」と「説明」、「概念」、「仮説」を解説する。
第6回	調査方法論の概説（1） 量的調査法	調査票調査の方法、種類、プロセスにかんする基本的解説を行う。
第7回	調査方法論の概説（2） 質的調査法	質的調査の基本的知識、働き、留意点を説明する。インタビュー調査、参与観察法、ドキュメント分析にかんする基本的解説を行う。
第8回	フィールドワーク入門 （1）フィールドワークとは何か	フィールドワークの意義や必要性、データの収集方法、調査倫理を解説する。
第9回	フィールドワーク入門 （2）インタビュー調査の 技法	インタビューの種類や方法、メリット・デメリット、注意点について解説する。ライフ・ストーリー法を説明する。
第10回	フィールドワーク入門 （3）参与観察法	参与観察法の考え方や技法、調査の特質を解説する。参与観察法を用いた研究事例やドキュメンタリー番組を紹介する。
第11回	演習（1）設計	質的調査のプロセス（調査デザイン・実査・分析・報告）を解説する。グループワークをととして調査設計を立て、検討する。
第12回	演習（2）実査	受講生同士でインタビュー調査を実査し、グループワークで方法や内容を検討する。
第13回	演習（3）データの整理・分析	インタビュー調査で得られたデータの整理と分析法を解説する。グループワークないし個人作業をととして分析の仕方を検討する。

第14回 演習（4）報告

調査報告について解説する。社会調査の意義と調査者の倫理を中心に講義の総括を行う。最後に、期末レポートの課題内容について説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回の講義にそなえ、配布したレジュメや資料等を使用して講義内容の復習をおこなうこと。また、講義内でグループワークや個人作業をおこなうので、授業外でも各グループないし各自で課題の準備を進めてもらうことがある。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは用いらず、講義時に配布するレジュメを使って授業を進める。

【参考書】

大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松洋編、2013、『新・社会調査へのアプローチ：論理と方法』ミネルヴァ書房。

宮内泰介、2004、『自分で調べる技術』岩波アクティブ新書。

桜井厚、2002、『インタビューの社会学——ライフストーリーの聞き方』せりか書房。

【成績評価の方法と基準】

講義内の課題と小テスト（60%）、期末レポート（40%）

【学生の意見等からの気づき】

講義内でのグループワークや個人作業の時間を十分に確保できるよう、時間配分や調整の改善を行う。

【学生が準備すべき機器他】

講義でPCを用いることがあるため、その際は各自で用意すること。

【その他の重要事項】

受講者数に制限があるため、希望者が定員を超えた場合は選抜を行う。講義内でグループワークを実施するため、欠席しないことが受講条件である。また、授業態度が悪い学生には減点措置を行い、教室から退出してもらおう。特に、学生同士のおしゃべりやスマホ・ゲーム、動画視聴を禁止する。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

In this lecture, you learn about social research and acquire the knowledge and techniques for research.

SOC200HA

社会統計論

藤本 隆史

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

In this class, you will learn the basics of statistics, which include how to read and use data. Also, the basics of data analysis will be introduced, using statistical software, such as Excel.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会では様々な統計調査が行われており、その結果が報告されているが、この講義では、そのような調査結果の読み方や利用の仕方とともに、実際に統計ソフトを使ってデータの集計・分析の方法を学習する。

【到達目標】

調査計画からデータ分析に至るまでの統計調査における一連のプロセスを理解する。データ分析においては、クロス集計の方法など基礎的な統計処理の手順を習得する。統計解析ソフトで集計・分析していると、ただ手順に従って結果を出すだけになりがちだが、分析の目的（何を比べているのかなど）や分析の意味（どのようにしてその分析が行われているのかなど）を理解した上で適切な集計・分析を行えるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

統計処理の仕組みの説明を行い、それに基づいてデータの集計・分析を行う。データの集計・分析には、エクセルなどを用いる。基礎的なデータ処理の手法を中心とし、高度な統計処理は行わない。

※春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月28日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する予定。ただし、4月28日は、授業概要および授業の進め方の説明とし、授業内容に入るのは、5月12日からとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	講義ガイダンス	授業概要の説明を行う
第2回	社会統計とは何か	社会統計の種類や、政府統計など既存の統計データの探し方や利用方法などを学ぶ
第3回	データとは何か	データの種類や、統計データの収集方法（手順）などを学ぶ
第4回	基礎統計	平均値や標準偏差など記述統計の算出方法を学ぶ
第5回	確率分布について・データの加工	確率分布の考え方や、値の再割り当てなどデータの加工の方法を学ぶ
第6回	統計的推定について	標本統計量による母数の推定（点推定・区間推定）の考え方を学ぶ
第7回	統計的検定について	統計的検定の考え方を理解する
第8回	クロス集計表の作成	クロス集計の考え方や作成方法を学ぶ
第9回	カイ2乗検定	クロス集計表を使った離散変数間の検定や関連の測定方法を学ぶ
第10回	平均値の差の分析	t検定や分散分析など平均値の差の分析方法を学ぶ
第11回	相関係数	連続変数間の関連の測定と分析方法を学ぶ
第12回	回帰分析	連続変数間の因果関係の分析方法を学ぶ
第13回	集計結果のまとめ方	集計結果を利用・加工する方法を学ぶ
第14回	まとめ	統計データの収集から分析に関する手順などを整理する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義時に適宜紹介する。

【参考書】

向後千春、2007、『統計学がわかる：ハンバーガーショップでむりなく学ぶやさしく楽しい統計学』技術評論社。
その他、講義時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回、授業内で作業した結果（ファイル）を提出する（20%）。データ分析に関する複数の課題（統計処理の基礎的な計算・集計および結果の読み方）の提出を求める（30%）。また、学期末に統計調査のプロセスやデータ分析に関するペーパーテストを行う（50%）。

【学生の意見等からの気づき】

分析手法の理解と習得のために、より多くの具体的な分析作業を行う。

SOC200HA

ファシリテーション論

鈴木 まり子

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人が何か目的をもって集ったとき、お互いの違いを厄介な問題としてではなく、新たな創造のための豊かさとして活かすには、皆が安心して参加できる場づくりが必要です。人は自ら関わっていく中で、他人事だった課題も自分事となり、主体性を発揮し始めます。この授業では、様々な課題が山積みの現代において、会議やワークショップや組織変革の現場で、対話を育み共創や協働を促進する参加型の場づくりのためのコミュニケーション技法「ファシリテーション」を取り上げます。

【到達目標】

この授業では、会議、ワークショップなど参加型の場におけるファシリテーションに対する知識と手法を身につけることを目的とします。ファシリテーションの定義や効果が理解でき、会議、ワークショップ、話し合いを有意義に進めることができるスキルを理解しうえて、実践できるようになります。また、演習を通して、対話や議論のスキルを身につけることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習システムでその都度掲示する。本授業の開始日は5月12日（火）とする。この授業は、オンラインビデオ会議システムZoomを使い双方向で行う予定である。授業開始日までを含めて、具体的なオンライン授業の方法は、学習支援システムで掲示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オンラインでの参加型授業の進め方 オンライン授業は5月12日開始	オリエンテーション（授業の進め方） 【講義】 オンラインでの参加型の場が求められる背景。ワークショップとファシリテーションとは。【演習】 チェックイン
2	参加型の場をつくる3つの必須条件①事前準備のポイント「場づくり」	【講義】 場づくり・場づくりの基本や空間のデザインについて。 【演習】 場づくり体験
3	参加型の場をつくる3つの必須条件②事前準備のポイント「プログラム」	【講義】 プログラムデザインとプロセスについて。【演習】 広げる手法・収束する手法
4	参加型の場をつくる3つの必須条件③事前準備のポイント「ファシリテーター」	【講義】 ファシリテーターについて。 【事例紹介】 ファシリテーターの実践事例の紹介
5	ファシリテーターに求められる技術①オリエンテーション	【講義】 オリエンテーションのOARRとは。【演習】 アウトカムを考えるワーク
6	ファシリテーターに求められる技術②アイスブレイク	【講義】 アイスブレイクとは。【演習】 アイスブレイクの体験
7	ファシリテーターに求められる技術③傾聴と問いかけとグループサイズ	【講義】 ファシリテーションにおける傾聴と問いかけとグループサイズとは。【演習】 質問会議
8	ファシリテーターに求められる技術④グラフィックとタイムキープ	【講義】 グラフィックとタイムキープとは【演習】 ファシリテーショングラフィック
9	プログラムデザイン① プログラムデザインの手法を学ぶ	【講義】 プログラムデザインとは【演習】 プログラムデザインを考えるワーク①
10	プログラムデザイン② ワークショップを企画する	【演習】 プログラムデザインを考えるワーク② グループに分かれてワークショップのテーマを話し合う
11	7回目に統合	7回目に統合
12	8回目に統合	8回目に統合
13	9回目に統合	9回目に統合
14	10回目に統合	10回目に統合

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。今、現在、身近にある話し合い（サークル、ゼミなど）や参加したワークショップは、どのような場になっているか意識してきてください（楽しい、有意義、つまらないなど）本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要な資料を事前に配布します。授業では、テキストを予習していることを前提に進めます。

【参考書】

「ワークショップ」中野民夫 新しい学びと創造の場 岩波書店（岩波新書）
「ファシリテーション革命」中野民夫 岩波アクティブ新書「チームビルディング」堀公俊他 日本経済新聞出版社「ワークショップ入門」ロバート・チェンバース 明石書店「ワールドカフェ」カフェの会話が未来を創る～: アニータブラウン/デイビッドアイザックス ヒューマンバリュー

【成績評価の方法と基準】

演習への参加度とレポートによって総合的に評価します。前者は、態度だけではなく、振り返りシートに意見・感想を記入してもらい、これも評価対象とします。

演習への参加度 30 %、振り返りシート 10 %、レポート 20 %、期末試験 40 %

【学生の意見等からの気づき】

ファシリテーションの意義や効果に関して事例を知りたいという意見がありましたので、事例を多く取り上げる予定です。

【その他の重要事項】

◎オンラインでの演習を中心とした授業です。

◎RSP生は、本科目は履修不可。火曜2限のファシリテーション論を受講すること。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

鈴木まり子ファシリテーター事務所代表。企業・自治体・NPO等において、会議、ワークショップ等のファシリテーターの実務経験あり。それに関連して、多様な分野の事例をもとに、ファシリテーションに対して具体的なイメージをもつことができる授業を行う。

【Outline and objectives】

Today, where various issues are piled up, when people gather for the purpose of solving the problem, we need to consider place-making where everyone can participate safely and comfortably in order to respect the differences between each other and make use of it as the wealth for new idea and creation.as people are involved in themselves, the issues that are other people's affairs become their own things, and people start to demonstrate their initiative.in this course, we will learn the "facilitation," as communication skills and mind for creating participatory place-making which can encourage dialogue and promote collaboration at conferences, workshops and organizational development process.

SOC200HA

グローバル・コミュニケーション

ESTHER STOCKWELL

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course focuses on basic communication skills in personal and social environments (local), as well as in international and multicultural environments (global). Cultural constructs are analysed in an individual's culture of origin and in a range of other similar and dissimilar cultures. The cultural roots of reality are seen as deriving from the effects of religious, family and historical world views. Language, non-verbal communication, social customs and expected patterns of relationships are examined in relation to interpersonal, business, educational and political situations. This course has been designed to give students an overview of intercultural communication and to stimulate further independent learning.

【到達目標】

The aims of the course are:

- to give students opportunities to better know themselves, their values and biases, and to develop an awareness of how these factors influence intercultural environment.
- to enable students to identify culturally learned assumptions and behaviours.
- to enable students to explore specific cultural group information and relate that knowledge to culturally learned awareness.
- to enable students to understand theoretical issues relevant to the study of intercultural communication.
- to develop the process of cultural adaptation.
- to promote positive attitudes towards the culturally different and to develop intercultural communication competence.

Through this course, students will be able to prepare for their professional lives not only in their domestic society but also in an international society. Students entering the fields of business, teaching, social services and tourism will have opportunities to apply their skills in daily contacts with culturally different client groups.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

Classes will consist of lectures followed by group and class discussions on the concepts covered in the lectures. In addition, students will be required to prepare for class by reading assigned articles on the topics that will be discussed in the following class. Classes will consist of a series of short lectures and other video materials, followed by group and class discussions on the concepts covered in the lectures and videos. In addition, students will also gain skills in academic writing including research techniques and oral presentation skills.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Orientation	Overview of the course, online activities, and overview of global and local (glocal) communication
第2回	Essentials of Human Communication: What and how	Definition of communication / Types of communication / Models of communication / The goal of studying communication
第3回	The Challenge of Intercultural Communication I: Culture and Communication	Why we study intercultural communication / What is culture? / Characteristics of culture
第4回	The Challenge of Intercultural Communication II: Culture and Communication	Culture and our perceptions, values, attitudes, beliefs / Problems in intercultural communication
第5回	Understanding Diverse Cultures	Various different cultural patterns/ Hofstede's characteristics of culture / Hall's theory of low and high context cultures

第6回	Understanding Diverse Cultures	Various different cultural patterns/ Hofstede's characteristics of culture / Hall's theory of low and high context cultures
第7回	Language and Culture: Words and Meaning	Language and intercultural communication / Language and culture
第8回	Non-verbal Communication: The Messages of Action, Space, Time, and Silence	Functions of non-verbal communication / Definition and types of non-verbal communication / Non-verbal communication and culture
第9回	Culture Shock	Definition of culture shock / The stages of culture shock / Effects of culture shock
第10回	Potential Problems in Intercultural Communication	Seeking similarities/ uncertainty reduction/ stereotyping/ prejudice/ racism/ ethnocentrism and power
第11回	Cultural Influence on Context I: The Business Setting & the Educational Setting	Culture and context / Communication and context / Intercultural communication and the business context
第12回	Cultural Influence on Context II: The Business Setting & the Educational Setting	The multinational business context - cultural views toward management
第13回	Intercultural Changes: Recognizing and Dealing with Differences	Becoming intercultural competent / The future of intercultural communication
第14回	Written Assignment / Take Home Exam / Class Evaluation	Students submit their written assignment and are instructed on how to do their take home exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students need to prepare for and review each session by using textbooks, references, and distributed materials.

Students are expected to read reference materials for the next class. In addition, they need to write online forum postings after each class for review purposes. Therefore, students are expected to take about four hours for preparation and review a class.

【テキスト（教科書）】

There is no specified textbook for this course. Handouts will be provided in class.

【参考書】

Jackson, Jane. (2014). Introducing language and intercultural communication. Routledge.
James W. Neuliep. (2014). Intercultural Communication: A Contextual Approach (6th Edition). SAGE Publications.
Larry A. Samovar, Richard E. Porter and Edwin R. McDaniel. (2014). Intercultural Communication: A Reader (14th Edition). Wadsworth Publishing.

【成績評価の方法と基準】

Assessment will consist of in-class participation (40%), a group project (20%), two short written assignments (20%), and a take-home exam (20%).

* Note that students who miss 4 classes or more cannot pass this subject.

【学生の意見等からの気づき】

There were no particular requirements for this course from students. However, I would like this course to enable students to apply what they learnt in class to their daily lives through questioning general phenomena in their lives.

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This course focuses on basic communication skills in personal and social environments (local), as well as in international and multicultural environments (global). Cultural constructs are analysed in an individual's culture of origin and in a range of other similar and dissimilar cultures. The cultural roots of reality are seen as deriving from the effects of religious, family and historical world views. Language, non-verbal communication, social customs and expected patterns of relationships are examined in relation to interpersonal, business, educational and political situations. This course has been designed to give students an overview of intercultural communication and to stimulate further independent learning.

ADE300HA

地域形成論

小島 聡

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域の持続可能性に関する高度な学習への入門として、様々な視角から地域について検討する。特に、地域学のイメージ、地域に関する近現代史と現在の課題、ローカルキャリアとローカルプロジェクト、21世紀の都市コミュニティ、新たな実践としてのソーシャルイノベーションやソーシャルデザインについて取り上げる。この授業の目的は、学生が地域学の基礎について学びながら、自分のキャリアを考えることである。

【到達目標】

学生の到達目標は以下のとおりである。

- ・高度な専門学習に必要な地域に関する広い視野、基礎教養を身につける。
- ・現代の地域課題の発見、課題解決に関する思考力を身につける。
- ・地域を手がかりとした現代社会のリテラシーを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は、配布資料、パワーポイントに基づく講義を中心として、適宜、授業内において、学生とのコミュニケーションを図る。またゲストスピーカーによる最新の情報提供と対話も組み合わせる。さらにリアクションペーパーやミニレポートを活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業のオリエンテーションとともに、持続可能な地域社会に貢献する地域学のイメージについて検討する。
第2回	「地域」とは？	空間スケールや時間スケール、アクターなど、「地域」をとらえるための様々な視角を確認する。
第3回	地域と記憶	人々の生活史（個人的記憶）と地域史（社会的記憶）の関係性について検討する。
第4回	地域へのまなざし	いくつかの地域の動向を取り上げながら、現代の地域が抱える課題や可能性を俯瞰する。
第5回	ローカルキャリア	地域にコミットする人間のキャリアについて、ゲストを招いて考える。
第6回	地域から読み直す近現代	主に19世紀後半から20世紀後半までの地域形成の近現代史を回顧する。
第7回	都市・郊外の軌跡と未来	地域形成の近現代史の各論として、都市化・郊外化に焦点をあて、さらに、21世紀前半の状況について検討する。
第8回	過疎地域の内発的発展	持続可能な農山村に向けた内発的発展論と近年の動向について検討する。
第9回	過疎地域の挑戦	持続可能な農山村に向けた地域実践のケースについて検討する。
第10回	21世紀の都市コミュニティ問題	高齢社会、格差社会、多文化共生社会など、いくつかの視点から21世紀の都市コミュニティ問題について検討する。
第11回	都市コミュニティの再創造	都市コミュニティに関する地域実践の動向について検討する。
第12回	ローカルプロジェクトの最前線	地域づくりに関する最新のケースについて検討する。
第13回	地域のソーシャルイノベーション・ソーシャルデザイン	地域実践に関するソーシャルイノベーションやソーシャルデザインについて検討する。
第14回	あらためて地域に向かい合うということ	授業を総括しながら、地域に向かい合うことについて自分事として再考する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は以下の授業時間外の学習を行う（この授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする）。

- ・配布資料を参照しながら自らのノートを整理する。
- ・授業中に指示した事項について調査する。
- ・ミニレポート等の演習課題を作成する。
- ・参考文献を読む。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しない。

【参考書】

参考文献は、授業中に適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績は、論述試験（80%）＋参加姿勢（5%）＋ミニレポート（15%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

- ・身近でありながら、日常においてあまり意識することがない地域について考える機会になるようです。
- ・日々、報道される地域に関する出来事は、現代社会の様々な課題と関係しているため、地域に関する学習を通して、時事問題に関するリテラシーを身につける機会になるようです。
- ・さらに、地域をめぐって考え、対話し、ワークする方法と機会を模索していきたいと思います。

【その他の重要事項】

- ・ローカル・サステイナビリティコースおよび人間文化コースのコースコア科目・基幹科目として、コース履修の導入的かつ基盤的な位置にあるため、2つのコース登録者または履修予定者の履修を強く推奨します。
- ・ローカル・サステイナビリティコースの他のコースコア科目、または人間文化コースの地域に関するコースコア科目とあわせて履修することを強く推奨します。
- ・ローカル・サステイナビリティコースと人間文化コース以外にもサステイナブル経済・経営コースなどでも、地域に関するテーマと関連する部分が多いので、それらのコースの登録者や登録予定者にも履修を推奨します。
- ・登録コースにかかわらず、どこかの地域で生活する現代人の基礎教養としての履修を推奨します。

【関連深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【Outline and objectives】

The objective of this course is to provide an introduction to the advanced studies about “Sustainable community”. Especially, we will examine the various themes, such as the image of local studies, “Local career” and “Local project”, the modern history and the present agenda of community, the urban community in the 21st century, “Social innovation” and “Social design” as new practice. The purpose of this course is for students to consider one’s career while learning about the foundation of local studies.

ECN300HA

地域経済論

湯澤 規子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では地域経済の基盤である産業とその担い手に焦点を当てて、地域の経済発展の基礎と論理について論じます。

【到達目標】

拡大するグローバル社会の中では、国家経済的な視点だけでなく、地域の主体性（ローカル・イニシアティブ）も同時に求められています。本講義では①地域の経済理論、②事例分析にもとづいた昨今の課題を通して、地域の経済に対する具体的な分析能力と企画立案能力を習得し、サステイナブルで豊かな地域社会のありかたについて考えることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

地域の経済に関する理論と実践について学びます。受講者からのリアクションペーパーを活用し対話型の講義を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	「地域経済」とは何か、「豊かさ」とは何か、今なぜ地域経済を考えるのか
第2回	日本の地域構造	データ（人口・家族・所得・産業など）からみた地域経済と地域構造
第3回	地域経済を支える基盤	地域の環境・経済・社会・文化的側面から地域経済を読み解く
第4回	第一次産業（1）ぶどうとワインからみた地域経済	山梨県甲州市を事例として地域経済の展開について考える
第5回	第一次産業（2）地域づくりの実践と理論	ワインの共同醸造、観光果樹園、住民イベントから地域づくりを考える
第6回	第一次産業（3）持続的 社会と地域産業の役割	熊本県水俣市の甘夏生産組合の歴史と現状から環境配慮型地域産業と「内発的発展論」について考える
第7回	第二次産業（1）日本経済と地域産業	産業地域社会論について考える
第8回	第二次産業（2）伝統織物生産地域の構造と展開	ライフヒストリーからみた小規模家族経営と日本経済について考える
第9回	第二次産業（3）在来的 経済発展論の射程と課題	地域の経済発展とは何か？ 在来と近代から「複線的発展論」を考える
第10回	第三次産業（1）商店街 からみた地域経済	商業と地域の経済について考える
第11回	第三次産業（2）まちづくりの実践と理論	千葉県酒々井町、茨城県取手市などを事例として社会的企業の実践と理論について考える
第12回	第三次産業（3）住民組織のネットワーク	非営利経済セクターの活動事例と組織化について考える
第13回	まとめ（1）地域の経済 についての比較研究	日本と海外の比較研究を通して、モデルビジネス、コミュニティビジネスについて考える
第14回	まとめ（2）地域の主体性（ローカル・イニシア ティブ）の可能性	地域の主体性とは何か。その意義と可能性について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。「地域」や「産業」に関わる新聞記事、雑誌、小説、映画、ニュースなどに関心を持ち、可能であれば実際に足を運んだり、食べたり、五感を通して体験してみてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義で配布する資料を用います。

【参考書】

・『在来産業と家族の地域史—ライフヒストリーからみた小規模家族経営と結城紬生産』（単著、古今書院、2009年）
・「ジェンダーから再考する地域と人間」『サステイナビリティ—地球と人類の課題』朝倉書店、2-18年、104-113頁
・「地域づくりの系譜—山梨県甲州市の基六桜とかつめ朝市」『歴史地理学』58(1)、2016年、57-72頁
・その他、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（用語説明 50%、論述 50%程度）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

受講生同士の考えを知ることで講義内容が深まりました。引き続き毎回配布するリアクションペーパーを通して、相互的な講義を展開していきます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

特にありません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

In this lecture, we will focus on regional economic activities and their workers, which is the foundation of the regional economy, and discuss the foundation and logic of the regional economy.

SOC300HA

地域福祉論

宮脇 文恵

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水3/Wed.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1. 自らが「地域住民」として、地域を「暮らしたい場所」とするための、住民参画と主体形成について学ぶ。
2. 地域において、誰もが仲間はずれにされないための技法について学ぶ。

【到達目標】

人は誰もが、幸せでありたいと漠然と願っている。それは、自分が暮らしたい場所で、豊かな人間関係に囲まれ、他者から必要とされ、充実した毎日を送り、「生きてよかった」と思えるようになることであろう。その一方で、「幸せになれなくても仕方がない」とされるマイノリティが存在する。

地域福祉は、地域に暮らす一人一人が「幸せだ」「生きてよかった」と思えることであり、そのためには、住民自身が「我が町を、住んで都にする」という意識を持ち、自分ができることを働きかけていくことが求められる。

本講義では、そのための基礎的な知識として、福祉的なニーズを抱える人々に対する理解と、地域に存在する社会資源、助け合う方法などについて理解を深めていく。そのことをもって、自らが地域社会に働きかけていく意識を醸成し、実践していく力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

地域福祉とは、「地域に暮らす一人一人が幸せになることであり、そのためのしくみをつくり、お互いに働きかけ合っていくこと」である。では、どんな人が大変な思いをしているのか、どうすれば自分らしく暮らしていくことができるのか。子ども・障害のある人・高齢者・貧困など生活困窮者・制度のはざまにあってサービスを使えない人（ゴミ屋敷、ひきこもり、LGBT、外国人移住者など）への理解を深め、地域で支え合うための技法と、地域社会を変革していく福祉教育実践や地域福祉計画について学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス～講義の概要とポイント～	講義の概要・予定と授業におけるルールの確認
第2回	地域福祉とは何か	地域福祉の理念を学び、国際生活機能分類（ICF）に基づいて、「本人と他者（地域社会）との関わり」を考える。「どんな人でも社会から仲間はずれにしないで、社会の方を変えていく」というノーマライゼーションと、お互いを地域社会の中で認め合って共存していく「ソーシャルインクルージョン」についてまなぶ。
第3回	ノーマライゼーションとソーシャルインクルージョン	
第4回	町に暮らす人々(1)～認知症と地域社会～	認知症高齢者、若年性認知症当事者の事例から、認知症への理解と地域社会の関わりを考える。
第5回	街に暮らす人々(2)～高齢者と地域社会～	介護保険と高齢者を取り巻く現状をとりあげ、地域社会の関わりを考える。
第6回	街に暮らす人々(3)～子ども・家庭と地域社会①～	児童虐待を中心としてとりあげ、地域社会の関わりを考える。
第7回	街に暮らす人々(3)～子ども・家庭と地域社会②～	子どもの愛着形成・社会的養護とそのアフターフォロー、子ども・家庭の貧困をとりあげ、地域社会との関わりを考える。
第8回	街に暮らす人々(4)～生活困窮者と地域社会～	野宿生活者の現状と社会の偏見、地域における支援の取り組みについて学ぶ。
第9回	差別と偏見を見つめる	ナチスによる障害者虐殺、日本におけるハンセン病患者隔離政策などから、地域における差別の歴史を学ぶ。
第10回	街に暮らす人々(5)～障害者と地域社会①～	これまで差別されてきた障害のある人について、身体障害・知的障害を中心に地域社会との関わりを考える。
第11回	街に暮らす人々(5)～障害者と地域社会②～	これまで差別されてきた障害のある人について、精神障害・発達障害を中心に地域社会との関わりを考える。
第12回	街に暮らす人々(6)～LGBTと地域社会～	15人に1人と言われるLGBTへの理解と、地域社会で共に生きる方策を探る。

第13回 地域福祉の推進主体～社会福祉協議会、社会福祉法人、NPO、民生委員・児童委員、保護司

住民の福祉意識、在宅福祉サービスの構造、地域福祉の主体形成、福祉教育と教育福祉、福祉教育の展開における留意点地域福祉を推進する中心的な団体について、学ぶ地域福祉を推進するNPO、地域の期待される人材について学ぶ地域福祉の主体形成、見直しを立てて地域を作る計画のあり方を学ぶ。住民参画の方法として、福祉教育と地域福祉計画をとりあげ、住民の福祉意識の醸成と、見直しを立てて地域を作る計画のあり方を学ぶ留意点を学ぶ。また、地域住民の身近な支え合いとして、ソーシャルサポートネットワークについて学ぶ。

第14回 地域福祉推進における住民参画～福祉教育、地域福祉計画、ソーシャルサポートネットワーク

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。視聴覚教材を多用し、その際に、合計2～3回、小レポートを執筆します。高齢者、子ども連れの親子、障害のある人などを始めとして、野宿者、ひきこもり、性的マイノリティ、外国人など、社会の中で居づらさを感じる人たちが実はたくさんいます。通学、生活の中で、関心を抱いて、目を向けてみてください。メディアの中の話もチェックしましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。適宜資料を紹介していく。

【参考書】

くさか里樹『ヘルプマン！』1～27巻（講談社）、『ヘルプマン！！』1～10巻（朝日新聞）
さかたのり子・穂実あゆこ『児童福祉司一貫田逸子』（青泉社）
柏木ハルコ『健康で文化的な最低限度の生活』（小学館）他
随時、授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（遅刻は授業開始後30分まで受付、ただし、公共交通による遅延は認める。また、退室は欠席とみなすが、体調不良や事情がある場合などは、相談に応ずる）が30%、途中に取り入れる小レポート（主に映像に関するもの）が20%、リアクションペーパーへの記述に授業に関する自分の考えが書かれていること10%、学期末レポート40%とする。

【学生の意見等からの気づき】

視聴覚教材については、古典的な教材と、さらに新しい視聴覚教材を合わせて活用する。

【学生が準備すべき機器他】

配布した資料は、その時間だけではなく、その後の授業でも振り返りながら使うので、地域福祉論用のファイルを用意して、必ず日付を明記して綴じておいてください（あとからいただく「いつ配布されたか教えてほしい」という声には答えません）。レポートの提出は、かなり早いうちから授業支援システムを使用しますので、使えるようにしておいてください。

【その他の重要事項】

毎回、授業についてリアクションペーパーを記入していただき、そのご意見を反映して授業を展開することもあります。そのため、シラバスの順番が入れ替わったり、新たな項目が加わることもあります。授業内容の記録は、原則的に各自ノートへの手書きとします。タブレット、PCを使用したい学生は、第1回目の授業時に、申し出てください。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This is a course on local welfare community. We deepen our understanding of difficulties of children, people with disabilities, elderly people, poor people and people who cannot use adequate social service in between different institutions/social services (such as inhabitants of "garbage residence", "hikikomori" (isolating oneself from society), LGBT, foreign migrants etc.). Students will learn the techniques to support those people and analyze the welfare education practices and regional welfare plans that will transform the community.

SOC300HA

地域コモンズ論

船戸 修一

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講semester：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 6/Fri.6

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「草原・森林・牧草地・漁場などの資源を共同で利用・管理する仕組み」または「共同で利用・管理する資源そのもの」は「コモンズ」と呼ばれる。この授業では、具体的な事例から、このような資源がどのように利用・管理されてきたのか、そして現在どのような利用・管理状況にあるのかを説明する。そのうえで今後の地域社会における自然環境や資源の共同利用・共同管理のあり方について考える。

【到達目標】

まず、コモンズ研究がどのような背景で成立し、どのように発展してきたのかを理解する。次に、様々な地域資源やそれに関する実践活動から資源の持続可能な利用や地域社会の持続可能性について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、主に講義形式で進める。また授業内容についてのリアクションペーパーを授業終了後回収する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	コモンズとは何か？ (1)	コモンズの定義について説明する。
第2回	コモンズとは何か？ (2)	コモンズ研究がどのような実践的課題を背景に進められてきたのかを説明する。
第3回	地域社会と資源	日本の農山村と地域資源との関係性について説明する。
第4回	日本のコモンズ (1) 入会地	入会地の利用・管理の歴史的経緯ならびにその現状について説明する。
第5回	日本のコモンズ (2) 農業用水	農業用水の利用・管理の歴史的経緯ならびにその現状について説明する。
第6回	日本のコモンズ (3) 棚田	棚田の利用・管理の歴史的経緯ならびにその現状について説明する。
第7回	日本のコモンズ (4) 里山	里山の利用・管理の歴史的経緯ならびにその現状について説明する。
第8回	人と野生動物 (1) マタギ	狩猟を生業とするマタギの自然観を踏まえ、人間と自然のかかわりについて説明する。
第9回	人と野生動物 (2) 獣害と狩猟	野生動物による農業被害問題を踏まえ、狩猟による動物資源の利用・管理について説明する。
第10回	限界集落と集落維持	「他出子」という人的資源も「コモンズ」に位置づけたうえで、その資源による農山村維持の可能性について説明する。
第11回	グローバルなコモンズとその利用・管理 (1)	グローバル化による食料の不平等分配を踏まえ、食料の生産・消費について説明する。
第12回	グローバルなコモンズとその利用・管理 (2)	資源枯渇が危惧されるウナギ・マグロ・クジラなどの現状を踏まえ、漁業資源の利用・管理について説明する。
第13回	コモンズ研究の整理	今後のコモンズ研究の可能性と課題について説明する。
第14回	「コモンズ論」のまとめと振り返り	これまでの授業内容を振り返り、それを再確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後は、授業内容や配布プリントの内容について復習しておくこと。そのうえで、授業で紹介した参考書や授業内容に関する文献を読むなど自主的な学習を望む。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。毎回、プリントを配布する。

【参考書】

参考文献は授業で毎回紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末に提出するレポートの内容を90%、授業後に課すリアクションペーパーの内容を10%として評価する。なお受講者の人数次第では評価方法を変更することがある。

【学生の意見等からの気づき】

積極的な授業参加と授業理解を促すために、毎回授業終了後にリアクションペーパーを課したい。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This class engages with studies on “commons.”

ADE300HA

都市環境論 I

難波 匡甫

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/ Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間と環境の時代における望ましい都市環境とは何か、豊かで環境負荷の少ない人間重視の都市づくりについて、具体的かつ総合的に考える。総合的なプランニングの議論へと進む秋学期の都市環境論Ⅱの準備段階としての位置づけである都市環境論Ⅰでは、都市環境に関わる具体的な視点を通し、多角的な都市の見方を構築する。

【到達目標】

都市づくりにおける人口減少・高齢化といった新たな局面を迎え、これからの政策に必要な基本的なセンスとしての方向感覚を身につけることを目標とする。特に、都市環境論Ⅰでは、都市への興味と探求心を深め、地域の課題発見を自律的に導く基礎力を学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業ではいくつかの視点を通して、都市環境に関わる基本的な考え方を探っていく。講義における国内外の都市環境（地形・地質、水、居住、歴史・文化、産業、地域データなど）に関する配付資料や画像・映像を活用しながら多様な事例に接し、重層的な都市環境を包括的に捉える力を身につける。授業でのミニペーパー実施により、講義の理解度を確認する。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。

それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

本授業の開始日は5月11日（月）とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	都市環境論の視点から都市の見方に関する説明を受ける
第2回	都市の見方：地形・水	地形・水を通して都市形成の変遷を捉える
第3回	都市の見方：緑	都市における緑の価値を読み解く
第4回	都市の見方：居住	住宅地開発の系譜を概観する
第5回	都市の見方：用途・機能	土地利用の用途や都市の機能を理解する
第6回	都市の見方：境界	都市における様々な境界を考える
第7回	第1回ミニペーパー	第6回までの講義の理解度を確認する
第8回	都市の見方：歴史遺産・景観	都市の記憶や都市美に触れる
第9回	都市の見方：文化	都市で育まれる文化について考える
第10回	都市の見方：往来	都市を支える人の往来・物の流れ・情報通信インフラを理解する
第11回	都市の見方：産業	都市発展における産業の姿を観る
第12回	都市の見方：災害	都市形成に関わる災害を知る
第13回	都市の見方：地域データ	都市分析における地域データの価値に迫る
第14回	第2回ミニペーパー まとめ	第8回～13回までの講義の理解度を 確認する 講義全体のまとめを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して予習・復習をする。

初回に全体の流れと学習の仕方の説明を受ける。

講義における具体的な実感や、テーマに応じての自主的な学習などは、各自のノートにまとめ、授業で実施するミニペーパーに積極的に反映させる。そのため、ノートには講義に関して自ら気づいた点もあわせてメモをとる。また、各講義の最後において概説する次回のテーマに関して、下調べ（予習）をする。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に用いない。講義資料はシステムから適宜ダウンロードし、講義での画像や映像資料も活用する。

【参考書】

多岐にわたるため、講義時に紹介される文献を参考にする。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業でのミニペーパー提出）100%。定期試験の実施はない。

当面の間、オンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。

具体的な方法と基準は、今後学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

板書の際はノートがしっかりとれるよう工夫する。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【Outline and objectives】

It is required to think concretely and comprehensively about urban environment that focus on human and environment. In city life, we do not recognize everything we saw. In order to deepen our thoughts on urban environment, it is necessary to know the various constituent elements of cities such as topography, geology, green, and waterside. In this course, we learn how to recognize urban environment by watching at the concrete components related to urban environment.

ADE300HA

都市環境論Ⅱ

難波 匡甫

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間と環境の時代における望ましい都市環境とは何か、豊かで環境負荷の少ない人間重視の都市づくりについて、具体的かつ総合的に考える。都市環境論Ⅱでは、同Ⅰでの個別的な都市の見方を踏まえ、基本的かつ総合的な理解を深める。

【到達目標】

都市環境論Ⅰでの目標達成を礎として、新しい都市づくり政策に必要な、都市環境問題への対応や政策を含めたプランニングの基礎的な知識や感覚を身につけ、自らが都市の展望を描けるようにすることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

初回到全体の流れと学習の仕方についての説明を受ける。

授業は2部構成とし、第2回～6回では現在に至る近代都市計画の軌跡や現在の都市づくりに関する制度や主体の骨子について学習する。第7回～14回ではテーマ毎の都市づくりに関する制度や手法の概要を理解する。

授業全体を通して、都市環境の改善について、各種の理論、法規、技法を踏まえ、都市の展望を描くために必要となる基本的事項を習得する。また、授業でのミニペーパー実施により、講義の理解度を確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	人間重視の都市環境とは何かについての説明を受ける 配付資料についての概説を受ける
第2回	都市計画概説Ⅰ	明治・大正・昭和初期の都市の課題と解決策としての都市計画等を概観する
第3回	都市計画概説Ⅱ	戦後～高度経済成長期における都市の課題と都市計画等の変遷を確認する
第4回	都市計画概説Ⅲ	80年代以降の社会情勢と対応する都市計画等の動向を認識する
第5回	都市づくりの制度	都市づくりに関する制度の骨子を理解する
第6回	都市づくりの主体	都市づくりにおける主体の多様化を理解する
第7回	第1回ミニペーパー 都市の配慮	第6回までの講義の理解度を確認する バリアフリー、ユニバーサルデザインについて知る
第8回	都市の交通	都市基盤としての交通計画を理解する
第9回	都市の記憶	都市における歴史資産の保存と活用計画を理解する
第10回	都市の美学	都市の美しさとしての都市景観計画を理解する
第11回	都市の緑地	都市づくりに関わる緑地計画を理解する
第12回	都市の水辺	都市づくりの活力となる水辺計画
第13回	都市の防災	都市づくりを左右する防災計画を理解する
第14回	第2回ミニペーパー 都市の展望（まとめ）	第7～13回の講義の理解度を確認する 都市再生ビジョン・コンパクトシティについて考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して予習・復習をする。都市環境論Ⅰでの議論を踏まえ、各テーマに関する理論、法規等の理解を深めるため、参考となる文献や資料に目を通す。また、復習に役立てるため、講義内容をしっかりとノートにとり、授業内のミニペーパーにその成果を反映させる。

授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に用いない。講義資料はシステムから適宜ダウンロードし、講義での画像や映像資料も活用する。

【参考書】

多岐にわたるため、講義時に紹介する文献を参考にする。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業でのミニペーパー提出）100%。定期試験の実施はない。

【学生の意見等からの気づき】

板書の際はノートがしっかりとれるよう工夫する。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【Outline and objectives】

It is required to think concretely and comprehensively about urban environment that focus on human beings and environment. We do not know that urban environment is established by rules such as various laws and regulations. In this course, we understand how urban environment is maintained by studying numerous plans such as urban planning, green area planning, waterside planning, landscape planning. Understanding the conditions for establishing urban environments is important for thinking about urban environment.

SOC300HA

環境社会論 I

西城戸 誠

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境社会学は、「環境問題の社会学」と「環境共存の社会学」に大別される。本講義では2つのアプローチを具体的な事例を用いて講義をしながら、環境／環境問題を調査研究するための理論と方法論を習得し、広い視野から環境に関わる諸課題を把握する方法を学ぶ。

【到達目標】

社会的な視点から人間の行動と「環境」との関係のあり方について学び、環境社会学の基本的なアプローチ、概念を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

社会的なアプローチの特徴を紹介した後、環境社会学の諸アプローチを概観する。戦後日本の環境問題の歴史を振り返りながら、環境問題の構造を把握することによって、「加害-被害構造論」「受益圏-受苦圏」「社会的ジレンマ論」について講義する。続いて、人々の生活と水とのかかわりという点に着目しながら、「生活環境主義」「近い水・遠い水」「河川管理の変遷と生活と水との関わり」「技術と災害、災害文化の形成と伝承」といったトピックスについて講義する。最後に環境社会学の方法論と環境社会学の意義について述べ、「理論と実証の往復」という環境社会学のスタイルを学ぶ。

【本講義は、4/21（火）1時限目から開講する。オンライン授業を実施する。詳細は学習支援システムの「お知らせ」などを参照すること】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	社会学とは何か？	社会的なアプローチの概要について講義する。
第2回	環境社会学とは何か？	環境社会学の2つのアプローチに関する概要を講義する。
第3回	日本の環境問題の歴史とその構造（1）-先史から第二次世界大戦まで	人間社会と環境の関係の変化を把握した後、第二次世界大戦以前までの日本の環境問題の歴史について概説する。
第4回	日本の環境問題の歴史とその構造（2）-公害問題から地球環境問題	戦後日本の環境問題の歴史について、環境問題の加害者、被害者とその運動、行政の対応について概観する。
第5回	日本の環境問題の歴史とその構造（3）-加害-被害構造	日本の環境問題の歴史を踏まえて、加害-被害論と、被害構造論について講義する。
第6回	受益圏と受苦圏（1）-概念の定義とその適用	受益圏と受苦圏という概念とその適用について講義する。
第7回	受益圏と受苦圏（2）-事例から考える受益圏と受苦圏	受益圏と受苦圏概念の適用について、具体的な事例を用いて講義する。
第8回	環境破壊と社会的ジレンマ（1）-社会的ジレンマ論の概要	社会的ジレンマという概念を用いて、環境破壊のメカニズムについて講義する。
第9回	環境破壊と社会的ジレンマ（2）-事例から社会的ジレンマを考える	事例を通じて社会的ジレンマについて講義する。
第10回	「水」と生活文化（1）-生活環境主義とは？	生活環境論、生活環境主義について講義する。
第11回	「水」と生活文化（2）-「近い水」「遠い水」「近い水」	「近い水・遠い水」、水の総有という点から、人と水のかかわりとその変化について講義する。
第12回	「水」と生活文化（3）-河川管理の変遷と公共性	日本の河川行政、河川管理の変遷から人と水のかかわりの変化について講義する。
第13回	「水」と生活文化（4）-技術と災害	水害（災害）に対する技術のあり方について講義する。
第14回	「水」と生活文化（5）-災害文化の形成と伝承	水害および水害教育という観点から、災害文化の形成と伝承を考え、今後の人と水のかかわりの方向性を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。それぞれの講義の復習として、テキストや参考文献を各自で入手し、講読する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布

【参考書】

鳥越皓之・帯谷博明編著『よくわかる環境社会学』ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】

論述式の試験（80%）+平常点（講義中に行うコメントペーパーなど）（20%）

【学生の意見等からの気づき】

教員の滑舌の悪さは先天的なものであるため、改善しづらいのであるが、改めてお詫びしたい。また、講義内容の分量が多く、話し方が早口になってしまう点も、内容を厳選することで可能な限り対処したい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために授業支援システムを利用

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

The purpose of this lecture is to cultivate a better understanding of two approaches of environmental sociology, "sociology of environmental issues" and "sociology of environmental coexistence".

SOC300HA

環境社会論Ⅱ

西城戸 誠

配当年次/単位：2～4年 / 2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、環境問題の解決に重要な市民運動、NPO・NGO、ボランティア団体の活動を「社会運動」という観点から整理し、講義を行う。そして、社会運動から見える現代社会や社会問題、環境問題への理解を深め、民主政治、政治参加、平和で民主的な国家・社会の有為な形成者として必要な公民としての資質を養うことを目的とする。

【到達目標】

環境問題に関わる社会運動の多様な形や活動の条件、活動の意味などを理解すること。地域的な共同性・公共性を構築するための市民参加の制度設計に関する理解を深めること。

日本におけるエネルギーと社会、市民との関係について歴史的な経緯と今後の関係性についての多様な知見の存在を理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

はじめに「社会運動」に注目して「社会」を捉える視点について、社会学と社会運動論の関係を紐解く。次に、リスク社会である現代社会における社会運動の意義、可能性について、日本の反原発運動の事例から講義する。続いて、なぜ人々が社会運動に参加するのか（運動の承認論）、どのように社会運動を展開するのか（資源動員論、フレーミング論）という点を解説し、さらに社会運動のさまざまな形とその変化を捉える視点を提示しながら、「社会運動とは何か」という根本的な問いに応える。最後に再生可能エネルギーを求める市民運動を事例として、環境運動の新たな展開と市民参加、地域的な公共性に関する議論を展開し、現代社会の構造変動と社会運動の潜勢力について考えたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	社会運動から社会が見える	講義のガイダンスとともに、なぜ、今、「社会運動」を議論する必要があるのかという点について講義する。
第2回	社会学と社会運動	社会学の歴史を、社会運動の観点から、その概略を講義する。
第3回	リスク社会と現代の環境問題と環境運動（1）－リスク社会論	「リスク（社会）」をキーワードに、現代の環境問題と環境運動を位置づけについて講義する。
第4回	リスク社会と現代の環境問題と環境運動（2）－反・脱原発運動の歴史	チェルノブイリ原発事故と反原発運動、福島第一原発事故後の反原発運動を事例として、リスク社会における環境運動について講義する。
第5回	なぜ環境運動に関わるのか・運動参加の承認論（1）－水俣病	水俣病を巡る社会運動を事例に、運動参加の承認論について講義する。
第6回	なぜ環境運動に関わるのか・運動参加の承認論（2）－水俣から福島へ	水俣病を巡る社会運動と、福島第一原発事故に関わる人々の関係について考える。
第7回	運動のさまざまな形とその変化（1）－理論	社会運動のさまざまな形態を紹介し、社会（環境）運動の外延を広げることによって、現代社会の運動への理解を深める。
第8回	運動のさまざまな形とその変化（2）－実証と事例研究	さまざまな形態の社会（環境）運動とその形態の変化について、生活クラブ生協を事例にして論じる。
第9回	どのように環境運動を展開するのか（1）－資源動員論	どのように運動を展開するのかという点について、資源動員論を紹介しながら講義する。
第10回	どのように環境運動を展開するのか（2）－フレーミング	「フレーミング」という観点から、運動への潜在的な参加者を集める方法について議論する。
第11回	再生可能エネルギーと環境運動（1）－「市民風車」の誕生とその展開	日本における再生可能エネルギーの導入、普及と環境運動の展開について講義する。
第12回	再生可能エネルギーと環境運動（2）－コミュニティパワーと社会的受容性	地域に資する再生可能エネルギー（コミュニティパワー）の普及と社会的受容性について講義する。
第13回	再生可能エネルギーと環境運動（3）－3.11以降の環境運動の可能性	3.11以降の再生可能エネルギーを希求する市民の動きと、反原発運動などの環境運動との関連について講義する。

第14回 再生可能エネルギーと環境運動（4）－世界の中の日本と今後の課題

日本の再生可能エネルギーの普及について世界的な潮流を踏まえて、課題と展望について講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。講義中に参照した文献の講読。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布
大畑裕嗣・成元哲・道場親信・樋口直人（編著）『社会運動の社会学』有斐閣（2004年）

【参考書】

西城戸誠『抗いの条件－社会運動の文化的アプローチ』人文書院（2008年）
丸山康司・西城戸誠・本巢芽美（編著）『リスクと地域資源管理からみた再生可能エネルギー』ミネルヴァ書房（2015年）

【成績評価の方法と基準】

定期試験（90%）と平常点（追加レポートなど）10%

【学生の意見等からの気づき】

教員の滑舌の悪さは先天的なものであるため、改善しづらいのであるが、改めてお詫びしたい。また、講義内容の分量が多く、話し方が早口になってしまいう点も、内容を厳選することで可能な限り対処したい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために授業支援システムを利用する

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This lecture provides the viewpoint of "social movements" as a citizen movement, NPO / NGO, and volunteer organization for solving environmental problems.

SOC300HA

環境社会論Ⅲ

西城戸 誠

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、環境社会学の視点から、環境（自然）や地域社会の持続性に関する講義を行う。特に合意形成・レジティマシー・生業・半栽培・順応的管理・適正技術・負の遺産と地域再生、縮小社会といった持続性にかかわる問題に対して、映像資料を用いて具体的な事例から議論を行う。また、それぞれ具体的な問題点に関する解決策を考える。さらに、これらの議論から、「環境と社会」の社会学を中心とした、持続性学（サステナビリティ学）を展望する。

【到達目標】

日本国内の事例を中心に取り上げながら、「環境（自然）」と「地域（社会）」の持続性（サステナビリティ）に関する議論として、合意形成・レジティマシー・生業・半栽培・順応的管理・適正技術・負の遺産と地域再生、縮小社会といったテーマにかかわる問題について映像資料を活用した上で、これらの問題の解決策について考える力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

理論的な論点の提示と事例検討を繰り返し、合意形成・レジティマシー・生業・半栽培・順応的管理・適正技術・負の遺産と地域再生、縮小社会、といったキーワードへの理解を深める。なお、映像資料を用いるが、映像資料に対しては要約、コメント等をその都度求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・環境と地域の持続性を考える視点(1)	環境社会論Ⅰ、Ⅱの内容を振り返りながら、環境・地域の持続性を考えるための論点を提示する。
第2回	合意形成とレジティマシー(1)：「海は誰のものか」	人と自然がかかわる際の、自然環境をめぐる価値や意味の共有を巡る課題を、合意形成とレジティマシーという観点から講義する。
第3回	合意形成とレジティマシー(2)：市民参加とレジティマシー	合意形成やそのレジティマシーを巡る、市民参加のあり方について講義する。
第4回	生業・半栽培・資源管理(1)：コンブの森から考える	生業とそれを支える伝統的な生態学的な知識に着目し、昆布漁を事例として資源管理のあり方を考える。
第5回	生業・半栽培・資源管理(2)：半栽培から資源管理へ/生態系サービス	生業および半栽培という観点から資源管理のあり方について講義する。また、生態系サービスという概念から、人と自然のかかわりについて講義する。
第6回	自然再生と順応的管理(1)：コウノトリと地域再生	兵庫県豊岡市におけるコウノトリをめぐる自然再生
第7回	自然再生と順応的管理(2)：獣害問題と順応的管理	サルの「獣害問題」を事例に、サルの順応的管理および地域再生の方向性について講義する。
第8回	過疎問題と地域社会(1)：過疎と「核」の受容	北海道幌延町の核廃棄物処理施設の誘致問題を事例として、過疎地域における核の受容の背景について講義する。
第9回	過疎問題と地域社会(2)：「核」への抗議と運動文化	核廃棄物処理施設誘致の反対運動の展開を見ながら、過疎地域の地域再生や、地域の持続性に関して議論する。
第10回	負の遺産と地域再生(1)：炭鉱社会の盛衰・夕張を事例として	財政破綻した北海道夕張市の背景と、炭鉱社会の盛衰に関する概要を講義する。
第11回	負の遺産と地域再生(2)：炭鉱遺産によるまちづくりの展開	「負の遺産」をどのように地域再生に結びつけるべきかという点を、炭鉱遺産によるまちづくりの事例から考える。
第12回	縮小社会とその課題(1)：「縮小社会」とは何か。	「縮小社会」とはどのような現象か。東京、夕張、中国地方における「縮小社会」の現状について学ぶ。
第13回	縮小社会とその課題(2)：中山間地域における問題解決	中山間地域における地域おこし協力隊など、縮小社会の解決策を考える。
第14回	縮小社会とその課題(2)：都市問題の解決と都市-農村交流	縮小社会における都市問題の解決の一つとして、都市-農村交流の可能性について講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。各回の講義内容の復習と、環境社会論Ⅰ、Ⅱの内容の関連づけを随時、行ってほしい。また、映像教材に対するコメントを求める。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】

講義ごとに参考資料を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

論述式の試験(60%)＋平常点(講義中に行うコメントペーパーなど)(40%)

【学生の意見等からの気づき】

教員の滑舌の悪さは先天的なものであるため、改善しづらいのであるが、改めてお詫びしたい。また、講義内容の分量が多く、話し方が早口になってしまう点も、内容を厳選することで可能な限り対処したい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために授業支援システムを利用

【その他の重要事項】

本講義は、環境社会論Ⅰ、Ⅱの履修後の受講を想定しており、これらの2つの講義の理解を前提として講義を展開する箇所がある。履修制限は行わないが、環境社会論Ⅰ、Ⅱを未履修の学生は、留意すること。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

In this lecture, I will give environmental sociological lectures on environmental sustainability and sustainability of communities. Specifically, this lecture deals with themes such as consensus building, legitimacy of environment, adaptive management, regional regeneration, and shrinking society.

SOC300HA

労働環境論 I

長峰 登記夫

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「仕事を通して労働環境と生活を考える」

【到達目標】

本講では、仕事や雇用に関連した基礎的知識の習得をめざす。労働環境を考える前提としての基本的な雇用問題、すなわち就職から入社後の賃金や昇進、昇給、教育訓練、退職、転職、労働組合など、仕事や雇用に関する基本的な概念や現象を理解でき、職業人としての基本的な知識の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

就職、教育訓練、昇進、失業、退職といった、ライフステージに沿った雇用に関する様々なトピックを取りあげる。雇用の一般理論や労働組合、非正規雇用等の個別具体的なトピックも取り上げる。また、新聞記事などを利用して、その時々話題になっているアットアップデートな諸問題をも随時紹介しつつ、本講との関連や現実社会への理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	労働環境論入門	労働環境論では何を学ぶのか、なぜ学ぶのか等について考える。
2	雇用・処遇システム	日本の雇用システムの特徴と諸外国との違いについて基本的な知識を得る。
3	学校から職場へ	大学生の就職に焦点を当て、それが過去どう変化してきたのかを見ながら、現在の問題を考える。
4	能力開発とキャリア	日本企業の実務教育訓練の特徴は何か、諸外国とどう違い、どう変わってきたのかについて学ぶ。
5	ライフスタイルと就業意識	労働者のライフスタイルや就業意識が、戦後初期から高度経済成長期、バブル期を経てどう変わってきたのか学ぶ。
6	生活時間配分	私たちの生活のなかで、仕事とプライベートな生活がどう構成され、変化してきたのかについてみる。
7	技術革新と仕事・職場の変化	技術は仕事の遂行方法に大きく影響する。それが時代とともにどう変化してきたのかをみる。
8	賃金システム	労働条件の基本をなし、きわめて複雑な日本の賃金システムについてその基本を学習する。
9	企業と労働組合	労働条件設定について特別な地位を認められている労働組合の機能や役割について学ぶ。
10	仕事からの引退過程	私たちは一定の年齢に達すると仕事から引退する。その過程について学び、その後の人生設計について考える。
11	非典型雇用	派遣やパート等非正規雇用の増加が大きな問題となっている。非正規雇用の現状や問題点について考える。
12	障がい者の支援	2016年に障がい者差別解消法が施行されて以降、障がい者の就職や就労支援の見直しがなされている。それに関する基本的な事項や現状について学ぶ。
13	日本の雇用慣行とは何か	日本の雇用慣行の特徴は何か、そのメリット、デメリットを含め総合的にふりかえる。
14	日本の雇用システムのまとめ	これまで見てきた日本の雇用システムの全体をふり返し、その特徴をまとめ、日本の労働環境やそこで働く人々の生活のあり方について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。より効率的に講義が理解できるよう、事前にテキストの関連する章を読み、理解できなかった箇所を再度読み返し、疑問点を確認し授業中に質問する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

佐藤博樹・佐藤厚編著『仕事の社会学 変貌する働き方〔改訂版〕』有斐閣ブックス、2012年、2310円。

【参考書】

テキストでカバーできないテーマについては、随時、プリントやその週の関連する新聞記事等で補う。

【成績評価の方法と基準】

論述式試験（80%）によりそれぞれのテーマについてどの程度理解し、説明できているか、文章表現は適切か等をもとに、平常点（20%、出席を含む）をも加味して総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

この科目に関連した時事的事象についてほぼ毎時間紹介しているが、これには要望も多く今後も継続する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

ここで扱うテーマは、卒業して就職する限りだれもが経験するようなものばかりです。自分が問題に直面したときに思い出して、どうすれば解決できるか、それを考える手掛かりとなるような知識と知恵を身につけてください。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

The lecture aims to help students understand various features of the Japanese employment system and, through it, relationships between work environments and private life through daily working life after graduation. For that, students will learn to get basic knowledge about various issues relating to employment such as job searching and wages, promotion, job training, retirement, career changes, trade unions and so on.

SOC300HA

労働環境論Ⅱ

長峰 登記夫

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

仕事を通して労働環境と生活を考える。

【到達目標】

労働環境論Ⅰで学んだことを前提に、いくつかのトピックを取り上げ、労働環境について学ぶうえで必要な事柄についてより深い知識の習得をめざす。より具体的かつ時事的な事象を扱い、仕事や雇用に関する理解を深め、コンプライアンスに基づいた円滑な仕事遂行を可能にする労働環境をつくるにはどうすればよいかを考えながら、卒業後の職業人としての基礎的な知識の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

就職、昇進、退職など、ライフステージに沿った雇用に関する種々のテーマについて、時事的なできごとにも触れながら学ぶ。1つのトピックにつき1～2回で授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	労働環境論とは何か	労働環境論とは何かについて考える。
第2回	日本の雇用慣行 1	種々の統計、図表を見ながら、日本の雇用慣行の特徴を概観する。
第3回	日本の雇用慣行 2	前週に続いて、日本の雇用慣行をどう理解すればよいか、近年の変化もふまえて学習する。
第4回	大学生の就職 1	過去に大学生の就職のあり方がどう変化し、いま何が問題になっているのか考える。
第5回	大学生の就職 2	大学生の就職と近年話題となっているグローバル人材の問題を考える。
第6回	労働環境と安全衛生 1	仕事場における安全衛生の問題について、歴史的な変遷もふまえて見ていく。
第7回	労働環境と安全衛生 2	前週の学習に基づいて、近年大きな問題となっている働く人々のメンタルヘルスを中心に考える。
第8回	労働環境と労働時間 1 (労働時間の見方、考え方)	全体的な労働時間の短縮の背後で進んでいる労働時間の二極化を中心に、労働時間について考える。
第9回	労働環境と労働時間 2 (裁量労働制と変形労働時間制)	労働の規制緩和の一環として進められてきた裁量労働制と変形労働時間制を中心に、ホワイトカラー・エグゼンプション（残業代ゼロ制度）や最近の高度プロフェッショナル制度をめぐる議論についても学ぶ。
第10回	労働環境とジェンダー 1	日本は毎年のように国際機関から雇用に関する女性の地位の低さを指摘されている。なぜか、その現状について学ぶ。
第11回	労働環境とジェンダー 2	前週の学習に基づいて、とくに女性管理職を取り上げ、問題点と課題について学習する。
第12回	労働環境と差別（年齢差別禁止を中心に）	年齢差別を一例として、雇用における差別問題について考える。
第13回	震災と雇用	阪神淡路大震災、東日本大震災で、一瞬のうちに多くの雇用が失われることになった。震災で雇用が何が起こり、当事者や行政等はどう対処したのかみていく。
第14回	労働環境論Ⅱのまとめ	本講で扱ったいくつかのテーマをふり返る中で、卒業後就職してからの労働環境や私たちの生活のあり方について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。学期の初めに毎回使うテキストを指示する。授業はテキストを読んでいることを前提に進めるので、事前の学習と事後の復習が必須である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学期はじめに授業で使用するテキストを指示するが、いろいろな資料を使うので、特定の本を教科書として使うことはしない。ただし、授業は労働環境論Ⅰを修了していること、そこで使用したテキスト（下記の参考書）を読んでいることを前提に進める。

【参考書】

佐藤博樹・佐藤厚編著『仕事の社会学 変貌する働き方（改訂版）』有斐閣ブックス、2012年、2310円。

【成績評価の方法と基準】

論述式試験（80%）によりそれぞれのテーマについてどの程度理解し、説明できているか、文章表現は適切か等をもとに、平常点（20%、出席を含む）をも加味して総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生が現実的に即して理解しやすいよう、時事的な問題にも関連づけて授業をおこなう。毎時間、内容理解に関連する基本的な設問を提示し、学生が勉強しやすいようにする。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

労働環境論Ⅰで学んだ内容をベースに、いくつかのテーマに分けてそれらをより掘り下げて勉強する。長時間労働や過労死、メンタルヘルス、女性雇用など、ふだん新聞等でも取り上げられている問題を扱う。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Based on what the lecture dealt with in the class Work Environment I, the lecture aims to take several topics so that students can get deeper knowledge about work environments. For that, the lecture will take up current topics and help students think what and how they should do to perform their job smoothly in compliance with the law.

SOC300HA

NGO活動論

小野 行雄

配当年次/単位：2～4年/2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界が直面する問題を理解し、NGOの活動する場と方法を確認した上で、日本のNGO、国際NGO、「途上国」NGO等の現状を把握し、市民社会におけるNGOの役割、市民としての自分の役割について考える。

【到達目標】

- 1 世界の人々が直面している問題とそれら相互のつながりについて体験的に理解する
- 2 NGOと市民社会に関する歴史と現状を理解し、広い視野で世界の人々のつながりを考えられるようになる
- 3 NGO活動を通して自ら世界に関わろうとする積極性と市民性を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

ワークショップとディスカッションによるグループワークを中心に進める。自ら学び、自ら主体的に関わり、自ら進み行きを決める「参加」があらゆる場面での大きな柱となる。毎回積極的に体験し、意見を交換し、調査し発表する姿勢が求められるため、受動的な意識態度では受講できない。映像資料も多用する。毎回簡単なレポートを作成する時間をとり、次の授業でそれをめぐる意見交換を行いながら先に進める。

当面はオンラインでの開講となる。それともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月24日とし、具体的なオンライン授業の方法などは学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション NGOの基礎	グループづくりワークショップ NGOについての基礎情報確認ワークショップ
第2回	NGO活動の基礎－支援の方法	インド山岳民族をめぐるワークショップ「ドンゴリアコンドの人々」とグループ討議
第3回	NGO活動の基礎－開発と近代	インド山岳民族の事例をめぐる介入と近代化についてのグループ討議
第4回	NGO活動の基礎－グローバル化の影響	インド・ラダック開発に関わるビデオ視聴とグループ討議
第5回	NGO活動の基礎－緊急支援	フィリピン緊急支援事例についてグループ討議
第6回	NGO活動の基礎－地域支援	フィリピン地域支援をめぐるワークショップ「24人にインタビュー」とグループ討議
第7回	NGOの理論	NGOの分類枠組みについて学ぶ
第8回	NGOシミュレーション1	フィリピン地方題材のドキュメンタリー視聴とグループによる支援の検討
第9回	NGOシミュレーション2	グループによるフィリピン支援NGO設立を想定した計画作成
第10回	NGOシミュレーション3	グループによるフィリピン支援NGO設立を想定した計画発表
第11回	NGO事例研究－日本のNGO 2	その他日本NGOについてグループによる事例調査と発表および講義
第12回	NGO事例研究－国際NGO	国際NGOとNGOネットワークについてグループによる事例調査と発表および講義
第13回	NGO事例研究－「途上国」NGO	「途上国」NGOについてグループによる事例調査と発表および講義
第14回	NGOの役割	NGOの社会的役割および社会との関わりについて講義とグループ討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。毎回渡される課題ペーパーを読んでくこと。次の回の最初に、そのペーパーを巡って討論を行うこととする。

10月にお台場で行われる「グローバルフェスタ JAPAN」または横浜で行われる「よこはま国際フェスタ」にできる限り参加すること。最初の講義で説明するが、これを一種のフィールドワークとし、情報収集とインタビューを行う実践の場とする。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

グループワークへの参加度および毎時間のレポートを重視する。平常点（発表等）40%、毎時間のレポート 40%、期末レポート 20%

【学生の意見等からの気づき】

毎時間10分程度のレポート作成の時間をとる。

【学生が準備すべき機器他】

授業時間内でインターネットを使った事例調査を行うため、ネットにつながるパソコンまたはスマートフォン持参が必須となる。

【その他の重要事項】

グループワークを中心とするので、主体的学習意欲があること、積極的にコミュニケーションをとる意志があることが必須条件である。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Understanding modern issues of the world and situations of NGOs. Thinking of roles of NGOs and our own in the civil society, and developing the positive attitude toward the participation.

SOC300HA

ローカルスタディーズ I

船戸 修一

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「農山村（中山間地域）」の現状と課題について考える。

【到達目標】

「農山村（中山間地域）」の現状と課題を理解するだけでなく、その問題解決策まで考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業では、「地域」を「農山村（中山間地域）」に絞り、農山村の根幹的産業である農林業や農山村の集落の現状と課題について理解することを目標にする。さらに、その学習だけでなく、その問題解決までも構想できるようにすることも目標にする。本授業では、テキストとして、①日本村落研究学会編『むらの社会を研究する：フィールドからの発想』（農山漁村文化協会、2007年）、②日本村落研究学会編『むらの資源を研究する：フィールドからの発想』（農山漁村文化協会、2007年）を使い、毎回、それぞれ1章分を受講生に発表をもらい、その解説と説明をしたうえで、全員で討論を行う。ゼミ形式を導入するため受講者の定員を30名程度とする。もし受講希望者が定員超過する場合は、第1回目の授業でテストを行い、その成績上位から受講生を選抜する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方や成績評価を説明する。
第2回	テキストの輪読・発表・討論(1)	『むらの社会を研究する』の「村落空間」をとりあげる。
第3回	テキストの輪読・発表・討論(2)	『むらの社会を研究する』の「都市化とむらの変化」、『むらの資源を研究する』の「むらにとつての資源とは」をとりあげる。
第4回	テキストの輪読・発表・討論(3)	『むらの社会を研究する』の「農業の近代化とむらの変化」、『むらの資源を研究する』の「集団的土地利用」をとりあげる。
第5回	テキストの輪読・発表・討論(4)	『むらの社会を研究する』の「過疎化とむらの変化」、『むらの資源を研究する』の「水をめぐる排除と協同」をとりあげる。
第6回	テキストの輪読・発表・討論(5)	『むらの社会を研究する』の「縮小化する世帯・家族と家の変化」、『むらの資源を研究する』の「森林問題と林野資源の可能性」をとりあげる。
第7回	テキストの輪読・発表・討論(6)	『むらの社会を研究する』の「今、農村家族の問題は何か」、『むらの資源を研究する』の「日本における農政の変遷と地域政策」をとりあげる。
第8回	テキストの輪読・発表・討論(7)	『むらの社会を研究する』の「農山村の開発に伴う環境破壊」、『むらの資源を研究する』の「農業技術と自然」をとりあげる。
第9回	テキストの輪読・発表・討論(8)	『むらの社会を研究する』の「自然環境と歴史環境の保全活動」、『むらの資源を研究する』の「近代農法の成果と限界」をとりあげる。
第10回	テキストの輪読・発表・討論(9)	『むらの社会を研究する』の「農村女性とパートナーシップ」、『むらの資源を研究する』の「有機農業をめぐるむらのコンフリクト」をとりあげる。
第11回	テキストの輪読・発表・討論(10)	『むらの社会を研究する』の「担い手としての高齢者」、『むらの資源を研究する』の「農村の多面的価値を『引き出す』ツーリズムを目指して」をとりあげる。
第12回	テキストの輪読・発表・討論(11)	『むらの社会を研究する』の「限界集落論からみた集落の変動と山村の再生」、『むらの資源を研究する』の「農業共同化の背景と生産組織の展開」をとりあげる。

第13回 テキストの輪読・発表・討論(12) 『むらの社会を研究する』の「戦後農政の展開とむら」、『むらの資源を研究する』の「家族構成の変化と兼業化」をとりあげる。

第14回 テキストの輪読・発表・討論(13) 『むらの社会を研究する』の「農業者として生きる都市住民の転身」、『むらの資源を研究する』の「農の経営から地域経営へ」をとりあげる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後は、授業内容について復習しておくこと。また次回の授業で内容も読んで、予習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

日本村落研究学会編『むらの社会を研究する：フィールドからの発想』（農山漁村文化協会、2007年）

日本村落研究学会編『むらの資源を研究する：フィールドからの発想』（農山漁村文化協会、2007年）

【参考書】

参考文献は、授業で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加状況（発表内容、討論への参加姿勢など）を50%として評価する。さらに学期末に課すレポートを50%として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミ形式で授業を進めるため、なるべく多くの履修学生の意見に耳を傾けたいと考えている。

【その他の重要事項】

受講者が30名程度を超過する場合、初回授業にて選抜する。「地球環境ケーススタディ I」を修得済の場合、本科目の履修はできません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Studies on the present conditions and the problem of the farming and mountain villages

SOS300HA

ローカルスタディーズⅡ

坂本 昭夫

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 6/Tue.6

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

悪化する海洋、地球環境。その原因をひとつずつ解析し、現状の問題点を洗い出し、未来へきれいで豊かな地球、海洋を残すためのアイデアを引き出したいと思います。

【到達目標】

例えば、海洋に漂う無数のマイクロプラ。そのプラが生物に対してどのように影響しているのか、また どのように我々に影響するのか。そして その結果 現在どうなっているのかを探ります。海洋、ゴミ、プラスチック、可塑剤、農薬等問題点を探ります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

講義は主に、PPT を使用し、DVD 等を使用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	海洋環境概論	現状の海の状態を把握
2	東京湾における生物体系を知る	生物の状態、そして問題点を探ります
3	海洋ゴミ問題1	現状の海洋ゴミに関し探ります
4	海洋ゴミ問題2	3に続き、海洋ゴミ問題に関し探ります。
5	震災ゴミ	2011年東北震災における漂着ゴミに関し探ります。
6	プラスチック	プラスチックとは？を解析します。
7	マイクロプラスチック	5mm以下に小さくなったマイクロプラスチックの現状を探ります
8	海洋温暖化に伴う赤潮、青潮発生メカニズム	赤潮、青潮発生に関するメカニズムを探ります
9	アマモ移植	海藻、海草。その役目と海洋環境改善策とはを探ります1
10	海洋ゴミ	海洋ゴミ問題を外部ゲストを交え探ります
11	河川ゴミ	河川ゴミ問題を外部ゲストを交え探ります
12	ワカメ	海藻、海草。その役目と海洋環境改善策とはを探ります2
13	農薬	農薬がどのように地球環境、生物環境等を破壊しているのかを探ります
14	総括	1～13までの総括します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストはありません。

【参考書】

参考書はありません。

【成績評価の方法と基準】

13回目の講義終了時にレポート課題を発表し、最終講義 第14回にてレポートを回収します。成績評価はレポートのみ（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

特に無し

【学生が準備すべき機器他】

無し

【その他の重要事項】

無し

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当します。

【Outline and objectives】

We will consider different ways in which we can protect the ocean and the earth by identifying current problems and analyzing their causes.

SSS300HA

災害政策論

中川 和之

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

歴史時代から現代まで繰り返されてきた災害から多くの経験を学び、人々の悔しさに共感したうえで、これら災害経験に基づいて作られて来た災害政策を学び、その狙いと達成度を理解する。

そして、多くの学生たちが直面することになる南海トラフや首都直下の地震、スーパー台風の被災を最小限に留め、この日本で幸せに暮らすために必要な災害政策のあり方を共に考え、これから行政職員や教育者、企業人、社会人となるものとして、なすべきことを深く考える。

【到達目標】

①災害とは何かを、実例から学んで理解する。②現状の政策の背景と発展、課題を学んで理解する。③今後の国・自治体の災害政策のあるべき姿を考える。④災害大国日本における当事者として、自らの専門性にどう生かすかを見出し、今後の実践につなげる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとりま各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月7日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。できるだけ豊富な映像記録などを使って、過去から現代までの災害の実像を紹介。災害対応と経験を踏まえて作られて来た災害政策・制度を、講師の実体験やインタビュー結果から深く学び、これまで得てきた常識を疑うことができる知識を身につけられるように進める。これらの学びを、毎回アクションペーパーに記入し、授業の冒頭には前回のアクションペーパーを振り返って、問題意識を共有して進める。1回目の授業では、災害対策の悩ましさを理解するためのゲームを行い、その後も自ら考えるワークシートやグループディスカッションなども行って学びを深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション。講師の自己紹介、この講義の狙い・概要の説明	災害とは何か？ 災害から守るべきことは何か、なぜ災害政策が求められるのか、歴史も踏まえて概説。なぜ失敗が繰り返され、「想定外」という言葉で語られてしまうのか。講師からの問題意識を投げかけるとともに、最後に災害時に向き合うジレンマを実感する行政職員の体験を元にしたゲーム「クロスロード」も体験し、社会での役割りに応じて災害に備えておくことの意義を考える。
第2回	自然現象と災害＝社会的な制度を考える前提としての理科1	地球の46億年の歴史の中では新参者である日本列島。肥沃な大地と風光明媚な景観は、すべて過去の自然現象＝人がいたら災害と言われる現象によって形づくられている。私たちが、なぜ災害で被災をしてしまうのかを考える上で、災害をもたらす大地の働きのメカニズムが、どこまで分かって、何が分かっていないのかのベースを押さえる。学生諸君の出身地や身近な場所についての簡単なワークシート作成を課題とする。
第3回	身近な景観と災害＝理科2	事前課題で取り組んできたワークシートを元に、それぞれ近い地域の学生同士で相互にプレゼンを行い、グループで語りあう。その場で、スマホやpad、PCなどで調べながら、それぞれが身近な景観がどのような自然現象によって作られてきたかを考察。紹介したさまざまな地図からどのようなことが読み解けるかを知る。GW期間中に取り組む、地元土地の成り立ちを知るレポートの課題を出す。この課題は、最後のレポートにも必須となる。

第 4 回	3つの大震災と伊勢湾台風 = 阪神大震災前まで	日本の災害対策を大きく変えてきた関東大震災、伊勢湾台風、阪神大震災、東日本大震災とは、どのような災害だったのか、当時の映像などを豊富に紹介し、具体的なイメージを持つ。そして、その時にはどのような政策が実行され、何が課題とされたか。その後、教訓で作られた災害の政策が、どのくらい浸透しているのかを確認し、なぜ、教訓が活かされていないかを考える。まず、関東大震災、伊勢湾台風と1995年の阪神大震災の直前までを取り上げる。	第 12 回	市民防災・ボランティア	この国で避けられない自然災害を前に、市民やボランティアの役割とは何か。地域のコーディネーターであるべき自治体の役割とは何か。自主防災組織の過去の経緯や現状を知り、ご近所の自治会町内会、マンション管理組合などの地縁組織の役割とは何をすべきか。自らの弱点を知り、助けを受け入れる受援力を鍵に、ボランティアについての歴史的経緯と現代、これからの役割もともに考える。	
第 5 回	3つの大震災と伊勢湾台風 = 阪神大震災とその後	日本の災害対策を大きく変えた阪神大震災とはどんな災害だったのか。改めて当時の映像などを紹介し、起きたことを振り返る。その時にはどのような政策が実行され、何が課題とされたか。を考える。その後、東日本大震災直前まで積み重ねられてきた災害対策について確認する。	第 13 回	災害と恵み・防災教育・ジオパーク	自然には恩恵と災害の二面性がある。恐怖の訴求だけでは、継続して災害への備えを続ける意欲を持ち続けるのは難しい。大地の変動を地域の人たちが語り継ぐ「ジオパーク」の活動が日本でも始まった。自分の地域が嫌いになったり考えたくなくなる脅しの防災の限界を見据え、防災教育やジオパークなどの活動の現状を知ることで、危険性だけを強調するのではなく、この国の災害文化を背景にした、防災文化・減災文化の展望を考える。	
第 6 回	3つの大震災と伊勢湾台風 = 東日本大震災とはなにか	東北地方太平洋沖地震は、どうして東日本大震災という大災害になってしまったのか。すべてが「想定外」だったのか、どういう備えが足りずに被害が拡大したのかなどを振り返る。また、当時の自らの体験・行動を振り返り、共有をする時間も持つ。	第 14 回	めざすべき社会と災害 = 授業のまとめおよび授業内レポート	「地域防災計画の課題発見」のレポートを元に、授業時間中に試験(レポート)を書いてもらう。これまでの授業資料やワークシートの持ち込みや、その場でスマホや PC、何でも持ち込んでも OK。	
第 7 回	近年の風水害から、課題を考える	2019 年台風 15 号や 19 号、2018 年西日本豪雨や台風 21 号、2017 年九州北部豪雨や 2016 年台風 10 号、2015 年 9 月関東・東北豪雨などの豪雨災害・台風災害について、映像などで被害状況などを振り返りながら、洪水に立ち向かった首長たちから直接聞き取った経験談を共有し、政策課題について具体的に考える。	【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】		毎回の講義で紹介される資料等を使用して復習をし、次週のテーマを元に、関連する情報をインターネットや関連資料などを基に予習をすること。授業時間以外で、自らの出身地などの災害に関連したワークシートやレポートの提出を求める。さらに、この授業を受ける以上、日ごろから災害に関連する情報やニュースに関心を持っておいて欲しい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。	
第 8 回	近年の地震災害から、課題を考える	2019 年山形県沖地震、2018 年北海道胆振東部地震、大坂北部地震、2016 年熊本地震や 2016 年鳥取県中部地震など、近年の地震災害について、映像などで被害状況などを振り返りながら、2 度の震度 7 に立ち向かった首長たちから直接聞き取った経験談を共有し、政策課題について具体的に具体的に考える。	【テキスト(教科書)】		授業では、PPT を使用する。その資料は、毎回、授業で縮小印刷して配布するとともに、授業支援システムに事後に掲載する。関連資料などもリストするので参考にして欲しい。	
第 9 回	近年の火山噴火災害から、課題を考える	登山シーズンの日中という最悪のタイミングで極小規模な水蒸気噴火をした御嶽山、警戒していた地点と異なる場所から噴火して犠牲者を出した草津・本白根の噴火、観測史上初めての小規模な噴火が起きた箱根山、危険な火砕流が発生しながら避難しきった口之永良島、噴火現象は起きなかったが大量のマグマが地表付近まで貫入した桜島。ここ数年の噴火災害に立ち向かった首長たちから直接聞き取った経験談を共有し、政策課題について具体的に考える。	【参考書】		授業の中でも課題とするが、自らが住んでいる自治体や出身地の自治体の地域防災計画(その地域で地区防災計画があればそれも)は必須。内閣府の防災情報のページや被災自治体のホームページから学ぶものは多い。	
第 10 回	これからの大災害への備え	南海トラフの地震や想定首都直下地震、巨大化する台風など、今後経験させられる可能性がある自然災害が、政府や専門家がどう想定しているかを知る。東日本大震災後になって、基本法に不可欠な理念が加わった災害対策基本法の改正など、災害の政策が、どのくらい浸透しているのかを確認し、まだ整理されていない課題は何かを考える。14 回目の授業内レポートのために必要な、「地域防災計画の課題発見」の課題を出す。	【成績評価の方法と基準】		平常評価(リアベで授業内容の理解を評価) 40%、授業中の課題ワークシート・レポート評価 20%、期末試験(最終講座内レポート)評価 40%。どうしても出席ができなかった場合、資料を参考にリアベ代わりの授業レポートをメールで提出することで一定の評価対象とする。	
第 11 回	災害報道・災害情報	かつて、災害情報と言えば、行政や専門機関が警報や避難情報を出し、それが人々に届きさえすれば良いと考えられていた。しかし、人々が適切な行動を取るためには、日ごろから情報の意味の理解が必要である。災害報道が、大ネタとしてのニュースを伝えるだけの役割からどう脱却するのか。SNS などの身近なメディアをどう活かすか自分事として考える。政府の災害被害を軽減する国民運動の一環として取り組まれている「TEAM 防災ジャパン」のサイトや、中央省庁や自治体がいざというときに情報を共有する新しいシステムの現状などについても学ぶ。	【学生の意見等からの気づき】		災害時のジレンマを実感するゲーム「クロスロード」を実施する他、授業中の相互のディスカッションの時間をより多くしたい。毎回のリアクションペーパーを活用し、問題意識が共有できないまま進まないようにしたい。できるだけ、映像資料を豊富に使い、具体的に災害をイメージしてもらうことを意識する。	
				【学生が準備すべき機器他】		最終授業の際には、スマホやネット環境を備えた PC の持ち込みは可能。
				【関連の深いコース】		履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。
				【実務経験のある教員による授業】		通信社記者として、1984 年の長野県西部地震や 1995 年の阪神大震災などを取材。取材していた災害救助法の制度見直しに、厚生省の関係委員会の委員として関与。その後も、政府や自治体で災害法制度を見直すための委員会委員などを務め、災害対応に当たった市町村長らの悩みを聞き取って共有するお手伝いをするなど、災害政策の現場における課題解決に取り組み、内閣府の「TEAM 防災ジャパン」のアドバイザーも務める。一方で、災害をもたらす大地の営みの恩恵も理解するプログラムのジオパークの審査員を 10 年以上担当している。これらの経験を踏まえ、現実としての災害政策のあるべき姿を、受講者の学生と共に考えていきたい。
				【Outline and objectives】		1.To learn about the major disaster of Japan,and sympathize with a victim of disaster. 2.To learn the disaster prevention and mitigation policy that was made based on past disaster experience from the past to the present,and understand its aim and achievement degree. 3.Many students will face the Nankai Trough Earthquake,and inland earthquakes such as the Tokyo metropolitan earthquake, and the super typhoons. College students, who will be government officials, teachers, business people, and households, will consider what disaster policies are needed to minimize the damage of future disasters.

SHS300HA

科学技術社会論

託問 直樹

配当年次/単位：2～4年 / 2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

科学技術のアウトプットは、社会に多大な正負両面の影響を与える。逆に、研究費の調達や人材の供給、研究活動の社会的承認などを巡って、社会の側から科学技術への影響も存在する。従って、科学技術と社会は相互に影響を及ぼしながらお互いを形成していくのであり、このようなプロセスを「共進化」と呼ぶ。この「共進化」のプロセスを解明し、関連する問題点を広く知らしめることが、科学技術社会論の使命の一つである。

本授業では、こうした科学技術と社会の相互作用を理解するために有用な諸概念を学ぶとともに、それらの概念を用いて具体的事例を理解する能力を養う。

【到達目標】

科学技術と社会との関わりを理解するために有用となる概念を学ぶとともに、それらを用いて具体事例を論じる能力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

科学技術社会論の様々な重要概念がコンパクトにまとめられている優れたテキスト—平川秀幸著『科学は誰のものなのか 社会の側から問い直す』（NHK出版生活人新書、2010年）をベースとして、重要概念と関連事例の解説を行う。

また、質疑応答を適宜行う。そのために、テキストの各章について当番を複数決めておく。当番になった者は、講師や他の学生からの質問に答えられるように準備してきてもらう。

また、毎回、授業の終わりに、リアクションペーパーに感想・意見・質問を記入してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	当科目の目的と背景、授業の進め方についての説明。科学技術と社会の相互作用についての簡単な説明。
第2回	「統治」から「ガバナンス」へ（その1） （テキスト対応箇所：第2章序盤）	なぜ今ガバナンスなのか、科学技術ガバナンスの登場、日本の転機：1995年、双方向なコミュニケーション、ほか。
第3回	「統治」から「ガバナンス」へ（その2） （テキスト対応箇所：第2章中盤）	参加型テクノロジーアセスメント、市民が参加するコンセンサス会議、市民陪審とシナリオワークショップ、ほか。
第4回	「統治」から「ガバナンス」へ（その3） （テキスト対応箇所：第2章終盤）	BSE問題が引き起こした「信頼の危機」、理解から対話・参加へ、「アウェー」としてのサイエンスカフェ、ほか。
第5回	科学技術は「完全無欠」か（その1） （テキスト対応箇所：第3章序盤）	「地震予知は困難」と認めた科学者たち、水俣病を悪化させた完璧主義、実験室の科学はまだ途半ば、知識の品質管理、「ファイナルアンサー」までのさらなる道のり、ほか。
第6回	科学技術は「完全無欠」か（その2） （テキスト対応箇所：第3章中盤）	それでも残る科学の不確実性、不確実性における二つの無知（Known UnknownsとUnknown Unknowns）、科学知識の制約、理想化にともなう不確実性、ほか。
第7回	科学技術は「完全無欠」か（その3） （テキスト対応箇所：第3章終盤）	誠実な科学者は白黒つけられない、理想系と現実系とのギャップ、ほか。
第8回	科学技術と社会のディープな関係（その1） （テキスト対応箇所：第4章序盤）	科学技術と社会のかかわりをどう見るか、「共生性」という考え方、科学技術の純潔主義、研究開発の国家総動員体制、ほか。
第9回	科学技術と社会のディープな関係（その2） （テキスト対応箇所：第4章中盤）	「価値中立的な科学技術」から「善い科学技術」へ、人工物に埋め込まれた政治性（アーキテクチャの権力、環境管理型権力）、ほか。
第10回	科学技術と社会のディープな関係（その3） （テキスト対応箇所：第4章終盤）	「緑の革命」の光と影、作動条件への不適合、技術の囲い込み症候群、利益構造の不平等、構造的課題としての市場の力、ほか。

第11回 科学の不確実性とどう付き合うか（その1）
（テキスト対応箇所：第5章序盤）

リスク論争で問われるものは？、調べの人が変わればデータも変わる、価値基準をどこに置くか、ほか。

第12回 科学の不確実性とどう付き合うか（その2）
（テキスト対応箇所：第5章中盤）

拳証責任が映し出す利害の対立、遺伝子組換え作物の環境影響、拳証責任の逆転、評価基準を変えた政治的・社会的理由、ほか。

第13回 科学の不確実性とどう付き合うか（その3）
（テキスト対応箇所：第5章終盤）

事前警戒原則、欧州組換え作物規制が示唆するもの、問いのフレーミングと答えの解釈、価値中立性を再定義する、とるべきリスクと避けるべきリスク、「賭け」を「実験」に変える知恵、ほか。どうやって科学技術問題に関わるのか、次の一歩が踏み出せない、「一人一人の心がけ」でよいのか、不自然な省略、知的協働のアクションチャート、信頼できる資料の見つけ方。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
・テキスト（平川秀幸著『科学は誰のものなのか—社会の側から問い直す』（NHK出版生活人新書））の該当箇所を事前に読んできてもらう。
・授業時間中に理解を深めるためQ&Aの時間を適宜とるが、そのために、テキストの各章について当番を複数決めておく。当番になった者には、講師や他の学生からの質問に答えられるように、特に入念に準備してきてもらう。（本授業の準備学習・復習時間は、各2時間が標準とされている。）

【テキスト（教科書）】

平川秀幸『科学は誰のものなのか—社会の側から問い直す—』、NHK出版生活人新書、2010年。
本授業を履修する者には、教科書を購入し、毎回の授業時に持参することを義務付ける。
（紙媒体は品切れなので、電子書籍を購入されたい。）

【参考書】

必要に応じて、参考になる文献やウェブサイトを紹介する。

【成績評価の方法と基準】

・平常点40%、中間レポート20%、期末レポート40%。
・平常点は、毎回提出してもらうリアクション・ペーパーをもとに採点する。白紙提出は大幅な減点となるので注意すること。
・中間レポートの概要：身近にある、製作者の意図が埋め込まれている人工物の事例およびユニバーサルデザインの事例を探し、その写真を撮ってきてもらう。
・期末レポートの概要：
テキストに関連する好きなトピックを選び、そのトピックに関連する文献を選んでその概要を紹介してもらった後、自説を展開してもらう。A4用紙5枚程度。

【学生の意見等からの気づき】

一昨年度、テキスト第6章「知るということ、つながること」に関する授業を、期末レポートの提出日より前に希望があったので、昨年度のように実施したところ、レポート執筆の参考になったという肯定的な意見をいくつかもらった。今年度も引き続き、テキスト第6章を期末レポート提出日より前に解説する。

【学生が準備すべき機器他】

教科書は、紙媒体が品切れなので、電子書籍を購入してもらうことになる。（紙媒体を好む場合は、古本がまだ売られていれば、そちらを購入してもよい。）
電子書籍を購入・使用する場合は、プラットフォームとなる端末（kindle 端末やスマートフォン、パッド、PCなど）も毎回の授業に持参してもらうことになる。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Outputs of S&T (science and technology) have both positive and negative impacts on society. Conversely, society has impacts on science and technology through funding of research and so on. Thus, S&T and society influence and co-produce each other. We call such process "co-evolution."

STS (Studies on Science, Technology and Society) is engaged in the mission of elucidating this "co-evolution" process and pointing to the problems related to it.

The objective of this course is to provide students with useful concepts to understand such co-evolution process, and to cultivate students' abilities to apply these concepts to concrete examples.

SOC300HA

社会開発論

新村 恵美

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際社会においても日本においても、経済優先の開発の反省から「社会開発」の重要性がたびたび再確認されてきた。開発、国際協力分野における社会的側面の重要性はSDGsの随所に見られる。しかし、SDGsで言及されるように、「社会開発」は「経済開発」と対立するものではなく、広い定義で捉えることができるだろう。その上で、社会的に弱い立場に置かれている人びとを中心に据え、すべての人が持続可能で豊かな人生の選択肢を持てるようになることに注目し、授業を展開する。

【到達目標】

下記の3点を到達目標とする。

- 1、SDGsに関連づけながら、社会開発の概念、扱うテーマについて、理論と実践の両方を往復することで基本的な知識を習得する。
- 2、途上国と先進国、当事者と支援者、というような二項対立ではなく、また自分と違う立場にある人びとを他者化することなく、「貧困」を理解することを目指す。
- 3、想像力を駆使して、社会開発が人間に変化をもたらすものであることを、実感する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

大きく3セクションに分ける。第1に、社会開発の概要として、様々な理論や国連・政府の枠組みから社会開発を概観する。第2に、社会開発で取り上げられる課題を分野別に理解し、最後に社会開発とそれによる社会変容の事例を取り上げて検討する。各回で、SDGsの関連する目標に照らし合わせ、それぞれの指標も確認する。授業計画の内容欄に、該当するSDGsの目標番号【】で記す。

学生自身の主体的な考察を促すため、提出した課題レポートをグループワークで共有し、全体発表なども行うほか、シミュレーションゲームや簡単なワークショップなども取り入れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	導入 社会開発の概要 1 定義と背景	本講義の全体像の紹介、オリエンテーションを行い、「社会開発」の概念を整理する。【SDGs 全体】
第2回	社会開発の概要 2 国連とSDGs	国連のSDGsの枠組み、内容と指標を概観する。【SDGs 全体】
第3回	社会開発の概要 3 国連と人間開発	国連の「人間開発」の概念を学び、人間開発指数(HDI)、ジェンダー開発指数(GDI)などの主な国際指標を理解する。【SDGs #1, 2, 3, 4 & 5】
第4回	社会開発の概要 4 日本政府による社会開発	社会開発を行う主体としての、国際機関、各国政府の活動について概観する。【SDGs #17】
第5回	社会開発の概要 5 市民、NGO	NGOの活動について、その種類・形態・財政・人材などを検討する。【SDGs #16】
第6回	社会開発の分野 1 途上国の貧困	バングラデシュのストリートチルドレンの「ことば」を手掛かりに貧困を想像し理解し、NGOの取り組みから社会開発の役割を検討する。【SDGs #1 & 11】
第7回	社会開発の分野 2 日本の貧困	日本を含めて先進国における貧困について、OECDやILOのデータを検証し現状と要因を考察すると同時に、途上国の貧困との相対化を図る。【SDGs #1】
第8回	社会開発の分野 3 格差を体験する	なぜ社会開発が必要なのか。ゲームを通して格差を体験し、考察する。【SDGs #10】
第9回	社会開発の分野 4 フェアトレード	「不公正な」貿易は途上国において何をもたらしているのか。ファストファッションを題材に考える。【SDGs #8 & 10】
第10回	社会開発の分野 5 人口問題と国際協力	高齢社会においても途上国においてもそれぞれ喫緊の課題である人口問題の概観し検討する。【SDGs #3 & 5】

第11回 社会開発と社会変容 1
教育・識字の役割

貧困の悪循環を断ち切る一つの方法として、「識字」を足がかりに、人びとが力をつけることを確認することを通して、社会開発がもたらす変化を学ぶ。【SDGs #4】

第12回 【グループ発表】

課題レポートの発表

課題で取り組んだ内容について、グループに別れて話し合い、発表する。ネパールの債務労働者の解放の事例を取り上げ、当事者による社会運動とNGO等による社会開発の役割について考える。【SDGs #8】

第13回 社会開発と社会変容 2
ネパールの債務労働者

第14回 まとめ

全体の内容のまとめをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。各回の配布資料にテーマに関連する参考図書や参考文献一覧を掲載するので、関心のあるテーマについて、クリティカル（批判的）な読解を試み、理解を深めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは定めず、授業ごとに内容に沿って教員が作成した資料を配布する。授業内容が依拠する引用文献は、資料にリスト化する。

【参考書】

佐藤寛ら編（2007）『テキスト社会開発—貧困削減への新たな道筋』日本評論者
アマルティア・セン（1999）池本幸生ら訳『不平等の再検討：潜在能力と自由』岩波書店
佐原隆幸・徳永達己著（2016）『国際協力アクティブ・ラーニング：ワークでつかむグローバルキャリア』弘文堂

【成績評価の方法と基準】

中間レポート：20%
期末試験：50%
毎回の授業での記述:30%

【学生の意見等からの気づき】

2016年度より担当。各回授業の学生からのフィードバックを踏まえて、双方向の授業にする。

【学生が準備すべき機器他】

授業では主にスライドを使用する。授業で使用した配布資料は、授業支援システムに掲載する。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This course is to learn the theory and practice of social development. It is structured as follows:

- 1) Students will review the definition and the history of social development, the theories influenced social development, as well as the actors of social development such as government, international agencies, NGOs, etc..
 - 2) Specific issues on social development are examined according to the Sustainable Development Goals (SDGs).
 - 3) Several case studies are introduces so that students can discuss on the practice of social development.
- Students are expected to be cooperative and active during the group discussions and presentations.

SOC200MA

開発教育

福田 紀子

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人権に基づいた社会のより良い変化（開発）に取り組むための活動は、課題を抱えた人々の間で実践が重ねられてきました。人権の基本的な概念理解や人道支援の国際基準（スフィア基準／Sphere Standards）、SDGs のテキストから、人類共通の課題意識や試行錯誤の中で獲得した“価値観＝大切にしているもの”に近づきたいと思えます。

特に世界で脅威となった「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）」に私たち自身の生活が大きく影響される今、関連する「人道支援の国際基準 スフィア基準（Sphere Standards）を学ぶことから始めたいと思えます。その後の経緯を見ながらテキストを進んでいきます。参加型学習／ワークショップの実践を目的とした『Citizen's Education for Good Governance』のテキストについては、授業実施の状況を見ながらその活用の仕方を考えていきたいと思います。

【到達目標】

- 1) 国際社会で積み上げられてきた合意文書、教材、報告書等から、人権、参加とエンパワメントに関する基本概念と歴史や経緯を理解する。
- 2) 人権尊重の思考と行動枠組、ジェンダー等、社会の公正な運営方法（Governance と Accountability）に必要な思考と行動のスキルを自分の生き方くらし方、社会の現実と関連させながら理解し実践する。
- 3) 参加型学習の学び方（手法、概念、進行）を経験し、人々をエンパワメントする学習について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

基本的に読んでおく英文資料、当日配布の資料（英・日）、ワークシートを元に進めます。資料の翻訳あるいは解説を分担する機会があります。授業はレジュメを中心に配布資料の翻訳や概説、ワークシートによる自分の感覚や考えを示し、そこから考える活動を行いながら進めていきます。その中でのディスカッション、フィードバックは日本語で行います。動画での説明も予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation self-introduction Humanitarian- Standards-and- Coronavirus-2020- ONEPAGER	〈この授業の進め方〉 この授業の進め方、評価について。自己紹介。人道支援の国際基準スフィア基準の事務局からの COVID-19 の対応に関する要請文を読みます。
2	Disaster & Humanitarian Response Basic Concept and Background	災害とは何か 人道支援とは何か 人道支援の背景
3	Sphere Standard 1 Sphere's structure 4 Principles	
4	Citizen's Education for Good Governance ~ Outline of the Concept Preparation for Facilitating as the team	Citizen's Education for Good Governance の Citizen's Education for Good Governance の基本概念を 概観します。 グループ毎に担当アクティビティの ファシリテーション準備を行います
5	Citizen's Education for Good Governance ① What dose CIVIL Society Mean?	市民社会とはどのような状態なのか、 公正な社会を作るために必要な配慮は 何かを考えます。
6	Citizen's Education for Good Governance ② Learning about Democracy	民主主義とはどのような要素があるの か考えます
7	Citizen's Education for Good Governance ③ Citizen's Organizing for Governance	市民がつながる、協力的に活動するこ とについて考えます

8	Citizen's Education for Good Governance ④ Analyzing & Understanding People' Reality	現実のしごとや暮らしの中の問題や変 化について考えます
9	Citizen's Education for Good Governance ⑤ A Rights-Based Approach to Citizenship Capacities	人権の視点を基本にした市民社会のあ りかたについて考えます
10	Citizen's Education for Good Governance ⑥ Roles of Government, Private Sector, Civil Society	市民社会の構成セクターの特徴を捉 え、この30年間の変化について考え ます。
11	Citizen's Education for Good Governance ⑦ Planing for Effective Partnership	市民社会の3セクターがそれぞれの役 割を果たすとはどのようなことでは うか？基本となる必要なことがある のかについて考えます。
12	Citizen's Education for Good Governance ⑧ Capacity Building for Partnership Governance & Accountability~Sphere Handbook' quality & Accountability ①	市民社会を活性化するために必要な知 識・スキル・姿勢について考えます。 人道支援団体の国際基準が示すサービ スの質と“アカウンタビリティ”を学 び、ガバナンスを考えた意味を再考し ます
13	Governance & Accountability~Sphere Handbook' quality & Accountability ②	演習をしながら、“アカウンタビリ ティ”の内容を学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に紹介された Web 上での資料、配布された資料は必ず読んでおくください。特に事前に分担した箇所については必要に応じた翻訳・整理と小グループ/パートナーとの発表の準備が必要となります。

国際的な出来事、国際協力活動、身近な社会の課題に関心をもち、自分の関心と行動傾向を考えながら、授業の理解につなげて下さい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に購入の必要はありません。教材は配布または Web 上の所在を伝えます。

【参考書】

The Sphere Handbook
Sphere-Handbook-2018-EN.pdf
(参考) Sphere-Handbook-2018-Japanese.pdf
Participatory Learning & Action-a trainer's guide(IIED)
『2030 年未来への選択』（西川潤）
『ワールドスタディーズ-教え方学び方ハンドブック』『参加型で考える 12
のものの見方、考え方』（以上、国際理解教育センター発行）
『参加型ワークショップ入門』（ロバート・チェンバース著）

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度、各回授業のふりかえりシート 40 %
個人/グループでの翻訳・発表とふりかえり、成果物（模造紙作業等）30 %、
レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】

参加型学習の体験は積極的な評価を受けています。ただ話し合いやアクティ
ビティが楽しいだけでなく、そこで伝えられる概念やメッセージを読み解き、
進行・手法・思考の枠組・問いかけについての意味を自分で掴むことが必要
です。不消化感を感じるときもあると思いますが、その感覚も経験として自
分の中で保持し、他者に問いかける力に変え、共有から生まれる学びがあれ
ばと願います。
ファシリテーターの実践はより主体的な学習へのコミットメント（内容理解、
スキルと態度）を高める機会としていってください。

【その他の重要事項】

国際合意の文書は完成された概念やタテマエではありません。多くの人々の
困難から学ぼうと世界中の人々が積み上げ、練り直し、現実の反映させよう
と格闘している文脈がひとつひとつあります。災害時の支援としての国際基
準をはじめ、あらゆる活動にグローバルな文脈があり、影響があります。ガ
バナンス、市民社会等、慣れないコンセプトかもしれませんが、国際的な合
意の文脈を理解する為の一つのステップとして学んでいきましょう。
また「参加型」を中心とした対立解決のプロセスも世界の差別や緊張関係
を平和的な手段で正していくために用いられる基本的な手法です。分担した
アクティビティのファシリテーションをはじめ、授業への出席を重視します。
部活等の欠席の理由は特別な場合を除き特に考慮しませんので、規定の出席
確保を事前に授業に望んで下さい。

【Outline and objectives】

The objective of this class would be getting the Basic Concepts for
understanding Citizen's Activism on Rights Base Approach for Social
Justice with International Standard, Agreements and Methods.
Students are expected to
read the materials/assignments to translate/summary/analyze/apply
into your own situation.
Main text would be the Sphere Standards-Humanitarian Charter and
Minimum Standards of Humanitarian Response.

SOC300HA

国際社会学

新藤 慶

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

【Outline and objectives】

This course provides an understanding of the current situation and issues facing foreign residents in Japan, particularly from the perspectives of policy, education and labor. The purpose of this course is to deepen the understanding of transnational migration and settlement, a major theme in international sociology.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、日本における在留外国人の現状と課題を、特に政策・教育・労働の観点から把握する。このことを通じて、国際社会学における主要テーマであるトランスナショナルな移動と定住の状況について理解を深めることを目的とする。

【到達目標】

本授業を通じて、在留外国人の移動と生活の実態を総合的な観点から理解することで、今日、世界的に生じているトランスナショナルな現象について理解し、自分なりに考察を進めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には、資料に基づいた講義によって進める。ただし、リアクションペーパーに質問事項を記載してもらうことで、その質問に答えながら、受講生の関心に基づいた授業展開ができるよう心がける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	日本社会と国際移民 (1)	国際社会学の考え方について講義する。
第 2 回	日本社会と国際移民 (2)	外国人受け入れ論争について講義する。
第 3 回	日本社会と国際移民 (3)	日本の政策における移民の扱いについて講義する。
第 4 回	排外主義 (1)	属性と排外主義の関係について講義する。
第 5 回	排外主義 (2)	日本における排外主義の現状について講義する。
第 6 回	エスニシティと教育 (1)	在日外国人の教育機会をめぐる歴史的背景について講義する。
第 7 回	エスニシティと教育 (2)	公立学校での外国につながる子どもに対する教育について講義する。
第 8 回	エスニシティと教育 (3)	外国人学校での外国人の子どもに対する教育について講義する。
第 9 回	エスニシティと教育 (4)	ニューカマー二世世代の大学進学について講義する。
第 10 回	労働市場と外国人労働者 (1)	移民受け入れに伴う労働市場の構造変化について講義する。
第 11 回	労働市場と外国人労働者 (2)	現在の日本の移民労働市場について講義する。
第 12 回	労働市場と外国人労働者 (3)	外国人介護人材について講義する。
第 13 回	外国人労働者政策の展望	外国人労働者政策の現状と展望について講義する。
第 14 回	国民国家とシティズンシップの変容	国民国家とシティズンシップの変容について講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。まず、授業で紹介した文献等で学習を深めることが挙げられる。それに加えて、国際社会学が扱う対象は、現代社会のさまざまなところで見つけることができるため、普段から国際社会学的な関心を持ちながら生活することも重要となる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。講義資料を配布する。

【参考書】

宮島喬ほか編、2015、『国際社会学』有斐閣。
小内透編、2009、『講座トランスナショナルな移動と定住』（全 3 巻）、御茶の水書房。

【成績評価の方法と基準】

論述試験（70%）＋毎回のリアクションペーパー（30%）

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートでは、写真や図のさらなる活用の要望が出されていたので改善したい。また、遅刻者や私語への対応の不十分さも指摘されていたので、改善し、授業環境の整備に努めたい。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

EDU200MA

文化経営論

荒川 裕子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

21世紀の成熟社会においては、「文化」が重要なファクターとなっています。ここで言う文化には、美術や音楽や演劇といった芸術文化はもとより、日常生活文化や伝統文化、映画やアニメ、ファッションなどの若者文化やポピュラー文化、さらには街並みや景観まで含まれます。それらを文化的「資源」ととらえ、まちづくりやひとづくり、あるいは文化産業をはじめとするビジネスなどに活用していくための「マネジメント」のあり方を考えます。

【到達目標】

文化のしくみを知り、文化に働きかけ、新しい文化を創生していくために、「文化をマネジメントする」という視点を養います。より具体的には、以下のふたつの面からアプローチします。まず、日本の文化政策、自治体の文化行政、文化予算やファンドレイジングなど、文化を取り巻くさまざまな制度について理解します。続いて、文化産業、企業メセナ、文化関連のNPOなど、文化を推進したり支援している多様な実践的活動について、その現状と課題、今後の可能性などを探ります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

各回ごとにトピックを設定し、ビジュアル資料や文献資料を用いて具体的な事例を紹介しながら授業を進めます。一方的な講義に終始することなく、学生自身が実際に文化の現場に出かけ、そのマネジメントのありようを分析してプレゼンテーションをしたり、文化に関わるイベント等の企画立案を試みたりします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の目的と進め方について説明する。
第2回	日本の文化政策①	明治から昭和初期までの文化政策の歩みをたどる。
第3回	日本の文化政策②	第二次世界大戦から戦後の文化政策の転換までを概観する。
第4回	日本の文化政策③	高度経済成長期の文化政策の特徴を探る。
第5回	日本の文化政策④	今日の文化政策の動向を概観する。
第6回	文化と法	「文化芸術基本法」をはじめ、文化の振興を支える法的基盤について学ぶ。
第7回	文化と経済①	文化を支える予算やファンドレイズについて理解する。
第8回	文化と経済②	文化産業／創造産業について事例をもとに考察する。
第9回	企業による文化支援	企業メセナを中心に企業と文化の関係を探る。
第10回	市民社会と文化①	「創造都市」という考えを中心に文化と社会の関わりを考える。
第11回	市民社会と文化②	まちづくり・地域活性化の観点から文化にアプローチする。
第12回	文化のマネジメント①	学生によるプレゼンテーションと質疑応答
第13回	文化のマネジメント②	学生によるプレゼンテーションとディスカッション
第14回	まとめと振り返り	授業を通じて学んだことをもとに、文化をマネジメントするための方法や今後の可能性について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博物館や美術館、劇場などの文化施設、まちづくりのための各種プロジェクト、企業や自治体が開催するイベントなど、文化に関わる現場に実際に足を運び、そのマネジメントについてフィールド調査を行うことが求められます（その際、若干の入場料等が発生する可能性があります）。また、文化関連の企画立案や、そのプレゼンテーションのための準備の時間を必要とします。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しませんが、授業中にはほぼ毎回プリント資料を配布します。

【参考書】

授業中に適宜、参考図書および参考ウェブサイトを提示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度（課題の成果、プレゼンテーション／ディスカッションへの参加など）：50%

期末試験（論述式）：50%

【学生の意見等からの気づき】

知的発見が非常に多い授業との評価をいただいておりますが、ともすれば受け身の講義になってしまうため、学生の積極的な参画を促すべく、プレゼンテーションやディスカッションの機会を確実に設けていきたいと思っております。

【その他の重要事項】

春学期開講の「アート・マネジメント論（社会とアートⅠ）」も併せて履修することが望ましい。

【Outline and objectives】

"Culture" is an important factor in the mature society of the 21st century. Culture here includes not only art such as fine arts, music and theater but also youth culture and popular culture such as movies, animation, fashion, and even cityscapes and landscapes. We consider them as "cultural resources" and try to make use of them for business development, such as town planning, human resource development and cultural industry.

SOC200HA

ファシリテーション論

鈴木 まり子

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人が何か目的をもって集ったとき、お互いの違いを厄介な問題としてではなく、新たな創造のための豊かさとして活かすには、皆が安心して参加できる場づくりが必要です。人は自ら関わっていく中で、他人事だった課題も自分事となり、主体性を発揮し始めます。この授業では、様々な課題が山積みの現代において、会議やワークショップや組織変革の現場で、対話を育み共創や協働を促進する参加型の場づくりのためのコミュニケーション技法「ファシリテーション」を取り上げます。

【到達目標】

この授業では、会議、ワークショップなど参加型の場におけるファシリテーションに対する知識と手法を身につけることを目的とします。ファシリテーションの定義や効果が理解でき、会議、ワークショップ、話し合いを有意義に進めることができるスキルを理解したうえで、実践できるようになります。また、演習を通して、対話や議論のスキルを身につけることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習システムでその都度掲示する。本授業の開始日は5月12日（火）とする。この授業は、オンラインビデオ会議システムZoomを使い双方向で行う予定である。授業開始日までを含めて、具体的なオンライン授業の方法は、学習支援システムで掲示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オンラインでの参加型授業の進め方 オンライン授業は5月12日開始	オリエンテーション（授業の進め方） 【講義】 オンラインで参加型の場が求められる背景。ワークショップとファシリテーションとは。【演習】 チェックイン
2	参加型の場をつくる3つの必須条件①事前準備のポイント「場づくり」	【講義】 場づくり・場づくりの基本や空間のデザインについて。 【演習】 場づくり体験
3	参加型の場をつくる3つの必須条件②事前準備のポイント「プログラム」	【講義】 プログラムデザインとプロセスについて。【演習】 広げる手法・収束する手法
4	参加型の場をつくる3つの必須条件③事前準備のポイント「ファシリテーター」	【講義】 ファシリテーターについて。 【事例紹介】 ファシリテーターの実践事例の紹介
5	ファシリテーターに求められる技術①オリエンテーション	【講義】 オリエンテーションのOARRとは。【演習】アウトカムを考えるワーク
6	ファシリテーターに求められる技術②アイスブレイク	【講義】 アイスブレイクとは。【演習】 アイスブレイクの体験
7	ファシリテーターに求められる技術③傾聴と問いかけとグループサイズ	【講義】 ファシリテーションにおける傾聴と問いかけとグループサイズとは。【演習】 質問会議
8	ファシリテーターに求められる技術④グラフィックとタイムキープ	【講義】 グラフィックとタイムキープとは【演習】 ファシリテーショングラフィック
9	プログラムデザイン① プログラムデザインの手法を学ぶ	【講義】 プログラムデザインとは【演習】 プログラムデザインを考えるワーク①
10	プログラムデザイン② ワークショップを企画する	【演習】 プログラムデザインを考えるワーク② グループに分かれてワークショップのテーマを話し合う
11	7回目に統合	7回目に統合
12	8回目に統合	8回目に統合
13	9回目に統合	9回目に統合
14	10回目に統合	10回目に統合

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。今、現在、身近にある話し合い（サークル、ゼミなど）や参加したワークショップは、どのような場になっているか意識してきてください（楽しい、有意義、つまらないなど）本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要な資料を事前に配布します。授業では、テキストを予習していることを前提に進めます。

【参考書】

「ワークショップ」中野民夫 新しい学びと創造の場 岩波書店（岩波新書）
「ファシリテーション革命」中野民夫 岩波アクティブ新書「チームビルディング」堀公俊他 日本経済新聞出版社「ワークショップ入門」ロバート・チェンバース 明石書店「ワールドカフェ」カフェの会話が未来を創る～: アニータブラウン/デイビッドアイザックス ヒューマンバリュー

【成績評価の方法と基準】

ファシリテーションの意義と効果に関して、事例をもっと知りたいという希望があったので、多様な事例を取り上げる予定です。
演習への参加度 30 %、振り返りシート 10 %、レポート 20 %、期末試験 40 %

【学生の意見等からの気づき】

就職活動やファシリテーターという職業に関して、もう少し具体的にイメージしたいという意見があったので、キャリアデザインという視点で、具体的な活動分野などを紹介していきます。

【その他の重要事項】

◎演習を中心にした授業です。履修希望者が多い場合は、第1回授業に出席した人を優先する可能性がありますので、履修希望者は、必ず第1回授業に出席してください。
◎受講希望者が多数となった場合は、受講者数を限定する可能性があるため、初回授業には必ず参加すること。
◎上記の通り受講者数を限定する際には、社会人学生（含むRSP生）を優先的に受け入れる。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

鈴木まり子ファシリテーター事務所代表。企業・自治体・NPO等において、会議、ワークショップ等のファシリテーターの実務経験あり。それに関連して、多様な分野の事例をもとに、ファシリテーションに対して具体的なイメージをもつことができる授業を行う。

【Outline and objectives】

Today, where various issues are piled up, when people gather for the purpose of solving the problem, we need to consider place-making where everyone can participate safely and comfortably in order to respect the differences between each other and make use of it as the wealth for new idea and creation.as people are involved in themselves, the issues that are other people's affairs become their own things, and people start to demonstrate their initiative.in this course, we will learn the "facilitation," as communication skills and mind for creating participatory place-making which can encourage dialogue and promote collaboration at conferences, workshops and organizational development process.

PHL200HA

西欧近代批判の思想

越部 良一

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5

【Outline and objectives】

This course deals with the modern Western thought and the philosophical critique to it in the history of Western civilization. The aim of this course is to understand some of the modern Western thoughts and some of the philosophical critiques to them. It also enhances students' understanding of the modern Japanese society under a great influence of the modern Western society.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は、西欧の近代とその思想に批判的に対峙する西洋の哲学思想をテーマとする。授業の目的は、西欧近代のいくつかの哲学思想を把握し、それへの批判がいかなる考え方によるのかを理解し、説明できること、これにより、西欧近代の影響を大きく受けている現代の日本社会を広く理解する視点を得ることである。

【到達目標】

西欧近代批判として、この授業では主として2つの視点から学んでゆく。一つは、西欧の古典思想からの視点であり、もう一つは西欧近代思想自身からの視点である。これにより、西欧近代への批判を、人間を超えた存在（イデア、神など）の尊重と、人間中心主義に対する批判という方向で把握し説明できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。本授業の開始日は5月4日（月）とし、その日に授業の進め方などを学習支援システムで提示する予定である。以下、参考までに、前年度の進め方を記しておく。前年度は、授業は講義形式で行い、思想家の言葉を見ながら、その意味を把握していくことを中心とした。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	西欧近代思想の特徴とその批判	西洋近代の特徴など、この講義の全体の概観
第2回	プラトンの思想Ⅰ	人間の魂の在り方と正義
第3回	プラトンの思想Ⅱ	様々な国家体制と民衆制（民主制）批判
第4回	聖書の思想	人の戒めを超える神の命令
第5回	功利主義の思想	最大多数の最大幸福
第6回	デカルトの思想	自然支配者としての人間
第7回	ヘーゲルの思想Ⅰ	人間理性は絶対者（神）である
第8回	ヘーゲルの思想Ⅱ	人間精神（＝神）の展開としての歴史
第9回	マルクス主義	マルクス主義における人間中心主義
第10回	キルケゴールⅠ	現代の批判（神を見失うことと主体性の喪失）
第11回	キルケゴールⅡ	ヘーゲル哲学批判（人間精神は神でない）
第12回	ニーチェⅠ	「神は死んだ」（「ニヒリズム」としての近代西洋批判）
第13回	ニーチェⅡ	近代西洋の大衆化批判
第14回	授業のまとめ	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して予習・復習をすること。また解説書や概論ではなく、自分で興味を持った授業でとりあげる思想家の著作（むろん翻訳でよい）に少しでも接することが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキスト（教科書）は使用しない。必要に応じて、思想家の言葉を引用したプリントを配布する。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

オンラインでの開講になったことにもなう、成績評価の方法などについても、授業開始日（5月4日）に学習支援システムで提示する予定である。以下、参考までに、前年度の評価方法を記しておく。前年度は、平常点（40%くらい）と期末試験（60%くらい）によって成績を評価した。

【学生の意見等からの気づき】

近代日本は西欧近代の影響を大きく受けているから、近現代の日本の思想状況と照らし合わせる視点を背景にしながら講義するつもりである。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

PHL200HA

仏教思想

小島敬裕

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講 semester：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 5/Thu.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

上座仏教は、東南アジアの大陸部諸国（タイ・ミャンマー・ラオス・カンボジア・ベトナムの一部）を中心に、スリランカ、中国雲南省の西双版纳州や徳宏州でも信仰されている。上座仏教徒社会においては、男子の大部分が一時出家を経験し、托鉢する出家者に対して在家者が食物を寄進する姿も毎朝のように見られる。仏教が世俗の人々の生活に根ざして「生きられて」いるのである。こうした人々によって生きられる仏教思想のあり方について、本講義では写真や映像資料を用いながら具体的に説明する。それによって、上座仏教の経典に書かれた思想とその現実を、地域社会とのかかわりから理解することを目的とする。さらに、日本人と上座仏教徒の歴史的な交流と断絶に焦点を当てることにより、国境を越える仏教思想の変容過程を考察する。

【到達目標】

上座仏教の教理と地域に生きる仏教徒の思想について、具体的な事例をもとに論じることができる。

また上座仏教徒社会との比較から、日本人の「仏教思想」に対する認識を自ら深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。

リアクションペーパーには、コメントとともに必ず質問を記入し、提出すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	上座仏教教団の成立と東南アジアへの普及	ブッダの人生ならびに上座仏教教団成立の経緯、そして東南アジアへの普及の歴史的過程
第2回	出家者の仏教	石井米雄『タイ仏教入門』『出家者の仏教』の章を中心に
第3回	在家者の仏教	石井米雄『タイ仏教入門』『在家者の仏教』の章を中心に
第4回	タイの王権・近代国家と仏教	NHK スペシャル『ブッダー大いなる旅路 4 タイの僧院にて一息している仏教』(1)
第5回	タイの現代社会と仏教	NHK スペシャル『ブッダー大いなる旅路 4 タイの僧院にて一息している仏教』(2)
第6回	ミャンマー村落部における出家者と在家者(1)	NHK スペシャル『ブッダー大いなる旅路 2 黄金のパゴダミャンマー・祭りと葬送の日々』(1)
第7回	ミャンマー村落部における出家者と在家者(2)	NHK スペシャル『ブッダー大いなる旅路 2 黄金のパゴダミャンマー・祭りと葬送の日々』(2)
第8回	現代ミャンマーにおける上座仏教の実態(1)	The Monk (1)
第9回	現代ミャンマーにおける上座仏教の実態(2)	The Monk (2)
第10回	ミャンマーへの日本軍の進駐	ビルマの堅琴 (1)
第11回	戦争に動員された日本人仏教僧	ビルマの堅琴 (2)
第12回	戦中期における日本人のミャンマー上座仏教に対する視線	ビルマの堅琴 (3)
第13回	日本人による戦後の遺骨収集活動と戦没者慰霊パゴダの建立	ビルマの堅琴 (4)
第14回	日本と欧米における上座仏教瞑想の受容	「マインドフルネス」の概念の成立と普及

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

石井米雄.1975.『上座部仏教の政治社会学—国教の構造』創文社.

石井米雄.1991.『タイ仏教入門』めこん.

NHK「ブッダ」プロジェクト編.1998.『ブッダー大いなる旅路 2』日本放送出版協会.

竹山道雄.1959(1948).『ビルマの堅琴』新潮文庫.

奈良康明・下田正弘編.2011.『新アジア仏教史 04 スリランカ・東南アジア—静と動の仏教』佼成出版社.

【成績評価の方法と基準】

レポート (50%)、平常点 (50%)

平常点は、授業への参加状況および毎回の授業後に提出するリアクションペーパーで総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

毎回、レジュメを配布するので、欠席した場合は、次週以降の講義の際に受け取る。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This course will focus on the Theravada Buddhist thoughts in everyday life. Theravada Buddhist societies are located in mainland Southeast Asia, Sri Lanka and southwest China. In these lectures, we will focus not only on the Buddhist philosophy written in texts, but also on ideas of Theravada Buddhists by paying close attention to how they practice themselves every day. Furthermore, we will explore the relationship between Japanese society and Theravada Buddhism through visual materials including photos and documentary videos.

ART200HA

比較演劇論 I

平野井 ちえ子

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座の目的は、日本と海外とを等距離から比較して、それぞれの舞台芸術の底流をなす文化や美意識を探ることです。「演劇」とは何か？「伝統」とは何か？「日本的なもの」とは何か？比較の視野からこれらのテーマを考えると、私たち自身の美意識のあり方が浮かびあがってきます。ここに他文化を学ぶことの意義があるのです。

【到達目標】

演劇の各ジャンルについて基本的な教養を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

【重要】学習システム不具合のため、本講座の初回授業日を5月4日（月曜日）に変更しました。初回は、資料配信型の授業ですので、5月4日以前にも、今後の学習支援システムの回復に合わせて、順次「お知らせ」「教材」「課題」「アンケート」などをアップロードしていきます。随時確認して履修判断の参考にしてください。第2回授業については、学習支援システムで確認してください。

基本用語の解説もしながら、東西のさまざまな演劇ジャンルを考察するので、とても密度の濃い講義形式となります。比較考察の軸は、つねに日本の伝統芸能です。毎回学生の関心や理解度を確認するためのジャーナルを書いています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	シラバスに基づいて講座概要を説明し、志望理由を簡潔に書いていただきます。それにより選抜を行う可能性もあります。受講を希望する人は、必ず出席してください。
第2回	歌舞伎海外公演（1）	歌舞伎海外公演の歴史とその成果について考えます。
第3回	歌舞伎海外公演（2）	歌舞伎海外公演の歴史とその成果について考えます。
第4回	何もない空間	能やギリシャ悲劇を対象に、観客の想像力について考えます。
第5回	歌舞伎舞台の大仕掛け	回り舞台、花道、せり、屋体くずしなど、歌舞伎舞台の仕掛けを学びます。
第6回	歌舞伎の音	歌舞伎の音楽、効果音、間について考えます。
第7回	歌舞伎のせりふ	聞かせどころのせりふを例として、歌舞伎のせりふの特徴を学びます。
第8回	歌舞伎と能の視覚効果	歌舞伎と能について、演技の型、舞台構造、衣裳 vs. 装束、化粧 vs. 面などの観点から、対照的に考察します。
第9回	古今東西の劇的葛藤と情感	論理性 vs. 感性という観点から、東西の伝統演劇を考察します。
第10回	日本人の主情性 一家庭悲劇のドラマツルギー（1）	歌舞伎の『熊谷陣屋』と能の『敦盛』を比較し、それぞれのジャンルにおけるドラマツルギーの理念について考えます。
第11回	日本人の主情性 一家庭悲劇のドラマツルギー（2）	歌舞伎の『熊谷陣屋』と能の『敦盛』を比較し、それぞれのジャンルにおけるドラマツルギーの理念について考えます。
第12回	歌舞伎と文楽	歌舞伎と文楽の『熊谷陣屋』を比較考察します。
第13回	総括	春学期の学習内容の復習をします。期末試験の勉強のしかたについても説明します。
第14回	期末試験（記述式）と復習	13回までの講義内容について、まとめと復習を行うとともに、理解度・知識定着度を確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料・URL等を利用して必ず予習・復習をしてください。日頃から舞台芸術に親しむ姿勢も大切です。そのための個別の質問も歓迎します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリント配布。加えてテキストを指定する場合、授業内で指示します。

【参考書】

河竹登志夫著 『舞台の奥の日本 一日本人の美意識―』 TBS プリタニカ
野間正二著 『比較文化的に見た日本の演劇』 大阪教育図書
青山昌文編著 『舞台芸術への招待』 放送大学教育振興会

【成績評価の方法と基準】

【平常点】40%

参加態度（授業に関係のない私語などには厳しく対応します）。

ジャーナル（毎回授業の最後にその日の講義内容について考えたことをその場で簡潔にまとめて提出していただきます）。

【期末試験】60%

参照不可の記述式試験です。

【学生の意見等からの気づき】

「理論と作品解説のバランスが良い」、「新たなジャンルに関心がもてて楽しかった」など、基本的に好評でした。

【学生が準備すべき機器他】

B T O 3 0 9 教室での授業です。

【その他の重要事項】

・まず、芝居をたのしんで下さい。授業でも舞台情報を提供します。

・2011年度までに「比較演劇論」を修得済の場合、本科目は履修できません。

・当該教室では飲食厳禁です。皆で利用する機器や教材を大切に扱ってください。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

We will compare and analyze Japanese theatres and theatres overseas without favour or partiality to savor underlying cultural backgrounds and aesthetics for each of them. What is theatre? What is tradition? What is originally from Japan? Discussing such topics from comparative perspectives, we can recognize our own identity and aesthetics. This could be the best part of learning other cultures.

ART300HA

比較演劇論Ⅱ

平野井 ちえ子

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座の目的は、日本と海外とを等距離から比較して、それぞれの舞台芸術の底流をなす文化や美意識を探ることです。「演劇」とは何か？「伝統」とは何か？「日本的なるもの」とは何か？ 比較の視野からこれらのテーマを考えると、私たち自身の美意識のあり方が浮かびあがってきます。ここに他文化を学ぶことの意義があるのです。

【到達目標】

春学期講義「比較演劇論Ⅰ」で学んだ理論的枠組みを土台に、さまざまな演劇作品・関連芸術への鑑賞眼を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

演劇各ジャンル・関連芸術の代表的な作品について鑑賞・解説し、受講者の鑑賞眼を養います。毎回学生の関心や理解度を確保するためのジャーナルを書いていたいただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	シラバスに基づいて講座概要を説明します。
第2回	歌舞伎海外公演（3）	平成中村座海外公演について考察します。
第3回	劇場とは何か	芸能の「場」と観客の想像力について考察します。
第4回	スペクタクルの役割：歌舞伎を中心として	古典歌舞伎とスーパー歌舞伎・新作歌舞伎のスペクタクルについて考察します。
第5回	ジャンル横断的考察（1）	能と歌舞伎：共通する物語やテーマを軸に、各ジャンルの特性を考察します。
第6回	ジャンル横断的考察（2）	文楽と歌舞伎：共通する物語やテーマを軸に、各ジャンルの特性を考察します。
第7回	ジャンル横断的考察（3）	歌舞伎と落語：共通する物語やテーマを軸に、各ジャンルの特性を考察します。
第8回	ジャンル横断的考察（4）	歌舞伎と映画：共通する物語やテーマを軸に、各ジャンルの特性を考察します。
第9回	翻案劇とは何か	日本におけるシェイクスピア受容を中心に、ジャンルとしての翻案劇のあり方を考察します。
第10回	東西の流血シーン	ヨーロッパの演劇と比較して、歌舞伎の「殺し場」の特徴を考えます。
第11回	歌舞伎の理想美	歌舞伎を軸として、演劇におけるリアリズムと様式表現について考えます。
第12回	演劇の季節感	歌舞伎の「芝居年中行事」について、代表的な作品を考察します。
第13回	伝統とは何か	東西の伝統演劇の比較考察をまとめます。期末試験の勉強のしかたについても説明します。
第14回	期末試験（記述式）と復習	13回までの講義内容について、まとめと復習を行うとともに、理解度・知識定着度・鑑賞力を確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料・URL等を利用して必ず予習・復習をしてください。

日頃から舞台芸術に親しむ姿勢も大切です。そのための個別の質問も歓迎します。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリント配布。加えてテキストを指定する場合、授業内で指示します。

【参考書】

河竹登志夫著 『舞台の奥の日本 ー日本人の美意識ー』 TBS プリタニカ
野間正二著 『比較文化的に見た日本の演劇』 大阪教育図書
青山昌文編著 『舞台芸術への招待』 放送大学教育振興会

【成績評価の方法と基準】

【平常点】40%

参加態度（授業に関係のない私語などには厳しく対応します）。
ジャーナル（毎回授業の最後にその日の講義内容について考えたことをその場で簡潔にまとめて提出していただきます）。

【期末試験】60%

参照不可の記述式試験です。

【学生の意見等からの気づき】

「理論と作品解説のバランスが良い」、「新たなジャンルに関心がもてて楽しかった」など、基本的に好評でした。ただし、学習の分量は多いので、2013年度以降の「比較演劇論Ⅱ」では、春学期の「比較演劇論Ⅰ」を受講していない学生の履修は認めていません。

【学生が準備すべき機器他】

B T O 3 0 9 教室での授業です。

【その他の重要事項】

- ・まず、芝居をたのしんで下さい。授業でも舞台情報を提供します。
- ・2011年度までに「比較演劇論」を修得済の場合、本科日は履修できません。
- ・春学期の「比較演劇論Ⅰ」を履修していない学生の履修は、一切認めていません。
- ・当該教室では飲食厳禁です。皆で利用する機器や教材を大切に扱ってください。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

We will compare and analyze Japanese theatres and theatres overseas without favour or partiality to savor underlying cultural backgrounds and aesthetics for each of them. What is theatre? What is tradition? What is originally from Japan? Discussing such topics from comparative perspectives, we can recognize our own identity and aesthetics. This could be the best part of learning other cultures.

ART200HA

日本美術史論

豊田 和乎

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、まず江戸時代（近世）までの伝統的絵画の歴史を概観する。ついで近代日本画に焦点をあわせ、その歴史をたどる。近代日本画は、伝統的絵画にくわえて明治時代以降本格的に流入した西欧の絵画をも自由に学ぶことで、新時代にふさわしい新しい日本画の創造を目指した。近代日本画作品と豊富な資料をもとにして、近代日本画の美術史的な意義を考察し、わが国の美術史に対する理解と愛着を醸成する。

【到達目標】

学生個々のこれまでの学習体験により、日本美術史に対する知識に不均衡があることが予想されるため、まず日本美術史に対する教室内での共通認識を深める。私たちの先人が生み出してきた絵画の歴史についてたどることで、わが国の伝統と文化の特色の一端を味わい理解することを目標とする。諸資料の講読などによってさまざまな近代日本画の用語と基礎知識を理解し、日本美術に対する教養を身につけることを目的とする。さらに講義で取り上げる絵画に関する意見を表現するトレーニングなどを通して、美術作品の読解力を養うことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業では、近世以前の日本美術史、特に絵画の各様式における作品例を概観する。そのうち近代における「日本画」の成立とその歴史的経過をふまえ、近代日本画の系譜が、日本美術史上どのような意義をもっているのかを検討する。その際、多数の近代日本画作品の画像を紹介する。さらに絵画のほかにも、美術史上の出来事、作者の履歴や制作態度などを探る手がかりとなる史料も利用する。最低限の素養として、絵画に関する事項を丹念に調べる姿勢とともに、史料読解に積極的に取り組む姿勢が必要となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	日本美術のながれ～日本美術の“特色”は何か	本講義の導入として、日本美術の特色と言えるものは何か、検討する。
第2回	日本美術のながれ～日本美術の一系譜としての“近代日本画”	前回に引き続き、日本絵画史研究の導入として、近代日本画というジャンルが、日本絵画史上に有する意義を考察する。
第3回	日本美術史の概観、古墳時代から奈良時代	主として古墳時代から奈良時代における絵画の代表例を概観する。
第4回	日本美術史の概観、平安時代～鎌倉南北朝時代	主として平安時代から鎌倉南北朝時代における絵画の代表例を概観する。
第5回	日本美術史の概観、室町時代～安土桃山時代	主として室町時代から安土桃山時代における絵画の代表例を概観する。
第6回	日本美術史の概観、江戸時代	江戸時代における絵画の代表例を概観する。
第7回	“日本画”のイメージ～重要文化財指定などによる“歴史化”	文化勲章を受章した近代日本画家や、重要文化財に指定された近代日本画作品を通して、現在実際に近代日本画がどのように評価されているかを概観する。
第8回	伝統的な“日本画”のすがた、かたち～技法、材料、装丁などを中心に	日本の絵画の伝統的な技法、材料や装丁方法などを概観し、“すがた、かたち”の面から日本画に関する基礎知識を共有する。
第9回	近代日本画の“誕生”	明治初期における「日本画」の誕生の経緯を概観する。
第10回	懐古趣味の醸成と日本画	「日本画」誕生の経緯に関連して、明治10年代における文化的な風潮や美術史の動向について考察する。
第11回	東京美術学校の創設と草創期の近代日本画	東京美術学校開校前後の近代日本画壇の状況を概観する。
第12回	近代日本画の勢力～東京画壇の新派と旧派	明治末、とりわけ明治40年の文展開設の前後における、東京画壇の状況を概観する。
第13回	近代日本画の勢力～官展の京都画壇	明治末、とりわけ明治40年の文展開設の前後における、京都画壇の状況を概観する。
第14回	大正期の近代日本画	大正期の日本画壇、特に日本美術院の再興、金鈴社と国画創作協会の結成、帝国美術院の創設と帝展の開催について、それらの意義を考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義において配布されるプリント等を使用して必ず予習・復習をすること。このプリント等の内容をしっかりと理解することが重要となる。特にプリントに引用されている史料等を読み、聞き覚えのない用語の有無を把握し、出来る限り意味を調べておくことなどが必要となる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは、特に用いない。必要に応じて、プリント等を配付する。

【参考書】

小林忠『原色現代日本の美術 第2巻 日本美術院』1979年、小学館／内山武夫『原色現代日本の美術 第3巻 京都画壇』1978年、小学館／細野正信『原色現代日本の美術 第4巻 東京画壇』1978年、小学館／高階秀爾、陰里鉄郎、田中中佐夫・編『日本美術全集 第22巻 洋画と日本画』1992年、講談社／根崎光男・監、講談社野間記念館、財団法人野間文化財団・編『美のながれ—講談社野間記念館名品図録』2005年、財団法人野間文化財団。このほか、講義に関連のある美術展覧会等の情報とともに、講義の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（試験期間中）の成績による（100%）。期末試験では、近代日本画に関する基礎的知識と、近代日本画作品を解説する力との、それぞれの修得の到達度を問うこととなる。

【学生の意見等からの気づき】

講義の各回において、できるだけ多くの近代日本画作品の画像を紹介していきます。

【その他の重要事項】

・講義では、場合によっては、聞き覚えのない美術用語、歴史用語などが飛び交うことにもなるかと思いますが、せっかく受講する以上は、それら用語も丹念に調べるなど、積極的に参加することを期待します。
・旧科目名称「日本美術の系譜」を修得済の場合、本科目は履修できません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【Outline and objectives】

This course is to learn about positioning of modern Japanese paintings in Japanese art history by contrasting with traditional painting until the Edo period. Through lectures, students will deepen understanding of Japanese traditions and culture.

ART200HA

西洋美術史論

板橋 美也

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イギリスのジャポニスム―「日本」がどのように描かれてきたのか

【到達目標】

現在では、日本のアニメや食べ物、ファッションなどが海外に広く浸透しましたが、今からおよそ1世紀半前の日本の開国直後、ジャポニスムと呼ばれる現象が起こり、日本の事物に対する高い関心が欧米諸国で湧き起こりました。この時期、様々な欧米諸国との通商関係の成立とともに、多くの人や物が日本から流れ出し、特に日本の美術工芸品が欧米で大きな注目を集めました。そして、欧米諸国の芸術家たちは、自分の創作活動のインスピレーションの源の一つとして日本の美術工芸品を眺め、また、各々の支持する美術・デザイン思想の裏付けとして日本の美術工芸品について論じたのです。本講義は、1860年代から1930年代までの時期、このジャポニスムという現象が、世界に覇権を広げた帝国としての繁栄を誇っていた国、産業化・近代化による弊害にいち早く気づくこととなった国、そして日本にとって初めての軍事同盟を結んだ国としてのイギリスで、どのような美術・デザイン思想と連関しながら変遷を遂げ、その中で日本がどのように眺められてきたのかを考えます。そうすることで、1860年代から1930年代のイギリス美術・デザインの諸潮流とジャポニスムの変遷について理解すること、ある文化が他文化の諸要素を取り入れるときに生じる異文化間交流のあり方について自分の考えを述べるができるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

まず、「日本美術」の諸要素をイギリスの芸術家たちが取り入れた際に前提としていたイギリス側の背景（美術潮流）を解説します。そのうえで、その美術潮流に身を置いていた芸術家・批評家による「日本美術」観を、彼らの発表した文章や作品を通して考えます。また、講義内容を踏まえて自分の考えを簡潔にまとめたリアクション・ペーパーを授業時に随時書いてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ジャポニスム前史	シノワズリーからジャポニスムへ
第2回	デザイン改革運動におけるジャポニスム（1）	デザイン改革運動の背景説明
第3回	デザイン改革運動におけるジャポニスム（2）	Christopher Dresser その他の「日本美術」観を分析
第4回	ゴシック・リヴァイヴァルにおけるジャポニスム（1）	ゴシック・リヴァイヴァルの背景説明
第5回	ゴシック・リヴァイヴァルにおけるジャポニスム（2）	William Burges その他の「日本美術」観を分析
第6回	唯美主義におけるジャポニスム（1）	唯美主義の背景説明
第7回	唯美主義におけるジャポニスム（2）	James McNeill Whistler その他の「日本美術」観を分析
第8回	アーツ・アンド・クラフツ運動におけるジャポニスム（1）	アーツ・アンド・クラフツ運動の背景説明
第9回	アーツ・アンド・クラフツ運動におけるジャポニスム（2）	Frank Morley Fletcher その他の「日本美術」観を分析
第10回	1910年日英博覧会	日本政府による「日本美術」の表象
第11回	モダニズムにおけるジャポニスム	Roger Fry その他の「日本美術」観を分析
第12回	民芸運動をめぐる日英交流（1）	民芸運動の背景説明
第13回	民芸運動をめぐる日英交流（2）	Bernard Leach その他の「日本美術」観を分析
第14回	試験	授業内容に基づいた試験を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布したプリントと授業中にとったノートをもとに、毎回授業後によく復習をしておいてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを適宜配布します。

【参考書】

世田谷美術館編、『JAPANと英吉利西（いぎりす）日英美術の交流 1850-1930』展』、世田谷美術館、1992年

谷田博幸、『唯美主義とジャポニスム』、名古屋大学出版会、2004年
小野文子、『美の交流―イギリスのジャポニスム』、技報堂出版、2008年

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み（50%）と期末試験（50%）から総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

スクリーンに映し出した作品を鮮明に見せようとする、黒板前の照明を暗くせざるを得ないので、その点ご了承ください。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【Outline and objectives】

Japonisme in Britain: how "Japan" has been represented

PHL200HA

生命の現在と倫理

吉永 明弘

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会における生命の価値について、医療倫理と動物倫理の観点から学ぶ。

【到達目標】

応用倫理学の一つである医療倫理（生命倫理）と動物倫理の議論を理解し、自分なりに現代社会における生命に対する倫理を考えることができることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で進める。コメントペーパーに意見を書いてもらい、随時それに答えていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	応用倫理学について	応用倫理学の特徴について説明する。
2	インフォームドコンセント：専門家と素人の関係	医療倫理のキーワードであるインフォームドコンセントについて説明する。
3	美容整形とスマートドラッグ：治療と改造	美容整形とスマートドラッグを題材に治療と改造の線引きについて考える。
4	遺伝子治療と脳手術：治療と改造	遺伝子治療と脳手術を題材に治療と改造の線引きについて考える。
5	脳死と臓器移植：先端技術の倫理	脳死と臓器移植を題材に先端技術がもたらす倫理問題について説明する。
6	安楽死と尊厳死：生と死の倫理	安楽死と尊厳死を題材に生と死について考える。
7	出生前診断と優生思想：生命の価値	出生前診断と優生思想を題材に生命の価値について考える。
8	法律上のペットの位置づけ	ペットを題材に動物倫理について説明する。
9	工場畜産と動物実験：動物解放論	工場畜産と動物実験を題材に動物解放論について説明する。
10	肉食とベジタリアン：文化とライフスタイル	肉食を題材に動物の福祉と食について考える。
11	「動物が幸せを感じるとき」を読む	動物の福祉についての名著を紹介する。
12	生態系保全と動物愛護運動の対立と協働	環境倫理における全体論と個体主義について説明する。
13	「自然の権利」と「動物の権利」	環境倫理における自然と権利と動物の権利の違いについて説明する。
14	現代における生命の価値	授業を振り返って現代における生命の価値について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

生命や動物に関するニュースを把握しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

吉永明弘『都市の環境倫理』勁草書房、2014年。
吉永明弘『ブックガイド環境倫理』勁草書房、2017年。

【成績評価の方法と基準】

試験（50%）とレポート（50%）。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

You learn medical ethics and animal ethics.

PHL200HA

環境倫理学

吉永 明弘

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境倫理学は1970年にアメリカに誕生した応用倫理学の一分野であり、日本では1990年代に始まった若い分野である。本講義ではアメリカと日本の議論の違いに注目しながら環境倫理学の全体像を説明する。受講者はそれを通して倫理的なアプローチの特色を学ぶことにもなる。

【到達目標】

アメリカの環境倫理学と日本の環境倫理学の歴史と中身について理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義、質疑応答、レポートへの応答

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	倫理学の基礎：功利主義、義務論、徳倫理学	環境問題を「倫理学」の視点から学ぶための基礎となる理論を紹介する
2	正義論の基礎	環境問題を「正義論」の視点から学ぶための基礎となる理論を紹介する
3	環境問題からみた人類史	人類の歴史を環境問題の観点からまとめ直す
4	アメリカの環境倫理学：土地倫理を中心に	環境倫理学の原点とされる「土地倫理」を中心にアメリカの議論を紹介する
5	アメリカの環境倫理学：動物倫理を中心に	環境倫理から動物倫理へと分岐していった経緯を紹介する
6	アメリカの環境倫理学：環境プラグマティズム	アメリカの最近の潮流である環境プラグマティズムの主張を紹介する
7	日本の環境倫理学：加藤尚武の三つの基本主張	日本の環境倫理学の代表者による三つの主張を紹介する
8	日本の環境倫理学：鬼頭秀一のローカルな環境倫理	日本の環境倫理学の特徴である「ローカルな環境倫理」の内容について紹介する
9	日本の環境倫理学：公害の環境倫理	公害問題について映像資料を参考に議論する
10	日本の環境倫理学：公害の環境倫理	公害問題の歴史と現在の状況について紹介する
11	環境倫理学の新動向：都市の環境倫理	最新の動向である「都市の環境倫理」について紹介する
12	災害の環境倫理学：復興のありかたについて	震災復興について映像資料を参考に議論する
13	災害の環境倫理学：原子力発電について	原子力発電について映像資料を参考に議論する
14	未来の環境倫理学	環境倫理学の今後の姿について議論する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

吉永明弘『都市の環境倫理』勁草書房、2014年

【参考書】

吉永明弘『ブックガイド環境倫理』勁草書房、2017年
吉永明弘・福永真弓編『未来の環境倫理学』勁草書房、2018年

【成績評価の方法と基準】

試験（50点）とレポート（50点）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

You can understand history and contents of environmental ethics.

PHL300HA

環境哲学基礎論

吉永 明弘

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学的空間論、身体論、人間主義地理学、風土論、都市論を学ぶとともに、アメニティマップ作り実践を通じて、各人が自分にとって良好な環境とはいかなるものかについての認識を深めることを目標とする。

【到達目標】

「良い環境とは何か」について自分なりの答えが見つけれられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義、質疑応答、レポートへの応答。
この授業は4月27日（月）から行います。
連絡は学習支援システムで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	なぜ環境を哲学するのか	「環境とは何か」となぜ問う必要があるのかを説明する
2	哲学的空間論	ユクスキュル環境論、市川浩の身体論、ボルノウの空間論を紹介する
3	人間主義地理学	トゥアンとレルフの「場所」についての理論を紹介する
4	風土論:和辻哲郎	和辻哲郎の風土論を紹介する
5	風土論:ベルク	オギュスタン・ベルクの風土論を紹介する
6	風土論的環境倫理の構想	岸由二、桑子敏雄、亀山純生の議論を紹介する
7	都市論:ジェイコブズ	ジェイコブズの都市論について紹介する
8	清溪川復元と美の条例	ソウル市の清溪川復元事業と真鶴町の美の条例について紹介する
9	アメニティマップ概論	アメニティマップの作り方を説明し、過去のマップを紹介する
10	アメニティマップ製作	実際にアメニティマップをつくってみる
11	アメニティまとめ	作成したアメニティマップを用いて議論する
12	対話型講義	アメニティマップの有効な使い方について議論する
13	環境と観光	観光が地域環境にもたらす影響について論じる
14	ローカルからグローバルへ	「地域環境保全」から「地球環境保全」への道筋をさぐる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

吉永明弘『都市の環境倫理』勁草書房、2014年

【参考書】

吉永明弘『ブックガイド環境倫理』勁草書房、2017年
吉永明弘・福永真弓編『未来の環境倫理学』勁草書房、2018年

【成績評価の方法と基準】

試験（50%）、マップ製作（20%）、レポート（30%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

You find answering the question "What is a good environmental?"

HIS300HA

日本環境史論 I

根崎 光男

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：人と自然の環境史

本授業では、人と自然との歴史的なかわりを、近世日本の政治・経済・生活・文化などの様々な側面から考える。授業は講義を中心とし、近年の環境史研究の新しい成果を取り入れながら、歴史を「覚える」だけでなく、「考える」能力を身につける方法を紹介していく。また資料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要資料を提示して、資料から具体的な歴史像を描き出せるように工夫する。

【到達目標】

この講義では、日本環境史を理解するために必要となる知識の習得や歴史的事実の調べ方、およびその全体像の論理的構成方法を学び、自然・環境などにかかわる根拠資料を読解するので、資料読解のほか、環境史を論理的に説明できる。また人と自然とのかわりを歴史的に知るために、地域性や時代性を意識しながら、豊かで多様な価値観に支えられた環境史の具体像を構築する能力を養うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半は、オンラインでの開講となる。それにとまう各回の授業計画は、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は、4月27日とし、この日に具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	環境歴史学とは	環境歴史学の歩みとその役割について学ぶ
第2回	人の暮らしと山林利用	人の暮らしと山林利用の関係について学ぶ
第3回	山林荒廃と人間社会への影響	山林荒廃の要因を地域の多様な事例を通して学ぶ
第4回	自然をめぐる環境思想	近世の環境思想を山林荒廃の論理から学ぶ
第5回	山林保護をめぐる政策と地域慣行	幕府の山林保護政策の歩みとその具体的な内容について学ぶ
第6回	持続可能な山林保護の諸相	幕府・諸藩・地域社会で実践された山林保護の諸相について学ぶ
第7回	植林をめぐる政策と地域性	各地域で実践された植林政策の歴史の多様性について学ぶ
第8回	共有資源の利用と紛争	山野河海の利用をめぐる幕府の裁定方針について学ぶ
第9回	山野河海の入会慣行	山野河海の入会利用の多様なあり方と入会権の特質について学ぶ
第10回	狩猟の歴史と自然環境保全	狩猟の歴史と自然環境保全とのかわりについて学ぶ
第11回	狩猟の文化と地域社会	狩猟文化の歩みと地域社会とのかわりについて学ぶ
第12回	農業と害鳥対策	鳥獣被害対策と領主・地域社会の対応関係について学ぶ
第13回	人間と鳥獣との共生関係	人間と鳥獣との多様な関係から共生のあり方について学ぶ
第14回	公害と領主・地域社会	公害の多様性と領主・地域社会とのかわりについて学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。毎回、テキストのテーマごとの史料を事前に読んでおくこと。テーマに関連する参考文献を読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『日本近世環境史料演習 改訂版』（根崎光男編、同成社、2011年）

【参考書】

『生類憐みの世界』（根崎光男、同成社、2006年）
『犬と鷹の江戸時代』（根崎光男、吉川弘文館、2016年）

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準は授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

環境史学の学習には、歴史資料の読解・分析が欠かせないので、わかりやすい解説を心がけていく。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Considers the history of the relationship between humans and the natural environment in the early modern period based on politics, economics, society and culture.

HIS300HA

日本環境史論Ⅱ

根崎 光男

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：江戸の都市環境史

本授業では、江戸の都市環境の全体像を、政治・経済・生活・文化などの様々な側面から考える。授業は講義を中心とし、近年の環境史の新しい成果を取り入れながら、歴史を「覚える」だけでなく、「考える」能力を身につける方法を紹介していく。また資料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要資料を提示して、資料から具体的な歴史像を描き出せるように工夫する。

【到達目標】

この講義では、日本環境史を理解するために必要となる知識の習得や歴史的事実の調べ方、およびその全体像の理論的構成方法を学び、都市・環境などにかかわる根拠資料を解説するので、資料読解のほか、江戸の都市環境史を論理的に説明できる。また江戸という地理的条件や日本の伝統的な生活文化を意識しながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史や文化の具体像を構築する能力を養うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、原則として講義形式で進め、その理解度を把握するため、時としてリアクションペーパーを提出してもらおう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス—江戸の都市環境について	江戸の町の歴史の基礎とその特質を学ぶ
第 2 回	江戸の都市化と地域の特徴	江戸の町の都市化を開発・人口増大などの環境変化から学ぶ
第 3 回	都市環境の変化と都市計画	江戸の都市計画を環境思想などの視点から学ぶ
第 4 回	行政と地域社会	江戸の行政組織の多様性とその特質、および問題点を学ぶ
第 5 回	町の運営と地域コミュニティ	江戸の町の運営と地域コミュニティのありようを学ぶ
第 6 回	市民生活と住環境	住民の住環境の歴史の変遷を通して身分差別のありようを学ぶ
第 7 回	市民生活と衣食環境	衣食のありようやそれを支えた江戸周辺地域との関係性を学ぶ
第 8 回	産業の発達と地域社会	物直し産業の業態と同業組織の特質について学ぶ
第 9 回	巨大都市とゴミ問題	ゴミ問題の発生と住民生活との関係について学ぶ
第 10 回	江戸のゴミ処理システム	幕府のゴミ処理システムの運用と課題を学ぶ
第 11 回	火災と地域社会	災害都市江戸のありようを学ぶ
第 12 回	江戸の消防と防火対策	江戸の火災と幕府・町方の消防組織のあり方と多様な防火対策について学ぶ
第 13 回	市民生活と水問題	江戸の上下水道について学ぶ
第 14 回	江戸の生活文化と都市空間	江戸の住民生活と信仰・娯楽との関係性を癒し空間の視点から学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。毎回、テキストのテーマごとの史料を事前に読んでおくこと。テーマに関連した参考文献を読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『日本近世環境史料演習 改訂版』（根崎光男編、同成社、2011 年）

【参考書】

『「環境」都市の真実』（根崎光男著、講談社 + α 新書、2008 年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（90%）とリアクションペーパー（10%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

環境史学の学習には、歴史資料の読解・分析が欠かせないので、わかりやすい解説を心がけていく。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Considers various environmental problems with the urbanization of Edo and the solutions based on politics, economics, society and culture.

HIS300HA

ヨーロッパ環境史論 I

辻 英史

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、中世から現代までのヨーロッパ各国の都市における生活世界と周囲の自然環境の変化を、空間利用、食糧供給、保養、衛生など、さまざまな角度から考察する。これにより、ヨーロッパの地理的歴史的な条件のなかでの人々の生活の展開や意識の成り立ちをさぐるとともに、人間社会と環境の共生がいかに達成されてきたのかを理解する。

【到達目標】

ヨーロッパの都市の歴史的発展を、そこに暮らす人々の生活世界がどのように時代によって変化してきたか、また人間と自然環境との関係はどのように変化してきたかを考察することで、ヨーロッパだけでなく日本を含む世界の他地域の都市社会の歴史や文化的独自性について考察を広げる視座を提供する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

※春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月23日（木）とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

本講義では、中世から現代までのヨーロッパの都市を対象として、都市の景観および都市内部での住民の生活世界、それを取り巻く自然環境との関係について、各地域で特徴のある事象をいくつかとりあげて解説していく。

毎回同時代の重要な文献（日本語訳を使用する）を資料として参照するほか、理解の助けになるような図像・写真・映像などを紹介する。また、それぞれの問題に関係の深い文学・絵画・映画・音楽・建築といった芸術作品をとりあげて紹介していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	序論：ヨーロッパ都市の環境史について	環境という観点からヨーロッパ都市の歴史を考える際に重要な概念・方法論を紹介する。
第2回	古代都市から中世都市へ	古代都市から中世都市への変化と、中世都市独特の景観について。
第3回	近世絶対主義のもとでの都市の造形	近世になると強大な権力を手にした君主は、都市空間の造形に取り組んだ。それが都市の生活にもたらした影響を分析する。
第4回	近代都市の出現と都市計画	近代都市の特徴と、各国でおこなわれた国家権力の主導する大規模な都市改造／拡大の事業について
第5回	都市の拡大と交通	道路、鉄道、河川交通など、都市の内部および都市と近郊を結ぶ交通の発展と都市の人口規模の増大
第6回	都市と食料供給	人口が密集する都市に食糧を供給するという問題はいかにして対処されたのか。ヨーロッパの食の歴史の中に位置づける。
第7回	都市における水と衛生問題	上水道・下水道など、人びとの生活に欠かせない水との関わりと、衛生と清潔さの歴史。
第8回	都市と自然・災害	都市の外部に広がる自然のとらえ方は近世から近代にかけてどのように変化したか。災害への見方を例に考える。
第9回	都市と緑	都市内の公園・緑地の役割の変化を追う。住民の保養・休養から、教養と学習、政治活動の場まで。
第10回	20世紀の都市問題	20世紀前半から後半にかけて、都市社会の機能変化と、景観および生活空間の変化を関連づける。
第11回	田園都市と郊外の開発	20世紀初頭から各国で都市郊外でのニュータウン建設の試みが始まった。その課題と問題点をあきらかにする。
第12回	20世紀後半の都市改造	第二次世界大戦後の都市では、戦災からの復興や自動車化と消費社会化などの新しい傾向への対応として、どのような対策がおこなわれたのか。

- 第13回 現代における都市の再生 1980年代ごろから、都市内部および郊外ニュータウンの衰退が問題となってきた。これに対する再生の試みを紹介する。
- 第14回 まとめ：日本とヨーロッパの都市社会の発展の過程と日本のそれとを比較検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
授業の進度に応じて、『世界の歴史』（中央公論新社）、『興亡の世界史』（講談社）、『世界史リブレット』（山川出版社）などの概説書の該当巻を読むと、授業内容への理解が深まるであろう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回レジュメを配布する。

【参考書】

授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

※当面の間、オンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。
学期末の筆記試験（100%）による。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクターにより画像・映像を見せるので、見やすい位置を選んで着席すること。

【その他の重要事項】

・高校世界史の授業程度の知識を前提として授業を進めるが、高校で世界史を選択していなかった人や苦手だった人でも聴講は可能である。
・旧科目名称「人間環境特論（ヨーロッパ都市環境史論Ⅰ）」を修得済の場合、本科目は履修はできません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

History of daily life and environment in European cities from the middle ages to the 20th century

HIS300HA

ヨーロッパ環境史論Ⅱ

辻 英史

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会の持続可能な発展のためには、その社会の集団アイデンティティが重要な役割を演じる。集団アイデンティティは、歴史や文化・自然などに関して成員の間で保有される共通のイメージや認識に基づいて形成され、その社会が全体としておこなうさまざまな決定に影響を与える。

この授業では、とくに過去の歴史に対する認識の確立に大きな努力を払ってきたドイツの事例を学ぶことを通じて、集団アイデンティティが作り出される上での重要な要素や問題点について理解し、またこの領域における日本の問題点について考察する。

【到達目標】

この授業では、近現代のドイツを中心に、ヨーロッパの他国や日本と比較しながら、この集団アイデンティティの問題に取り組む。ドイツにおいて歴史や文化、伝統、自然などがどのように認識されイメージされていたのかを時代を追って明らかにし、それによって各時代にどのような集団アイデンティティが形成されていったのかを時代状況とともに理解する。

その際、集団アイデンティティは決して単一のものではなく、複数のそれらが競合して社会内外の対立を増幅したりあるいは和緩させたりする作用を持つこと、また特定の政治勢力や集団の利益のために利用される可能性もあることにもふれ、その可能性と危険について理解することもまた本授業の目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回資料として同時代文献や統計を用いるほか、理解の助けとなる文化遺産や芸術作品の図像・写真・映像などを紹介する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	序論：集合記憶と集団アイデンティティ	テーマに関する理論的な説明と、予備知識の解説を行う。
第2回	国民意識の誕生と集合記憶の創造	近世において小国分立状態の中でドイツ人意識と国民アイデンティティがつくられるまで。
第3回	19世紀ドイツの集合アイデンティティ①	19世紀のドイツにおいて、国民国家成立の前後で、どのような集団アイデンティティが形成されたか。まず過去の歴史に対する認識をあつかう。
第4回	19世紀ドイツの集合アイデンティティ②	19世紀のドイツにおいて、国民国家成立の前後で、どのような集団アイデンティティが形成されたか。続いて文化や自然、芸術をあつかう。
第5回	20世紀初頭の歴史認識をめぐる政治的闘争	第一次世界大戦から戦間期にかけての国内外での政治的対立が激しくなった時期におけるアイデンティティ間の葛藤をあつかう。
第6回	ナチスによる「政治の美学化」と過去の利用	1933年に政権を獲得したナチスは集団アイデンティティを巧みに構築し利用した。その手法を分析する。
第7回	第二次世界大戦後の東西ドイツにおける集合アイデンティティ	第二次世界大戦後成立した東西ドイツにおける、それぞれの集団アイデンティティをめぐる状況を明らかにする。
第8回	ナチズムの過去をめぐる東西ドイツの取り組み	ナチズムや第二次大戦に関する過去への認識が戦後ドイツの中でどのように集団アイデンティティとなっていったかを明らかにする。
第9回	68年運動とドイツ人のアイデンティティの変動	ドイツ社会を大きく変えたと言われる学生運動後の西ドイツ社会の変容と、それによる集団アイデンティティの変化を検証する。
第10回	統一後のドイツ社会における東ドイツの過去の位置づけ	1990年の東西再統一後は東ドイツという過去をどのように集団アイデンティティの中に位置づけるかという問題が生じた。
第11回	地域社会とその集団的アイデンティティ	ドイツの多様な地域社会と、その住民の集団アイデンティティとの関係について。

- 第12回 ドイツの自然保護と景観 開発規制と記念物保護、自然保護など、現代ドイツの自然景観を守る運動が、集団アイデンティティにどのように影響を与えているか。
- 第13回 過去の記憶に関する新しいプロジェクトと論争 近年ドイツ社会のなかで見られるようになった、ナチズムの過去への反省の姿勢を修正しようとする傾向と、それに反対する動きを取りあげる。
- 第14回 結論：ドイツと日本における集団アイデンティティのあり方との比較 日本における集団アイデンティティの作られ方や過去のイメージについて考え、ドイツのそれらと対照する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

別途指示する参考書のほか、授業の進度に応じて『世界の歴史』（中央公論新社）、『興亡の世界史』（講談社）、『世界史リブレット』（山川出版社）などの概説書の該当巻を読んでおくと、授業内容への理解が深まるであろう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回レジュメを配布する。

【参考書】

授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

学期末の筆記試験（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクターにより画像・映像を見せるので、見やすい位置を選んで着席すること。

【その他の重要事項】

- ・高校世界史の授業程度の知識を前提として授業を進めるが、高校で世界史を選択していなかった人や苦手だった人でも受講可能である。
- ・旧科目名称「人間環境特論（ヨーロッパ都市環境史論Ⅱ）」を修得済の場合、本科目の履修はできません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【Outline and objectives】

This course provides an overview about the history of national identity in modern Germany. It explains the long struggle to build the German nation state inventing collective memories and self images through their own past from the 18th to 21th century.

CUA200HA

環境人類学 I

難波 美芸

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火5/Tue.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、人類学的な視点から人間と自然の関係について学んでいきます。人類学とは、フィールドワーク（実地調査）に基づき、文化の多様性の視点から人間の生について考える学問です。人間と自然の関わり方は世界各地で異なります。では、「自然」そのものは普遍的なものでしょうか？人間による自然の捉え方が多様であるとするれば、それは人間の文化によって捉え方が異なるからなのでしょう？この授業では、極北地域やオセアニア、南アメリカ、東南アジアなど世界各地の事例を紹介しながらこれらの問いについて考えていきます。

【到達目標】

- ・人類学の基本的な概念と理論を理解し、それらを用いて人間と環境の関係について説明できるようになる。
- ・人類学的な視点から現代の様々な環境をめぐる課題について思考し、自らの意見を持つ。
- ・「私たちが生きるこの世界とはなんなのか」を考え、「こうではないかもしれない世界のあり方」を想像するための姿勢を体得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムで提示する。本授業の開始日は4月21日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。Hoppiiに記載されている授業内容をよく読んでおくこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、評価方法について説明
2	進化論	文化進化に関する様々な人類学的議論を学ぶ
3	文化相対主義	文化的適応について学ぶ
4	認識人類学	人間は環境をいかに捉えているか？
5	アニミズム	人間と動物・精霊の関係について学ぶ
6	人間中心主義批判	アクターネットワーク理論を学ぶ
7	マルチススピーシーズ民族誌	人間と人間以外の存在の関係について考える
8	環境思想と運動	環境アクティビストの言説や気候危機デモについて人類学的な視点から分析する
9	人新世の人類学	新たな地質年代とされる人新世が人文学にもたらしたインパクトについて学ぶ
10	ラオスの事例に学ぶ	エコ・ジェントリフィケーションについて学ぶ
11	ラオスの事例から考える	メコン川と人との関わりから環境について考える
12	まとめと解説	人間と環境の関係についての理解度を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しませんが、授業内で必要となる資料を配布することがあります。

【参考書】

パトリシア・K. タウンゼンド著、岸上伸啓・佐藤吉文訳『環境人類学を学ぶ人のために』世界思想社

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーの提出（30%）、中間試験（30%）、期末試験（40%）
*春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、学習支援システムで提示する。現段階では、リアクションペーパーの提出（50%）、課題提出（50%）とする予定。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This course is designed to explore the ways of understanding various relations between humans and the environment from anthropological perspectives. Anthropology is a study of human beings and their different cultures based on ethnographic fieldwork. In this course, students will be introduced to various cultures around the world to understand how the variety of cultures is related to the natural environment. At the end of the semester, students will also become able to elaborate on the surrounding environmental issues by applying the anthropological way of thinking.

CUA300HA

環境人類学Ⅱ

高橋 五月

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境人類学Ⅱでは、「サステイナビリティ」をキーワードに、持続可能性とは何か、持続可能社会の実現のために過去にどのような方策が取られ、現在どのような課題が生じているのか、事例と人類学的アプローチをもとに講義し、議論する。

【到達目標】

本講義の目的は、持続可能な社会の「作り方」を教えることではありません。本講義は、様々な事例や理論をもとに、クライスメイトと議論しながら、学生が自分なりに「サステイナビリティ」のあり方について考え、探求するためのツールを身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

関連文献と映像資料を随時活用しながら講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本講義の問題意識と成績評価の方法について説明する
第2回	サステイナビリティとは？（1）	サステイナビリティの概念の誕生とその歴史的背景について講義する
第3回	サステイナビリティとは？（2）	持続可能な社会とは何か？ これまで実行された方策とその課題について講義する
第4回	コモンズ（1）	ガレット・ハーディンの「コモンズの悲劇」について講義・議論する
第5回	コモンズ（2）	ガレット・ハーディンの「コモンズの悲劇」と関連した文化人類学的議論について講義・議論する
第6回	持続可能な農業	農業技術発展と環境変化の関係、遺伝子組み換え作物の生態的影響について講義・議論する
第7回	中間試験	筆記の中間試験を行う
第8回	持続可能な水産業	水産資源の枯渇や海洋汚染などの問題と持続的な水産業について講義・議論する
第9回	生物多様性とは？	気候変動に関する文化・政治的問題、自然エネルギーにまつわる文化人類学的議論について講義・議論する
第10回	里山・里海	里山・里海が目指すサステイナビリティの意味やあり方について講義・議論する
第11回	災害	災害とサステイナビリティの関係について講義・議論する
第12回	エネルギー	エネルギー問題をもとにサステイナビリティの意味やあり方について講義・議論する
第13回	アンソロポシオン	アンソロポシオンとは何か、地球環境にもたらした人類の影響について講義する最新の人類学的研究について講義・議論する
第14回	まとめ：地球の見方	地球の見方をテーマに、環境人類学Ⅱの総括をする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

（準備学習）詳しい授業計画を授業第1回目に配布するので、毎週それを参照し、各講義で使用する文献を授業前までに読んでおきましょう。

（復習）中間・期末試験の問題は講義で使用する文献および講義内容から出題します。講義中はノートを取り、講義後は文献と講義ノートを読み返し復習しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

資料を配付する。

【参考書】

授業中に提示する。

【成績評価の方法と基準】

講義中にリアクションペーパーの提出（30%）、中間・期末筆記試験（70%）。

【学生の意見等からの気づき】

大教室の授業なのですが、リアクションペーパーなどを活用して学生同士の意見交換ができるように工夫しています。自分の考えをまとめたり、他学生の意見を知ることを楽しんでくれた学生が多かったのは嬉しいです。今後できるだけ意見交換ができる時間を授業中に設ける予定です。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【Outline and objectives】

This lecture course is designed to introduce a variety of cases that people are intended to promote sustainability, and provide opportunities for students to think critically about socio-cultural dimensions of "sustainability."

CUA300HA

環境人類学Ⅲ

難波 美芸

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境人類学Ⅲは、定員制（上限40名）です。定員を超える希望があった場合は、第一回授業内で志望理由書を書いて提出していただき、選考します。選考結果は同日中に掲示します。授業では、講義に加えて、学生によるプレゼンテーション、グループワーク、ディスカッションを取り入れたアクティブラーニングを実践します。講義とゼミが合わさったような内容になります。質問等がある方は、第1回ガイダンスに出席する、または教員にメールで連絡を下さい。積極的な応募をお待ちしています。

2019年度のテーマは開発とインフラの人類学です。インフラと聞くと、橋や道路といった無機質でつまらない、文化とはかけ離れた存在と思うかもしれませんが、ここでのインフラとは人間社会と自然環境を媒介するテクノロジーです。多くの開発途上国では経済発展のために必要とされる基本的なインフラの整備が開発援助によって行われています。一見すると、どの国でも水道や堤防、高速道路は同じように映るかもしれませんが、人と自然の関わり方が文化社会によって異なるのと同様にインフラと人間の関わり方も異なっています。そのような多様性に加え、開発の文脈では援助国である先進国の論理や価値観も介入することになります。この授業では世界各地の民族誌的事例を扱うと同時に、受講生の身近な経験から、人間がいかにして環境に働きかけ、多様な生を築いているのかを考えていきます。

【到達目標】

- ・開発の人類学の基本的な視点を身につける。
- ・インフラのような一見つまらないものに面白がり、興味をもち、疑問を抱く力を養う。
- ・途上国において行われている開発援助の実態を理解し、自らの問題として引き受け、批判的に考察できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の前半では講義形式で基本的な人類学の議論を見ていきます。その際、東南アジアのラオスにおけるインフラ整備と開発援助の事例を取り上げます。毎講義の終わりにはディスカッションと質疑応答の時間を設けるため、積極的に参加してください。開発の人類学に関する基礎的な知識を身につけた上で、人類学の文献の購読と映像資料の鑑賞から、感想文を提出してもらいディスカッションを行うほか、グループワークを行い発表してもらいます。個人発表では受講生自らが、開発と環境の問題に関する調査を行い、その結果を発表してもらいます。調査は長期的なものではなく、学生が選んだ任意の環境問題に関するワークショップ等への参加体験がメインとなります。各自、自宅学習として資料や文献の収集を行い、授業内で得られる情報にさらに自ら知識を付け加え、教員と他の受講生と共有してください。受講生の理解度を見ながら授業計画は適宜変更します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方と評価方法について説明
2	開発の人類学①	山は「資源」か「友達」か？
3	開発の人類学②	インフラストラクチャー研究の射程
4	民族誌映画に学ぶ	国立民族学博物館「ビデオテーク」
5	ラオス事例研究①堤防	インフラ整備で変わる人と自然、街の関係
6	ラオス事例研究②電気自動車	エコ・ジェントリフィケーション
7	映像鑑賞	『誰が電気自動車を殺したか？』を観る
8	文献発表グループワーク①	参考書の中から1章選び、講読の上、グループで内容紹介発表。
9	文献発表グループワーク②	参考書の中から1章選び、講読の上、グループで内容紹介発表。
10	文献発表グループワーク③	参考書の中から1章選び、講読の上、グループで内容紹介発表。
11	個人発表①	受講生による開発と環境との関係についての調査報告
12	個人発表②	受講生による開発と環境との関係についての調査報告
13	個人発表③	受講生による開発と環境との関係についての調査報告
14	授業総括	受講者全体でディスカッションを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

(1) 三尾裕子・床呂郁哉編『グローバリゼーションズ：人類学、歴史学、地域研究の現場から』弘文堂

(2) 『現代思想』2017年12月号「特集 人新世：地質年代が示す人類と地球の未来」青土社

*いずれも購入の義務はなし。ただし、夏休み中に入手して読んでおくと授業の理解度が高まります。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー（15%）、映像鑑賞コメント（15%）、文献発表グループワーク（25%）、個人発表（45%）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This is a lecture/seminar course, which limits the number of students to 40. This semester, the course will focus on the anthropology of development and infrastructure. Although infrastructure, like bridge or road, may sound boring and seem like nothing to do with anthropology, here it is the technological milieu that connects human society and the natural environment. This course will provide students diverse anthropological approaches to understand various human-infrastructure-environment relations. At the end of the course, students will be able to use these approaches to think about our own lives.

TRS200HA

環境表象論 I

梶 裕史

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は、「文化」の視点からの環境共生型の地域形成・人間形成のとりくみの一例を紹介するものです。「表象」は、心の中に結ばれる像のこと。環境表象とは、人間が自分達をとりまく環境を心にどう捉えるか、ということであると想うとよいでしょう。授業では、その好個のテーマとして「文化的景観」という考え方をとりあげ、国内を中心とした具体的な事例を紹介し、その豊かな可能性について考察します。

「文化的景観」は、地域の特徴ある地理的・歴史的環境と密接に関わる生業・生活文化の「表象」です。ユネスコが世界遺産の幅を広げるために1992年に登録基準として追加して以降、新しい文化遺産の考え方として普及が始まった概念で、わが国も2005年に新文化財として文化財保護法に採り入れてあります。「自然と人間の共同作品」とユネスコが定義するこの概念は、地域固有の風土・歴史に適合して形成された伝統的な生活・生業（農林水産業や鉱工業）を表わす景観の持続可能性を導びます。有形を支える無形要素や「五感」で感受される要素も重視し、過去の一点の姿に捉われず「有機的に進化する」見通しを前提に、地域の特徴ある生活文化資産を今後どのように活かし、継承するかという将来像まで視野に入れた、環境共生志向の持続可能な地域形成・人間形成に寄与する考え方であるといえます。授業では主として国内の事例を紹介し、関連する取り組みとして日本型エコツーリズム・グリーンツーリズム・エコミュージアム等もとりあげます。

【到達目標】

・「文化的景観」が、従来の文化財の考え方とは一線を画する、「環境」の世紀にふさわしい新しい概念であることが理解できること。

・「景観」は見た目だけではないことや、一見「環境」と関わりが薄そうな事例も大いにエコにつながるが多いということに気付けること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

ふつうの講義形式です。テーマの性格上、PPTを使って現地の写真や関連する絵画などを見せられることも多くなりますが、上記のように、可視の有形物は「景観」のほんの表面を伝えるにすぎないので、画像をみることにメインではないと思って下さい。

なお、この授業は5月11日（月）から開始します。初回は火曜3限ではありませんが、学習支援システムに載せるガイダンス的な説明を読んで頂くだけであり、自宅での「受講」はいつでも大丈夫です。翌5月12日（火）は授業は行わず、2回目は次週火曜日の予定です。以下の「授業計画」の記載は大幅に変更になりますが、全て、学習支援システムを通じてお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	「景観」とは何か 導入的説明
第2回	ユネスコの「世界遺産」事業概説（「文化的景観」導入の経緯）	併せて国内の世界遺産を紹介
第3回	文化的景観の定義	ユネスコ、日本（文化財保護法）
第4回	文化財保護法の既存の文化財との比較	「環境」、持続可能性重視の新視点
第5回	文化的景観の多面的な効用①	国土の自然環境保全、生物多様性保全ほか
第6回	「文化的景観」保全の多面的効用②	日本型エコツーリズム・エコミュージアム等との関連
第7回	事例紹介① 近江八幡から学ぶべきこと	重要文化的景観第1号
第8回	事例紹介②a 宗教・信仰の聖地	熊野三山、沖縄の御嶽、富士山等
第9回	事例紹介②b 古典文芸の名所	既存の文化財「名勝」との関連、松島等
第10回	前回②bの拡大解釈—その場にはないもの、見えないものが作り出す魅力	文学作品、映画、アニメが創る作品舞台の魅力／「ことば」が景観を創る／心の中のイメージの重要性 など
第11回	生きて変化する文化財として(1)	「循環する自然」（=季節の周期変化）に即した生活文化の意義
第12回	生きて変化する文化財として(2)	「伝統」の非固定性／「有機的に進化する」景観。四万十川や沖縄県竹富島を事例に
第13回	「伝統」継承のための階層的発想	「無形」の文化尊重の潮流とも関連づけて

第14回 まとめ（「視覚」のみか 総括とともに、概念進化の可能性を探
ら「五感」の景観へ／る
「感覚環境のまちづくり」
との関連）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
また、授業の刺激で近場のフィールドを実地訪問することも奨励します。本
授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業のなかで随時配布するプリントをもって代えます。

【参考書】

梶裕史「『文化的景観』の特質と可能性」（小島聡・西城戸誠編『フィールドから考える地域環境』第5章、ミネルヴァ書房、2012）ほか、授業のなかで紹介
します。

【成績評価の方法と基準】

教室における定期試験ができない場合、学習支援システムを通じての、時々
のリアクシオンペーパーや小レポート提出等による、総合評価（≒平常点）
100%の予定です。オンラインツールによるライブ授業を少し採り入れるこ
とがあるかもしれませんが、自宅の通信環境に制約があって参加できない場
合は、参加できなくても成績評価には含まれません。学習支援システム上の
やりとりを成績評価対象にします。

【学生の意見等からの気づき】

私語への厳しい注意についてはおおむね好評ですが、時にそのために授業
が中断することがあります。しかし大教室で常時静粛な授業環境を確保する
効果があるため、方針は変えません。また、「雑談」「余談」のなかった話の
ときは別です。休憩的な意味合いもありますので、くつろいで、その話題に
関連して適度に隣の友人と話したり、笑ったりして楽しんでください。要は、
真剣に話しているときもくつろぎの時間も、私と一対一で向き合っている感
覚で聴いてもらうのがベストと思います。

また、写真等をたくさんお見せしますが、専用の時間を設けるというかた
ちではなく、見ながら講義していきます。室内に照明のついたままの状態
で見ため、鮮明さの点で見にくい場合もあるかと思いますが、画像は補助的
な情報提供にすぎず、授業の理解に差し支えることはありません。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

・日本の伝統文化をサステイナビリティの視点から見直すことや、エコツー
リズム・グリーンツーリズム・エコミュージアム等に関心を持っている人
には良い参考になると思います。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This lecture will introduce an example of the environmental symbiosis
type of regional initiatives and human character building, from
"cultural" viewpoint. "Representation" is an image that is tied in the
mind. It would be good to think that environmental representation is
how humans grasp the environment surrounding them in their minds.
In the lesson, I will take up the idea of "cultural landscape" as its own
theme, introduce concrete examples mainly in Japan, and consider the
rich possibilities.

TRS300HA

環境表象論Ⅱ

梶 裕史

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「五感」が形づくる表象・風景：「環境表象論Ⅰ」の「文化的景観」論の補充
を目的として、おもに「五感」の融合的なはたらきにより形づくられる、個人
を超えた地域の集団的表象（＝心の中に結ばれる像）の諸相と、それらが環
境共生型の人間形成・地域形成に資する可能性について考察します。

【到達目標】

・「五感」をばらばらに区別するのではなく、相互作用の融合感覚として捉え
ることが有効なこと（言い換えれば、「視覚偏重社会」のなかで、現場の実体
験の大切さ）を理解できること。
・「五感豊か」とは快適なものだけを指すのではないこと（快適、便利ではな
い要素もかなり重要であること）を理解できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力 を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習 成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

「文化的景観」については、「環境表象論Ⅰ」のシラバス参照。表象論Ⅰと連
続性が強いいため、まずその概要の復習から入り、その後は便宜的に世間一般
の5分類に沿って、項目を設けます。授業計画各回のテーマは視覚・聴覚中
心にみえますが、特に「音風景」の中で嗅覚・触覚・味覚の話題も盛り込んで
ゆきます。「五感」はふつうは本人がリアルタイムに体験する感覚を指し、
これによる表象は「知覚表象」「感覚表象」などと呼ばれますが、持続可能な
地域づくりには、「記憶表象」「想像表象」と呼ばれる類で、かつ個人を超えた
地域の集団的な心意に関わるものが重要と考えて、クローズアップしてゆき
ます。そしてその資料として、日本の伝統的な文学や民間伝承を紹介する時
間も多くとる予定です。

授業の形式は、ふつうの講義形式。表象論Ⅰ同様、現地の写真や関連する絵
画などを見てもらうことも多くなりますが、Iに引き続き、視覚的画像をみ
ることがメインではなく、むしろ春学期以上に「目に見えないもの」を重視
した内容になります。随時、グループディスカッション的な双方向の対話も
採り入れる予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション：	「環境表象論Ⅰ」の概要の復習も兼ねて「五感」のエコロジーと文化的景観
第2回	日本の「いろ」の話（1）	日本文化における色彩、配色の特色
第3回	日本の「いろ」の話（2）	日本文化における「色づかい」の二面性
第4回	日本の「いろ」の話（3）	3回のまとめ。日本人にとって「いろ」とは何か
第5回	光と影・闇（1）	「光環境」・灯りに配慮したエコなまちづくり
第6回	光と影・闇（2）	「エコ」の視点からの陰翳・闇の魅力と重要性
第7回	音の風景とは何か	サウンドスケープと日本文化との関わり・総論（1）
第8回	日本人の「風景を聴く」	サウンドスケープと日本文化との関わり・総論（2）
第9回	環境省「残したい日本の音風景100選」を窓口（1）	「自然」の音風景の具体例
第10回	「残したい日本の音風景100選」を窓口（2）	生き物に関わる音風景の具体例
第11回	「残したい日本の音風景100選」を窓口（3）	生業や交通などに関わる具体例。におい・触覚・味覚との融合感覚。
第12回	「残したい日本の音風景100選」を窓口（4）	伝統祭事に関わる具体例。におい・触覚・味覚との融合感覚。
第13回	方言をめぐる	音風景の一種として、地域文化の核である地域のこぼれに注目
第14回	総括一人間の「身体性」（内なる環境）重視と感覚環境のまちづくり	環境表象論Ⅰのポイントも含めたまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
また、授業の刺激で近場のフィールドを実地訪問することも奨励します。本
授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業のなかで随時配布するプリントをもって代えます。

【参考書】

環境表象論Ⅰと同じ。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 75 %、リアクションペーパー・授業マナー等 25 % (授業の初回に、授業マナーについて等諸注意を書いたプリントを配ります)。

【学生の意見等からの気づき】

授業環境については、環境表象論Ⅰとはほぼ同様です。昨年度は、春学期の「表象論Ⅰ」の授業を計画通り完了できなかったため、表象論Ⅱの前半に、本来はⅠで話すべき内容を話し、その結果、一部がシラバスとは異なる内容になりましたが、Ⅱにメインテーマとのつながりの点では問題ありません。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

・コースとの関連や皆さんの興味・関心との適性は、「環境表象論Ⅰ」同様と思います。表象論Ⅰの単位取得を履修の条件とはしませんが、履修済みであるほうが理解しやすいでしょう。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Theme:Representation and scenery formed by "five senses"

This lecture will consider collective representation of region beyond individuals, mainly formed by the fusional work of "five senses", for the purpose of supplementing the "cultural landscape" theory of "environmental representation I" (= The image connected in the mind), and we will explore

the possibility that they contribute to environmental symbiosis type human character building / regional initiatives .

BSC200HA

サイエンスカフェⅠ

石井 利典

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土2/Sat.2

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

環境の科学を正しく理解するためには化学の基礎知識が不可欠です。今後の環境の学習に役立てられるように、高校の「化学基礎」と「化学」の復習にまず取り組みます。さらに、よりクオリティーの高い日常生活を得るために役立つ身近な化学についてもできるだけ理解を深めていきます。

【到達目標】

高等学校で履修する「化学基礎」と「化学」を大学受験科目にしていなかった受講者が、「環境科学Ⅰ」「環境科学Ⅱ」「環境科学Ⅲ」などの科目を履修するときに必要とする、基礎化学理論を習得することを旨とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

化学の基本的な理論、必要な数値計算法、知っておくべき物質の構造と性質を問題演習を中心に解説します。

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講になります。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は4月25日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	第1章 物質を構成するミクロな世界	原子の構造と性質、化学結合と分子間力
第2回	第2章 化学変化と量的関係	物質質量、化学反応式
第3回	第3章 酸と塩基	溶液 pH の計算、酸と塩基の反応、中和滴定
第4回	第4章 酸化と還元 (1)	酸化剤と還元剤の反応、酸化還元滴定
第5回	第4章 酸化と還元 (2)	COD (化学的酸素要求量) 値およびDO (溶存酸素量) 値の測定原理
第6回	第5章 有機化学の基礎 (1)	有機化合物の命名法、異性体、有機化合物の構造と性質
第7回	第5章 有機化学の基礎 (2)	炭化水素の反応、アルコールの反応、エステル・アミドの構造
第8回	第6章 身近な有機化合物 (1)	脂肪酸の種類、脂肪と脂肪油
第9回	第6章 身近な有機化合物 (2)	単糖類、二糖類、多糖類の構造と性質
第10回	第6章 身近な有機化合物 (3)	アミノ酸、タンパク質の種類と立体構造
第11回	第6章 身近な有機化合物 (4)	合成繊維、合成樹脂、合成ゴム
第12回	第7章 酵素	酵素、補酵素、補欠分子族のはたらき
第13回	第8章 核酸	DNAとRNAの構造、遺伝子発現のしくみ
第14回	期末テスト、まとめ	第1回講義～第13回講義の内容に関する筆記テスト、およびまとめと解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。授業の最初の10分間程度は、前回授業の確認テストを行います。前回の授業内容を配布したプリント類、ノートで必ず確認してください。欠席者は学習支援システムにログインして、その日に配布したプリント類を各自ダウンロードしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

担当教員が作成したプリントを授業にて配布します。授業で取り扱ったすべてのプリント類は、学習支援システムからダウンロードできます。

【参考書】

高等学校で使用している『化学基礎』と『化学』の教科書 (出版社は問わない) を入手することが望ましい。

入手先は、<http://www.textkyoukyuu.or.jp/kaiin/tokuyaku13.html>

【成績評価の方法と基準】

春学期がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準を変更します。

毎授業時に学習支援システムで実施する確認テスト (10分間程度で解答) (40%)、学習支援システムで実施する期末試験 (60分程度で解答) (40%)、課題レポート (800字程度 × 2) (20%) の合計点で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

環境科学に関連するテーマとともに、日常生活で体験する身近な科学に関するテーマもさらに多く取り扱ってゆきます。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムにアクセスできる情報機器

【その他の重要事項】

「自然環境科学の基礎（化学）」を修得済の場合、本科目の履修はできません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This course provides an interdisciplinary introduction to environmental science in a chemical perspective. Central theme is the interaction between life and the environment. The course is suitable for students who plan further study in this field, also suitable for students without basic knowledge of environmental chemistry.

BLS200HA

サイエンスカフェⅡ

宮川 路子

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、高校の生物学の知識を基本としながら、主として人間の身体の構造と生体のメカニズムを学ぶことにより、組織学、解剖学、生理学の範囲の幅広い知識を身につけることを目的としている。

【到達目標】

学生は、自分自身の身体の構造、仕組みを理解し、健康をはぐくむうえで必要となる組織学、生理学などの幅広い知識を習得する。

学生がこれから生きていく上で重要な健康の保持増進、疾病の予防を最終目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

細胞、血液、筋・骨格系、呼吸器、循環器、消化器など、身体の構造別にそれらの構造、機能、さらには病気などについても学んでいく。講義のテーマにそったビデオを鑑賞することにより、より深く知識を定着させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	講義ガイダンス：	科目テーマ・授業の進め方・テキスト・評価方法の解説
第 2 回	細胞と個体の成り立ち	生命の単位、細胞のはたらき。細胞の分化と分裂、組織。 ビデオ鑑賞
第 3 回	血液について	血液の働き 免疫について ビデオ鑑賞
第 4 回	呼吸器	呼吸器を構成する器官。肺の構造と機能。呼吸運動のメカニズム。 呼吸器の病気。
第 5 回	循環器	循環器系の構造と働き。 心臓について。 血管について。 循環器系の病気。
第 6 回	消化器（1）	消化器を構成する器官。 口腔、食道、胃、腸 消化器系の働きと病気 ビデオ鑑賞
第 7 回	消化器（2）	肝臓の構造と機能 ビデオ鑑賞
第 8 回	骨・筋肉	筋骨格系の構造と機能 関節の仕組みと働き 筋収縮について ビデオ鑑賞
第 9 回	泌尿器	腎臓の構造と機能 尿について ビデオ鑑賞
第 10 回	生殖	生殖の仕組み ビデオ鑑賞
第 11 回	神経	神経の仕組みと働き 中枢神経系と末梢神経系 神経伝達のメカニズム 神経の病気 ビデオ鑑賞
第 12 回	感覚・知覚	聴覚・平衡感覚 嗅覚、味覚、皮膚感覚 内臓感覚
第 13 回	感覚・知覚	視覚について ビデオ鑑賞
第 14 回	発達・まとめ・期末試験・解説	発達の成り立ち 赤ちゃんの発達 デオ鑑賞・まとめ・期末試験・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。日頃から自分の身体について興味を持ち、観察を行うこと。関連の話題についての知識を収集する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回授業内にてテーマに沿ったプリントを配布する。

【参考書】

参考図書は授業内にて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末に授業内試験を行う（100%）。持ち込みは不可。

【学生の意見等からの気づき】

アンケート結果などを反映させた授業改善を行うものとする。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント

【その他の重要事項】

「自然環境科学の基礎（生物学）」を修得済の場合、本科目の履修はできません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This course is designed to help students acquire extensive knowledge of histology, anatomy, and physiology by learning the morphology and mechanisms of the human body and applying the foundation of high school-level biology.

This course provides students with the knowledge required to comprehend the mechanisms and function of their own bodies and to enhance their health.

BAB200HA

サイエンスカフェⅢ

高田 雅之

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生態学とは、生物の暮らし方や、生物と環境との関係、さらには人間との関わりを含めて理解する学問です。生態学の基礎をわかりやすく学ぶことで、人間の生存基盤である自然環境との向き合い方を考え、ひいては持続的な社会を築く方策を探る能力を養うことにつながっていきます。本講義では、主に日本における生き物を中心とした自然の仕組みについて、基本的な知識と俯瞰的な視点を身に付けます。

【到達目標】

以下の3点について知識と理解を深め、その要点を説明できる力を身に付けます。

①野生生物の生活と生存戦略

②生物の進化と適応

③生物多様性の意義

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

「動植物の生態」、「生物と環境との相互作用」、「進化と適応」、「動物の行動生態」、「生物多様性」について学びます。国内外の研究事例やエピソードを交えたプレゼンテーションにより、基礎的な知識と理解を積み重ねていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと序論	講義の進め方、生態学とは何か、地球の視点から捉える
第2回	鳥類の生態 1	鳥類の生態と特徴、身近な鳥たち、環境との関係、取り巻く問題
第3回	鳥類の生態 2	渡り鳥、日本の鳥類相、特徴的な鳥の紹介
第4回	植物の生存戦略	種子の散布、身近な植物、環境に対する生存戦略
第5回	昆虫の世界	昆虫の特徴、素数ゼミ、水生昆虫、社会性昆虫
第6回	日本の哺乳類	シカとカモシカ、クマとブナ、イノシシと人の関係
第7回	生物の進化 1	古生代までの生物進化の歴史、大絶滅と大進化
第8回	生物の進化 2	恐竜の誕生と絶滅、哺乳類と人間の登場、大進化はなぜ起こるか
第9回	自然選択と適応	適応とは、自然選択とは、適応のための様々な生存戦略
第10回	動物の行動生態	なわばり行動、社会行動、個体数の変動、群集生態
第11回	海洋と沿岸の生物 1	クジラとイルカ、サメ
第12回	海洋と沿岸の生物 2	海から陸への物質輸送、海鳥、サケと海洋環境、サンゴ礁
第13回	生物多様性	生物多様性とは、レジリエンス
第14回	保全生態学	生態学を保全にどう生かすか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。毎回のテーマに関わる基礎知識について予習するとともに、講義で抱いた疑問について毎回の講義後に自主学習によって解決します。また日頃接するメディアでの自然環境に関する話題や、身の回りで目にする生き物に関心を払うよう努めます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】

講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価します（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

知識の羅列と詰め込みにならないよう、重要な点を強調し、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

【その他の重要事項】

人間との関わりや保全のための政策について学習したい人には自然環境政策論Ⅰ（春期）及びⅡ（秋期）を受講することを勧めます。さらに理解を深めたい場合は自然環境論Ⅳ（秋期）の受講を勧めます。

また講義改善や理解促進の目的で、毎回アクションペーパーを提出してもらいます。

「自然環境科学の基礎（生態学）」を修得済の場合、本科目の履修はできません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

公務員、独立行政法人、民間企業

【Outline and objectives】

In this lecture, students will explore the sustainable relationship between humans and nature through learning the basic ecology such as organic evolution, wildlife and ecosystems in Japan.

GEO200HA

自然環境論 I

杉戸 信彦

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

われわれをとりまく自然環境（地形や気候、植生、水循環ほか）は、地域ごとに個性と必然性を有し、変化を繰り返して現在に至っている。「水や空気のように」あたりまえの存在では決してない。本授業では、日本列島の現在の自然環境を、人間社会（暮らしや産業、文化）との関わりのなかで時空間を行き来しつつ見つめなおす。

【到達目標】

自然環境の地域的差異・メカニズム・歴史の変遷を説明できる。
人間社会が自然環境に左右される側面を具体的に記述できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

●追記 春学期の少なくとも前半はオンラインで開講する。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月4日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。
～～以下は当初記述

自然地理学のアプローチを通じ、強く連関しあう自然界の諸要素を系統的かつ平易に解説する。講義形式。身近な自然環境の具体像を含むスライドも活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	自然環境と人間社会	自然地理学、環境決定論、環境可能論
第2回	大気大循環	風の時空間スケール、地球のエネルギー収支、3つの循環、偏西風
第3回	海洋大循環	表層循環、深層循環
第4回	気候の要素・因子・区分	緯度、海流、地形、ケッペンの区分、アリスソフの区分
第5回	日本列島の気候（1）	気団、海流、四季
第6回	日本列島の気候（2）	偏西風蛇行、エルニーニョ・南方振動、都市気候
第7回	編年法・古環境復元法	第四紀、年輪、考古、放射性炭素年代、火山灰、花粉、珪藻
第8回	気候変動と海水準変動（1）	気候と生活、水期と間水期、酸素同位体比、海水準変動
第9回	気候変動と海水準変動（2）	気候変動の要因、昨今の温暖化
第10回	プレートテクトニクス	地球のしくみ、地球表面のヒプソメトリーとその要因、プレートテクトニクス
第11回	日本列島の地形環境	島弧海溝系、地形の時空間スケールと種類、地形をつくる力、日本列島の現在の地形形成環境、日本列島の地形と地質
第12回	日本列島の地震	海溝の地震、活断層の地震
第13回	土壌・水文	さまざまな土壌、風化土壌と堆積土壌、地球上の水、水循環・水収支・滞留時間、地下水
第14回	植生・動物相	暖かさの指数、日本列島の植生、植生遷移、気候変動と植生、自然植生とその衰退、日本列島の動物相、気候変動と動物相

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して予習・復習をする。
自然環境に関わる時の話題や映像等に積極的に触れる。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布

【参考書】

授業中に紹介

【成績評価の方法と基準】

●追記 春学期の少なくとも前半をオンラインで開講することにとまなう、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、学習支援システムで提示する。

～～以下は当初記述

期末試験（100%）。(1) 自然環境の地域的差異・メカニズム・歴史の変遷を説明できるか、(2) 人間社会が自然環境に左右される側面を具体的に記述できるか、を問う。

【学生の意見等からの気づき】

知識と基礎力に加え、応用力や思考力をより涵養すべく、詳しく具体的な説明を心がけます。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Natural environments (topography, climate, vegetation, water circulation, and so on) around our human societies vary in each place worldwide. Their origins are reasonable in terms of science, and they have reached the present status through various global, regional, and local changes in the long history of the earth. We examine spatial variation, mechanism, and history of the present-day natural environments in the Japanese island, with in mind the relationship between natural environments and human societies (life, industry, culture, and so on).

GEO200HA

自然環境論 II

杉戸 信彦

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生活の舞台である大地。「動かざること大地の如し」ともいわれるが、実際には河川氾濫や地殻変動などの変化プロセスを通じて成立してきた。本授業では、いかなる社会もその大地の個性に根ざして成り立っていることを意識しながら、「湿润変動帯」日本列島の地形的個性を見つめなおし、人間社会との関わり合いを再認識する。

【到達目標】

大地の個性と成り立ち、および土地が変貌するプロセスを説明できる。土地条件や土地利用といった視点から人間社会の課題を具体的に提示できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

背景となる自然地理学的知見を総合的に見渡ししながら、地形学のアプローチから理解を深める。講義形式。野外調査データを含むスライドも活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	土地と人間社会	自然環境と人間社会、土地条件、土地利用、東京の自然史
第 2 回	「湿润変動帯」日本列島 (1)	地球のエネルギー収支、大気循環、海洋大循環、気候因子、日本列島の気候環境
第 3 回	「湿润変動帯」日本列島 (2)	プレートテクトニクス、島弧海溝系、地形のスケールと種類、地形形成営力、日本列島の地形形成環境
第 4 回	地図	地図の歴史、測地系、地図投影法、一般図と主題図、縮尺と表示項目、空中写真、1:25,000 地形図、時系列比較
第 5 回	地理院地図	電子国土基本図、基盤地図情報、基盤地図情報数値標高モデル、GNSS と電子基準点、GIS、地理院地図の掲載情報と活用
第 6 回	河川地形の成り立ちと土地利用 (1)	扇状地、天井川、土地利用
第 7 回	河川地形の成り立ちと土地利用 (2)	氾濫原、三角州、土地利用
第 8 回	海岸地形の成り立ちと土地利用	砂浜海岸、岩石海岸、サンゴ礁海岸、土地利用、海底地形
第 9 回	変動地形・火山地形の成り立ち	断層変位地形、離水海岸地形、マグマの組成・噴火様式・火山体、山体崩壊
第 10 回	段丘地形の成り立ちと土地利用	河成段丘、海成段丘、気候変動、地殻変動、土地利用
第 11 回	段丘面と地殻変動	段丘面の編年、関東ローム層、段丘面に基づく隆起量の見積もり
第 12 回	山地の成り立ち	山地の形成、風化と侵食、地形輪廻、氷河地形
第 13 回	関東平野の地形発達史と古地理	段丘面の分布と成り立ち、沖積面の分布と成り立ち
第 14 回	人間社会が土地に及ぼす影響	江戸・東京の地形と土地利用、埋立て、造成、鉄穴流し

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して予習・復習をする。自然環境に関わる時の話題や映像等に積極的に触れる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布

【参考書】

授業中に紹介

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100%）。(1) 大地の個性と成り立ち、および土地が変貌するプロセスを説明できるか、(2) 土地条件や土地利用といった視点から人間社会の課題を具体的に提示できるか、を問う。

【学生の意見等からの気づき】

知識と基礎力に加え、応用力や思考力をより涵養すべく、詳しく具体的な説明を心がけます。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

The land is our stage of life, on which our human societies stand. It is true that the land does not seem to change, but the land has changed repeatedly and reached the present styles through various geomorphic processes such as river flood and crustal deformation in the recent geologic time. We examine the geomorphic environment in the Japanese islands, one of the tectonically active and intensely denuded regions in the world, in order to recognize how land conditions are related to our human societies.

GEO200HA

自然環境論Ⅲ

杉戸 信彦

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本列島の自然環境を大きく特徴づける「変動地形」。変動地形は大地震と密接に関わって成立している。変動地形の研究は、日本列島の自然環境の理解のみならず、大地震が発生する場所や歴史の理解、また長期予測において不可欠である。本授業では変動地形の成り立ちを理解し、日本列島の自然環境および地震発生環境の地域的個性、ひいては人間社会のあり方を見つめなおす。

【到達目標】

地震発生繰り返しモデルを説明できる。
日本列島の地震発生環境の地域的個性を具体的に記述できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

●追記 春学期の少なくとも前半はオンラインで開講する。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月4日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。
～～以下は当初記述

背景となる地形学的知見を踏まえ、変動地形学・古地震学のアプローチを通じて日本列島の地形的枠組みと地震発生環境の理解をはかる。講義形式。国内外における地殻変動の具体像を示すスライドも活用する。図上作業を授業時間内に2度実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	日本列島の地震発生環境	島弧海溝系、プレート境界、活断層、活火山
第2回	変動地形と古地震の調査法	地形学・地質学、史料地質学、地震考古学
第3回	地震発生繰り返しモデル(1)	地震の歴史を復元する取り組み、変位量分布の規則性と固有地震モデル
第4回	地震発生繰り返しモデル(2)	時間-変位ダイアグラム、時間予測モデル、変位予測モデル、長期評価
第5回	活断層の認定	地震規模と地表変位、活断層地形判読
第6回	相模トラフの地震ほか	1923年大正関東地震、1703年元禄関東地震、首都直下地震（狭義）ほか
第7回	南海トラフの地震	1944・1946年昭和、1854年安政、1707年宝永ほか
第8回	琉球海溝の地震	地震発生可能性、1771年明和ほか
第9回	日本海溝の地震	2011年東北地方太平洋沖地震、869年貞観地震ほか
第10回	千島海溝の地震	17世紀型超巨大地震ほか
第11回	地震と活断層(1)	活動期と静穏期、1995年兵庫県南部地震ほか
第12回	地震と活断層(2)	2016年熊本地震ほか
第13回	日本列島の活断層(1)	別府-島原地溝帯、中央構造線断層帯、近畿三角帯ほか、歴史地震
第14回	日本列島の活断層(2)	糸魚川-静岡構造線断層帯、日本海東縁ほか、歴史地震

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して予習・復習をする。自然環境に関わる時の話題や映像等に積極的に触れる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布

【参考書】

授業中に紹介

【成績評価の方法と基準】

●追記 春学期の少なくとも前半をオンラインで開講することにとまない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、学習支援システムで提示する。

～～以下は当初記述

図上作業(20%)と期末試験(80%)。図上作業は、作業への取り組み状況等をもとに評価する。期末試験においては、(1)地震発生繰り返しモデルを説明できるか、(2)日本列島の地震発生環境の地域的個性を具体的に記述できるか、を問う。

【学生の意見等からの気づき】

知識と思考力に加え、基礎力や応用力をより涵養すべく、詳しく具体的な説明を心がけます。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

The existence of tectonic landforms is one of the most significant features on the natural environment of the Japanese islands. These tectonic landforms have mainly developed related to recurrent large earthquakes. We examine spatial variation, mechanism, and history of tectonic landforms as well as seismogenic environments in the Japanese islands, in order to understand natural environment of the Japanese islands and to improve our social resilience.

INE200HA

エネルギー論 I

北川 徹哉

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

エネルギーは私たちの生活や社会、経済と密接にリンクしているとともに、近年の環境への配慮の重要性の高まりを背景に、エネルギー開発・利用のあり方がより一層注目されている。本講義においては、エネルギーの資源の特徴や流れ、エネルギー関連の基礎原理、発電形態を学ぶとともに、我が国および諸外国のエネルギーの現状について知る。

【到達目標】

1. エネルギーと人間生活、社会との結びつきを説明できる。
2. 各種エネルギー資源の特徴とその利用方法、原理について説明できる。
3. 現代のエネルギーの利用状況と国際的な動向を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行われる。また、質問は随時受け付ける。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまなう各回の授業の変更については学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	エネルギーとは	エネルギーの定義と歴史、世界のエネルギー情勢
第2回	エネルギーの資源、流通、消費	1次エネルギーと2次エネルギー、各種資源の輸入と流通、各種エネルギーの消費動向
第3回	エネルギーを表す量、単位	熱量、仕事、パワー、電力量などの意味と表現
第4回	熱とエネルギー	エネルギー保存とジュールの実験
第5回	熱と力	サイクルとは何か、熱力学第1・第2・第3法則
第6回	エネルギー使用と仕事	カルノーサイクルの構成、サイクルがする仕事と効率
第7回	エントロピー	エントロピーとは何か
第8回	熱エネルギーの移動	エントロピーと熱との関係、エントロピー増大の法則
第9回	熱から電力への変換	熱と水の関係、発電で用いられるサイクル
第10回	電力の需要と供給	送電・配電、電力の需給バランス
第11回	火力発電所の仕組み	火力発電の種類、火力発電所の構造
第12回	原子力とは	原子の構造、核分裂、核燃料
第13回	原子力発電所の仕組み	原子炉の種類、原子力発電所の構造
第14回	核燃料サイクル、放射性廃棄物	プルサーマル、高速増殖炉、使用済核燃料の処分

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。次の内容を事前に学習しておくこと。第1～3回：エネルギー・資源の用語と単位、第4回：ジュールの実績、第5～8回：前回の講義内容の見直し、第9回：水の性質、第10～13回：我が国の電力会社と発電所、第14回：原子力の時事問題本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

レポート（50％）：各種エネルギーの特性に関する課題により、主として到達目標2の達成度を評価する。

試験（50％）：各種資源とエネルギー利用形態、エネルギーと社会との関係などの知識を問うものであり、到達目標1～3全般の習得度を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

エネルギー分野は広範囲な内容を含み、楽しく学べます。科学的な内容については焦点を絞って取り上げます。わからないところは質問しましょう。本科目は「環境科学入門」の代替科目として再履修可能です。ただし、本科目を修得済の場合、「環境科学入門」の代替として履修することはできません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

The topics in this course contain the fundamentals on resources and their conversions to energy used for power generations, and on the energy demand-supply relationship. Special attention is paid to the electricity power generations using fossil and nuclear fuels.

SHS200HA

地球科学史 I

谷本 勉

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代の科学的地球観（地質学）の登場以前の略画的地球観の歴史を概観する。

【到達目標】

略画的地球観を非科学的として否定的に取り扱うのではなくて、今日の我々の日常的な地球に対する見方・考え方に大きな影響を与えているものとして理解することをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業開始日は4月21日。学習支援システムを参照のこと。

神話的世界の自然観を概観し、古代ギリシアの自然哲学的な地球観・自然観から、キリスト教的な世界観を経て、中世・ルネサンス期の西欧世界の地球観を明らかにし、17世紀の科学革命期から18世紀の地球像を評述することによって、略画的地球観の重要性を明らかにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業の全体計画	何をどのように勉強して行くかを説明する
第2回	古代世界の自然観	天地創造神話
第3回	古代ギリシアの地球観(1)	ミレトス学派からプラトン
第4回	古代ギリシアの地球観(2)	アリストテレスとリュケイオンの弟子たち
第5回	ヨーロッパ古代・中世前半の地球観	キリスト教世界の教父たち
第6回	中世・ルネサンス期の地球観	大航海時代と世界地図の製作
第7回	科学革命期の地球観(1)	デカルトの『哲学原理』(1644)の地球論
第8回	科学革命期の地球観(2)	ステノの『プロドロムス』(1669)の科学的地球観
第9回	科学革命期の地球観(3)	ライプニッツの『プロトガイア』(1691) 啓蒙主義の時代の地球観
第10回	18世紀の地球観(1)	ビュフォン：デカルト的地球論から近代地質学への移行期
第11回	18世紀の地球観(2)	ヴェルナー：近代地質学誕生前夜の水成説
第12回	18世紀の地球観(3)	ハットン：近代地質学誕生前夜の火成説
第13回	地質学と聖書	火成説対水成説：玄武岩論争
第14回	授業の総括	全体の概説史的説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。授業の中で指示される参考文献を随時読み進める。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

授業の進行に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50％）と平常点（50％）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業のレジュメのさらなる充実をめざす。

【その他の重要事項】

本科目は「環境科学入門」の代替科目として再履修可能です。ただし、本科目を修得済の場合、「環境科学入門」の代替として履修することはできません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This lecture provides an outline history from the mythical Earth view of the ancient Orient to the dawn of modern geology at the end of the 18th century. In particular, this lecture aims to understand the history from the proposal of Descartes' rational earth theory in the 17th century to the emergence of sprout geology in the Enlightenment era of the 18th century.

SHS200HA

地球科学史Ⅱ

谷本 勉

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地質学の誕生から地球科学・地球惑星科学へ至る道を検証して、地球科学の現状を明らかにする。

【到達目標】

地震学を含めて地球科学の可能性と限界を歴史的観点から理解することをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

18世紀末からプレートテクトニクス誕生までの200年間、それぞれの時代の人々が地球表層の岩石圏というもっとも基本的な自然環境をどのように理解しようとしてきたのかを、人が本当に地球をかけがえのない星として理解するためのに必要な科学のあるべき姿とは何かを念頭に置きながら説明していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業の全体計画	何をどのように勉強して行くかを説明する
第2回	地層と化石	スミスとキュヴィエ：岩相層序学から生（化石）層序学へ
第3回	地質学の原理	ライエルとバックランド：洪水主義対河川主義：激変主義と斉一主義
第4回	地層と時代	Dinosaurus （恐竜）の発見と時間の発見
第5回	地質学と進化論	地質学者ダーウィンの『種の起源』（1859）
第6回	地球の年齢	ダーウィンとケルビン卿：地球年代論争：地質学対物理学
第7回	19世紀末の地質学	ジュース：地球冷縮説：先駆的なグローバル・テクトニクスの登場
第8回	20世紀前半の地質学	シュテイレ：地相斜造山論：グローバル・テクトニクスの完成
第9回	地球科学の誕生	地質学と物理学と化学：アイソスタシー説と地震学
第10回	大陸移動説（1）	生物地理学と地質学
第11回	大陸移動説（2）	ヴェーゲナーの大陸移動説
第12回	ニュー・グローバル・テクトニクス革命（1）	大陸移動説の復活：海洋底拡大説
第13回	ニュー・グローバル・テクトニクス革命（2）	プレート・テクトニクスの登場
第14回	授業の総括	全体の概説史的説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。授業の中で指示される参考文献を随時読み進める。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

授業の進行に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50%）と平常点（50%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業のレジュメのさらなる充実をめざす。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This lecture provides an overview history from the birth of modern geology in the first half of the 19th century to the formation of plate tectonics in the second half of the 20th century. In particular, this lecture aims to understand the history of the relationship between Christianity and science over C. Darwin's theory of evolution and the history from A. Wegener's theory of continental drift to the plate tectonics.

BOM200HA

環境健康論 I

朝比奈 茂

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代西洋医学の発展にともない、人類は多くの恩恵を受けてきた。その一つに、寿命の延長がある。我が国は世界有数の長寿国である一方で、健康寿命を延ばすことがこれからの課題とされている。今後高齢化社会が進むにつれて、課題とされる健康寿命の延長に何か必要であるか？健康で過ごすにはどうすればよいか？適度な運動、自然素材の食事、十分な睡眠など、自らが考え実践できることは沢山ある。

本講義では、普段何気なく過ごしているその内容に焦点をあて、いかに生活習慣が大事であるかを、がんに関する多目的コホート研究などの資料をもとに考察していく。

【到達目標】

1. 「持続可能な環境重視の社会」を構築するために、環境と健康の対応関係を理解できる。
2. ホメオスタシスと病気の関連性について述べることができる。
3. 日本人の死因について述べるができる。
4. 人間のがんに関わる要因について説明する。
5. 創傷の治癒過程について説明できる。
6. 免疫の働きと役割について説明できる。
7. 腸内細菌と免疫系の関係を述べるができる。
8. 食べることの重要性を述べるができる。
9. 治癒を促進する食品が説明できる。
10. 治癒と排出の関係を説明できる。
11. 治癒を妨げるものを列挙できる。
12. ところが治癒に果たす役割などについて説明できる。
13. 自らの健康感を述べるができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月7日（木）5時限目とし、この日までに具体的はオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・講義の概要、ねらい、進め方の紹介	半年間の講義の概要、到達目標などを説明する。
第2回	ホメオスタシスと病気 - 病気になる人となりにくい人 -	人間に備わっているホメオスタシスの意義について説明し、病気との関連性を検討する。
第3回	がんの基礎知識 I	人のがんに関わる要因について説明する。 がんに関する多目的コホート研究から飲酒、喫煙に関わる内容を解説する。
第4回	がんの基礎知識 II	人のがんに関わる要因について説明する。 がんに関する多目的コホート研究から食生活、運動習慣に関わる内容を解説する。
第5回	免疫系と自律神経系：免疫力アップは腸内細菌の元気から	本来生まれながら人間に備わっている免疫について、その種類、役割などを説明する。また免疫系と自律神経系の関わりを腸内細菌の働きと合わせて考察する。
第6回	治癒の本質：治癒の3局面（反応・再生・適応）	創傷の治癒を例にあげ、人間に備わっている治す能力（自然治癒力）について解説し、治癒のプロセスである反応・再生・適応について説明する。
第7回	創傷の治癒：線維の増殖、癒痕の成熟、組織修復による合併症	組織損傷の治癒過程について、炎症が果たす役割および組織修復にかかわる一連の流れ、修復時に起こる合併症などを解説する。
第8回	食べることの重要性：なぜ人は食べ続けるののだろうか？	人は食物を材料としてエネルギーを作り出し、それによって生命活動を維持している。人間が行う消化と吸収について解説する。

第9回	治癒を促進する食生活：免疫力をあげる食品類	食生活が健康にとって如何に重要であるかを述べ、総カロリー、脂肪、たんぱく質、野菜と果物、食物繊維と治癒との関連性を解説する。
第10回	摂取と排出：排出不足が病気を招く	人間は日々の摂取と排出を繰り返している。摂取には呼吸による空気の摂取、目や耳などの感覚器からの摂取などがある。一方、排出に対してはあまり意識されていない。排出の重要性を述べ、病気との関連性を解説する。
第11回	治癒力を妨げるもの：人間が作った化学物質	自然治癒力を妨げるものに、エネルギー不足、循環不足、有害物質、老化などがある。これらの要因と免疫力の関連性について解説する。
第12回	有害物質から身を守る	水質汚染、空気汚染、有害食品、その他の有害物質は、からだ備わっている治癒力を低下させ、病気の発生因子となる。これらの要因をさげ上手に生活をおくる方法を検討する。
第13回	ところが治癒に果たす役割：治癒とところの相関関係（笑いが地球を救う）	精神のおよび感情的な出来事と治癒反応との間に相関関係があることを示し、これまでに起こった事例をあげ、ところが治癒系に与える影響について解説する。
第14回	成熟した成人になるために：治療は外から、治療は内から	治療(cure, treatment)と治癒(healing)の相違点を示し、もし病気になっても治療者に依存するのではなく、内から治癒が生じるようなプログラムに取り組み、行動をとるよう解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の前日までに、授業支援システム上に資料を掲載する。受講者は各自ダウンロードし、資料に基づき事前学習を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。必要に応じて配布する

【参考書】

健康・体づくりハンドブック 名取 礼二 監修 大修館書店
人はなぜ治るのか アンドルー・ワイル著 上野圭一訳 日本文化社
癒す心、治る力 アンドルー・ワイル著 上野圭一訳 角川文庫
補完代替医療入門 上野圭一著 岩波アクティブ新書
標準東洋医学 仙頭正四郎 金原出版

【成績評価の方法と基準】

当面の間、オンラインでの開講にともなうこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。

具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

1. 毎回の講義はじめに、その日のスケジュールおよびポイントをを示すことで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。
2. 常に受講生の反応を確認しながら、講義内容を柔軟に変化させることにより、集中力を持続させる工夫を行う。
3. 授業の最後に次回の内容を伝達し、自宅での予習や資料収集に役立つよう工夫する。

【その他の重要事項】

本科目は「環境科学入門」の代替科目として再履修可能です。ただし、本科目を修得済の場合、「環境科学入門」の代替として履修することはできません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【Outline and objectives】

Japan is well-known for the best longevity in the world. However, as oppose to the reputation from the world, it is unfortunate that there are not many Japanese people who can actively enjoy till their end-stage of life. It has been known that the healthy life can be obtained by quality life activities such as moderate exercise or physical activity, quality sleep and rest, and well-balanced diet. This course will provide the knowledge and skills necessary to prevent from illness and acquire such a healthy life. Upon the completion of this course, students will be able to learn and enjoy such a lifestyle.

BOM200HA

環境健康論Ⅱ

朝比奈 茂

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 5/Thu.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

補完代替医療とは、一言で説明すると「現代西洋医学領域外の医学・医療体系の総称」である。近年、NCCIH（アメリカ国立補完統合健康センター）では、環境全体を視野に入れたエコロジカルな健康観を基礎として、生命の特徴である多様性、個別性、一回性を重視する補完代替医療分野に多大の研究費を費やしはじめた。またアメリカ、ヨーロッパ諸国を中心として、世界各国の伝統医療の見直しながされ、多くの人が日常的にとりいれ、その効果を実感している。

本講義では、世界におよそ 600 種あると言われていた補完代替医療のうち、代表的ないくつかの伝統医療を取り上げ、その特徴や功罪などを説明する。また、必要に応じて現代西洋医学との融合、または使い分けできる思考、姿勢を身につけることで、幅広い視点から環境と健康問題に取り組む可能性を追求する。

【到達目標】

1. 補完代替医療の健康観について説明できる。
2. 世界の伝統医療についてその特徴を説明できる。
3. 代表的な補完代替医療を列挙でき、その内容を概説できる。
4. 代表的な補完代替医療の特徴、長所および短所を説明できる。
5. 現代西洋医学と補完代替医療を比較し、それぞれの特徴を説明できる。
6. 東洋医学の根幹である「気」の概念を理解できる。
7. 陰陽論、五行学説について概説できる。
8. 鍼・灸療法の特徴、効果、用い方について説明できる。
9. ホメオパシーの特徴、長所および短所を説明できる。
10. エネルギー療法について実践例を挙げて説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義は、常に人の生命活動を意識して展開する。生命活動について、多方面（毎回のテーマ）からアプローチし、到達目標を達成していく。授業は講義形式で行い、スライド、DVD を用いて視覚的に効率よく知識の伝達を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス：講義の概要、ねらい、進め方の紹介	半年間の講義の概要、到達目標などを説明する。
第 2 回	補完代替医療の健康観Ⅰ	NCCIH（アメリカ国立補完統合健康センター）の研究、取組、世界の現状などを紹介する。
第 3 回	補完代替医療の健康観Ⅱ	ドイツのがん治療の現状を DVD を視聴しながら解説する。
第 4 回	補完代替医療システム ：中国伝統医学Ⅰ	中国伝統医療である東洋医学について、発祥と発展、健康観や哲学などを概説する。また現代西洋医学との相違を提示し、検討する。
第 5 回	補完代替医療システム ：中国伝統医学Ⅱ	東洋医学の基本概念である陰陽五行論、経穴と経絡、気血水（津液）について説明する。
第 6 回	補完代替医療システム ：中国伝統医学Ⅲ	東洋医学分野の内系医学に属する鍼・灸療法の特徴、効果、用い方について説明し、実際に鍼・灸治療を行いその効果を体験する。
第 7 回	補完代替医療システム ：中国伝統医学Ⅳ	東洋医学分野の寒傷系医学に属する湯液療法の特徴、効果、用い方について説明する。具体例として7種類の生薬を使用する葛根湯を実際に調合、煎じてそれを服用する実習を行う。
第 8 回	補完代替医療システム ：ホメオパシー	欧米やインド、南米などに広く普及している、ホメオパシーについて、発祥と発展、健康観や哲学などをのべる。またそれらの長所と短所を説明する。
第 9 回	補完代替医療システム ：インド伝統医学（アーユルヴェーダ、ヨガ）	インド地域を中心として発達した 5000 年の歴史があるアーユルヴェーダ、ヨガについて、発祥と発展、健康観や哲学などをのべる。またそれらの長所と短所を説明する。
第 10 回	精神・身体相互介入による医療 ：瞑想法、呼吸法	精神および身体相互介入による医療に位置付けられている瞑想について、科学的な視点から捉えるとともに、日本の「禅」との関連性を解説する。

第 11 回	生物学的療法 ：マクロビオティック、ハーブなど	世界の多くの著名人、有名人などが行っていると言われていて、「マクロビオティック」について、健康観や哲学、長所や短所などを概説し、実際にその調理方法を解説する。
第 12 回	手技および身体を介する療法 ：按摩・指圧・マッサージ	按摩・指圧・マッサージについて、その発祥と発展、施術の法則と方法、特徴的な手技、長所と短所などを説明する。
第 13 回	手技および身体を介する療法 ：カイロプラクティク、オステオパシー、リフレクソロジー	カイロプラクティク、オステオパシー、リフレクソロジーについて、その発祥と発展、健康観や哲学、長所と短所などを説明する。
第 14 回	エネルギー療法 ：ヒーリングタッチ	ヒーリングタッチについて、その発祥と発展、健康観や哲学、長所と短所などを説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。講義の前日までに、授業支援システム上に資料を掲載する。受講者は各自ダウンロードし、資料に基づき事前学習を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。必要に応じて配布する。

【参考書】

『補完代替医療入門』 上野圭一著 岩波アクティブ新書
『ホメオパシー医学への招待』 松本文二著 フレグランスジャーナル社
『標準東洋医学』 仙頭正四郎 金原出版
『近代中国の伝統医学』 ラルフ・C・クロイツァー著 創元社
『傷寒論を読もう』 高山宏世著 東洋学術出版社
『アーユルヴェーダとヨガ』 上馬場和夫著 金芳堂
『人はなぜ治るのか』 アンドルー・ワイル著 上野圭一訳 日本文化社

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100%）により評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

1. 毎回の講義はじめに、その日のスケジュールおよびポイントを示すことで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。
2. 常に受講生の反応を確認しながら、講義内容を柔軟に変化させることにより、集中力を持続させる工夫を行う。
3. 授業の最後に次回の内容を伝達し、自宅での予習や資料収集に役立つよう工夫する。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

The body can heal itself. Natural healing is not a miracle but a fact of biology - the result of the innate healing system in the human body. The opportunity to experience this spontaneous healing can be increased by giving proper exercise and adequate rest to the body. In this lecture, from the perspective of oriental medicine, students learn about the natural healing system.

PLN200HA

気候変動論 I

松本 倫明

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では気候変動の自然科学的な知見をわかりやすく解説する。春学期では、まず現在進行中の気候変動である地球温暖化を概観する。つぎに気候変動のベースとなる気候システムの基礎的なことがらを深く学ぶ。

【到達目標】

この授業を通じて、気候変動の科学的なりテラシーを身につけることができる。具体的には（1）気候変動科学のこれまでの経緯、（2）温室効果、太陽放射、アルベド等の気候システムの基礎、（3）温暖化予測の概要、（4）大気と海洋の循環と熱収支、（5）炭素循環、（6）簡単な温室効果モデルについて学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業開始日：4月21日

講義形式で授業を進める。プロジェクターを用いて最新の観測結果を紹介し、わかりやすい授業にする予定である。またビデオ教材を用いる。この授業を受講するにあたり特別な予備知識を必要としない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業計画のロードマップを示す。受講の方法を示す。
第2回	地球温暖化の概要（1）	いくつかの観測結果を概観する。世界平均気温、海面水温、温室効果ガス濃度の変化など。
第3回	地球温暖化の概要（2）	地球温暖化の科学の入門。太陽放射、放射強制力、アルベドについて学ぶ。
第4回	地球温暖化の概要（3）	地球温暖化の予測について概観する。予測の方法、気候モデルの概要、予測の結果など。
第5回	地球温暖化の概要（4）	将来取り得る選択肢についての議論
第6回	大気の構造	大気に焦点をあてる。対流圏、成層圏、中間圏、熱圏、オゾン層、分子組成など。
第7回	放射と熱	電磁波、黒体放射、熱力学の基礎を学ぶ。
第8回	循環と気象	水平方向のエネルギー収支を学ぶ。温帯低気圧、熱帯低気圧、ジェット気流、ハドレー循環など。
第9回	海洋の循環	海洋による熱の循環について学ぶ。風成循環、熱塩循環など。
第10回	エネルギー収支	鉛直方向のエネルギー収支を学ぶ。大気窓、アルベド、温室効果など。
第11回	温室効果	温室効果の基礎を学ぶ。温室効果ガスによる赤外線吸収と放射など。
第12回	放射平衡	大気多層モデルによって温室効果の理解を深める。
第13回	炭素循環	二酸化炭素と炭素循環の概念の理解。大気・海洋・植生・土壌における炭素のフラックスと貯蓄量など。
第14回	まとめ	授業をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。授業のなかで指示をする。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストを使用せず、授業中に資料としてプリントを随時配布する。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

期末試験を行う。また授業中に携帯電話を用いて、クイズ形式のミニテストを行う。評価の割合は、期末試験が70%、ミニテストが30%である。履修者数が多い場合には、グループによるディスカッションを行い、ディスカッションの内容を成績に反映する。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートは概ね好評であった。とくに携帯電話を用いたミニテストが好評であったので、今年度も同様に実施する。

【学生が準備すべき機器他】

各自の携帯電話やスマートフォンを使う。

【その他の重要事項】

本科目は「環境科学入門」の代替科目として再履修可能です。ただし、本科目を修得済の場合、「環境科学入門」の代替として履修することはできません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Students learn scientific knowledge about climate change. In the spring semester, we focus on the introduction of climate change and the basic knowledge of the climate system.

EAE200HA

気候変動論Ⅱ

松本 倫明

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では気候変動の自然科学的な知見を学ぶ。

秋学期では、地球温暖化の実際と影響について深く学ぶ。さらに、地球誕生から現在までの気候変動について学び、地球温暖化の理解を深める。また、昨今の地球温暖化をめぐる動向についても学習する。

【到達目標】

この授業を通じて、気候変動の科学的なリテラシーを身につけることができる。具体的には（1）気温の変化とその測定方法、（2）温室効果ガスの増加とその原因、（3）エアロゾルの影響、（4）降水・積雪への影響、（5）海洋への影響、（6）気候変動の予測と不確実性、（7）古気候学について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を進める。プロジェクターを用いて最新の観測結果を紹介し、わかりやすい授業にする予定である。

気候変動Ⅰを履修した後にこの授業を履修することを推奨する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業計画のロードマップを示す。受講の方法を示す。
第2回	平均気温の変化（1）	温度の測定方法を紹介する。気温分布の季節変化と長期傾向を理解する。
第3回	平均気温の変化（2）	長期傾向を抽出するための統計処理の方法を理解する。ヒートアイランドについても補説する。
第4回	温室効果ガス（1）	温室効果ガス濃度分布と季節変化、長期傾向を理解する。
第5回	温室効果ガス（2）	排出量の推移、排出源、吸収源、海洋との交換を理解する。
第6回	エアロゾル	火山とエアロゾルの排出、人為的なエアロゾルの排出、アルベドと気候への影響。
第7回	降水量	降水量と水蒸気量の変化を世界平均と日本の場合について学ぶ。
第8回	雪氷	氷河の後退、北極海と南極の海水、気候への影響について学ぶ。
第9回	海洋・海面水位	気候システムにおける海洋の役割、海面水位変化の分布について学ぶ。
第10回	予測の方法	地球温暖化予測の方法について学ぶ。気候システムの概要、アンサンブル平均など。
第11回	予測の結果	地球温暖化予測の結果（気温、海面水位、降水量、異常気象、日本への影響など）を概観する。
第12回	古気候学	様々なスケールにおける気候変動を考える。小氷期、中世の温暖期、氷期、間氷期、氷河期など。
第13回	緩和策・適応策	地球温暖化に対する緩和策と適応策を簡単に紹介する。
第14回	まとめ	講義をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。授業のなかで指示をする。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストを使用せず、授業中に資料としてプリントを随時配布する。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

期末試験を行う。また授業中に携帯電話を用いて、クイズ形式のミニテストを行う。評価の割合は、期末試験が70%、ミニテストが30%を予定しているが、途中で簡単なレポート課題を課すことがある。履修者数が多くない場合には、グループによるディスカッションを行い、ディスカッションの内容を成績に反映する。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートは概ね好評であった。とくに携帯電話を用いたミニテストが好評であったので、今年度も同様に実施する。

【学生が準備すべき機器他】

各自の携帯電話やスマートフォンを使う。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Students learn scientific knowledge about global warming. In the fall semester, we lean on the detail of climate change.

DES300HA

自然環境政策論 I

高田 雅之

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然環境と人間との調和・共生を実現するためには、社会の様々な取り組みが互いに効果を及ぼし合いながら、望ましい状態を目指していけるような環境政策を進めなければなりません。自然環境政策論 I（春期）では、対象となる自然環境の理解と、人間活動との軋轢に対する基盤的な政策を中心に、また自然環境政策論 II（秋期）では、様々な課題に対する社会的・国際的な手立てと、今後の新たな政策の可能性について考究します。

【到達目標】

以下の 2 点について知識と理解を深め、その要点を説明できる力を身に付けます。

- ① 保全対象となる自然環境の特性と、人間活動によって引き起こされる問題の現状と課題
- ② 人間による影響を減らすために取り組まれている主な保全対策

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

「保全の対象となる生態系の特徴」、「人間活動によって引き起こされる諸問題」、「外来種や種の絶滅という難題」、「日本における主な自然環境保全制度」、「新たな課題である里山・生物多様性・自然再生」について学びます。国内外の実例やエピソードを交えたプレゼンテーションにより、知識と問題意識を積み重ね到達目標に向かいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと序論	講義の進め方、環境問題の難しさ、自然環境の保全とは
第 2 回	森林をめぐる諸課題	森林の構造と機能、森林の管理、森林保護をめぐる事例
第 3 回	草原をめぐる諸課題	半自然草原・高山草原・海岸草原の特徴と取り巻く課題
第 4 回	湿地をめぐる諸課題	湿原・水田・干潟の特徴と取り巻く課題
第 5 回	陸水域をめぐる諸課題	河川・湖沼生態系の特性、水生生物、富栄養化と水質問題
第 6 回	島嶼をめぐる諸課題	海洋島と大陸島、固有の生物相、ガラパゴスや小笠原諸島などの事例
第 7 回	自然環境をめぐる難題：貴重種 1	レッドリストによるリスク評価、希少動物・希少植物の取り組み事例
第 8 回	自然環境をめぐる難題：貴重種 2	種の保存法に関する事例、種の再導入
第 9 回	自然環境をめぐる難題：外来種 1	様々な導入経路と影響、外来生物対策、国内外の事例
第 10 回	自然環境をめぐる難題：外来種 2	淡水における外来種問題など
第 11 回	日本の自然環境保全政策 1	鳥獣保護区、ワイルドライフマネジメント
第 12 回	日本の自然環境保全政策 2	自然公園、自然環境保全地域
第 13 回	自然の再生	自然再生とは、近自然河川工法、国内外の事例、グリーンインフラ
第 14 回	里山と生物多様性	里山の特徴と変貌、生物多様性とは、生態系サービス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。毎回のテーマに関わる基礎知識について予習するとともに、講義で抱いた疑問について毎回の講義後に自主学習によって解決します。また日頃接するメディアや、時折訪ねる自然地や公園などで、自然環境に対する関心を払うよう努めます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】

講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価します（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

知識の羅列と詰め込みにならないよう、重要な点を強調し、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

【その他の重要事項】

自然環境政策論 I（春期）と II（秋期）は内容と視点が異なり、両方で自然環境政策を網羅するものとしていますので、併せて受講することが望ましいです。自然についてより詳しく学習したい人にはサイエンスカフェ III（生態学）（春期）と自然環境政策論 IV（秋期）の受講を勧めます。

また講義改善や理解促進の目的で、毎回アクションペーパーを提出してもらいます。

旧科目名称「自然環境政策論」を修得済の場合、本科目の履修はできません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

公務員、独立行政法人、民間企業

【Outline and objectives】

In this lecture, students will understand the current conditions of the natural environment and learn issues of biodiversity such as endangered species and alien species, and basic nature conservation policy in Japan.

DES300HA

自然環境政策論 II

高田 雅之

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然環境と人間との調和・共生を実現するためには、社会の様々な取り組みが互いに効果を及ぼし合いながら、望ましい状態を目指していけるような環境政策を進めなければなりません。自然環境政策論Ⅰ（春期）では、対象となる自然環境の理解と、人間活動との軋轢に対する基盤的な政策を中心に、また自然環境政策論Ⅱ（秋期）では、様々な課題に対する社会的・国際的な手立てと、今後の新たな政策の可能性について考究します。

【到達目標】

以下の3点について知識と理解を深め、その要点を説明できる力を身に付けます。

- ①日本における自然環境保全へ向けた誘導的・社会的・経済的な取り組みの考え方とその実際
- ②諸外国における取り組みの事例とその仕組み
- ③国際条約など国際的な枠組みによる保全

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連。
法学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

「環境影響評価や環境計画などの誘導的・計画的なアプローチ」、「法によらない保全事例」、「諸外国におけるユニークな保全とその仕組み」、「国際的な枠組みによる保全」、「経済的なアプローチ」、「地域の自然資源の活用とエコツーリズム」について学びます。国内外の実例やエピソードを交えたプレゼンテーションにより、知識と解決意識を積み重ね到達目標に向かいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと序論	講義の進め方、文明の盛衰と自然環境、人を動かす概念の進化
第2回	自然との共生と軋轢	日本における動物・水・森林と人との関わり、開発と自然保護の対立
第3回	環境影響評価 1	環境アセスメントの特徴と手続き、日本における制度構築の経過
第4回	環境影響評価 2	特徴的な仕組みと事例、戦略的環境アセスメント、生態学と環境計画
第5回	法によらない保全メカニズム	自然環境保全指針などの地域ビジョン、NPOによる取組事例、協定等の自発的手法
第6回	海外の自然環境政策に学ぶ 1	フランスの地方自然公園とエコミューゼ、ドイツのピオトープ
第7回	海外の自然環境政策に学ぶ 2	イギリスのナショナルトラスト・グラウンドワーク、日本のトラスト活動
第8回	海外の自然環境政策に学ぶ 3	欧州の農業環境政策、環境支払い、エコロジカルネットワーク
第9回	国際的な取り組み 1	ラムサール条約、世界遺産条約、生物多様性条約
第10回	国際的な取り組み 2	ワシントン条約と象牙問題の事例
第11回	国際的な取り組み 3	世界農業遺産、ジオパーク
第12回	生物多様性と経済	企業活動とリスク、認証制度、生態系サービスへの支払い、生物多様性オフセット、自然資本
第13回	エコツーリズム	エコツーリズムとは、インタープリテーション、管理型観光と自主型観光、野生生物を生かした事例
第14回	地域資源の活用	自然の価値を高める経済的な循環事例

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
毎回のテーマに関わる基礎知識について予習するとともに、講義で抱いた疑問について毎回の講義後に自主学習によって解決します。また日頃接するメディアや、時折訪ねる自然地や公園などで、自然環境に対する関心をかうよう努めます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のものはありません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】

講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価します（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

知識の羅列と詰め込みにならないよう、重要な点を強調し、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

【その他の重要事項】

自然環境政策論Ⅰ（春期）とⅡ（秋期）は内容と視点が異なり、両方で自然環境政策を網羅するものとしていますので、併せて受講することが望ましいです。自然についてより詳しく学習したい人にはサイエンスカフェⅢ（生態学）（春期）と自然環境論Ⅳ（秋期）の受講を勧めます。また講義改善や理解促進の目的で、毎回リアクションペーパーを提出してもらいます。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

公務員、独立行政法人、民間企業

【Outline and objectives】

In this lecture, students will learn social, international and economic measures and possibilities of future new policies for nature conservation and sustainable use of the natural resources.

ENV300HA

環境科学 I

藤倉 良

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題とは人間活動が自然生態系に及ぼす物理的、化学的、生物学的な作用とその反作用です。「何がおきているのか」を理解し、「どうすればよいのか」を考えるためには、科学知識が欠かせません。環境科学 I では比較的狭い地域に発生する問題について、環境科学 II では地球規模や国境を超える問題について、環境科学 III では資源の問題について論じ、受講生諸君が環境問題の発生メカニズムと対処法に関する科学の基礎を習得することを目指します。I、II、III のいずれかだけを履修してもかまいません。

【到達目標】

以下に示した環境問題の発生メカニズムと対策技術の基礎を理解することを目標とします。

- ・大気汚染（ばいじん、硫酸酸化物、窒素酸化物、アスベスト）
- ・上下水道の構造と処理のプロセス
- ・水質汚濁（富栄養化のメカニズム、工場排水の処理）
- ・土壌汚染（原因、対策技術）
- ・廃棄物（法律上の定義と現状）
- ・リサイクル（意義と現状）
- ・基準の決め方（リスク論と基準の決定方法）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

テキスト（下記参照）とパワーポイントを用いて講義を行います。

4 月 23 日 5 時限から Zoom 利用のオンラインで開始します。Zoom のアドレスとパスワードは前日までに学習支援システムの「お知らせ」欄に示します。講義資料は前日までにアップロードしますので、事前にダウンロードしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション（序章）	環境問題とはどのようなものか、どうすればよいか、環境科学の役割
第 2 回	大気汚染・その 1（第 1 章）	大気汚染の歴史、ばいじん、硫酸酸化物
第 3 回	大気汚染・その 2（第 1 章）	窒素酸化物、自動車排ガス、アスベスト
第 4 回	上水道（第 2 章）	浄水場のしくみ、水質の維持と費用
第 5 回	下水道と浄化槽（第 2 章）	下水道の構造、下水処理場のしくみ、浄化槽
第 6 回	水質汚濁（第 3 章）	水質の指標、有機汚濁、富栄養化
第 7 回	工場排水と土壌汚染（第 3 章）	工場排水の処理、土壌汚染の特徴と対策、地下水汚染
第 8 回	悪臭（第 4 章）	感覚公害、悪臭の測定法、悪臭対策技術
第 9 回	騒音（第 4 章）	音とは、騒音の測定法、騒音対策
第 10 回	廃棄物・その 1（第 5 章）	廃棄物の定義、一般廃棄物
第 11 回	廃棄物・その 2（第 5 章）	産業廃棄物
第 12 回	リサイクル（第 5 章）	リサイクルの種類、リサイクル関連法
第 13 回	有害物質とリスク、基準の決め方（第 6 章）	有害の意味、リスクの意味と大小、基準値の決め方
第 14 回	まとめ	全体の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して復習してください。授業計画のテーマ欄にカッコ内でテキストの該当する章を示しました。この部分をあらかじめ読んでから受講してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤倉良・藤倉まなみ 『文系のための環境科学入門』 有斐閣コンパクト

【参考書】

藤倉良（2015）環境学は総合格闘技？ 人間環境論集，第 16 巻，第 1 号，pp.71-85

【成績評価の方法と基準】

毎回、簡単な小テスト（方法は未定）を行い、その提出をもって出席とします。評価は小テスト 50 %、期末試験（期末試験が行えない場合にはレポート）50 %です。

【学生の意見等からの気づき】

中学卒業程度の理科の知識を前提として講義しますが、高校程度の化学の知識が必要な場合もあります。

【学生が準備すべき機器他】

とくにありません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は環境庁（現環境省）で土壌汚染対策や悪臭対策、国際環境協力等を担当した他、環境基本法の立法にも関与してきました。その当時の経験等を踏まえて講義を進めます。

【Outline and objectives】

Environmental problems are physical, chemical and biological consequences and reactions on natural ecosystems caused by human activities. In order to understand "what is happening" and "what should be done", scientific knowledge is indispensable. In this lecture, students will learn the basic engineering knowledge regarding mechanisms and countermeasures of local environmental problems such as air pollution, water pollution, waste, soil contamination, noise, odor, harmful substances.

ENV300HA

環境科学Ⅱ

藤倉 良

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題とは人間活動が自然生態系に及ぼす物理的、化学的、生物学的な作用とその反作用です。「何がおきているのか」を理解し、「どうすればよいのか」を考えるためには、科学知識が欠かせません。環境科学Ⅰでは比較的狭い地域に発生する問題について、環境科学Ⅱでは地球規模や国境を超える問題について、環境科学Ⅲでは資源の問題について論じ、受講生諸君が環境問題の発生メカニズムと対処法に関する科学の基礎を習得することを目指します。Ⅰ、Ⅱ、Ⅲのいずれかだけを履修してもかまいません。

【到達目標】

以下の環境問題の発生メカニズムと対策技術の基礎を理解することを目標とします。

- ・人口増加のパターンと要因
- ・オゾンホールが南極上空にできるメカニズム
- ・気候変動のメカニズムと緩和策、適応策
- ・気候変動をめぐる社会
- ・越境大気汚染の原因と対策
- ・中国の資源と環境
- ・環境国際協力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連。
法学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

テキスト（下記参照）とパワーポイントを用いて講義を行います。テキストに記載していない事項については資料を配布します。配布資料は、原則として授業支援システムにアップします。講義の終わりに理解度をチェックするためのミニテストを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション、人口	国際環境政策の難しさ、人口増加のメカニズム、都市人口
第2回	オゾン層・その1（第7章）	紫外線、フロンガス
第3回	オゾン層・その2（第7章）	オゾン層破壊のメカニズム、オゾン層保護対策
第4回	気候変動・その1（第8章）	I P C C、二酸化炭素の温室効果
第5回	気候変動・その2（第8章）	二酸化炭素の循環、気候予測、温暖化の影響
第6回	気候変動・その3（第8章）	国際交渉の歴史、パリ協定
第7回	気候変動・その4（第8章）	緩和策
第8回	気候変動・その5（第8章）	適応策
第9回	越境汚染（第9章）	酸性雨の化学、光化学オキシダント、プラスチックごみ
第10回	中国の環境と資源・その1（第11章）	人口、食料と水資源
第11回	中国の環境と資源・その2（第11章）	エネルギー、公害、政策
第12回	環境国際協力	開発途上国の現状、環境プロジェクトとセーフガード・ポリシー
第13回	環境国際協力	事例研究
第14回	まとめ	全体のまとめと復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して復習してください。
授業計画、テーマにカッコ内でテキストの該当する章を示しました。これをあらかじめ読んでから受講してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤倉良・藤倉まなみ 『文系のための環境科学入門』 有斐閣コンパクト

【参考書】

講義中に指定します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（10%）と期末試験（90%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

中学卒業程度の理科の知識を前提に講義しますが、高校卒業以上の物理の知識が必要となる講義もあります。その場合にも、極力、平易な解説を試みます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は環境庁（現環境省）で土壌汚染対策や悪臭対策、国際環境協力等を担当した他、環境基本法の立法にも関与してきました。その当時の経験等を踏まえて講義を進めます。

【Outline and objectives】

Environmental problems are physical, chemical and biological consequences and reactions on natural ecosystems caused by human activities. In order to understand "what is happening" and "what should be done", scientific knowledge is indispensable. In this lecture, students will learn the basics of science regarding mechanisms and countermeasures of environmental problems such as climate change, ozone layer protection, acid rain and resource and environmental problems in China.

ENV300HA

環境科学Ⅲ

藤倉 良

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1

【Outline and objectives】

Students will acquire basic knowledge about the meaning of resources, the scientific nature of resources and the prospect of utilization. Major items include freshwater, energy, soil, phosphorus, nitrogen, genetic resources, and minerals.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題とは人間活動が自然生態系に及ぼす物理的、化学的、生物的な作用とその反作用です。「何がおきているのか」を理解し、「どうすればよいのか」を考えるためには、科学知識が欠かせません。環境科学Ⅰでは比較的狭い地域に発生する問題について、環境科学Ⅱでは地球規模や国境を超える問題について、環境科学Ⅲでは資源の問題について論じ、受講生諸君が環境問題の発生メカニズムと対処法に関する科学の基礎を習得することを目指します。Ⅰ、Ⅱ、Ⅲのいずれかだけを履修してもかまいません。

【到達目標】

資源の歴史的意味に始まり、以下に示すさまざまな資源の性質や利用などについて学習することで、資源の科学的性質や利用の見通しについての基礎知識を習得します。

- ・資源の意味
- ・淡水
- ・エネルギー
- ・土壌とリン、窒素
- ・遺伝資源
- ・ベースメタルとレアアース

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

4月25日1時限からZoom利用のオンラインで開始します。Zoomのアドレスとパスワードは前日までに学習支援システムの「お知らせ」欄に示します。講義資料は前日までにアップロードしますので、事前にダウンロードしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	資源論の社会科学	資源とは何か、「資源」の概念の歴史、資源の呪い
第2回	淡水（1）	水の循環、淡水資源
第3回	淡水（2）	ダム開発、国際河川
第4回	エネルギー（1）	エネルギーとは何か、様々なエネルギー
第5回	エネルギー（2）	埋蔵量、石油と天然ガス
第6回	エネルギー（3）	石炭、水力
第7回	エネルギー（4）	原子力、新エネルギー
第8回	土壌（1）	土壌の構造、土壌の機能
第9回	土壌（2）	世界銀行の対日援助：日本の農業開発事例
第10回	リンと窒素	循環、機能、存在
第11回	生物多様性	生物多様性保全の意義、名古屋議定書
第12回	遺伝資源	食料、医薬品
第13回	金属資源	銅、鉄、アルミニウム、鉛、レアメタル
第14回	まとめ	全体のまとめと復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回配布するレジュメを使って復習してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

藤倉良(2015) 増大するアジア地域の電力、水の需要と大型ダムプロジェクト、人間環境論集、第15巻第2号、pp.157-170

【成績評価の方法と基準】

毎回、簡単な小テスト（方法は未定）を行い、その提出をもって出席とします。評価は小テスト50%、期末試験（期末試験が行えない場合にはレポート）50%です。

【学生の意見等からの気づき】

図を多く使用して、わかりやすい講義を行うこととします。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は環境庁（現環境省）在職時に生物多様性条約の策定過程に関与しました。その経験を踏まえて講義を進めます。

SOM300HA

衛生・公衆衛生学 I

宮川 路子

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

衛生・公衆衛生学は予防医学管理 ID であり、疾病の予防、健康の保持増進をはかる科学技術の探究である。歴史的には伝染病の予防に始まり、現在では循環器疾患、心疾患、がん、糖尿病などの生活習慣病の予防から環境と疾病の関係を追及し、さらに健康の疫学へと進み、健康の保持増進をはかるための方策を探索するところまで進んでいる。本講座においては、予防医学の基礎となる考え方を学ぶとともに、現代社会に潜むさまざまな健康関連問題を取り上げる。健康意識の提起を行い、個人として自己健康管理を行ううえで必要な知識を習得することを目的としている。

【到達目標】

各種の健康問題の実情を学び、学生が取るべき健康行動について考えていく。たとえば、学生生活においてしばしば問題となる飲酒行動について、アルコール摂取により体に何が起こるのかを知り、飲酒に関わる問題を引き起こさないためにどのような健康行動を身に着けていくべきかについて具体的にその方法を考えることができるようになる。これらの学びの積み重ねによって、学生は、将来の疾病を予防し、健康寿命を延長していくことが可能となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

少子化、超高齢化社会において問題となっている医療関連の話題について学ぶ。また、シラバス上のテーマ以外でも、優先順位を考慮し、重要と思われる話題について、積極的に取り上げていく。衛生・公衆衛生学 I～III の内容は若干重複することがある。

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月23日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義を受けるにあたっての心構え、予防医学の基本的概念予防医学の基礎について
第 2 回	ライフスタイルと生活習慣病①	生活習慣病の概念、病気の種類
第 3 回	ライフスタイルと生活習慣病②	主要死因とその関連疾患、生活習慣病の予防について
第 4 回	ライフスタイルと生活習慣病③	生活習慣病各論
第 5 回	ライフスタイルと生活習慣病④	生活習慣病各論
第 6 回	喫煙の健康影響①	タバコの害、法的規制、社会の取り組み
第 7 回	喫煙の健康影響②	喫煙による疾病、禁煙について
第 8 回	アルコールの健康影響①	アルコールの健康被害について
第 9 回	アルコールの健康影響②	アルコール依存症について
第 10 回	少子・高齢社会における健康問題①	少子・高齢化社会の健康問題
第 11 回	少子・高齢社会における健康問題②	介護問題、高齢者虐待
第 12 回	児童虐待	児童虐待の現状と対策
第 13 回	感染症	性感染症・食中毒
第 14 回	まとめ・期末試験	まとめ・期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。講義後に復習をする。関連の話題について、常に意識をして新聞を読むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。参考資料を適宜学習支援システムにアップする。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

評価は期末に提出するレポートで行う（100 %）。

【学生の意見等からの気づき】

大人数のため、おしゃべりがうるさいことがあるが、適宜注意をして静かに講義が進められるように配慮する。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Public health is the science and art of preventing disease and promoting human health. The history of public health began with the prevention of infectious diseases and developed into the prevention of lifestyle-related diseases, such as cardiovascular diseases, severe cardiac diseases, malignant tumors, and diabetes, and establishing the relationship between causation and one's living environment. Moreover, the science of public health has extended into the epidemiology of health, and studies to establish the policies that encourage health maintenance and improvement.

SOM300HA

衛生・公衆衛生学Ⅱ

宮川 路子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

衛生・公衆衛生学の目的は、人々を疾病から守り、健康を保持増進し、人々に十分な発育をとげさせて肉体的、精神的な能力を完全に発揮させることである。これは、医学から発達した社会学であり、保健、医療、福祉がその3本柱となっている。公衆衛生の実践活動のためには、絶え間ない教育と組織化された地域社会の努力が必要である。

【到達目標】

本講座では、学生は疫学、保健衛生統計学的手法、社会学的手法を用いて問題調査、提起を行い、さらには対策を講じていく過程を学習する。これにより、学生は日々の生活の中で触れる健康情報を評価し、取捨選択を行い、適切な健康行動を取ることが可能となる。

さらに、日本の医療の現状について学び、患者としての適切な受療行動を考える。

また、生命倫理の諸問題について取り上げ、いかに生き、いかに死ぬかについて考えていく。特に終末期医療についての知識を身につけることによって、将来、家族や自分が終末期を迎えたときにどのような医療を受け、いかに死を迎えるかを話し合い、決定する機会を持ち、実施することを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

衛生・公衆衛生学Ⅰに引き続き、各種健康問題について、特に近年社会において注目されている各種保健の問題点について学習する。授業は講義形式で行う。

さらに、疫学の基礎、疫学調査、スクリーニングについての知識を得る。実際にスクリーニングプログラムの評価法を学び、健康診断の意味を考える。また、シラバス上のテーマ以外でも、優先順位を考慮し、重要と思われる話題について、積極的に取り上げていく。衛生・公衆衛生学Ⅰ～Ⅲの内容は若干重複することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	衛生・公衆衛生学概論	衛生・公衆衛生学Ⅱで学ぶ内容を紹介し、学ぶ意義について考える。
第2回	疫学の基礎①	疫学の歴史、各種指標
第3回	疫学の基礎②	バイアス・因果関係
第4回	疫学演習	肺がんと喫煙について、因果関係を考える。 計算問題
第5回	水俣病について	ビデオ鑑賞・感想文提出
第6回	スクリーニング プログラム①	スクリーニングプログラムの条件
第7回	スクリーニング プログラム②	スクリーニングにおける問題点、バイアス
第8回	環境保健	環境と健康
第9回	社会保障	日本の医療制度について
第10回	生命倫理①	医の倫理 医療崩壊 患者と医師の権利と義務
第11回	生命倫理②	安楽死・尊厳死 医療訴訟
第12回	生命倫理③	遺伝子関連問題 遺伝病、色覚異常
第13回	生命倫理④	終末期について 映画鑑賞（死について考える） 感想文提出
第14回	授業内試験	試験を実施し、その後講義全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。授業後に復習を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。参考資料を適宜配布する。

【参考書】

必要な場合には開講時に指定する

【成績評価の方法と基準】

授業内試験を最終講義日に行う。持ち込み不可（90%）。

映画の感想文の提出を平常点として評価する（10%）。

【学生の意見等からの気づき】

大人数の講義のため、騒がしいことがあったが、適宜注意を促して静粛な環境で講義を進められるように努力する。

【学生が準備すべき機器他】

双方向性の講義を試験的に実施するために、SNSが利用可能なPC、タブレット、スマートフォンなどを利用予定である。

【その他の重要事項】

衛生・公衆衛生学Ⅰをあらかじめ受講していることが望ましい。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

The aim of public health is health promotion and disease prevention by fully developing the physical and mental abilities of people to protect them from diseases. This is sociology developed from medicine. Health, medical care, and welfare are the three pillars of public health. Practical activities of public health require continuous education and organizational community efforts. In this lecture, we offer students the opportunity to learn important knowledge on public health to live a healthy life.

SOM300HA

衛生・公衆衛生学Ⅲ

宮川 路子

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

衛生・公衆衛生学の目的は、人々を疾病から守り、健康を保持増進し、人々に十分な発育をとげさせて肉体的、精神的な能力を完全に発揮させることである。公衆衛生の実践活動のためには、人間の教育および社会の努力が必要である。現在、我が国においては、年間の自殺者数が 1998 年から 14 年間連続して 3 万人を超えていた。現在減少傾向であり、2019 年には 2 万人を切ったが、いまだ若者の自殺は横ばい傾向となっており、対策が求められている。また、精神的な問題を抱える人の数は大幅に増加しているといわれている。しかし、これらの人が適切に精神科を受診できていないことが問題視されている。

本講座では、とくに精神関連の話題を取り上げ、メンタルヘルスについての幅広い知識を身につけていくことを目的としている。

【到達目標】

精神疾患についての知識を身につけることにより、学生が自分自身の精神的な安定を保ち、また自分自身のみならず、家族や同僚、友人など、周りの人の状態にも敏感に気づくことができるようにする。
ものの考え方を変えることによって、精神を健康に保つ方法を身につける。
栄養療法によって精神疾患を防ぎ、改善する知識を身につける。
精神疾患の予防（予防、早期発見・早期治療、社会復帰）を目指し、日本社会にはびこっている偏見を取り除くことも目的としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半は ZOOM での開講となる。それにとりまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 23 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。
必要な資料は学習支援システムにアップする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	衛生公衆衛生学概論	ガイダンス
第 2 回	精神保健 メンタルヘルスケア①	生涯にわたる精神保健の必要性について 精神保健福祉とその対策 自殺について
第 3 回	メンタルヘルスケア②	産業保健におけるメンタルヘルスケア 過重労働、過労自殺、過労死
第 4 回	メンタルヘルスケア③	ストレスについて 快適職場について
第 5 回	精神障害①	睡眠障害 よい睡眠をとるために大切なこと
第 6 回	精神障害②	気分障害について うつ病、双極性障害
第 7 回	精神障害③	新型うつ病について
第 8 回	精神障害④	摂食障害について
第 9 回	精神障害⑤	不安障害
第 10 回	精神障害⑥	統合失調症
第 11 回	精神障害⑦	発達障害
第 12 回	精神障害の栄養療法①	精神障害に対する栄養療法の実際について（有効な疾患）
第 13 回	精神障害の栄養療法②	精神障害に対する栄養療法の実際について（サプリメント）
第 14 回	授業内試験	試験を実施し、その後講義のまとめを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
授業後に復習を行う。新聞をよく読む。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

こころの「超」整理法 宮川路子 中央経済社 2012 年
参考資料を適宜配布する。

【参考書】

適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

評価は期末に提出するレポートで行う（100 %）。

【学生の意見等からの気づき】

多人数の講義のため、騒がしいことがあるが、適宜注意を促し、静粛な環境で講義を進めるよう努力する。

【学生が準備すべき機器他】

双方向性の講義を試験的に実施するために、SNS が利用可能な PC、タブレット、スマートフォンなどを利用予定である。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

In Japan, the number of suicide in the year had been over 30,000 for 14 consecutive years since 1998. Although it is currently on a downward trend, many people still lose their lives by suicide. In addition, it is said that the number of people who have mental problems has increased greatly. However, it is regarded as a problem that these people are not appropriately treated by psychiatry medicine.

The purpose of this lecture is to acquire a wide range of knowledge about mental health. Students can aware of their own or their family's mental disorders in the early stage. Students also learn how to be mentally stable by changing the way of thinking and also support it by nutrition therapy.

INE300HA

エネルギー論Ⅱ

北川 徹哉

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

元来、エネルギーは自然を源として自然に帰ってゆくという再生循環の輪の中にあった。再生可能エネルギーという言葉が脚光を浴びるようになったのは、環境問題がクローズアップされ始めた近年のことである。本講義ではエネルギーを環境問題の視点から眺めつつ、開発と導入が進みつつある再生可能エネルギーの仕組みや特徴について、我が国と諸外国での導入状況を比較しながら理解してゆく。

【到達目標】

1. エネルギーと環境問題との結びつきを説明できる。
2. 各種再生可能エネルギーの仕組みを説明できる。
3. 再生可能エネルギーの効率、環境負荷低減効果、課題を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行われる。また、質問は随時受け付ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	環境問題とエネルギー	エネルギーの環境対策と国の方針（電力を中心に）
第2回	再生可能エネルギーの定義と分類	再生可能エネルギーとは、新エネルギーの種類
第3回	水資源	水資源の循環、河川の性質
第4回	水力発電	水力発電の種類と仕組み、落差、中小水力発電
第5回	海水の動きを利用する発電	波力、潮力、潮流・海流による発電
第6回	風と風車	風車のタイプと性能、風がもつエネルギー、発電用風車の仕組み
第7回	風力発電	風況、パワーカーブ、発電量予測、風車と音
第8回	太陽光の特性、太陽光発電に適した物質	太陽光がもつエネルギー、太陽電池セルとシリコン
第9回	太陽光発電の発電量	太陽光発電の仕組みと種類、フィード・イン・タリフ
第10回	太陽光の熱、太陽熱発電	太陽熱の熱利用、太陽熱発電の種類と仕組み
第11回	バイオマス	バイオマスの種類と分類、バイオマスの賦存量
第12回	バイオマスエネルギー	バイオマスエネルギーの利用技術と課題、バイオマスエネルギーの利用事例
第13回	自然の温度を利用したエネルギー	地熱資源と地熱発電、海洋温度差発電
第14回	燃料電池	(B)EV と FC(E)V などのエコカーのバラエティ、燃料電池の仕組みと種類、家庭用燃料電池、水素インフラ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。次の内容を事前に学習しておくこと。第1回：エネルギーのCO₂換算、第2回：再生可能エネルギーの種類、第3～5回：水の高さ・速さとエネルギーの関係、第6～7回：風力発電の時事問題、第8～10回：太陽光・太陽熱利用の時事問題、第11～12回：バイオマス利用の時事問題、第13回：地球内部と海洋の構造、第14回：エコカーの時事問題本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

レポート（50%）：各種再生可能エネルギーの利用方法に関する課題により、主として到達目標2の達成度を評価する。試験（50%）：各種再生可能エネルギーの仕組みや原理、環境問題への貢献などに関する知識を問うものであり、到達目標1～3全般の習得度を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

再生可能エネルギーには話題が豊富です。また、再生可能エネルギーのほとんどは、実は昔からあったということを実感して欲しいと思います。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

The topics in this course contain the fundamentals on resources and their conversions to energy used for power generations, and on the energy demand-supply relationship. Special attention is paid to the electricity generations using renewable resources such as hydropower, wind power, solar power, biomass fuel and geothermal power.

EAE300HA

大気と社会 I

丸本 美紀

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

気象や気候は古代より人間生活に密着したものであり、常に人間生活に影響を及ぼしてきました。「大気と社会 I」においては、人間が住む空間において気候がどのように形成されているのか、気候の構成要素や特性についてと、日本の気象災害の事例を中心に気候や気象の人間社会への影響について学んでいきます。

【到達目標】

1. 気候の構成要素から、日本の気候の特徴を説明することができる。
2. 日本の主な気象災害について、その要因も含めて説明することができる。
3. 日常生活において、どのように気候の影響を受けているのか、功罪両面から考えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は4月24日としますが、しばらくはオンライン授業とし、学習支援システム上で資料を配布します。各自、学習支援システムで情報をこまめに確認するようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	気象・気候の基礎 (オンライン資料 4/10 に講義するはずだった分)	気候・気象と人間の歴史
第2回	日本の気候 1 (オンライン資料 4/17 に講義するはずだった分)	日本周辺の気圧配置と季節による分類、シンギュラリティー、二十四節気七十二候
第3回	日本の気候 2 (オンライン資料 4/24)	気象観測の歴史、日本の気象観測網
第4回	大気の構造	大気の垂直構造、大気大循環、地球の熱収支と水収支
第5回	気候の表現方法	気候要素と気候因子、気候のスケール、気候指数、世界の気候区分、日本の気候区分、平年値と年候、動気候と静気候
第6回	局地風	海陸風、日本の局地風と風害、屋敷林、自然エネルギーへの転換
第7回	生物季節	生物季節観測、桜前線、紅葉前線、温度指数
第8回	春の気象災害	春の天気図パターンとメイストーム(雹、竜巻、ダウンバースト)
第9回	夏の気象災害 1	梅雨の天気図パターンと集中豪雨、やませと冷害
第10回	夏の気象災害 2	盛夏期の天気図パターンと猛暑、干害
第11回	秋の気象災害 1	秋の天気図パターンと台風
第12回	秋の気象災害 2	秋雨前線、霧
第13回	冬の気象災害	冬の天気図パターンと山雪・里雪、局地不連続線
第14回	まとめ	気候風土―人間を取巻く環境としての気候、環境決定論と環境可能論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。天気予報や新聞、インターネットなど身近な気象・気候情報に関心を持っておくようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。随時、プリントを配布します。

【参考書】

荒木健太郎『雲の中では何が起きているのか』ベレ出版
仁科淳司『やさしい気候学：気候から理解する世界の自然環境』古今書院
その他、授業内で随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

レポート(70%)、オンライン課題(10%)授業内のミニレポート+平常点(20%)

【学生の意見等からの気づき】

平常点も成績に反映するようにします。

【その他の重要事項】

旧科目名称「人間環境特論（気流と社会環境 I）」を修得済の場合、本科目は履修はできません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Weather and climate have been influential in the human activity since the ancient times. The human race has been endeavoring to adapt to the changes of weather and climate. In this lecture, we will learn about climatic impacts on the human environment such as the structure of the atmosphere, various climatic features and climatic disasters in Japan.

EAE300HA

大気と社会Ⅱ

北川 徹哉

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大気と社会Ⅰに引き続き、大気と人間、社会、都市との関係について網羅的に学ぶ。大気と社会Ⅱにおいては、大気と人の生活環境との関わりに重点をおいて講義する。

【到達目標】

1. 大気運動による物質輸送と社会との関係について説明できる。
2. 都市独特の気象と大気の動きとの関係を説明できる。
3. 人間生活で利用している気流について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行われる。また、質問は随時受け付ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	大気と人間環境	人の暮らしと大気
第2回	汚染物質の大気拡散	大気汚染物質の種類、広域大気汚染、気温と大気汚染
第3回	ストリートキャニオン	都市における沿道の景観、沿道大気汚染、地形が作る大気環境、大気汚染の環境基準
第4回	ヒートアイランド	ヒートアイランドの性質、都市キャノピー、クールアイランドからの冷氣放出
第5回	クリマアトラスと風の道	ドイツ・シュツットガルトの風の道、気候情報に基づく都市計画・環境計画、風の道をつくるには
第6回	飛砂、風食	地表層土砂の挙動、風紋、飛砂対策、砂漠の拡大
第7回	黄砂の飛来	黄砂の発生源、黄砂の飛来性状と被害、アメリカ・中東・オーストラリアなどのダストストーム
第8回	スギ花粉の飛散	スギ花粉の性質、花粉の観測方法、スギ花粉飛散状況と天候、アメリカ乾燥地域のタンブルウィード
第9回	住居環境と気流（1）	室内で発生する汚染物質、室内にいる人間からのCO ₂ 放出が室内環境に及ぼす影響、換気と通風の違い、換気施設と換気計画
第10回	住居環境と気流（2）	通風による室内環境の変化、人間の代謝と快適感・温冷感
第11回	火災と大気	都市計画法第9条、延焼と市街地火災、火災旋風（ファイヤー・トルネード）、火災の熱と大気
第12回	鉄道・自動車と大気	車両の形と輻射、強風による交通マヒ・事故、鉄道の運行規制とその発動回数減少のための対策、高速鉄道のトンネル微気圧波
第13回	農作物と大気（1）	受粉と気流、光合成と大気、気流による農作物の倒伏、飛来塩分による塩害
第14回	農作物と大気（2）	地域独自の気候特性を利用した農業、霜害とその防止、気温逆転層

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。次の内容を事前に学習しておくが良い。第1～3回：大気汚染物質の種類、第3～5回：都市の気候、第6～8回：砂粒子の大きさや形、第9～10回：屋内の空気管理、第11回：地震の2次災害、熱の種類、12回：列車や自動車の形状・構造、第13～14回：地域の気候本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

レポートによる平常点評価（100％）：知識を得るためだけでなく、作業を経て身につけるような内容を含むレポート課題（2、3回程度）を通じ、到達目標1～3の習得度を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

大気と人の生活に関する様々な話題を取り上げますので、楽しんで受講してください。
旧科目名称「人間環境特論（気流と社会環境Ⅱ）」を修得済の場合、本科目は履修はできません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

The atmosphere is closely related to human life and social systems such as industries and transportations, and it is important for us to study its characteristics so as to save the human life and society from disasters/sickness, and to create better urban/regional environments. In this course, firstly, we learn about various types of air-transport phenomena such as air pollution, heat island, dust stream and sand drift. Secondly, the ventilation of indoor air is focused on because it causes the pollution contaminant advection and remains the room environment safe and comfortable. Furthermore, the spread of the fire in city and the train/vehicle accidents due to strong winds are studied, which are closely related to disaster prevention and human-life protection.

PHY200HA

サイエンスカフェⅣ

渡邊 誠

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：物質とエネルギーの理解から環境問題へ

本科目は文系の皆さんに物理学という分野の内容について慣れ親しんでもらうための科目である。日常のありふれた現象を眺めることにより、物理学は、(1) 我々の生活に密接に関連していること、そして (2) 環境問題に直結しその本質的なところを理解するためには必須の内容であること、を「直感的に」学んでいく。物理嫌いの人や高校で物理を履修してこなかった人の受講を大歓迎する。もちろん物理を学んできた人も同様である。高校で習うような（難しい？）式を扱うことはほとんどしない。環境問題を考えるには「地球」というシステムとそこで行われている人間活動「人為」の特徴を「自然法則」に照らして理解する必要がある。この授業の目的はその3つの内容を理解するための基礎的事項を学習することにある。

【到達目標】

物質とエネルギーに関する内容について、物理学的な知識が環境問題を考察するための基礎であることが理解できるようになることを目標とする。なお授業内容に関係する分野は、運動と力・エネルギー、物質と熱現象、気体、波動、電流と回路、電界と磁界、原子と原子核などであり、高校物理の内容をほぼ網羅するものとなっている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半は学習支援システムなどを利用しての開講となります。本授業の開始日は4月24日とします。各回の授業内容およびその他の連絡事項等は学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容の説明を行う。なぜ物理は環境問題を考察するための基礎となるのか？
第2回	物体の運動とエネルギー1 (落下するボールの運動と力学、シミュレーション付)	運動の法則と何か？ エネルギーとは何か？ 位置（高さ）と運動（速度）の間のエネルギー変換について。
第3回	物体の運動とエネルギー2 (振り子運動・放物運動と力学、シミュレーション付)	エネルギーは保存される。ジュール(J)、ワット(W)などの基本単位の超入門。人間はエネルギー的に約100Wの電球と同じ、など。
第4回	熱とエネルギーを理解しよう1 (エネルギーの種類と変換、地球に降り注ぐ太陽エネルギーの大きさを測る)	異なった形態のエネルギーと変換について。温度とは？ 比熱とは？ cal と J について。太陽定数の大きさと地球-宇宙の間のエネルギー収支を知ろう。
第5回	熱とエネルギーを理解しよう2 (気体の性質、エンジンなどの熱機関の原理を理解する)	気体の圧力、体積、温度などの関係(ボイル・シャルルの法則)を理解する。気象現象の考察。熱機関(熱から仕事への変換)と熱効率について。
第6回	熱とエネルギーを理解しよう3 (熱の伝わり方を見る、金属棒を伝わる熱+空気の流れにより伝わる熱+電気ストーブによる加熱)	伝熱の3形態「熱伝導」「対流」「熱放射」を理解する。地球システムと熱との関係は？ 人間活動と熱との関係は？
第7回	物質の三態と状態変化を調べよう1 (氷の融解・水の蒸発と潜熱、地球上に存在する水の役割について)	物質の三態(液体、固体、気体)の存在を理解する。状態変化に伴って出入りする潜熱の測定。地球上における水の大循環の役割は？ 生命体維持における水の役割は？
第8回	物質の三態と状態変化を調べよう2 (水の密度と膨張率+氷の密度と浮力、氷の融解現象について)	水の温度と体積との関係を理解する。水に浮かんだ氷の融解に伴う水位の変化を調べる。海水温の上昇は海面上昇に関係しているのか？ 氷山の融解は海面上昇の原因なのか？

第9回	波の性質を知ろう (横波と縦波を観察する、自然の中に現れる様々な波を調べる)	横波と縦波、周期と振動数(周波数)、波長と振幅、波の重ね合わせなどの基礎事項を理解する。音や光の性質などの考察。地震波や海波などの理解。
第10回	電気回路の性質を調べてみよう (電流、電圧、抵抗の超入門、抵抗線を通る電流による熱発生(ジュール熱)について)	乾電池、導線、抵抗などによる回路作りとオームの法則、キルヒホッフの法則などの理解。抵抗率とは？ 電力系統網における送電ロスに熱に転化する。
第11回	磁石を使って電気を作ろう&電池を使って磁石をつろう (電界と磁界について、モーターと発電機の原理を知る)	モーターのしくみを理解する。電磁誘導と発電の原理を理解する。電磁波とは何か？ 可視光線、赤外線、紫外線、電波、X線などは電磁波の仲間。
第12回	原子・分子を理解しよう (原子の構造とエネルギー、核分裂と原子力発電のしくみについての超入門)	原子核と電子、中性子と陽子、放射線と放射能、Bq(ベクレル)とSv(シーベルト)などについての解説。原子力発電とウラン、セシウム、プルトニウムなどについて。
第13回	物質・エネルギーの保存則と拡散則を知ろう1 (水と湯の間の熱移動+水中に落とされたインク拡散などの現象からエントロピーの概念へ)	熱は高温側から低温側へ、インクは部分から全体へ拡散する。物質とエネルギーの「量の保存」と「質の劣化」の直感的理解。
第14回	物質とエネルギーの保存則と拡散則を知ろう2 (LED電球と白熱電球の熱発生について)	なぜLED電球は白熱電球に比べて省エネなのか？ エネルギー変換にはロス(損失)が伴う。エネルギーの最後の行き場は「熱」。人間活動のエントロピー的解釈超入門。総括として、物理学と環境問題および持続可能という概念との関係性について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。毎回、授業時に作成したノートを復習してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。必要に応じてプリントなどを配布します。

【参考書】

開講時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半が学習支援システムなどでの開講となったことにもない、現段階では成績評価の方法と基準については、出題されるレポートの提出状況(充実度)など100%、とする予定です。変更がある場合にはその詳細について後日学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】

授業をゆっくりに進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

様々な現象についての教材や実験のデモンストレーションをプロジェクターに映しながら進めていきます。

【その他の重要事項】

くれぐれも「自分は理系でないからこの科目を履修しない」という考え方をもちないでください。この科目には環境問題を学ぶ上で必要な内容がたくさんあります。文系の皆さんにこそ履修してほしいと考えています。この科目は「環境モデル論 I」「環境モデル論 II」に関する基礎としても位置づけられています。環境問題の学習をより発展させていくためにもそれらを履修することをお勧めします。「自然環境科学の基礎(物理学)」を修得済の場合、本科目の履修はできません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Theme: Physical fundamentals for energy and materials
In this course we learn fundamentals of physics. Features concerning energy and materials will be clarified with relation to environmental problems on the earth. The following themes will mainly be examined: the law of motion, the concept of energy, the units of energy and power, energy conversion, energy balance on the earth, heat and its capacity, the three states of substances, molecular dynamics for gases and liquids, thermal engine and the heat efficiency, thermal expansion of liquids and solids, the mechanism of thermal transference (conduction, convection, and radiation), phase transition among three states (melting, boiling, and sublimation), fundamentals of wave phenomena, electric circuit, magnetism and electricity, the structure of atomic nuclear and energy, the fission and radioactivity, the first and the second law of thermodynamics, etc. They are instances lectured in this course.

ENV200HA

環境モデル論 I

渡邊 誠

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：環境基礎論として「地球」と「人為」を考える
 モデルとは自然界や人間社会などで起きている現象、そこに働いている法則、様々な対象間の相互関係等を分析しそのエッセンスを人間にとって分かりやすく表現したものである。環境問題を考察するには、地球システムと人間活動の特徴を理解しそれらの関連性を分析することが必要である。地球上に生起する環境問題はどのような自然法則に支配されて（制約を受けて）いる結果なのか？ 本科目では物質とエネルギーという観点から「地球システム」と「人為」の特徴を把握し、それらを「定常開放システム」としてモデル化する。ライフサイクルアセスメントやエコロジカルフットプリントなどの具体的な指標（手法）についても触れることにより人間活動の特徴を調べていく。本科目の内容を通して眺めてみると、物質とエネルギーは量的に保存されるが質的に劣化する（空間的に拡散する）という特徴を意識することが環境問題を考察するための「鍵」となっていることが理解されるであろう。本科目は「物質循環」や「持続可能」という問題を科学的に捉えるための基礎という位置づけにもなっている。

【到達目標】

本科目は環境問題を考察する上での基礎学であり深く環境を学ぼうとする学生にとっては必須の内容であると思われる。地球システムとその上で行われている人間活動の特徴を科学的に考察するための背景を知ることが目標である。次の「授業計画」で述べている内容は少し難しい表現もあるが、それも履修しているうちに大分理解できるようになるであろう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半は学習支援システムなどを利用しての開講となります。本授業の開始日は4月24日とします。各回の授業内容およびその他の連絡事項等は学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容の説明について。関連する他の科目（サイエンスカフェ IV、統計とデータ分析、環境モデル論 II など）の概要と本科目との関連性についての解説。
第2回	玩具「水飲み鳥」はどのようなモデルなのか？	資源として「水」を飲み、排出物として「水蒸気」を大気中に拡散させる水飲み鳥の運動のメカニズムについて。水という物質の「量の保存」と「質の劣化」についてのイメージをつかむ。そこには地球システムならびに人間活動の特徴が凝縮している。孤立系と開放系そして定常とは？
第3回	地球というシステムを眺める（宇宙から微生物までを考える）	太陽と地球そしてエネルギーを概観する。太陽定数と地球のエネルギー収支。光合成のメカニズムと炭水化物（糖）。生態系と炭素・窒素などの物質循環。水の大循環と地球の放熱。生物（生産者、消費者、分解者）は物質循環に対してどのような役割を担っているのか？
第4回	物質と人為を考える（人間活動による物質とその移動について）	工業製品等の生産とその消費活動のプロセスを例にして、資源の採取から廃棄処分に至る過程を考察する。物質はどのように変化し最後はどこに行くのか？ 廃棄物を焼却処理すると減容化するが、はたして物質は消えて無くなったのか？
第5回	エネルギーと人為を考える（人間活動によるエネルギーの変化とその移動について）	エネルギー資源の採取から変換、利用に至るプロセスを考察する。エネルギーはどのように変換され、最後はどこに行くのか？ エネルギーは消費されると消えてなくなるものなのか？

第6回 自然の法則と環境1

熱力学の第一法則、第二法則の文系版・超入門。これらの法則は「地球システム」、「人為」とどのように関係しているのか？ エントロピーとは何か？ エクセルギーとは何か？ 環境系のモデルとしての定常開放系について。熱力学の第一法則、第二法則の文系版・超入門。エントロピーが増大するとはどのようなことか？ ゴミ捨て場はエントロピーのたまり場。エントロピー増大の結果としての環境問題について。

第7回 自然の法則と環境2

第8回 ライフサイクルアセスメント（LCA）に見る人為の熱力学1

人間活動の特徴をLCAの立場から考察する。ライフサイクルとは何か？ インベントリ分析、システム境界などの解説。物質・エネルギーの保存則と拡散則はLCAではどのように表現されているか？

第9回 ライフサイクルアセスメント（LCA）に見る人為の熱力学2

製品やサービスに対する環境影響評価の具体例を用いて考察する。資源採掘、加工・変換、運搬、消費（使用）、廃棄、回収、処分などのプロセスと物質・エネルギーの流れについて。人間活動による環境負荷の大きさをエコロジカルフットプリント指標で測る。資源消費・廃棄物等排出の量と土地面積への変換について。野菜の室内栽培（野菜工場）の環境負荷はどれくらいなのか？ 露地栽培とはどちらが負荷は少ないのか？

第10回 エコロジカルフットプリントで環境負荷の大きさを測る1

人類のエコロジカルフットプリントの増大と地球の扶養力について。地球は今そこで行われている人間活動を支え扶養する力（容量）を持っているのか？

第11回 エコロジカルフットプリントで環境負荷の大きさを測る2

資源量と廃棄物を受け取る空間の有限性（地球の有限性）と成長の限界について考察する。自然界における物質循環と人工的な物質循環の考察。クロズド・ループ・インダストリは存在するのか？ ゼロエミッションは可能なのか？ そもそも永久機関は存在するのか？ エントロピー増大則に伴う人為の「壁」について。

第12回 持続可能性への考察1

玩具「水飲み鳥」再登場。広い空間では動き続ける水飲み鳥だが、狭い空間に置くと動きが止まる。狭い空間で動きを持続させる方法はあるのか？ エントロピーの増大と廃棄、そして循環と持続の考察へ。環境系のエッセンスを分析しモデル化する。

第13回 持続可能性への考察2

講義内容をまとめ、参加者による総合討論を行う。

第14回 総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。毎回、授業内容を復習してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。必要に応じてプリントなどを配布します。

【参考書】

開講時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半が学習支援システムなどでの開講となったこととない、現段階では成績評価の方法と基準については、出題されるレポートの提出状況（充実度）など100%、とする予定です。変更がある場合にはその詳細について後日学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】

授業をゆっくと進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

くれぐれも「自分は理系でないからこの科目を履修しない」という考え方をもちないでください。この科目には環境問題を学ぶ上で必要な内容がたくさんあります。文系の皆さんにこそ履修してほしいと考えています。本科目は「環境モデル論 II」とは独立した科目ですが、内容的に関連していますので合わせてその科目を履修することをお勧めします。また本科目に関する基礎的位置づけとして「サイエンスカフェ IV」ならびに「統計とデータ分析」があります。もちろんこれらも独立した科目ですが理解度をより高めるためにはそれらも履修することもお勧めします。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Theme: Introduction to modelling of the earth system and human action
Aim of this course is to acquire the basic knowledge concerning environmental problems and sustainability of the earth. The scientific approach is schemed with thermodynamics. In order to consider the problems, we need to understand the mechanism of the earth system including energy balance and material circulation on it. Feature of human action is required to be examined with relation to natural law on it.

This course mainly deals with the matter “energy and materials” which is analyzed through the law of thermodynamics appeared in the field of physics. We formulate the nature of the energy conversion and flow of materials on the earth. The earth system is modeled as one of the stationary-open systems. The techniques of the life-cycle assessment and the ecological-foot print are introduced here. In this course, we recognize that the concept is important for the first law of thermodynamics as energy conservation and the second one as quality consumption (i.e. entropy increment). This is valid not only for energy phenomena but also for material ones.

ENV200HA

環境モデル論Ⅱ

渡邊 誠

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：環境基礎論として「共生」と「持続」を考える

本科目では持続可能とは何か？という問題を自然科学的な観点からより具体的に考えることをテーマとする。対象となる系が持続するという事は、システムの時間経過に対する不変性（安定性）を意味するものである。その問題を考察するためには対象系の状態遷移の様子（時間発展、ダイナミクス）を調べることがひとつのアプローチとなる。本科目では、例えばウサギとヤマネコのような喰う者喰われる者の関係性をもとに個体数変動のシミュレーションを（EXCELを使用して）体験する。それにより自然界が持っている「持続」のメカニズムを理解する。またこれに伴い「共生」することの意味についても考えていく。このほか、自然界において観察されている幾つかの現象や具体例を眺めてみることでより定常開放システムが持続していくための条件等を探ることとする。このため比較的容易に理解できるシステムダイナミクス（SD）手法を習得し様々な系のダイナミクスをシミュレーション体験する。フィードバック機構とその役割、時間遅れの影響などについて理解を深める。さらには持続可能性というテーマに対してエントロピー増大則などを含めた熱力学的考察をおこなう。

【到達目標】

本科目は環境問題を考察する上での基礎学であり深く環境を学ぼうとする学生にとっては必須の内容であると思われる。自然界で観察されている幾つかの現象を再現しそれを分析する力を身につけることを目標としている。またエントロピーの概念を習得し、物質循環などの問題に結び付けて考察ができるようになることも目標のひとつである。次の「授業計画」で述べている内容は少し難しい表現もあるが、それも履修しているうちに大分理解できるようになるであろう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

理系の内容が苦手だと思っている学生にこそ理解してもらえるような授業としたい。情報教室を使用するが、特に EXCEL を利用することが多くなる。授業では、ほぼ毎回 EXCEL についての演習を行う時間を設ける予定である。EXCEL をより高度利用したいと考えている方にとっても有意義な内容となるであろう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容の説明と受講者の決定について
第2回	情報教室の利用のしかた	情報実習室環境の説明と各種ソフトウェア+ネットワークの利用のしかたについて
第3回	EXCELラーニング	表計算機能、グラフ機能、データベース機能の使用法を習得する。
第4回	成長の限界1	ローマクラブ「成長の限界」(1972)と世界モデルの紹介。人口、食糧、工業生産、資源消費量などの成長とその限界について。幾何級数成長（指数関数的成長）のメカニズムを銀行預金、利子返済などの簡単な例で体感する。
第5回	成長の限界2	細菌増殖モデルとそのシミュレーションについて。限られたスペースで増殖する細菌の増殖曲線（S字型曲線、ロジスティック曲線）にこめられた成長と限界のメカニズムの分析。細菌数増加と残されたスペース（栄養）の減少との関係について。
第6回	成長の限界3	捕食者と被食者（例えばウサギとヤマネコ）に関する個体数変動のダイナミクスについて。ロトカ・ヴォルテラによる捕食と被食（2体）の競合関係と正・負フィードバックの効果の分析。自然界が持っている持続性のメカニズムを解析する。
第7回	成長の限界4	捕食者と被食者の関係の拡張としての多体間の個体数変動のダイナミクスについて。3体、4体間の競合と持続性を解析する。

第 8 回	システムダイナミックス (SD) 入門 1	様々な問題の構造とその分析、原因と結果の因果関係の分析、シナリオの描画、モデルの検証などについて。SD で使用される記号とフローの描き方。レベル (ストック、状態) とレート (流量)、フロー (流れ)、情報、コンバータ、ソース、システム境界等の概念と計算手法の習得について。
第 9 回	システムダイナミックス (SD) 入門 2	具体例をもとにして SD 計算を EXCEL 上で体験する。正と負のフィードバック (因果関係) ループの理解。その構造がシステムに与える影響 (効果) を調べる。それにより「持続する」を考察する。
第 10 回	複雑系の世界 1	複雑系とカオス理論について。決定論と確率論、初期値敏感性 (バタフライ効果) と予測 (不) 可能性、ロジスティック写像とリターンマップなどの理解。決定論カオス (非線形力学) と環境問題との関係性を考察する。
第 11 回	複雑系の世界 2	複雑系とフラクタルについて。自己相似性、フラクタル次元などの理解とグラフィックスによる描画。自然界においてフラクタル構造はなぜ出現するか? などを考察する。株価の変動、地震のエネルギーなどもフラクタル分布。
第 12 回	エントロピーの概念について	情報理論の紹介。情報量とエントロピーの概念、情報の価値・役割と確率について。エントロピーが最大になるとはどのような事か? エントロピーの直感的理解について。持続するという事との関係。
第 13 回	総括 1	本科目で見えてきたダイナミックスの特徴を熱力学的側面から浮き彫りにする。フィードバックと時間遅れ、多体間の競争・競合、非線形力学等のメカニズムとエントロピー論との関連性について。
第 14 回	総括 2	ローマクラブ「成長の限界」(1972)、「限界を超えて」(1992)、「成長の限界 人類の選択」(2004) をどのように読むか? ナチュラル・ステップ「ナチュラル・チャレンジ」(1998) の言う持続可能な社会のための条件をどのように解釈するか?

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。毎回、授業内容を復習してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

テキストは使用しません。必要に応じてプリントなどを配布します。

【参考書】

開講時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

受講時の積極性 50%、最終授業時に出席するレポートの充実度 50%。

【学生の意見等からの気づき】

授業をゆっくりと進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

授業では毎回情報教室を利用します。受講にあたっては皆さんのパソコン経験の有り無しは問いません。

【その他の重要事項】

くれぐれも「自分は理系でないからこの科目を履修しない」という考え方をもちたないでください。この科目には環境問題を学ぶ上で必要な内容がたくさんあります。文系の皆さんにこそ履修してほしいと考えています。本科目は「環境モデル論 I」とは独立した科目ですが、内容的に関連していますので合わせてその科目を履修することをお勧めします。また本科目に関する基礎的位置づけとして「サイエンスカフェ IV」ならびに「統計とデータ分析」があります。もちろんこれらも独立した科目ですが理解度をより高めるためにはそれらも履修することもお勧めします。本講義は受講者多数の場合、初回授業にて選抜または抽選を行います。受講を希望する方は、必ず初回授業に出席してください。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Theme: Introduction to system dynamics and sustainability studies with computer simulation

In this course we execute computer simulation for dynamical systems with interaction. Personal computers with software EXCEL are used in a computer-practice room. Object of this course is to examine the conditions which realize the stable state for dynamical systems. By means of the simulation studies, we clarify the mechanism of sustainability for feedback systems. For instance we practically examine the population change of rabbits and wildcats in forest for a model system with the prey-predator relation. The symbiotic relationship is studied for the systems.

GEO200HA

自然災害論

杉戸 信彦

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

【Outline and objectives】

Natural phenomena that cause disasters have occurred repeatedly, and will also occur in the future. We have to improve our approaches in all aspects for building resilient and sustainable societies. We examine sciences of natural disasters caused by earthquakes, tsunamis, volcanic eruption, heavy rain, and slope failures, and then discuss land use, social infrastructures, use of disaster information, evacuation, hazard map, and education, for reducing natural-disaster damages.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

災害をもたらす自然現象をなくすことはできない。リスクに配慮した防災力の高い持続可能な地域社会の構築に向け、多角的なアプローチが求められる。「いつ」「どこで」「何が」起こり得てその地がどうなるのか。人間社会は「その時」にどう備えるか。実例やメカニズム、リスクを検証し、災害の自然的・社会的背景をさぐる。

【到達目標】

自然災害リスクを決定づける要因を説明できる。
災害の実例を挙げ、その特徴を自然・社会の両面から具体的に記述できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式。図上作業を授業時間内に2度実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	自然災害と防災	自然災害とは、自然災害リスク、防災とは
第2回	土地条件評価	地形、表層地盤、土地条件に関する情報
第3回	地震発生予測	地震とは、地震の起こる場所、地震発生繰り返しモデル、長期評価
第4回	地震災害の諸相（1）	地殻変動、地震動、液状化
第5回	地震災害の諸相（2）	地震火災、津波、津波火災
第6回	火山災害の諸相	活火山の分布、火山噴火とは、火砕流、山体崩壊、溶岩流、噴石、火山灰
第7回	気象災害の諸相	降水量とその季節性・地域性、豪雨と積乱雲、台風、高潮、大雪
第8回	土砂災害の諸相	斜面崩壊（表層崩壊・深層崩壊）、地すべり、土石流
第9回	土地利用と社会基盤（1）	災害危険区域、津波災害警戒区域、防潮堤、かさ上げ、高台移転
第10回	土地利用と社会基盤（2）	耐震基準と耐震等級、活断層の直上とその近傍
第11回	防災気象情報	災害種と予測可能性、伝達手段、特別警報、気象警報・注意報、緊急地震速報、津波警報・注意報、噴火警報・注意報
第12回	避難	避難情報、避難場所、避難所
第13回	災害の歴史・災害経験の継承	記録と記憶、災害史、碑、震災遺構
第14回	ハザードマップと防災教育	ハザードマップとは、想定、災害図上訓練（DIG）、津波と避難、学校、地域

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して予習・復習をする。
自然災害と防災に関わる時の話題や映像等に積極的に触れる。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布

【参考書】

授業中に紹介

【成績評価の方法と基準】

図上作業（20%）と期末試験（80%）。図上作業は、作業への取り組み状況等をもとに評価する。期末試験においては、(1) 自然災害リスクを決定づける要因を説明できるか、(2) 災害の実例を挙げ、その特徴を自然・社会の両面から具体的に記述できるか、を問う。

【学生の意見等からの気づき】

知識と基礎力に加え、応用力や思考力をより涵養すべく、詳しく具体的な説明を心がけます。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

DES300HA

自然環境論Ⅳ

中井 達郎

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講semester：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たち人間は、自然環境に取り巻かれ、それを基盤にして生存し、生活しています。しかし、近年さまざまな原因により自然環境が劣化し、人間社会への悪影響が生じています。この授業では、そのような自然環境の劣化の現状を知り、その原因を考えます。さらには自然環境保全の必要性とそのための方策を考えます。そして自然環境保全のためには、生態学、地生態学などの自然科学のみならず人文・社会科学も含むさまざまなアプローチから、また身の回りの身近な地域レベルから地球規模までの幅広い視点から理解しようとすることの重要性を学び、人と自然との望ましい関係を考究することを目的とします。

【到達目標】

以下の4点について知識と理解を深め、その要点を説明できることを目標とします。

- ①環境保全のための基本概念である生態系
- ②生物多様性保全とそのための方策
- ③地域レベルから地球規模レベルまでを関連づけて総合的とらえることの重要性
- ④持続可能な自然利用の重要性とそのための方策

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

「生態系」、「社会変化と自然環境」、「生物多様性保全」、「地域での自然環境のとりえ方」、「持続可能な自然利用とそれを基本とした社会」などについて、国内外の実例やエピソードを交えたプレゼンテーションにより学びます。自然科学的視点と人文・社会科学の視点を含む総合的かつ論理的な理解とそれに基づいて、自然とのつきあい方を考える能力を高めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	「環境」とは？ 自然環境保全とは？	「環境」とは何かを整理、認識した上で、現代社会で大きな課題となっている環境問題、自然環境保全の内容とその根底に共通する「持続可能性」についての議論を行う。
第2回	生態系とは：循環と関係性	自然環境を理解し、また地球環境問題や公害問題も含む環境保全全般において重要な基本概念である「生態系」について解説する。
第3回	生物多様性 (biodiversity) とは？	自然環境保全において重要なキーワードである「生物多様性」について解説する。そして生物多様性を保全することが、自然環境保全に根幹にあることを示す。
第4回	生物種の多様性の危機	近代から現代にかけて、急速に進行する生物種の絶滅、それは生物多様性の危機である。その現状を解説する。
第5回	生態系の多様性・地域の多様性	生物多様性保全において、地域生態系の多様性を保全が極めて重要である。地域生態系の多様性を成立させている空間的、時間的背景を含めその保全の重要性を解説する。
第6回	人間と自然のかかわりから見た生態系の多様性・地域の多様性	地域の生態系の現状を把握し、その保全を図る上で、人間と自然のかかわりの状況から捉える視点が必要である。その重要性について解説する。
第7回	里やまと生物多様性（1） 里やまととは	近年、生物多様性保全の視点から注目されている「里やま」について解説する。
第8回	里やまと生物多様性（2） 人間活動が維持する生物多様性	「里やま」における伝統的自然利用とそれが生む生物多様性について紹介するとともに、持続可能な自然利用のありかたを考える。
第9回	都市の自然：自然環境・生物多様性の回復をめざして	すでに劣化してしまった都市の自然について、そのような場所における生物多様性の「回復」の必要性と活動の事例を紹介する。

- 第10回 サンゴ礁に見る地球環境保全と生物多様性保全
(1)：サンゴ礁の生物多様性
授業担当者の専門であるサンゴ礁の自然と人間のかかわりを紹介する。まず、サンゴ礁生態系の構造と生物多様性について解説する。
- 第11回 サンゴ礁に見る地球環境保全と生物多様性保全
(2)：地球温暖化とサンゴ礁
現在世界各地のサンゴ礁は人為的インパクトによって劣化している。サンゴ礁保全を通じて、地域レベルの生物多様性保全の解決は地球規模の生物多様性保全・環境保全につながることを学ぶ。
- 第12回 人間にとっての生物多様性：なぜ自然環境保全が必要か？
これ以前の授業でも折に触れて言及する「人間にとっての生物多様性」の必要性について整理を行った上で、どのような保全が目指されているか、生物多様性条約などについて学ぶ。
- 第13回 生物多様性保全の方法としての地域計画
国立公園や世界自然遺産を含む自然保護区は、生物多様性保全のための地域計画といえる。その基本理念と実践例を概観する。
- 第14回 自然環境保全と持続可能な自然利用を基本とする社会にむかって
自然環境保全・生物多様性保全のゴールは、持続可能な自然利用を基本においた社会形成であると考えられる。それは現在関心が広がっているSDGsなどが目指す社会変革と関連をしている。近年の議論と今後の展望について検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。日頃接するメディアや日常生活において、自然環境に関わる情報や科学的な話題などに関心を払うよう努めます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】

講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価します（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

知識の羅列と詰め込みにならないよう、重要な点を強調し、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

【その他の重要事項】

本講義は応用的内容を含みますので、基礎的な知識や理解として自然環境科学の基礎（生態学）（春期）を受講しておくことが望ましいです。保全のための政策について学習したい人には自然環境政策論Ⅰ（春期）及びⅡ（秋期）を併せて受講することを勧めます。また講義改善や理解促進の目的で、毎回リアクションペーパーを提出してもらいます。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は、日本を代表する自然保護団体である（公財）日本自然保護協会において30年以上にわたり、研究部長、理事、参与などとして、日本の自然保護問題に携わってきた。具体的には、日本で最初のレッド・データブックの作成、沖縄のサンゴ礁保全問題（白保・辺野古）、河川保護問題（長良川・千歳川）、小笠原問題など。その経験に基づき、授業を展開する。

【Outline and objectives】

Human beings are surrounded by the natural environment and our life is supported by its natural environment. However, due to various causes in recent years, the natural environment has deteriorated. And the environmental degradation has a bad influence on human society. In this class, we will learn the current situation of such natural environment degradation and reveal the cause. Furthermore, we discuss the necessity of natural environment conservation and measures for that. These discussions include social scientific approaches as well as natural scientific approaches. It also includes the spatial scale from the local level to the global level. Through such various perspectives, we aim to consider the desirable relationship between human beings and the natural environment.

ENV300HA

公害防止管理論 I

大岡 健三

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座では水質汚濁防止の基本手法を学ぶ。湖沼、河川、海および地下水に関するさまざまな環境問題についても学び、メインの排水処理技術に加えて、環境法の実務知識もマスターする。企業経営や環境行政、海外活動で環境の知識は不可欠であるが、社会で役立つ実務知識を本講座で習得することができる。

公害防止管理者の国家資格を得るのに役立つ基礎知識の解説をするが、国家試験を受験しない文系学生も興味深く学ぶことができる授業内容とする。

授業では、水質汚濁メカニズムや水環境の保全策などを学び、物理化学・生物学的な排水処理技術のスキルを習得する。本講座の受講により、国家試験や民間の環境検定の受験に役立ち、企業や行政の環境担当者によって日常使用される BOD/COD など技術用語や環境管理の基本が理解できるようになる。

【到達目標】

新聞や TV などマスコミ報道でよく耳にする環境キーワードが十分理解でき、環境系学部卒にふさわしい水環境の原理原則をマスターする。環境汚染の実態および物理化学処理などの浄化処理技術を基礎から習得する。汚れた廃水が無色透明に浄化できるプロセスなど浄化手法の理解に加え、米国の環境科学の知見や汚染事故、海外情報なども学び、国際レベルで環境問題を思考できるレベルを目指す。

実社会で役立つ環境技術と法令の実務スキルの理解を深める。さらに、公害防止管理者国家試験（公害総論や水質概論など）や ECO 検定等の水環境に関する問題を解く訓練も時々行い、授業終了段階では環境の専門用語や基本概念を問う基本レベルの問題が解けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回教材を配布してパワーポイントで説明する。必要に応じて映像を利用。各論では、講師が国内外で取材した産業公害の事例、有名企業の汚水処理の実態、有害物質規制の概要、汚染メカニズム、環境分析等を解説する。水質浄化技術を学ぶことによって水に関する環境保全手法を習得する。

テーマは 1 回の授業でなるべく完結させるので、欠席しても次回授業がスムーズに理解できるようにする。難解かつ苦手なテーマは何度も説明して理解できるようにする。毎回学生のコメントや要望などを聞いて次回講義になるべく反映する。なお成績評価は、授業内に行う簡単な小テストと平常点で行う。

【春学期の少なくとも前半はオンライン開講となる。授業計画の変更は、学習支援システムでその都度提示する。教材をアップするので授業開始日は 4 月 24 日を予定。】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	講座全体の概要 地球温暖化と水環境、廃棄物問題、ベトナム、マレーシア、ネパール、ブルネイ及び米国・欧州の環境事情など	当講座の概要と授業方法について説明。国内外取材の映像などを見て、環境汚染、浄化対策及び公害防止の側面から評価分析する。
第 2 回	環境基本法と法体系、水質環境基準	環境基本法の概要を中心に関連法の体系、水質環境基準について解説する。公害防止者管理法等の各論についても触れる。
第 3 回	水質汚濁防止法と排水基準	水質汚濁防止法に関する概説と排水基準など企業が実際に遵守すべき法令の具体的解説。
第 4 回	日本の水質汚濁の現状と原因 主因は工場排水ではない	水質汚濁の現状を眺め、大気や土壌・廃棄物由来の水質汚濁はどのように起こるのか、事例を中心に検討。
第 5 回	水質汚濁の種類と発生メカニズム、地下水汚染とは何か？	水質汚濁には、生活上問題になる物質と健康に有害な物質がある。河川や地下水汚染の発生メカニズムを理解する。
第 6 回	物理化学的処理法 1 凝集沈殿	汚水処理計画及び工場排水を浄化するための凝集沈殿など物理化学的処理法をわかりやすく解説。
第 7 回	物理化学的処理法 2 浮上分離、ろ過など	工場排水を浄化するための傾斜板、浮上分離、ろ過などの原理を学ぶ。マイクロバブル手法など最新技術にも触れる。
第 8 回	化学的処理法、酸化還元、膜分離の基礎	化学処理法を学ぶ。pH 調整、酸化還元の原理、膜分離などの基本知識及び逆浸透 RO 等最新技術も解説。

第 9 回	生物処理法 1 概要と基礎	排水を浄化するためのエアレーション、好気性微生物を利用する生物処理法の基礎を学ぶ。
第 10 回	生物処理法 2、好気嫌気処理及び汚泥の脱水技術	好気性微生物と嫌気性微生物を利用する生物処理法を解説。各種処理法によって生じる余剰汚泥の脱水技術も学ぶ。
第 11 回	高度処理法、活性炭処理等	排水を浄化するための活性炭利用など高度な処理法および最新技術を応用した処理法について学ぶ。
第 12 回	処理装置の維持管理	物理化学的処理の維持管理。活性汚泥処理の維持管理など実務面の知識。
第 13 回	水質管理のパラメータと水質測定の基礎	BOD/COD、pH、DO 溶存酸素などの知識の整理。試料採取など水質測定の基礎。水質汚濁物質などの復習とまとめ。
第 14 回	環境法令など授業の復習と最終テスト	授業の要点復習および最終テスト実施（問題は主に簡単な選択問題）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。

Web 公開されている公害防止管理者等国家試験の過去問を授業中に時々使用することがある。国家試験受験希望者は市販の書籍（産業環境管理協会発行）またはインターネット検索により自主的に予習復習することが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用せず、毎回プリントを配布

【参考書】

「新・公害防止の技術と法規 水質編」

「公害防止管理者等国家試験問題 正解とヒント 水質」

「図解公害防止管理者国家試験合格基礎講座」

上記 3 冊の発行所 （一社）産業環境管理協会

【成績評価の方法と基準】

授業終了後にリアクションペーパーを提出し、その記載内容を評価する (30%)。最終試験及び小テスト (70%) と合わせて総合点で判定する。60 点以上が合格。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の質問や意見を適宜提供してもらい可能な限り次回授業に反映させる。物理化学など理系の基礎知識や履修歴がない受講者も十分理解できるように授業を進める。

【その他の重要事項】

高校で物理や化学などの教育を受けていない文系学生を対象に授業をする。過去に経済・経営・法学など他学部の学生も多数受講している。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

講師は大規模な汚水処理事業所の責任者も経験しており、その経験と知識で複数の海外政府向けに環境教育をしている（JICA 専門家派遣など）。そういった世界レベルのトピックスや教材も授業で利用する。

【Outline and objectives】

This course is designed to help you learn and understand the basic methods for water pollution control. You will also learn various environmental issues on surface water such as lakes, streams, and ocean as well as groundwater. In addition to wastewater treatment techniques (main subjects), lectures on environmental laws and regulations will be provided in this course.

You can learn practical environmental knowledge required for corporate management, environmental administration, and international activities, etc. The class will also provide introductory-level knowledge useful for acquiring National qualifications of Pollution Control Manager. By the end of the course students will learn the principal skills to clean up the wastewater chemically and biologically. By this course, you can gain useful knowledge for taking the national and private exams. Also you will understand a number of technical terms and concepts including BOD/COD, that are used by pollution control managers etc.

ENV300HA

公害防止管理論Ⅱ

大野 香代

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時間：金 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、日本を襲う集中豪雨や大型台風等の異常気象が増えており、気候変動への関心が高まっています。16歳の環境活動家のグレタさんに触発され、自分に何かできることはないかと考えている人も多くいるのではないのでしょうか。

公害防止管理論Ⅱでは、企業における大気関連の環境管理について学びます。現在の企業の環境管理は従来の公害防止管理だけではなく、気候変動の緩和や適応にまで範囲が広がっています。COP21でパリ協定が採択されて以降は企業への投資資において、ESG（環境、社会、ガバナンス）への取組が重要視されてきています。そのため、企業は従来の大気、水質、土壌の汚染防止、騒音・振動防止、廃棄物管理等の公害防止に加え、二酸化炭素等の温暖化物質の排出削減に向け、様々な取組を行う必要に迫られています。

現代の環境問題を解決するには、革新的科学技術だけに頼るのではなく、経済や社会が連動して低炭素社会に向けて移行していく必要があります。

本講義は、現在、我々が直面している環境問題をより深く思考できるようなことになることを目的として、幅広い視点から企業の大気汚染管理について学びます。大気汚染問題の原因、対策、課題について、地球温暖化問題、PM2.5汚染等の国内外の大気汚染の状況について学びます。また、大気汚染防止のための法律や行政施策及び、硫酸酸化物やばいじん等の大気汚染物質の発生源やその処理技術、測定方法についての科学的な事柄について学びます。公害防止管理者国家資格（大気）取得のための基礎知識を学びます。

【到達目標】

近年の国内外の大気汚染問題について、その原因、対策、課題について理解する。環境基本法、大気汚染防止法等の大気関連の規制及び国の政策について知る。大気汚染物質を発生する各種生産活動、大気汚染物質の処理方法及び測定方法について理解する。企業における環境管理の活動について自ら調べ、各産業における課題と対策について考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

前半は気候変動への国際的な取組、国内外における大気汚染問題、大気汚染の発生メカニズム、大気汚染防止法等の環境法規などの知識を学ぶ。後半は企業の生産活動において発生する大気汚染物質の種類や発生機構、その処理技術及び測定方法を学ぶ。また、企業の環境管理について、グループディスカッションを行い、問題定義や課題解決の方法を学ぶ。

成績は、授業内で行う試験とアクティブラーニングでの2つの課題についてレポートを提出してもらい、その両者の総合で評価する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	大気汚染の歴史と公害防止対策	日本の公害問題の歴史と公害対策について学ぶ。企業の公害防止組織について学ぶ。
第2回	近年の大気環境問題	国際的な気候変動への取組、国内の大気環境問題について学ぶ。
第3回	大気保全のための各種法律及び大気の状態	大気に関する各種法律の概要（環境基準、排出基準等）を学ぶ。また、近年の日本の大気環境状況について学ぶ。
第4回	大気汚染の発生源及び発生メカニズム	大気汚染物質を発生する産業活動、大気汚染物質の種類と発生メカニズムについて学ぶ。
第5回	排ガスの大気拡散	大気汚染物質の大気拡散について学ぶ。工場近隣への大気汚染物質の影響を知るための拡散モデルについて学ぶ。
第6回	アクティブラーニング① 企業の環境管理活動	企業内における公害防止管理者の役割を調べる。不祥事等の事例を調査し、その原因と改善策について考える。レポート提出。
第7回	燃焼管理技術	燃料の種類や燃料計算について。効率的な燃焼管理方法及び熱回収等の省エネ技術について学ぶ。
第8回	硫酸酸化物の処理技術	排ガス中の硫酸酸化物の排出低減及び処理技術について学ぶ。
第9回	窒素酸化物の処理技術及び有害物質の除去	排ガス中の窒素酸化物及びその有害物質（カドミウム、鉛、塩化水素等）の排出低減方法及び処理技術について学ぶ。

第10回	除じん集じん技術	重力や水等を利用して排出ガスから粒子を除く技術。フィルターや電気を利用して排出ガスから粒子を除く技術。
第11回	アクティブラーニング② 企業の環境管理活動	各業種における、大気環境保全のための活動を調査し、その特徴を比較する。SDGsの17のゴールとの関連についても考察する。
第12回	アクティブラーニング③ 企業の環境管理活動 調査結果発表と意見交換	各グループで企業の大気環境管理について調査した結果を発表し、意見交換を行う。レポート提出。
第13回	大気のモニタリング技術 と排ガス測定技術	大気の常時監視モニタリング方法及び排ガスの測定方法について学ぶ。
第14回	授業内試験	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新・公害防止の技術と法規 大気編の関連箇所を事前に読んでおくと講義の内容が理解し易い。授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。毎回の授業に補助資料を配付する。

【参考書】

新・公害防止の技術と法規 大気編
発行所（社）産業環境管理協会

【成績評価の方法と基準】

レポート（20%）、筆記試験（80%）の総合点で判定する。

【学生の意見等からの気づき】

企業の大気汚染に関する非財務情報から読み解く、環境管理への取組の調査と発表に関するグループワークが勉強になったとの意見が多かった。排ガス処理技術等で化学式や計算が出てくると、理解が難しいとの意見が多くあり、できるだけ、それらを用いずに、図や写真を多用し、説明をするよう工夫したいと思った。受講生は環境問題と社会のつながりに関心が高いため、企業の経済活動が環境に与える影響について重点を置き、授業内容を組み立てるようにする必要があったと感じた。

【学生が準備すべき機器他】

特にない。

【その他の重要事項】

事前に環境関連法規の科目を受講しておくことを推奨する。

担当教員はアジア諸国への公害防止管理の技術や環境法制度構築支援、環境マネジメント、環境ファイナンス、気候変動緩和・適応に関する国際標準規格ISOのエキスパートとして規格作成を行っている。これらの実務経験に関連し、本講義では大気汚染に係る国内外の環境問題対応の最新動向を講義に織り交ぜることで、学生が企業人として働く際に、環境に配慮した経済活動を自ら考え行動できるような人材を育成する。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【Outline and objectives】

Recently, the climate change is becoming our awareness, because of attacking serious floods and super big typhoons to Japanese is increasing. And someone was stimulated by the sixteen years old environmental activist, Ms. Greta, and then thinks how I take actions against this issue.

In the lecture of the pollution control II, you study about the environmental management related to air pollution prevention in enterprises. Recent environmental managements of enterprises should take not only conventional pollution controls but also climate change mitigation and adaptation. After Paris agreement in COP21, tackles for ESG (Environment, Social, Governance) have been becoming more significant for financing to the enterprises. Therefore, enterprise is taking various actions for reduction of GHG such as CO₂, in addition to pollution controls such as prevention of qualities of air, water and soil, prevention of sound and waste managements.

Recent environmental issues can't be resolved by only innovative science technologies. It is necessary to transfer to low carbon society by linking with economy and society also.

This lecture is structured from a wide viewpoint concerning air pollution managements of enterprise to aim for making students consider environmental problems deeply which we are facing now. You can learn causes and challenges of air pollution subjects from global warming problems to PM2.5 pollution, structure of laws and regulations related to prevention of air pollution, treatments and measurements of pollutants such as sulfur oxide and dust.

The student who will take the national examination of pollution control manager can study fundamental knowledge to provision for the examination.

ENV300HA

廃棄物・リサイクル論

鈴木 儀郎

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生活や事業活動に伴って排出される廃棄物の量や種類は時々の社会や人々の経済力などを映す鏡である。超高齢化や人口減少が将来の社会や経済に影響する一方で、目覚ましい IOT 技術の進展や気候変動も生活を変えてきている。そのような変化が短期的にも中長期的にも廃棄物問題とその解決策にどう影響するかについては、次世代を担う学生こそ自らの問題として考える必要がある。そのための基礎として「廃棄物処理はみんなの責任」と言われるのはなぜか、循環型社会の形成が推進されている背景事情は何か等を理解するため、廃棄物・リサイクルに関する法制度や技術の基礎知識、政府による関連の将来予測、過去の廃棄物の問題と対策、さらには災害廃棄物対策等の最近のトピックス等を幅広く学び、将来の社会において生じるであろう廃棄物問題と対策、リサイクルを考えるための知識を身につける。

【到達目標】

廃棄物問題は複雑・多様で簡単に片付かない。社会の変化、それに伴う生活や製品の変化、産業構造の変化、自然災害の激化などが種々に廃棄物問題を生む。法的には「廃棄物」の定義の難しさ、処理責任を負うべき排出者のみでは解決できない製品の高度化・多様化に対応できる社会システムの政策誘導などの課題がある。そこで社会の変化と廃棄物の発生・処理との関係を学び、廃棄物に関するテーマについて過去と現在の比較考察をし、生活に身近な廃棄物がどこでどう処理されるかを知り、処理技術の基礎を学ぶ。そのうえで法における廃棄物の定義と有価物の差異を学ぶとともに廃棄物処理法と各種リサイクル法規の考え方を学ぶ。加えて災害環境研究などの現状を学ぶ。これらをもとにしてリサイクルなど 3R 政策の現状と意義、今後の廃棄物対策のあり方等を考えるための知識と考える力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回配布する講義資料や映像資料などをもとにして講義を進め、日常生活、歴史と文化、法律、経済、技術などの様々な側面から廃棄物問題の基礎的知識を学ぶ。毎回の出席表に各自のコメントなどを記入するリアクションペーパーを用いる方式により、廃棄物問題についての考察を自ら深めることを誘導する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	全体構成と進め方 まず知っておくべき基本的な事実と知識	講義の全体像を説明。今日の環境問題全般について俯瞰したうえで廃棄物・リサイクル問題にフォーカスする。
第 2 回	社会の変化による廃棄物の排出等への影響	政府の白書等をもとにして社会の変化を認識しそれによって廃棄物の排出等がどのように影響されるかを学ぶ
第 3 回	ごみ処理の昔と今	明治時代の東京、大阪や中世のバリの廃棄物再生利用を学びリサイクルの価値観の変化について知識を得る。
第 4 回	廃棄物処理の法制度の基本	廃棄物処理法の仕組みと基本的な考え方について知識を得る。
第 5 回	廃棄物処理はみんなの責任	国民、事業者、自治体、国がそれぞれどのような法的責任を有しているかについて知識を得る。
第 6 回	一般廃棄物処理の体系	一般廃棄物処理と産業廃棄物処理との制度上の違いとその背景や実態などについて知識を得る。
第 7 回	産業廃棄物処理の体系	産業廃棄物処理の制度などについての知識を得る。
第 8 回	特別管理廃棄物の処理の考え方	PCB 廃棄物などを具体例として特別管理廃棄物制度の意義や処理方法についての知識を得る。
第 9 回	廃棄物処理の技術の基本的原則	安定化、無害化、減量化という過去から現在まで継続して重要である基本的原則の背景や必要性を知る。
第 10 回	中間処理技術と最終処分技術、リサイクル技術	焼却などの中間処理技術、埋め立て技術、リサイクル技術など環境産業、環境技術の現状を学ぶ。
第 11 回	災害廃棄物対策	東日本大震災を契機として急激に進化した災害廃棄物対策の現状と今後の見通しについて学ぶ

第 12 回	将来の社会において生じることが予測される廃棄物問題を設定したグループディスカッション グループレポートの作成・回収	数人のグループを組んで第 11 回までの授業内容を基礎知識としたグループディスカッションを行うことを通じて全体の理解を深めて考える力をつける
第 13 回	授業時間内小テスト	授業内容の理解とそれらを踏まえた考察力の確認のために小テストを行う
第 14 回	授業内容のまとめ グループレポートのフィードバック	授業全体の内容をまとめるとともに、第 12 回に提出されたレポートについてフィードバックする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で配布する資料と講義を通じて興味が生じた事項について図書館やネットで入手できる関連情報を探することを推奨します。特に、身近な現実の社会で行われているごみ処理を取り上げるので、より効果的に講義が受講できるように、あらかじめ各自が住んでいる自治体で日常どのようなごみの分別・ごみ出しをすべきなのか、自治体のホームページや回覧板などで見ておいてください。また、新聞報道等でごみ処理やリサイクルなどの記事があったら注意深く読み、なぜ記事のようなことが起こっているのかを考える訓練をしておき、グループディスカッションに活かしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義の際に資料を配布する。

【参考書】

環境・循環型社会・生物多様性白書
「人間とごみ」カトリヌ・ド・シルギー著 新評論
「明治日本のごみ対策」溝入茂著 リサイクル文化社
「ごみ減量 全国自治体の挑戦」服部美佐子著 丸善

【成績評価の方法と基準】

参加姿勢、グループディスカッションでの積極性・提出レポートの内容、小テストの結果により総合的に評価する。成績評価要素ごとの配分は小テスト 40%、グループディスカッション 40%、平常点 20% とする。小テストは配布資料、ノート、参考書などの紙資料は何でも持ち込み自由だが、モバイルパソコン、スマートフォン、携帯電話などの情報機器の使用は認めない。

【学生の意見等からの気づき】

各講義時間の終了時に提出してもらおう出席票に書き込まれる各自のコメントや質問を次の講義に反映できるようにし、双方向の講義の実施を図る。

【学生が準備すべき機器他】

携帯電話、スマホ等を含めたすべての情報機器について講義時間中の使用は認めない。

【その他の重要事項】

・小テストにおいては配布する資料やノートなどの持込を可とする。
・旧科目名称「リサイクル論」を修得済の場合、本科目は履修はできません。
・講義内容は入れ替えがあり得ます。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

To study and learn current status and future scope of the Waste Management and 3R Policies (Wastes Reduce, Reuse and Recycle) to think and/or establish ideas/ways to tackle with waste management/concerned problems which would be caused by the change of the life style due to aging society, ICT technology, and/or the change of the structure of the cities in future.

SEE300HA

環境教育論

野田 恵

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このコースでは、環境教育と ESD(持続可能な開発のための教育) について学び、持続可能な社会の実現において教育が果たす役割を理解することを目的とします。また、環境教育の具体的実践例や歴史について学びながら、持続可能な社会のために何が重要なのか、自分自身の考えを深めていきます。

【到達目標】

環境教育の目的やねらい、歴史的経緯、環境教育で扱われるテーマや主要な概念、教育方法について理解し、説明ができる。環境教育の現状や課題、可能性などについて複合的な視点を持ち、自分なりの考えを持てるようになる。また、環境教育実践へつながる関心や意欲をはぐくみ、自分なりにプログラムや教材を考える視点や基礎を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

環境教育の理論的基礎やさまざまな環境教育実践について学ぶ。学習支援システム（Hoppi）によるオンラインでの開講となる。それにとりあう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月30日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本講義のねらい・進め方についての説明と自分の環境教育の経験を振り返る。
第2回	環境教育の歴史（1）	環境教育の歴史や重要な点を概説します。
第3回	環境教育の歴史（2）	1990年代の日本の環境教育について映像資料とともに解説します。
第4回	環境教育の歴史（3）	最近の環境教育の在り方と様々な場所で行われる環境教育について学びます。
第5回	ゲストスピーカー	環境活動を行っている人の話を聞きます。
第6回	自然と関わる環境教育（1）	都市部でも手軽にできる自然体験を実際にやってみましょう。後半は、自然系環境教育の歴史的展開を講義します。
第7回	自然と関わる環境教育（2）	自然体験型環境教育の実践について学びます。（ゲストスピーカー来訪予定）
第8回	公害教育（1）ワークショップ	ロールプレイ型の公害教育教材を体験してみます。
第9回	公害教育（2）	公害と公害教育について講義します。
第10回	気候変動について学ぶ（1）（ワークショップ）	気候変動を学ぶ参加型教材を体験します。
第11回	気候変動について学ぶ（2）	学校の気候変動について学ぶ教材について取り上げ、意義や課題などを考えます。
第12回	これからの環境教育；SDGsとソーシャルアクション	これからの環境教育の役割や在り方について考えます。
第13回	これからの環境教育；環境教育の可能性と課題	環境教育の可能性及び課題、社会を変えることと教育の役割について考えます。
第14回	筆記試験とまとめ	成績評価に関わる試験となります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。参考文献や配布する資料などを読み課題に取り組む。環境教育施設を訪問したり、環境教育プログラムに実際に参加して、授業時間外にも積極的に学びを深めることが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義ごとに紹介する。参考資料を授業支援システムを通じて配布する。

【参考書】

『環境教育』日本環境教育学会編、教育出版
 『環境教育学－社会的公正と存在の豊かさを求めて－』井上有一・今村光彦編
 『持続可能性の教育－新たなビジョンへ－』佐藤学ほか編著、教育出版
 『奇跡のむらの物語』、辻英之著、農文協

【成績評価の方法と基準】

オンライン授業への変更に伴い、成績評価は学習支援システムを通じた評価を基本とします（テスト、コメントペーパー、最終レポートなどの課題を学習支援システムで提出）。

要素ごとの配分は

- ・最終レポート（6000文字程度、50%）
- ・授業ごとに課題を提出（50%）
- ・授業貢献を加点

詳細については第1回目のガイダンスで説明を行うので受講する方は必ず第1回のガイダンスに参加してください。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度からの変更点▶成績評価の方法が変更になっています。

【学生が準備すべき機器他】

初回から授業支援システムにアクセスできるように準備しておいてください。

【その他の重要事項】

受講生の要望や理解度をふまえて、授業計画や内容は変更することがありますので予めご了承ください。成績評価や課題について説明しますので、受講を希望する方は、第1回目の授業に出席するようにしてください。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

In this course, you will learn about environmental education and ESD, understand the role of education for a sustainable society, and further deepen our own thoughts.

CAR200HA

キャリア入門

長峰 登記夫

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火4/Tue.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Almost all the students will start working after graduation. For that, the students will discuss and learn what the job career is, how they will make it and why they should learn it.

【到達目標】

This class aims to give students an opportunity to study in English what the job career is, why they should learn it, and how it should be made. By so doing, students will become able to consider about their own careers and understand issues regarding career making so that they can better make their own careers in the future.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

This class will be run in English and basically in the form of lecture. However, if the number of students is not large, discussion will be an essential part of the class. The lecture will take up various topics in regard to career making. Students are supposed to read materials in advance, prepare to ask questions and answer the questions asked by the lecturer. Also, students will be required to make presentations in class. The lecture will deal with issues mainly in Japan and partly English speaking countries focusing on career making in the global stage.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
week 1	Intorduction to career studies	What career studies are will be discussed.
week 2	Why career studies?	It will be discussed why we should study job careers.
week 3	English words and expressions for career studies	Before the start of career studies, students will check English words and expressions needed for career studies. This will be continued for 10 to 15 minutes in the subsequent sessions.
week 4	Japanese employment practices (1)	The basic features of Japanese employment practices will be discussed. This will be particularly important for students who will try to find a job in Japan or at a Japanese company overseas.
week 5	Japanese employment practices (2)	The lecture will give an overview of how Japanese students find a job.
week 6	International students at Hosei	Students will look at international students at Hosei and Hosei students overseas and think why they are studying overseas.
week 7	How to make a job career (1)	Students will briefly learn how people make a job career in Japan and in the overseas students' home countries.
week 8	How to make a job career (2)	Students will briefly learn how people make a job career in the global stage.
week 9	Career changes	Students will think about career changes they may face and experience in life.
week 10	Women's career and its international comparison	Women's career is different from men's and the difference varies from country to country. Students will learn why it is so.
week 11	What will be my career? (1)	Presentation by students about their own career in the future.
week 12	What will be my career? (2)	Continued from the previous week.

week 13 Employment situation in the global business area in Japan Employment situation in the global business area will be discussed. Or if available, a guest speaker may be invited and talk his/her job experience.

week 14 Final examination or essay and comments. Final examination or essay and comments on it.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are supposed to read provided materials carefully in advance and make clear what they cannot understand and should be ready to ask questions about them, answer questions asked by the lecturer or make comments on the lecturer's talk. They are also supposed to review what they learned in each class. The usually expected time for the preparation and review of the study in class is two hours each.

【テキスト（教科書）】

Reading materials are provided from time to time prior to the lectures. This class does not use a particular textbook.

【参考書】

References will be presented at the beginning of the class.

【成績評価の方法と基準】

Assessment will be made by short exams (20%), a final exam or an essay (70%) and participation in the discussion in class (10%). Students will frequently have a short exam in class. Also, the final exam will be conducted in the final session or students instead may be required to submit an essay of around 3,000 words. It will be decided in the class in consideration of some factors such as the number of students.

【学生の意見等からの気づき】

The lecturer, if conditions allow, will try to invite one or two guest speakers because students are interested in listening to talk by people who have various job experiences including work experiences overseas.

【学生が準備すべき機器他】

Nothing.

【その他の重要事項】

Japanese students have been learning English for many years. This class will offer a challenging opportunity to learn something (job careers) in English, not to learn the English language itself.

Those who intend to take this subject must attend the first class and follow the instructions from the lecturer. Students also must take their results of English language proficiency tests such as TOEFL, TOEIC, Eigo-kentei Shiken or other similar tests.

If the number of students who intend to take this subject is more than 15 at the first class, priority will be given to the students of the Faculty of Sustainability Studies and some sort of selection will be made for students from the other Faculties and courses.

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Almost all the students will start working after graduation. For that, the students will discuss and learn what the job career is, how they will make it and why they should learn it.

ASS300HA

食と農の環境学 I

西川 邦夫

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、学生が現代日本の農業及び農業政策について、農業経済学・農政学の立場から理解することを目的とする。理論・歴史・現状・国際比較の視点から、多面的に日本農業・農政を理解することを試みる。経済発展段階が先進国段階に到達するとともに、貿易自由化が進む中で、農業という産業が国民・地域経済にどのような意義を持つのか、学生は最終的に理解することができる。

【到達目標】

学生が、①農業経済学・農政学の基本的な知識を身につけるとともに、②日本農業が抱える問題点、今後日本農業が向かうべき進路について自分の考えを持ち、③論理的に表現することができることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月11日（月）とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	プロローグ：現代日本の農業問題	先進国段階に到達擦るとともに、貿易自由化が進む中で、日本農業が直面している問題と取るべき政策について理論的に解説する。
第2回	GATT ウルグアイ・ラウンドと先進国の農政改革	1990年代以降の先進国の農政改革と、それを規定した GATT ウルグアイ・ラウンドについて解説する。
第3回	WTO ドーハ・ラウンドと FTA の広がり	WTO ドーハラウンドの失敗をもたらした要因と、代替策としての FTA の広がりを解説する。
第4回	TPP・日米貿易協定と日本農業	日本も参加した TPP 及び日米貿易協定の交渉過程において、国内・国際的にどのような政治経済学的特質が見られたのか検証する。
第5回	アメリカの農業政策とカリフォルニア稲作	日本農業にとって最大の競争相手となるアメリカの農業政策と、カリフォルニア州の稲作の実態について解説する。
第6回	国際農産物市場の現局面と日本の食料安全保障	国際農産物市場の現局面と、日本の農産物貿易の状況を、食料安全保障に注意を払って解説する。
第7回	日本経済の構造転換と食料消費	日本経済の構造転換の影響を受けた家計と食料消費の関係を、主食であるコメを中心に考察する。
第8回	日本農業の構造変動と多様な担い手	農業構造変動の到達点と新たに形成されつつある農業の担い手について、地域的多様性に注目して検討する。
第9回	農業労働力の脆弱化と就農ルートの多様化	農業労働力の高齢化・引退と、新規参入者等による補充の動きについて解説する。
第10回	農業者に対する支援システム	農業者を支援してきた農業協同組合と協同農業普及事業について、その役割と課題を解説する。
第11回	農業の多面的機能と農山村政策	農業の多面的機能を多く担いながらも、衰退と再生の動きが交錯するのが日本の農山村である。農山村再生のために求められる政策について検討する。
第12回	食品安全問題と政策	消費者の食への安心・安全意識への高まりと、対応する政策の枠組みを解説する。
第13回	エビローグ：現代日本の農業政策	これまでの講義の内容を総括するとともに、求められる政策について展望する。
第14回	期末試験とまとめ	期末試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。毎回の講義で紹介される資料や参考書を使用して準備・復習をすることが望ましい。また、興味関心を養うために、学生は新聞で農業関係の記事があったら読んでおくことが望ましい。

農業について総合的に理解するため、「食と農の環境学Ⅱ」「食と農の環境学Ⅲ」も併せて履修することが望ましい。国際経済、地域経済、環境経済に関連した他の講義を履修することも望ましい。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。資料を配布する。

【参考書】

- ①田代洋一『農業・食料問題』、大月書店、2012年（本体2,600円＋税）。
- ②速水佑次郎・神門善久『農業経済論 新版』、岩波書店、2002年（4,200円＋税）。
- ③農林水産省『食料・農業・農村白書』（各年版）（www.maff.go.jp/j/wpaper/）。

【成績評価の方法と基準】

当面の間、オンラインでの開講になったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーからの意見では、DVDを用いた講義がイメージがわかりやすいと好評だったので、今年度も適宜導入したい。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料の配布で授業支援システムを活用する予定であるので、コンテンツの更新には常に注意すること。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This class aims that students become to understand the agriculture and agricultural policy of the contemporary Japan which has arrived at the stage of developed countries from the perspectives of agricultural economics and agricultural politics. This class tries to understand various aspects of the agriculture and agricultural policy in terms of theory, history, current status and international comparison. Students can finally understand which significances agriculture have as an industry under the stage of developed country and the progress of trade liberalization.

ASS300HA

食と農の環境学Ⅱ

湯澤 規子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域の経済を支える「地域資源」とその利用システム、地域資源を利用管理する基礎集団としてのイエヤマラについて、近世から現代までの歴史をふまえて理解することを目的とします。

【到達目標】

「食」と「農」の議論の前提となる農村社会の歴史と現状を理解し、循環型社会のシステムや、持続可能な社会のあり方、豊かなコミュニティの形成などについて考える基礎知識を習得することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

映像資料や受講者からのリアクションペーパーを活用し対話型の講義を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	地域資源から考えるローカリズムとグローバリズム
第2回	「社会的共通資本」としての地域資源	豊かな社会、持続可能な社会を考えるための基礎的視点を得る
第3回	伝統的環境観と地域資源利用システム	自然環境と社会環境、「環境観」をめぐる時代的変化について考える
第4回	近世農業の確立と農村社会の形成	ムラの誕生と百姓の時代、農業技術と地域資源利用の関係について考える
第5回	ムラの構造と論理	共同と共有の論理、ソーシャルキャピタル論について考える
第6回	イエの構造と論理	伝統家族と近代家族、家族経営における女性、子ども、高齢者の役割について考える
第7回	日本社会の地域的多様性	環境、文化、社会から地域の多様性を示し、「地域づくり」を考え実践するための知識を共有する
第8回	農村と都市の歴史の変遷と現代社会	現代社会形成の背景となる農村と都市の関係について考える
第9回	家族・地域・産業の関係と展開についての史的解析	第一次、第二次、第三次産業の歴史の変遷とその影響を考える
第10回	戦後改革と農山漁村の変化	農地改革、農業基本法の影響、食と農の戦後史について考える
第11回	高度経済成長期と農山漁村の変化	岐路に立つ日本の農山漁村、ニュータウンの形成、人間と環境の関係変化について考える
第12回	国土開発と地域構造	「地域」が個性を失っていく背景としての国土開発の歴史を論じ、地域の個性について考える
第13回	暮らしの再編と新たなコミュニティ	近年の暮らしと地域の再編について考える
第14回	ローカリズムとグローバリズム	「グローバル」という視点の可能性について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。「食」や「農」に関わる新聞記事、雑誌、小説、映画、ニュースなどに関心を持ち、可能であれば実際に足を運んだり、食べたり、五感を通して体験してみてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義で配布する資料を用います。

【参考書】

・湯澤規子『在来産業と家族の地域史—ライフヒストリーからみた小規模家族経営と結城紬生産』古今書院、2009年
 ・湯澤規子「地域づくりの系譜—山梨県甲州市の甚六桜とかつめ朝市」『歴史地理学』58(1)、2016年、57-72頁
 ・湯澤規子「ジェンダーから再考する地域と人間」『サステイナビリティ—地球と人類の課題』朝倉書店、2018年、104-113頁
 ・湯澤規子『胃袋の近代—食と人びとの日常史』名古屋大学出版会、2018年
 ・湯澤規子『7袋のポテトチップス—食べるを語る胃袋の戦後史』晶文社、2019年
 その他、随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（用語説明50%、論述50%程度）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

食と農に関する身近な話題を入口にして、農村社会を考えるいくつかの基本的な理論を紹介します。やや難しい理論も分かりやすく伝えるようにしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

特にありません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Regarding the "local resources" that support the local economy, its utilization system, and Ie and Mura as a basic group that uses and manages local resources, consider the history from early-modern period to today.

ASS300HA

食と農の環境学Ⅱ

湯澤 規子

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「食」と「農」からみた社会と経済の歴史を論じ、現代社会と未来を考える視座を得ることを目的とします。

【到達目標】

フィールドワークにもとづいた地域経済学の研究を中軸に据え、地理学、歴史学、人類学、社会学、民俗学などの知見と成果を加えた、多面的かつ複眼的な視点から、食と農の問題を考えることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

映像資料や受講者からのリアクションペーパーを活用し対話型の講義を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	地球と人類の課題として「幸せ」と「豊かさ」を実現する社会について考える
第 2 回	食と農の現代的課題	身近な現代的課題から食と農について考えるきっかけを得る
第 3 回	「ごはん食べた？」という問いから考える食と農と社会	食するという行為をみつめると、どのような社会の様相が見えてくるのかを考える
第 4 回	食と農をめぐる社会経済史（1）	近代日本の人びと、食と農の関係について考える
第 5 回	食と農をめぐる社会経済史（2）	都市労働問題を背景とした食と農の実践と政策について考える
第 6 回	食と農をめぐる社会経済史（3）	食と農をめぐる産業化の近現代史について考える
第 7 回	食と農をめぐる社会経済史（4）	近代日本の都市と農村について考える
第 8 回	食と農をめぐる社会経済史（5）	産業革命と「地域」社会事業の誕生について考える
第 9 回	胃袋の戦後史（1）戦中戦後	飢餓と空腹の現状とその後の復興過程について検討する
第 10 回	胃袋の戦後史（2）戦後農政と食	山形県山形市の米農家の戦後史を事例に、戦後農政と農村について考える
第 11 回	胃袋の戦後史（3）高度経済成長期	「食」と「農」と「地域」の構造的変化について考える
第 12 回	胃袋の戦後史（4）公害問題	熊本県水俣の甘夏栽培と消費者運動を事例に「内発的発展論」について考える
第 13 回	胃袋の戦後史（5）高度消費社会	現代の食と農から社会を考える
第 14 回	まとめ	「ごはん食べた？」という問いから共在社会を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。講義内容に関連する新聞記事、雑誌、小説、映画、ニュースなどに関心を持ち、可能であれば実際に足を運んだり、食べたり、五感を通して体験してみてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義で配布する資料を用います。

【参考書】

・湯澤規子『胃袋の近代—食と人びとの日常史』名古屋大学出版会、2018 年
・湯澤規子『7 袋のポテトチップス—食べるを語る胃袋の戦後史』晶文社、2019 年
その他、随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（用語説明 50 %、論述 50 %程度）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

映像を用いた講義が好評でしたので、引き続き、内容を深めるための映像を教材として活用する予定です。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

特にありません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

In this lecture, we will discuss the history of society and economy from the viewpoint of "food" and "agriculture", it aims to obtain a perspective to think about modern society and the future.

HSS211LB

スポーツビジネス論 I

岩村 聡

配当年次/単位：3～4年 / 2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1980年代からスポーツビジネスは急速に発展した。今日のスポーツビジネスを動向を探るためにはスポーツマーケティングを理解しなければならない。本授業ではマーケティングの基礎理論をふまえ、スポーツマーケティング独自の理論と合わせ発展してきたスポーツビジネスにおいてその基礎理論等を理解することを目的とする。

【到達目標】

本講義は、(1) マーケティングとスポーツマーケティングの関係、(2) 消費者行動論からみたスポーツ消費の特性、などを理解し、は、マーケティングの基礎的な理論をベースに、スポーツビジネス戦略を理解することを目標とする

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

スポーツビジネスでの成功や失敗の実際事例を紹介しつつ、最新の理論体系や手法を解説する。大型スポーツの運営基盤や、メディアとスポーツ（放送や、権利など）について、特に重点的な講義を行う。
※授業は、4月28日から開始とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	スポーツビジネスの使命	スポーツビジネスの使命とは
第2回	スポーツの価値	なぜスポーツが目目されるか
第3回	スポーツマーケティングの特性	スポーツマーケティングの誕生、スポーツマーケティングの定義、等
第4回	スポーツ市場の理解	スポーツ産業の特性、スポーツ市場の構造と規模
第5回	マーケティングの基礎	スポーツマーケティングにおけるプロダクト論
第6回	スポーツビジネスにおける価格政策論	価格形成のメカニズム、値頃感と消費者心理
第7回	スポーツビジネスにおけるプロモーション論	コミュニケーションの原理、スポーツ組織のプロモーションミックス
第8回	スポーツ消費者の理解	スポーツ消費者の特性、スポーツ消費者の意思決定過程
第9回	参加型スポーツの消費者	参加型スポーツの分類、スポーツ参加における心理的要因
第10回	観戦型スポーツの消費者	観戦型スポーツの分類、心理的連続モデル、スポーツ観戦動機、等
第11回	スポーツマーケティングにおけるSTP座	セグメンテーションの基礎、標的市場の設定と評価
第12回	スポーツマーケティングとマーケットリサーチ	マーケットリサーチの手順、調査の実施・分析・報告
第13回	スポーツ・スポンサーシップ	マーケティングの問題意識とスポーツの接点
第14回	スポーツ・ブランドのマーケティング	ブランドとブランディング、アスリート・ブランディング、等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。受講期間中はスポーツビジネスに関するニュースなどを読んだり積極的に情報収集すること

【テキスト（教科書）】

仲澤真・吉田正幸編「よくわかるスポーツマーケティング」
山下秋二他編「図解スポーツマネジメント」大修館書店
原田宗彦編「スポーツ産業論第6版」杏林書院
広瀬一郎「スポーツビジネス論」講義—スポーツはいかにして市場の商品となったか 創文企画

【参考書】

仲澤真他編「スポーツプロモーション論」明和出版
山下秋二他編「図解スポーツマネジメント」大修館書店
原田宗彦編「スポーツ産業論第6版」杏林書院
広瀬一郎「スポーツビジネス論」講義—スポーツはいかにして市場の商品となったか 創文企画

【成績評価の方法と基準】

授業終了時に回収するリアクションペーパー 30%、小テスト 30%、学期末の課題 40%より評価する。

【追記】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講になったことにもない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な基準は、授業開始日に学習支援システムで掲示する。

【学生の意見等からの気づき】

昨年と同様に静粛な授業環境を保つよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline and objectives】

The aim of this course isto understand basic theory etc in the sports business which has been developed together with sports marketing original theory.

HSS212LB

スポーツビジネス論Ⅱ

岩村 聡

配当年次／単位：3～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代のスポーツの諸状況が提起している諸課題を発見し、それらの解決に向けて、スポーツビジネスの知見がどのように活かせるか、を学ぶ。授業と合わせ、チーム編成してプレゼンテーションを行い（全員がいずれかのチームに必ず参加）、各チームごとに提案を競う。受講にあたっては、春学期の「スポーツビジネス論Ⅰ」の履修者が望ましい（条件ではありません）。

【到達目標】

スポーツビジネスの諸問題について理解を深めること
スポーツビジネスの諸問題について解決策を提案できるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業はグループワークを中心に進めます。グループワークではそれぞれの役割がありますので、必ず毎回出席をしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	この授業の進め方などの説明
第2回	グループワークⅠ①	課題Ⅰの説明、グループ分け、情報収集
第3回	グループワークⅠ②	情報収集、ディスカッション
第4回	グループワークⅠ③	ディスカッション、発表準備
第5回	プレゼンテーションⅠ	グループごとに発表をおこなう
第6回	グループワークⅡ①	課題の説明Ⅱ、グループ分け、情報収集
第7回	グループワークⅡ②	情報収集、ディスカッション
第8回	グループワークⅡ③	ディスカッション、発表準備
第9回	プレゼンテーションⅡ	グループごとに発表をおこなう
第10回	グループワークⅢ①	課題の説明Ⅲ、グループ分け、情報検索
第11回	グループワークⅢ②	情報収集、ディスカッション
第12回	グループワークⅢ③	ディスカッション、発表準備
第13回	プレゼンテーションⅢ	グループごとに発表をおこなう
第14回	まとめ	本授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業時間以外にもグループメンバーで集まって、情報収集、ディスカッション、発表準備を進めてもらいます。

【テキスト（教科書）】

適宜、資料を配布します。

【参考書】

仲澤真・吉田正幸編「よくわかるスポーツマーケティング」ミネルヴァ書房
仲澤真他編「スポーツプロモーション論」明和出版
原田宗彦編「スポーツ産業論第6版」杏林書院
広瀬一郎「スポーツビジネス論」講義—スポーツはいかにして市場の商品となったか 創文企画

【成績評価の方法と基準】

授業終了時に回収するリアクションペーパー 20%、グループワークの参加状況 20%、学期末の課題 20%、プレゼンテーション 40%より評価する。

【学生の意見等からの気づき】

グループワークが好評でした。今年度も活発な活動ができるよう努めます。

【その他の重要事項】

本講義はグループワークを行うため、スポーツビジネス論Ⅰを受講していない場合は、知識を補うための補講をする場合があります。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to deepen understanding through information gathering, discussion and presentation on set issues on various problems of modern sports business

SOC300HA

アーティストと社会貢献

庄野 真代

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境、人権、医療、福祉、災害など多様な公共的課題に関するアーティストの社会貢献活動は世界的にみても20世紀半ばから歴史的蓄積があるが、そこから生きた学問を紡ぎ出す作業は未開拓である。そこで、この授業では、自身の「音楽を通じた社会貢献・支援活動」を積んだ経験とともに、社会貢献活動を推進しているアーティストが共生社会の実現にどう関わっているのかを考えながら、参加者自身の社会性を問いつつ機会とする。さらに、アーティストと大学の協働による新たな社会貢献論を構想する。

【到達目標】

- ・アーティストの社会貢献活動の歴史、現状と課題について理解する。
- ・アーティストが社会貢献活動を通じて訴えたい現代社会の諸問題を考察する。
- ・アーティストの社会貢献活動を通して、自らの社会参加について思考力を高める。
- ・社会貢献活動の実践的な企画力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

まず「アーティスト」「社会貢献」という言葉の定義について理解を深め、アーティストが国際社会や日本で活動を展開してきた歴史的経緯を確認する。さらに、現代社会におけるアーティストの多様な社会貢献活動から、それらが社会や一般市民の考えにどのような影響をおよぼしていく可能性があるのかを探る。授業形式は、毎回のテーマに添った内容を解説しながら関連した音楽や映像を紹介し、それぞれが調べてきた豆情報を持ち寄って進めていく。授業期間内に1～2回、ゲスト講師を迎える予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講師の自己紹介と講義ガイダンス
第2回	アーティストとは？社会貢献とは？	芸術は人が豊かな精神生活を営む上で不可欠なもの。その担い手であるアーティストの定義や社会貢献の意味への理解を深める。
第3回	プロテストソングの誕生～アーティストと現代史(1)	1960年代にアメリカのフォーク歌手らが政治的抗議の歌を歌い、ジョンレノンらによって他ジャンルに広がり、音楽が社会活動となった経緯を知る。ビートルズ・シーガーなど。
第4回	代表的アーティストの社会貢献と自己変容～アーティストと現代史(2)	イギリスとアイルランドのロック／ポップス界のスター達で結成された「ライブ・アイト」(1984年)を契機に「USAフォー・アフリカ」「LIVE 8」などが作られ、多くのアーティストが慈善活動家として動き出した時代を考察する。ボブ・ゲルドフ、ボノなど。
第5回	社会貢献活動の軌跡～アーティストと現代史(3)	平和・環境・子ども・HIV/AIDS、貧困、災害支援、地域など、諸問題に取り組みアーティストの活動を知る。マイケルジャクソンなど。
第6回	国際社会とアーティスト～親善大使としての役割	国や文化の違いを超えて交流できるアートの有用性を考察するとともに、国内外の親善大使として活動するアーティストがどのような働きをしているのかを探ってみる。アンジェリーナ・ジョリーなど。
第7回	東日本大震災とアーティストの社会貢献活動	震災後、アーティストたちが被災地支援のために手がけたことを検証するとともに、各地における反応や成果、その継続性について考察する。レディガガなど。
第8回	アートと市民社会組織	アート（文化・芸術）の促進活動そのものが社会貢献活動になっているNPO/NGO、市民団体について考察する。
第9回	企業とアーティストの協働	企業や団体が行う社会貢献活動において、アーティストが関わる（チャリティイベントなど）ケースの企画意図や効果について考える。

- 第10回 コミュニティ形成とアーティストの役割 アートのある場所には人が集まり一時的なコミュニティができる。そこでのアーティストの果たす役割について考察する。
- 第11回 社会貢献活動の企画ワークショップ 社会貢献イベントなどを自分で企画してみる。
- 第12回 アーティスト参加型プロジェクトのケース 「ピンクリボン」「ほっとけない世界のまじしきキャンペーン」「なんとかしなきゃ！プロジェクト5.5億人」など、啓蒙プロジェクトに参加してきたアーティストの活動を知る。
- 第13回 クラウドファンディングなどによる支援活動例 アーティストが社会貢献するための資金集めについて最近の動向を考察し、誰もが社会参加につながる方法を知る。
- 第14回 新たな知の創造と社会貢献活動の展望 授業内容に基づきながら、新たな社会貢献論を構想し、さらに、社会の触媒としてのアートから生まれた提言が、今後どのように市民社会で発展していくのかを探る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

初回の講義にて全講義に関するリサーチペーパーを配布します。翌週、それを書いて提出してください。
毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

資料を適宜、配布

【参考書】

その都度、紹介

【成績評価の方法と基準】

①リサーチレポート 30%、②課題レポート 40%、③授業内試験 30% による総合評価

【学生の意見等からの気づき】

現在活動中のアーティストの動画などの紹介が好評だったため、今期も新しい情報を提供しながら講義を進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

- ・ゲスト講師をお迎えする回もあります。その場合はテーマが変更になります。
- ・講師が主催しているチャリティイベントなどのボランティアスタッフを希望される方は歓迎します。是非、実際の社会貢献プログラムを体験してみてください。
- ・「人間環境特論（アーティストと社会貢献）」を修得済の場合、本科目の履修はできません。
- ・履修希望者は、初日に配布したリサーチペーパーを翌週必ず提出していただきます。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This is a course to learn social contribution by artists through music and other performances. Students will learn the footprints of artists, who have developed social contribution and support activities through music while analyzing their messages and will explore ways to engage with their own society.

PHL200HA

現代思想と人間 I

竹本 研史

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：現代社会哲学・思想

私たちが共生している現代社会で基本的かつ不可欠だとされている諸概念（自由、人権、民主主義、平等、所有、市民、公共性、他者、反差別…）は、自明のものとして存在しているのではなく、長い思想的伝統のなかで多くの議論を積み重ね、培われてきたものである。

そこで本講義では、現代社会思想の文献や、映画作品、絵本、マンガ、文学作品、美術作品などを分析しながら、現代社会を構成しているさまざまな社会概念について、広い視野に立って、それら諸概念に関する歴史的議論の内容と背景を検討する。

【到達目標】

人間環境学部の学生として、さまざまな学問領域で「サステイナビリティ」に関する学習を進めていくうえで、現代社会思想を中心に、基本的かつ不可欠な諸概念に関する思想的営為の系譜をたどり、それら諸概念にかけられている負荷を把握する。

そこで得た知見を基に、それらの現代社会における意義を主体的に考察し、見解を示せるようになることで、広い視野に立ちながら、平和で民主的な社会を形成していく市民として必要な知識と思考力を涵養する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

【本授業は、4/24 金曜日 3 限より開始するが、本格的な授業は 5/7 金曜日より行う。当面は、大学の方針により、「学習支援システム」を利用した文字情報と音声を中心とした授業を展開する。なお、受講者のネット環境次第で、一部ビデオ会議ツールを用いたオンライン授業を行う可能性がある。】

*学習支援システムのほか、Google・クラスルームも使用するのので、登録しておくこと。

教室コードは、tt66dqr である。

←4/20 修正

講義形式でおこなうが、授業中ならびにアクションペーパー提出による質疑+次回授業での応答など、インタラクティブな授業になるように心がける。

単に思想内容の解説だけでなく、当該文献の抜粋を配布したり、映像や写真などの視聴覚教材も用いたりする予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	個人の自由と反植民地主義 (1)	ジャン＝ポール・サルトルの思想 (1)
第2回	個人の自由と反植民地主義 (2)	『存在と無』を中心に ジャン＝ポール・サルトルの思想 (2)
第3回	個人の自由と反植民地主義 (3)	『弁証法的理性批判』を中心に ジャン＝ポール・サルトルの思想 (3)
第4回	個人の自由と反植民地主義 (4)	『ユダヤ人問題についての考察』、『黒いオルフェ』を中心に ハンナ・アーレントの思想 (1) —— 『全体主義の起源』を中心に
第5回	フェミニズムの思想 (1)	フランツ・ファノンの思想 —— 『地に呪われた者』、『黒い皮膚・白い仮面』を中心に
第6回	フェミニズムの思想 (2)	オランプ・ド・グージュ、メアリ・ウルストンクラフト、J・S・ミルの思想を中心に シモース・ド・ボーヴォワールの思想 —— 『第二の性』を中心に
第7回	全体主義批判と人間性の問題 (1)	フランク・パヴロフ『茶色の朝』、フロリアン・ヘンケル・フォン・ドナースマルク『善き人のためのソナタ』を中心に
第8回	全体主義批判と人間性の問題 (2)	ハンナ・アーレントの思想 (1) ——
第9回	全体主義批判と人間性の問題 (3)	『全体主義の起源』を中心に ハンナ・アーレントの思想 (2) —— 『エルサレムのアイヒマン』、クロード・ランズマン『シヨア』、ロニー・ブローマン／エイアル・シヴァン『スペシャリスト』を中心に

第10回	全体主義批判と人間性の問題 (4)	ハンナ・アーレントの思想 (3) — 『人間の条件』、『革命について』を中心に
第11回	規律と権力 (1)	ミシェル・フーコーの思想——『監視と処罰』を中心に
第12回	規律と権力 (3)	ミシェル・フーコーの思想——『社会は防衛しなければならぬ』、『安全・領土・人口』、『生政治の誕生』を中心に
第13回	規律社会から管理社会へ	ジョージ・オーウェル『1984』、ジル・ドゥルーズの管理社会論
第14回	境界の内と外	エティエンヌ・バリバルと2010年代の現代ヨーロッパ社会、アキ・カウリスマキ『希望のかた』

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。授業で取り上げた思想家の著作とそのつと時間をかけて格闘すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教場でプリントを配布する。

【参考書】

市野川容孝・宇城輝人編『社会的なもののために』、ナカニシヤ出版、2013年。
 宇野重規『西洋政治思想史』、有斐閣、2013年。
 坂本達哉『社会思想の歴史——マキアヴェリからロールズまで』、名古屋大学出版会、2014年。
 坂本治也編『市民社会論——理論と実証の最前線』、法律文化社、2017年。
 仲正昌樹編『政治思想の知恵——マキアヴェリからサンデルまで』、法律文化社、2013年。
 同編『現代社会思想の海図（チャート）——レーニンからバトラーまで』、法律文化社、2014年。
 山脇直司『公共哲学とは何か』、ちくま新書、2004年。
 同『社会思想史を学ぶ』、ちくま新書、2009年。
 同『公共哲学からの応答——3・11の衝撃の後で』、筑摩選書、2011年。
 ほか
 ＊各思想家の思想に関する参考文献などは教場で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

以下の成績評価の方法と基準は、2020年度春学期いっぱい対面授業が再開できないことを前提に設けるものである。対面授業が再開した場合はこの限りではない。

→ 毎回授業後に提出するコメントシートおよび課題（40%）+ 学期末レポート（60%）

← 「コメントシート（20%）+ 学期末試験（80%）」から変更（4/16）。

【学生の意見等からの気づき】

レジュメの誤植をなるべくなくすよう努力する。また、パワポを使う際は、もう少し視覚的にわかりやすいようにポンチ絵などを使うようにする。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし

【その他の重要事項】

2016年度に「人間環境特論（西洋社会思想史Ⅰ）」の単位を取得済みの学生は履修不可。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Theme : Contemporary Social Philosophy

We examine historical understandings of the basic and essential concepts for the contemporary society, by the analyses of the philosophical texts, the movies, the arts and etc.

PHL300HA

現代思想と人間Ⅱ

竹本 研史

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：「記憶のエチカ、歴史のエチカ」

かつてイギリスの歴史家であるE・H・カーは、「歴史とは[……]現在と過去との間の尽きること知らぬ対話なのであります」(E・H・カー『歴史とは何か』清水幾太郎訳、岩波書店、1962年)と語った。私たちは、「過去」の出来事とどのように向かい合うのだろうか？

本講義は、「記憶」と「歴史」との関係、「記憶」と「表象」、「語り」の関係がそれぞれどのように取り結ばれているかについて考察する。ただし、講義担当者は歴史家ではない。歴史の論文を何本か翻訳しただけの一介の哲学研究者に過ぎない。したがって、あくまでこれらの問題を、哲学・思想からのアプローチで展開する。

なお、本講義の内容は「記憶と歴史」の問題を取り扱った「フィールドスタディ」である。「過ぎ去ろうとしない過去——歴史を現在にいかにかかすか？」長崎編(2019年度Ⅱ期)、ドイツ編(2020年度Ⅱ期)と密接に関連する。また、当科目と同時期に開講される「ヨーロッパ環境史論Ⅱ」とも関連が深い。

【到達目標】

人間環境学部の学生として、さまざまな学問領域で「サステナビリティ」に関する学習を進めていくうえで、現代社会思想を中心に、基本的かつ不可欠な諸概念に関する思想的営為の系譜をたどり、それら諸概念にかけられている負荷を把握する。

そこで得た知見を基に、それらの現代社会における意義を主体的に考察し、見解を示せるようになることで、広い視野に立ちながら、平和で民主的な社会を形成していく市民として必要な知識と思考力を涵養する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式でおこなうが、提出してもらったコメントシート提出による質疑+次回授業での応答形式を用いることで、インタラクティブな授業になるようにする。

思想系の授業ということで難しくはあるが、なるべく関連するような映像や写真などの視聴覚教材も積極的に活用していく予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の趣旨説明
第2回	記憶と表象 (1)	芸術作品を通じて、歴史がどのように語られてきたか (1)
第3回	記憶と表象 (2)	芸術作品を通じて、歴史がどのように語られてきたか (2)
第4回	記憶と表象 (3)	モニュメントが歴史の何を表しているか (1)
第6回	記憶と表象 (4)	モニュメントが歴史の何を表しているか (2)
第7回	記憶の社会学	モーリス・アルヴァックスの「集合的記憶」
第7回	記憶の思想 (1)	「記憶」と「忘却」についての思想 (1)
第8回	記憶の思想 (2)	「記憶」と「忘却」についての思想 (2)
第9回	記憶の思想 (3)	「記憶」と「想起」についての思想
第10回	記憶の思想 (4)	「記憶」と「トラウマ」についての思想
第11回	記憶の「語り」：ケース編 (1)	広島・長崎における「語り」
第12回	記憶の「語り」：ケース編 (2)	ヨーロッパにおける「語り」(1)
第13回	記憶の「語り」：ケース編 (3)	ヨーロッパにおける「語り」(2)
第14回	まとめ	今学期のテーマに関する総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。授業で取り上げた思想家や歴史家の著作とそのつと時間をかけて格闘すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教場でプリントを配布する。

【参考書】

教場にて指示する。

【成績評価の方法と基準】

毎回授業後に提出するコメントシート（20%）+ 学期末試験（80%）

【学生の意見等からの気づき】

とくになし

【学生が準備すべき機器他】

とくになし

【その他の重要事項】

2016 年度に「人間環境特論（西洋社会思想Ⅱ）」の単位を取得済みの学生は履修不可。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しない。

【Outline and objectives】

Theme : the Ethica of Memory / the Ethica of History

We consider the following issues on the basis of philosophical knowledge; "Memory" and "History"

CAR300HA

キャリアチャレンジ

人間環境学部教員

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間環境学部が協定を結んだ団体先へのインターンを通して、その団体の活動内容とその背景を理解するとともに、キャリア形成に資する知識、経験を身につける。

【到達目標】

在学中に企業・行政組織・NPOなどで短期の就業を体験することでキャリア形成への意識を高め、卒業後の進路選択に資することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

本科目は、人間環境学部が独自に連携する自治体、NPO等の団体に研修派遣するインターンシップ型の科目であり、自分で研修先を見つける科目である「インターンシップ」とは異なります。本科目は学生自身が現地に行き、受け入れ団体の研修プログラムに参加します。現地実習は夏期休暇中と春期休暇中に行い、授業実施期間に学内で事前研修と事後研修を行います。なお、実習は、通常の大学での学習を阻害しないことが条件となります。詳しくは、「履修の手引き」を参照してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	キャリアチャレンジ説明会（春・秋セメスターで各一回行います）	履修を希望する場合、必ず出席しなければなりません。出席者の名簿が「履修希望者名簿」となり、この名簿に記載されていない場合、単位取得はできません。
第 2 回	キャリアチャレンジ・事前研修	キャリアチャレンジの内容についての事前研修を行います。内容については受け入れ団体によって異なります。
第 3 回～第 12 回	キャリアチャレンジ実習	受け入れ団体での研修。
第 13 回	キャリアチャレンジ・事後研修 (1)	キャリアチャレンジの内容についての事後研修を行います。内容は受け入れ団体によって異なりますが、主に研修内容のプレゼンテーションを行います。
第 14 回	キャリアチャレンジ・事後研修 (2)	事後研修会におけるプレゼンテーションを踏まえて、レポートの提出、および講評会を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習先の業種・業務の特色など、担当教員の指導により、事前の情報収集（参考文献や資料）を行い実習の効果を高めることが望まれます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

個別に指導します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (80%)・レポート (20%)

【学生の意見等からの気づき】

毎年、参加した学生からの意見や要望を考慮に入れ、講義内容の改善に努めています。

【その他の重要事項】

自治体が受け入れ団体の場合は、自治体職員をはじめ公的機関への進路を考えている学生に推奨し選考過程で優先するなど、想定する対象者を特定する場合があります。

「キャリアチャレンジ」は、「フィールドスタディ」、「人間環境セミナー」とともに社会と連携した科目であり、2017 年度から「選択必修科目」（6 単位）の対象科目になります。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This is an internship program for the designated organization/institution. Students will be able to understand mission and activities of the organization/institution and to obtain necessary knowledge and experiences for the future career planning.

CAR300HA

キャリアチャレンジ

人間環境学部教員

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間環境学部が協定を結んだ団体先へのインターンを通して、その団体の活動内容とその背景を理解するとともに、キャリア形成に資する知識、経験を身につける。

【到達目標】

在学中に企業・行政組織・NPOなどで短期の就業を体験することでキャリア形成への意識を高め、卒業後の進路選択に資することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本科目は、人間環境学部が独自に連携する自治体、NPO等の団体に研修派遣するインターンシップ型の科目であり、自分で研修先を見つける科目である「インターンシップ」とは異なります。本科目は学生自身が現地に行き、受け入れ団体の研修プログラムに参加します。現地実習は夏期休暇中と春期休暇中に行い、授業実施期間に学内で事前研修と事後研修を行います。なお、実習は、通常の大学での学習を阻害しないことが条件となります。詳しくは、「履修の手引き」を参照してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	キャリアチャレンジ説明会（春・秋セメスターで各一回行います）	履修を希望する場合、必ず出席しなければなりません。出席者の名簿が「履修希望者名簿」となり、この名簿に記載されていない場合、単位取得はできません。
第2回	キャリアチャレンジ・事前研修	キャリアチャレンジの内容についての事前研修を行います。内容については受け入れ団体によって異なります。
第3回～第12回	キャリアチャレンジ実習	受け入れ団体での研修。
第13回	キャリアチャレンジ・事後研修（1）	キャリアチャレンジの内容についての事後研修を行います。内容は受け入れ団体によって異なりますが、主に研修内容のプレゼンテーションを行います。
第14回	キャリアチャレンジ・事後研修（2）	事後研修会におけるプレゼンテーションを踏まえて、レポートの提出、および講演会を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習先の業種・業務の特色など、担当教員の指導により、事前の情報収集（参考文献や資料）を行い実習の効果を高めることが望まれます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

個別に指導します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（80%）・レポート（20%）

【学生の意見等からの気づき】

毎年、参加した学生からの意見や要望を考慮に入れ、講義内容の改善に努めています。

【その他の重要事項】

自治体が受け入れ団体の場合は、自治体職員をはじめ公的機関への進路を求めている学生に推薦し選考過程で優先するなど、想定する対象者を特定する場合があります。

「キャリアチャレンジ」は、「フィールドスタディ」、「人間環境セミナー」とともに社会と連携した科目であり、2017年度から「選択必修科目」（6単位）の対象科目になります。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This is an internship program for the designated organization/institution. Students will be able to understand mission and activities of the organization/institution and to obtain necessary knowledge and experiences for the future career planning.

OTR200HA

人間環境特論（地域資源社会論）

湯澤 規子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では空間軸とともに時間軸を加えて、地域経済を立体的に把握し、考える事を目的とします。

【到達目標】

長期的な視野から、国土開発の歴史を概観し、「地域」という概念がいかに登場し、その意味がどのように変遷しながら現在に至るのかを考えます。特に戦後の全国総合開発計画の歴史、高度経済成長期における地域構造の大転換、明治・昭和・平成の合併などが地域に与えた影響をふまえて、今、なぜ地域の経済を論じる必要があるのかを議論してみたいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

地域の経済に関する歴史について学びます。受講者からのリアクションペーパーを活用し対話型の講義を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクションーキミとボクとセカイとチキ	「地域」とは何か
第2回	「地方」をめぐる思想と実践ー近世・近代・現代	地域の主体性（ローカル・イニシアティブ）の意義
第3回	開発と地域ー全国総合開発計画	戦後国土形成の歴史を考える
第4回	改造と沈没ー開発の光と影	全国総合開発計画による地域構造の形成、中央と地方の格差について考える
第5回	発展と不安ー成長と汚染	高度経済成長と公害問題、内発的発展について考える
第6回	中央と地方ー裏日本と表日本	東京一極集中と地方との格差について考える
第7回	「地域」をめぐるメディア情報について考える	産業構造の変化、過疎と過密の要因と影響について考える
第8回	再考と発見ー「地方」へのまなざし	一極集中経済の是正と地域主義の関係、「地方の時代」の背景を考える
第9回	喪失と創造ー失われる地方の個性と「地」の商品化	地域文化と固有性の衰退の一方で進む「地」の消費現象について考える
第10回	過疎と限界一周辺発の日本社会論の可能性	地域経済がもつ固有価値の再評価が進む現象について考える
第11回	危機と希望ー「ちほう」から「じかた」への発想転換	新しい「地方」論について考える
第12回	「地方」について考え、行動するとはどういうことか【ディスカッションペーパー提出】	身近な地域にもとづいて「地方」について考える
第13回	地域の経済と地域づくり	担い手、組織、ネットワークなどについて近年の議論にふれる
第14回	まとめ	今、地域の経済を考える意義について議論する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・講義中に配布する資料を用いて進めます。

【参考書】

・『在来産業と家族の地域史ーライフヒストリーからみた小規模家族経営と結城紬生産』（単著、古今書院、2009年）
・『ジェンダーから再考する地域と人間』『サステナビリティー地球と人類の課題』朝倉書店、2-18年、104-113頁
・『地域づくりの系譜ー山梨県甲州市の甚六桜とかつぬま朝市』『歴史地理学』58(1)、2016年、57-72頁
・その他、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

ディスカッションペーパー（50%）と期末試験（50%）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションペーパーを活用する講義方式です。自分自身の問題意識を深めることができたというアクションがありましたので、今年度も引き続き実施したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

特にありません。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

In this lecture, we aim to understand and think about the regional economy in three dimensions. To achieve that, we focus on region and era.

OTR200HA

人間環境特論（市民参加 × まちづくり～地域コンサルティングの現場から）

佐谷 和江

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 5/Thu.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ①本講義では、都市環境の形成・改善（まちづくり）に、多様な人々が関わりながら取り組んでいることを、具体的なケースを踏まえて理解する。
- ②また、市民として、都市にオーナーシップを持ち、関わるための考え方や手法を学ぶ。
- ③さらに、都市環境の形成・改善に取り組む人々の考え方の背景や価値観を理解し、自分なりの価値を見出す。

【到達目標】

- ①都市環境の形成・改善の動機、プロセス、取り組みの評価について学び、それを踏まえて、都市環境への洞察力を高める。
- ②都市環境への関わり方を具体的に知ることで、当事者として関わる意識を高める。また、足がかりを把握する。
- ③都市環境の背景や環境を生み出す価値感を知ることにより、環境を評価するための判断基準を持つ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・講義を聞き、それに関連した質問に対する意見を書いてもらう。
- ・書いてもらった意見をもとに議論する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1回	地域コンサルティングとは？	授業の概要や進め方を紹介する。また、地域コンサルティングにおいて重要なキーワードを理解する。
2回	計画づくりとは？	都市計画や計画づくりについて理解する。また、市民の関わり方について理解する。
3回	計画を承認するための仕組みとは？	計画を進めるためには市長や議会、審議会などが関わっており、これらの仕組みや市民の関わり方を理解する。
4回	ローカルメディアの役割・運営とは？	まちにオーナーシップを持ち、関わるためにはまちの情報を知り、共有することが重要であり、そのために情報発信している人々、組織のプロセス・仕組み等を理解する。
5回	身近な地域でのルールづくりとは？	身近な地域で自分たちで環境に関するルールをつくることを知るとともに、そのプロセスや結果について理解する。
6回	身近な地域でのルールづくりがうまく行かない場合とは？	身近な地域で自分たちでまちづくりを始めたが、結果がでないこともある。それらの事例分析からうまくいかなかった要因を知るとともに、それを回避する方法について理解する。
7回	復興まちづくりとは？	東日本大震災の被災地で、復興に地域住民がどのように取り組んだか、また、その支援方法について理解する。
8回	コミュニティづくりとは？	孤独死や引きこもりなど、地域での孤独が問題となる中、コミュニティづくりへの行政の対応について理解する。
9回	地域包括ケアシステムとは？	地域包括ケアシステムについて知るとともに、実現には様々な主体が連携することが必要であり、そのための取り組みについて理解する。
10回	ひろばのデザインとは？	多様な意見がある中で、意見をまとめながらデザインしていくプロセスや、その結果としての環境について理解する。
11回	地域での居場所づくりとは？	衰退傾向にある商店街の中で、地域の居場所をつかったプロセスを把握するとともに、継続のための工夫を理解する。
12回	地域での三世代の居場所づくりと運営とは？	高齢者施設を三世代の居場所への変更したプロセスや、その運営について理解する。

- 13 回 市民活動への支援とは？ 暮らしやすいまちにするために、市民活動を支援する取り組みについて理解する。
- 14 回 総括 これまで自分が書いた意見を分析し、環境を評価するための判断基準についてのレポートを作成、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して予習・復習をすること。各ケースのURLを下記に示すので、事前に概要を把握する。

- 第2回：練馬区都市計画マスタープラン
<https://www.city.nerima.tokyo.jp/kusei/machi/masterplan/index.html>
- 第3回：横須賀市土地利用調整審議会
<https://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/4805/tokei/chosei/chosei.html>
- 第4回：相模原町田経済新聞
<https://machida.keizai.biz/>
- 第5回、第6回：横浜市地域まちづくり
<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/toshiseibi/suishin/>
- 第7回 → 授業の事前に知らせる
- 第8回川崎市「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」
<http://www.city.kawasaki.jp/250/page/0000097375.html>
- 第9回川崎市地域包括ケアシステムポータルサイト
<https://www.kawasaki-chikea.jp/>
- 第10回：川崎市カッパーク鷺沼
<http://www.city.kawasaki.jp/miyamae/category/117-10-2-5-0-0-0-0-0-0.html>
- 第11回：墨田区寺島・玉ノ井 まちづくり協議会/玉ノ井カフェ
<https://www.facebook.com/teratama/>
<http://ameblo.jp/tamanoicafe/>
- 第12回：新宿区落合三世代交流サロン
<http://wp.3sedai.com/>
- 第13回：江戸川総合人生大学
<http://www.sougou-jinsei-daigaku.net/>
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。講義時に資料を配付する。

【参考書】

- ・都市計画とまちづくりがわかる本 彰国社 (2017/7/1)
- ・縮充する日本「参加」が創り出す人口減少社会の希望 山崎 亮 PHP 新書 (2016/11/16)
- ・BIOCITY〈2018 No.74〉特集 エコロジカル・デモクラシーのデザインブックエンド (2018/4/1)
- ・新・公民連携最前線 PPP まちづくり
<https://project.nikkeibp.co.jp/ppp/>
- ・COLOCAL リノベのススメ
<https://colocal.jp/category/topics/lifestyle/renovation>

【成績評価の方法と基準】

意見の提出 65 %：毎回、講義を聞き、それに関連した質問に対する意見を積極的に書いているか、について判断する。
 レポートの提出 35 %：第14回でこれまで自分が書いた意見を分析し、環境を評価するための判断基準についてのレポートを作成、提出する。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度はアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline and objectives】

- ① We understand that various people are involved in improving the urban environment based on concrete cases.
- ② As citizens, we have ownership in cities and learn concepts and methods to engage.
- ③ We understand the background and values of the ideas of people working on improving the urban environment and find out our own value.

OTR200HA

人間環境学特論（持続可能性と海洋）

中田 達也

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

海洋における環境問題の範囲は広い。その中から、特に海洋資源の問題に焦点を当てて、それらの資源をどのように保護および保全するのかという観点から、「持続可能性と海洋」に関する国連における議論や宣言、地域条約や多数国間条約を通じたありべき制度について考える。学生が「持続可能性」を与えるべき海洋の対象にはどのようなものがあるのかについての幅広い視野を持つようになることを授業の目的・意義とする。

【到達目標】

国連海洋法条約に明記されている資源には、幾つかのものがある。それらは、それぞれの特徴を有しており、その特性に応じた在り方で持続可能な保護および保全が図られる必要がある。海洋資源は、排他的経済水域や延長大陸棚、そして深海底にも存在するので、それらに対応する国際法が作成され、それに応ずる国内法を制定する国々も現れ始めている。海洋境界画定の解決が容易でないのは、そこに資源が強く関連してくるからである多くの学術成果が述べている。この授業では、学生が海洋における資源の重要性を理解すると共に、資源の多様性に応じた国際制度の仕組みに対して個々の意見を持つことを目指す。世界の海洋に関する国際制度は実に多く存在していて、それらを理解するには国連海洋法条約の枠組みを丁寧な説明を通して理解することが重要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

学生による専門文献講読、事例研究を前提として講義を行い、法規制の在り方、制度内容ならびに現状分析などについて、学生を当てて答えてもらい、それを機に他の学生にも意見を求める形で進めていく。学生の積極的な意見を促せるような雰囲気づくりに努める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	「持続可能性と海洋」における環境の範囲はどこまでか～海洋への誘い	ガイダンス
第2回	「考古学的または歴史的な特質を有する物」とは？	国連海洋法条約の該当規定の解説
第3回	水中文化遺産保護条約の目的は？	水中文化遺産保護条約の成立過程、採択、発効を丁寧に解説
第4回	RMS タイタニック号	世界で最も有名な沈没船といわれるタイタニック号に関する法規制の解説
第5回	4ヵ国保護協定について	日本における水中文化遺産をめぐる規制の現状と中国および韓国との比較を行う
第6回	国連海洋法条約における海洋生物資源とは？	国連海洋法条約に規定される海洋生物資源の詳細を解説
第7回	国連公海漁業実施協定が指すもの～跨り種または高度回遊性魚種とは？	排他的経済水域がもたらした新たな問題に対してどのような法規制が生まれたのかを解説
第8回	国際捕鯨取締条約と日本	国際捕鯨取締条約に日本が加盟してから脱退するまでを解説
第9回	過剰漁獲および過剰能力ー濫獲を規制する新たな考え方	現在、CPTTPに明記されている漁業補助金規律とは何かについて概説
第10回	バルド宣言とそれがもたらした海洋秩序の変革	マルタの大使バルドが1967年に行った宣言が何を変え、現在につながっているのかについて解説
第11回	深海底制度とは？	国連海洋法条約第133条から第191条までの規定（第11部）を概説
第12回	国連海洋法条約第11部実施協定の成立と国際海底機構の設立	国際海底機構が設立してから四半世紀が経過するなかで、同機構が辿り着いている状況を概説
第13回	深海底における「概要調査および探査に関する鉱業規則」から開発規則への現状	「概要調査および探査に関する鉱業規則」は現在、開発規則策定へと移っている。前者と後者は何が異なるのかについて解説
第14回	SDGs14と国連海洋会議	SDGs14は2030年を目標とした海洋の開発目標である。これを解説しつつ、これまでのすべての授業を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

長田祐卓・齊藤功高・野澤基恭・中田達也・松本祥志編『現代に生きる国際法』尚学社、2020年。
小寺彰・岩沢雄司・森田章夫編『講義国際法 [第2版]』有斐閣、2010年。
林可宣・島田征夫・古賀衛『海洋法 [第2版]』有信堂高文社、2016年。
坂元 茂樹『日本の海洋政策と海洋法 [増補第2版]』信山社出版、2019年。

【参考書】

島田征夫・林可宣編『海洋法テキストブック』有信堂高文社、2005年。
林可宣・島田征夫・古賀衛『海洋法 [第2版]』有信堂高文社、2016年。
坂元 茂樹『日本の海洋政策と海洋法 [増補第2版]』信山社出版、2019年。

【成績評価の方法と基準】

平常点：30%
期末試験（論述）：70%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

I will give lectures about a variety of marine resources to participants. These resources basically are divided into three categories; marine living resources, non-marine living resources and underwater cultural heritage provided in United Nations Convention on the Law of the Sea. These marine resources have a lot of their own legal characteristics. Participants will be able to learn these marine resources and deeply consider the protection and preservation of them. In addition, participants will surprisingly know the state of unknown marine resources.

OTR200HA

人間環境特論（沖縄環境論）

廣本 由香

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、沖縄をテーマに（1）開発と環境運動、（2）離島地域、（3）境域という3つの観点から、沖縄の環境と社会を多面的に捉えていく。沖縄は歴史的・文化的に見ても一様には捉えられない個性豊かな社会であり、その内部に多様性や複雑性を持つ島嶼世界である。その一方で、沖縄社会の内部には差異による裂け目や亀裂も存在する。各事例から、沖縄に投影される観光リゾートと、基地や開発による環境破壊や生活の剥奪が同じ生活圏に共存することを学習する。沖縄社会の二面性に日本本土に暮らす人びとがどのように関与し、あるいは組み込まれてきたのかを各事例から検討し、沖縄と日本本土、沖縄本島と離島地域の「中心-周辺」の権力構造や、ナショナルな枠組みに包摂されない多声的な社会への視点を獲得する。講義を通して、沖縄について「中心-周辺」から不平等な構造的関係を提示するだけでなく、二項対立的価値から解放される「境域」という視点から捉え直し、グローバル社会における多様性や複雑性の視野を開く。学生一人ひとりが沖縄の環境や社会のリアリティを把握し、「沖縄問題」に対して主体的に考える力を練磨することが、この講義の最終的な目的である。

【到達目標】

学生の到達目標は次のとおりとする。
（1）各事例から「沖縄問題」を把握する
（2）「中心-周辺」や「境域」の視点を獲得する
（3）「沖縄問題」を「中心-周辺」と「境域」の視点から論述する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式の授業である。テーマの性格上、講義内で沖縄に関する映像資料を視聴することがある。その際には小テストとしてリアクションペーパーの課題を行ってもらおう。履修者数の状況を見て、グループディスカッションを実施することもあるが、学生には積極的にディスカッションに参加してもらいたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	「沖縄」の環境と社会を考える理由
第2回	沖縄の歴史と環境	戦後の「沖縄問題」
第3回	開発と環境運動 (1)	基地とリゾート開発をめぐる環境破壊
第4回	開発と環境運動 (2)	沖縄海洋博と沖縄サミットによる「沖縄イメージ」
第5回	開発と環境運動 (3)	金武湾闘争と公害問題
第6回	開発と環境運動 (4)	辺野古基地反対運動と平和運動
第7回	離島地域 (1)	先島諸島（八重山・宮古）の歴史と環境
第8回	離島地域 (2)	新石垣空港建設反対運動
第9回	離島地域 (3)	土地の買い占め・売り渡し反対運動
第10回	離島地域 (4)	陸上自衛隊配備反対運動と住民投票請求運動
第11回	境域 (1)	パイナップルから考える沖縄とハワイの関係
第12回	境域 (2)	パイナップルから考える沖縄と台湾の関係
第13回	境域 (3)	パイナップルから考える沖縄と日本本土の関係
第14回	まとめ	「中心-周辺」と「境域」から考える沖縄社会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回の講義に備え、配布したレジュメや資料等を使用して講義内容の復習をおこなうこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは用いらず、講義時に配布するレジュメを使って授業を進める。

【参考書】

松井健編、2002、『開発と環境の文化学：沖縄地域社会変動の諸契機』榕樹書林。
杉本久未子・藤井和佐編、2012、『変貌する沖縄離島社会：八重山にみる地域「自治」』ナカニシヤ出版。

【成績評価の方法と基準】

講義内の小テストとリアクションペーパー（60%）、期末テスト（40%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

授業態度が悪い学生には減点措置を行い、教室から退出してもらおう。特に、学生同士のおしゃべりやスマホ・ゲーム、動画視聴を禁止する。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

In this lecture, you learn about Okinawa's environment and society from many angles. Okinawa is a historically and culturally unique society, an island group with diversity and pluralities. You study Okinawa case studies from the three perspectives of (1) development and environmental movement, (2) isolated islands, (3) border areas. You study the perspective of "center-periphery" and "border areas" through the case studies, and understand unequal structure and the fixed thoughts and vision in the society. The purpose of the lecture is understanding the environmental and social reality and different aspects in Okinawa, developing your ability to think independently about "Okinawa problems".

OTR200HA

人間環境特論（スポーツと法）

小川 和茂

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツに関わる様々なトピックを題材に検討を行い、法がスポーツにどのように関わるのかを学ぶとともに、法的思考能力を身に付けることを目的とする。

【到達目標】

スポーツと法の関わりを学ぶ前提として、法がどのように適用されているのかについて基礎的な知識を習得する。その上で、スポーツがどのような枠組みで行われているのかについて、国際及び国内のスポーツ界の統治の基礎を学ぶことを通じて習得する。そうして得られた基礎的知識をもとに、選手選考、アンチ・ドーピング、スポーツ事故など、基本的には指定した教科書に展開されているトピックについて検討を行う。以上を通じて、スポーツと法の関わりと現在のスポーツ界が抱えている課題に関する知識を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。但し、授業ではリアクションペーパーやそれに代替するオンラインでのアンケートなどを利用して学生に対して質問を行うことがある。その他教員が講義の際に学生に対してある問題点に対する見解を求めることがある。積極的に参加して欲しい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Introduction1	スポーツと法の関わりについて学ぶ。前提知識としての法律学の知識について、裁判制度なども含め学ぶ。
第2回	Introduction2	スポーツがどのように発生し、どのように発展してきたのかについて歴史的考察を行うとともに、スポーツ基本法について学ぶ。
第3回	スポーツの発展・歴史・スポーツ基本法	現在のスポーツ界がどのような構造で統治されているのかについて、国際及び国内の枠組みを理解する。
第4回	スポーツ界の統治（ガバナンス）	オリンピックやパラリンピックなどの競技大会がどのように運営されているのかを法という切り口から分析する。
第5回	競技大会運営と法	スポーツに関連した事故と関連する当事者の法的責任などに関して学ぶ。
第6回	スポーツ事故	プロスポーツを中心にスポーツに関わる契約について学ぶ。第7回では契約法の基礎を学ぶ。
第7回	スポーツと契約①	プロスポーツを中心に契約について学ぶ。第7回で学んだ契約法の基礎知識をベースに、プロアスリートの契約について学ぶ。
第8回	スポーツと契約②	国際競技大会へ派遣する競技者の選考に関する実務とその法的問題点について学ぶ。
第9回	代表選手選考と法	スポーツにおいてドーピングは厳格に禁止されている。どのような枠組みでドーピングが禁止されているのか、アンチ・ドーピング活動の基礎を学ぶ。
第10回	スポーツにおけるアンチ・ドーピング①	第10回の講義の内容をベースに、アンチ・ドーピング活動と法の関わりを、アンチ・ドーピング規則違反の事例をもとに学ぶ。
第11回	スポーツにおけるアンチ・ドーピング②	高校野球を素材に競技ごとに存在する男女の参加可否の問題を検討する。
第12回	スポーツとジェンダー	スポーツイベントの放映権を中心として、知的財産権（著作権、商標権など）の基礎を学ぶ。
第13回	スポーツと知的財産権	試験・まとめと解説を行う。
第14回	試験・まとめと解説	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

石堂典秀=建石真公子編『スポーツ法へのファーストステップ』（法律文化社、2018年）、2,700円+税、ISBN978-4-589-03965-1

【参考書】

講義内で随時提示する。

【成績評価の方法と基準】

筆記試験 100 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

なし。

【Outline and objectives】

By examining a variety of sports-related topics, students will learn how the law relates to sport and develop legal thinking skills.

BSP100HA

人間環境学への招待

人間環境学部教員

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「持続可能な社会」に向けた実践的な解決策を模索する人間環境学部の学びの概要と、人間環境学部における学びの基本的な姿勢、視座を得ること。

【到達目標】

「持続可能な社会」に係わる多様な問題のメカニズムに関する知見を獲得しながら、実践的な解決策を模索する、人間環境学部の学びのあり方を習得するための基本的な姿勢を身につける。

人間環境学部における勉学の方向づけ（カリキュラム構成・コース制・研究会など学部の特色の理解）、人間環境学部における「専門性」（既存の学問分野の成果を活かしながら、分野の枠を超える総合的・学際的な思考）について、各コース科目を担当する教員の講義を通して理解する。

多様な学問分野やアプローチ方法を学ぶ中で、自分の関心を明確にし、以後の本学部でのコース選択・科目選択のガイドとなる情報を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

●追記 春学期の少なくとも前半はオンラインで開講する。それにとまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月22日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

～～～以下は当初記述

学部の専門カリキュラムの構成とそのねらい、教育システムの特色などについて説明を行う。次に、大学生としての学びの作法について、その基本を学ぶ。その後、オムニバス形式（複数教員による講義）により、持続可能な社会を考えるためのさまざまなテーマに関して、多様な学問的アプローチから学ぶことの重要性を具体的に学ぶ。なお、以下の【授業計画】の詳細については開講時に資料を配付し説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	人間環境学部での学び方 (1) 学部理念とカリキュラム	学部の目指すもの、学部カリキュラムの構成と特徴、コース制について、また研究会・人間環境セミナー・フィールドスタディ・キャリアチャレンジなど特色ある学び方について理解する。
第2回	人間環境学部での学び方 (2) 語学を学ぶ意義・海外で学ぶ意義	海外フィールドスタディやスタディ・アブロード（SA）プログラムを含め、語学を学ぶ、また海外で学ぶ意義を理解する。
第3回	人間環境学部での学び方 (3) アカデミックスキル	学ぶ上で不可欠なノートテイキング、リーディングスキル、ライティングスキルなどのアカデミックスキルのほか、アクティブラーニング等について理解する。課題の提出によって理解を深める。
第4回	人間環境学部での学び方 (4) 社会科学と自然科学のインテグレート	持続可能な社会に向けた問題の解決には分野横断的な視点が不可欠である。いくつかのトピックを挙げて、社会科学の視点、および自然科学の視点から同じトピックを複数教員で読み解き、多角的・総合的視野の必要性を学ぶ。
第5回	テーマによる学び (1)	ひとつのテーマをめぐる複数教員による講義。専門分野間の相互連関を学ぶ。
第6回	テーマによる学び (2)	ひとつのテーマをめぐる複数教員による講義。専門分野間の相互連関を学ぶ。
第7回	テーマによる学び (3)	ひとつのテーマをめぐる複数教員による講義。専門分野間の相互連関を学ぶ。
第8回	テーマによる学び (4)	ひとつのテーマをめぐる複数教員による講義。専門分野間の相互連関を学ぶ。
第9回	テーマによる学び (5)	ひとつのテーマをめぐる複数教員による講義。専門分野間の相互連関を学ぶ。
第10回	テーマによる学び (6)	ひとつのテーマをめぐる複数教員による講義。専門分野間の相互連関を学ぶ。
第11回	テーマによる学び (7)	ひとつのテーマをめぐる複数教員による講義。専門分野間の相互連関を学ぶ。
第12回	テーマによる学び (8)	ひとつのテーマをめぐる複数教員による講義。専門分野間の相互連関を学ぶ。
第13回	テーマによる学び (9)	ひとつのテーマをめぐる複数教員による講義。専門分野間の相互連関を学ぶ。

第14回 人間環境学部で学ぶ
SDGs

人間環境学部での学びとSDGsとの関係や、SDGsの達成に求められる方法論と視座はどのようなものか、議論を展開する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して予習・復習をする。次回授業の予告を行うので、関連文献・資料を読んだうえで出席する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

資料を適宜配布して使用する。

【参考書】

小島・西城戸編著、2012、『フィールドから考える地域環境－持続可能な地域社会をめざして－』、ミネルヴァ書房、290p。
その他にも、各回講義において、担当教員より関連する文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

●追記 春学期の少なくとも前半をオンラインで開講することにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、学習支援システムで提示する。

～～以下は当初記述

平常点（課題レポートの提出など）40%、期末試験60%、で総合的に成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

非実施科目につき該当なし。この科目独自のアンケートを実施する。

【その他の重要事項】

本科目は、1年次の必修科目でありクラス指定を行う。A～Fクラスは水曜1時限目に、G～Lクラスは水曜2時限目に登録・履修すること（再履修者・編入者も自分のクラスの授業時限で登録・履修すること）。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This is an introductory and required course for the new students. While learning complex mechanisms of sustainability issues, students will be able to understand the aim of the faculty and its courses, to obtain basic viewpoint and attitude for further study and to construct own study plan in the faculty.

BSP100HA

人間環境学への招待

人間環境学部教員

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水2/Wed.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「持続可能な社会」に向けた実践的な解決策を模索する人間環境学部の学びの概要と、人間環境学部における学びの基本的な姿勢、視座を得ること。

【到達目標】

「持続可能な社会」に係わる多様な問題のメカニズムに関する知見を獲得しながら、実践的な解決策を模索する、人間環境学部の学びのあり方を習得するための基本的な姿勢を身につける。

人間環境学部における勉学の方向づけ（カリキュラム構成・コース制・研究会など学部の特色の理解）、人間環境学部における「専門性」（既存の学問分野の成果を活かしながら、分野の枠を超える総合的・学際的な思考）について、各コース科目を担当する教員の講義を通して理解する。

多様な学問分野やアプローチ方法を学ぶ中で、自分の関心を明確にし、以後の本学部でのコース選択・科目選択のガイドとなる情報を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

●追記 春学期の少なくとも前半はオンラインで開講する。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月22日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

～～以下は当初記述

学部の専門カリキュラムの構成とそのねらい、教育システムの特色などについて説明を行う。次に、大学生としての学びの作法について、その基本を学ぶ。その後、オムニバス形式（複数教員による講義）により、持続可能な社会を考えるためのさまざまなテーマに関して、多様な学問的アプローチから学ぶことの重要性を具体的に学ぶ。なお、以下の【授業計画】の詳細については開講時に資料を配付し説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	人間環境学部での学び方 (1) 学部理念とカリキュラム	学部の目指すもの、学部カリキュラムの構成と特徴、コース制について、また研究会・人間環境セミナー・フィールドスタディ・キャリアチャレンジなど特色ある学び方について理解する。
第2回	人間環境学部での学び方 (2) 語学を学ぶ意義・海外で学ぶ意義	海外フィールドスタディやスタディ・アブロード（SA）プログラムを含め、語学を学ぶ、また海外で学ぶ意義を理解する。
第3回	人間環境学部での学び方 (3) アカデミックスキル	学ぶ上で不可欠なノートテイキング、リーディングスキル、ライティングスキルなどのアカデミックスキルのほか、アクティブラーニング等について理解する。課題の提出によって理解を深める。
第4回	人間環境学部での学び方 (4) 社会科学と自然科学のインテグレート	持続可能な社会に向けた問題の解決には分野横断的な視点が不可欠である。いくつかのトピックを挙げて、社会科学の視点、および自然科学の視点から同じトピックを複数教員で読み解き、多角的・総合的視野の必要性を学ぶ。
第5回	テーマによる学び (1)	ひとつのテーマをめぐる複数教員による講義。専門分野間の相互連関を学ぶ。
第6回	テーマによる学び (2)	ひとつのテーマをめぐる複数教員による講義。専門分野間の相互連関を学ぶ。
第7回	テーマによる学び (3)	ひとつのテーマをめぐる複数教員による講義。専門分野間の相互連関を学ぶ。
第8回	テーマによる学び (4)	ひとつのテーマをめぐる複数教員による講義。専門分野間の相互連関を学ぶ。
第9回	テーマによる学び (5)	ひとつのテーマをめぐる複数教員による講義。専門分野間の相互連関を学ぶ。
第10回	テーマによる学び (6)	ひとつのテーマをめぐる複数教員による講義。専門分野間の相互連関を学ぶ。
第11回	テーマによる学び (7)	ひとつのテーマをめぐる複数教員による講義。専門分野間の相互連関を学ぶ。
第12回	テーマによる学び (8)	ひとつのテーマをめぐる複数教員による講義。専門分野間の相互連関を学ぶ。
第13回	テーマによる学び (9)	ひとつのテーマをめぐる複数教員による講義。専門分野間の相互連関を学ぶ。

第 14 回 人間環境学部で学ぶ
SDGs

人間環境学部での学びと SDGs との
関係や、SDGs の達成に求められる方
法論と視座はどのようなものか、議論
を展開する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して予習・復習をする。
次回授業の予告を行うので、関連文献・資料を読んだうえで出席する。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

資料を適宜配布して使用する。

【参考書】

小島・西城戸編著、2012、『フィールドから考える地域環境－持続可能な地域
社会をめざして－』、ミネルヴァ書房、290p。
その他にも、各回講義において、担当教員より関連する文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

●追記 春学期の少なくとも前半をオンラインで開講することにともない、成
績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、学習支援システム
で提示する。

～～～以下は当初記述

平常点（課題レポートの提出など）40%、期末試験 60%、で総合的に成績評
価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

非実施科目につき該当なし。この科目独自のアンケートを実施する。

【その他の重要事項】

本科目は、1 年次の必修科目でありクラス指定を行う。A～F クラスは水曜 1
時限目に、G～L クラスは水曜 2 時限目に登録・履修すること（再履修者・編
入者も自分のクラスの授業時限で登録・履修すること）。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This is an introductory and required course for the new students. While
learning complex mechanisms of sustainability issues, students will be
able to understand the aim of the faculty and its courses, to obtain basic
viewpoint and attitude for further study and to construct own study plan
in the faculty.

BSP100HA

基礎演習

人間環境学部教員

配当年次／単位：1・2 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人間環境学への招待」で習得した知見をもとに、当学部の講義や演習を効果
的に履修するために必要な基礎能力、態度を身につける。

【到達目標】

文献や資料の検索法、プレゼンテーションやレジュメの作成法、議論の方法、
レポートの執筆方法を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力
を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習
成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

20 名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、
学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議
論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を採用する。なお、以
下の【授業計画】は一例であり、内容や進行は担当教員により異なる。テ
ーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5 コース の内容説明。
第 2 回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第 3 回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当 部分を発表する。
第 4 回	テキストの講読（2）	テキストを読んで内容をまとめ、担当 部分を発表する。
第 5 回	テキストの講読（3）	テキストを読んで内容をまとめ、担当 部分を発表する。
第 6 回	グループ分けとテーマ設 定	1 班 2～4 人程度の班を編成する。
第 7 回	発表グループ毎の意見交 換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第 8 回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレ ゼンテーションの準備を行う。
第 9 回	グループ発表・討論 1	1 回 2 班。1 班の発表 10 分程度。残 りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第 10 回	グループ発表・討論 2	1 回 2 班。1 班の発表 10 分程度。残 りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第 11 回	グループ発表・討論 3	1 回 2 班。1 班の発表 10 分程度。残 りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第 12 回	グループ発表・討論 4	1 回 2 班。1 班の発表 10 分程度。残 りは質疑応答と意見交換、教員の講評。
第 13 回	総括のグループワーク	発表のフィードバック、レポート提出 など
第 14 回	基礎演習全体のまとめ	キャリア形成と今後の学びなどについ て

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。本授
業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする

【テキスト（教科書）】

担当教員が指示する。

【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数が 4 回以上になると単位は認
定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、
講義や討論における積極性と貢献、学年末レポートなどから総合的に行う。

【学生の意見等からの気づき】

学部が各学生が希望するコースと曜日時間帯（ゾーン）を調査し、これらの希
望にしたがって学生をクラスに配属する。なお、ここでの希望コースは基礎演
習のクラスを配属するためのものであり、2 年次に選択することになるコース
と必ずしも同じである必要はない。また、学生が担当教員を指定することは
できない。（詳細は春学期の「人間環境学への招待」の講義中に説明される。）

【その他の重要事項】

希望時間帯の調査は5～6月に行われる。具体的な応募方法や募集期間については「人間環境学への招待」の授業中に紹介するとともに学部 HP などにおいて告知する。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This course is a first year seminar for freshperson. Students will be able to 1)acquire basic knowledge and study skills to take part in undergraduate courses, and to 2)set appropriate course and/or purpose for further study in the faculty.

BSP100HA

基礎演習**人間環境学部教員**

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人間環境学への招待」で習得した知見をもとに、当学部の講義や演習を効果的に履修するために必要な基礎能力、態度を身につける。

【到達目標】

文献や資料の検索法、プレゼンテーションやレジュメの作成法、議論の方法、レポートの執筆方法を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を採用する。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進行は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読（2）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第5回	テキストの講読（3）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残り質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論2	1回2班。1班の発表10分程度。残り質疑応答と意見交換、教員の講評。
第11回	グループ発表・討論3	1回2班。1班の発表10分程度。残り質疑応答と意見交換、教員の講評。
第12回	グループ発表・討論4	1回2班。1班の発表10分程度。残り質疑応答と意見交換、教員の講評。
第13回	総括のグループワーク	発表のフィードバック、レポート提出など
第14回	基礎演習全体のまとめ	キャリア形成と今後の学びなどについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が指示する。

【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数が4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、学年末レポートなどから総合的に行う。

【学生の意見等からの気づき】

学部が各学生が希望するコースと曜日時間帯（ゾーン）を調査し、これらの希望にしたがって学生をクラスに配属する。なお、ここでの希望コースは基礎演習のクラスを配属するためのものであり、2年次に選択することになるコースと必ずしも同じである必要はない。また、学生が担当教員を指定することはできない。（詳細は春学期の「人間環境学への招待」の講義中に説明される。）

【その他の重要事項】

希望時間帯の調査は5～6月に行われる。具体的な応募方法や募集期間については「人間環境学への招待」の授業中に紹介するとともに学部 HP などにおいて告知する。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This course is a first year seminar for freshperson. Students will be able to 1)acquire basic knowledge and study skills to take part in undergraduate courses, and to 2)set appropriate course and/or purpose for further study in the faculty.

BSP100HA

基礎演習

人間環境学部教員

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人間環境学への招待」で習得した知見をもとに、当学部の講義や演習を効果的に履修するために必要な基礎能力、態度を身につける。

【到達目標】

文献や資料の検索法、プレゼンテーションやレジュメの作成法、議論の方法、レポートの執筆方法を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を取り入れる。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進行は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読（2）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第5回	テキストの講読（3）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残り質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論2	1回2班。1班の発表10分程度。残り質疑応答と意見交換、教員の講評。
第11回	グループ発表・討論3	1回2班。1班の発表10分程度。残り質疑応答と意見交換、教員の講評。
第12回	グループ発表・討論4	1回2班。1班の発表10分程度。残り質疑応答と意見交換、教員の講評。
第13回	総括のグループワーク	発表のフィードバック、レポート提出など
第14回	基礎演習全体のまとめ	キャリア形成と今後の学びなどについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が指示する。

【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数が4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、学年末レポートなどから総合的に行う。

【学生の意見等からの気づき】

学部が各学生が希望するコースと曜日時間帯（ゾーン）を調査し、これらの希望にしたがって学生をクラスに配属する。なお、ここでの希望コースは基礎演習のクラスを配属するためのものであり、2年次に選択することになるコースと必ずしも同じである必要はない。また、学生が担当教員を指定することはできない。（詳細は春学期の「人間環境学への招待」の講義中に説明される。）

【その他の重要事項】

希望時間帯の調査は5～6月に行われる。具体的な応募方法や募集期間については「人間環境学への招待」の授業中に紹介するとともに学部 HP などにおいて告知する。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This course is a first year seminar for freshperson. Students will be able to 1)acquire basic knowledge and study skills to take part in undergraduate courses, and to 2)set appropriate course and/or purpose for further study in the faculty.

BSP100HA

基礎演習**人間環境学部教員**

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人間環境学への招待」で習得した知見をもとに、当学部の講義や演習を効果的に履修するために必要な基礎能力、態度を身につける。

【到達目標】

文献や資料の検索法、プレゼンテーションやレジュメの作成法、議論の方法、レポートの執筆方法を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を採用する。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進行は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読（2）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第5回	テキストの講読（3）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残り質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論2	1回2班。1班の発表10分程度。残り質疑応答と意見交換、教員の講評。
第11回	グループ発表・討論3	1回2班。1班の発表10分程度。残り質疑応答と意見交換、教員の講評。
第12回	グループ発表・討論4	1回2班。1班の発表10分程度。残り質疑応答と意見交換、教員の講評。
第13回	総括のグループワーク	発表のフィードバック、レポート提出など
第14回	基礎演習全体のまとめ	キャリア形成と今後の学びなどについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が指示する。

【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数が4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、学年末レポートなどから総合的に行う。

【学生の意見等からの気づき】

学部が各学生が希望するコースと曜日時間帯（ゾーン）を調査し、これらの希望にしたがって学生をクラスに配属する。なお、ここでの希望コースは基礎演習のクラスを配属するためのものであり、2年次に選択することになるコースと必ずしも同じである必要はない。また、学生が担当教員を指定することはできない。（詳細は春学期の「人間環境学への招待」の講義中に説明される。）

【その他の重要事項】

希望時間帯の調査は5～6月に行われる。具体的な応募方法や募集期間については「人間環境学への招待」の授業中に紹介するとともに学部 HP などにおいて告知する。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This course is a first year seminar for freshperson. Students will be able to 1)acquire basic knowledge and study skills to take part in undergraduate courses, and to 2)set appropriate course and/or purpose for further study in the faculty.

BSP100HA

基礎演習

人間環境学部教員

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人間環境学への招待」で習得した知見をもとに、当学部の講義や演習を効果的に履修するために必要な基礎能力、態度を身につける。

【到達目標】

文献や資料の検索法、プレゼンテーションやレジュメの作成法、議論の方法、レポートの執筆方法を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を取り入れる。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進行は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読（2）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第5回	テキストの講読（3）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残り質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論2	1回2班。1班の発表10分程度。残り質疑応答と意見交換、教員の講評。
第11回	グループ発表・討論3	1回2班。1班の発表10分程度。残り質疑応答と意見交換、教員の講評。
第12回	グループ発表・討論4	1回2班。1班の発表10分程度。残り質疑応答と意見交換、教員の講評。
第13回	総括のグループワーク	発表のフィードバック、レポート提出など
第14回	基礎演習全体のまとめ	キャリア形成と今後の学びなどについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が指示する。

【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数が4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、学年末レポートなどから総合的に行う。

【学生の意見等からの気づき】

学部が各学生が希望するコースと曜日時間帯（ゾーン）を調査し、これらの希望にしたがって学生をクラスに配属する。なお、ここでの希望コースは基礎演習のクラスを配属するためのものであり、2年次に選択することになるコースと必ずしも同じである必要はない。また、学生が担当教員を指定することはできない。（詳細は春学期の「人間環境学への招待」の講義中に説明される。）

【その他の重要事項】

希望時間帯の調査は5～6月に行われる。具体的な応募方法や募集期間については「人間環境学への招待」の授業中に紹介するとともに学部 HP などにおいて告知する。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This course is a first year seminar for freshperson. Students will be able to 1)acquire basic knowledge and study skills to take part in undergraduate courses, and to 2)set appropriate course and/or purpose for further study in the faculty.

BSP100HA

基礎演習**人間環境学部教員**

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人間環境学への招待」で習得した知見をもとに、当学部の講義や演習を効果的に履修するために必要な基礎能力、態度を身につける。

【到達目標】

文献や資料の検索法、プレゼンテーションやレジュメの作成法、議論の方法、レポートの執筆方法を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を取り入れる。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進行は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読（2）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第5回	テキストの講読（3）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残り質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論2	1回2班。1班の発表10分程度。残り質疑応答と意見交換、教員の講評。
第11回	グループ発表・討論3	1回2班。1班の発表10分程度。残り質疑応答と意見交換、教員の講評。
第12回	グループ発表・討論4	1回2班。1班の発表10分程度。残り質疑応答と意見交換、教員の講評。
第13回	総括のグループワーク	発表のフィードバック、レポート提出など
第14回	基礎演習全体のまとめ	キャリア形成と今後の学びなどについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が指示する。

【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数が4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、学年末レポートなどから総合的に行う。

【学生の意見等からの気づき】

学部が各学生が希望するコースと曜日時間帯（ゾーン）を調査し、これらの希望にしたがって学生をクラスに配属する。なお、ここでの希望コースは基礎演習のクラスを配属するためのものであり、2年次に選択することになるコースと必ずしも同じである必要はない。また、学生が担当教員を指定することはできない。（詳細は春学期の「人間環境学への招待」の講義中に説明される。）

【その他の重要事項】

希望時間帯の調査は5～6月に行われる。具体的な応募方法や募集期間については「人間環境学への招待」の授業中に紹介するとともに学部 HP などにおいて告知する。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This course is a first year seminar for freshperson. Students will be able to 1)acquire basic knowledge and study skills to take part in undergraduate courses, and to 2)set appropriate course and/or purpose for further study in the faculty.

BSP100HA

基礎演習**人間環境学部教員**

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人間環境学への招待」で習得した知見をもとに、当学部の講義や演習を効果的に履修するために必要な基礎能力、態度を身につける。

【到達目標】

文献や資料の検索法、プレゼンテーションやレジュメの作成法、議論の方法、レポートの執筆方法を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を取り入れる。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進行は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読（2）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第5回	テキストの講読（3）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残り質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論2	1回2班。1班の発表10分程度。残り質疑応答と意見交換、教員の講評。
第11回	グループ発表・討論3	1回2班。1班の発表10分程度。残り質疑応答と意見交換、教員の講評。
第12回	グループ発表・討論4	1回2班。1班の発表10分程度。残り質疑応答と意見交換、教員の講評。
第13回	総括のグループワーク	発表のフィードバック、レポート提出など
第14回	基礎演習全体のまとめ	キャリア形成と今後の学びなどについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が指示する。

【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数が4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、学年末レポートなどから総合的に行う。

【学生の意見等からの気づき】

学部が各学生が希望するコースと曜日時間帯（ゾーン）を調査し、これらの希望にしたがって学生をクラスに配属する。なお、ここでの希望コースは基礎演習のクラスを配属するためのものであり、2年次に選択することになるコースと必ずしも同じである必要はない。また、学生が担当教員を指定することはできない。（詳細は春学期の「人間環境学への招待」の講義中に説明される。）

【その他の重要事項】

希望時間帯の調査は5～6月に行われる。具体的な応募方法や募集期間については「人間環境学への招待」の授業中に紹介するとともに学部 HP などにおいて告知する。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This course is a first year seminar for freshperson. Students will be able to 1)acquire basic knowledge and study skills to take part in undergraduate courses, and to 2)set appropriate course and/or purpose for further study in the faculty.

BSP100HA

基礎演習**人間環境学部教員**

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人間環境学への招待」で習得した知見をもとに、当学部の講義や演習を効果的に履修するために必要な基礎能力、態度を身につける。

【到達目標】

文献や資料の検索法、プレゼンテーションやレジュメの作成法、議論の方法、レポートの執筆方法を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を採用する。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進行は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読（2）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第5回	テキストの講読（3）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残り質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論2	1回2班。1班の発表10分程度。残り質疑応答と意見交換、教員の講評。
第11回	グループ発表・討論3	1回2班。1班の発表10分程度。残り質疑応答と意見交換、教員の講評。
第12回	グループ発表・討論4	1回2班。1班の発表10分程度。残り質疑応答と意見交換、教員の講評。
第13回	総括のグループワーク	発表のフィードバック、レポート提出など
第14回	基礎演習全体のまとめ	キャリア形成と今後の学びなどについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が指示する。

【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数が4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、学年末レポートなどから総合的に行う。

【学生の意見等からの気づき】

学部が各学生が希望するコースと曜日時間帯（ゾーン）を調査し、これらの希望にしたがって学生をクラスに配属する。なお、ここでの希望コースは基礎演習のクラスを配属するためのものであり、2年次に選択することになるコースと必ずしも同じである必要はない。また、学生が担当教員を指定することはできない。（詳細は春学期の「人間環境学への招待」の講義中に説明される。）

【その他の重要事項】

希望時間帯の調査は5～6月に行われる。具体的な応募方法や募集期間については「人間環境学への招待」の授業中に紹介するとともに学部 HP などにおいて告知する。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This course is a first year seminar for freshperson. Students will be able to 1)acquire basic knowledge and study skills to take part in undergraduate courses, and to 2)set appropriate course and/or purpose for further study in the faculty.

BSP100HA

基礎演習

人間環境学部教員

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人間環境学への招待」で習得した知見をもとに、当学部の講義や演習を効果的に履修するために必要な基礎能力、態度を身につける。

【到達目標】

文献や資料の検索法、プレゼンテーションやレジュメの作成法、議論の方法、レポートの執筆方法を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を取り入れる。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進行は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読（2）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第5回	テキストの講読（3）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残り質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論2	1回2班。1班の発表10分程度。残り質疑応答と意見交換、教員の講評。
第11回	グループ発表・討論3	1回2班。1班の発表10分程度。残り質疑応答と意見交換、教員の講評。
第12回	グループ発表・討論4	1回2班。1班の発表10分程度。残り質疑応答と意見交換、教員の講評。
第13回	総括のグループワーク	発表のフィードバック、レポート提出など
第14回	基礎演習全体のまとめ	キャリア形成と今後の学びなどについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が指示する。

【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数が4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、学年末レポートなどから総合的に行う。

【学生の意見等からの気づき】

学部が各学生が希望するコースと曜日時間帯（ゾーン）を調査し、これらの希望にしたがって学生をクラスに配属する。なお、ここでの希望コースは基礎演習のクラスを配属するためのものであり、2年次に選択することになるコースと必ずしも同じである必要はない。また、学生が担当教員を指定することはできない。（詳細は春学期の「人間環境学への招待」の講義中に説明される。）

【その他の重要事項】

希望時間帯の調査は5～6月に行われる。具体的な応募方法や募集期間については「人間環境学への招待」の授業中に紹介するとともに学部 HP などにおいて告知する。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This course is a first year seminar for freshperson. Students will be able to 1)acquire basic knowledge and study skills to take part in undergraduate courses, and to 2)set appropriate course and/or purpose for further study in the faculty.

BSP100HA

基礎演習**人間環境学部教員**

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人間環境学への招待」で習得した知見をもとに、当学部の講義や演習を効果的に履修するために必要な基礎能力、態度を身につける。

【到達目標】

文献や資料の検索法、プレゼンテーションやレジュメの作成法、議論の方法、レポートの執筆方法を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を採用する。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進行は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読（2）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第5回	テキストの講読（3）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残り質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論2	1回2班。1班の発表10分程度。残り質疑応答と意見交換、教員の講評。
第11回	グループ発表・討論3	1回2班。1班の発表10分程度。残り質疑応答と意見交換、教員の講評。
第12回	グループ発表・討論4	1回2班。1班の発表10分程度。残り質疑応答と意見交換、教員の講評。
第13回	総括のグループワーク	発表のフィードバック、レポート提出など
第14回	基礎演習全体のまとめ	キャリア形成と今後の学びなどについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が指示する。

【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数が4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、学年末レポートなどから総合的に行う。

【学生の意見等からの気づき】

学部が各学生が希望するコースと曜日時間帯（ゾーン）を調査し、これらの希望にしたがって学生をクラスに配属する。なお、ここでの希望コースは基礎演習のクラスを配属するためのものであり、2年次に選択することになるコースと必ずしも同じである必要はない。また、学生が担当教員を指定することはできない。（詳細は春学期の「人間環境学への招待」の講義中に説明される。）

【その他の重要事項】

希望時間帯の調査は5～6月に行われる。具体的な応募方法や募集期間については「人間環境学への招待」の授業中に紹介するとともに学部 HP などにおいて告知する。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This course is a first year seminar for freshperson. Students will be able to 1)acquire basic knowledge and study skills to take part in undergraduate courses, and to 2)set appropriate course and/or purpose for further study in the faculty.

BSP100HA

基礎演習**人間環境学部教員**

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人間環境学への招待」で習得した知見をもとに、当学部の講義や演習を効果的に履修するために必要な基礎能力、態度を身につける。

【到達目標】

文献や資料の検索法、プレゼンテーションやレジュメの作成法、議論の方法、レポートの執筆方法を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を採用する。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進行は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読（2）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第5回	テキストの講読（3）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残り質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論2	1回2班。1班の発表10分程度。残り質疑応答と意見交換、教員の講評。
第11回	グループ発表・討論3	1回2班。1班の発表10分程度。残り質疑応答と意見交換、教員の講評。
第12回	グループ発表・討論4	1回2班。1班の発表10分程度。残り質疑応答と意見交換、教員の講評。
第13回	総括のグループワーク	発表のフィードバック、レポート提出など
第14回	基礎演習全体のまとめ	キャリア形成と今後の学びなどについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が指示する。

【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数が4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、学年末レポートなどから総合的に行う。

【学生の意見等からの気づき】

学部が各学生が希望するコースと曜日時間帯（ゾーン）を調査し、これらの希望にしたがって学生をクラスに配属する。なお、ここでの希望コースは基礎演習のクラスを配属するためのものであり、2年次に選択することになるコースと必ずしも同じである必要はない。また、学生が担当教員を指定することはできない。（詳細は春学期の「人間環境学への招待」の講義中に説明される。）

【その他の重要事項】

希望時間帯の調査は5～6月に行われる。具体的な応募方法や募集期間については「人間環境学への招待」の授業中に紹介するとともに学部 HP などにおいて告知する。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This course is a first year seminar for freshperson. Students will be able to 1)acquire basic knowledge and study skills to take part in undergraduate courses, and to 2)set appropriate course and/or purpose for further study in the faculty.

BSP100HA

基礎演習**人間環境学部教員**

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人間環境学への招待」で習得した知見をもとに、当学部の講義や演習を効果的に履修するために必要な基礎能力、態度を身につける。

【到達目標】

文献や資料の検索法、プレゼンテーションやレジュメの作成法、議論の方法、レポートの執筆方法を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を取り入れる。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進行は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読（2）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第5回	テキストの講読（3）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残り質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論2	1回2班。1班の発表10分程度。残り質疑応答と意見交換、教員の講評。
第11回	グループ発表・討論3	1回2班。1班の発表10分程度。残り質疑応答と意見交換、教員の講評。
第12回	グループ発表・討論4	1回2班。1班の発表10分程度。残り質疑応答と意見交換、教員の講評。
第13回	総括のグループワーク	発表のフィードバック、レポート提出など
第14回	基礎演習全体のまとめ	キャリア形成と今後の学びなどについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が指示する。

【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数が4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、学年末レポートなどから総合的に行う。

【学生の意見等からの気づき】

学部が各学生が希望するコースと曜日時間帯（ゾーン）を調査し、これらの希望にしたがって学生をクラスに配属する。なお、ここでの希望コースは基礎演習のクラスを配属するためのものであり、2年次に選択することになるコースと必ずしも同じである必要はない。また、学生が担当教員を指定することはできない。（詳細は春学期の「人間環境学への招待」の講義中に説明される。）

【その他の重要事項】

希望時間帯の調査は5～6月に行われる。具体的な応募方法や募集期間については「人間環境学への招待」の授業中に紹介するとともに学部 HP などにおいて告知する。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This course is a first year seminar for freshperson. Students will be able to 1)acquire basic knowledge and study skills to take part in undergraduate courses, and to 2)set appropriate course and/or purpose for further study in the faculty.

BSP100HA

基礎演習

人間環境学部教員

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人間環境学への招待」で習得した知見をもとに、当学部の講義や演習を効果的に履修するために必要な基礎能力、態度を身につける。

【到達目標】

文献や資料の検索法、プレゼンテーションやレジュメの作成法、議論の方法、レポートの執筆方法を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を取り入れる。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進行は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読（2）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第5回	テキストの講読（3）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残り質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論2	1回2班。1班の発表10分程度。残り質疑応答と意見交換、教員の講評。
第11回	グループ発表・討論3	1回2班。1班の発表10分程度。残り質疑応答と意見交換、教員の講評。
第12回	グループ発表・討論4	1回2班。1班の発表10分程度。残り質疑応答と意見交換、教員の講評。
第13回	総括のグループワーク	発表のフィードバック、レポート提出など
第14回	基礎演習全体のまとめ	キャリア形成と今後の学びなどについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が指示する。

【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数が4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、学年末レポートなどから総合的に行う。

【学生の意見等からの気づき】

学部が各学生が希望するコースと曜日時間帯（ゾーン）を調査し、これらの希望にしたがって学生をクラスに配属する。なお、ここでの希望コースは基礎演習のクラスを配属するためのものであり、2年次に選択することになるコースと必ずしも同じである必要はない。また、学生が担当教員を指定することはできない。（詳細は春学期の「人間環境学への招待」の講義中に説明される。）

【その他の重要事項】

希望時間帯の調査は5～6月に行われる。具体的な応募方法や募集期間については「人間環境学への招待」の授業中に紹介するとともに学部 HP などにおいて告知する。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This course is a first year seminar for freshperson. Students will be able to 1)acquire basic knowledge and study skills to take part in undergraduate courses, and to 2)set appropriate course and/or purpose for further study in the faculty.

BSP100HA

基礎演習**人間環境学部教員**

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人間環境学への招待」で習得した知見をもとに、当学部の講義や演習を効果的に履修するために必要な基礎能力、態度を身につける。

【到達目標】

文献や資料の検索法、プレゼンテーションやレジュメの作成法、議論の方法、レポートの執筆方法を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を採用する。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進行は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読（2）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第5回	テキストの講読（3）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残り質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論2	1回2班。1班の発表10分程度。残り質疑応答と意見交換、教員の講評。
第11回	グループ発表・討論3	1回2班。1班の発表10分程度。残り質疑応答と意見交換、教員の講評。
第12回	グループ発表・討論4	1回2班。1班の発表10分程度。残り質疑応答と意見交換、教員の講評。
第13回	総括のグループワーク	発表のフィードバック、レポート提出など
第14回	基礎演習全体のまとめ	キャリア形成と今後の学びなどについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が指示する。

【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数が4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、学年末レポートなどから総合的に行う。

【学生の意見等からの気づき】

学部が各学生が希望するコースと曜日時間帯（ゾーン）を調査し、これらの希望にしたがって学生をクラスに配属する。なお、ここでの希望コースは基礎演習のクラスを配属するためのものであり、2年次に選択することになるコースと必ずしも同じである必要はない。また、学生が担当教員を指定することはできない。（詳細は春学期の「人間環境学への招待」の講義中に説明される。）

【その他の重要事項】

希望時間帯の調査は5～6月に行われる。具体的な応募方法や募集期間については「人間環境学への招待」の授業中に紹介するとともに学部 HP などにおいて告知する。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This course is a first year seminar for freshperson. Students will be able to 1)acquire basic knowledge and study skills to take part in undergraduate courses, and to 2)set appropriate course and/or purpose for further study in the faculty.

BSP100HA

基礎演習**人間環境学部教員**

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人間環境学への招待」で習得した知見をもとに、当学部の講義や演習を効果的に履修するために必要な基礎能力、態度を身につける。

【到達目標】

文献や資料の検索法、プレゼンテーションやレジュメの作成法、議論の方法、レポートの執筆方法を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を取り入れる。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進行は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読（2）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第5回	テキストの講読（3）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残り質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論2	1回2班。1班の発表10分程度。残り質疑応答と意見交換、教員の講評。
第11回	グループ発表・討論3	1回2班。1班の発表10分程度。残り質疑応答と意見交換、教員の講評。
第12回	グループ発表・討論4	1回2班。1班の発表10分程度。残り質疑応答と意見交換、教員の講評。
第13回	総括のグループワーク	発表のフィードバック、レポート提出など
第14回	基礎演習全体のまとめ	キャリア形成と今後の学びなどについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が指示する。

【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数が4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、学年末レポートなどから総合的に行う。

【学生の意見等からの気づき】

学部が各学生が希望するコースと曜日時間帯（ゾーン）を調査し、これらの希望にしたがって学生をクラスに配属する。なお、ここでの希望コースは基礎演習のクラスを配属するためのものであり、2年次に選択することになるコースと必ずしも同じである必要はない。また、学生が担当教員を指定することはできない。（詳細は春学期の「人間環境学への招待」の講義中に説明される。）

【その他の重要事項】

希望時間帯の調査は5～6月に行われる。具体的な応募方法や募集期間については「人間環境学への招待」の授業中に紹介するとともに学部 HP などにおいて告知する。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This course is a first year seminar for freshperson. Students will be able to 1)acquire basic knowledge and study skills to take part in undergraduate courses, and to 2)set appropriate course and/or purpose for further study in the faculty.

BSP100HA

基礎演習**人間環境学部教員**

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人間環境学への招待」で習得した知見をもとに、当学部の講義や演習を効果的に履修するために必要な基礎能力、態度を身につける。

【到達目標】

文献や資料の検索法、プレゼンテーションやレジュメの作成法、議論の方法、レポートの執筆方法を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を採り入れる。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進行は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読（2）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第5回	テキストの講読（3）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残り質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論2	1回2班。1班の発表10分程度。残り質疑応答と意見交換、教員の講評。
第11回	グループ発表・討論3	1回2班。1班の発表10分程度。残り質疑応答と意見交換、教員の講評。
第12回	グループ発表・討論4	1回2班。1班の発表10分程度。残り質疑応答と意見交換、教員の講評。
第13回	総括のグループワーク	発表のフィードバック、レポート提出など
第14回	基礎演習全体のまとめ	キャリア形成と今後の学びなどについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が指示する。

【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数が4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、学年末レポートなどから総合的に行う。

【学生の意見等からの気づき】

学部が各学生が希望するコースと曜日時間帯（ゾーン）を調査し、これらの希望にしたがって学生をクラスに配属する。なお、ここでの希望コースは基礎演習のクラスを配属するためのものであり、2年次に選択することになるコースと必ずしも同じである必要はない。また、学生が担当教員を指定することはできない。（詳細は春学期の「人間環境学への招待」の講義中に説明される。）

【その他の重要事項】

希望時間帯の調査は5～6月に行われる。具体的な応募方法や募集期間については「人間環境学への招待」の授業中に紹介するとともに学部 HP などにおいて告知する。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This course is a first year seminar for freshperson. Students will be able to 1)acquire basic knowledge and study skills to take part in undergraduate courses, and to 2)set appropriate course and/or purpose for further study in the faculty.

BSP100HA

基礎演習**人間環境学部教員**

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人間環境学への招待」で習得した知見をもとに、当学部の講義や演習を効果的に履修するために必要な基礎能力、態度を身につける。

【到達目標】

文献や資料の検索法、プレゼンテーションやレジュメの作成法、議論の方法、レポートの執筆方法を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を取り入れる。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進行は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読（2）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第5回	テキストの講読（3）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残り質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論2	1回2班。1班の発表10分程度。残り質疑応答と意見交換、教員の講評。
第11回	グループ発表・討論3	1回2班。1班の発表10分程度。残り質疑応答と意見交換、教員の講評。
第12回	グループ発表・討論4	1回2班。1班の発表10分程度。残り質疑応答と意見交換、教員の講評。
第13回	総括のグループワーク	発表のフィードバック、レポート提出など
第14回	基礎演習全体のまとめ	キャリア形成と今後の学びなどについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が指示する。

【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数が4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、学年末レポートなどから総合的に行う。

【学生の意見等からの気づき】

学部が各学生が希望するコースと曜日時間帯（ゾーン）を調査し、これらの希望にしたがって学生をクラスに配属する。なお、ここでの希望コースは基礎演習のクラスを配属するためのものであり、2年次に選択することになるコースと必ずしも同じである必要はない。また、学生が担当教員を指定することはできない。（詳細は春学期の「人間環境学への招待」の講義中に説明される。）

【その他の重要事項】

希望時間帯の調査は5～6月に行われる。具体的な応募方法や募集期間については「人間環境学への招待」の授業中に紹介するとともに学部 HP などにおいて告知する。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This course is a first year seminar for freshperson. Students will be able to 1)acquire basic knowledge and study skills to take part in undergraduate courses, and to 2)set appropriate course and/or purpose for further study in the faculty.

BSP100HA

基礎演習**人間環境学部教員**

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人間環境学への招待」で習得した知見をもとに、当学部の講義や演習を効果的に履修するために必要な基礎能力、態度を身につける。

【到達目標】

文献や資料の検索法、プレゼンテーションやレジュメの作成法、議論の方法、レポートの執筆方法を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を取り入れる。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進行は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読（2）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第5回	テキストの講読（3）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残り質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論2	1回2班。1班の発表10分程度。残り質疑応答と意見交換、教員の講評。
第11回	グループ発表・討論3	1回2班。1班の発表10分程度。残り質疑応答と意見交換、教員の講評。
第12回	グループ発表・討論4	1回2班。1班の発表10分程度。残り質疑応答と意見交換、教員の講評。
第13回	総括のグループワーク	発表のフィードバック、レポート提出など
第14回	基礎演習全体のまとめ	キャリア形成と今後の学びなどについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が指示する。

【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数が4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、学年末レポートなどから総合的に行う。

【学生の意見等からの気づき】

学部が各学生が希望するコースと曜日時間帯（ゾーン）を調査し、これらの希望にしたがって学生をクラスに配属する。なお、ここでの希望コースは基礎演習のクラスを配属するためのものであり、2年次に選択することになるコースと必ずしも同じである必要はない。また、学生が担当教員を指定することはできない。（詳細は春学期の「人間環境学への招待」の講義中に説明される。）

【その他の重要事項】

希望時間帯の調査は5～6月に行われる。具体的な応募方法や募集期間については「人間環境学への招待」の授業中に紹介するとともに学部 HP などにおいて告知する。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This course is a first year seminar for freshperson. Students will be able to 1)acquire basic knowledge and study skills to take part in undergraduate courses, and to 2)set appropriate course and/or purpose for further study in the faculty.

BSP100HA

基礎演習

人間環境学部教員

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人間環境学への招待」で習得した知見をもとに、当学部の講義や演習を効果的に履修するために必要な基礎能力、態度を身につける。

【到達目標】

文献や資料の検索法、プレゼンテーションやレジュメの作成法、議論の方法、レポートの執筆方法を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を採用する。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進行は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読（2）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第5回	テキストの講読（3）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残り質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論2	1回2班。1班の発表10分程度。残り質疑応答と意見交換、教員の講評。
第11回	グループ発表・討論3	1回2班。1班の発表10分程度。残り質疑応答と意見交換、教員の講評。
第12回	グループ発表・討論4	1回2班。1班の発表10分程度。残り質疑応答と意見交換、教員の講評。
第13回	総括のグループワーク	発表のフィードバック、レポート提出など
第14回	基礎演習全体のまとめ	キャリア形成と今後の学びなどについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が指示する。

【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数が4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、学年末レポートなどから総合的に行う。

【学生の意見等からの気づき】

学部が各学生が希望するコースと曜日時間帯（ゾーン）を調査し、これらの希望にしたがって学生をクラスに配属する。なお、ここでの希望コースは基礎演習のクラスを配属するためのものであり、2年次に選択することになるコースと必ずしも同じである必要はない。また、学生が担当教員を指定することはできない。（詳細は春学期の「人間環境学への招待」の講義中に説明される。）

【その他の重要事項】

希望時間帯の調査は5～6月に行われる。具体的な応募方法や募集期間については「人間環境学への招待」の授業中に紹介するとともに学部 HP などにおいて告知する。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This course is a first year seminar for freshperson. Students will be able to 1)acquire basic knowledge and study skills to take part in undergraduate courses, and to 2)set appropriate course and/or purpose for further study in the faculty.

BSP100HA

基礎演習**人間環境学部教員**

配当年次／単位：1・2年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人間環境学への招待」で習得した知見をもとに、当学部の講義や演習を効果的に履修するために必要な基礎能力、態度を身につける。

【到達目標】

文献や資料の検索法、プレゼンテーションやレジュメの作成法、議論の方法、レポートの執筆方法を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

20名前後の少人数クラスで行われる。少人数の利点を生かして、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを図り、互いに刺激し合う双方向性の対話・議論の時間などいわゆるアクティブラーニングの手法を取り入れる。なお、以下の【授業計画】は一例であり、内容や進行は担当教員により異なる。テーマやテキストには担当教員の専門分野が反映される場合が多い。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習の内容とスケジュール、5コースの内容説明。
第2回	自己紹介	プレゼンテーションの練習として。
第3回	テキストの講読（1）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第4回	テキストの講読（2）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第5回	テキストの講読（3）	テキストを読んで内容をまとめ、担当部分を発表する。
第6回	グループ分けとテーマ設定	1班2～4人程度の班を編成する。
第7回	発表グループ毎の意見交換、発表準備	必要に応じて図書館等に出かける。
第8回	発表の準備	発表の内容をレジュメにまとめ、プレゼンテーションの準備を行う。
第9回	グループ発表・討論1	1回2班。1班の発表10分程度。残り質疑応答と意見交換、教員の講評。
第10回	グループ発表・討論2	1回2班。1班の発表10分程度。残り質疑応答と意見交換、教員の講評。
第11回	グループ発表・討論3	1回2班。1班の発表10分程度。残り質疑応答と意見交換、教員の講評。
第12回	グループ発表・討論4	1回2班。1班の発表10分程度。残り質疑応答と意見交換、教員の講評。
第13回	総括のグループワーク	発表のフィードバック、レポート提出など
第14回	基礎演習全体のまとめ	キャリア形成と今後の学びなどについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。リサーチや発表のための共同研究、レジュメ作成等、随時宿題が出る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が指示する。

【参考書】

担当教員が授業時に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

やむを得ない理由がある場合を除き、欠席回数が4回以上になると単位は認定されない。担当教員により評価基準は異なるが、評価は発表等の課題作業、講義や討論における積極性と貢献、学年末レポートなどから総合的に行う。

【学生の意見等からの気づき】

学部が各学生が希望するコースと曜日時間帯（ゾーン）を調査し、これらの希望にしたがって学生をクラスに配属する。なお、ここでの希望コースは基礎演習のクラスを配属するためのものであり、2年次に選択することになるコースと必ずしも同じである必要はない。また、学生が担当教員を指定することはできない。（詳細は春学期の「人間環境学への招待」の講義中に説明される。）

【その他の重要事項】

希望時間帯の調査は5～6月に行われる。具体的な応募方法や募集期間については「人間環境学への招待」の授業中に紹介するとともに学部 HP などにおいて告知する。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This course is a first year seminar for freshperson. Students will be able to 1)acquire basic knowledge and study skills to take part in undergraduate courses, and to 2)set appropriate course and/or purpose for further study in the faculty.

COT100HA

情報処理基礎

小林 信彦

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級者を対象とし、より高度なレベルでの使いこなしをしていくための基本となる部分を重視して講義・演習を行う。
大学生として必要な情報リテラシ及び、多くの授業の中で必要となるレポート作成のための Word/Excel、ゼミ発表等で必要となる Powerpoint の基本スキル習得をめざす。

【到達目標】

- ・情報セキュリティの基本を学び、安全なコンピュータ・ネットワークの利用ができる。
- ・各種情報の収集と調査にインターネットを活用できる。
- ・文書作成技法を学び、図表を活用したレポートの作成ができる。
- ・表計算、グラフ作成、集計技法を学び、基礎的な数値分析ができる。
- ・基礎的なプレゼンテーションデータ作成ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と実習で授業を進める。
インターネット活用、文書作成、表計算、プレゼンソフトを主な内容とし、講義／実習後まとめのレポート作成を行っていく。
講義とあわせ、実習でスキルを身につけていく。
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月24日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと情報セキュリティ基礎	1. ガイダンス 講義の概要／評価について／実習環境の解説／学内の環境について／スキルレベルの確認 2. 情報セキュリティの基礎 情報セキュリティの基礎とパスワード
第2回	Windows の基本操作とネットワークの活用 1	1.Windows の基本操作 ファイル操作、キーボード操作 2. 電子メール Gmail の活用演習
第3回	ネットワークの活用 2	1. オンラインストレージ Google ドライブの活用演習 2. 情報検索 インターネットを利用した情報の検索と活用演習
第4回	文書作成演習-入力・編集とファイル操作	1.Word 基礎演習 画面構成、入力・編集操作 2. 基本的な文書作成と保存演習 ページ設定、保存、エクスポート
第5回	文書作成演習-書式と図表の活用	1. 書式設定演習 書式設定、印刷設定 2. 図表の活用演習 各種図表などの取り込み、グラフィカルな文書の作成
第6回	文書作成演習-図表の活用とその他機能	1. ヘッドとフッタ、インデント、各種入力支援機能 2. 長文作成支援機能演習 レイアウトと目次、表紙作成
第7回	プレゼン資料作成の基本演習	1.Powerpoint 基礎演習 画面構成、入力・編集操作 2. 資料作成の基礎 プレゼン資料のまとめ方
第8回	プレゼン資料作成の応用演習	1. スライドの効果演習 スライド切り替え/アニメーション効果 2.Powerpoint 活用演習 配付資料の作成
第9回	表計算演習-基本的な概念と書式	1.Excel の基礎演習 セルへのデータ入力と編集 2. 書式と表作成演習 書式設定と表の作成および編集・印刷

第 10 回	表計算演習-数式と参照、基本的な関数	1. 数式と参照演習 基本的な四則演算と参照 2. 参照と基本関数演習 絶対参照と合計/平均等の基本的な関数
第 11 回	表計算演習-さまざまな関数	1. 基本関数演習 アンケート処理等で使用頻度の高い関数 2. 応用関数演習 条件に応じて処理を分岐させる論理関数
第 12 回	表計算演習-さまざまな関数と書式的应用	1. 文字列操作演習 文字列操作関数、文字列の扱い 2. 書式的应用 条件付き書式と入力規則
第 13 回	表計算演習-グラフの作成とデータベース	1. グラフ作成演習 一般的なグラフの作成 2. データベース機能基礎演習 Excel におけるデータの扱い、データベースの概念
第 14 回	Office 応用演習と資格	1. Office シリーズ間でのデータ活用 2. 資格 Office や IT パスポート等の資格の紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。ネットワークの活用やセキュリティに対する意識、入力操作等は日常的に活用していないと身につけにくい。実習の内容が確実に自分のものになるように練習を繰り返すこと。講義/実習内容については復習を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。講義時に参考資料をデータの形で配布する。

【参考書】

必要に応じて参考書と web サイトを紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内で作成するインターネット活用 (10%)、文書作成 (35%)、プレゼン (20%)、表計算 (35%) のレポート課題により成績評価を行う。インターネット活用についてはメール、検索、セキュリティ、オンラインストレージの活用について十分かどうかを確認する。文書作成については指定された様式で Word の機能を活用できているかどうか、レポートのテーマの選定と考察内容を確認する。プレゼンについては基本的なスライドショーの作成ができるかどうかを確認する。表計算については表作成、グラフ作成、関数について理解し、活用できているかどうかを確認する。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生のコンピュータ利用状況、知識レベルの把握のためのアンケート調査を初回に行う。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室のパソコンを利用する。日常的に使用できるパソコン環境があると課題、復習等進めやすい。OS の種類やアプリケーションのバージョン等は必ずしも実習環境と同じである必要はない。パソコン環境がない場合には情報カフェテリアを活用すること。

【その他の重要事項】

初回講義時にユーザ ID、パスワードが利用できるようにしておくこと。この授業では情報実習室を使用するため、受講者数に制限を設けています。受講申し込みについては履修の手引きを参照ください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Learn about information processing skills(MS Word, Powerpoint, Excel, and Security).We focus on the basic skills required for the student.

COT100HA

情報処理基礎

小林 信彦

配当年次/単位：1~4 年 / 2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級者を対象とし、より高度なレベルでの使いこなしをしていくための基本となる部分を重視して講義・演習を行う。大学生として必要な情報リテラシ及び、多くの授業の中で必要となるレポート作成のための Word/Excel、ゼミ発表等で必要となる Powerpoint の基本スキル習得をめざす。

【到達目標】

- ・情報セキュリティの基本を学び、安全なコンピュータ・ネットワークの利用ができる。
- ・各種情報の収集と調査にインターネットを活用できる。
- ・文書作成技法を学び、図表を活用したレポートの作成ができる。
- ・表計算、グラフ作成、集計技法を学び、基礎的な数値分析ができる。
- ・基礎的なプレゼンテーションデータ作成ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と実習で授業を進める。インターネット活用、文書作成、表計算、プレゼンソフトを主な内容とし、講義/実習後まとめのレポート作成を行っていく。講義とあわせ、実習でスキルを身につけていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと情報セキュリティ基礎	1. ガイダンス 講義の概要/評価について/実習環境の解説/学内の環境について/スキルレベルの確認 2. 情報セキュリティの基礎 情報セキュリティの基礎とパスワード
第 2 回	Windows の基本操作とネットワークの活用 1	1.Windows の基本操作 ファイル操作、キーボード操作 2. 電子メール Gmail の活用演習
第 3 回	ネットワークの活用 2	1. オンラインストレージ Google ドライブの活用演習 2. 情報検索 インターネットを利用した情報の検索と活用演習
第 4 回	文書作成演習-入力・編集とファイル操作	1.Word 基礎演習 画面構成、入力・編集操作 2. 基本的な文書作成と保存演習 ページ設定、保存、エクスポート
第 5 回	文書作成演習-書式と図表の活用	1. 書式設定演習 書式設定、印刷設定 2. 図表の活用演習 各種図表などの取り込み、グラフィカルな文書の作成
第 6 回	文書作成演習-図表の活用とその他機能	1. ヘッダとフッタ、インデント、各種入力支援機能 2. 長文作成支援機能演習 レイアウトと目次、表紙作成
第 7 回	プレゼン資料作成の基本演習	1.Powrpoint 基礎演習 画面構成、入力・編集操作 2. 資料作成の基礎 プレゼン資料のまとめ方
第 8 回	プレゼン資料作成の応用演習	1. スライドの効果演習 スライド切り替え/アニメーション効果 2.Powerpoint 活用演習 配付資料の作成
第 9 回	表計算演習-基本的な概念と書式	1.Excel の基礎演習 セルへのデータ入力と編集 2. 書式と表作成演習 書式設定と表の作成および編集・印刷
第 10 回	表計算演習-数式と参照、基本的な関数	1. 数式と参照演習 基本的な四則演算と参照 2. 参照と基本関数演習 絶対参照と合計/平均等の基本的な関数

第 11 回	表計算演習-さまざまな関数	1. 基本関数演習 アンケート処理等で使用頻度の高い関数 2. 応用関数演習 条件に応じて処理を分岐させる論理関数
第 12 回	表計算演習-さまざまな関数と書式的应用	1. 文字列操作演習 文字列操作関数、文字列の扱い 2. 書式的应用 条件付き書式と入力規則
第 13 回	表計算演習-グラフの作成とデータベース	1. グラフ作成演習 一般的なグラフの作成 2. データベース機能基礎演習 Excel におけるデータの扱い、データベースの概念
第 14 回	Office 応用演習と資格	1. Office シリーズ間でのデータ活用 2. 資格 Office や IT パスポート等の資格の紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。ネットワークの活用やセキュリティに対する意識、入力操作等は日常的に活用していないと身につみにくい。実習の内容が確実に自分のものになるように練習を繰り返すこと。講義／実習内容については復習を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。講義時に参考資料をデータの形で配布する。

【参考書】

必要に応じて参考書と web サイトを紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内で作成するインターネット活用 (10%)、文書作成 (35%)、プレゼン (20%)、表計算 (35%) のレポート課題により成績評価を行う。インターネット活用についてはメール、検索、セキュリティ、オンラインストレージの活用について十分かどうかを確認する。文書作成については指定された様式で Word の機能を活用できているかどうか、レポートのテーマの選定と考察内容を確認する。プレゼンについては基本的なスライドショーの作成ができるかどうかを確認する。表計算については表作成、グラフ作成、関数について理解し、活用できているかどうかを確認する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生のコンピュータ利用状況、知識レベルの把握のためのアンケート調査を初回に行う。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室のパソコンを利用する。日常的に使用できるパソコン環境があると課題、復習等進めやすい。OS の種類やアプリケーションのバージョン等は必ずしも実習環境と同じである必要はない。パソコン環境がない場合には情報カフェテリアを活用すること。

【その他の重要事項】

初回講義時にユーザ ID、パスワードが利用できるようにしておくこと。この授業では情報実習室を使用するため、受講者数に制限を設けています。受講申し込みについては履修の手引きを参照ください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Learn about information processing skills(MS Word, Powerpoint, Excel, and Security).We focus on the basic skills required for the student.

COT100HA

情報処理基礎

松本 倫明

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

パソコンを用いた基本的な情報処理を学ぶ。とくに大学生活で必要な情報処理技術の習得に重点を置く。

【到達目標】

この授業を通じて習得される情報処理技術は次のとおりである。

1. Microsoft Office Word を用いて学術的なレポートを執筆する技術を身につけることができる。
2. Microsoft Office Excel を用いてデータの集計とデータの可視化の技術を身につけることができる。
3. Microsoft Office PowerPoint を用いてプレゼンテーション資料を作成することができる。
4. Web の情報検索を効率的に行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業開始日：4月27日

実習形式で授業を進める。例題にもとづいて操作方法を学び、つぎに課題を行なって操作方法の理解を確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方に関する説明をする。
第 2 回	パソコン操作の基礎のおさらい	パソコンの基本的な操作を確認する。キーボードとマウスを用いた入力など。
第 3 回	ファイル・フォルダ・木構造	ファイル・フォルダ・木構造の基本を学ぶ。
第 4 回	Excel の基本	Excel の基本的な操作方法を学ぶ。簡単な表を作成する。
第 5 回	Excel の応用：表計算 (1)	Excel を用いて表計算を行う。例題に沿って操作方法を学ぶ。
第 6 回	Excel の応用：表計算 (2)	表計算の技術を応用して、課題を行う。
第 7 回	Excel の応用：グラフによる可視化	Excel を用いてグラフを作成し、データを可視化することを学ぶ。
第 8 回	Word の基本	Word の基本的な操作方法を学ぶ。
第 9 回	Word によるレポートライティング：基本	Word によるレポートライティングの基本を学ぶ。
第 10 回	Word によるレポートライティング：図と表の活用と相互参照	レポートライティングにおける図と表の活用方法と、相互参照の操作方法について学ぶ。
第 11 回	Word によるレポートライティング：課題	レポートライティングの技術を用いて、課題を行う。
第 12 回	PowerPoint の基本	PowerPoint によるプレゼンテーション資料作成の基本を学ぶ。
第 13 回	PowerPoint によるプレゼンテーション資料の作成	PowerPoint によるプレゼンテーション資料作成の課題を行う。
第 14 回	WWW による情報検索	WWW における効率的な情報検索を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。課題を行う時間を授業中に設けるが、ひとつによってはその時間で足りないかもしれない。その場合には授業時間外で課題を行う。

【テキスト（教科書）】

WWW を通じて教材を配布する。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

授業内で複数の課題を提示する。これらの課題 (70%) と平常点 (30%) を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

この授業は概ね好評である。

【学生が準備すべき機器他】

情報処理教室を使用する。大学から配布された ID とパスワードを用意すること。

【その他の重要事項】

初心者・初級者を対象に授業を進める。毎回の授業の積み重ねにより、徐々に高度な事柄を学習するため、欠席すると授業についてこれなくなるので注意すること。

この授業では情報処理教室を使用するため、受講者数に制限を設けている。受講申し込みについては履修の手引きおよび掲示やガイダンスで案内する。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Students learn basic skills to operate PCs. We focus on the skills required in the campus life.

COT100HA

情報処理基礎

松本 倫明

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

パソコンを用いた基本的な情報処理を学ぶ。とくに大学生活で必要な情報処理技術の習得に重点を置く。

【到達目標】

この授業を通じて習得される情報処理技術は次のとおりである。

1. Microsoft Office Word を用いて学術的なレポートを執筆する技術を身につけることができる。
2. Microsoft Office Excel を用いてデータの集計とデータの可視化の技術を身につけることができる。
3. Microsoft Office PowerPoint を用いてプレゼンテーション資料を作成することができる。
4. Web の情報検索を効率的に行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

実習形式で授業を進める。例題にもとづいて操作方法を学び、つぎに課題を行なって操作方法の理解を確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方に関する説明をする。
第 2 回	パソコン操作の基礎のおさらい	パソコンの基本的な操作を確認する。キーボードとマウスを用いた入力など。
第 3 回	ファイル・フォルダ・木構造	ファイル・フォルダ・木構造の基本を学ぶ。
第 4 回	Excel の基本	Excel の基本的な操作方法を学ぶ。簡単な表を作成する。
第 5 回	Excel の応用：表計算 (1)	Excel を用いて表計算を行う。例題に沿って操作方法を学ぶ。
第 6 回	Excel の応用：表計算 (2)	表計算の技術を応用して、課題を行う。
第 7 回	Excel の応用：グラフによる可視化	Excel を用いてグラフを作成し、データを可視化することを学ぶ。
第 8 回	Word の基本	Word の基本的な操作方法を学ぶ。
第 9 回	Word によるレポートライティング：基本	Word によるレポートライティングの基本を学ぶ。
第 10 回	Word によるレポートライティング：図と表の活用と相互参照	レポートライティングにおける図と表の活用方法と、相互参照の操作方法について学ぶ。
第 11 回	Word によるレポートライティング：課題	レポートライティングの技術を用いて、課題を行う。
第 12 回	PowerPoint の基本	PowerPoint によるプレゼンテーション資料作成の基本を学ぶ。
第 13 回	PowerPoint によるプレゼンテーション資料の作成	PowerPoint によるプレゼンテーション資料作成の課題を行う。
第 14 回	WWW による情報検索	WWW における効率的な情報検索を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。課題を行う時間を授業中に設けるが、ひとによってはその時間で足りないかもしれない。その場合には授業時間外で課題を行う。

【テキスト（教科書）】

WWW を通じて教材を配布する。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

授業内で複数の課題を提示する。これらの課題 (70%) と平常点 (30%) を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

この授業は概ね好評である。

【学生が準備すべき機器他】

情報処理教室を使用する。大学から配布された ID とパスワードを用意すること。

【その他の重要事項】

初心者・初級者を対象に授業を進める。毎回の授業の積み重ねにより、徐々に高度な事柄を学習するため、欠席すると授業についてこれなくなるので注意すること。

この授業では情報処理教室を使用するため、受講者数に制限を設けている。受講申し込みについては履修の手引きおよび掲示やガイダンスで案内する。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Students learn basic skills to operate PCs. We focus on the skills required in the campus life.

COT100HA

情報処理基礎

渡邊 誠

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

パソコンによる情報処理と実務を学ぶ

本科目では現代社会において身に付けておくことが必要な情報リテラシーを修得する。PC およびネットワークの基礎的事項と利用技術、情報倫理とセキュリティなどについて学習する。また各種統計資料などの検索法とその利用のための学習を通してデータを活用する力を修得する。さらには企業などの組織のストラテジ（戦略）とマネジメント（管理）に関する内容についても IT 技術との関わりをふまえて学習する。これらにより現代社会について主体的に考察するために必要な知識と技術を獲得する。

【到達目標】

- ・Word および Excel の基礎事項を学習し、文書作成および表計算に関する技法を修得する。
- ・Powerpoint の利用法を学習し、効果的なプレゼンテーション技法を修得する。
- ・Web による情報検索法を学習し、様々な情報の収集と各種調査に役立てる方法を修得する。
- ・情報セキュリティの基礎事項を学習し、コンピュータ・ネットワークの安全な利用法を修得する。
- ・IT システムとテクノロジー（情報処理の理論）、ストラテジ（組織の戦略）、マネジメント（運用・管理）の基礎事項について学び、それらの応用法を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

情報実習室に設置されている PC を利用することにより、その操作と各種ソフトウェア（OS、ワープロ、表計算、プレゼンテーション、ブラウザなど）の利用法について実習する。また PC の原理と構造、ネットワークとシステム構成、システムに対する脅威・脆弱性と対策などに関する基礎事項について講義形式で学習する。その他、IT システムと企業活動、経営戦略と業務分析、システム開発と運用などについても学習する。なお、これらは情報処理技術者試験「IT パスポート」の受験を目指す上で必須の内容となっており、その受験を念頭においている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	情報実習室の利用法	システムの概要とソフトウェア構成、PC 基本操作、ファイルシステムと階層構造など
第 2 回	文書作成と編集 1	Word による文書作成、書式の指定、各種メニューの利用法
第 3 回	文書作成と編集 2	Word による図表の活用、レポートライティング
第 4 回	表計算 1	Excel の操作法と表作成、各種関数の利用
第 5 回	表計算 2	Excel における相対参照と絶対参照、分岐関数と多分岐構造
第 6 回	表計算 3	Excel におけるデータベース機能の活用と図・グラフの作成
第 7 回	プレゼンテーション 1	PowerPoint の基本操作、プレゼン資料の作成と編集
第 8 回	プレゼンテーション 2	PowerPoint における図表と画像などの利用、プレゼン実習
第 9 回	情報検索法	ブラウザ利用法と効率的な情報検索法、統計資料などの検索と取得、各種統計データなどの分析とその活用
第 10 回	IT システムとテクノロジー 1	PC の原理と構造、データ表現とビット・バイト、インターネットと LAN のしくみ、リスク管理とセキュリティ対策など
第 11 回	IT システムとテクノロジー 2	マークアップ言語（HTML）体験と Web 環境について
第 12 回	IT システムとストラテジ	経営戦略と業務分析、品質管理手法、会計基礎、知的財産権など
第 13 回	IT システムとマネジメント	システム開発と運用・管理、テスト・保守と信頼性など
第 14 回	総括	IT パスポート試験の受験に向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。毎回、授業内容を復習してください。また、レポート提出のための準備を行ってください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にテキストは使用しません。必要に応じて教材を配布します。

【参考書】

授業中に IT パスポート試験に関する書籍を紹介しします。その他、情報センターで作成している電子版資料（例えば、法政大学市ヶ谷情報センター利用ガイド、情報セキュリティハンドブックなど）を使用します。

【成績評価の方法と基準】

授業参加の積極性 50%、提出されたレポートの充実度 50%。

【学生の意見等からの気づき】

あまり急がずにできるだけゆっくりと進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室の PC を利用しますので、学生が準備すべき機器等は特にありません。

【その他の重要事項】

この授業では情報実習室を使用するため、受講者数に制限を設けています。受講申し込みについては履修の手引きを参照ください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Theme: Introduction to information processing and application to practical business

This course is to learn skills concerning information processing and communication techniques by use of personal computers in a practice room. In the first half of this course, we learn the utilization techniques not only for WORD, EXCEL, POWER POINT but also for communication tools such as browsers and mail systems. Programing is experienced for HTML. Fundamentals are lectured concerning network systems and their related matters. In the latter half of this subject, we learn strategy and management techniques for practical business. The ethical treatment and security management of communication systems are studied. This course is partially based on the curriculum of "Information Technology Passport Examination" held by Ministry of Economy, Trade and Industry of Japan.

COT100HA

情報処理基礎

小林 信彦

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級者を対象とし、より高度なレベルでの使いこなしをしていくための基本となる部分を重視して講義・演習を行う。大学生として必要な情報リテラシ及び、多くの授業の中で必要となるレポート作成のための Word/Excel、ゼミ発表等で必要となる Powerpoint の基本スキル習得をめざす。

【到達目標】

- ・情報セキュリティの基本を学び、安全なコンピュータ・ネットワークの利用ができる。
- ・各種情報の収集と調査にインターネットを活用できる。
- ・文書作成技法を学び、図表を活用したレポートの作成ができる。
- ・表計算、グラフ作成、集計技法を学び、基礎的な数値分析ができる。
- ・基礎的なプレゼンテーションデータ作成ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と実習で授業を進める。
インターネット活用、文書作成、表計算、プレゼンソフトを主な内容とし、講義／実習後まとめのレポート作成を行っていく。
講義とあわせ、実習でスキルを身につけていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと情報セキュリティ基礎	1. ガイダンス 講義の概要／評価について／実習環境の解説／学内の環境について／スキルレベルの確認
第 2 回	Windows の基本操作とネットワークの活用 1	2. 情報セキュリティの基礎 情報セキュリティの基礎とパスワード 1.Windows の基本操作 ファイル操作、キーボード操作 2. 電子メール Gmail の活用演習
第 3 回	ネットワークの活用 2	1. オンラインストレージ Google ドライブの活用演習 2. 情報検索 インターネットを利用した情報の検索と活用演習
第 4 回	文書作成演習-入力・編集とファイル操作	1.Word 基礎演習 画面構成、入力・編集操作 2. 基本的な文書作成と保存演習 ページ設定、保存、エクスポート
第 5 回	文書作成演習-書式と図表の活用	1. 書式設定演習 書式設定、印刷設定 2. 図表の活用演習 各種図表などの取り込み、グラフィカルな文書の作成
第 6 回	文書作成演習-図表の活用とその他機能	1. ヘッダとフッタ、インデント、各種入力支援機能 2. 長文作成支援機能演習 レイアウトと目次、表紙作成
第 7 回	プレゼン資料作成の基本演習	1.Powpoint 基礎演習 画面構成、入力・編集操作 2. 資料作成の基礎 プレゼン資料のまとめ方
第 8 回	プレゼン資料作成の応用演習	1. スライドの効果演習 スライド切り替え/アニメーション効果 2.Powerpoint 活用演習 配付資料の作成
第 9 回	表計算演習-基本的な概念と書式	1.Excel の基礎演習 セルへのデータ入力と編集 2. 書式と表作成演習 書式設定と表の作成および編集・印刷
第 10 回	表計算演習-数式と参照、基本的な関数	1. 数式と参照演習 基本的な四則演算と参照 2. 参照と基本関数演習 絶対参照と合計/平均等の基本的な関数

第 11 回	表計算演習-さまざまな関数	1. 基本関数演習 アンケート処理等で使用頻度の高い関数 2. 応用関数演習 条件に応じて処理を分岐させる論理関数
第 12 回	表計算演習-さまざまな関数と書式的应用	1. 文字列操作演習 文字列操作関数、文字列の扱い 2. 書式的应用 条件付き書式と入力規則
第 13 回	表計算演習-グラフの作成とデータベース	1. グラフ作成演習 一般的なグラフの作成 2. データベース機能基礎演習 Excel におけるデータの扱い、データベースの概念
第 14 回	Office 応用演習と資格	1. Office シリーズ間でのデータ活用 2. 資格 Office や IT パスポート等の資格の紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。ネットワークの活用やセキュリティに対する意識、入力操作等は日常的に活用していないと身につけにくい。実習の内容が確実に自分のものになるように練習を繰り返すこと。講義／実習内容については復習を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。講義時に参考資料をデータの形で配布する。

【参考書】

必要に応じて参考書と web サイトを紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内で作成するインターネット活用 (10%)、文書作成 (35%)、プレゼン (20%)、表計算 (35%) のレポート課題により成績評価を行う。インターネット活用についてはメール、検索、セキュリティ、オンラインストレージの活用について十分かどうかを確認する。文書作成については指定された様式で Word の機能を活用できているかどうか、レポートのテーマの選定と考察内容を確認する。プレゼンについては基本的なスライドショーの作成ができるかどうかを確認する。表計算については表作成、グラフ作成、関数について理解し、活用できているかどうかを確認する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生のコンピュータ利用状況、知識レベルの把握のためのアンケート調査を初回に行う。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室のパソコンを利用する。日常的に使用できるパソコン環境があると課題、復習等進めやすい。OS の種類やアプリケーションのバージョン等は必ずしも実習環境と同じである必要はない。パソコン環境がない場合には情報カフェテリアを活用すること。

【その他の重要事項】

初回講義時にユーザ ID、パスワードが利用できるようにしておくこと。この授業では情報実習室を使用するため、受講者数に制限を設けています。受講申し込みについては履修の手引きを参照ください。

【実務経験のある教員による授業】

本科日は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Learn about information processing skills(MS Word, Powerpoint, Excel, and Security).We focus on the basic skills required for the student.

COT100HA

情報処理基礎

小林 信彦

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級者を対象とし、より高度なレベルでの使いこなしをしていくための基本となる部分を重視して講義・演習を行う。大学生として必要な情報リテラシ及び、多くの授業の中で必要となるレポート作成のための Word/Excel、ゼミ発表等で必要となる Powerpoint の基本スキル習得をめざす。

【到達目標】

- ・情報セキュリティの基本を学び、安全なコンピュータ・ネットワークの利用ができる。
- ・各種情報の収集と調査にインターネットを活用できる。
- ・文書作成技法を学び、図表を活用したレポートの作成ができる。
- ・表計算、グラフ作成、集計技法を学び、基礎的な数値分析ができる。
- ・基礎的なプレゼンテーションデータ作成ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と実習で授業を進める。インターネット活用、文書作成、表計算、プレゼンソフトを主な内容とし、講義／実習後まとめのレポート作成を行っていく。講義とあわせ、実習でスキルを身につけていく。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 24 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと情報セキュリティ基礎	1. ガイダンス 講義の概要／評価について／実習環境の解説／学内の環境について／スキルレベルの確認 2. 情報セキュリティの基礎 情報セキュリティの基礎とパスワード
第 2 回	Windows の基本操作とネットワークの活用 1	1.Windows の基本操作 ファイル操作、キーボード操作 2. 電子メール Gmail の活用演習
第 3 回	ネットワークの活用 2	1. オンラインストレージ Google ドライブの活用演習 2. 情報検索 インターネットを利用した情報の検索と活用演習
第 4 回	文書作成演習-入力・編集とファイル操作	1.Word 基礎演習 画面構成、入力・編集操作 2. 基本的な文書作成と保存演習 ページ設定、保存、エクスポート
第 5 回	文書作成演習-書式と図表の活用	1. 書式設定演習 書式設定、印刷設定 2. 図表の活用演習 各種図表などの取り込み、グラフィカルな文書の作成
第 6 回	文書作成演習-図表の活用とその他機能	1. ヘッドとフッタ、インデント、各種入力支援機能 2. 長文作成支援機能演習 レイアウトと目次、表紙作成
第 7 回	プレゼン資料作成の基本演習	1.Powrpoint 基礎演習 画面構成、入力・編集操作 2. 資料作成の基礎 プレゼン資料のまとめ方
第 8 回	プレゼン資料作成の応用演習	1. スライドの効果演習 スライド切り替え/アニメーション効果 2.Powerpoint 活用演習 配付資料の作成
第 9 回	表計算演習-基本的な概念と書式	1.Excel の基礎演習 セルへのデータ入力と編集 2. 書式と表作成演習 書式設定と表の作成および編集・印刷

第 10 回	表計算演習-数式と参照、基本的な関数	1. 数式と参照演習 基本的な四則演算と参照 2. 参照と基本関数演習 絶対参照と合計/平均等の基本的な関数
第 11 回	表計算演習-さまざまな関数	1. 基本関数演習 アンケート処理等で使用頻度の高い関数 2. 応用関数演習 条件に応じて処理を分岐させる論理関数
第 12 回	表計算演習-さまざまな関数と書式的应用	1. 文字列操作演習 文字列操作関数、文字列の扱い 2. 書式的应用 条件付き書式と入力規則
第 13 回	表計算演習-グラフの作成とデータベース	1. グラフ作成演習 一般的なグラフの作成 2. データベース機能基礎演習 Excel におけるデータの扱い、データベースの概念
第 14 回	Office 応用演習と資格	1. Office シリーズ間でのデータ活用 2. 資格 Office や IT パスポート等の資格の紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。ネットワークの活用やセキュリティに対する意識、入力操作等は日常的に活用していないと身につけにくい。実習の内容が確実に自分のものになるように練習を繰り返すこと。講義/実習内容については復習を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。講義時に参考資料をデータの形で配布する。

【参考書】

必要に応じて参考書と web サイトを紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内で作成するインターネット活用 (10%)、文書作成 (35%)、プレゼン (20%)、表計算 (35%) のレポート課題により成績評価を行う。インターネット活用についてはメール、検索、セキュリティ、オンラインストレージの活用について十分かどうかを確認する。文書作成については指定された様式で Word の機能を活用できているかどうか、レポートのテーマの選定と考察内容を確認する。プレゼンについては基本的なスライドショーの作成ができるかどうかを確認する。表計算については表作成、グラフ作成、関数について理解し、活用できているかどうかを確認する。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生のコンピュータ利用状況、知識レベルの把握のためのアンケート調査を初回に行う。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室のパソコンを利用する。日常的に使用できるパソコン環境があると課題、復習等進めやすい。OS の種類やアプリケーションのバージョン等は必ずしも実習環境と同じである必要はない。パソコン環境がない場合には情報カフェテリアを活用すること。

【その他の重要事項】

初回講義時にユーザ ID、パスワードが利用できるようにしておくこと。この授業では情報実習室を使用するため、受講者数に制限を設けています。受講申し込みについては履修の手引きを参照ください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Learn about information processing skills(MS Word, Powerpoint, Excel, and Security).We focus on the basic skills required for the student.

COT100HA

ネットワークとマルチメディア

松本 倫明

配当年次/単位：1~4 年 / 2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インターネットとマルチメディアの基礎と応用を学ぶ。近年、インターネットを用いた情報交換が活発に行われている。それにとともに、画像・音声・動画などのマルチメディアに触れる機会も多くなった。この授業では、インターネットとマルチメディアの基礎と応用について学ぶ。さらに、インターネットの光と影の部分にも焦点を当て、情報倫理についても触れる。

【到達目標】

この授業を通じて習得される情報処理技術は次のとおりである。

1. 画像処理の基本的な技術を習得することができる。
2. 模式図を自作することができる。
3. ウェブページを制作することができる。
4. インターネットにおける情報発信の技術を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

実習形式で授業を進める。例題にもとづいて操作方法を学び、つぎに課題を行なって操作方法の理解を確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・基本操作方法のおさらい	授業の進め方に関する説明をする。パソコンの基本的な操作を確認する。キーボードとマウスを用いた入力など。
第 2 回	ファイル・フォルダ・木構造	ファイル・フォルダ・木構造の基本を学ぶ。
第 3 回	ペイント系画像処理：Photoshop による実習	Photoshop による写真や画像の処理方法を学ぶ。
第 4 回	ドロー系画像処理：基本	ドロー系画像処理ソフトを用いた、画像処理の基本を学ぶ。
第 5 回	ドロー系画像処理：自由課題	ドロー系画像処理ソフトを用いて自由課題を制作する。
第 6 回	Web ページ製作：HTML の基本	Web ページ作成の基本を学ぶ。HTML について重点的に学ぶ。
第 7 回	Web ページ製作：CSS の基本 (1)	CSS について学ぶ。
第 8 回	Web ページ製作：CSS の基本 (2)	CSS について学ぶ。
第 9 回	Web ページ製作：課題ページの作成 (1)	Web ページの自由課題を作成する。
第 10 回	Web ページ製作：課題ページの作成 (2)	Web ページの自由課題を作成する。
第 11 回	Web ページ製作：課題ページのまとめ	自由課題のまとめと評価を行う。
第 12 回	WWW の仕組み	WWW の仕組みを学習し、情報発信と受信の仕組みを理解する。
第 13 回	情報検索のコツと練習	WWW における効率的な情報検索の方法を学ぶ。
第 14 回	インターネットの光と影：情報倫理	インターネットにおける情報倫理を学ぶ。様々な事例を取り上げ、インターネットの利用における問題点や注意点を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。課題を行う時間を授業中に設けるが、ひとによってはその時間で足りないかもしれない。その場合には授業時間外で課題を行う。

【テキスト（教科書）】

WWW を通じて教材を配布する。また、授業のなかで、テキストを紹介する。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

授業内で複数の課題を提示する。これらの課題 (70%) と平常点 (30%) を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケート結果は概ね好評であった。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室を使用する。大学から配布された ID とパスワードを用意すること。

【その他の重要事項】

受講生はパソコンの基本的な操作（キー入力やファイルの保存）を既に修得していることが望まれる。

この授業では情報処理教室を使用するため、受講者数に制限を設けている。受講申し込みについては掲示やガイダンスで案内する。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Students learn both basic and practical skills on the internet and multimedia.

PRI100HA

統計とデータ分析

渡邊 誠

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：EXCEL を使って統計学の基礎とデータ分析法を学び環境データを理解する

統計学は環境問題はもちろんの事、様々な現象（社会的、自然的）を定量的に分析し論理的に最適な判断を下すために必要な基礎知識である。例えば IPCC（気候変動に関する政府間パネル）の報告書の中には世界平均の地上気温や海水面水位その他のデータが掲載されているが、同時に「不確実性の幅」、「5～95%が含まれる範囲」、「90%信頼区間」などという表現も含まれている。このような環境情報を読み解くには統計学の初歩的知識が必要となる。同時に情報検索やデータ処理に関する手法も習得しておく必要がある。本科目ではパソコンを利用しながら統計学の基礎とデータ処理法を学ぶことをテーマとしている。

【到達目標】

本科目では EXCEL を利用しながら様々な情報を読むための基礎を学習する。これにより統計的知識などを実際の環境データの分析に応用できる力を身に付けることを目標としている。もちろん統計学の初歩とデータ分析法を学習することは、環境学への応用というだけではなく、大学生として身に付けるべき教養という側面もあるだろう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半は学習支援システムを利用した開講となります。本授業の開始日は 4 月 28 日とします。各回の授業内容およびその他の連絡事項等は学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明を行う。
第 2 回	情報実習室の利用法	情報環境の説明と各種ソフトウェア＋ネットワークの利用のしかたについて。
第 3 回	EXCEL 実習 1	表の作成と演算、データベース機能、グラフ機能、相対参照と絶対参照・複合参照など。
第 4 回	EXCEL 実習 2	各種関数の利用法、IF 関数による条件分岐、多分岐構造と階層性など。
第 5 回	EXCEL 実習 3	論理演算、複雑な条件判断を伴う処理、統計関数の利用法など。
第 6 回	環境データの検索と分析 1	環境問題を含む社会・自然分野などにおける各種データの検索と、整理、分析手法など。
第 7 回	環境データの検索と分析 2	環境問題を含む社会・自然分野などにおける各種データの検索と、整理、分析手法など。
第 8 回	統計学入門 1	代表値（平均値、モード、メディアンなど）について。ランダム性と正規分布、様々な分布について。分布の中心はどこなのか？なぜ正規分布が現れるのか？
第 9 回	統計学入門 2	散布度（偏差、偏差平方和、分散、標準偏差、レンジ、変動係数など）について。分布の広がり（バラツキ）の程度をどのように計るのか？
第 10 回	統計学入門 3	データ位置（基準値、偏差値とその統計的意味、正規分布とその面積など）について。例えば偏差値が 70 であるとは、55 であるとは統計的にどのような意味か？
第 11 回	統計学入門 4	相関分析と回帰分析（相関係数と 2 つの量の関係の強さ、最小自乗法の考え方、単回帰分析と重回帰分析など）について。因果関係を見抜くにはどうすればよいか？
第 12 回	統計学入門 5	統計的推定（母集団と標本、点推定と区間推定、信頼区間など）について。サンプル調査から全体の様子を推定するには？
第 13 回	統計学入門 6	統計的検定（仮説と検定、危険率と有意水準、帰無仮説・対立仮説と棄却・採択など）について。

第 14 回 総括 様々な現象を統計的に理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。毎回、授業内容を復習してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。必要に応じてプリントなどを配布します。

【参考書】

開講時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半が学習支援システムなどでの開講となったこととともない、現段階では成績評価の方法と基準は、出題されるレポートの提出状況（充実度）など 100 %、とします。

【学生の意見等からの気づき】

授業をゆっくりと進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

授業では毎回情報実習室を利用します。受講にあつたては皆さんのパソコン経験の有無は問いません。

【その他の重要事項】

この科目は統計学を初歩から学習していきますので、受講に際しての数学的な予備知識はあまり必要としていません。

この科目は「環境モデル論 I」「環境モデル論 II」に関連する科目としても位置づけられています。環境問題の学習をより発展させていくためにもそれらを履修することをお勧めします。

この授業では情報実習室を使用するため、受講者数に制限を設けています。受講申し込みについては履修の手引きを参照ください。

旧科目名称「統計概論」を修得済の場合、本科目の履修はできません。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Theme: Introduction to statistics and data processing with EXCEL use
This course is to learn the fundamentals of statistics. At the same time, we acquire skills for data-processing techniques by use of personal computers. The software EXCEL is used in a computer-practice room. In the earlier stage of this course, we master the utilization techniques of it. After that the concept of statistical distributions is examined. We learn the basic items such as average values, mode, median, deviation, variance, standard deviation, range, and so on. The correlation and regression analyses are studied. Fundamentals of statistical testing and estimation techniques are introduced in the latter stage of this course.

COT100HA

ネットワークとマルチメディア

松本 倫明

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インターネットとマルチメディアの基礎と応用を学ぶ。

近年、インターネットを用いた情報交換が活発に行われている。それにもない、画像・音声・動画などのマルチメディアに触れる機会も多くなった。この授業では、インターネットとマルチメディアの基礎と応用について学ぶ。さらに、インターネットの光と影の部分にも焦点を当て、情報倫理についても触れる。

【到達目標】

この授業を通じて習得される情報処理技術は次のとおりである。

1. 画像処理の基本的な技術を習得することができる。
2. 模式図を自作することができる。
3. ウェブページを制作することができる。
4. インターネットにおける情報発信の技術を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業開始日：4月27日

実習形式で授業を進める。例題にもとづいて操作方法を学び、つぎに課題を行なって操作方法の理解を確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・基本操作方法のおさらい	授業の進め方に関する説明をする。パソコンの基本的な操作を確認する。キーボードとマウスを用いた入力など。
第 2 回	ファイル・フォルダ・木構造	ファイル・フォルダ・木構造の基本を学ぶ。
第 3 回	ペイント系画像処理：Photoshop による実習	Photoshop による写真や画像の処理方法を学ぶ。
第 4 回	ドロー系画像処理：基本	ドロー系画像処理ソフトを用いた、画像処理の基本を学ぶ。
第 5 回	ドロー系画像処理：自由課題	ドロー系画像処理ソフトを用いて自由課題を制作する。
第 6 回	Web ページ製作：HTML の基本	Web ページ作成の基本を学ぶ。HTML について重点的に学ぶ。
第 7 回	Web ページ製作：CSS の基本 (1)	CSS について学ぶ。
第 8 回	Web ページ製作：CSS の基本 (2)	CSS について学ぶ。
第 9 回	Web ページ製作：課題ページの作成 (1)	Web ページの自由課題を作成する。
第 10 回	Web ページ製作：課題ページの作成 (2)	Web ページの自由課題を作成する。
第 11 回	Web ページ製作：課題ページのまとめ	自由課題のまとめと評価を行う。
第 12 回	WWW の仕組み	WWW の仕組みを学習し、情報発信と受信の仕組みを理解する。
第 13 回	情報検索のコツと練習	WWW における効率的な情報検索の方法を学ぶ。
第 14 回	インターネットの光と影：情報倫理	インターネットにおける情報倫理を学ぶ。様々な事例を取り上げ、インターネットの利用における問題点や注意点を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。課題を行う時間を授業中に設けるが、ひとによってはその時間で足りないかもしれない。その場合には授業時間外で課題を行う。

【テキスト（教科書）】

WWW を通じて教材を配布する。また、授業のなかで、テキストを紹介する。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

授業内で複数の課題を提示する。これらの課題 (70%) と平常点 (30%) を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケート結果は概ね好評であった。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室を使用する。大学から配布された ID とパスワードを用意すること。

【その他の重要事項】

受講生はパソコンの基本的な操作（キー入力やファイルの保存）を既に修得していることが望まれる。
この授業では情報処理教室を使用するため、受講者数に制限を設けている。受講申し込みについては掲示やガイダンスで案内する。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Students learn both basic and practical skills on the internet and multimedia.

LIN100HA

英語 I（スキルアップ科目）

平野井 ちえ子

配当年次／単位：1～4 年／1 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大人の初級レベルのコミュニケーションに親しみをもてるよう、e-learning 教材や authentic な映画などを用いて、日常会話の基礎力を養います。

【到達目標】

英語でのコミュニケーションに親しみを持つことが第一目標です。教材の英語と生の英語の違いを学ぶことも重要です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

【重要】 学習システム不具合のため、本講座の初回授業日を 4 月 27 日 月曜日に変更しました。初回は、資料配信型の授業ですので、4 月 27 日以前にも、今後の学習支援システムの回復に合わせて、順次「お知らせ」「教材」「課題」「アンケート」などをアップロードしていきます。随時確認して履修判断の参考にしてください。第 2 回授業については、学習支援システムで確認してください。

最初は、後述のテキストと同 e-learning 教材により、基礎的なリスニングとスピーキングの力を養います。教材に慣れてきたら、インプットのバラエティを豊かにし authentic な英語表現になじむため、随時映画やドラマの断片も教材とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	シラバスと後述のテキストに基づいて、講座概要を説明します。 e-learning 教材のデモンストレーションもあります。受講を希望する人は、必ず出席してください。
第 2 回	テキスト Chapter1・2 (旅行編)	‘Where Do I Get the Bus?’ (Getting information) ‘Do You Have a Reservation, Ma’am?’ (Checking in at a hotel)
第 3 回	テキスト Chapter3・4 (旅行編)	‘Could You Repeat That?’ (Asking for directions) ‘I’ll Take the Wrangler Convertible’ (Renting a Car)
第 4 回	テキスト Chapter5・6 (旅行編)	‘Would You Like Soup or Salad?’ (Ordering a meal) ‘Where’s the Fitting Room?’ (Shopping for clothes)
第 5 回	テキスト Chapter7・8 (旅行編)	‘Would You Mind Taking My Picture?’ (Asking for a favor) ‘Good to See You!’ (Meeting a friend)
第 6 回	テキスト Chapter9・10 (旅行編)	‘I Enjoyed My Stay’ (Checking out of a hotel) ‘Aisle Seat, Please’ (Expressing preference)
第 7 回	テキスト (旅行編) の応用	テキスト (旅行編) で学んだ状況と表現の応用として、映画やドラマに登場する類似の場面を扱います。
第 8 回	テキスト Chapter13・14 (留学編)	‘So, What’s Your Major?’ (Self-introduction) ‘I’ll Try to Do My Best’ (Getting advice)
第 9 回	テキスト Chapter16・17 (留学編)	‘Do You Have Any ID?’ (Opening a bank account) ‘How about Sea Mail?’ (Sending a package)
第 10 回	テキスト Chapter18・19 (留学編)	‘Would You Like to Join Us?’ (Inviting a friend) ‘I Have a Sore Throat’ (Buying medicine)
第 11 回	テキスト (留学編) の応用	テキスト (留学編) で学んだ状況と表現の応用として、映画やドラマに登場する類似の場面を扱います。

- 第12回 復習(1) テキスト Model Dialogue 復習のための小テスト(口頭)を行います。今期全体についてのポイント講義を行います。
- 第13回 期末試験と復習(2) 13回分の学習の定着度を確認するため、リスニングを含む筆記試験を行います。この試験では、正確さを重視します。直前にポイント講義と質疑応答・復習をします。
- 第14回 復習(3) 期末試験を返却して徹底解説します。これに基づく学習アドバイスも行います。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

毎回の講義で紹介される資料・URL等を利用して予習・復習をしてください。授業前に、各 Chapter の Communication Focus には目を通してください。授業後は、Main Dialogue と Interview を復習してください。配布プリントがある日は、その復習も必要です。授業内でのタスクのために、Model Dialogue は確実に覚える必要があります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

Viva! San Francisco (Macmillan Languagehouse)
written by Hiroto Ohyagi and Timothy Kiggell.
2,000 JPY

【参考書】

URL(例)

<https://www.expedia.co.uk/>

<https://www.ox.ac.uk/gazette/>

<https://www.londontheatre.co.uk/> など。

【成績評価の方法と基準】

平常点(50%)と期末試験(50%)から総合的に評価します。合計4回以上の欠席があった場合、単位の取得はできません。

【学生の意見等からの気づき】

「実践的な英語表現が身につけてよかった」・「映画を用いたタスクが楽しかった」など、前向きなコメントが多く嬉しく思いました。「映画のタスクをもっとやりたかった」という意見もあったので、2020年度の受講生の様子を見ながら、教材英語と authentic な英語のバランスを調整したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

CALL教室での授業です。

【その他の重要事項】

当該教室では飲食厳禁です。皆で利用する機器や教材を大切に扱ってください。受講を希望する方は、必ず初回授業に出席してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

You will be encouraged to improve your everyday conversation in English. Learning materials include those for CALL(Computer-assisted-language-learning) and authentic movies and drama which can be adult learner-friendly.

LIN100HA

英語 I (スキルアップ科目)

板橋 美也

配当年次/単位：1~4年/1単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金2/Fri.2

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

英語の日常会話表現に親しもう

【到達目標】

日常生活に必要なリスニング力が身に付き、様々な状況で適切な英語の表現を用いることができるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書や補足教材を用いながら、授業中にできるだけ多くの英語を解説とともに聴き、それぞれのテーマの表現に耳を慣らします。さらに、耳でおぼえた表現を適切な発音で用いることが出来るように、overlapping, repeating, shadowing などによる練習を適宜行います。

この授業は5月8日に開始します。オンライン化に伴う授業の進め方などの変更については、この日までに学習支援システム上でお知らせします。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の内容、進め方についての説明
第2回	教科書 Units 1	トラブルや困難に巻き込まれたときの会話を聞き取る練習をしながら、位置・場所に関する表現をおぼえます。乗り物に関する会話を聞き取る練習をしながら、時間・頻度に関する表現をおぼえます。
第3回	教科書 Units 2	ショッピングに関する会話を聞き取る練習をしながら、数量・距離・長さに関する表現をおぼえます。
第4回	教科書 Units 3	スポーツ・エンターテインメントに関する会話を聞き取る練習をしながら、感情に関する表現をおぼえます。
第5回	教科書 Units 4	食事に関する会話を聞き取る練習をしながら、勧誘・提案・依頼に関する表現をおぼえます。
第6回	教科書 Units 5	旅行・レジャーに関する会話を聞き取る練習をしながら、判断・評価に関する表現をおぼえます。
第7回	教科書 Units 6	ビジネス・オフィス関連の会話を聞き取る練習をしながら、経験・完了に関する表現をおぼえます。
第8回	教科書 Units 7	インターネット・コンピュータ関連の会話を聞き取る練習をしながら、情報の交換に関する表現をおぼえます。
第9回	教科書 Units 8	金銭・費用関連の会話を聞き取る練習をしながら、方法・手段に関する表現をおぼえます。
第10回	教科書 Units 9	ホテルでの会話を聞き取る練習をしながら、原因・理由に関する表現をおぼえます。
第11回	教科書 Units 10	天候に関する会話を聞き取る練習をしながら、予定・日程に関する表現をおぼえます。
第12回	教科書 Units 11	電話での会話を聞き取る練習をしながら、許可・義務に関する表現をおぼえます。
第13回	教科書 Units 12	授業の内容に基づいた試験を行います。
第14回	試験とまとめ	授業の内容に基づいた試験を行います。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

それぞれの週の Unit の問題を、教科書付属の自習用CDを用いて予習してください。また、授業で学んだ表現を授業後に復習しておきましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

Listening Practice for Daily Expressions (鶴見書店)

【参考書】

必要に応じて指示します

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み (50%) と期末試験 (50%) から総合的に評価します。欠席 4 回で単位取得資格を失いますが、その回数に至らなくても、欠席回数が多くなればその分授業への取り組みの評価に影響します。期末試験を受けない場合も、単位取得資格を失います。

【学生の意見等からの気づき】

授業によってリスニングの時間を確保することができたという感想が多くみられましたが、「継続は力なり」ですので、授業以外にも自主的にリスニングの時間を作ることで、さらにスキルアップをめざしましょう。

【その他の重要事項】

本講義は受講者多数の場合、初回授業にて選抜または抽選を行います。受講を希望する方は、必ず初回授業に出席してください。

【Outline and objectives】

Daily Expressions in English

LIN100HA

英語Ⅱ（スキルアップ科目）

磯部 芳恵

配当年次／単位：1～4 年／1 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this course, students study English holistically (listening, speaking, writing, reading) using a textbook accompanied by videos to increase their knowledge and understanding of many important aspects of American culture and society.

【到達目標】

The goal of this course is to enable students to learn about American culture and society. By paraphrasing and acting out students should be able to develop communication skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】**1. Listening**

Students are taught: general comprehension(listening for gist, looking for detailed information, dictation close)

2. Speaking

Students are taught: paraphrasing and acting out

3. Writing (a reaction paper and the favorite line in each unit)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Unit 1 Andy Meets Miranda	About the course, Words & phrases, first viewing, listening exercise
第 2 回	Unit 1 Andy Meets Miranda	Second viewing, exercises and acting out
第 3 回	Unit 2 Andy's First Day at Runway	Words & phrases, first viewing, listening exercise
第 4 回	Unit 2 Andy's First Day at Runway	Second viewing, exercises and acting out
第 5 回	Unit 3 Miranda, the Almighty	Words & phrases, first viewing, listening exercise
第 6 回	Unit 3 Miranda, the Almighty	Second viewing, exercises and acting out
第 7 回	Unit 4 Andy's Metamorphosis	Words & phrases, first viewing, listening exercise
第 8 回	Unit 4 Andy's Metamorphosis	Second viewing, exercises and acting out
第 9 回	Unit 5 Andy Performs a miracle	Words & phrases, first viewing, listening exercise
第 10 回	Unit 5 Andy Performs a miracle	Second viewing, exercises and acting out
第 11 回	Unit 6 Andy's Stock Goes Up	Words & phrases, first viewing, listening exercise
第 12 回	Unit 6 Andy's Stock Goes Up	Second viewing, exercises and acting out
第 13 回	Review	Vocabulary review and discussion about
第 14 回	Feedback	Overall review and feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students need to prepare for and review each session by using textbooks, references, and distributed materials.

Students are required to be prepared for exercises A, B & E. 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

The Devil Wears Prada (松柏社、2,200 円)

【参考書】

An English-Japanese dictionary will be useful. A good online English-Japanese dictionary can be found here:

<http://www.alc.co.jp/>

【成績評価の方法と基準】

Class participation 30 %

Acting out 30 %

Final test 40 %

Unexplained/unjustified absences exceeding three class sessions may disqualify students from obtaining credit for the course. Lateness exceeding 15 minutes without justification will count as one-third absence.

【学生の意見等からの気づき】

Students have been happy with this course in the past and currently no student survey data is available to support major changes. The instructor always welcomes and encourages students to make suggestions to improve the course at anytime.

【学生が準備すべき機器他】

Students should bring general stationery (e.g. pen, pencil, glue, paperclips).

【その他の重要事項】

本講義は受講者多数の場合、初回授業にて選抜または抽選を行います。受講を希望する方は、必ず初回授業に出席してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

In this course, students study English holistically (listening, speaking, writing, reading) using a textbook and accompanied by videos to increase their knowledge and understanding of many important aspects of American culture and society.

LIN100HA

英語Ⅲ（スキルアップ科目）

磯部 芳恵

配当年次／単位：1～4年／1単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水4/Wed.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course will integrate all language skill areas. Listening and reading exercises will be used to acquaint students with a variety of current global topics. Speaking and writing activities will be applied to organize their ideas and opinions. Students will develop discussion and critical thinking skills.

【到達目標】

The goal of this course is to develop students' abilities to communicate confidently in English and to be able to express one's thoughts clearly.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとりま各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月23日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Course introduction Unit 1	Grammar and vocabulary
第2回	A great read Unit 1	Conversation
第3回	A great read Unit 1	Reading
第4回	A great read Unit 1	Review
第5回	Unit 2 Technology	Grammar and vocabulary
第6回	Unit 2 Technology	Conversation
第7回	Unit 2 Technology	Reading
第8回	Unit 2 Technology	Review
第9回	Unit 3 Society	Grammar and vocabulary
第10回	Unit 3 Society	Conversation
第11回	Unit 3 Society	Reading
第12回	Unit 3 Society	Review
第13回	Checkpoint 1	Review Unit 1-3
第14回	Wrap-up and final exam	Wrap-up and final exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students need to prepare for and review each session by using textbooks, references, and distributed materials.

Preparation for each unit, reading and writing a summary and doing the exercises. Get ready for the recitation of Obama's speech in June. 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Viewpoint 2(Cambridge University Press)

『オバマ演説集』（朝日出版社）1,000円

【参考書】

An English to English Dictionary is recommended.

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにもない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

Students have been happy with this course in the past and currently no student survey data is available to support major changes.

The instructor always welcomes and encourages students to make suggestions to improve the course at anytime

【その他の重要事項】

Attendance is important and this attendance policy will be explained in the first class.

本講義は受講者多数の場合、初回授業にて選抜または抽選を行います。受講を希望する方は、必ず初回授業に出席してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This course will integrate all language skill areas. Listening and reading exercises will be used to acquaint students with a variety of current global topics. Speaking and writing activities will be applied to organize their ideas and opinions. Students will develop discussion and critical thinking skills.

LIN100HA

英語Ⅳ（スキルアップ科目）

磯部 芳恵

配当年次／単位：1～4年／1単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course focuses on improving the students' communication skills by their summarizing news stories and doing role-playing in order to be better able to deal with business situations in the future.

【到達目標】

This course aims to develop business communication skills that will help learners to interact in a business context and be able to give a convincing presentation.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

Students practice listening and speaking using the news digest and then moves on to the main textbook.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Course introduction & Unit 1	Mini lesson
第2回	Unit 1 Working life	Vocabulary
第3回	Unit 1 Working life	Video and discussion
第4回	Unit 2 Projects	Vocabulary
第5回	Unit 2 Projects	Key expressions
第6回	Unit 3 Leisure time	Vocabulary
第7回	Unit 3 Leisure time	Key expressions
第8回	Review	Review Unit 1-3
第9回	Unit 8 Working together	Vocabulary
第10回	Unit 8 Working together	Vocabulary
第11回	Unit 8 Working together	Key expressions
第12回	Unit 12 Innovation	Vocabulary
第13回	Unit 12 Innovation	Key expressions
第14回	Wrap-up and final exam	Presentation and in-class test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students need to prepare for and review each session by using textbooks, references, and distributed materials.

Students will do the reading part at home and get prepared for presentations. 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Business Result Intermediate(Oxford University Press)

【参考書】

Students must have access to a computer with internet connection in order to complete some home research tasks.

【成績評価の方法と基準】

Attendance & Participation 40%, Presentation 20%, Test40%.

**Class attendance is a course requirement.

Students are allowed no more than three absences in the semester.

【学生の意見等からの気づき】

Students will be given more opportunities to study the current news.

【その他の重要事項】

Attendance is important and the attendance policy will be explained in the first class in September.

※本講義は受講者多数の場合、初回授業にて選抜または抽選を行います。受講を希望する方は、必ず初回授業に出席してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This course focuses on improving the students' communication skills by their summarizing news stories and doing role-playing in order to be better able to deal with business situations in the future.

LIN100HA

テーマ別英語 1 (スキルアップ科目)

王 川菲

配当年次/単位：1～4年 / 1単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

This course introduces some major issues featuring modern Japanese culinary history and its contemporary culture. It deconstructs contemporary Japanese culinary culture and trace the historical underpinnings of its contemporary scenes. Through the lens of food, some key concepts, including localization, transnational flows, global and local interactions, and food sustainability are also explored. Students will be expected to keep up with readings, give presentations, contribute to class discussions, as well as design and complete their own research project related to Japanese culinary culture in the form of webpage.

【到達目標】

Students will acquire the following skills.

1. To understand modern Japanese food history and its contemporary culture.
2. To understand some major notions of globalization
3. To analyze empirical data and produce analytical conclusions
4. To express personal opinions and participate in academic conversations, discussions, and debates.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

This course begins on APRIL 23 and will be running online. Conduct research project and present in the form of webpage.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Orientation	Course introduction, rules, and requirements. Lecture by the instructor: A background lecture on the globalization of Japanese culinary culture will establish the background of this course. There are no required readings in week 1. However, in class, each student will be asked to share their knowledge, observations and experiences of Japanese food and cuisine.
Week 2	Traditional and modern Japanese cuisine	Rath, Eric C. (2016) "What is Traditional Japanese Food?" In Japan's Cuisines: Food, Place and Identity, pp.17-33. Reaktion Books, 2016.
Week 3	The historical roots of contemporary Japanese food	Brau, Lorie. (2018) "Soba, Edo Style: Food, Aesthetics, and Cultural Identity," in Nancy K. Stalker edited, Devouring Japan: Global Perspectives on Japanese Culinary Identity, pp. 65-80. Oxford University Press.
Week 4	Cafe as a social space in contemporary Japan	White, Merry. (2012) "Japan's Cafes: Coffee and the Counterintuitive," "Modernity and the Passion Factory," in Coffee Life in Japan, pp. 19-41. University of California Press.
Week 5	Contemporary Japanese culinary culture	Bestor, Theodore C. (2006) "Kaitenzushi and Konbini: Japanese Food Culture in the Age of Mechanical Reproduction," in Richard Wilk (ed), Fast Food/Slow Food: the cultural economy of the global food system, pp. 115-139. Altamira Press.

Week 6	Gender and Japanese food	Corbett, Rebecca. (2018) "Introduction," in <i>Cultivating Femininity: Women and Tea Culture in Edo and Meiji Japan</i> , pp. 1-24, University of Hawaii Press, 2018.	4.Final report Students are required to make visual reports and submit its URLs for evaluation.
Week 7	Mid-term exam	Students presentations of research proposal	【実務経験のある教員による授業】 本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。
Week 8	Food waste in Japan	Siniawer, Eiko Maruko. (2018) "Discarding Cultures: Social Critiques of Food Waste in an Affluent Japan," in Nancy K. Stalker (ed.) <i>Devouring Japan: Global Perspectives on Japanese Culinary Identity</i> , pp. 287-301. Oxford University Press.	【None】 None
Week 9	Food inequality in Japan	Kimura, Aya H. (2018) "Hungry in Japan: Food Insecurity and Ethical Citizenship," in <i>The Journal of Asian Studies</i> Vol. 77, No. 2: 475 - 493.	【None】 None
Week 10	Japanese food nationalism	Stalker, Nancy K.(2018) "Rosanjin: The Roots of Japanese Gourmet Nationalism," in Nancy K. Stalker (ed), <i>Devouring Japan: Global Perspectives on Japanese Culinary Identity</i> , pp. 133-149. Oxford University Press.	【None】 None
Week 11	Japanese food politics	Bestor, Theodore C. (2018) "Washoku, Far and Near: UNESCO, Gastrodiplomacy, and the Cultural Politics of Traditional Japanese Cuisine," in Nancy K. Stalker (ed), <i>Devouring Japan: Global Perspectives on Japanese Culinary Identity</i> , pp. 99-117. Oxford University Press, 2018.	【Outline and objectives】 This course introduces some major issues featuring modern Japanese culinary history and its contemporary culture. It deconstructs contemporary Japanese culinary culture and trace the historical underpinnings of its contemporary scenes. Through the lens of food, some key concepts, including localization, transnational flows, global and local interactions, and food sustainability are also explored. Students will be expected to keep up with readings, give presentations, contribute to class discussions, as well as design and complete their own research project related to Japanese culinary culture in the form of webpage.
Week 12	The globalization of Japanese culinary culture	Farrer, James, Chuanfei Wang, Christian Hess, Mônica R. de Carvalho, and David Wank. (2019) "Culinary Mobilities: The Multiple Globalizations of Japanese Cuisine," in Cecilia Leong-Salobir (ed.), <i>Routledge Handbook of Food in Asia</i> pp. 39-57. London: Routledge.	
Week 13	Course conclusion and students workshop	We will spend the first half of class on concluding this course. In the second half, students work on visual reports and prepare final presentations.	
Week 14	Final presentations	Students present research projects.	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are required to read the assigned articles (1-1.5 hour each), write two reading notes (500-750 words each) during the semester (1 hour each), prepare mid-term and final presentations (1-1.5 hour each) and complete final report (2 hours).

【テキスト（教科書）】
Materials are uploaded by the instructor. Students download articles assigned for reading every week.

【参考書】
Please refer to recommended readings suggested in class.

【成績評価の方法と基準】
Students' final grades will result on a combination of following components:
Class participation 10%
Mid-term exam (presentation of research proposal) 20%
Study note of weeks 1-6 (500- 750 words) 10%
Study note of weeks 8-12 (500-750 words) 10%
Final presentation 20%
Final report 30%

【学生の意見等からの気づき】
「本年度授業担当者変更によりフィードバックできません」

【学生が準備すべき機器他】
No

【その他の重要事項】
1. Reading notes
Students are required to write two reading notes (500-750 words each) during the semester.
2. Mid-term presentation of research proposal
Students will design research project and present in class. This presentation includes research topic, question, method, preliminary findings and expected results.
3. Final presentation
Students are required to present their research results in class.

LIN100HA

テーマ別英語3（スキルアップ科目）

R. G. ジェイムズ

配当年次／単位：1～4年／1単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土2/Sat.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

To develop students' awareness and ability to discuss healthcare issues and lifestyle choices in the modern world

【到達目標】

To expand students' English competence through readings, listening and discussions on the theme of health. Participants should be interested in both the theme and in improving their English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

Weekly topic texts will be studied and discussed in pairs and small groups. Students will be expected to contribute their ideas and experience. First class will be a Skype seminar on April 25, starting 10.40. See HOPPII for details

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Lesson 1	Course introduction and description	Mini-lesson and student selection if necessary
Lesson 2	Aging 1	Reading and discussion
Lesson 3	Aging 2	Listening, vocabulary and discussion
Lesson 4	Smoking 1	Reading and discussion
Lesson 5	Smoking 2	Listening, vocabulary and discussion
Lesson 6	Health and environment 1	Reading and discussion
Lesson 7	Health and environment 2	Listening, vocabulary and discussion
Lesson 8	Exercise and health 1	Reading and discussion
Lesson 9	Exercise and health 2	Listening, vocabulary and discussion
Lesson 10	Food and health 1	Reading and discussion
Lesson 11	Food and health 2	Listening, vocabulary and discussion
Lesson 12	Stress 1	Reading and discussion
Lesson 13	Stress 2	Listening, vocabulary and discussion
Lesson 14	Review and final exam	Review of course and final exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students need to prepare for and review each session by using textbooks, references, and distributed materials.

Background readings/Internet searches will be assigned in preparation for next class. Any class work unfinished in class time can be finished outside class. 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Handouts and reading materials will be provided by the lecturer.

【参考書】

Additional reading on the topics can be found in Healthtalk by Bert McBean (Macmillan) or other similar Health-related English coursebooks.

【成績評価の方法と基準】

Final written exam (60%), class participation (30%) and homework (10%)

【学生の意見等からの気づき】

Besides a core group of topics to be studied, an additional selection reflecting students' interests will also be offered.

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

Students should have the time to attend ALL classes, and participate actively in discussions.

【Classes by faculty members with practical experience】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Students will engage in readings and discussion of non-specialist issues in the area of healthcare. Bi-weekly readings will be followed by a variety of activities to activate relevant vocabulary and expressions appropriate for discussing the topic.

LIN100HA

テーマ別英語4（スキルアップ科目）

R. G. ジェイムズ

配当年次／単位：1～4年／1単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土2/Sat.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

To familiarize the students with, and enable them to discuss the development and social history of modern western popular music

【到達目標】

To expand students' English competence through listening to and discussing the various genres of music that contributed to the development of popular music in the 20th century.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

Classroom multimedia facilities will be used to examine a variety of genres of popular music and then readings and discussions in English will explore the social and cultural context of the music.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Lesson 1	Course introduction and description	Mini-lesson and student selection if necessary
Lesson 2	Gospel music and slavery	Sample and discuss early African-American music and its origin
Lesson 3	Blues and the rural poor	Examples of early "Country Blues" and its social context
Lesson 4	Country music and immigration	Samples of the music brought by early settlers from Britain and Europe, and the rural culture where it took root.
Lesson 5	Folk music and white protest	Examples of music used as tool of political expression during the Great Depression and later
Lesson 6	Jazz and music as art or entertainment	Examples of both popular jazz idioms and the growth of "serious" music
Lesson 7	R & B and race relations	Examples of early rock music and the fissures in society that were exposed by its growing popularity
Lesson 8	Mid-term course review	Open-book quiz of the first part of the course
Lesson 9	The music industry	An overview of money in music, from early sales of sheet music, the rise and fall of record labels to music promotion in the digital age.
Lesson 10	Rock music and youth culture 1	An examination of the rise of youth culture and the maturing of rock music, through the career of the Beatles and other "classic rock" musicians.
Lesson 11	Rock music and youth culture 2	A look at the major genres of rock music in the context of social and political unrest
Lesson 12	Rock reactions and the rise of punk	Some examples of rock music fragmentation in the face of political failure and the rise of the political right
Lesson 13	Soul music and civil rights	Examples of early gospel-influenced soul, through pop, dance and funk styles, in the context of the early and later civil rights movements.
Lesson 14	Review and final exam	Review of the course and final exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。

指定された文献は必ず読み、感想文（300字程度）を授業支援システムにアップロードし、ゼミ当日は積極的に議論に参加すること。発表担当文献については、事前準備を十分にしておく。フィールドワークは各自で学期中及び夏季・冬季休暇中に行う。加えて、卒論研究に関連する先行文献は教員に相談しながら各自で収集し、読み進め、先行研究レビューを執筆する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Handouts and reading materials will be provided by the lecturer.

【参考書】

Additional resources will be provided with each lesson, and students can access most of the musical examples from Youtube or Wikipedia.

【成績評価の方法と基準】

Final written exam (60%), class participation (30%) and homework (10%)

【学生の意見等からの気づき】

We will spend more time on reading and discussion sections of the class.

【学生が準備すべき機器他】

None, though Internet access would be useful to pursue further examples cited.

【その他の重要事項】

Besides an interest in the theme, students should want to actively participate in discussions in English, and be prepared to attend all the classes.

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Students will listen to illustrated lecture (presentation) on selected topics that illustrate the social and cultural context of popular music development in the 20th century. Lessons will also include readings and discussion of the topics.

HSS400HA

研究会 A

朝比奈 茂

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：月 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「なぜ人間は○○○だろうか？」といった素朴な疑問をもとに、文献資料より人間の生理的・心理的な仕組みや働きについて調査し、自らが問題を提示し解決しようとする理論と方法を習得することを目的とする。

【到達目標】

1. 研究テーマを選定し、レポート内にて自分の意見を述べるができる。
2. 文献購読をし、その内容をまとめ、ゼミ員に対して発表できる。
3. グループ内で、ディスカッションができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

設定したテーマに関する資料や文献を収集し、問題点や疑問点を列挙し、グループ内で共有する。グループ内では、集まった多くの情報を統合して、最終的にグループの意見として発表し、レポートを作成する。

授業は主に SGD（スモールグループディスカッション）形式を用いて行う。全体では毎回一人ずつ、全員の前で文献（日本語、英語どちらでも良い）講読を行い、発表の技術を身につける。グループそれぞれが目標やテーマを決め、調査および討論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	研究会の概要、ねらい、到達目標を明示し、年間スケジュールの確認を行う。また自己紹介を通じてゼミ員相互の理解を深める。
第 2 回	文献検索、プレゼンテーション、レポート作成	テーマ選びから文献検索、プレゼンテーション、レポート作成に関する説明を行なう。
第 3 回	テーマ設定、意見交換	グループ分けを行い、役割分担を決める。
第 4 回	文献講読、意見交換	今後の計画を立てる。グループワークを行う。
第 5 回	文献講読、意見交換	文献を講読し、意見交換を行う。
第 6 回	文献講読、意見交換	文献を講読し、意見交換を行う。
第 7 回	中間発表	グループごとに、これまで話し合った内容を発表する。
第 8 回	文献講読、意見交換	グループワークを行う。
第 9 回	文献講読、意見交換	文献を講読し、意見交換を行う。
第 10 回	文献講読、発表資料の作成	文献を講読し、意見交換を行う。
第 11 回	文献講読、発表資料の作成	文献を講読し、発表資料やレポートを作成する。
第 12 回	文献講読、発表資料の作成	文献を講読し、発表資料やレポートを作成する。
第 13 回	(1) 最終発表（報告会）	グループごと、テキストに関して発表を行い、ディスカッションを行う。
第 14 回	(1) 最終発表（報告会）	グループごと、テキストに関して発表を行い、ディスカッションを行う。
第 15 回	ガイダンス	秋学期のスケジュール確認を行うとともに、夏季休暇中に提示した課題の発表を行う。
第 16 回	研究（調査）テーマ検討および決定	秋学期に行う、研究（調査）テーマを各々で検討し、決定する。
第 17 回	資料収集および講読	図書館やインターネットを通じて、資料を収集する。仕入れた文献を整理して内容を理解する。
第 18 回	個人発表	個人ごとテーマに沿って、ゼミ員を前に、プレゼンを行う。発表終了後、質疑応答を行い、議論を深める。

第 19 回 個人発表

個人ごとテーマに沿って、ゼミ員を前に、プレゼンを行う。発表終了後、質疑応答を行い、議論を深める。

第 20 回 個人発表

個人ごとテーマに沿って、ゼミ員を前に、プレゼンを行う。発表終了後、質疑応答を行い、議論を深める。

第 21 回 個人発表

個人ごとテーマに沿って、ゼミ員を前に、プレゼンを行う。発表終了後、質疑応答を行い、議論を深める。

第 22 回 個人発表

個人ごとテーマに沿って、ゼミ員を前に、プレゼンを行う。発表終了後、質疑応答を行い、議論を深める。

第 23 回 個人発表

個人ごとテーマに沿って、ゼミ員を前に、プレゼンを行う。発表終了後、質疑応答を行い、議論を深める。

第 24 回 DVD 鑑賞

環境全般に関する DVD を視聴し、各々が感じたこと、考えたことを、グループに分けてディベート形式で討論する。

第 25 回 レクリエーション（スポーツ大会）

スポーツ活動を通じて、ゼミ員相互のコミュニケーションを図る。

第 26 回 外部講師による講演会

現在社会で活躍している講師（学外）を招聘し講義を行う。

第 27 回 卒業論文報告会

4 年生による卒業論文の発表を行う。

第 28 回 卒業論文報告会

4 年生による卒業論文の発表を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
 - ・設定したテーマに関する資料を図書館、WEB を活用して調べておく。
 - ・各自興味のあるテーマを決め、文献収集を行う。
 - ・思いついた疑問をそのままにしないで、調べるように習慣づける。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

・その科学が成功を決める リチャード・ワイズマン 文春文庫

【成績評価の方法と基準】

授業の参画状況（60%）、プレゼンテーション（25%）、レポート（15%）を総合して判断する

【学生の意見等からの気づき】

1. 毎回の講義はじめに、その日のスケジュールおよびポイントをを示すことで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。
2. 常に学生の反応を確認しながら、講義内容を柔軟に変化させることにより、集中力を持続させる工夫を行う。
3. 授業終了時に、次回の予告を行うことで、自宅での学習機会を増やすことにつなげる。

【関連の深いコース】

環境サイエンスコース

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This class is conducted as the seminar, emphasizing in the small group discussion. Students are supposed to be knowledgeable enough to participate in this workshop. Therefore students' preparation for this seminar is essential as well as their positive attitude and active involvement are required. By completing this workshop, students are expected to learn and improve the awareness of health and self-medication, which enable them to create an appropriate decision making and take an action accurately for the health-related issues.

ART400HA

研究会 A

板橋 美也

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：木 3/Thu.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

美術・デザインと異文化交流

【到達目標】

19 世紀・20 世紀の美術・デザイン・建築・ファッションをめぐる日本と他の国々との関わりについての理解を深めます。また、クラスでの発表とその準備作業を通して、資料収集・分析能力や調査内容の概要を報告する能力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

(1) 指定した文献や作品に関するディスカッションを通して、美術・デザイン・建築・ファッションや異文化交流の歴史について皆で考えます。

(2) 発表担当者が各自の関心にもとづいて調べた内容の発表をし、それについてゼミ生全員でディスカッションをします。

* (1) (2) いずれの場合も、ゼミ生それぞれが自分の考えや疑問点を積極的に発言することが求められます。

(3) 場合によっては実際に美術館または建築物などを見学に行く機会を設けたいと思います。

この授業は 5 月 7 日に開始します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	研究会の内容、進め方についての説明
第 2 回	文献購読または作品論評	指定された文献または作品についてディスカッション
第 3 回	文献購読または作品論評	指定された文献または作品についてディスカッション
第 4 回	文献購読または作品論評	指定された文献または作品についてディスカッション
第 5 回	文献購読または作品論評	指定された文献または作品についてディスカッション
第 6 回	文献購読または作品論評	指定された文献または作品についてディスカッション
第 7 回	文献購読または作品論評	指定された文献または作品についてディスカッション
第 8 回	文献購読または作品論評	指定された文献または作品についてディスカッション
第 9 回	文献購読または作品論評	指定された文献または作品についてディスカッション
第 10 回	文献購読または作品論評	指定された文献または作品についてディスカッション
第 11 回	文献購読または作品論評	指定された文献または作品についてディスカッション
第 12 回	グループ発表	教員が指定したテーマに関するグループ発表とそれにもとづいたゼミ生全員によるディスカッション
第 13 回	グループ発表	教員が指定したテーマに関するグループ発表とそれにもとづいたゼミ生全員によるディスカッション
第 14 回	春学期のまとめ	春学期に学んだことを復習・総括します
第 15 回	秋学期へのガイダンス	秋学期の内容と進め方についての説明
第 16 回	4 年生による研究紹介	4 年生が各自行っている研究に関する短い発表とそれにもとづいたゼミ生全員によるディスカッション
第 17 回	文献購読または作品論評	指定された文献または作品についてディスカッション
第 18 回	文献購読または作品論評	指定された文献または作品についてディスカッション
第 19 回	文献購読または作品論評	指定された文献または作品についてディスカッション
第 20 回	文献購読または作品論評	指定された文献または作品についてディスカッション
第 21 回	文献購読または作品論評	指定された文献または作品についてディスカッション
第 22 回	4 年生による研究発表	各自の研究テーマに関する発表とそれにもとづいたゼミ生全員によるディスカッション

第 23 回	4 年生による研究発表	各自の研究テーマに関する発表とそれにもとづいたゼミ生全員によるディスカッション
第 24 回	3 年生による研究発表	各自の研究テーマに関する発表とそれにもとづいたゼミ生全員によるディスカッション
第 25 回	3 年生による研究発表	各自の研究テーマに関する発表とそれにもとづいたゼミ生全員によるディスカッション
第 26 回	2 年生による研究発表	各自の選んだ本に関する発表とそれにもとづいたゼミ生全員によるディスカッション
第 27 回	2 年生による研究発表	各自の選んだ本に関する発表とそれにもとづいたゼミ生全員によるディスカッション
第 28 回	1 年間のまとめ	1 年間で学んだことを復習・総括します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された文献をよく読んでおき、授業中のディスカッションで自分の考えを述べる準備をしておいてください。また、研究発表に際しては、自らの問題意識にもとづいて主体的に調査を行います。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

随時指定します。

【参考書】

必要に応じて指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%とし、研究会への貢献度（発表の内容、授業中の発言、参加態度など）と年度末のレポートから総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】

授業中は遠慮せずに発言しましょう。

【関連の深いコース】

人間文化コース、グローバル・サステナビリティコース

【Outline and objectives】

Art, design and cultural exchanges

GEO400HA

研究会 A

杉戸 信彦

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火 5/Tue.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然環境にかかわる理解と考え方は、持続可能な社会を構築する鍵のひとつです。本研究会では、自然環境そのものに加え、自然環境と人間社会のかかわりあいについて、災害という側面を重視しながら主に自然地理学的な観点から考え、自然環境が人間社会に与える影響や、人間社会のあり方を見つめなおします。

【到達目標】

自然環境の地域的差異とその要因、歴史の変遷を具体的に説明できる。
自然環境と人間社会のかかわりあい、とくに自然環境が人間社会に与える影響を具体的に記述できる。
調査法や発表法を身につける。
地図を活用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

●追記 春学期の少なくとも前半はオンラインで開講する。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月28日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

～～～以下は当初記述

文献講読やグループ研究、野外実習、個人研究などを行います。キーワードは、自然環境、自然災害、地形環境、地震、津波、豪雨、火山噴火、気候変動、予測、土地条件、土地利用、ハザードマップ、災害の歴史、土地の歴史、防災教育、地域性、メカニズム、歴史の変遷などです。

とくに個人研究は、学生の皆さんの主体的な興味関心と情熱がベースになります。はじめは漠然としていても構いませんが、積極的に学び、意義深いテーマや重要な地域を見出すよう期待します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	趣旨説明、文献検索法説明、論文作成・発表法説明
第2回	時の話題	発表、質疑応答・討論
第3回	文献講読	意見交換
第4回	文献講読	発表、質疑応答・討論
第5回	課題演習	机上作業
第6回	野外実習	フィールド巡検
第7回	個人研究発表	発表、質疑応答・討論
第8回	個人研究発表	発表、質疑応答・討論
第9回	時の話題	発表、質疑応答・討論
第10回	グループワーク	意見交換
第11回	グループワーク	発表、質疑応答・討論
第12回	個人研究発表	発表、質疑応答・討論
第13回	個人研究発表	発表、質疑応答・討論
第14回	個人研究発表	発表、質疑応答・討論
第15回	個人研究準備	テーマの設定
第16回	時の話題	発表、質疑応答・討論
第17回	文献講読	意見交換
第18回	文献講読	発表、質疑応答・討論
第19回	課題演習	机上作業
第20回	野外実習	フィールド巡検
第21回	個人研究発表	発表、質疑応答・討論
第22回	個人研究発表	発表、質疑応答・討論
第23回	時の話題	発表、質疑応答・討論
第24回	グループワーク	意見交換
第25回	グループワーク	発表、質疑応答・討論
第26回	個人研究発表	発表、質疑応答・討論
第27回	個人研究発表	発表、質疑応答・討論
第28回	個人研究発表	発表、質疑応答・討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して予習・復習をする。
資料の収集・分析や事前調査、発表準備、発表後の整理、追加調査、とりまとめ等を行う。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員から配布ほか

【参考書】

授業中に紹介

【成績評価の方法と基準】

●追記 春学期の少なくとも前半をオンラインで開講することにもない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、学習支援システムで提示する。

～～～以下は当初記述

平常点やレポート等の総合評価（100%）。基準は研究会における取り組みの状況や到達目標の達成度等です。

【学生の意見等からの気づき】

知識や応用力、思考力に加え、基礎力やスキルをより涵養すべく、詳しく具体的な説明や効果的な進め方を心がけます。

【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース、環境サイエンスコース

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Understanding and thinking of the natural environment is a key to improve our social sustainability. We conduct various studies on (1) the natural environment itself, and (2) the relationship between the natural environment and the human society, with emphasis on natural disasters. The approaches are mainly based on physical geography. We examine the impact of the natural environment on the human society and sustainability of the human society.

LAW400HA

研究会 A

岡松 暁子

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火 5/Tue.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際社会で生じた、あるいは生じている様々な問題を素材として、国際平和と（国際社会の中の日本、国際紛争の解決、環境問題の改善、人権の保障、よりよい社会の実現）について考える。

【到達目標】

自分で設定したテーマについて、徹底的に調べ、研究し、発表し、議論することで、問題解決能力を身につける。

卒業時には、研究会修了論文を提出する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

専門文献講読、事例研究、個人の研究報告、時事問題に関する討論、ディベート等を行う。

学生による自主的な運営を期待する。

適宜、サブゼミを行う（読書会、映画鑑賞会等）。

教室でのゼミが可能になるまでの間、ZOOM によるオンラインゼミを行う。

詳細は、授業支援システムで確認のこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	国際平和の追求	ガイダンス 年間計画
第 2 回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第 3 回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第 4 回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第 5 回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第 6 回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第 7 回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第 8 回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第 9 回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第 10 回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第 11 回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第 12 回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第 13 回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第 14 回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第 15 回	国際平和の追求	個人発表と討論
第 16 回	国際平和の追求	個人発表と討論
第 17 回	国際平和の追求	個人発表と討論
第 18 回	国際平和の追求	個人発表と討論
第 19 回	国際平和の追求	個人発表と討論
第 20 回	国際平和の追求	個人発表と討論
第 21 回	国際平和の追求	個人発表と討論
第 22 回	国際平和の追求	個人発表と討論
第 23 回	国際平和の追求	個人発表と討論
第 24 回	国際平和の追求	個人発表と討論
第 25 回	国際平和の追求	個人発表と討論
第 26 回	国際平和の追求	個人発表と討論
第 27 回	国際平和の追求	個人発表と討論
第 28 回	国際平和の追求	4 年生による総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。報告者が事前に指定する文献を読み、それに基づいて十分に予習をしておくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、発表担当ではない場合、各 2 時間が目安である。

【テキスト（教科書）】

小寺彰・岩沢雄司・森田章夫編『講義国際法 [第 2 版]』有斐閣、2010 年。
小寺彰・森川幸一・西村弓編『国際法判例百選 [第 2 版]』有斐閣、2011 年。
岩沢雄司編『国際条約集』有斐閣。

【参考書】

松井芳郎『国際環境法の基本原則』東信堂、2010 年。

【成績評価の方法と基準】

発表：30 %

議論への参加：30 %

期末レポート：30 %

ゼミ運営への貢献：10 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

発表に必要な PC、機器使用のための鍵等を準備すること。

【関連の深いコース】

グローバル・サステイナビリティコース

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Participants will discuss international peace focusing on armed conflicts, international environmental issues, human rights etc.

TRS400HA

研究会 A

梶 裕史

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：金 5/Fri.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：「文化的景観」とエコツーリズム

「文化的景観」という考え方をベースに、地域固有の自然・文化資産を活かしたエコな地域形成・人間形成の可能性について、日本型のエコツーリズムや観光文化、エコミュージアムなどの視点と結びつけながら、各自の現地調査を通じて事例研究を行う。現地調査（各自の関心によりフィールドを決め、ヒアリング調査を必ず含んで自主的に企画する）で選ぶフィールドについては、特定の一か所に限らないテーマ設定のしかたもある。

【到達目標】

「環境表象論Ⅰ、Ⅱ」の内容を、自主的な現地調査の体験によって実感的に理解すること。また、前年度の沖繩離島ゼミ合宿の体験や、他のゼミ生の研究発表など様々なフィールドの話から、自己の現地体験とのつながりを見つけられ、研究成果を「共有」できるようにすること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

「授業計画」の通り、参加者個々の研究発表とその後の質疑応答・ディスカッションが中心となります。（ただし、「到達目標」に記した通り、他のゼミ生の研究とのつながりを見つけられ、「共有」できることが大切です。）授業開始は5月8日（金）の予定です。以下の「授業計画」の変更も含めて、全て、学習支援システムで案内します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	年間オリエンテーション、参加者自己紹介	年間スケジュールの説明等
第2回	個人研究発表①	発表は1人30分以内程度、題材は主として昨年度の研究結果に基づき、発表後にグループワークを含む質疑応答や教員のレクチャー等
第3回	個人研究発表②	(例) 竹富島の「住」と景観 その1
第4回	個人研究発表③	(例) 竹富島の「住」と景観 その2
第5回	個人研究発表④	(例) 竹富島の「住」と景観 その3
第6回	個人研究発表⑤	(例) 竹富島の「衣」（伝統的な染織の文化）その1
第7回	個人研究発表⑥	(例) 竹富島の「衣」（伝統的な染織の文化）その2
第8回	今年度の個人研究テーマ、現地訪問構想①	各自、現段階の構想を簡潔に発表
第9回	個人研究発表⑦	(例) 竹富島の「食」の文化 その1
第10回	個人研究発表⑧	(例) 竹富島の「食」の文化 その2
第11回	個人研究発表⑨	(例) 竹富島の祭事・行事と「うつぐみ」精神
第12回	個人研究発表⑩	(例) 竹富島の「観光文化」の歩みと将来
第13回	今年度の個人研究テーマ、現地訪問構想②	夏休み前の中間報告
第14回	個別指導	個別に提出する現地訪問計画書に基づく
第15回	秋学期オリエンテーション	スケジュール説明、夏休み中の個人研究の各自ふりかえり等
第16回	個人研究発表⑪	題材は昨年度または今年度（夏休み等）の研究結果に基づく。発表後にグループワークを含む質疑応答や教員のレクチャー等
第17回	個人研究発表⑫	(例) 離島のエコツーリズムと環境保全
第18回	個人研究発表⑬	(例) 離島の伝統芸能・祭事とアイデンティティー
第19回	個人研究発表⑭	(例) 港町の産業遺産（倉庫）を活用したツーリズム
第20回	個人研究発表⑮	(例) 宿場町の景観保全とツーリズム
第21回	個人研究発表⑯	(例) 農家民泊とグリーンツーリズム
第22回	個人研究発表⑰	(例) 里山における五感の環境教育（体験プログラム）
第23回	個人研究発表⑱	(例) 文芸の名作を活かしたツーリズム
第24回	個人研究発表⑲	(例) アニメツーリズム（フィルムツーリズム）の試み
第25回	個人研究発表⑳	(例) アート・ツーリズム（アートを活かした地域づくり、感性価値創造）

第26回	グループワーク①	個々の成果の共有につながるテーマを学生が自主設定
第27回	グループワーク②	前回の続きとまとめ（学生の自主作業）
第28回	学年末論文の構想発表（タイトル・要旨・仮目次等）と個別指導	論文に使用する参考文献リストも合わせて提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。各自、現地調査の準備にあたる予備知識や現地情報の収集（主に春学期）。授業内（教室）以外でのゼミ生相互の有益な情報交換。近場の自主的訪問等。なお、3・4年生は先輩として2年生（4限参加）の指導も行うことが求められます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定なし。

【参考書】

授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

発表内容および学年末論文 65 %、参加姿勢やゼミという組織の中での協働性・貢献度等 35 %

【学生の意見等からの気づき】

・好評の「教員と学生個々との近さ、親しみやすさ」という特色を今後も活かしていきます。

・「好きこそものの上手なれ」の信条に沿って、各自の趣味嗜好・資質に合った研究テーマを設定できることは、自律的な自己管理の意思が必要なものの、モチベーションを良好に持続できれば、多様性ゆたかな研究成果を共有できる面白さと刺激があるという声が、定評としてあります。

・学部のフィールドスタディほどの質は伴わないにせよ、自主的にヒアリングを必ず含む現地調査を企画し実行する経験は、コミュニケーション力の向上につながっているようです。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

・この金曜5限研究会は、前年度からの継続参加者（3・4年生）が履修登録対象となります。

【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース、人間文化コース

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Theme: "Cultural landscape" and ecotourism

Based on the concept of "cultural landscape", we link the viewpoints of eco-tourism, tourism culture, eco-museum and other aspects of Japanese-style ecotourism, tourism culture, and the possibility of human formation utilizing local natural and cultural assets. Conduct case studies through field surveys of their own. Regarding field to be selected in the field survey (field is decided according to their interests and voluntarily planned, including necessarily hearing survey), there are also methods of theme setting not limited to one specific place.

EVN400HA

研究会 A

北川 徹哉

配当年次/単位：2～4年 / 4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火 4/Tue.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

エネルギーは社会にとって血液であり、ほぼ永遠に考え続けなければならない重要な課題である。本研究会においては、国内外のエネルギー政策や技術の過去・現在、エネルギーと人間とのかかわり、エネルギーの未来像について勉強してゆく。

【到達目標】

1. 我が国におけるエネルギー政策の重要性を説明できる。
2. エネルギーと環境負荷軽減、人の暮らしとの関係を説明できる。
3. 交通・運輸、居住空間などにおけるエネルギーの現状と課題について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

前半は、指定したテキストあるいは資料を用いて各自の担当部分を決めて輪講してゆく。各回の担当者は自分の担当部分の内容を理解して、その他の文献も参照しながら内容をまとめ、発表に臨む。後半には、春学期の輪講で得た知識をベースに個人あるいはグループごとにテーマを設定して課題に取り組む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	テキスト・資料の内容	輪講するテキスト・資料の内容と社会・エネルギーとの関連性、輪講担当部分の取り決め
第2回	担当部分の発表・質疑応答	1番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第3回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	2番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第4回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	3番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第5回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	4番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第6回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	5番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第7回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	6番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第8回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	7番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第9回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	8番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第10回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	9番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第11回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	10番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第12回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	11番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第13回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	12番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第14回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	13番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第15回	調査テーマの選定	調査グループの決定、前半の輪講をヒントに調査テーマを考案、構想発表の準備
第16回	調査テーマの構想発表・討論（その1）	各自あるいは各グループによる調査テーマの構想発表と討論（第1回）
第17回	調査テーマの構想発表・討論（その2）	各自あるいは各グループによる調査テーマの構想発表と討論（第2回）
第18回	調査と分析（その1）	調査の方向性の修正、各自あるいは各グループによる調査・情報収集と分析の作業
第19回	調査と分析（その2）	各自あるいは各グループによる調査・情報収集と分析の作業、中間発表の準備
第20回	調査と分析（その3）	各自あるいは各グループによる調査・情報収集と分析の作業、中間発表の準備
第21回	中間発表・討論（その1）	各自あるいは各グループによる調査の進捗状況の発表と討論（第1回）
第22回	中間発表・討論（その2）	各自あるいは各グループによる調査の進捗状況の発表と討論（第2回）

第23回	調査と分析（その4）	調査の方向性の修正、各自あるいは各グループによる調査・情報収集と分析の作業
第24回	調査と分析（その5）	各自あるいは各グループによる調査・情報収集と分析の作業
第25回	調査概要書の作成について	調査概要書のフォーマットと注意事項の説明
第26回	調査概要書の執筆	各自あるいは各グループによるデータのとりまとめ、調査概要書の執筆
第27回	調査概要書の執筆・最終発表の準備	各自あるいは各グループによるデータのとりまとめ、調査概要書の執筆、最終発表の準備
第28回	調査概要書の提出・最終発表	各自あるいは各グループより調査概要書の提出、最終発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
 第1～14回：輪読箇所の精読と不明箇所の事前調査、発表用スライドなどの作成、発表の練習
 第15回：エネルギーと社会に関する時事問題・課題の抽出
 第16～17、21～22回：発表用スライドなどの作成、発表の練習
 第18～20、23～24回：各種文献・レポート・インタビューなどによる調査と分析
 第25～27回：調査概要書の執筆・データ整理
 第27～28回：発表用スライドなどの作成、発表の練習、調査概要書のりばい本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業時に指定する。

【参考書】

適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

レポート（調査概要書）（30%：論述の適切さ、到達目標1～3への到達度）、発表（40%：スライドなどの良好度、説明の正確さ、質疑応答の適切さ、到達目標1～3への到達度）、議論（30%：説明の正確さ、質疑応答の適切さ、到達目標1～3への到達度）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

おおむね好評でした。

【その他の重要事項】

楽しく、じっくりと勉強します。また、知識を脳裏に固定化するには質問するのが一番です。わからないことは遠慮せずに質問し、スッキリさせてゆきましょう。

【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース、環境サイエンスコース

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This class is a seminar for learning about the policies of energy and resources.

ECN400HA

研究会 A

國則 守生

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火 5/Tue.5, 火 4/Tue.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境経済学を中心とする経済学の考え方や手法への理解および批判的検討を通じて、現実の環境などの経済・社会問題への適用を考える。その他のアプローチとの比較なども行う。

【到達目標】

地球環境問題などの環境問題に対して、どのように対処してゆけばよいのかについて、主として経済学の観点から、発表、議論、批判的検討などを行い、各人がその発表力および応用力を身につけることを目標とする。その際、学生間での協働を活発に行い、お互い同士がチームとして向上することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 28 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

研究会は演習形式および資料に基づく学習形式で行う。研究会では、問題意識をもって、研究書・論文、新聞・雑誌記事等の輪読を中心に、発表およびディスカッションを行う。サブゼミなどもできる場合は実施し、総合力の獲得を目指す。研究会修了論文作成のための経過報告、最終発表なども実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	ゼミの進め方、スケジュールなどについて確認と討議
第 2 回	研究会修了論文の準備・発表等 (1)	論文の執筆方法について
第 3 回	研究会修了論文の準備・発表等 (2)	論文のテーマについて
第 4 回	文献講読 (1)	報告および討論
第 5 回	文献講読 (2)	報告および討論
第 6 回	文献講読 (3)	報告および討論
第 7 回	文献講読 (4)	報告および討論
第 8 回	文献講読 (5)	報告および討論
第 9 回	文献講読 (6)	報告および討論
第 10 回	文献講読 (7)	報告および討論
第 11 回	文献講読 (8)	報告および討論
第 12 回	文献講読 (9)	報告および討論
第 13 回	文献講読 (10)	報告および討論
第 14 回	春学期総括	春学期学習のまとめ
第 15 回	研究会修了論文の準備・発表等 (3)	中間発表
第 16 回	研究会修了論文の準備・発表等 (4)	中間発表の続き
第 17 回	文献講読 (11)	報告および討論
第 18 回	文献講読 (12)	報告および討論
第 19 回	文献講読 (13)	報告および討論
第 20 回	文献講読 (14)	報告および討論
第 21 回	文献講読 (15)	報告および討論
第 22 回	文献講読 (16)	報告および討論
第 23 回	文献講読 (17)	報告および討論
第 24 回	文献講読 (18)	報告および討論
第 25 回	文献講読 (19)	報告および討論
第 26 回	文献講読 (20)	報告および討論
第 27 回	研究会修了論文の準備・発表等 (5)	発表・討議
第 28 回	研究会修了論文の準備・発表等 (6)	発表・討議の続き

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。以下の各項目を必ず、実施する。

- 1) 演習ノートを用意し、毎週、決められた範囲の課題の予習・復習を行う。
- 2) サブゼミに出席する。
- 3) 各種課題を提出する。
- 4) 研究会修了論文執筆を基本とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストに代えて、研究書・論文、新聞・雑誌記事等は授業の事前に指示する。

【参考書】

必要に応じて、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (80%) および各人のテーマの取組姿勢と提出されたレポート等執筆 (20%) によって総合評価する。無断で研究会を欠席することは厳禁とする。

【学生の意見等からの気づき】

不明な点などを明らかにし、議論のなかで解明を目指したい。研究会修了論文執筆に関し、参考となる事項も研究会のなかで適宜紹介したい。サブゼミでの作業内容と連携を強化したい。

【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース、グローバル・サステイナビリティコース

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

The seminar provides students with the ability to understand economics. In particular, they will explore the intricate relationship between the market and the environment. They will also learn various kinds of tools and methods to correct the market failure concerning the environment in an active learning setting.

CMF400HA

研究会 A

小島 聡

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：金 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この研究会のテーマは「持続可能な地域社会の創造」である。特に、環境、経済、社会、文化、公共政策、SDGs など、多様な視点から、21 世紀における地域社会のソーシャルイノベーションについて総合的にアプローチする。また、市民、NPO、地方自治体、企業などの参加と協働に注目する。さらに、「持続可能な地域社会」について学内で探究しながら、高度な「アクティブラーニング」としての地域活動に取り組む。このような挑戦を通して、学生は、大学生としての総合的な能力を構築することをめざす。

【到達目標】

学生の到達目標は以下のとおりである。

- ・研究会の共通テーマ、学生の個人テーマに関する知識を獲得する。
- ・時事問題に関する知識を獲得し、現代社会を理解するための知見を涵養する。
- ・問題発見及び分析能力、対応策の立案能力を涵養する。
- ・地域実践に関する企画運営能力を身につける。
- ・研究会内及び学外における他者との協働力を身につける。
- ・文章力を涵養する。
- ・プレゼンテーションや討論をはじめとするコミュニケーション能力を涵養する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

研究会の共通テーマでは、認識を共有するためのテキストを輪読するとともに、高度なアクティブ・ラーニングである PBL（問題発見・解決型学習）として、特定地域との連携による実践・交流を行いながら、調査研究を実施し政策提言を含む報告書にまとめる。さらに基礎的な能力構築のために、ワークショップ技法の習得、書評の執筆、時事問題に関する討論などを日常の研究会に組み込む。なお、学生の個人研究では、各人が地域社会に関する任意のテーマを設定してゼミ研究論文を作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	研究会のミッションと運営方針、テーマ、1 年間のスケジュールなどを確認する。
第 2 回	前年度の共通テーマの成果に関する報告と共有	前年度の共通テーマの成果について報告した上で、質疑応答により共有する。
第 3 回	本年度の共通テーマの確認	本年度の共通テーマについて、背景と目的、想定される調査研究課題などを確認する。
第 4 回	文献講読	共通テーマに関する文献について、担当グループによる報告、議論を行う。
第 5 回	文献講読	共通テーマに関する文献について、担当グループによる報告、議論を行う。
第 6 回	文献講読	共通テーマに関する文献について、担当グループによる報告、議論を行う。
第 7 回	文献講読	共通テーマに関する文献について、担当グループによる報告、議論を行う。
第 8 回	文献講読	共通テーマに関する文献について、担当グループによる報告、議論を行う。
第 9 回	共通テーマに関する調査研究	春学期に行った共通テーマに関する調査研究の成果について、担当グループごとの報告、質疑応答、議論を行う。
第 10 回	共通テーマに関する調査研究	春学期に行った共通テーマに関する調査研究の成果について、担当グループごとの報告、質疑応答、議論を行う。
第 11 回	個人テーマの報告	個人テーマの調査研究計画と春学期の進捗状況に関する報告、質疑応答を行う。
第 12 回	個人テーマの報告	個人テーマの調査研究計画と春学期の進捗状況に関する報告、質疑応答を行う。
第 13 回	個人テーマの報告	個人テーマの調査研究計画と春学期の進捗状況に関する報告、質疑応答を行う。
第 14 回	地域連携プロジェクトの確認	夏期に実施する地域連携プロジェクトの目的と内容を確認する。

第 15 回	地域連携プロジェクトの検証	夏期に実施した地域連携プロジェクトについて検証し、秋学期の共通テーマに反映する知見を共有する。
第 16 回	共通テーマの調査研究	秋学期に行う共通テーマに関する調査研究について確認する。
第 17 回	共通テーマの調査研究	本年度の共通テーマについて、担当グループごとの報告、質疑応答、議論を行う。
第 18 回	共通テーマの調査研究	本年度の共通テーマについて、担当グループごとの報告、質疑応答、議論を行う。
第 19 回	共通テーマの調査研究	本年度の共通テーマについて、担当グループごとの報告、質疑応答、議論を行う。
第 20 回	共通テーマの調査研究	本年度の共通テーマについて、担当グループごとの報告、質疑応答、議論を行う。
第 21 回	共通テーマの中間報告	共通テーマに関する調査研究の進捗状況と知見について全体で確認し、本年度の最終成果に向けて調整を行う。
第 22 回	共通テーマの調査研究	担当グループごとの報告と質疑応答、議論を行う。
第 23 回	共通テーマの調査研究	担当グループごとの報告、質疑応答、議論を行う。
第 24 回	共通テーマの最終報告と総括	共通テーマについて各グループが最終報告を行った上で、提言報告書の作成に向けて、全体を総括しながら、本年度の成果を全員で共有する。
第 25 回	個人テーマの報告	個人テーマの調査研究結果に関する報告、質疑応答を行う。
第 26 回	個人テーマの報告	個人テーマの調査研究結果に関する報告、質疑応答を行う。
第 27 回	個人テーマの報告	個人テーマの調査研究結果に関する報告、質疑応答を行う。
第 28 回	1 年間のふりかえり	年度当初に掲げた研究会のミッションの実現について検証する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は以下の授業時間外の学習を行う（この授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする）。

- ・文献の事前学習、時事問題の情報収集、書評の作成。
- ・共通テーマに関する事前のグループワーク。
- ・個人テーマに関する論文執筆のための調査研究。

【テキスト（教科書）】

開講時の約 2 週間前までに決定し連絡する。

【参考書】

適宜、授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（70 %）、個人テーマへの取り組み姿勢とゼミ論文の執筆（30 %）による総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

特定地域に関する PBL（問題発見・解決型学習）を進めることについて、答えのない問題に取り組むこと、さらにチームとしての協働は能力構築にとって意義があると感じています。

【その他の重要事項】

この研究会は、ローカル・サステナビリティコースの学生を対象としています。したがって、履修にあたり、上記のコースコア科目とともに、研究会の共通テーマ、個人テーマと関連するコース共通科目及びコース連携科目を人間環境学部のカリキュラム全体から選択し、各人が有意義な履修プログラムを構築することで、研究会との相乗効果を達成することが望ましいと考えています。このような「戦略的履修」への手がかりや、思わぬ科目との出会いによって知的成長につながる「余剰の効用」とのバランスについては、相談に応じますから、積極的に助言をもとめてください。

【関連の深いコース】

ローカル・サステナビリティコース

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

The theme of this seminar is "the creation of sustainable community." In particular, we will approach synthetically about the social innovation of community in the 21st century from various viewpoints, such as environment, economy, society, culture, public policy, and SDGs. Moreover, we will take notice of participation and collaboration of citizen, NPO, local government, company, etc. Furthermore, we will tackle the local activity as advanced "active learning", with exploring "sustainable community" within the campus. The participants in this class shall aim at building the synthetic capability as a university student through such a challenge.

CMF400HA

研究会 A

小島 聡

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：金 5/Fri.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この研究会のテーマは、「持続可能な地域社会の創造」である。特に、SDGsと21世紀における地域社会のソーシャルイノベーションに関する学びを基盤として、様々な地域活動を企画し実践する。また学生は、卒業論文を完成させるための調査研究を行う。この研究会の目的は、学生が、社会人として必要な能力の基礎について習得しながら、将来のキャリアイメージを模索することである。

【到達目標】

学生の到達目標は以下のとおりである。

- ・ 共通テーマ、個人テーマに関する知識を獲得する。
- ・ 論文作成能力を身につける。
- ・ 問題発見及び分析能力、対応策の立案及び実施能力を涵養する。
- ・ 研究会内及び学外における他者との協働力を身につける。
- ・ プレゼンテーションや討論をはじめとするコミュニケーション能力を涵養する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

研究会の共通テーマでは、認識を共有するためのテキストを輪読するとともに、高度なアクティブ・ラーニングであるPBL（問題発見・解決型学習）として、特定地域との連携による実践・交流に参画する。さらに、研究会修了論文については各人がそれぞれのテーマに取り組み、成果については公開のプレゼンテーションも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	研究会のミッションと運営方針、テーマ、1年間のスケジュールなどを確認する。
第2回	前年度の共通テーマの成果に関する確認	前年度の共通テーマの成果について確認する。
第3回	本年度の共通テーマに関する検討	本年度の共通テーマについて、調査研究の内容、地域連携プロジェクトとの関連性などを検討する。
第4回	文献講読	共通テーマに関する文献について、担当グループによる報告、議論を行う。
第5回	文献講読	共通テーマに関する文献について、担当グループによる報告、議論を行う。
第6回	地域連携プロジェクトの企画	夏期に実施する地域連携プロジェクトのイメージと素案について検討する。
第7回	文献講読	共通テーマに関する文献について、担当グループによる報告、議論を行う。
第8回	文献講読	共通テーマに関する文献について、担当グループによる報告、議論を行う。
第9回	地域連携プロジェクトの企画	夏期に実施する地域連携プロジェクトの基本構想について検討する。
第10回	地域連携プロジェクトの企画	夏期に実施する地域連携プロジェクトの実施プログラムについて検討する。
第11回	地域連携プロジェクトの企画	夏期に実施する地域連携プロジェクトの工程について検討する。
第12回	個人テーマの報告	個人テーマ（研究会修了論文）の調査研究計画と進捗状況に関する報告、質疑応答を行う。
第13回	個人テーマの報告	個人テーマ（研究会修了論文）の調査研究計画と進捗状況に関する報告、質疑応答を行う。
第14回	地域連携プロジェクトの企画	夏期に実施する地域連携プロジェクトの企画内容を調整する。
第15回	秋学期の方向性の確認	秋学期の共通テーマの方向性を確認する。
第16回	地域連携プロジェクトの検証	夏期に実施した地域連携プロジェクトについて、成果と知見、課題などについて検証し、今後を展望する。
第17回	地域連携プロジェクトをふまえた提言作成	夏期に実施した地域連携プロジェクトをふまえた提言を作成する。
第18回	ソーシャルイノベーション・ミニF S	地域におけるソーシャルイノベーションの現場へのフィールドスタディを実施する。

第19回	文献講読	共通テーマに関する文献について報告し議論する。
第20回	文献講読	共通テーマに関する文献について報告し議論する。
第21回	ソーシャルイノベーション・ミニF S	地域におけるソーシャルイノベーションの現場へのフィールドスタディを実施する。
第22回	文献講読	共通テーマに関する文献について報告し議論する。
第23回	映像視聴と討論	共通テーマに関する映像を視聴し議論する。
第24回	ソーシャルイノベーション・ミニF S	地域におけるソーシャルイノベーションの現場へのフィールドスタディを実施する。
第25回	個人テーマの報告	個人テーマ（研究会修了論文）の調査研究結果に関する報告、質疑応答を行う。
第26回	個人テーマの報告	個人テーマ（研究会修了論文）の調査研究結果に関する報告、質疑応答を行う。
第27回	個人テーマの報告	個人テーマ（研究会修了論文）の調査研究結果に関する報告、質疑応答を行う。
第28回	研究会のふりかえり	年度当初に掲げた研究会のミッションの実現と各人の「社会人基礎力」の涵養についてふりかえる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は以下の授業時間外の学習を行う（本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする）。

- ・ 文献の事前学習。
- ・ 地域連携プロジェクトの企画準備。
- ・ 研究会修了論文執筆のための調査研究。

【テキスト（教科書）】

・ 開講時の約2週間前までに決定し連絡する。

【参考書】

適宜、授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（70%）、研究会修了論文に関する個人テーマへの取り組み姿勢（30%）による総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

PBL（問題発見・解決型学習）として、地域実践を企画運営することは、かなりの負担ですが、チームとして協働しながら、かつ学外の組織や人々と連携することで、社会的責任を体感し、研究会を通して、いわゆる「社会人基礎力」を育てていると感じています。

【その他の重要事項】

この研究会は、ローカル・サステイナビリティコースに登録した学生を対象としています。

したがって、履修にあたり、上記のコースコア科目とともに、研究会の共通テーマ、個人テーマと関連するコース共通科目及びコース連環科目を人間環境学部のカリキュラム全体から選択し、各人が有意義な履修プログラムを構築することで、研究会との相乗効果を達成することが望ましいと考えています。このような「戦略的履修」への手がかりや、思わぬ科目との出会いによって知的成長につながる「余剰の効用」とのバランスについては、相談に応じますから、積極的に助言をもとめてください。

【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

The theme of this seminar is "the creation of sustainable community." In particular, we will plan and practice the local activity based on learning about SDGs and the social innovation of community in the 21st century. Moreover, students shall conduct research for completing graduation thesis. The purpose of this seminar is for students to search for a future career image, with mastering the basic capability required as a member of society.

SOS400HA

研究会 A

ESTHER STOCKWELL

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：月 4/Mon.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

* Mass Media Research *

The media are everywhere in our industrialized world today. One of the important roles of the media is to extend our knowledge of the environment beyond places and events that we can experience directly. The media can determine our perceptions about the facts, norms, and values of society through selective presentation and by emphasizing certain themes. The media can affect audience conceptions of social reality and also help the audience to form their attitudes toward an issue, a thing or a nation. These concepts will be discussed in this subject.

【到達目標】

This course gives an introduction to current theoretical and practical debates regarding the role of the mass media in today's society. Some of the topics covered include media businesses, the dual role of the media as information source and entertainment, research into short-term and long-term effects of the media, media audiences, and mass communication models. During the course, students will learn how to question the degree to which the media influence us versus how we use the media to fit our preconceived ideas.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

Classes will consist of a series of short lectures and other visual materials, followed by group and class discussions on the concepts covered in the lectures. In addition, students will be required to prepare for class by reading assigned articles on the topics of the following class. In the first semester, students will mainly learn theory and an overview of the different aspects in mass communication. In the second semester, students will do their own research project regarding mass media effects.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Orientation	Overview of the course, online activities, and overview of Mass Media Research
第 2 回	Mass Media & Society	Mass communication vs. mass media / Mass media industries
第 3 回	Mass Media & Society	The changing technologies / The new media environment
第 4 回	Theories of Mass Media Studies	General theories of mass media / The role of theories
第 5 回	Theories of Mass Media Studies	The goals of mass media theory / Development of mass media effects theories
第 6 回	Theories of Mass Media Effects	General trends in effects theories / The Bullet Theory / The Limited-Effects Model
第 7 回	Theories of Mass Media Effects	Moderate effects theories / The Powerful Effects Model / Specific theories of mass media effects
第 8 回	Agenda Setting	The Chapel Hill study / The media agenda and reality / Applications of agenda setting
第 9 回	News Media	Effects of news media and political content / Thinking about news / Journalism objectivity
第 10 回	News Media	Effects of news media and political content / Thinking about news / Journalism objectivity
第 11 回	Persuasion in Mass Media	Persuasive effects of the media
第 12 回	Media Stereotypes & Bias	Effects of media stereotypes / Newspaper and foreign affairs / Sex role stereotypes / Racial stereotypes

第 13 回	Children Behavior & Mass Media	The presence of violent content / The causal link between viewing violence and behaving aggressively
第 14 回	Class Presentations and Feedback	Students give presentations on their selected topics and evaluate their peers' presentations
第 15 回	Mass Media Research Method	Quantitative analysis / Qualitative analysis
第 16 回	Mass Media Research Method	Quantitative analysis / Qualitative analysis
第 17 回	Writing Research Paper	Research, understand, and summarise the work of others / Use correct academic referencing
第 18 回	Writing Research Paper	Research, understand, and summarise the work of others / Use correct academic referencing
第 19 回	Literature Review	Library Search / Research, understand, and summarise the work of others
第 20 回	Literature Review	Library Search / Research, understand, and summarise the work of others
第 21 回	Literature Review	Library Search / Research, understand, and summarise the work of others
第 22 回	Method	Data Collection / Entry data
第 23 回	Method	Data Collection / Entry data
第 24 回	Method	Data Collection / Entry data
第 25 回	Analysis of Results	Using statistical software to analyse data
第 26 回	Analysis of Results	Using statistical software to analyse data
第 27 回	Interpretation of Results	Understand the meaning of the results from the data
第 28 回	Class Presentations and Feedback	Students give presentations on their selected topics and evaluate their peers' presentations. In addition, students will take part in class discussions about each presentation topic

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students need to prepare for and review each session by using textbooks, references, and distributed materials.

Students are expected to read reference materials for the next class. In addition, they need to write online forum postings after class for review purposes in the first semester. For the second semester, they will need to write a weekly learning journal to keep a record of their research progress. Therefore, students are expected to take about four hours for preparation and review a class.

【テキスト（教科書）】

There is no specified textbook for this course. Handouts will be provided in class.

【参考書】

David R. Croteau and William D. Hoynes (2013). Media/Society: Industries, Images, and Audiences. SAGE Publications.
John V. Pavlik and Shawn McIntosh (2014). Converging Media: A New Introduction to Mass Communication (4th Edition). Oxford University Press.
Shirley, Biagi (2014). Media/Impact: An Introduction to Mass Media. Wadsworth: Thomson.

【成績評価の方法と基準】

1st Semester: In-class participation (20%), a presentation (10%), a take-home exam (10%) and a written assignment (10%). 2nd Semester: Assessment will consist of 10 weekly learning journals (10%), a summary of pieces of literature (10%), a group presentation (10%) and a group research paper (20%). Note that if you miss 4 classes or more, you cannot pass this subject.

【学生の意見等からの気づき】

There were no particular requirements for this course from students. However, I would like this course to enable students to apply what they learnt in class to their daily lives through questioning general phenomena in their lives.

【その他の重要事項】

This class is open to students who have taken グローバル コミュニケーション or 'Stockwell'sゼミ B (Human Communication) before.

【関連の深いコース】

グローバル・サステイナビリティコース、人間文化コース

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

* Mass Media Research *

The media are everywhere in our industrialized world today. One of the important roles of the media is to extend our knowledge of the environment beyond places and events that we can experience directly. The media can determine our perceptions about the facts, norms, and values of society through selective presentation and by emphasizing certain themes. The media can affect audience conceptions of social reality and also help the audience to form their attitudes toward an issue, a thing or a nation. These concepts will be discussed in this subject.

ECN400HA

研究会 A

武貞 稔彦

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：金 5/Fri.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2020 年度は、「環境」がテーマです。持続可能な社会の構想には、「環境」という要素が欠かせません。開発途上国では経済成長や生活水準向上のために、環境に後戻りできない影響を与える開発が引き続き求められています。それらを単純に環境破壊だと指弾することは可能でしょうか。環境と経済や貧困削減の両立をどのように考えるべきか、先進国と途上国でそれらに違いはあるのか、そもそもなぜ環境を守る必要があるのか、といった問いについて考えていきます。

【到達目標】

本研究会では、(ア) 開発と環境保全をめぐる議論を広い視野から捉え、(イ) 自らの意見を持ちそれを人に伝え、(ウ) 将来の持続可能な社会の姿を想像・構想できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

受講者の積極的な提案に基づき、演習の方法等は随時見直しを行います。主に a) 基礎文献の精読、b) 与えられた課題に関するグループ調査とディスカッション、c) 参加者の意見表明の機会、からなります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	メンバー間の自己紹介、研究会の進め方（予定）について概説する。
第 2 回	基礎文献の輪読（1）	「環境」に関する基礎文献を読み、意見交換する。
第 3 回	基礎文献の輪読（2）	「環境」に関する基礎文献を読み、意見交換する。
第 4 回	基礎文献の輪読（3）	「環境保全／保護」に関する基礎文献を読み、意見交換する。
第 5 回	基礎文献の輪読（4）	「環境保全／保護」に関する基礎文献を読み、意見交換する。
第 6 回	基礎文献の輪読（5）	「生物多様性」に関する基礎文献を読み、意見交換する。
第 7 回	基礎文献の輪読（6）	「生物多様性」に関する基礎文献を読み、意見交換する。
第 8 回	グループディスカッション 課題 1-1	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる
第 9 回	グループディスカッション 課題 1-2	グループ発表および全体ディスカッション
第 10 回	グループディスカッション 課題 2-1	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる
第 11 回	グループディスカッション 課題 2-2	グループ発表および全体ディスカッション
第 12 回	グループディスカッション 課題 3-1	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる
第 13 回	グループディスカッション 課題 3-2	グループ発表および全体ディスカッション
第 14 回	春学期のまとめ	春学期全体のまとめ、フィードバック。
第 15 回	春学期まとめと秋学期オリエンテーション	春学期の復習と秋学期のとり進め方について意見交換を行う。
第 16 回	グループディスカッション 課題 4-1	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、意見をまとめる。
第 17 回	グループディスカッション 課題 4-2	グループ発表および全体ディスカッション
第 18 回	グループディスカッション 課題 5-1	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、意見をまとめる。
第 19 回	グループディスカッション 課題 5-2	グループ発表および全体ディスカッション
第 20 回	グループディスカッション 課題 6-1	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、意見をまとめる。
第 21 回	グループディスカッション 課題 6-2	グループ発表および全体ディスカッション
第 22 回	グループディスカッション 課題 7-1	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、意見をまとめる。
第 23 回	グループディスカッション 課題 7-2	グループ発表および全体ディスカッション

第 24 回	グループディスカッション 課題 8-1	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、意見をまとめる。
第 25 回	グループディスカッション 課題 8-2	グループ発表および全体ディスカッション
第 26 回	グループディスカッション 課題 9-1	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、意見をまとめる。
第 27 回	グループディスカッション 課題 9-2	グループ発表および全体ディスカッション
第 28 回	まとめ	年間の議論を総括するとともにこれまでの活動に関するフィードバックを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。基礎文献、与えられた課題（英文含む）は必ず熟読して演習に臨むこと。関連して紹介された参考書も出来る限り目を通すこと。グループで積極的に集まり課題について議論する機会を設けること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定のテキストはありません。

【参考書】

研究会において紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（議論への積極的参加や貢献など）(70%)、期末レポート (30%) に基づいて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミ生同士のコミュニケーションのバリエーションを増やすことに留意する。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、調査、発表用のパソコン／タブレットなどを持参すること。

【関連の深いコース】

グローバル・サステナビリティコース、ローカル・サステナビリティコース

【実務経験のある教員による授業】

担当者は、途上国への経済協力の実務に携わった経験がある。本研究会においては、経済協力の実務を通じて得られた知見が活用されている。

【Outline and objectives】

This year's seminar is on "(natural) environment." Students are expected to take part in group talk and various communications vigorously. Students will be able to understand basic idea on "conserving/protecting environment" and to nurture their values and attitudes towards an adequate balance of development and environment.

SOS400HA

研究会 A

辻 英史

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火 5/Tue.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界と日本の生活保障——社会福祉と市民社会
グローバル化と新自由主義経済の拡大により日本を含む世界各地域で格差社会が進み、多様な生き方が可能になる反面、貧困や孤立の問題が大きくなっている。

病気や加齢、失業、子育てといったライフイベントのために生活が不安定化してしまった人々を、どのように支え、地域社会やコミュニティに包摂していくのか、それぞれの社会で模索が続いている。

【到達目標】

このゼミでは、ヨーロッパおよび日本を中心に、社会的な弱者の生活を支えるために、どのような試みがおこなわれてきたのかを、それぞれの地域の事情に即して比較して考察します。

今年度は、日本や世界各国におけるボランティア活動について学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

※春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 28 日（火）とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

両学期とも、前半はテーマに関する重要な文献の講読をおこない、後半は春学期はグループワーク、秋学期はディベートをおこなう。その準備や個別の研究相談のために必要に応じてサブゼミを開講する（隔週で週 1 回程度を予定）。またゼミ合宿を開催する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	自己紹介とゼミの説明。
第 2 回	概説	ゼミで学ぶ内容について概説し、グループワークの分担を決める。
第 3 回	グループワーク（第 1 回）	グループに分かれて調査する。
第 4 回	グループワーク（第 1 回）	グループに分かれて調査する。
第 5 回	グループ発表（第 1 回）	グループワークの結果を発表する。
第 6 回	グループ発表（第 1 回）	グループワークの結果を発表する。
第 7 回	文献講読（第 1 回）	テーマに関する基礎的なテキストを講読する。
第 8 回	文献講読（第 1 回）	テーマに関する基礎的なテキストを講読する。
第 9 回	文献講読（第 2 回）	テーマに関する基礎的なテキストを講読する。
第 10 回	文献講読（第 2 回）	テーマに関する基礎的なテキストを講読する。
第 11 回	グループワーク（第 2 回）	グループワークをおこなう。
第 12 回	グループワーク（第 2 回）	グループワークをおこなう。
第 13 回	グループワーク報告（第 2 回）	グループごとに報告と質疑応答をおこなう。
第 14 回	グループワーク報告（第 2 回）	グループごとに報告と質疑応答をおこなう。
第 15 回	後半イントロダクション	前半の活動を総括し、後半の課題を整理する。
第 16 回	課題図書報告	夏休みの課題図書について発表する。
第 17 回	課題図書報告	夏休みの課題図書について発表する。
第 18 回	文献講読（第 3 回）	テーマに関する発展的なテキストを講読する。
第 19 回	文献講読（第 3 回）	テーマに関する発展的なテキストを講読する。
第 20 回	文献講読（第 4 回）	テーマに関する発展的なテキストを講読する。
第 21 回	文献講読（第 4 回）	テーマに関する発展的なテキストを講読する。
第 22 回	ディベートテーマ決め	ディベートのテーマを決め、グループ分けをおこなう。
第 23 回	ディベート準備	グループに分かれてディベートの準備をおこなう。
第 24 回	ディベート準備	グループに分かれてディベートの準備をおこなう。
第 25 回	ディベート準備	グループに分かれてディベートの準備をおこなう。

第 26 回	ディベート本番	ディベートをおこなう。
第 27 回	ディベート本番	ディベートをおこなう。
第 28 回	まとめ・反省	2・3 年生は 1 年間の学習内容を総括し翌年度の学習テーマを決める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
ゼミのなかでは参加者の個別の関心にそのまま合致した内容を扱うことは少ないので、各自の自主的な努力が重要である。自分の関心に即して文献を調べ、資料を集めるなど調査し、報告の準備をすること。
また、文献講読の際は、必ず事前にテキストを用意し、読んでくること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて授業中に指示する。

【参考書】

- 以下のほか、必要に応じて授業中に指示する。
1. 猪瀬浩平『ボランティアってなんだっけ?』岩波ブックレット、2020 年。
 2. 岡本栄一／菅井直也／妻鹿ふみ子『学生のためのボランティア論』大阪ボランティア協会出版部、2006 年。
 3. 金子郁容『ボランティア——もうひとつの情報社会』岩波新書、1992 年。
 4. 本間龍『ブラックボランティア』角川新書、2018 年。
 5. 宮垣元『その後のボランティア元年——NPO・25 年の検証』晃洋書房、2020 年。
 6. 早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター編『ボランティアで学生は変わるのか』ナカニシヤ出版、2019 年。

【成績評価の方法と基準】

※当面の間、オンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

議論への参加（20%）、研究報告、グループワーク、ディベートなどでの貢献（30%）、秋学期末のレポート（50%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース、人間文化コース

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Seminar on social welfare, social policy and civil society in Japan and other countries

LAW400HA

研究会 A

永野 秀雄

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この研究会は、環境監査法務の基本を学ぶものです。2020 年度は、英文で書かれたサステイナビリティ報告書を学習します。

【到達目標】

このゼミナールは、① 4 年生で必修となる研究会修了論文を書く力をつけること、② 文献読解を中心とした英語力を身につけること、③ 日米の環境法の基本を学ぶことを目標としています。このほか、基礎力を固めるために、① 実践ビジネス英語の暗誦、② Japan Times1 面の訳、③ 日経新聞「きょうのことば」の記憶、④ 米国の PBS 放送のシャドウイングを毎回の課題としています。また、通常のゼミナールでの学習に加え、水質関係第 1 種公害防止管理者、および、英検準 1 級の資格取得を目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

ゼミ生が班を編成して、班ごとの発表が行われます。合宿は、春・夏の 2 回で、ディベートとスピーチ訓練、および、3・4 年生による研究論文の発表が行われます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ゼミの概要説明	ゼミ、サブゼミの内容説明、班編成
第 2 回	サブゼミ課題の導入	サブゼミ課題を 2 年生のために勉強の仕方等を説明
第 3 回	春合宿課題の説明	春合宿の課題の説明、準備、サブゼミ課題の実施
第 4 回	春学期本ゼミ発表 (1)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 5 回	春学期本ゼミ発表 (2)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 6 回	春学期本ゼミ発表 (3)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 7 回	春学期本ゼミ発表 (4)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 8 回	春学期本ゼミ発表 (5)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 9 回	春学期本ゼミ発表 (6)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 10 回	春学期本ゼミ発表 (7)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 11 回	春学期本ゼミ発表 (8)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 12 回	春学期本ゼミ発表 (9)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 13 回	春学期本ゼミ発表 (10)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 14 回	春学期本ゼミ発表 (11)	環境関連の英文 CSR に関する発表、夏合宿課題の説明等
第 15 回	秋学期本ゼミ発表 (1)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 16 回	秋学期本ゼミ発表 (2)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 17 回	秋学期本ゼミ発表 (3)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 18 回	秋学期本ゼミ発表 (4)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 19 回	秋学期本ゼミ発表 (5)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 20 回	秋学期本ゼミ発表 (6)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 21 回	秋学期本ゼミ発表 (7)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 22 回	秋学期本ゼミ発表 (8)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 23 回	秋学期本ゼミ発表 (9)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 24 回	秋学期本ゼミ発表 (10)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 25 回	秋学期本ゼミ発表 (11)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 26 回	秋学期本ゼミ発表 (12)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 27 回	秋学期本ゼミ発表 (13)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 28 回	秋学期本ゼミ発表 (14)	環境関連の英文 CSR に関する発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
ゼミでの発表準備、実践ビジネス英語の暗誦等のサブゼミ課題をこなすこと、英検準 1 級等の資格取得のための勉強を行って下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

CSR に関する概説的なテキストを、開講時に指定します。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点のみです（100%）。春学期・秋学期とも、3 回以上欠席したり、発表準備・課題を行ってこなかったりした場合には、単位をあげることはできません。

【学生の意見等からの気づき】

これからも、学生の努力を応援していきたいと思っています。

【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース、グローバル・サステイナビリティコース

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This seminar will learn the basics of Environmental compliance audits. In the 2020 academic year, we will examine several sustainability reports written in English.

LAW400HA

研究会 A

永野 秀雄

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火 4/Tue.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この研究会は、環境監査法務の基本を学ぶものです。2020 年度は、英文で書かれたサステイナビリティ報告書を学習します。

【到達目標】

このゼミナールは、① 4 年生で必修となる研究会修了論文を書く力をつけること、② 文献読解を中心とした英語力を身につけること、③ 日米の環境法の基本を学ぶことを目標としています。このほか、基礎力を固めるために、① 実践ビジネス英語の暗誦、② Japan Times1 面の訳、③ 日経新聞「きょうのことば」の記憶、④ 米国の PBS 放送のシャドウイングを毎回の課題としています。また、通常のゼミナールでの学習に加え、水質関係第 1 種公害防止管理者、および、英検準 1 級の資格取得を目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

ゼミ生が班を編成して、班ごとの発表が行われます。合宿は、春・夏の 2 回で、ディベートとスピーチ訓練、および、3・4 年生による研究論文の発表が行われます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ゼミの概要説明	ゼミ、サブゼミの内容説明、班編成
第 2 回	サブゼミ課題の導入	サブゼミ課題を 2 年生のために勉強の仕方等を説明
第 3 回	春合宿課題の説明	春合宿の課題の説明、準備、サブゼミ課題の実施
第 4 回	春学期本ゼミ発表 (1)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 5 回	春学期本ゼミ発表 (2)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 6 回	春学期本ゼミ発表 (3)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 7 回	春学期本ゼミ発表 (4)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 8 回	春学期本ゼミ発表 (5)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 9 回	春学期本ゼミ発表 (6)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 10 回	春学期本ゼミ発表 (7)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 11 回	春学期本ゼミ発表 (8)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 12 回	春学期本ゼミ発表 (9)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 13 回	春学期本ゼミ発表 (10)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 14 回	春学期本ゼミ発表 (11)	環境関連の英文 CSR に関する発表、夏合宿課題の説明等
第 15 回	秋学期本ゼミ発表 (1)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 16 回	秋学期本ゼミ発表 (2)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 17 回	秋学期本ゼミ発表 (3)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 18 回	秋学期本ゼミ発表 (4)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 19 回	秋学期本ゼミ発表 (5)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 20 回	秋学期本ゼミ発表 (6)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 21 回	秋学期本ゼミ発表 (7)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 22 回	秋学期本ゼミ発表 (8)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 23 回	秋学期本ゼミ発表 (9)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 24 回	秋学期本ゼミ発表 (10)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 25 回	秋学期本ゼミ発表 (11)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 26 回	秋学期本ゼミ発表 (12)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 27 回	秋学期本ゼミ発表 (13)	環境関連の英文 CSR に関する発表
第 28 回	秋学期本ゼミ発表 (14)	環境関連の英文 CSR に関する発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。ゼミでの発表準備、実践ビジネス英語の暗誦等のサブゼミ課題をこなすこと、英検準 1 級等の資格取得のための勉強を行って下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

CSR に関する概説的なテキストを、開講時に指定します。

【参考書】

特に、ありません。

【成績評価の方法と基準】

平常点のみです (100%)。春学期・秋学期とも、3 回以上欠席したり、発表準備・課題を行ってこなかったりした場合には、単位をあげることはできません。

【学生の意見等からの気づき】

これからも、学生の努力を応援していきたいと思えます。

【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース、グローバル・サステイナビリティコース

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This seminar will learn the basics of Environmental compliance audits. In the 2020 academic year, we will examine several sustainability reports written in English.

SOC400HA

研究会 A

長峰 登記夫

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：木 5/Thu.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

職業生活をとらして労働環境を考える。

【到達目標】

本研究会での学習や作業をとらして、学生たちが卒業後就職してからかわかる仕事や労働環境のあり方について学ぶと同時に、物事を論理的に考え、作業を計画的に推し進められるようになることをめざす。そこに至る一里塚として、授業内における読み合わせや個別研究成果の発表、議論、レポートがある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期は基本的な知識の習得を目的に、基本文献の読み合わせをする。発表者は学習内容をレジュメにまとめて報告し、それに基づいて議論する。秋学期は自分でテーマを設定して勉強し、その成果をレジュメにまとめて発表し、授業内での議論をふまえて最終的にレポートにまとめる。したがって、春学期と秋学期、それぞれ一人最低1回ずつはレジュメの作成、それに基づいた発表、最終的なレポート提出が義務づけられる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	労働環境を考える	労働環境論とは何か、そこではどんなことについて学ぶのか等について考える。年間計画についても説明する。
第2回	レジュメ、レポートの書き方1	図書館、インターネット、データベース等を利用した情報収集の仕方について学ぶ。
第3回	レジュメ、レポートの書き方2	レジュメによる授業内での報告、最終的なレポート作成に必要な方法について学ぶ。
第4回	日本の雇用システム 伝統と変化1	日本的雇用システムの特徴と歴史について学ぶ。この回ではいわゆる終身雇用に関点を当て、歴史的な変化についても学ぶ。
第5回	日本の雇用システム 伝統と変化2	日本的雇用システムのなかの年功制（賃金と昇進）に関点を当て、歴史的な変化も踏まえて学ぶ。
第6回	日本の雇用システム 伝統と変化3	日本の企業内組合は海外では見られない、最も日本的な社会システムのひとつだといってよい。この回ではその特徴についてみていく。
第7回	日本の雇用システムの新たな側面	歴史的にみれば、成果主義的雇用管理（賃金と昇進）は日本的雇用システムのなかの新しい側面といってよい。この回ではそれについて学ぶ。
第8回	日本の雇用システムとジェンダー	日本企業の雇用慣行のなかで女性はハンディを負うとされ、海外諸国との比較でもそれが指摘されている。それには様々な理由があるが、それは何か、また、近年それはどう変化してきたのかについて学ぶ。
第9回	日本の雇用システムと非正規雇用、格差	近年、とくに若者の安定雇用が崩れてきているが、その典型として非正規雇用の増大があげられる。ここではなぜ非正規雇用が増大してきたのか、それがいかなるかたちで格差拡大につながっているのかについて考える。
第10回	日本の雇用システムと労働時間（1）	日本の労働時間は長いと言われ、実際、いまだに過労死や過労自殺がおこっている。ここでは日本の労働時間の実際をみる。
第11回	日本の雇用システムと労働時間（2）	近年、働く人々のメンタルヘルスが大きな問題となっている。原因は何か、それに対して政府や企業はどのような対策を講じているのか等について学ぶ。
第12回	レポートの途中経過の提示とコメント	学生は80%できたレポートの途中経過を提示する。レポートの書き方で説明した注意事項にしたがって構成され、書かれているかをチェックし、コメントする。

発行日：2020/5/1

第 13 回	障がい者の就職支援と雇用	障害者差別解消法施行以前からの、障がい者の就職や雇用の実態と現状について学ぶ。
第 14 回	大学生の就職 1（日本の就職の特徴）	日本の大学生の就職にはどのような特徴があり、それは海外諸国の大学生の就職とどう違うのか、基本的なことを学ぶ。
第 15 回	大学生の就職 2（グローバル人材）	近年グローバル人材への関心が高まっている。グローバル人材とは何か、企業はなぜグローバル人材に注目するのか、採用の実態はどうか等について考える。
第 16 回	日本の雇用システムの特徴	日本の雇用システムの特徴をまとめて整理し、トータルに理解できるようにする。
第 17 回	秋学期のテーマの確認	春学期での学びをもとに各自がおこなう個別テーマを確認し、研究の進め方等について個別にアドバイスをする。
第 18 回	研究の進め方とレポートの書き方	各自が読んだレポートの書き方の新書を参考に、改めてレポートの書き方の形式や引用の仕方等について学ぶ。
第 19 回	学生による研究発表 1	学生による研究発表、それに関する質疑応答、議論、意見交換等を行うなかで、発表者の今後の学習の課題をみつけ、最終レポート作成に役立てる。
第 20 回	学生による研究発表 2	学生による研究発表、それに関する質疑応答、議論、意見交換等を行うなかで、発表者の今後の学習の課題をみつけ、最終レポート作成に役立てる。
第 21 回	学生による研究発表 3	学生による研究発表、それに関する質疑応答、議論、意見交換等を行うなかで、発表者の今後の学習の課題をみつけ、最終レポート作成に役立てる。
第 22 回	学生による研究発表 4	学生による研究発表、それに関する質疑応答、議論、意見交換等を行うなかで、発表者の今後の学習の課題をみつけ、最終レポート作成に役立てる。
第 23 回	学生による研究発表 5	学生による研究発表、それに関する質疑応答、議論、意見交換等を行うなかで、発表者の今後の学習の課題をみつけ、最終レポート作成に役立てる。
第 24 回	学生による研究発表 6	学生による研究発表、それに関する質疑応答、議論、意見交換等を行うなかで、発表者の今後の学習の課題をみつけ、最終レポート作成に役立てる。
第 25 回	学生による研究発表 7	学生による研究発表、それに関する質疑応答、議論、意見交換等を行うなかで、発表者の今後の学習の課題をみつけ、最終レポート作成に役立てる。
第 26 回	レポートの途中経過報告	学生は 80 % 程度完成したレポートの途中経過を報告し、修正や追加についての指示を受け、完成に向けての作業の指針とする。
第 27 回	学生による研究発表 8	学生による研究発表、それに関する質疑応答、議論、意見交換等を行うなかで、発表者の今後の学習の課題をみつけ、最終レポート作成に役立てる。
第 28 回	完成版レポートの提出	完成版のレポートを提出。最終チェックを受け、マイナーな修正指示があればそれにしたがって完成させる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
春学期は、毎回指定された文献資料を事前に読んで、わからないことをチェックし、授業中に質問したりコメントを加えたりして、意見を言うようにしておくこと。秋学期は、発表予定者が事前に指示する発表内容に関連した資料を読んで、春学期同様、授業内での議論に参加できるよう準備しておくこと。
夏期休暇中の課題：夏期休暇中に後期発表の計画を立てて、教員に提示する。
夏期のゼミ合宿を行う場合はそこで行う。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

春学期は基本的に本の 1 章や文献資料をコピーして読んでいく。具体的な資料は開講時に指示する。労働環境論 I および II で使った副教材はゼミでも参考資料として使う。
秋学期は発表予定者が事前に指示した資料を参考資料とする。ただし、秋学期の資料について発表者は事前に教員に相談すること。

【参考書】

佐藤博樹・佐藤厚編著『仕事の社会学（改訂版）』有斐閣ブックス、2012 年、2310 円。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、1. 参加姿勢、2. 授業での発表、3. 発表のために作成したレジュメの内容、4. 各種課題の提出状況、授業内での議論への参加、5. 最終的に提出されたレポートの内容、6. その他の平常点（含出席）等を加味して総合的に行う（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

修了論文作成において、より早い時期からの計画的な指導が必要。

【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース、ローカル・サステイナビリティコース

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

The objective of this subject is to provide students with a chance to think about work environments through daily working life after graduation. For that, students will study about various issues relating to employment, discuss them, make a presentation in class and write a final essay. By so doing, students will learn the way of thinking logically about things and perform them according to a plan.

SOC400HA

研究会 A

西城戸 誠

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：月 4/Mon.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域社会の（環境）の中で特に「農」「水」「エネルギー」と「人」のかかわりを巡る課題に対して、実証的な研究の手法を学びながら、社会調査を行い、実践的な課題解決をする力を養う。

【到達目標】

第一に、地域社会の「農」「水」「エネルギー」と「人」のかかわり方の実態について学ぶ。第二に、従来の「環境と人」との関係性とは異なった実践に着目し、関連テーマについて社会調査を実施する。具体的には、首都圏近郊および中山間地域・被災地などをフィールドにするほか、生活協同組合（生活クラブ生協）の実践に関わりながら、調査研究を行う。この調査を行うことで、一連の社会調査の方法論を学ぶとともに、実践的な研究の方法を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は、3つの部分から構成される。

- 1) 文献講読：フィールドや調査テーマに関連した文献を講読する。
- 2) 現地視察：文献講読と並行しながら、首都圏や東京都の中山間地域における農業ならびに集落についての現地視察を行う。
- 3) グループに分かれての調査研究の実施：テーマの設定、現地調査、報告書・論文の執筆、プレゼンテーションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習内容に関するオリエンテーションを実施する。
第 2 回	文献講読（1）：前年度の調査研究を振り返る	前年度の調査研究報告書を講読し、調査研究の成果を共有する。
第 3 回	文献講読（2）：前年度の調査研究を振り返る	前年度の調査研究報告書を講読し、調査研究の成果を共有する。
第 4 回	文献講読（3）：フィールドに関連する文献講読	調査対象地に関する文献を講読し、フィールドの概要を把握する。
第 5 回	文献講読（4）：フィールドに関連する文献講読	調査対象地に関する文献を講読し、フィールドの概要を把握する。
第 6 回	文献講読（5）：フィールドに関連する文献講読	調査対象地に関する文献を講読し、フィールドの概要を把握する。
第 7 回	現地視察	調査地域の視察を実施する。
第 8 回	調査グループの設定、テーマの選定（1）	調査グループに分かれて、テーマの選定とそのための作業（先行研究の収集）を実施する。
第 9 回	調査グループの設定、テーマの選定（2）	調査グループに分かれて、テーマの選定とそのための作業（先行研究の収集）を実施する。
第 10 回	グループ中間発表会	グループ別に調査テーマの方向性について報告し合い、議論をする。
第 11 回	調査準備・予備調査（1）	調査のための準備（文献・資料・データの収集）および、予備調査を実施する。
第 12 回	調査準備・予備調査（2）	調査のための準備（文献・資料・データの収集）および、予備調査を実施する。
第 13 回	調査準備・予備調査（3）	調査のための準備（文献・資料・データの収集）および、予備調査を実施する。
第 14 回	調査準備・予備調査（4）	調査のための準備（文献・資料・データの収集）および、予備調査を実施する。
第 15 回	グループ中間発表会	グループ別に調査の中間報告と今後の方向性について報告し合い、議論をする。
第 16 回	各グループにおける調査（1）	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第 17 回	各グループにおける調査（2）	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第 18 回	各グループにおける調査（3）	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。

第 19 回	各グループにおける調査（4）	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第 20 回	各グループにおける調査（5）	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第 21 回	グループ中間発表会	グループ別に調査の中間報告を行い、議論をする。
第 22 回	各グループにおける調査（6）	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第 23 回	各グループにおける調査（7）	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第 24 回	各グループにおける調査（8）	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第 25 回	各グループにおける調査（9）	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第 26 回	各グループにおける調査（10）	各グループで現地調査を実施する。適宜、先行研究の収集・参照し、調査テーマを深化させる。
第 27 回	グループの発表・報告書作成（1）	調査報告書の作成に向けた作業を実施する。適宜、グループ別で発表し、議論を行う。
第 28 回	グループの発表・報告書作成（2）	調査報告書の作成に向けた作業を実施する。適宜、グループ別で発表し、議論を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。関連文献の講読やフィールドワークを課す。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

随時、指定する

【成績評価の方法と基準】

授業やフィールドワークへの参加姿勢、プレゼンテーションや調査報告書の内容などから総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

本講義は月曜日 5 時限目にサブゼミとして延長して行う場合もある。

【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

The aim of this seminar is to learn a sociological perspective on the relationship between humans and the environment, especially focusing on agriculture, water, and renewable energy.

This seminar also offers how to create a research design for sociological empirical study and how to write a research paper.

HIS400HA

研究会 A

根崎 光男

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：月 4/Mon.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：江戸の都市環境研究

巨大都市・江戸の町にみられる諸相（名所巡り・動物飼育など）を調査・研究し、その特徴を文献・フィールドの調査を通して考え、指定した、あるいは自らの設定した課題を解決する力を養う。そのために、歴史資料の読解、古文書の読解などを行い、実践的な環境史研究を進める。

【到達目標】

環境史研究のための教養を身につけ、また歴史資料や古文書の読解力を前進させ、自らが設定した課題の解決に向けた取り組みや判明した事柄を説明できる。この延長線上に研究会修了論文を提出できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半は、オンラインでの開講となる。それにとまう各回の授業計画は、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月27日とし、この日に具体的なオンライン授業の方法などを、学習システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本研究会の目標の周知と環境史研究の方法を学ぶ
第2回	史料読解①	歴史史料を読解・分析する。また史料解釈を通して、歴史の論理化を学ぶ
第3回	史料読解②	歴史史料を読解・分析する。また史料解釈を通して、歴史の論理化を学ぶ
第4回	史料読解③	歴史史料を読解・分析する。また史料解釈を通して、歴史の論理化を学ぶ
第5回	大学周辺フィールド調査①	古地図を持って大学周辺の地理・歴史を探索し、人の暮らしを考える
第6回	調査研究のグループ発表①	指定した課題を分析し、グループ別に発表する
第7回	調査研究のグループ発表②	指定した課題を分析し、グループ別に発表する
第8回	古文書読解①	指定した古文書を読解・分析し、討論を行う
第9回	特定テーマ中間発表①	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う
第10回	特定テーマ中間発表②	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う
第11回	特定テーマ中間発表③	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う
第12回	特定テーマ中間発表④	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う
第13回	特定テーマ中間発表⑤	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う
第14回	特定テーマ中間発表⑥	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う
第15回	研究計画の確認	各自の研究計画を確認し、意見交換を行う
第16回	大学周辺フィールド調査②	古地図を持って大学周辺の地理・歴史を探索し、人の暮らしを考える
第17回	史料読解④	歴史史料を読解・分析する。また史料解釈を通して、歴史の論理化を学ぶ
第18回	史料読解⑤	歴史史料を読解・分析する。また史料解釈を通して、歴史の論理化を学ぶ
第19回	史料読解⑥	歴史史料を読解・分析する。また史料解釈を通して、歴史の論理化を学ぶ
第20回	調査研究のグループ発表③	指定した課題を分析し、グループ別に発表する
第21回	調査研究のグループ発表④	指定した課題を分析し、グループ別に発表する
第22回	古文書読解②	指定した古文書を読解・分析し、討論を行う
第23回	特定テーマ研究発表①	各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う
第24回	特定テーマ研究発表②	各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う

第25回	特定テーマ研究発表③	各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う
第26回	特定テーマ研究発表④	各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う
第27回	特定テーマ研究発表⑤	各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う
第28回	特定テーマ研究発表⑥	各自が研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。配付した歴史史料・古文書を事前に読解・分析する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じてプリントを配付する。

【参考書】

必要に応じて随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにとまない、成績評価の方法と基準は授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

調査研究の進捗状況を把握するため、必要に応じて面談を行う。

【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース、人間文化コース

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Investigates various aspects(e.g.visiting showplaces and feeding animals)of the city of Edo,and we will think about the characteristics of them through literature reviews and field surveys.

MAN400HA

研究会 A

長谷川 直哉

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火 4/Tue.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代企業論、ビジネスヒストリー、CSR 論 I・II で習得した知識をベースに、「良い企業、良い社会、良い働き方」とは何かという問いに対する回答を見出すため、企業と社会の関係性を学びます。SDGs（持続可能な開発目標）、パリ協定、CSR（企業の社会的責任）、Business Ethics（企業倫理）等のテーマを中心に、サステイナブル社会における企業と社会の関係を学びます。

【到達目標】

SDGs や ESG 投資の視点から、社会変革をリードし持続可能な社会の構築に貢献できる企業について実証的アプローチによる研究を行い、4 年生は研究会修了論文、2・3 年生は日経ストックリーグレポートを作成します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期は、SDGs および ESG 投資に関する文献や論文を輪読し、論文作成に必要な知識を習得しディベート能力も涵養します。秋学期は複数のチームを編成し、日本経済新聞社が主催するストックリーグに参加します。日経ストックリーグでは SDGs への取り組み、財務データの分析や企業訪問によるヒアリング調査を行い、オリジナルの ESG 投資ファンドを組成しバーチャルトレードを行います。さらに、その成果をレポートにまとめてコンテストにチャレンジします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス ・ストックリーグ ・卒業論文	ゼミの進め方 日経ストックリーグの概要 卒業論文の執筆スケジュール
第 2 回	企業と社会に関する文献 講読①	担当者による報告と全体討議
第 3 回	企業と社会に関する文献 講読②	担当者による報告と全体討議
第 4 回	企業と社会に関する文献 講読③	担当者による報告と全体討議
第 5 回	企業と社会に関する文献 講読④	担当者による報告と全体討議
第 6 回	ストックリーグ 第 1 回テーマ報告	テーマの方向性について報告
第 7 回	ESG 投資文献購読①	担当者による報告と全体討議
第 8 回	ESG 投資文献購読②	担当者による報告と全体討議
第 9 回	ESG 投資文献購読③	担当者による報告と全体討議
第 10 回	ストックリーグ 第 2 回テーマ報告	問題認識と分析手法の報告
第 11 回	ESG 投資文献購読④	担当者による報告と全体討議
第 12 回	財務分析文献購読①	担当者による報告と全体討議 チームの活動報告
第 13 回	財務分析文献購読②	担当者による報告と全体討議 チームの活動報告
第 14 回	財務分析文献購読③	担当者による報告と全体討議 チームの活動報告
第 15 回	ストックリーグ 第 3 回テーマ報告	ファンドテーマの決定 企業調査の 法・スケジュールの報告
第 16 回	ストックリーグ グループ中間報告①	これまでの分析結果の報告
第 17 回	卒業論文中間報告①	卒論テーマ・ 論文構成の発表
第 18 回	ストックリーグ活動①	チーム活動の報告
第 19 回	ストックリーグ活動②	チーム活動の報告
第 20 回	ストックリーグ活動③ (企業訪問)	企業ヒアリング
第 21 回	ストックリーグ中間報告 ②	ユニバースの発表
第 22 回	ストックリーグ活動④ (企業訪問)	企業ヒアリング
第 23 回	ストックリーグ活動⑤ (企業訪問)	企業ヒアリング
第 24 回	ストックリーグ活動⑥	企業ヒアリング
第 25 回	ストックリーグ中間報告 ③	ポートフォリオの完成
第 26 回	卒業論文中間報告③	卒業論文の予備報告
第 27 回	ストックリーグ活動⑦	レポート作成

第 28 回 ストックリーグ活動⑧ レポート作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ゼミの発表資料や適宜紹介される文献・資料等を使用して必ず予習・復習をして下さい。企業の SDGs 活動、財務分析、企業に対するヒアリング調査を行うため、サブゼミや企業訪問を研究会の時間外に実施することが多くなります。また、夏季休暇中にゼミ合宿を行います。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

日本経営協会／長谷川直哉著『サステイナビリティ調査報告書』日本経営協会
長谷川直哉編著『企業家に学ぶ ESG 経営』文真堂、2019 年
長谷川直哉編著『統合思考と ESG 投資』文真堂、2018 年
長谷川直哉編著『価値共創時代の戦略的パートナーシップ』文真堂、2017 年
長谷川直哉編著『企業家活動でたどるサステイナブル経営史』文真堂、2016 年
日経エコロジー編『ESG 経営ケーススタディ 20』日経 BP 社、2017 年
水口剛『ESG 投資』日本経済新聞社、2017 年

【参考書】

必要に応じて随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%) ゼミにおける報告内容および討議への貢献度、企業ヒアリングの取り組み内容
レポート (70%) 日経ストックリーグレポート

【学生の意見等からの気づき】

参加者の自主的な取り組みを中心にゼミを行います。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてパソコンを使用します。

【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース、ローカル・サステイナビリティコース

【実務経験のある教員による授業】

【実務経験】

損害保険会社の資産運用部門において、約 15 年投資業務を担当しました。1999 年、ESG 投資の先駆的な取り組みである SRI（社会責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業の ESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。また、(公財)国際金融情報センターに Outreach、カントリーリスクや国際金融システムに関する調査・研究に従事しました。

【関連資格】

証券アナリスト検定会員 (CMA)

【Outline and objectives】

This seminar focuses on themes such as SDG (Sustainable Development Target), Paris Agreement, CSR (Corporate Social Responsibility), Business Ethics) and learns the relationship between companies and society in a sustainable society.

LIT400HA

研究会 A

日原 傳

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：木 4/Thu.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

名勝・詩跡および都市について考える。

【到達目標】

- ・名勝・詩跡の成立について理解を深める。
- ・都市の形成の経緯について理解を深める。
- ・近代以前の旅の実態について理解を深める。
- ・名勝・詩跡の成立に関わる文学作品や関連文献を捜し、読み解くことを通して、調べる力・発表する力をつける。
- ・各自研究テーマを設定してレポートや論文を執筆し、文章を書く力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

・最初の授業で関連する基本文献を紹介する。また本年度の基本テキストを定め、担当箇所を各自に割り当てる。担当者は割り当てられた本文、および関連する文献について可能な限り調べて報告する。それを踏まえて、皆で議論する。

・テキストを輪読する過程で、各自が個人の研究テーマを決め、最終レポートや研究会修了論文の執筆に結びつける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	名勝・詩跡・都市・旅	テキストの説明。参考文献の紹介。
第 2 回	文献講読	テキスト輪読
第 3 回	文献講読	テキスト輪読
第 4 回	文献講読	テキスト輪読
第 5 回	発表、文献講読	発表（個人テーマの紹介）、テキスト輪読
第 6 回	発表、文献講読	発表（個人テーマの紹介）、テキスト輪読
第 7 回	発表、文献講読	発表（個人テーマの紹介）、テキスト輪読
第 8 回	文献講読	テキスト輪読
第 9 回	文献講読	テキスト輪読
第 10 回	文献講読	テキスト輪読
第 11 回	文献講読	テキスト輪読
第 12 回	文献講読	テキスト輪読
第 13 回	文献講読	テキスト輪読
第 14 回	発表、文献講読	発表（個人テーマの進捗状況の紹介）、テキスト輪読
第 15 回	発表、文献講読	発表（個人テーマの進捗状況の紹介）、テキスト輪読
第 16 回	文献講読	テキスト輪読
第 17 回	文献講読	テキスト輪読
第 18 回	文献講読	テキスト輪読
第 19 回	文献講読	テキスト輪読
第 20 回	文献講読	テキスト輪読
第 21 回	発表、文献講読	発表（論文要旨）、テキスト輪読
第 22 回	発表、文献講読	発表（論文要旨）、テキスト輪読
第 23 回	発表、文献講読	発表（論文要旨）、テキスト輪読
第 24 回	文献講読	テキスト輪読
第 25 回	文献講読	テキスト輪読
第 26 回	文献講読	テキスト輪読
第 27 回	文献講読	テキスト輪読
第 28 回	総合討論	年間の研究活動の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎回の講義で紹介される資料等を使用して予習・復習をする。
 - ・各自に割り当てた基本テキストの担当箇所について、可能な限り調べ、発表の準備をする。
 - ・各自テーマを決め、論文執筆のために文献を収集する。
 - ・論文を執筆する。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に指定します。

【参考書】

必要に応じて随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加態度、発表内容）70%

最終レポート 30%

【学生の意見等からの気づき】

研究会修了論文に関して、個別に面談指導する時間を早くから設ける。

【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース、人間文化コース

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the relation between a place of scenic beauty and literature.

ART400HA

研究会 A

平野井 ちえ子

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：木 4/Thu.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域の文化、主に舞台芸術を切り口として、文化政策・アートマネジメントの現状を考えます。

【到達目標】

1. 地域に暮らす人々の生活とそれぞれの地に固有の文化活動との関わりを理解することです。
2. 基本的な知識と方法論を身につけた後、とくに自信をもって語れる得意ジャンルまたはエリアをもつことが必要です。
3. 文化というソフトウェアから地域を考える姿勢が大切です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

【重要】本講座は、4月5日よりゼミトライアルとして Zoom によるゼミを開始しています。4月21日現在すでに3回の授業を実施しております。

春学期の前半は、日本の伝統芸能・民俗芸能・現代演劇・前衛的パフォーマンスの流れに親しむため、文献や映像資料による講義・ディスカッションを行います。春学期後半には、参加者各自に舞台芸術鑑賞レポートの作成と発表を求めます。秋学期の前半は、文化政策とそのケーススタディの基本書を輪読します。秋学期後半には、参加者各自が設定した地域の文化のケーススタディを指導します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 能・狂言（講義・討論）	1年間の流れを概説します。また、春学期の舞台芸術鑑賞レポートについて説明します。 能舞台の構造を説明した後、能と狂言について、それぞれの物語性・演技の型・視覚効果の特徴などを講義します。映像資料について意見交換します。
第2回	歌舞伎（講義・討論）	歌舞伎の舞台構造を説明した後、「時代物」・「世話物」・「所作物」について講義を行います。映像資料について意見交換します。
第3回	文楽（講義・討論）	文楽と歌舞伎を対照的に考察します。映像資料について意見交換します。
第4回	現代演劇1（講義・討論）	翻訳劇の系譜について講義を行います。映像資料について意見交換します。
第5回	最新舞台情報・舞台芸術鑑賞レポート作成指導	舞台芸術情報の探し方を指導します。論文・レポートの書き方を、本ゼミのテーマに即して解説します。
第6回	現代演劇2（講義・討論）	現代日本の劇作家・演出家について講義を行います。映像資料について意見交換します。
第7回	民俗芸能（講義・討論）	日本の民俗芸能について講義を行います。映像資料について意見交換します。
第8回	舞台芸術鑑賞レポート発表・討論（1）	発表者の舞台芸術鑑賞レポートに基づき、全員で意見交換します。
第9回	舞台芸術鑑賞レポート発表・討論（2）	発表者の舞台芸術鑑賞レポートに基づき、全員で意見交換します。
第10回	舞台芸術鑑賞レポート発表・討論（3）	発表者の舞台芸術鑑賞レポートに基づき、全員で意見交換します。
第11回	舞台芸術鑑賞レポート発表・討論（4）	発表者の舞台芸術鑑賞レポートに基づき、全員で意見交換します。
第12回	舞台芸術鑑賞レポート発表・討論（5）	発表者の舞台芸術鑑賞レポートに基づき、全員で意見交換します。
第13回	フィールドワーク 文献講読・討論（1）	『フィールドワーク 一書を持って街へ出ようー』1. フィールドワークとは何か 2. フィールドワークの論理
第14回	フィールドワーク 文献講読・討論（2）	『フィールドワーク 一書を持って街へ出ようー』3. フィールドワークの実際 4. ハードウェアとソフトウェア
第15回	文献講読・討論（『入門文化政策』1）	1. 文化政策の観点からの京都観光論 2. 国際観光と文化政策 3. 地域文化資源と文化マネジメント（富山の事例）

第16回	文献講読・討論（『入門文化政策』2）	1. 市民と自治体による文化芸術創造都市づくり（横浜の事例） 2. 中山間地域の文化政策 3. 文化政策とその担い手
第17回	文献講読・討論（『入門文化政策』3）	1. 格差社会における文化政策 2. ライフスタイルのための文化政策 3. 文化政策としてのミュージアム・マネジメント
第18回	文献講読・討論（『入門文化政策』4）	1. 活動の現場からみた公と民の協働論 2. 市民文化の創造環境を目指して 3. 公共施設の運営と指定管理者制度
第19回	文献講読・討論（『入門文化政策』5）	1. 文化創造拠点としての宗教空間 2. 「政策科学」のこれからと文化政策への期待
第20回	地域の文化レポート作成指導（1）	調査方法や論文・レポートの書き方を、本ゼミのテーマに即して解説します。
第21回	地域の文化レポート作成指導（2）	どのようなテーマ設定が可能か、ケーススタディを紹介します。
第22回	地域の文化レポート作成指導（3）	参加者各自が設定したレポートテーマとアイデアの詳細を交換します。
第23回	地域文化レポート発表・討論（1）	発表者の地域文化レポートに基づき、全員で意見交換します。
第24回	地域文化レポート発表・討論（2）	発表者の地域文化レポートに基づき、全員で意見交換します。
第25回	地域文化レポート発表・討論（3）	発表者の地域文化レポートに基づき、全員で意見交換します。
第26回	地域文化レポート発表・討論（4）	発表者の地域文化レポートに基づき、全員で意見交換します。
第27回	地域文化レポート発表・討論（5）	発表者の地域文化レポートに基づき、全員で意見交換します。
第28回	総括	2020年度のゼミを振り返り、講義・文献講読・舞台芸術鑑賞レポート・劇場レポートの各項目と相互の関係について、ディスカッションとフィードバックを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料・URL等を使用して予習・復習を行ってください。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

文献講読の予習（発表者はレジュメの準備）・舞台芸術鑑賞とフィールド調査（レポート作成）が重要です。

【テキスト（教科書）】

井口貢（2008）『入門文化政策 地域の文化を創るということ』ミネルヴァ書房

佐藤郁哉（2006）『フィールドワーク 一書を持って街へ出ようー』新曜社

【参考書】

青山昌文（2015）『舞台芸術への招待』放送大学教育振興会

大笹吉雄（1999）『劇場が演じた劇』教育出版株式会社

舞台芸術財団演劇人会議（2005）『シンポジウム・劇場芸術の地平』舞台芸術財団演劇人会議

S P A C（1999）『劇場とは何か 新しい文化活動の創出に向けて』S P A C

平野井（2006）『小鹿野歌舞伎の現在』『法政大学人間環境論集』第6巻第2号

平野井（2007）『S P A Cの地域性と国際性』『法政大学人間環境論集』第7巻第2号

【成績評価の方法と基準】

【平常点】50%

参加態度、口頭発表（テキスト輪読分と、各期末レポートの概略について）

【期末レポート】50%

春学期は、舞台芸術鑑賞レポート

秋学期は、文化発信の「場」のレポート

【学生の意見等からの気づき】

好評です。今後も、学生の自主性を尊重し、地域と芸術をバランスよく論じ合う交流の場としていきたいと思えます。

【学生が準備すべき機器他】

B T O 3 0 9 教室での授業です。

【その他の重要事項】

当該教室では飲食厳禁です。皆で利用する機器や教材を大切に扱ってください。

【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース、人間文化コース

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

We will discuss regional theatres and performing arts referring to the current Japanese situation of cultural policy and art management.

EVN400HA

研究会 A

藤倉 良

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：金 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会人学生諸兄が、各自の社会体験などを基本にして関心を有する研究テーマを決め、それについて卒業論文を書くことを目指します。

【到達目標】

4 年生に卒業論文を書くことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

各人が定めた研究テーマに従って、随時、発表を行い、それについて議論します。

4 月 24 日 3 時限から Zoom 利用のオンラインで開始します。Zoom のアドレスとパスワードは前日までに学習支援システムの「お知らせ」欄に示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	顔合わせ、自己紹介など
第 2 回	テーマ決め	何に関心があるか
第 3 回	テーマ決め	それは論文になりそうなテーマか
第 4 回	テーマ決め	どのようなデータが入手可能か
第 5 回	テーマ決め	研究は実行可能か
第 6 回	調査開始	データ収集
第 7 回	調査の実施	データ収集 1
第 8 回	調査の実施	データ収集 2
第 9 回	調査の実施	データ収集 3
第 10 回	分析	データ解析
第 11 回	分析	データ解析
第 12 回	分析	データ解析
第 13 回	中間報告準備	データとりまとめ
第 14 回	中間報告	中間報告
第 15 回	テーマの確認	卒業論文が書けそうか
第 16 回	調査の実施	データ収集 4
第 17 回	調査の実施	データ収集 5
第 18 回	分析	データ解析
第 19 回	分析	データ解析
第 20 回	論文執筆	目次案作成
第 21 回	論文執筆	目次案完成
第 22 回	論文執筆	本文執筆
第 23 回	論文執筆	本文執筆
第 24 回	論文執筆	ドラフト完成
第 25 回	論文執筆	ドラフト修正
第 26 回	報告準備	PPT 作成
第 27 回	報告	最終報告
第 28 回	論文提出	論文提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

4 年生は卒業研究を進めてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜、指定します。

【参考書】

必要に応じて指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（100 %）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

なるべく自己の体験に基づいたテーマにしてください。

【実務経験のある教員による授業】

本科日は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Students who are working adults decide their research themes based on their social experiences. Objective is complete a graduation thesis.

MAN400HA

研究会 A

金藤 正直

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：金 4/Fri.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本研究会では、文献調査、現地調査（フィールドワーク、アンケート調査、ヒアリング調査）、そして、社会実験やフィージビリティスタディを通じて、「地域の持続的成長のためのビジネスデザイン」の方法について学習していくことを目的とします。

【到達目標】

経営学や会計学の視点から、企業または地域が今後も持続的に成長するにあたって必要とされるビジネスやその経営手法を論理的に考えながら明らかにしつつ、その結果をわかりやすく、丁寧に説明していく能力を習得することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

①研究グループ（RG）「A 組織連携・クラスター RG、B CSV 事業 RG、C 再生可能エネルギー・廃棄物 RG、D 地域産業 RG、E 人的資源 RG」の中の 1 チームに所属し、研究・調査をしてもらいます。

②所属したチームで、研究計画書を作成していきます。この計画書をもとに行われる文献（先行研究）の考察やアンケート調査およびヒアリング調査により、研究対象となる企業または地域の現状と課題を明らかにしつつ、その課題への解決策（持続的成長の実現は可能かどうか）も検討していきます。

③研究・調査の進捗状況や成果については、異なるチームとの意見交換や中間報告・最終報告を行うとともに、研究・調査レポートまたは研究会修了論文も作成していきます。

※各チームメンバーのさらなるレベルアップのために、大学院生や事業関係者へのプレゼンテーションを始め、学会、インゼミ、企業イベント、エコプロなどへの参加、合宿（特別ゼミ）なども予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション 研究・調査の目標設定	研究会の目的、内容・範囲、進め方、評価について説明する。 また、チームを作り、その中で各自の 1 年間の目標を検討し、設定する。
第 2 回	研究・調査やその成果報告の方法（A）	文献を用いた研究とその成果報告に関する方法を説明する。
第 3 回	研究・調査のテーマと方法に関する報告	各チームが行う研究・調査のテーマと方法について報告し、決定する。
第 4 回	研究・調査の方向性とその内容に関する検討	各チームで 1 年間の研究・調査の方向性とその内容を検討する。
第 5 回	研究・調査報告①	各チームで研究・調査のテーマに関係する文献を整理し、その内容を報告する。
第 6 回	研究・調査報告②	各チームで研究・調査のテーマに関係する文献を整理し、その内容を報告する。
第 7 回	研究・調査報告③	各チームで研究・調査のテーマに関係する文献を整理し、その内容を報告する。
第 8 回	研究・調査報告④	各チームで研究・調査のテーマに関係する文献を整理し、その内容を報告する。
第 9 回	研究・調査報告⑤	各チームで研究・調査のテーマに関係する文献を整理し、その内容を報告する。
第 10 回	研究・調査報告⑥	各チームで研究・調査のテーマに関係する文献を整理し、その内容を報告する。
第 11 回	研究・調査報告⑦	各チームで研究・調査のテーマに関係する文献を整理し、その内容を報告する。
第 12 回	研究・調査報告⑧	各チームで研究・調査のテーマに関係する文献を整理し、その内容を報告する。
第 13 回	研究・調査やその成果報告の方法（B）	アンケート調査およびヒアリング調査とその結果報告に関する方法について説明する。
第 14 回	研究・調査計画書の作成方法	これまでの研究・調査の成果を整理する計画書の作成方法について説明する。

第 15 回	研究・調査計画書の報告 (中間報告) (A)	春学期中に取り組んだ研究・調査や作成した計画書に基づいて、チームごとに取組成果を報告する。
第 16 回	研究・調査計画書の報告 (中間報告) (B)	春学期中に取り組んだ研究・調査や作成した計画書に基づいて、チームごとに取組成果を報告する。
第 17 回	研究・調査に関する映像資料の視聴	研究・調査に関連する映像資料を視聴するとともに、その内容を各チームで議論する。
第 18 回	製品・商品の生産・販売店の調査	研究・調査に関連するアンテナショップや施設などに行き、そこでの取組内容について調査する。
第 19 回	研究・調査報告⑨	文献を用いたこれまでの研究・調査に、アンケート調査やヒアリング調査の結果を加味した研究・調査の報告を行う。
第 20 回	研究・調査報告⑩	文献を用いたこれまでの研究・調査に、アンケート調査やヒアリング調査の結果を加味した研究・調査の報告を行う。
第 21 回	研究・調査報告⑪	文献を用いたこれまでの研究・調査に、アンケート調査やヒアリング調査の結果を加味した研究・調査の報告を行う。
第 22 回	研究・調査報告⑫	文献を用いたこれまでの研究・調査に、アンケート調査やヒアリング調査の結果を加味した研究・調査の報告を行う。
第 23 回	研究・調査報告⑬	文献を用いたこれまでの研究・調査に、アンケート調査やヒアリング調査の結果を加味した研究・調査の報告を行う。
第 24 回	研究・調査報告⑭	文献を用いたこれまでの研究・調査に、アンケート調査やヒアリング調査の結果を加味した研究・調査の報告を行う。
第 25 回	研究・調査報告⑮	文献を用いたこれまでの研究・調査に、アンケート調査やヒアリング調査の結果を加味した研究・調査の報告を行う。
第 26 回	研究・調査報告⑯	文献を用いたこれまでの研究・調査に、アンケート調査やヒアリング調査の結果を加味した研究・調査の報告を行う。
第 27 回	ゲストスピーカーによる講義	ゲストスピーカー（行政、事業者、市民・NPO、学識経験者等）の講義とその内容に関する討論を行う。
第 28 回	総括－最終報告－	今年度取り組んだ研究・調査や春学期に作成した計画書（レポートあるいは（小）論文）に基づいて、チームごとに取組成果を報告する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本研究会では、著書・論文内容の整理や国内外の取組事例の分析を通して、①研究・調査テーマの決定、②研究・調査の目的・視点・方法、③研究・調査に関する先進地域や研究対象地域の選定・検討方法を学習し、また、今後社会で活躍するための能力を身に付けていきます。大変なこともあるかもしれませんが、楽しく前向きに、また、計画的に実施してください。そのために、本研究会での準備学習・復習は必ず行ってください。なお、本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しませんが、毎回の報告はパワーポイントを利用します。各チームは報告レジュメ（パワーポイント版）と報告概要（ワード版）の作成と配布をお願いします。

【参考書】

チームやそのメンバーの研究・調査の進捗状況に応じて、授業中に著書、論文、報告書、新聞・雑誌記事などを紹介します。

【成績評価の方法と基準】

本演習の成績は次の 4 点に基づいて評価します。

- ① 討論への参加（発言内容）（20%）
- ② 報告用配布レジュメの内容（20%）
- ③ 報告内容（プレゼンテーション能力）（30%）
- ④ 研究・調査レポート、研究会修了論文（30%）

【学生の意見等からの気づき】

毎年、ゼミ生の意見や要望などを考慮に入れ、講義内容を改善しています。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンとプロジェクターを使用しますので、毎回準備をお願いします。

【その他の重要事項】

本研究会は、個人による研究・調査だけではなく、数名のメンバーから構成されるチームでの研究・調査が中心となります。また、調査先の方々、学部外の学生や教員と一緒に勉強会や報告会などのイベントも開催します。そのために、物事を自分で考え、また、積極的かつ意欲的に取り組むことができる能力だけではなく、人と人とのつながりや他人への気配りを大切にできる能力も身につけてください。

【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース、ローカル・サステイナビリティコース

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

The purpose of this seminar is to learn the method of business design for sustainable growth of the region based on literature survey, field survey, and feasibility study.

ENV400HA

研究会 A

松本 倫明

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火 5/Tue.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「地球温暖化とその周辺」

地球環境／地球温暖化対策／省エネ／エネルギー問題／エコ技術 など、地球温暖化をキーワードに幅広いテーマを扱います。

【到達目標】

地球温暖化とその周辺について理解を深めます。たとえば温暖化政策や温暖化対策と称しているものが本当に正しいか、これらを検証する力を身につけることを目標とします。そのために、客観的に事実やデータにもとづいて定量的に解析し、考察する力をつけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業開始日：4月21日

最近の活動内容は以下の通りです。2018 年度はサイエンスコミュニケーションを大きなテーマにしますが、詳細はゼミ内の話し合いで決めます。

「環境速報」(通年) …環境に関するニュースをレポーターが発表し、みんなで考えます。環境に関する幅広い知見を得ることが目的です。

「文献輪講」(前期) …地球温暖化に関する文献を輪講します。文献は毎年異なります。近年では、IPCC 評価報告書、エネルギー白書、原子力・自然エネルギーに関する書籍、科学技術社会論 (STS) の書籍、省庁発行の資料、環境白書を輪講しました。

「研究報告」(後期) …個人の研究の進捗状況を発表し、議論します。

「グループワーク」(逐次) …特定のテーマについてグループで研究します。近年では、環境展における企業研究、文献調査、キャンパスの放射線量調査を行いました。

「報告書」(年度末) …1 年間の成果をまとめた報告書を提出します。4 年生は研究会修了論文 (卒論) を提出します。

必要に応じてサブゼミを火曜 6 限に行うことがあります。上記の他に親睦会などが行われます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	打ち合わせ	研究会運営について打ち合わせをします。
第 2 回	環境速報 文献輪講 グループワーク	環境速報と文献輪講を行います。グループワークを話し合います。
第 3 回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第 4 回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第 5 回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第 6 回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第 7 回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第 8 回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第 9 回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第 10 回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第 11 回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第 12 回	環境速報 文献輪講	環境速報と文献輪講を行います。
第 13 回	グループワーク発表 グループワーク発表	春学期のグループワークの成果を発表します。
第 14 回	まとめ	春学期のまとめをします。
第 15 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第 16 回	環境速報 研究報告 グループワーク	環境速報と研究報告を行います。グループワークについて話し合います。
第 17 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。

第 18 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第 19 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第 20 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第 21 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第 22 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第 23 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第 24 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第 25 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第 26 回	環境速報 研究報告	環境速報と研究報告を行います。
第 27 回	グループワーク発表	グループワークの発表を行います。
第 28 回	まとめ	1 年間のまとめをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。環境速報・文献購読・研究報告のレポーターにあたった場合には、発表の準備をしてください。課外活動で学外で調査を実施することがあります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業中に指示をします。

【参考書】

授業中に指示をします。

【成績評価の方法と基準】

ゼミへの参加姿勢、発表と議論の姿勢、年度末報告書にもとづき総合的に判断します（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

ピアレビューは好評なので今年度も引き続きピアレビューを行います。グループワークを充実させます。

【学生が準備すべき機器他】

環境速報・文献購読・研究報告のレポーターにあたった場合には、発表の準備をしてください。課外活動では、学外で調査を実施することがあります。

【関連の深いコース】

環境サイエンスコース

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Students learn scientific knowledge about global warming and related issues.

HSS400HA

研究会 A

宮川 路子

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：月 3/Mon.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会を健康に生きていくために

ストレスに満ち溢れた現代社会においては、自殺者の数が 1998 年から 14 年連続で 3 万人を超えていた。現在は減少傾向にあり、2019 年には 2 万人を割ったが、若者の自殺者数は横ばいであり、メンタル面での障害を抱えながら生きている人の数は非常に多い。就労形態の多様化、過重労働、ワークライフバランスの問題など、就労環境におけるストレスも移り変わりながら増加している。不規則な生活などにより生活習慣病に罹っている人の割合も多く、私たちが肉体的、精神的に健康に生きていくためにはさまざまな障壁がある。さらに、めまぐるしく移り変わる医療をめぐる環境においては、氾濫する情報を的確に取捨選択して自己の健康管理を行っていくことが求められる。学生が将来社会に出て、働きながら健康を維持し、健康寿命を延長して長寿をめざすための知識を得ることを目的としている。さらに、コミュニケーション能力、発言力、ディスカッション能力を高めることにより、職場における最大のストレス要因である人間関係を円滑に保つことができる能力を取得する。

【到達目標】

テーマは学生により異なるが、担当する学生は、毎回発表において問題提起を行う。いかに的確な問題提起を行うかは研究テーマへの深い理解を必要とする。参加学生全員による積極的なディスカッションを通じてテーマの理解を深めることを目的としている。また、学生はプレゼンテーションについてのスキル（文献収集や調査、わかりやすいレジュメの作成、パワーポイントの作成、人前での発表、適切な問題提起と他の学生の意見を交えての最終的なコメント提供など）、グループディスカッションを通じて、議事進行、意見のまとめと発表、発言力、コミュニケーション力を身につけることが可能となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

本研究会では、健康、医療、生命倫理関連のテーマについて幅広く焦点を当て、学生の自主的なテーマの選択、調査研究により発表を行う。1 年に 2 回の発表であるが、同じテーマについて掘り下げて研究し、より完成度の高い調査発表を行い、最終的に卒論としてまとめることを目標としている。少人数制のゼミであり、通常の講義では難しい細やかな学習により学生の能力を高める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	発表日程、テーマの決定
第 2 回	図書館ガイダンス	文献検索方法など
第 3 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（1）	研究発表とディスカッション（1）
第 4 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（2）	研究発表とディスカッション（2）
第 5 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（3）	研究発表とディスカッション（3）
第 6 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（4）	研究発表とディスカッション（4）
第 7 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（5）	研究発表とディスカッション（5）
第 8 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（6）	研究発表とディスカッション（6）
第 9 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（7）	研究発表とディスカッション（7）
第 10 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（8）	研究発表とディスカッション（8）
第 11 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（9）	研究発表とディスカッション（9）
第 12 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション（10）	研究発表とディスカッション（10）

第 13 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション (1 1)	研究発表とディスカッション (1 1)
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめ
第 15 回	ガイダンス	秋学期の発表日程及びテーマの決定
第 16 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション (1 2)	研究発表とディスカッション (1 2)
第 17 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション (1 3)	研究発表とディスカッション (1 3)
第 18 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション (1 4)	研究発表とディスカッション (1 4)
第 19 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション (1 5)	研究発表とディスカッション (1 5)
第 20 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション (1 6)	研究発表とディスカッション (1 6)
第 21 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション (1 7)	研究発表とディスカッション (1 7)
第 22 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション (1 8)	研究発表とディスカッション (1 8)
第 23 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション (1 9)	研究発表とディスカッション (1 9)
第 24 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション (2 0)	研究発表とディスカッション (2 0)
第 25 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション (2 1)	研究発表とディスカッション (2 1)
第 26 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション (2 2)	研究発表とディスカッション (2 2)
第 27 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション (2 3)	研究発表とディスカッション (2 3)
第 28 回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。日頃から健康関連のニュースに関心を持ち、新聞を読むこと。気になるテーマがあれば、関連図書を読むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に指定します

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

春学期、秋学期にそれぞれ一回ずつの発表を行う。その際のレジュメ、発表内容などの評価 (50%)、通常の参加態度 (50%) による総合評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

学生の自発的な発言機会を増やすようにしていきます。

【その他の重要事項】

2 年生からの参加が基本であり、学生は選んだテーマについて毎回掘り下げて調査、研究を行い、最終的に卒業論文を作成します。

【関連の深いコース】

環境サイエンスコース

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

In a stressful contemporary society, many people live with psychiatric disorders. Stress in working environments such as diversification of labor form, overwork and work-life balance issues are increasing. In addition, many people are suffering from lifestyle diseases due to irregular living. There are various barriers for us to live healthily both physically and mentally. Also, in medical care, it is required to perform self-health management by appropriately selecting information to be flooded. This lecture aims at maintaining good health and acquiring knowledge to extend healthy life. Currently, the biggest stress factor in the workplace is human relations. By improving communication skills, speech skills, and discussion skills, students can acquire the ability to maintain good human relations in workplaces.

HSS400HA

研究会 A

宮川 路子

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：月 4/Mon.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会を健康に生きていくために

ストレスに満ち溢れた現代社会においては、自殺者の数が 1998 年から 14 年連続で 3 万人を超えていた。現在は減少傾向にあり、2019 年には 2 万人を割ったが、若者の自殺者数は横ばいであり、メンタル面での障害を抱えながら生きている人の数は非常に多い。就労形態の多様化、過重労働、ワークライフバランスの問題など、就労環境におけるストレスも移り変わりながら増加している。不規則な生活などにより生活習慣病に罹っている人の割合も多く、私たちが肉体的、精神的に健康に生きていくためにはさまざまな障壁がある。さらに、めまぐるしく移り変わる医療をめぐる環境においては、氾濫する情報を的確に取捨選択して自己の健康管理を行っていくことが求められる。学生が将来社会に出て、働きながら健康を維持し、健康寿命を延長して長寿をめざすための知識を得ることを目的としている。さらに、コミュニケーション能力、発言力、ディスカッション能力を高めることにより、職場における最大のストレス要因である人間関係を円滑に保つことができる能力を取得する。

【到達目標】

テーマは学生により異なるが、担当する学生は、毎回発表において問題提起を行う。いかに的確な問題提起を行うかは研究テーマへの深い理解を必要とする。参加学生全員による積極的なディスカッションを通じてテーマの理解を深めることを目的としている。また、学生はプレゼンテーションについてのスキル（文献収集や調査、わかりやすいレジュメの作成、パワーポイントの作成、人前での発表、適切な問題提起と他の学生の意見を交えての最終的なコメント提供など）、グループディスカッションを通じて、議事進行、意見のまとめと発表、発言力、コミュニケーション力を身につけることが可能となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

本研究会では、健康、医療、生命倫理関連のテーマについて幅広く焦点を当て、学生の自主的なテーマの選択、調査研究により発表を行う。1 年に 2 回の発表であるが、同じテーマについて掘り下げて研究し、より完成度の高い調査発表を行い、最終的に卒論としてまとめることを目標としている。少人数制のゼミであり、通常の講義では難しい細やかな学習により学生の能力を高める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	発表日程、テーマの決定
第 2 回	図書館ガイダンス	文献検索方法など
第 3 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション (1)	研究発表とディスカッション (1)
第 4 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション (2)	研究発表とディスカッション (2)
第 5 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション (3)	研究発表とディスカッション (3)
第 6 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション (4)	研究発表とディスカッション (4)
第 7 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション (5)	研究発表とディスカッション (5)
第 8 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション (6)	研究発表とディスカッション (6)
第 9 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション (7)	研究発表とディスカッション (7)
第 10 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション (8)	研究発表とディスカッション (8)
第 11 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション (9)	研究発表とディスカッション (9)
第 12 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション (10)	研究発表とディスカッション (10)

第 13 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション (1 1)	研究発表とディスカッション (1 1)
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめ
第 15 回	ガイダンス	秋学期の発表日程及びテーマの決定
第 16 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション (1 2)	研究発表とディスカッション (1 2)
第 17 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション (1 3)	研究発表とディスカッション (1 3)
第 18 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション (1 4)	研究発表とディスカッション (1 4)
第 19 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション (1 5)	研究発表とディスカッション (1 5)
第 20 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション (1 6)	研究発表とディスカッション (1 6)
第 21 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション (1 7)	研究発表とディスカッション (1 7)
第 22 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション (1 8)	研究発表とディスカッション (1 8)
第 23 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション (1 9)	研究発表とディスカッション (1 9)
第 24 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション (2 0)	研究発表とディスカッション (2 0)
第 25 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション (2 1)	研究発表とディスカッション (2 1)
第 26 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション (2 2)	研究発表とディスカッション (2 2)
第 27 回	ゼミ生による研究発表および問題提起に対するディスカッション (2 3)	研究発表とディスカッション (2 3)
第 28 回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。日頃から健康関連のニュースに関心を持ち、新聞を読むこと。気になるテーマがあれば、関連図書を読むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に指定します

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

春学期、秋学期にそれぞれ一回ずつの発表を行う。その際のレジュメ、発表内容などの評価 (50%)、通常の参加態度 (50%) による総合評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

学生の自発的な発言機会を増やすようにしていきます。

【その他の重要事項】

2 年生からの参加が基本であり、学生は選んだテーマについて毎回掘り下げて調査、研究を行い、最終的に卒業論文を作成します。

【関連の深いコース】

環境サイエンスコース

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

In a stressful contemporary society, many people live with psychiatric disorders. Stress in working environments such as diversification of labor form, overwork and work-life balance issues are increasing. In addition, many people are suffering from lifestyle diseases due to irregular living. There are various barriers for us to live healthily both physically and mentally. Also, in medical care, it is required to perform self-health management by appropriately selecting information to be flooded. This lecture aims at maintaining good health and acquiring knowledge to extend healthy life. Currently, the biggest stress factor in the workplace is human relations. By improving communication skills, speech skills, and discussion skills, students can acquire the ability to maintain good human relations in workplaces.

ENV400HA

研究会 A

渡邊 誠

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火 5/Tue.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：文系の立場から科学技術政策へ向けて多角的に考える「人」と「環境問題」の関連について具体的な事例をもとに幅広く考察し、環境問題の論点や視点の持ち方を研究していきます。科学技術の進歩とは何か？を意識しながらその将来像や政策の方向について考えていきます。参加者同士で調査・報告・討論しながら人間と科学技術の関係性と政策の進め方などについて考察を深めます。具体的な研究内容は授業時に相談しながら選定します。

【到達目標】

今日我々が抱えている環境問題を科学技術の進歩の結果としてとらえ、その歴史や役割などを考察し、我々のライフスタイルなどを結びつけながら総合的に考える力を養うことを目標としています。自らが問題・課題を発見し、調査・検討するという体験を通して、自分の意見をしっかりと持ち、説得力のある表現（プレゼンテーション）ができるようになることも目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンライン（学習支援システムを含む）での開講となります。本授業の開始日は 4 月 28 日とします。各回の授業内容およびその他の連絡事項等は学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	1 年間の授業計画についての打ち合わせを行う。
第 2 回	導入ディスカッション	共通テーマをもとに全員で話し合いを行う。
第 3 回	導入ディスカッション	共通テーマをもとに全員で話し合いを行う。
第 4 回	導入ディスカッション	共通テーマをもとに全員で話し合いを行う。
第 5 回	基礎的事項の確認	科学技術とその政策を考察する上で必要な内容を検討する。
第 6 回	基礎的事項の確認	科学技術とその政策を考察する上で必要な内容を検討する。
第 7 回	基礎的事項の確認	科学技術とその政策を考察する上で必要な内容を検討する。
第 8 回	共通テーマによる研究と報告	テーマを選定し調査・研究をすすめる。研究内容の報告を行う。
第 9 回	共通テーマによる研究と報告	テーマを選定し調査・研究をすすめる。研究内容の報告を行う。
第 10 回	共通テーマによる研究と報告	テーマを選定し調査・研究をすすめる。研究内容の報告を行う。
第 11 回	共通テーマによる研究と報告	テーマを選定し調査・研究をすすめる。研究内容の報告を行う。
第 12 回	共通テーマによる研究と報告	テーマを選定し調査・研究をすすめる。研究内容の報告を行う。
第 13 回	共通テーマによる研究と報告	テーマを選定し調査・研究をすすめる。研究内容の報告を行う。
第 14 回	共通テーマによる研究の総括	研究のまとめと総合討論を行う。
第 15 回	個人研究のためのガイダンス	テーマ選定のための検討を行う。
第 16 回	個人研究の報告と検討 (2,3 年生)	個人研究のテーマと調査内容について報告する。
第 17 回	個人研究の報告と検討 (2,3 年生)	個人研究のテーマと調査内容について報告する。
第 18 回	個人研究の報告と検討 (2,3 年生)	個人研究のテーマと調査内容について報告する。
第 19 回	卒論の中間報告 (4 年生)	研究会修了論文 (卒論) の中間報告と質疑応答を行う。
第 20 回	卒論の中間報告 (4 年生)	研究会修了論文 (卒論) の中間報告と質疑応答を行う。
第 21 回	卒論の中間報告 (4 年生)	研究会修了論文 (卒論) の中間報告と質疑応答を行う。
第 22 回	個人研究の報告と検討 (2,3 年生)	個人研究の調査内容について報告する。
第 23 回	個人研究の報告と検討 (2,3 年生)	個人研究の調査内容について報告する。

第 24 回	個人研究の報告と検討 (2,3 年生)	個人研究の調査内容について報告する。
第 25 回	個人研究の報告と検討 (2,3 年生)	個人研究の調査内容について報告する。
第 26 回	卒論の最終報告 (4 年生)	研究会修了論文 (卒論) の最終報告と 質疑応答を行う。
第 27 回	卒論の最終報告 (4 年生)	研究会修了論文 (卒論) の最終報告と 質疑応答を行う。
第 28 回	卒論の最終報告 (4 年生)	研究会修了論文 (卒論) の最終報告と 質疑応答を行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
グループ研究あるいは個人研究を進めるための調査、検討、資料作成を行う
こととします。発表に際してはあらかじめレジュメを作成し提出します。本
授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特に使用しません。

【参考書】

開講時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成
績評価の方法と基準は、授業参加の積極性など 100 %、とします。

【学生の意見等からの気づき】

基礎事項などについては、なるべくわかりやすい説明となるよう留意します。

【学生が準備すべき機器他】

プレゼンテーションのための PC などは各自用意してください。

【関連の深いコース】

環境サイエンスコース

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Theme: Discussion about environmental problems from a viewpoint of
the technology evolution

In this seminar we consider human being and environmental problems
caused by a result of the evolution of science and technology in our
society. The meaning of the "progress" of technology is inquired
here. We mainly discuss both of merits and faults for technologies
recently developed. Policy studies are introduced here. In the spring
semester, discussion with common themes will be mainly held for
all members of this seminar. Result of individual research will be
reported in the autumn semester. Students should examine practical
instances of technology expanded in society and its influence to our
living beforehand. In class, they report prepared contents including
their own opinions and suggestion. Discussion will be made by all of
participants.

ENV400HA

研究会 A

高田 雅之

配当年次/単位：2~4 年 / 4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：金 3/Fri.3

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

自然のもつ奥深い魅力を探求するとともに、生態系や野生生物の理解に基づい
て、自然環境を取り巻く諸課題に対し望ましい在り方を考究することをテー
マとします。その際、地域の社会や経済との関わりを視点を中心に、国際的
視点や他の諸問題との関わりなど、様々なアプローチによって豊かな発想力
を養います。研究会を通して多様な知識による基盤を作り、その上に各自の
問題意識を組立て、修了論文を目指します。

【到達目標】

以下の 4 点を身に付けます。

- ①自然環境に関する幅広い知識・見識と柔軟な考え方
- ②設定課題について自らの意見を形成し、表明及び伝達する能力 (プレゼン
テーション/レポート能力)
- ③他者との議論を通して、異なる観点の意見を受け入れ合意を形成する能力
(コミュニケーション能力)
- ④自ら課題を設定し、関連する情報を収集・分析し、体系的にまとめて考察
する能力 (論理的思考)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力
を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習
成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

生物多様性保全、生態系・野生生物と人間の社会経済との関係などをテー
マに以下のことを実施します。

- ①グループワークをとおして、設定課題について調査・考究し、成果を取り
まとめます
- ②個人学習によって、設定課題について情報整理・企画立案し、成果を発表
します
- ③野外学習/ゼミ合宿とサブゼミ学習を通じて、市民活動/企業とのコラボ
やフィールドに学び、企画力・実践力・分析力を養います (※サブゼミ学習の
テーマ例：都市の緑地・水辺・生物・東京湾・生き物文化など)
- ④自らの研究テーマを設定し、情報収集と調査、分析と考察を重ね、最終的
な修了論文作成につなげます

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	研究会の進め方
第 2 回	テーマ 1 : グループ研究 1	事前学習
第 3 回	テーマ 1 : グループ研究 2	グループ討議
第 4 回	テーマ 1 : グループ研究 3	グループ討議と中間発表
第 5 回	テーマ 1 : グループ研究 4	グループ討議
第 6 回	テーマ 1 : グループ研究 5	グループ討議とまとめ
第 7 回	テーマ 1 : グループ研究 6	発表と総括講義
第 8 回	テーマ 2 : グループ研究 1	事前学習
第 9 回	テーマ 2 : グループ研究 2	グループ討議
第 10 回	テーマ 2 : グループ研究 3	グループ討議と中間発表
第 11 回	テーマ 2 : グループ研究 4	グループ討議
第 12 回	テーマ 2 : グループ研究 5	グループ討議とまとめ
第 13 回	テーマ 2 : グループ研究 6	発表と総括講義
第 14 回	春学期まとめ	総括講義と意見交換
第 15 回	ガイダンス	秋学期の研究会の進め方
第 16 回	テーマ 3 : ディベート 1	事前学習
第 17 回	テーマ 3 : ディベート 2	グループ討議
第 18 回	テーマ 3 : ディベート 3	ディベート第 1 回
第 19 回	テーマ 3 : ディベート 4	グループ討議
第 20 回	テーマ 3 : ディベート 5	ディベート第 2 回
第 21 回	テーマ 3 : ディベート 6	発表とまとめ
第 22 回	テーマ 4 : 個人・グルー プ研究 1	事前学習

発行日：2020/5/1

- 第 23 回 テーマ 4：個人・グループ グループ内プレゼン
ブ研究 2
- 第 24 回 テーマ 4：個人・グループ グループ討議
ブ研究 3
- 第 25 回 テーマ 4：個人・グループ グループ討議と中間発表
ブ研究 4
- 第 26 回 テーマ 4：個人・グループ グループ討議
ブ研究 5
- 第 27 回 テーマ 4：個人・グループ 発表と総括講義
ブ研究 6
- 第 28 回 年間まとめ 総括講義と意見交換

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。設定課題に対して、事前調査、資料作成、発表準備などを行っていただきます。また週末等に行う野外学習とサブゼミ活動に積極的に参加していただきます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のものはありません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】

講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（100%）：課題の提出、議論への参加、学習意欲、グループワークやゼミ活動への貢献、野外学習やサブゼミ活動、自主的な取り組みなどを総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

過大な負担や知識の詰め込みにならないよう、個人学習、グループ学習、フィールド学習、自主活動のバランスをとって、できる限り自発性と協調性を重視しこれを促すよう学習していきます。

【その他の重要事項】

「自然環境政策論Ⅰ（春期）及びⅡ（秋期）」が未履修の学生は、当該科目を必ず履修してください。また、より理解を深めるため、「サイエンスカフェⅢ（生態学）」（春期）と「自然環境論Ⅳ」（秋期）の履修を推奨します。

【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース、環境サイエンスコース

【実務経験のある教員による授業】

公務員、独立行政法人、民間企業

【Outline and objectives】

In this course, students will learn the richness and diversity of nature and ecosystem services, and will explore ways to solve various problems between the humans and nature mainly from local perspectives, based on the understanding of ecosystems and wildlife.

GEO400HA

研究会 B

杉戸 信彦

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然災害のすがたは、災害をもたらす自然現象（地震や豪雨など）、土地条件（ゆれやすさや浸水しやすさなど）、人間社会の備え（ハード面からソフト面まで）など、さまざまな側面によって決まります。本研究会では、自然災害と防災を取り巻く話題を、主に自然地理学的な観点から考えていきます。

【到達目標】

自然災害と防災について、災害をもたらす自然現象、土地条件、人間社会の備えなどの諸側面から具体的に説明できる。

調査法や発表法を身につける。

地図を活用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

●追記 春学期の少なくとも前半はオンラインで開講する。それにとまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 28 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

～～以下は当初記述

文献講読やグループ研究、野外実習を行います。キーワードは、自然環境、自然災害、地形環境、地震、津波、豪雨、火山噴火、気候変動、予測、土地条件、土地利用、ハザードマップ、災害の歴史、土地の歴史、防災教育、地域性、メカニズム、歴史の変遷などです。自然災害と防災にかかわる話題を中心に扱います。グループ研究のテーマは、研究会をすすめる中で学生のみなさんと相談しながら検討していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	趣旨説明
第 2 回	講義	文献等検索法説明、論文の作成法・発表法説明
第 3 回	時の話題	発表、質疑応答・討論
第 4 回	時の話題	発表、質疑応答・討論
第 5 回	時の話題	発表、質疑応答・討論
第 6 回	課題演習	机上作業
第 7 回	野外実習	フィールド巡検
第 8 回	文献講読	意見交換
第 9 回	文献講読	発表、質疑応答・討論
第 10 回	文献講読	意見交換
第 11 回	文献講読	発表、質疑応答・討論
第 12 回	文献講読	意見交換
第 13 回	文献講読	発表、質疑応答・討論
第 14 回	まとめ	春学期のまとめ
第 15 回	ガイダンス	趣旨説明、文献等検索法説明、論文の作成法・発表法説明
第 16 回	グループ研究	テーマや地域の設定
第 17 回	課題演習	机上作業
第 18 回	野外実習	フィールド巡検
第 19 回	文献講読	意見交換
第 20 回	文献講読	発表、質疑応答・討論
第 21 回	時の話題	発表、質疑応答・討論
第 22 回	グループ研究	発表、質疑応答・討論
第 23 回	時の話題	発表、質疑応答・討論
第 24 回	時の話題	発表、質疑応答・討論
第 25 回	グループ研究	発表、質疑応答・討論
第 26 回	文献講読	意見交換
第 27 回	文献講読	発表、質疑応答・討論
第 28 回	グループ研究	発表、質疑応答・討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して予習・復習をすること。資料の収集・分析や事前調査、発表準備、発表後の整理、追加調査、とりまとめ等を行う。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員から配布ほか

【参考書】

授業中に紹介

【成績評価の方法と基準】

●追記 春学期の少なくとも前半をオンラインで開講することにもない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、学習支援システムで提示する。

～～～以下は当初記述

平常点やレポート等の総合評価（100%）。基準は研究会における取り組みの状況や到達目標の達成度等です。

【学生の意見等からの気づき】

知識や基礎力、思考力に加え、応用力やスキルをより涵養すべく、詳しく具体的な説明や効果的な進め方を心がけます。

【関連の深いコース】

すべてのコース

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Natural disasters result from various factors such as natural phenomena that cause disasters (earthquake, heavy rain, and so on), topographic environment at each area (vulnerability for ground motion, flooding, and so on) and disaster management in each human society (from social infrastructures to human behaviors). We examine topics surrounding natural disasters and their mitigation, based on physical-geographic approaches.

SOS400HA

研究会 B

岡松 暁子

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際社会で生じた、あるいは生じている様々な問題を素材として、国際平和（国際社会の中の日本、国際紛争の解決、環境問題の改善、人権の保障、よりよい社会の実現）について考える。

【到達目標】

自分で設定したテーマについて、徹底的に調べ、研究し、発表し、議論することで、問題解決能力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

専門文献講読、事例研究、個人の研究報告、時事問題に関する討論、ディベート等を行う。

教室でのゼミが可能になるまでの間、ZOOM によるオンラインゼミを行う。詳細は、授業支援システムで確認のこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	国際平和の追求	ガイダンス
第 2 回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第 3 回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第 4 回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第 5 回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第 6 回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第 7 回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第 8 回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第 9 回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第 10 回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第 11 回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第 12 回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第 13 回	国際平和の追求	グループ発表と討論
第 14 回	国際平和の追求	まとめと討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。報告者が事前に指定する文献を読み、それに基づいて十分に予習をしてこること。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

小寺彰・岩沢雄司・森田章夫編『講義国際法 [第 2 版]』有斐閣、2010 年。
小寺彰・森川幸一・西村弓編『国際法判例百選 [第 2 版]』有斐閣、2011 年。
岩沢雄司編『国際条約集』有斐閣。

【参考書】

松井芳郎『国際環境法の基本原則』東信堂、2010 年。

【成績評価の方法と基準】

発表：30 %

議論への参加：30 %

期末レポート：30 %

ゼミ運営への貢献：10 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

発表に必要な PC、機器使用のための鍵等を用意すること。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Participants will discuss international peace focusing on armed conflicts, international environmental issues, human rights etc.

TRS400HA

研究会 A

梶 裕史

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：金 4/Fri.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：海・離島の「文化的景観」とエコツーリズム
「文化的景観」という考え方をベースに、離島・海辺固有の自然・文化資産を活かしたエコな地域形成・人間形成の可能性について、日本型のエコツーリズムや観光文化、エコミュージアムなどの視点と結びつけながら、夏休みに企画・実施する「沖縄離島ゼミ合宿」（訪問先＝八重山諸島）での調査・体験を活かして事例研究をおこなう。

【到達目標】

「環境表象論ⅠⅡ」の内容を、ゼミ合宿時の現地調査・体験によって実感的に理解すること。また、この刺激で自主的にフィールドワークを計画する意欲を高めると同時に、沖縄に限らず様々なフィールドの話から、自己の現地体験とのつながりを見つけられ、個々の研究成果を共有できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

「授業計画」に示すように、教室では同学年の共同作業（共同研究発表の準備）や個人研究発表とその後の質疑応答、意見交換など、グループワークが中心となります。春学期は主として、夏休みに実施する沖縄離島ゼミ合宿の事前学習、秋学期は主として、合宿の成果をまとめる共同作業を行なってもらう予定です。

なお、今年度の授業開始は5月8日（金）の予定です。「授業計画」の変更も含めて、全て学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、参加者自己紹介	年間スケジュールの説明等
第2回	沖縄・八重山離島についてのガイダンス	合宿で訪問する地域について概観的な予備学習
第3回	導入課題の小発表（グループワーク）	竹富島を訪ねる旅を想定した自主企画（日帰り/1泊）
第4回	講義とグループワーク①	竹富島の集落景観（有形部分）の価値Ⅰ
第5回	講義とグループワーク②	伝統文化継承と「観光」の両立 その経緯
第6回	講義とグループワーク③	島の針路選択の成功
第7回	講義とグループワーク④	集落景観の価値Ⅱ（無形部分） 祭事・行事の意義など
第8回	講義とグループワーク⑤	「うつぐみの心」と観光文化（第2回からのまとめ）
第9回	講義とグループワーク⑥	竹富島の「循環する自然」に即した生活文化
第10回	個別小発表	現地で調べたいテーマについて/合宿のグループ分け
第11回	講義とグループワーク⑦	石垣島白保集落について 概観
第12回	講義とグループワーク⑧	白保の「サンゴ礁文化継承」の地域活動について—竹富島との共通点・相違
第13回	夏合宿の打ち合わせ①	島の方々と交流するにあたっての留意事項等
第14回	夏合宿の打ち合わせ②	各自のヒアリングの質問候補の紹介・共有のグループワーク
第15回	秋学期オリエンテーション	合宿を振り返り、その成果をまとめたポスター作成（ゼミ相談会用）と共同発表に向けた打ち合わせ
第16回	共同作業①（ポスター作成）	構成（コンテンツ）、見出し、解説文、写真選定等
第17回	共同作業②（ポスター作成）	小グループ毎に、前回の細部をつめる
第18回	共同作業③（ポスター完成）	ゼミ相談会のポイント打ち合わせ
第19回	共同作業④（共同プレゼンの準備）	ポスター作業の収穫をもとに、年末に発表する内容の準備を始める
第20回	共同作業⑤（共同プレゼンの準備）	前回到続いてポスター作業の収穫をもとに、年末に発表する内容の準備を始める
第21回	共同作業⑥（共同プレゼンの準備）	レジュメ完成
第22回	共同作業⑦（共同プレゼンの準備）	プレゼン予行練習

第23回	個人研究発表①（学年末論文作成の準備）	個別に合宿の成果を発表。1人20以内で1回2～3人程度。第1グループ（例）伝統的な食文化と健康
第24回	個人研究発表②（学年末論文作成の準備）	第2グループ（例）「住」の景観と連帯感・共同規範
第25回	個人研究発表③（学年末論文作成の準備）	第3グループ（例）祭事・芸能と共同体の規範、絆
第26回	個人研究発表④（学年末論文作成の準備）	第4グループ（例）伝統を活かすツーリズムと、破壊する観光開発（リゾート問題）
第27回	2年生共同発表	3・4年生も参加、聴講
第28回	個別論文指導	グループワークを行う中で、一人一人を呼んで教員がアドバイス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。各自、合宿の準備にあたる予備知識や現地情報の収集（主に春学期）。授業内（教室）以外でのゼミ生相互の有益な情報交換。近場の自主的訪問等。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

発表内容および学年末論文 65%、参加姿勢やゼミという組織の中での協調性・貢献度等 35%。

【学生の意見等からの気づき】

・好評の「教員と学生個々との近さ、親しみやすさ」という特色を今後も活かしていきます。

・「好きこそものの上手なれ」の信条に沿って、各自の趣味嗜好・資質に適った研究テーマを設定できることは、自律的な自己管理の意思が必要なものの、モチベーションを良好に持続できれば、多様なゆたかな研究成果を共有できる面白さと刺激があるという声、定評としてあります。

・学部のフィールドスタディほどの質は伴わないにせよ、自主的にヒアリングを必ず含む現地調査を企画し実行する経験は、コミュニケーション力の向上につながっているようです。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

・「環境表象論ⅠⅡ」を未履修の人は、今年度中に受講してください。

・この金曜4限研究会は2・3年の新規参加者が履修登録対象になります。

【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース、人間文化コース

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Theme: "Cultural landscape" of the sea and remote islands and ecotourism

Based on the concept of "cultural landscape", the possibility of ecological region formation and human formation making full use of the isolated natural and cultural assets of remote islands and beaches, Japanese ecotourism, tourism culture, eco-museum etc. perspective While linking, we conduct case studies taking advantage of surveys and experiences at "Okinawa island seminar camp" (Yaeyama Islands) where we plan and implement during the summer vacation.

CMF400HA

研究会 B

北川 徹哉

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火 5/Tue.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

エアラインとエアポートの各種業務の詳細を学び、航空交通運輸の発達と命を守ることの重責を知る。

【到達目標】

1. 航空産業の性質と経営を説明できる。
2. 空港の歴史と運営業務を説明できる。
3. 航空産業と空港業務の課題と未来を展望できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストを2冊ほど選び、各自の担当部分を決めて春学期は1冊目を、秋学期は2冊目を輪読してゆく。各回の担当者は自分の担当部分を理解して内容をまとめて臨み、発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	テキスト（1）の内容について	輪読するテキスト・資料の内容説明、輪読担当部分の取り決め
第2回	担当部分の発表・質疑応答	1 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第3回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	2 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第4回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	3 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第5回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	4 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第6回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	5 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第7回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	6 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第8回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	7 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第9回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	8 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第10回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	9 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第11回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	1 0 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第12回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	1 1 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第13回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	1 2 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第14回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	1 3 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第15回	テキスト（2）の内容について	輪読するテキスト・資料の内容説明、輪読担当部分の取り決め
第16回	担当部分の発表・質疑応答	1 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第17回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	2 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第18回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	3 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第19回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	4 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第20回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	5 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第21回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	6 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第22回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	7 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第23回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	8 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第24回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	9 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第25回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	1 0 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
第26回	前回の復習、担当部分の発表・質疑応答	1 1 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論

- 第27回 前回の復習、担当部分の発表・質疑応答 1 2 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論
- 第28回 前回の復習、担当部分の発表・質疑応答 1 3 番目の担当者あるいは担当グループによる発表と質疑応答・討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
第1～28回：輪読箇所の精読と不明箇所の事前調査、発表用スライドなどの作成、発表の練習。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業時に指定する。

【参考書】

適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

発表（50%：スライドなどの良好度、説明の正確さ、質疑応答の適切さ、到達目標1～3への達成度）、議論（50%：説明の正確さ、質疑応答の適切さ、到達目標1～3への達成度）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

自分がわからない部分は、ほかの人もわからないものです。わからないことを皆で学ぶのがゼミなのです。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This class is a seminar for learning about aviation business and airport operation.

CMF400HA

研究会 B

ESTHER STOCKWELL

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：月 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

* Human Communication *

Our lives are made up of communication in many different forms. We communicate with people around us not only through verbal language, but also through other forms of communication as well. The ability to communicate effectively is important in university study and in professional life. Differences in culture often have an effect on the way in which we communicate with each other. News and current events are also communicated to us through media such as newspapers, television and the Internet. These concepts will be discussed in this subject.

【到達目標】

This course combines both theory and practice, and provides an overview of the different aspects of human communication. We will cover fundamental theories to explain features of interpersonal relationships, groups, organizational relationships, cultural diversity, cultural attitudes, groups and persuasion, mass media, and the effects of the media on receivers. Students will learn to question why some forms of communication work and why others fail. Individual, social and technological aspects of communication are examined from theoretical and practical points of view.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

Classes will consist of a series of short lectures and other visual materials, followed by group and class discussions on the concepts covered in the lectures. In addition, students will be required to prepare for class by reading assigned articles on the topics of the following class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Orientation	Overview of the course, online activity, and overview of human communication
第 2 回	Introduction of Communication Studies	Definition of communication / Components of communication / Types of communication
第 3 回	Introduction of Communication Studies	Models of communication / The goal of studying communication
第 4 回	Self, Perception & Communication	What occurs in perception? / How do we perceive others? / What is self-awareness?
第 5 回	Self, Perception & Communication	How does perception affect communication and sense of self?
第 6 回	Verbal Communication	What is language? / Characteristics of language
第 7 回	Verbal Communication	How can language be an enhancement and an obstacle to communication?
第 8 回	Non verbal Communication	What is non-verbal communication? / How are verbal and non-verbal communication related? / What are non-verbal codes?
第 9 回	Non verbal Communication	Why are non-verbal codes difficult to interpret? / How can we improve our non-verbal communication?
第 10 回	Listening & Critical thinking	Misconceptions about listening / The listening process / Four types of listening / Critical listening
第 11 回	Writing Workshop	Planning & writing a short essay
第 12 回	Writing Workshop	Planning & writing an academic paper
第 13 回	Presentation Workshop	Planning & preparing oral presentation / Presentation techniques
第 14 回	Presentation	Students give presentations on their selected topics and evaluate their peers' presentations.

第 15 回	Fundamental Communication Studies	Overview of the course, online activity, and overview of fundamentals of communication
第 16 回	Interpersonal Communication	The nature of communication in interpersonal relationships
第 17 回	Interpersonal Communication	Essential interpersonal communication behaviour / How to improve interpersonal relationships
第 18 回	Small group Communication	The types & functions of small groups / The role of leadership in small groups
第 19 回	Small group Communication	Theoretical approaches to group leadership / Establishing culture in small groups
第 20 回	Intercultural Communication	Various different cultural patterns / Hofstede's characteristics of culture
第 21 回	Intercultural Communication	Potential problems in intercultural communication / Characteristics of different cultures / Strategies for improving intercultural communication
第 22 回	Organizational Communication	Type of organisations & organisational structures / Communication Network
第 23 回	Organizational Communication	Organisational Assimilation / The dark side of workplace communication
第 24 回	Mass Communication	Synchronous communication / Asynchronous communication / CMC and the communication process
第 25 回	Mass Communication	Mass media organisations / Agenda-setting, Gatekeeping, and Social Reality / Theories of media effects
第 26 回	Communication Research Method	Quantitative analysis / Qualitative analysis
第 27 回	Communication Research Method	Quantitative analysis / Qualitative analysis
第 28 回	Presentation	Students give presentations on their selected topics and evaluate their peers' presentations

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students need to prepare for and review each session by using textbooks, references, and distributed materials.

Students are expected to read reference materials for the next class. In addition, they need to write online forum postings after each class for review purposes. Therefore, students are expected to take about four hours for preparation and review a class.

【テキスト（教科書）】

There is no specified textbook for this course. Handouts will be provided in class.

【参考書】

Adler, R., & Rodman, G. (2013). Understanding Human Communication (9th Edition). New York: Oxford.
Joseph A. DeVito (2014). Human Communication: The Basic Course (13th Edition). Pearson.
Pearson, J., Nelson, P., Titsworth, S., & Harter, L. (2013). Human Communication. Boston: McGraw Hill.

【成績評価の方法と基準】

Students are expected to participate actively in class. Assessment is based on weekly class participation, writing online forum postings, presentations and written assignments. Students will not be assessed on their English language skills, but rather on their knowledge of the content of the classes. Assessment will consist of in-class participation (forum) (30%), a presentation (20%), a take-home exam (20%) and a written assignment(30%). Note that if you miss 4 classes or more, you cannot pass this subject.

【学生の意見等からの気づき】

There were no particular requirements for this course from students. However, I would like this course to enable students to apply what they learnt in class to their daily lives through questioning general phenomena in their lives.

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Our lives are made up of communication in many different forms. We communicate with people around us not only through verbal language, but also through other forms of communication as well. The ability to communicate effectively is important in university study and in professional life. Differences in culture often have an effect on the way in which we communicate with each other. News and current events are also communicated to us through media such as newspapers, television and the Internet. These concepts will be discussed in this subject.

ECN400HA

研究会 B

武貞 稔彦, 竹本 研史

配当年次/単位：2~4 年 / 4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：木 5/Thu.5

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

2020 年度は、持続可能な社会を構想するうえで、不可欠な「制度」について考えます。たとえば途上国では、「学校での予防接種」のような「制度」が整備されていないために、子どもの健康が守られていないといったことが言われます。なぜ、「制度」というものがあるのか、わたしたちは「制度」に「生かされている」のか、「制度」を利用した「統治」とはどういうことか、といった問いについて考えていきます。

【到達目標】

本研究会では、(ア) 開発と環境保全をめぐる議論を広い視野から捉え、(イ) 自らの意見を持ちそれを人に伝え、(ウ) 途上国、先進国を問わず、将来の持続可能な社会の姿を自らの価値観に基づき想像/構想できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

受講者の積極的な提案に基づき、演習の方法等は随時見直しを行います。主に a) 基礎文献の精読、b) 与えられた課題に関する個人またはグループによる調査とグループディスカッション、c) 参加者の意見表明やプレゼンテーションの機会、からなります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	メンバー間の自己紹介、研究会の進め方 (予定) について概説する。
第 2 回	何が「問題」か?	「制度」に関する基礎文献を読み、何が「問題」なのかについて意見交換する。
第 3 回	誰にとって「問題」か?	「制度」に関する基礎文献を読み、誰にとって「問題」なのかについて意見交換する。
第 4 回	グループディスカッション課題 1 (身近な制度) (1)	「制度」に関する基礎文献を読み、身近な制度について意見交換する。(1)
第 5 回	グループディスカッション課題 1 (身近な制度) (2)	「制度」に関する基礎文献を読み、身近な制度について意見交換する。(2)
第 6 回	グループディスカッション課題 1 (身近な制度) (3)	「制度」に関する基礎文献を読み、身近な制度について意見交換する。(3)
第 7 回	グループディスカッション課題 2 (日本における制度) (1)	「制度」に関する基礎文献を読み、日本における制度にかかる問題について意見交換する。(1)
第 8 回	グループディスカッション課題 2 (日本における制度) (2)	「制度」に関する基礎文献を読み、日本における制度にかかる問題について意見交換する。(2)
第 9 回	グループディスカッション課題 3 (先進国における制度) (1)	「制度」に関する基礎文献を読み、日本以外の先進国における制度にかかる問題について意見交換する。(3)
第 10 回	グループディスカッション課題 3 (先進国における制度) (2)	「制度」に関する基礎文献を読み、日本以外の先進国における制度にかかる問題について意見交換する。(4)
第 11 回	グループディスカッション課題 4 (途上国における制度) (1)	「制度」に関する基礎文献を読み、途上国における制度にかかる問題について意見交換する。(1)
第 12 回	グループディスカッション課題 4 (途上国における制度) (2)	「制度」に関する基礎文献を読み、途上国における制度にかかる問題について意見交換する。(2)
第 13 回	グループディスカッション課題 4 (途上国における制度) (3)	「制度」に関する基礎文献を読み、途上国における制度にかかる問題について意見交換する。(3)
第 14 回	「制度」とは? 「制度」が抱える/生み出す問題とは?	春学期の学びの総括を行う。
第 15 回	秋学期オリエンテーション	春学期の復習と秋学期のとり進め方について意見交換を行う。
第 16 回	「問題」を「解決する」とは? (1)	「制度」、「統治」に関する基礎文献を読み、「問題」を「解決する」とはどういうことかについて意見交換する。(1)

第 17 回	「問題」を「解決する」とは? (2)	「制度」、「統治」に関する基礎文献を読み、「問題」を「解決する」とはどういうことかについて意見交換する。(2)
第 18 回	「問題」の捉え方を学ぶ	「制度」、「統治」に関する基礎文献を読み、「問題」の捉え方・フレーミングについて学ぶ。
第 19 回	グループディスカッション課題 5 (過去における制度) (1)	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる。
第 20 回	グループディスカッション課題 5 (過去における制度) (2)	グループ発表および全体ディスカッション。
第 21 回	グループディスカッション課題 6 (現代における制度) (1)	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる。
第 22 回	グループディスカッション課題 6 (現代における制度) (2)	グループ発表および全体ディスカッション。
第 23 回	グループディスカッション課題 7 (途上国における制度) (1)	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる。
第 24 回	グループディスカッション課題 7 (途上国における制度) (2)	グループ発表および全体ディスカッション。
第 25 回	グループディスカッション課題 8 (途上国における制度) (1)	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる。
第 26 回	グループディスカッション課題 8 (途上国における制度) (2)	グループ発表および全体ディスカッション。(1)
第 27 回	グループディスカッション課題 8 (途上国における制度) (3)	グループ発表および全体ディスカッション。フィードバックを含む。(2)
第 28 回	年間の学びの総括	「制度」について理解できた点、できなかった点を整理し、今後の学びや行動の計画を考案する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。基礎文献、与えられた課題 (英文含む) は必ず熟読して演習に臨むこと。関連して紹介された参考書も出来る限り目を通すこと。グループで積極的に集まり課題について議論する機会を設けること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特に指定のテキストはありません。

【参考書】

研究会において紹介します。

【成績評価の方法と基準】

研究会での議論への貢献 (70 %)、期末レポート (30 %) にて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

過去には、ゼミ生同士のコミュニケーションをより頻繁に行いたいとの意見および、個人としての意見発表のスキル向上への配慮の要望があったことから、人数と時間の制約の中での議論の進め方について留意したい。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【実務経験のある教員による授業】

担当者 (のうち 1 名) は、途上国への経済協力の実務に携わった経験がある。本研究会においては、貧困削減や格差是正のための支援の経験を通じて得られた「制度」や「統治」(「ガバナンス」) に関する知見が活用されている。

【Outline and objectives】

This year's seminar is on "institution." Students are expected to take part in group talk and various communications vigorously. Students will be able to understand basic concept and function of "institution" and to nurture their values and attitudes towards the society and institutions supporting/building our lives.

SHS400HA

研究会 A

谷本 勉

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大森荘蔵の科学哲学を手がかりにして科学とは何か、人間とは何かを探索する。

【到達目標】

「心」の問題を中心に据えて、世界、自然、環境について批判的に考える力を得ることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業開始日は4月21日。学習支援システムを参照のこと。大森荘蔵の種々の哲学エッセーをそれぞれ担当して読解した後、皆で議論して、理解を深めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方の説明
第2回	イントロダクション1	略画的世界観
第3回	イントロダクション2	西欧古代中世における略画的世界観
第4回	イントロダクション3	略画の密画化、その始まり
第5回	イントロダクション4	略画の密画化、不可避の過程
第6回	哲学と科学1	密画化と数量化
第7回	哲学と科学2	密画の陥穽―物の死物化
第8回	哲学と科学3	二元論の構造的欠陥
第9回	哲学と科学4	二元論批判
第10回	哲学と科学5	原子論による密画描写
第11回	哲学と科学6	人体の密画描写と知覚因果説
第12回	哲学と科学7	物と感覚の一心同体性
第13回	哲学と科学8	自然の再活性化
第14回	春学期総括	大森哲学の総括のための議論と解説
第15回	秋学期の展望	大森哲学の歴史の変遷
第16回	大森哲学1	「超越」について
第17回	大森哲学2	物と知覚
第18回	大森哲学3	無限集合を生成する言葉
第19回	大森哲学4	「超越」の正体
第20回	大森哲学5	知覚因果説への応答
第21回	大森哲学6	立ち現われ一元論への転回
第22回	大森哲学7	想起と過去
第23回	大森哲学8	言語的制作の可能性
第24回	大森哲学9	語り存在と過去の制作
第25回	大森哲学10	経験の時間と制作された時間
第26回	大森哲学11	四次元宇宙と有情の世界
第27回	大森哲学12	自我と他我
第28回	秋学期総括	それぞれの描く大森哲学

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用し必ず予習・復習をすること。授業の中で指示される参考文献を随時読み進める。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『知の構築とその呪縛』（大森荘蔵、ちくま学芸文庫、1994年）
『再発見日本の哲学：大森荘蔵－哲学の見本』（野矢茂樹、講談社学術文庫、2015年）

【参考書】

授業の進行に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

担当部分の発表の内容と議論への参加の態度を加味して、総合的に評価する。平常点（50%）とレポート（50%）。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートでの指摘を授業に反映していく。

【関連の深いコース】

環境サイエンスコース

【実務経験のある教員による授業】

本科日は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

In this seminar, we will think about the problem of "heart and things" by using the philosophy of Omori Shozo as a text. Especially at this seminar, all participants read the papers of Omori, discuss the dualism philosophy, and aim to obtain a viewpoint to understand the world.

SOC400HA

研究会 B

長峰 登記夫

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：木 4/Thu.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

職業生活をとおして労働環境を考える。

【到達目標】

前期は労働環境を考える際の基本的な知識の習得をめざし、基本文献の読み合わせをする。後期は自分でテーマを設定して勉強し、その成果を授業で発表し、最終レポートにまとめられるようになることをめざす。こうした学習をとおして、私たちが卒業後就職してからかわる仕事や労働環境のあり方について学ぶと同時に、物事を論理的に考え、作業を計画的に推し進められるようになることをめざす。そこに至る一里塚として、授業内における読み合わせや研究成果の発表、レポートがある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

前期は基本的な知識習得を目的に、基本文献の読み合わせをする。発表者は学習内容をレジュメにまとめて報告する。後期は自分でテーマを設定して勉強し、レジュメにまとめて発表し、最終的にはレポートにまとめる。したがって、前期と後期、それぞれ一人最低1回ずつはレジュメ作成、それに基づいた発表、最終的なレポート提出が義務づけられる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	労働環境を考える	労働環境論とは何か、ここではどんなことについて学ぶのか、等について考える。年間計画についても説明する。
第2回	レジュメ、レポートの書き方1	図書館、インターネット、データベース等を利用した専門的な情報収集の仕方について学ぶ。
第3回	レジュメ、レポートの書き方2	レジュメによる授業内での報告、最終的なレポート作成に必要な方法について学ぶ。
第4回	日本の雇用システム1(終身雇用)	日本の雇用システムの特徴について学ぶ。この回では、とくにいわゆる終身雇用に焦点を当て、その歴史的变化を見ていく。
第5回	日本の雇用システム2(年功賃金・昇進)	年功賃金と年功昇進に焦点を当てて、年功制について考える。また、それが近年どう変化してきたかについてもみていく。
第6回	日本の雇用システム3(企業内組合)	日本の雇用慣行のなかでも、企業内組合は最も日本的なシステムだといっただけでなく、企業内組合の組織や機能、海外諸国のそれとのちがいが等についてみていく。
第7回	日本の雇用システム4(成果主義的雇用管理)	日本の雇用慣行が変化してきた最大の要因の一つが、成果主義的雇用管理の導入である。ここでは成果主義的な賃金や昇進について考える。
第8回	日本の雇用システム5(雇用とジェンダー)	海外諸国と比較して、日本企業で女性はより大きなハンディを負うとされてきた。それには様々な理由があるが、それは何か、また、均等法施行以来それはどう変化してきたのか等について学ぶ。
第9回	日本の雇用システム6(非正規雇用と格差)	近年、とくに若者の安定雇用が崩れてきているが、その典型として非正規雇用の増大があげられる。ここでは、なぜ非正規雇用が拡大してきたのか、それがいかなるかたちで格差拡大につながっているのかについて考える。
第10回	仕事と労働時間1(労働時間)	日本は先進諸国のなかで労働時間の長さが際立っていた。なぜなのか、その問題はどこに現れているのか、また、それが近年どう変化してきているのか等について学ぶ。
第11回	仕事と労働時間2(長時間労働とメンタルヘルス)	近年、働く人々のメンタルヘルスが大きな問題となっている。原因は何か、それに対して政府や企業はどのような対策を講じているのか等について学ぶ。

第 12 回	レポートの途中経過の提示とコメント	学生は 80 % できたレポートの途中経過を提示する。レポートの書き方で説明した注意事項にしたがって構成され、書かれているかをチェックし、コメントする。
第 13 回	障がい者の就職支援と雇用	障害者差別解消法施行以前からの、障がい者の就職や雇用の実態と現状について学ぶ。
第 14 回	レポート提出とチェック	最終レポートの提出とチェック
第 15 回	大学生の就職 1 (日本の就職の特徴)	日本の大学生の就職にはどのような特徴があり、それは海外諸国の大学生の就職とどう違うのか、基本的なことを学ぶ。
第 16 回	大学生の就職 2 (大学生の就職の実態)	現時点で大学生の就職にはどのような問題があるのか、それについて新聞記事や週刊誌の記事等をおして最新の情報を確認する。
第 17 回	前期学習の復習 1 (日本の雇用とは)	前期に行った日本の雇用慣行について総括的なまとめを行い、学生の個別研究につなげる。
第 18 回	前期学習の復習 2 (日本の雇用の新たな流れ)	日本の雇用慣行の何がどう変わったのか、あるいは変わりつつあるのかをみて、日本の雇用慣行の現状について確認し、学生の個別研究につなげる。
第 19 回	学生による研究発表 1	学生による研究発表、それに関する質疑応答、議論、意見交換等を行うなかで、発表者の今後の学習の課題をみつけ、最終レポート作成に役立てる。
第 20 回	学生による研究発表 2	学生による発表と質疑応答
第 21 回	学生による研究発表 3	学生による発表と質疑応答
第 22 回	学生による研究発表 4	学生による発表と質疑応答
第 23 回	学生による研究発表 5	学生による発表と質疑応答
第 24 回	学生による研究発表 6	学生による発表と質疑応答
第 25 回	学生による研究発表 7	学生による発表と質疑応答
第 26 回	学生による研究発表 8	学生による発表と質疑応答
第 27 回	レポートの仮提出、チェックと指導	最終提出前にレポートの基本的な形式ができていないか、作成途中のレポートをチェックする。
第 28 回	レポート提出	最終レポートの提出とチェック

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。前期は、毎回指定された文献資料を事前に読んでおくこと、後期は、発表予定者が事前に指示した、発表内容に関連した資料を読んで、議論に参加できるように準備する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

前期は基本的に本の 1 章や文献資料をコピーして読んでいく。具体的な資料は随時授業で指示する。後期は発表予定者が事前に指示した資料を参考資料とする。ただし、後期の資料について発表者は事前に教員に相談すること。

【参考書】

佐藤博樹・佐藤厚編著『仕事の社会学 (改訂版)』有斐閣ブックス、2012 年、2310 頁。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、1. 参加姿勢、2. 授業での発表、3. 発表のために作成したレジュメの内容、4. 授業内での議論への参加、5. 最終的に提出されたレポートの内容、6. その他の平常点 (含出席) 等を加味して総合的に行う (100%)。

【学生の意見等からの気づき】

学生が期限内に指示された作業 (レジュメ作成や報告、レポート作成等) を終えられるよう、指導する。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

The objective of this subject is to provide students with a chance to think about work environments through daily working life after graduation. For that, students will study about various issues relating to employment, discuss them, make a presentation in class and write a final essay. By so doing, students will learn the way of thinking logically about things and perform them according to a plan.

HIS400HA

研究会 B

根崎 光男

配当年次/単位：2~4 年 / 4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：月 5/Mon.5

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

近世日本の地域環境について、地域の歴史を調査・研究し、その特徴を文献・フィールドの調査を通して考える。そのために、歴史史料の読解、古文書の読解、グループ学習、フィールド調査、各自の研究発表を行い、環境史研究を深める。

【到達目標】

環境史研究のための教養を身につけ、また歴史資料や古文書の読解力を前進させ、自らが設定した課題の解決に向けた取り組みや判明した事柄を説明できる。この延長線上に研究会レポートを提出できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半は、オンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画は、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 27 日とし、この日に具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業内容の説明とゼミの進め方の確認を行う。
第 2 回	史料読解①	歴史史料を読解・分析し、ディスカッションを行う。
第 3 回	史料読解②	歴史史料を読解・分析し、ディスカッションを行う。
第 4 回	大学周辺フィールド調査①	古地図を持って、大学周辺を探索し、地域の歴史の痕跡の意味を考える。
第 5 回	史料読解③	歴史史料を読解・分析し、ディスカッションを行う。
第 6 回	史料読解④	歴史史料を読解・分析し、ディスカッションを行う。
第 7 回	大学周辺フィールド調査②	古地図を持って、大学周辺を探索し、地域の歴史の痕跡の意味を考える。
第 8 回	史料読解のグループ学習①	指定した課題の調査結果を、グループごとに発表する。
第 9 回	史料読解のグループ学習②	指定した課題の調査結果を、グループごとに発表する。
第 10 回	古文書読解①	指定した古文書を解読・分析し、ディスカッションを行う。
第 11 回	特定テーマ中間発表①	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う。
第 12 回	特定テーマ中間発表②	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う。
第 13 回	特定テーマ中間発表③	各自の研究テーマを発表し、質疑応答を行う。
第 14 回	中間発表の総括と課題の検討	中間発表を総括し、新しい課題について意見交換する。
第 15 回	グループの研究テーマの確認	グループ学習の研究テーマを確認し、秋学期の課題を明確にする。
第 16 回	史料読解⑤	歴史史料を読解・分析し、ディスカッションを行う。
第 17 回	史料読解⑥	歴史史料を読解・分析し、ディスカッションを行う。
第 18 回	史料読解⑦	歴史史料を読解・分析し、ディスカッションを行う。
第 19 回	史料読解⑧	歴史史料を読解・分析し、ディスカッションを行う。
第 20 回	古文書読解②	指定した古文書を解読・分析し、ディスカッションを行う。
第 21 回	史料読解⑨	歴史史料を読解・分析し、ディスカッションを行う。
第 22 回	特定テーマグループ研究発表①	設定した課題の調査結果を、グループごとに発表する。
第 23 回	特定テーマグループ研究発表②	設定した課題の調査結果を、グループごとに発表する。
第 24 回	古文書読解③	指定した古文書を解読・分析し、ディスカッションを行う。
第 25 回	特定テーマ研究発表①	各自の研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う。

- 第 26 回 特定テーマ研究発表② 各自の研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う。
- 第 27 回 特定テーマ研究発表③ 各自の研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う。
- 第 28 回 特定テーマ研究発表④ 各自の研究テーマを深めて発表し、質疑応答を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。配付した歴史史料・古文書を事前に解説・分析する。グループ・個人の研究テーマにかかわる文献収集・分析を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

プリントを配付する。

【参考書】

必要に応じて随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準は授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

調査研究の進捗状況を把握するため、必要に応じて面談を行う。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Examines the history of the region, and explores the characteristics of the regional environment in the early modern period of Japan through literature reviews and field surveys.

MAN400HA

研究会 B

長谷川 直哉

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火 5/Tue.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このゼミでは、企業価値とは何かをテーマに、SDGs、CSR、統合思考、スチュワードシップコード、コーポレートガバナンスコード、ESG 投資（責任投資）など企業活動の非財務情報の重要性に着目して、サステナブル社会で求められる企業像や企業価値について学びます。

【到達目標】

証券投資理論、SRI（社会的責任等）、ESG 投資の基本的知識を習得します。特定のテーマに沿って財務情報と非財務情報を使用した企業価値分析の実践的な取り組みを行ない、企業評価の基本知識とスキルを身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期は、CSR および Business Ethics に関する文献や論文を輪読し、ストックリーグに必要な知識を習得します。秋学期は、チームを編成しストックリーグに参加します。ストックリーグでは CSR 情報・財務データの分析や企業訪問によるヒアリング調査を行い、オリジナルの社会的責任投資ファンドを組成しバーチャルトレードを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス ・スケジュール ・ストックリーグ	ゼミの進め方 日経ストックリーグの概要
第 2 回	企業と社会に関する文献 講読①	担当者による報告と全体討議
第 3 回	企業と社会に関する文献 講読②	担当者による報告と全体討議
第 4 回	企業と社会に関する文献 講読③	担当者による報告と全体討議
第 5 回	企業と社会に関する文献 講読④	担当者による報告と全体討議
第 6 回	ストックリーグ テーマ報告 < 1 >	テーマの方向性について報告と討議
第 7 回	ESG 投資文献講読①	担当者による報告と全体討議
第 8 回	ESG 投資文献講読②	担当者による報告と全体討議
第 9 回	ESG 投資文献講読③	担当者による報告と全体討議
第 10 回	ストックリーグ テーマ報告 < 2 >	問題認識と分析手法の報告と討議
第 11 回	ESG 投資文献講読④	担当者による報告と全体討議
第 12 回	財務分析文献講読①	担当者による報告と全体討議
第 13 回	財務分析文献講読②	担当者による報告と全体討議
第 14 回	財務分析文献講読③	担当者による報告と全体討議
第 15 回	ストックリーグ テーマ発表	ファンドテーマ決定企業の調査手法・ 調査スケジュールの報告
第 16 回	ストックリーグ中間報告 < 1 >	これまでの分析内容の報告と討議
第 17 回	ストックリーグ中間報告 < 2 >	これまでの分析内容の報告と討議
第 18 回	ストックリーグ活動① (企業訪問)	企業ヒアリングの報告と討議
第 19 回	ストックリーグ活動② (企業訪問)	企業ヒアリングの報告と討議
第 20 回	ストックリーグ活動③ (企業訪問)	企業ヒアリングの報告と討議
第 21 回	ストックリーグ中間報告 < 3 >	ユニバースの発表
第 22 回	ストックリーグ活動④ (企業訪問)	企業ヒアリングの報告と討議
第 23 回	ストックリーグ活動⑤ (企業訪問)	企業ヒアリングの報告と討議
第 24 回	ストックリーグ活動⑥レ ポート作成	チーム単位でレポート作成作業
第 25 回	ストックリーグ中間報告 < 4 >	ポートフォリオの発表と討議
第 26 回	ストックリーグ中間報告 < 5 >	ポートフォリオの発表と討議
第 27 回	ストックリーグ活動⑦レ ポート作成	チーム単位でレポート作成作業

第 28 回 ストックリーグ活動⑧レ チーム単位でレポート作成作業
ポート作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をして下さい。統合報告書やサステナブル報告書を読み、企業の SDGs 活動等に関する基礎知識を習得して下さい。企業に対するヒアリング調査を行うため、サブゼミや企業訪問を研究会の時間外に実施することが多くなります。また、夏季休暇中にゼミ合宿を行います。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

日本経営協会／長谷川直哉『サステナビリティ調査報告書』日本経営協会、2019 年

長谷川直哉編著『企業家に学ぶ ESG 経営』文真堂、2019 年

長谷川直哉編著『統合思考と ESG 投資』文真堂、2018 年

長谷川直哉編著『価値共創時代の戦略的パートナーシップ』文真堂、2017 年

長谷川直哉編著『企業家活動でたどるサステナブル経営史』文真堂、2016 年

日経エコロジー編『ESG 経営ケーススタディ 20』日経 BP 社、2017 年

水口剛『ESG 投資』日本経済新聞社、2017 年

谷本寛治『責任ある競争力ー CSR を問い直す』エヌティティ出版、2013 年

谷本寛治『SRI 社会的責任投資入門』日本経済新聞社、2003 年

【参考書】

必要に応じて随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）ゼミにおける報告内容および討議への貢献度、企業ヒアリングの取り組み内容

レポート（70%）日経ストックリーグレポート

【学生の意見等からの気づき】

参加者の自主的な取り組みを中心にゼミを行います。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてパソコンを使用します。

【実務経験のある教員による授業】

【実務経験】

損害保険会社の資産運用部門において、約 15 年投資業務を担当しました。1999 年、ESG 投資の先駆的な取り組みである SRI（社会責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業の ESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。また、(公財)国際金融情報センターに出向し、カントリリスクや国際金融システムに関する調査・研究に従事しました。

【関連資格】

証券アナリスト検定会員（CMA）

【Outline and objectives】

In this seminar we will learn the importance of non-financial information of corporate activities such as SDGs, CSR, integrated thinking, stewardship code, corporate governance code, ESG investment (responsible investment). In addition, we will discuss the corporate image and corporate value required in a sustainable society.

ENV400HA

研究会 A

高田 雅之

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：金 4/Fri.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然のもつ奥深い魅力を探求するとともに、生態系や野生生物の理解に基づいて、自然環境を取り巻く諸課題に対し望ましい在り方を考究することをテーマとします。その際、国際的視点や海外事例を中心に、加えて地域の社会経済や他の諸問題との関わりなど、様々なアプローチによって豊かな発想力を養います。研究会を通して多様な知識による基盤を作り、その上に各自の問題意識を組立て、修了論文を目指します。

【到達目標】

以下の 4 点を身に付けます。

- ①自然環境に関する幅広い知識・見識と柔軟な考え方
- ②設定課題について自らの意見を形成し、表明及び伝達する能力（プレゼンテーション/レポート能力）
- ③他者との議論を通して、異なる視点の意見を受け入れ合意を形成する能力（コミュニケーション能力）
- ④自ら課題を設定し、関連する情報を収集・分析し、体系的にまとめて考察する能力（論理的思考）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

生物多様性保全、生態系・野生生物と人間の社会経済との関係などをテーマに以下のことを実施します。

- ①グループワークをとおして、設定課題について調査・考究し、成果を取りまとめます
- ②個人学習によって、設定課題について情報整理・企画立案し、成果を発表します
- ③野外学習/ゼミ合宿とサブゼミ学習を通じて、市民活動/企業とのコラボやフィールドに学び、企画力・実践力・分析力を養います（※サブゼミ学習のテーマ例：都市の緑地・水辺・生物・東京湾・生き物文化など）
- ④自らの研究テーマを設定し、情報収集と調査、分析と考察を重ね、最終的な修了論文作成につなげます

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	研究会の進め方
第 2 回	テーマ 1 : グループ研究 1	事前学習
第 3 回	テーマ 1 : グループ研究 2	グループ討議
第 4 回	テーマ 1 : グループ研究 3	グループ討議と中間発表
第 5 回	テーマ 1 : グループ研究 4	グループ討議
第 6 回	テーマ 1 : グループ研究 5	グループ討議とまとめ
第 7 回	テーマ 1 : グループ研究 6	発表と総括講義
第 8 回	テーマ 2 : グループ研究 1	事前学習
第 9 回	テーマ 2 : グループ研究 2	グループ討議
第 10 回	テーマ 2 : グループ研究 3	グループ討議と中間発表
第 11 回	テーマ 2 : グループ研究 4	グループ討議
第 12 回	テーマ 2 : グループ研究 5	グループ討議とまとめ
第 13 回	テーマ 2 : グループ研究 6	発表と総括講義
第 14 回	春学期まとめ	総括講義と意見交換
第 15 回	ガイダンス	秋学期の研究会の進め方
第 16 回	テーマ 3 : ディベート 1	事前学習
第 17 回	テーマ 3 : ディベート 2	グループ討議
第 18 回	テーマ 3 : ディベート 3	ディベート第 1 回
第 19 回	テーマ 3 : ディベート 4	グループ討議
第 20 回	テーマ 3 : ディベート 5	ディベート第 2 回
第 21 回	テーマ 3 : ディベート 6	発表とまとめ
第 22 回	テーマ 4 : 個人・グループ研究 1	事前学習

第 23 回	テーマ 4：個人・グループ	グループ内プレゼン ブ研究 2
第 24 回	テーマ 4：個人・グループ	グループ討議 ブ研究 3
第 25 回	テーマ 4：個人・グループ	グループ討議と中間発表 ブ研究 4
第 26 回	テーマ 4：個人・グループ	グループ討議 ブ研究 5
第 27 回	テーマ 4：個人・グループ	発表と総括講義 ブ研究 6
第 28 回	年間まとめ	総括講義と意見交換

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。設定課題に対して、事前調査、資料作成、発表準備などを行ってまいります。また週末等に行う野外学習とサブゼミ活動に積極的に参加してまいります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】

講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（100%）：課題の提出、議論への参加、学習意欲、グループワークやゼミ活動への貢献、野外学習やサブゼミ活動、自主的な取り組みなどを総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

過大な負担や知識の詰め込みにならないよう、個人学習、グループ学習、フィールド学習、講義形式学習のバランスをとって、できる限り自発性と協調性を重視しこれを促すよう学習していきます。

【その他の重要事項】

「自然環境政策論Ⅰ（春期）及びⅡ（秋期）」が未履修の学生は、当該科目を必ず履修してください。また、より理解を深めるため、「サイエンスカフェⅢ（生態学）」（春期）と「自然環境論Ⅳ」（秋期）の履修を推奨します。

【関連の深いコース】

グローバル・サステイナビリティコース、環境サイエンスコース

【実務経験のある教員による授業】

公務員、独立行政法人、民間企業

【Outline and objectives】

In this course, students will learn the richness and diversity of nature and ecosystem services, and will explore ways to solve various problems between the humans and nature mainly from global perspectives, based on the understanding of ecosystems and wildlife.

MAN400HA

研究会 B

永野 秀雄

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本研究会では、英語で書かれた基本的な契約書（英米法に基づくもの）を読むための勉強をします。英文契約書の英語は、特殊なものです。そのための基本的な用語や文例を学んでいきます。

【到達目標】

受講者の皆さんが、社会に出て国際的に活躍されるときに遭遇する英文契約を読む基礎力を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

担当教員が、初歩的な教科書をもとに、英文契約の基本を解説していきます。授業の途中で何回か、教科書にてくる用語や文例を覚えて頂き、確認する小テストを行います。教科書を終えたのち、現実用いられている英文契約書（プリント）を用いて、皆さんに読んで頂きます。受講生何名かで構成される班による発表形式を取りたいと思います。難しい箇所は、担当教員が解説いたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	英文契約書の背景（1）	国際契約書と英語等
第 2 回	英文契約書の背景（2）	仲裁、準拠法、国際裁判管轄等
第 3 回	契約書の英語（1）	接続詞、助動詞等
第 4 回	契約書の英語（2）	特殊な用語法（1）、小テスト
第 5 回	契約書の英語（3）	特殊な用語法（2）、小テスト
第 6 回	契約書の英語（4）	特殊な用語法（3）、小テスト
第 7 回	契約書の英語（5）	特殊な用語法（4）、小テスト
第 8 回	契約書の英語（6）	売買契約書（1）、小テスト
第 9 回	契約書の英語（7）	売買契約書（2）、小テスト
第 10 回	契約書の英語（8）	売買契約書（3）、小テスト
第 11 回	英文契約の読解（1）	実際の英文契約読解（班による発表）
第 12 回	英文契約の読解（2）	実際の英文契約読解（班による発表）
第 13 回	英文契約の読解（3）	実際の英文契約読解（班による発表）
第 14 回	英文契約の読解（4）	実際の英文契約読解（班による発表）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。教科書で指定された小テストの箇所（一定の長さの条文や単語）を覚えて来て下さい。また、実際の英文契約書の訳を班ごとに発表するときに和訳や説明をしたレジュメの準備をお願いします。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

宮野準治・飯泉恵美子著『英文契約書の基礎知識』（ジャパントイムズ社、1997 年）、配布プリント。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

成績は、小テストの合計点（70 %）と班による発表評価（30 %）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

これからも、丁寧に英文契約の読み方を解説していきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【実務経験のある教員による授業】

大学教員になる以前、企業の国際法務部で、英文契約及び関係する文書を英語で大量に起案してきたことから、読解の対象となる英文契約を説明するときに、なぜそのような表現になるのか、あるいは、自分であればもっと詳細に必要な事項を書き込むといった説明を行うことができる。

【Outline and objectives】

In this seminar, we will study for reading basic contracts written in English (based on Anglo-American law). English style and terms written in contracts are very unique. Students will learn basic contract terms and examples.

SHS400HA

研究会 B

渡邊 誠

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火 4/Tue.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：千代田区の温暖化対策について考える

千代田区における環境対応に関する具体的な取り組み事例を主として調査します。エネルギーと温暖化に関するテーマはもとより、例えば廃棄物とリサイクルなどに関する内容も調査の対象です。またCES（千代田エコシステム）についても検討する予定です。また、千代田区だけではなく、これまで各地で展開されている環境対応について学習するなど、幅広い角度から持続可能な社会を構築するために必要なテーマを設定して研究していく予定です。科学技術のあり方を考察することも重要なテーマとしています。これにより様々な学問領域に関する内容を関連付けることの重要性を意識しながら、「人」と「環境問題」との接点を見つめていくことを目的としています。

【到達目標】

都市における環境負荷低減活動について理解することを目標にしています。そのため様々な取り組み事例を分析します。エネルギーに関するテーマだけではなく、廃棄物ならびに物質循環の問題についても重要なテーマとしています。温室効果ガスを削減する仕組み・技術・配慮などについて理解することを目標としています。また廃棄物処理とリサイクルの実態についても現状を理解し、新たな提言に結び付けていくことができる力を獲得することも目標のひとつとしています。これにより環境政策を模索する力を獲得していきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンライン（学習支援システムを含む）での開講となります。本授業の開始日は4月28日とします。各回の授業内容およびその他の連絡事項等は学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	1年間の授業計画についての打ち合わせを行う。
第2回	導入ディスカッション	共通テーマをもとに全員で話し合いを行う。
第3回	導入ディスカッション	共通テーマをもとに全員で話し合いを行う。
第4回	千代田区の地域特性	様々な地域特性について学習する。
第5回	千代田区の地域特性	様々な地域特性について学習する。
第6回	千代田区の地域特性	様々な地域特性について学習する。
第7回	基礎事項の確認	温暖化対策を考察するうえで必要な基礎知識を学習する。
第8回	基礎事項の確認	温暖化対策を考察するうえで必要な基礎知識を学習する。
第9回	基礎事項の確認	温暖化対策を考察するうえで必要な基礎知識を学習する。
第10回	事例研究	取り組み事例について調査・検討し、参加者で討論する。
第11回	事例研究	取り組み事例について調査・検討し、参加者で討論する。
第12回	事例研究	取り組み事例について調査・検討し、参加者で討論する。
第13回	事例研究	取り組み事例について調査・検討し、参加者で討論する。
第14回	事例研究	取り組み事例について調査・検討し、参加者で討論する。
第15回	個別研究のためのガイダンス	テーマ選定のための検討を行う。
第16回	個別研究のためのガイダンス	テーマ選定のための検討を行う。
第17回	個人研究の報告と検討	個人研究としての調査内容について報告する。
第18回	個人研究の報告と検討	個人研究としての調査内容について報告する。
第19回	個人研究の報告と検討	個人研究としての調査内容について報告する。
第20回	個人研究の報告と検討	個人研究としての調査内容について報告する。
第21回	個人研究の報告と検討	個人研究としての調査内容について報告する。

第22回	個人研究の再検討	報告した個人研究について再検討した内容について討論し、ブラッシュアップする。
第23回	個人研究の再検討	報告した個人研究について再検討した内容について討論し、ブラッシュアップする。
第24回	個人研究の再検討	報告した個人研究について再検討した内容について討論し、ブラッシュアップする。
第25回	個人研究の再検討	報告した個人研究について再検討した内容について討論し、ブラッシュアップする。
第26回	個人研究の再検討	報告した個人研究について再検討した内容について討論し、ブラッシュアップする。
第27回	総合討論	温暖化対策のあり方について検討する
第28回	総合討論	科学技術のあり方について検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。報告する場合には関連資料を提示するだけでなく、レジュメを作成し提出すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しません。

【参考書】

開講時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準は、授業参加の積極性など100%、とします。

【学生の意見等からの気づき】

基礎事項などについては、なるべくわかりやすい説明となるよう留意します。

【学生が準備すべき機器他】

プレゼンテーションのためのPCなどは各自用意してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This seminar mainly deals with technological correspondence to global warming of the earth. Case study expanded in Chiyoda ward in Tokyo will be examined. Students practically learn the themes not only for energy problems concerning emission of greenhouse gases but also for waste management and recycle processing of materials. They should examine practical instances in urban areas and make preparations of reports in advance. Discussion will be made by all of participants.

MAN400HA

研究会 B

金藤 正直

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：金 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本研究会では、自治体、民間企業、区民の立場から、千代田区における循環型社会システムの現状や課題を明らかにし、また、その課題への対応策を経営学や会計学の視点から検討し、最適なシステムモデルを提案することを目的とします。

【到達目標】

本研究会では、経営学や会計学の視点から、千代田区で発生する廃棄物や温室効果ガスの削減を推進する循環型社会システムを形成していくための経営手法を考察し、これを通じて、経済・経営系の基礎知識、分析能力、論理的思考などといった社会で活躍していくための基礎的な能力を身につけていくことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

①学習チームを作って、テキストや関連資料をもとに経営学と会計学の基礎基本を学習していきます。

②学習後、新たに研究チーム（自治体チーム、企業チーム、区民チーム）を作って、千代田区における循環型社会システムの現状や課題を検討していきます。

③学んだこと（①）や調べたこと（②）をもとに、千代田区に対して最適なシステムモデルを提案していきます。なお、必要に応じて、新たな文献の考察や、関係者へのアンケート調査やヒアリング調査も実施します。

④学習内容や研究・調査の成果については、中間報告・最終報告を行うとともに、研究・調査レポートも作成していきます。

※ゼミでは、各チームメンバーのさらなるレベルアップのために、千代田区関連のイベントや委員会を始め、学会、インゼミ、企業イベント、エコプロなどへの参加も予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション 研究・調査の目標設定	研究会の目的、内容・範囲、進め方、評価について説明する。 また、各自1年間の目標を検討し、設定してもらう。
第2回	研究・調査のための諸文献の分析方法（A）	テキストや他の著書を用いて、主体的に研究・調査していくための方法を説明する。
第3回	研究・調査のための諸文献の分析方法（B）	論文や報告書などを用いて主体的に研究・調査していくための方法を説明する。
第4回	諸文献の分析内容の報告・議論①	諸文献の内容を整理して報告するとともに、それを全員で議論する。
第5回	諸文献の分析内容の報告・議論②	諸文献の内容を整理して報告するとともに、それを全員で議論する。
第6回	諸文献の分析内容の報告・議論③	諸文献の内容を整理して報告するとともに、それを全員で議論する。
第7回	諸文献の分析内容の報告・議論④	諸文献の内容を整理して報告するとともに、それを全員で議論する。
第8回	研究・調査テーマの選定・検討方法	研究・調査テーマ（研究対象とする事業）の選定・検討方法を説明するとともに、実際にその事業を選定し、検討していく作業も行う。
第9回	研究・調査テーマの分析方法	第7回までの講義内容に基づいて、第8回で選定・検討した研究・調査テーマ（研究対象とする事業）を分析していくための方法を説明する。
第10回	研究・調査テーマの分析結果の報告・議論①	研究・調査テーマ（研究対象とする事業）を分析し、その内容を報告し、それを全員で議論する。
第11回	研究・調査テーマの分析結果の報告・議論②	研究・調査テーマ（研究対象とする事業）を分析し、その内容を報告し、それを全員で議論する。
第12回	研究・調査テーマの分析結果の報告・議論③	研究・調査テーマ（研究対象とする事業）を分析し、その内容を報告し、それを全員で議論する。
第13回	研究・調査テーマの分析結果の報告・議論④	研究・調査テーマ（研究対象とする事業）を分析し、その内容を報告し、それを全員で議論する。

第14回	小 括	これまでの報告・議論の内容を整理し、その内容を全員に共有していく。
第15回	研究・調査に関する報告会（A）	春学期中に取り組んだ研究・調査の取組内容を報告し、それを全員で議論する。
第16回	研究・調査に関する報告会（B）	春学期中に取り組んだ研究・調査の取組内容を報告し、それを全員で議論し、整理していく。
第17回	現地調査の方法（A）	現地調査（フィールドワーク、アンケート調査、ヒアリング調査）の方法を説明する。
第18回	現地調査の方法（B）	現地調査（フィールドワーク、アンケート調査、ヒアリング調査）のための調査票の作成方法を説明するとともに、実際に調査票の作成作業も行う。
第19回	研究・調査テーマの分析結果の報告・議論⑤-1	現地調査も加味した研究・調査の方向性を報告し、それを全員で議論し、整理していく。
第20回	研究・調査テーマの分析結果の報告・議論⑤-2	現地調査も加味した研究・調査の方向性を報告し、それを全員で議論し、整理していく。
第21回	研究・調査テーマの分析結果の報告・議論⑤-3	現地調査も加味した研究・調査の方向性を報告し、それを全員で議論し、整理していく。
第22回	製品・商品の生産・販売店の調査（A）	研究・調査に関連するアンテナショップや施設などに行き、そこでの取組内容について調査する。
第23回	製品・商品の生産・販売店の調査（B）	第22回で調査した結果を報告し、それを全員で議論し、整理していく。
第24回	研究・調査テーマの分析結果の報告・議論⑥	現地調査の結果も加味して研究・調査テーマ（研究対象とする事業）を分析し、その内容を報告し、それを全員で議論する。
第25回	研究・調査テーマの分析結果の報告・議論⑦	現地調査の結果も加味して研究・調査テーマ（研究対象とする事業）を分析し、その内容を報告し、それを全員で議論する。
第26回	研究・調査テーマの分析結果の報告・議論⑧	現地調査の結果も加味して研究・調査テーマ（研究対象とする事業）を分析し、その内容を報告し、それを全員で議論する。
第27回	研究・調査テーマの分析結果の報告・議論⑨	現地調査の結果も加味して研究・調査テーマ（研究対象とする事業）を分析し、その内容を報告し、それを全員で議論する。
第28回	総括 研究・調査テーマの検討内容の整理	これまでの報告・議論の内容を整理し、その内容を全員に共有していくとともに、その内容を研究・調査計画書やそれをもとに作成されるレポートに活かしていく方法を説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本研究会では、著書・論文内容の整理や国内外の取組事例の分析を通して、①研究・調査テーマの決定、②研究・調査の目的・視点・方法、③研究・調査に関する先進地域や研究対象地域の選定・検討方法を学習し、また、今後社会で活躍するための能力を身に付けていきます。大変なこともあるかもしれませんが、楽しく前向きに、また、計画的に実施してください。そのために、本研究会での準備学習・復習は必ず行ってください。なお、本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しませんが、毎回の報告はパワーポイントを利用します。各チームは報告レジュメ（パワーポイント版）と報告概要（ワード版）の作成と配布をお願いします。

【参考書】

チームやそのメンバーの研究・調査の進捗状況に応じて、授業中に著書、論文、報告書、新聞・雑誌記事などを紹介します。

【成績評価の方法と基準】

本演習の成績は次の4点に基づいて評価します。

- ・討論への参加（発言内容）（20%）
- ・報告用配布レジュメの内容（20%）
- ・報告内容（プレゼンテーション能力）（30%）
- ・研究・調査レポート（30%）

【学生の意見等からの気づき】

毎年、ゼミ生からの意見や要望などを考慮に入れ、講義内容の改善に努めています。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンとプロジェクターを使用しますので、毎回準備をお願いします。

【その他の重要事項】

本研究会は、個人による研究・調査だけではなく、数名のメンバーから構成されるチームでの研究・調査が中心となります。また、調査先の方々、学部外の学生や教員と一緒に勉強会や報告会などのイベントも開催します。そのために、物事を自分で考え、また、積極的かつ意欲的に取り組むことができる能力だけではなく、人と人とのつながりや他人への気配りを大切にできる能力も身につけてください。

【関連の深いコース】

全てのコースが対象

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

The purpose of this seminar is to learn the methodology of circular business design for sustainable growth of Chiyoda ward based on the literature survey and the field survey.

CUA400HA

研究会 B

高橋 五月

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：木 3/Thu.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Bゼミのテーマは「文化人類学的エスノグラフィーの基礎を学び、文化を探る」です。人間と環境の関係について、文化人類学者たちがエスノグラフィーという調査方法を用いて探求した先行研究を読みながら、学生自らエスノグラフィーを用いたフィールドワークを行い、関心がある問題テーマについて調査研究を行い、調査論文を作成する。

【到達目標】

- 1) 人間と環境の関係について、先行研究を通して文化人類学的視点について理解を深める
- 2) エスノグラフィーという文化人類学的調査の基本的な知識を得る
- 3) フィールドワークの実践的なスキルを得る
- 4) 先行研究レビューを参考にしながら調査データを分析し、調査論文にまとめる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期は、先行研究を講読しながら、エスノグラフィーの入門書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自のフィールドワークの準備、調査計画を行う。フィールドワークは各自の調査計画に応じて、夏季・冬季休暇中および学期中に実施する。秋学期は、先行研究を講読し、先行研究レビューを作成しながら、フィールドワークで収集したデータの分析を調査論文としてまとめ、発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	自己紹介とゼミのテーマ、進め方、課題についての説明、文献講読の発表担当を決める
第 2 回	エスノグラフィー入門 (1)	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第 3 回	エスノグラフィー入門 (2)	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第 4 回	エスノグラフィー入門 (3)	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第 5 回	エスノグラフィー入門 (4)	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第 6 回	エスノグラフィー入門 (5)	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第 7 回	エスノグラフィー入門 (6)	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第 8 回	エスノグラフィー入門 (7)	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第 9 回	エスノグラフィー入門 (8)	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第 10 回	エスノグラフィー入門 (9)	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第 11 回	エスノグラフィー入門 (10)	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第 12 回	エスノグラフィー入門 (11)	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第 13 回	エスノグラフィー入門 (12)	参考書を講読し、エスノグラフィーという調査方法について理解を深め、各自の調査計画作成をすすめる
第 14 回	前期のまとめ	前期のまとめ、各自の調査計画作成を発表、提出する。
第 15 回	ガイダンス	後期の進め方についての説明
第 16 回	調査研究の中間報告 (1)	フィールドワークの進み具合、残りの調査内容について発表し、討論する

発行日：2020/5/1

- 第 17 回 調査研究の中間報告 (2) フィールドワークの進み具合、残りの調査内容について発表し、討論する
- 第 18 回 調査研究の中間報告 (3) フィールドワークの進み具合、残りの調査内容について発表し、討論する
- 第 19 回 調査研究の中間報告 (4) フィールドワークの進み具合、残りの調査内容について発表し、討論する
- 第 20 回 エスノグラフィー分析 (1) 関連先行研究文献を講読し、データの分析方法について学びながら、各自がフィールドワークで得たデータを分析し、発表・討論を交えながら分析内容を洗練する
- 第 21 回 エスノグラフィー分析 (2) 参考書を講読し、データの分析方法について学びながら、各自がフィールドワークで得たデータを分析し、発表・討論を交えながら分析内容を洗練する
- 第 22 回 エスノグラフィー分析 (3) 参考書を講読し、データの分析方法について学びながら、各自がフィールドワークで得たデータを分析し、発表・討論を交えながら分析内容を洗練する
- 第 23 回 エスノグラフィー分析 (4) 参考書を講読し、データの分析方法について学びながら、各自がフィールドワークで得たデータを分析し、発表・討論を交えながら分析内容を洗練する
- 第 24 回 エスノグラフィー分析 (5) 参考書を講読し、データの分析方法について学びながら、各自がフィールドワークで得たデータを分析し、発表・討論を交えながら分析内容を洗練する
- 第 25 回 エスノグラフィー分析 (6) 参考書を講読し、データの分析方法について学びながら、各自がフィールドワークで得たデータを分析し、発表・討論を交えながら分析内容を洗練する
- 第 26 回 研究成果の発表 (1) 調査論文を発表し、討論する
- 第 27 回 研究成果の発表 (2) 調査論文を発表し、討論する
- 第 28 回 研究成果の発表 (3) 調査論文を発表し、討論する

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

指定された文献は必ず熟読して演習に臨み、積極的に議論に参加すること。発表担当文献については、事前準備を十分に。調査準備とフィールドワークは各自で学期中及び夏季・冬季休暇中に行う。研究テーマに関連する先行研究文献は教員に相談しながら各自で収集し、読み進め、先行研究レビューを随時アップデートすること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

小田博志『エスノグラフィー入門』春秋社 (2010)

【参考書】

随時授業内でお知らせします

【成績評価の方法と基準】

議論への参加 (20%)、文献感想文 (20%)、文献発表 (20%)、研究論文 (40%)

【学生の意見等からの気づき】

現地調査を自ら計画して遂行するのは苦勞も多いですが、楽しさと達成感を得られるということを学生も感じ取ってくれているようで嬉しいです。

【関連の深いコース】

どのコースの学生でも履修可能

【Outline and objectives】

This is a seminar course, which is designed to learn basic knowledge of ethnographic research methods and writing.

CMF400HA

研究会 B

小島 聡

配当年次/単位：2~4 年 / 2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

SDGs の視点から、地域の持続可能性問題とソーシャルデザインについて幅広く検討する。具体的には、新しい地域実践の動向について調査しながら、地域の未来を展望する。さらに、ケーススタディを行いながら、特定の地域課題の解決に向けたソーシャルデザインのワークショップにも取り組む。この授業の目的は、学生が 21 世紀における地域の持続可能性について理解し、さらに社会実践のデザインについて学ぶことである。

【到達目標】

学生の到達目標は以下のとおりである。

- ・ソーシャルデザインに関する基礎知識を身につける。
- ・地域課題の発見、課題解決のための思考力を身につける。
- ・地域の持続可能性を手がかりとした現代社会のリテラシーを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は、文献購読、現地調査も含むケーススタディ、ソーシャルデザインに関するワークショップなどを組み合わせる。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の方向性と具体的なプログラムについて確認する。
第 2 回	現代の地域の持続可能性課題	地域の持続可能性に関する近年の動向から、参加者の関心と問題意識を共有する。
第 3 回	SDGs とソーシャルデザイン	SDGs と地域のソーシャルデザインに関する基礎的知識を共有しながら、近年の動向について検討する。
第 4 回	文献講読	テーマに関するテキストの担当部分について、参加者が報告し、議論する。
第 5 回	文献講読	テーマに関するテキストの担当部分について、参加者が報告し、議論する。
第 6 回	ケーススタディ	テーマに関するケーススタディを行う。
第 7 回	文献講読	テーマに関するテキストの担当部分について、参加者が報告し、議論する。
第 8 回	文献講読	テーマに関するテキストの担当部分について、参加者が報告し、議論する。
第 9 回	ケーススタディ	テーマに関するケーススタディを行う。
第 10 回	文献の総括	テーマに関するテキストの全体について総括し議論する。
第 11 回	ケーススタディ	テーマに関するケーススタディを行う。
第 12 回	ゲストスピーカー	ゲストスピーカーによる講義と討論を行う。
第 13 回	ソーシャルデザインのワークショップ	地域の持続可能性問題について、ソーシャルデザインの企画案を検討する。
第 14 回	ソーシャルデザインのワークショップ	地域の持続可能性問題について、ソーシャルデザインの企画案を検討する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

学生は以下の授業時間外の学習を行う (この授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする)。

- ・文献等の予習
- ・各地のケースに関する情報収集
- ・テーマに関する調査
- ・プレゼン資料やレポートの作成

【テキスト (教科書)】

開講時に指示する。

【参考書】

適宜、授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (70%)、提出物 (30%) による総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

本年度からの授業のためフィードバックはできません。

【その他の重要事項】

研究会を通して、社会人学生のコミュニティ形成を図っていきます。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

In this class, from the viewpoint of “SDGs”, we will consider the sustainability problem in community and “Social design” broadly. If it says concretely, we will view the future of community, with investigating the trend of local new practice. Furthermore, we will also tackle the workshop of “Social design” towards solution of the specific local subject, performing a case study. The purpose of this class is for students to understand the sustainability of community in the 21st century and to learn about the design of the social practice further.

CMF400HA

研究会 B

小島 聡

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 5/Thu.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

SDGs の視点から、地域の持続可能性問題とソーシャルデザインについて幅広く検討する。具体的には、新しい地域実践の動向について調査しながら、地域の未来を展望する。さらに、ケーススタディを行いながら、特定の地域課題の解決に向けたソーシャルデザインのワークショップにも取り組む。この授業の目的は、学生が 21 世紀における地域の持続可能性について理解し、さらに社会実践のデザインについて学ぶことである。

【到達目標】

学生の到達目標は以下のとおりである。

- ・ソーシャルデザインに関する基礎知識を身につける。
- ・地域課題の発見、課題解決のための思考力を身につける。
- ・地域の持続可能性を手がかりとした現代社会のリテラシーを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は、文献購読、現地調査も含むケーススタディ、ソーシャルデザインに関するワークショップなどを組み合わせる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の方向性と具体的なプログラムについて確認する。
第 2 回	現代の地域の持続可能性課題	地域の持続可能性に関する近年の動向から、参加者の関心と問題意識を共有する。
第 3 回	SDGs とソーシャルデザイン	SDGs と地域のソーシャルデザインに関する基礎的知識を共有しながら、近年の動向について検討する。
第 4 回	文献講読	テーマに関するテキストの担当部分について、参加者が報告し、議論する。
第 5 回	文献講読	テーマに関するテキストの担当部分について、参加者が報告し、議論する。
第 6 回	ケーススタディ	テーマに関するケーススタディを行う。
第 7 回	文献講読	テーマに関するテキストの担当部分について、参加者が報告し、議論する。
第 8 回	文献講読	テーマに関するテキストの担当部分について、参加者が報告し、議論する。
第 9 回	ケーススタディ	テーマに関するケーススタディを行う。
第 10 回	文献の総括	テーマに関するテキストの全体について総括し議論する。
第 11 回	ケーススタディ	テーマに関するケーススタディを行う。
第 12 回	ゲストスピーカー	ゲストスピーカーによる講義と討論を行う。
第 13 回	ソーシャルデザインのワークショップ	地域の持続可能性問題について、ソーシャルデザインの企画案を検討する。
第 14 回	ソーシャルデザインのワークショップ	地域の持続可能性問題について、ソーシャルデザインの企画案を検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は以下の授業時間外の学習を行う（この授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする）。

- ・文献等の予習
- ・各地のケースに関する情報収集
- ・テーマに関する調査
- ・プレゼン資料やレポートの作成

【テキスト（教科書）】

開講時に指示する。

【参考書】

適宜、授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（70 %）、提出物（30 %）による総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

本年度からの授業のためフィードバックはできません。

【その他の重要事項】

研究会を通して、社会人学生のコミュニティ形成を図っていきます。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

In this class, from the viewpoint of “SDGs”, we will consider the sustainability problem in community and “Social design” broadly. If it says concretely, we will view the future of community, with investigating the trend of local new practice. Furthermore, we will also tackle the workshop of “Social design” towards solution of the specific local subject, performing a case study. The purpose of this class is for students to understand the sustainability of community in the 21st century and to learn about the design of the social practice further.

CUA400HA

研究会 A

高橋 五月

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：木 4/Thu.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Aゼミのテーマは「文化人類学の視点から文化を探る」です。文化人類学者たちがエスノグラフィーという調査方法を用いて探求した先行研究を読みながら、学生も自ら興味のあるテーマを選択し、エスノグラフィーを用いたフィールドワークを行ながら問いを探求し、卒業論文にまとめます。

【到達目標】

- 1) 先行研究を通して文化人類学的視点について理解を深める
- 2) エスノグラフィーという文化人類学的調査の基本的な知識を得る
- 3) 現地調査を通して、エスノグラフィーの実践的なスキルを得る
- 4) エスノグラフィックな視点と思考を磨き、普段「当たり前」として過ごされてしまう物事に埋め込まれている複雑な文化的側面に面白さを見出し、「問い」を組み立てるスキルを養う

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

ゼミ生の卒論研究テーマに関連する先行研究を講読と意見交換をしながら、エスノグラフィーと文化人類学的理論についての理解を深める。また、学生は各自で卒論研究のフィールドワークを引き続き実行すると同時に、先行研究の講読と意見交換を参考にしながら卒論研究での理論的議論の発展に努める。また、ゼミでは各自の卒論研究の経過を報告し、他学生や教員からのコメントや質問を随時卒論執筆に反映させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	自己紹介とゼミの進め方、課題についての説明。文献講読の司会担当決め。
第 2 回	本年度の卒論研究計画の発表（1）	各自の卒論研究について、本年度の調査計画書を提出し、発表する
第 3 回	本年度の卒論研究計画の発表（2）	各自の卒論研究について、本年度の調査計画書を提出し、発表する
第 4 回	先行研究の講読（1）	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第 5 回	先行研究の講読（2）	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第 6 回	先行研究の講読（3）	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第 7 回	先行研究の講読（4）	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第 8 回	先行研究の講読（5）	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第 9 回	先行研究の講読（6）	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第 10 回	先行研究の講読（7）	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第 11 回	先行研究の講読（8）	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第 12 回	先行研究の講読（9）	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第 13 回	先行研究の講読（10）	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第 14 回	前期のまとめ	期末課題の提出、発表。中間発表の順番決め。
第 15 回	卒論研究中間発表（1）	卒論研究の中間発表
第 16 回	卒論研究中間発表（2）	卒論研究の中間発表
第 17 回	卒論研究中間発表（3）	卒論研究の中間発表
第 18 回	卒論研究中間発表（4）	卒論研究の中間発表
第 19 回	先行研究の講読（11）	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする

第 20 回	先行研究の講読 (1 2)	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第 21 回	先行研究の講読 (1 3)	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第 22 回	先行研究の講読 (1 4)	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第 23 回	先行研究の講読 (1 5)	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第 24 回	先行研究の講読 (1 6)	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第 25 回	先行研究の講読 (1 7)	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第 26 回	先行研究の講読 (1 8)	ゼミ生の卒論研究テーマに関連する文献をゼミ生全員で講読し、意見交換をする
第 27 回	卒論発表 (1)	卒論提出予定者による研究成果発表
第 28 回	卒論発表 (2)	卒論提出予定者による研究成果発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された文献は必ず読み、感想文（300字程度）を授業支援システムにアップロードすし、ゼミ当日は積極的に議論に参加すること。発表担当文献については、事前準備を十分にしておく。フィールドワークは各自で学期中及び夏季・冬季休暇中に行う。加えて、卒論研究に関連する先行文献は教員に相談しながら各自で収集し、読み進め、先行研究レビューを執筆する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

小田博志『エスノグラフィー入門』春秋社（2010）

【参考書】

随時授業内でお知らせします

【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）、文献発表（20%）、課題（50%）

【学生の意見等からの気づき】

グループワークなども取り入れながら、今後も学生同士で意見交換できる環境を積極的にサポートしていきたいと思っております。

【関連の深いコース】

人間文化コース

【Outline and objectives】

This is a seminar course, which is designed for students to prepare for their senior theses.

PHL400HA

研究会 A

竹本 研史

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：月 5/Mon.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会の問題を考察するために必要な、自由、人権、民主主義、平等、所有、他者、差別、権力、平和、労働、貧困、正義、ジェンダー、セクシュアリティといった諸概念は、これまでの長い思想的・文化的な伝統のなかで数多くの議論が積み重ねられてきた。

本研究会では、ヨーロッパや近現代日本の文化や社会について、必要な文献講読や芸術作品の分析を通じて、上記諸概念に関する歴史的議論の内容と背景や表象のあり方などを理解し、それらの現代社会における意義を考察することを目標としている。

たとえば、私たちは多数決で決まったことには必ず従わなければならないのだろうか？ デモやストライキは本当に迷惑なものなのだろうか？ なぜ記録は正しく残さなければならないのだろうか？ 格差や不平等はなぜ是認できないのか？ マイノリティに対するポジティブ・アクションはなぜ必要なのだろうか？ 芸術は社会の何をどのように捉えるのだろうか？ なぜ差別する自由は存在してはならないのか？ 社会は、移民や難民をどのように迎入れるべきなのか？ などなど…

こうしたことを踏まえ、2020 年度は「民主主義とは何か？」をテーマとする。

【到達目標】

(1) ヨーロッパや近現代日本の思想や文学、文化に関する文献の正確な読解力の定着。ならびに、「人間」や「社会」、「民主主義」をはじめとする諸概念をそれぞれが、どのような歴史的負荷を帯びているか把握すること。

(2) 個々の問題の発見、必要な情報の収集・分析、論理的な考察、成果の表現（発表や討議を通じた意見表明の方法、レポート作成を通じた論文執筆の方法）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

【本授業は、4/27 月曜日 5 限より開始する。ゼミ生のネット環境の状況把握した上で、可能であれば、ゼミという性格上、ビデオ会議ツールを用いた授業にする。】

* 学習支援システムのほか、グーグル・クラスルームも使用するので、登録しておくこと。

教室コードは、gcjibus である。

(1) ヨーロッパや近現代日本の文化や社会に関する文献の精読+個人研究発表。

(2) 学期に 1 回、事前学習のうえ、映画館・美術館・博物館、劇場、コンサート・ホールなどでプチ FS。

(3) ゼミ合宿（夏休みか春休み）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方、および各人の 1 年間の研究スケジュールの確認
第 2 回	テキストの精読 (1)	民主主義に関する基礎的文献の講読 (1)
第 3 回	テキストの精読 (2)	民主主義に関する基礎的文献の講読 (2)
第 4 回	テキストの精読 (3)	文化に関する基礎的文献の講読 (1)
第 5 回	テキストの精読 (4)	文化に関する基礎的文献の講読 (2)
第 6 回	テキストの精読 (5)	芸術に関する基礎的文献の講読 (1)
第 7 回	テキストの精読 (6)	芸術に関する基礎的文献の講読 (2)
第 8 回	プチ FS 事前学習会 (1)	プチ FS（映画館・美術館・コンサートホールなどを訪問し作品鑑賞）に必要な予備知識について学生が発表
第 9 回	映像分析 (1)	社会を描いた映像作品の分析と議論 (1)
第 10 回	映像分析 (2)	社会を描いた映像作品の分析と議論 (2)
第 11 回	テキストの精読 (6)	社会に関する基礎的文献の講読 (7)
第 12 回	テキストの精読 (7)	社会に関する基礎的文献の講読 (8)
第 13 回	4 年生研究会修了論文中間発表 (1)	4 年生を対象とした卒論中間発表（前編）
第 14 回	4 年生研究会修了論文中間発表 (2)	4 年生を対象とした卒論中間発表（後編）
第 15 回	テキストの精読 (8)	文化や社会に関する古典の精読 (1)
第 16 回	テキストの精読 (9)	文化や社会に関する古典の精読 (2)
第 17 回	テキストの精読 (10)	文化や社会に関する古典の精読 (3)
第 18 回	テキストの精読 (11)	文化や社会に関する古典の精読 (4)

第 19 回	プチ FS 事前学習会 (2)	プチ FS (映画館・美術館・コンサートホールなどを訪問し作品鑑賞) に必要な予備知識について学生が発表
第 20 回	2、3 年生研究構想発表 (1)	2、3 年生それぞれの研究について簡単に発表、教員・学生を交えて討論 (1)
第 21 回	2、3 年生研究構想発表 (2)	2、3 年生それぞれの研究について簡単に発表、教員・学生を交えて討論 (2)
第 22 回	2、3 年生研究構想発表 (3)	2、3 年生それぞれの研究について簡単に発表、教員・学生を交えて討論 (3)
第 23 回	2、3 年生研究構想発表 (4)	2、3 年生それぞれの研究について簡単に発表、教員・学生を交えて討論 (4)
第 24 回	2、3 年生研究構想発表 (5)	2、3 年生それぞれの研究について簡単に発表、教員・学生を交えて討論 (5)
第 25 回	2、3 年生研究構想発表 (6)	2、3 年生それぞれの研究について簡単に発表、教員・学生を交えて討論 (6)
第 26 回	4 年生研究会修了論文中間発表 (1)	研究会修了論文第 2 章までの執筆段階において中間発表を行う (前編)
第 27 回	4 年生研究会修了論文中間発表 (2)	研究会修了論文第 2 章までの執筆段階において中間発表を行う (後編)
第 28 回	まとめ	1 年間の総括

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。

(1) 授業で扱う文献は熟読のうえ、疑問点を整理し、専門用語などは事前に調べておくこと。(2) 日頃からとにかく本を読むこと。映画、美術、音楽、演劇、ダンス、バレエ、マンガ、スポーツ、お笑いなどを積極的に鑑賞、観戦すること。(3) 人文・社会科学分野の文献を数多く揃えている書店や古本屋を覗いてみる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

授業当初はプリント。後半で扱う古典については教場で指示する。

【参考書】

教場にて指示。

【成績評価の方法と基準】

【(1) 2、3 年生は、授業中に年間 2 回の発表と積極的な議論への参加 (20%)、夏・冬 2 回の期末レポート (50%) と 2 ヶ月に 1 度のブック (映画)・レポート提出 (30%)。

(2) 4 年生は、授業中の積極的な議論への参加 (15%)、および、研究会修了論文の 2 回にわたる中間報告 (20%)、研究会論文を提出すること (50%)。6 月まで月 1 回のブック (映画)・レポート提出すること (15%)。】

← 変更なし (4/16)

【学生の意見等からの気づき】

毎年どのようなテキストを取り扱うのかを教員、学生双方で議論し合いながら決定している。

【その他の重要事項】

人間文化コース、グローバル・サステナビリティコース所属学生のみ受講が可能である。

【関連の深いコース】

グローバル・サステナビリティコース、人間文化コース

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic concepts and principles of democracy. It also enhances the development of students' skill in making oral presentation and writing research papers.

LAW400HA

研究会 A

横内 恵

配当年次/単位：2~4 年 / 4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火 4/Tue.4

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

わが国の環境法のうち行政法分野の法制度や判例について調査をし、ディスカッションやディベートを通して深く考え、理解することを目指します。また、受講者各自で研究テーマを設定し、主体的に研究して 4 年生終了時まで論文を書き上げることを目指します。

【到達目標】

本研究会では、(1) 国内環境法の主要分野についての知識を習得すること、(2) 受講者各自で設定した研究テーマについて、よく調べて発表し、皆で議論すること、(3) 学部 4 年次には、研究会修了論文を提出し、その内容について発表することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。

それにとりとも各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

本授業の開始日は 4 月 21 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

成績評価の具体的な方法と基準は、授業開始日までに学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	本研究会のテーマについて解説し、受講者の春学期の報告スケジュールを決定する
第 2 回	環境行政法 (1)	文献または判例に関する個別報告とディスカッションを行う
第 3 回	環境行政法 (2)	文献または判例に関する個別報告とディスカッションを行う
第 4 回	環境行政法 (3)	文献または判例に関する個別報告とディスカッションを行う
第 5 回	環境行政法 (4)	文献または判例に関する個別報告とディスカッションを行う
第 6 回	環境行政法 (5)	文献または判例に関する個別報告とディスカッションを行う
第 7 回	環境行政法 (6)	文献または判例に関する個別報告とディスカッションを行う
第 8 回	環境行政法 (7)	文献または判例に関する個別報告とディスカッションを行う
第 9 回	環境行政法 (8)	文献または判例に関する個別報告とディスカッションを行う
第 10 回	環境行政法 (9)	文献または判例に関する個別報告とディスカッションを行う
第 11 回	環境行政法 (10)	文献または判例に関する個別報告とディスカッションを行う
第 12 回	ディベート (1)	特定のテーマについて、グループに分かれてディベートを行う
第 13 回	ディベート (2)	特定のテーマについて、グループに分かれてディベートを行う
第 14 回	まとめ	春学期の復習を行う
第 15 回	秋学期の研究計画	各受講者の研究テーマについて協議し、報告スケジュールを決定する
第 16 回	研究報告 (1)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第 17 回	研究報告 (2)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第 18 回	研究報告 (3)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第 19 回	研究報告 (4)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第 20 回	研究報告 (5)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第 21 回	研究報告 (6)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第 22 回	研究報告 (7)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第 23 回	研究報告 (8)	受講者による研究報告とディスカッションを行う

第 24 回	研究報告 (9)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第 25 回	研究報告 (10)	受講者による研究報告とディスカッションを行う
第 26 回	ディベート (1)	特定のテーマについて、グループに分かれてディベートを行う
第 27 回	ディベート (2)	特定のテーマについて、グループに分かれてディベートを行う
第 28 回	まとめ	秋学期の総復習を行い、次年度の研究計画を立てる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。報告準備にあたっては、事前に文献調査をしっかりと行ってください。適宜、受講生に課題を出すこともあります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

北村喜宣『環境法〔第 4 版〕』（弘文堂、2017 年）。

【参考書】

大塚直『環境法〔第 3 版〕』（有斐閣、2010 年）。
淡路剛久、大塚直、北村喜宣編『環境判例百選〔第 2 版〕』（有斐閣、2011 年）。
その他、必要に応じて研究会中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

総合評価（目安としては、平常点 85%、課題 15%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【関連の深いコース】

サステナブル経済・経営コース、ローカル・サステナビリティコース

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This seminar offers undergraduate students opportunities to acquire knowledge in environmental administrative law and compose graduation theses.

SOC400HA

研究会 A

佐伯 英子

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：木 3/Thu.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本研究会では「身体の社会学」の中から医療、ジェンダー、生命倫理に焦点を当てて理解を深めます。2020 年度は「正しい」とされる身体とは何か、身体と社会的多様性はどのような関係があるのか、そして身体の社会的側面を考える際に医療はどのような役割を担うのか、という問いを中心に考えます。

【到達目標】

1. 「身体」を社会的観点から捉えることにより新しい知見を得る
2. 各自が設定した研究テーマに沿って調査を行い、卒業時には、研究会修了論文を提出する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 23 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。春学期は文献講読を中心に進めます。文献や資料は英語と日本語で書かれたものが約半ずつになります。秋学期は個人研究に関する発表を中心に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	研究会の概要と目標; 年間計画の確認; 自己紹介
第 2 回	文献講読	報告、質疑応答とディスカッション
第 3 回	文献講読	報告、質疑応答とディスカッション
第 4 回	文献講読	報告、質疑応答とディスカッション
第 5 回	文献講読	報告、質疑応答とディスカッション
第 6 回	文献講読	報告、質疑応答とディスカッション
第 7 回	個人研究 中間報告	個人研究の調査計画と進捗状況の報告
第 8 回	文献講読	報告、質疑応答とディスカッション
第 9 回	文献講読	報告、質疑応答とディスカッション
第 10 回	文献講読	報告、質疑応答とディスカッション
第 11 回	文献講読	報告、質疑応答とディスカッション
第 12 回	個人研究の発表	進捗状況とこれからの計画について報告
第 13 回	個人研究の発表	進捗状況とこれからの計画について報告
第 14 回	春学期のまとめ	これまでの学びのふりかえり; 夏季休暇中の課題の確認; 秋学期の進め方についての説明
第 15 回	ガイダンス	秋学期の計画について確認
第 16 回	個人研究の発表 (文献)	報告、質疑応答とディスカッション
第 17 回	個人研究の発表 (文献)	報告、質疑応答とディスカッション
第 18 回	個人研究の発表 (文献)	報告、質疑応答とディスカッション
第 19 回	個人研究の発表 (文献)	報告、質疑応答とディスカッション
第 20 回	個人研究の発表 (文献)	報告、質疑応答とディスカッション
第 21 回	個人研究の発表 (文献)	報告、質疑応答とディスカッション
第 22 回	個人研究の発表 (調査)	研究テーマの調査進捗状況等について発表; 質疑応答
第 23 回	個人研究の発表 (調査)	研究テーマの調査進捗状況等について発表; 質疑応答
第 24 回	個人研究の発表 (調査)	研究テーマの調査進捗状況等について発表; 質疑応答
第 25 回	個人研究の発表 (調査)	研究テーマの調査進捗状況等について発表; 質疑応答
第 26 回	個人研究の発表 (調査)	研究テーマの調査進捗状況等について発表; 質疑応答
第 27 回	個人研究の発表 (調査)	研究テーマの調査進捗状況等について発表; 質疑応答
第 28 回	1 年間のまとめ	今年度の学習内容と研究活動のふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。毎週課題となる文献を読み、ディスカッションに備え、質問や意見を用意してきてください。また、個人研究として各自がテーマを決めて調査と発表をすることが求められます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示します。

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%; 課題 50%; 最終レポート 20%

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションや発表の時間を増やし、学生がより主体的に参加できるよう工夫します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用します。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This seminar on the Sociology of the Body focuses on issues surrounding medicine, gender, and bioethics. We will pay especially close attention to the aspect of medicine and consider questions, including: What is the body that is considered "correct" in our society; What is the relationship between the body and diversity; and what kind of roles does medicine play in social aspects of the body.

HUG400HA

研究会 A

湯澤 規子

配当年次/単位：2~4 年 / 4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2020 年度は「地域の経済」について調べ、考え、議論します。

【到達目標】

この研究会では「地域」や「社会」や「経済」をキーワードとして考えます。①関連する文献や書籍を精読し、②自らの「問い」を立て、③主体的に調べ（フィールドワークや資料分析）、④リサーチペーパーを作成することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

受講者の問題関心によって演習の方法は適宜調整しますが、基本的には①文献・書籍の精読と研究会全体の議論、②テーマ「地域の経済」についてのグループワークとフィールドワーク、③リサーチペーパーの作成と報告を、段階的に進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション（春）	研究会の進め方の説明、研究会メンバーの自己紹介、年間計画の相談をする
第 2 回	「学び問う」、「調べ考える」ことについて	研究を進めるにあたっての心構え、方法などについて概説する
第 3 回	基礎文献購読と報告（1）	「地域の経済」に関連する文献を読み、担当グループの報告にもとづき議論する
第 4 回	基礎文献購読と報告（2）	「地域の経済」に関連する文献を読み、担当グループの報告にもとづき議論する
第 5 回	基礎文献購読と報告（3）	「地域の経済」に関連する文献を読み、担当グループの報告にもとづき議論する
第 6 回	基礎文献購読と報告（4）	「地域の経済」に関連する文献を読み、担当グループの報告にもとづき議論する
第 7 回	基礎文献購読と報告（5）	「地域の経済」に関連する文献を読み、担当グループの報告にもとづき議論する
第 8 回	食のフィールドワーク（第 1 回）	研究会全体でミニフィールドワークを実施する
第 9 回	調査計画の報告（1）	グループごとに具体的な「問い」、問題意識の背景、研究方法、調査対象などをまとめた「調査計画」を報告し、議論する
第 10 回	調査計画の報告（2）	グループごとに具体的な「問い」、問題意識の背景、研究方法、調査対象などをまとめた「調査計画」を報告し、議論する
第 11 回	調査計画の報告（3）	グループごとに具体的な「問い」、問題意識の背景、研究方法、調査対象などをまとめた「調査計画」を報告し、議論する
第 12 回	調査計画の報告（4）	グループごとに具体的な「問い」、問題意識の背景、研究方法、調査対象などをまとめた「調査計画」を報告し、議論する
第 13 回	調査計画の報告（5）	グループごとに具体的な「問い」、問題意識の背景、研究方法、調査対象などをまとめた「調査計画」を報告し、議論する
第 14 回	研究会（春）のまとめ	春学期の総括と秋学期の課題を話し合う
第 15 回	オリエンテーション（秋）	秋学期の研究会の進め方について話し合う
第 16 回	食のフィールドワーク（第 2 回）	研究会全体でミニフィールドワークを実施する
第 17 回	グループ研究報告とディスカッション（1）	グループごとに研究成果を報告し、研究会全体で議論する
第 18 回	グループ研究報告とディスカッション（2）	グループごとに研究成果を報告し、研究会全体で議論する

第 19 回	グループ研究報告とディスカッション (3)	グループごとに研究成果を報告し、研究会全体で議論する
第 20 回	グループ研究報告とディスカッション (4)	グループごとに研究成果を報告し、研究会全体で議論する
第 21 回	グループ研究報告とディスカッション (5)	グループごとに研究成果を報告し、研究会全体で議論する
第 22 回	個別研究についての報告 (1)	個別報告の「問い」と「研究計画」などについて報告し、議論する
第 23 回	個別研究についての報告 (2)	個別報告の「問い」と「研究計画」などについて報告し、議論する
第 24 回	個別研究についての報告 (3)	個別報告の「問い」と「研究計画」などについて報告し、議論する
第 25 回	個別研究についての報告 (4)	個別報告の「問い」と「研究計画」などについて報告し、議論する
第 26 回	個別研究についての報告 (5)	個別報告の「問い」と「研究計画」などについて報告し、議論する
第 27 回	個別研究についての報告 (6)	個別報告の「問い」と「研究計画」などについて報告し、議論する
第 28 回	年間のふりかえりとまとめ	「食からみた社会」という共通テーマについて得られた知見と課題について議論する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。自らの問題意識に関わる論文、文献、資料などに積極的にアクセスし、自主的にそれを取集整理、熟読し、自分のオリジナリティに自覚的になることを目指してください。また、文献などだけでなく自分の5感でフィールドワークを体感してみてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

・適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

文献購読報告 (30%)、グループ調査計画 (20%)、グループ研究報告 (30%)、個別研究計画報告 (20%) を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学生の主体性を大切にしたい研究会運営をしていきます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

特にありません。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

In 2020, I will investigate, think and discuss about "the economy of local".

PHL400HA

研究会 A

吉永 明弘

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：木 2/Thu.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境倫理学と都市問題・住宅問題について学ぶ

【到達目標】

環境倫理学の概要を理解するとともに、倫理的な考え方を身につける。また、都市問題、住宅問題についても理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

環境倫理学、都市問題、住宅問題などに関する文献をたくさん読んで議論する。どのジャンルの本の重点的に読むかは参加学生と相談して決める。その他、アメニティマップ（魅力ある場所と問題のある場所を色分けして記したマップ）の製作と発表も行う。この授業は 5 月 7 日（木）から行います。連絡は学習支援システムで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション (1)	環境倫理学、都市問題、住宅問題の概要を説明し、購読するテキストを決める。
2	イントロダクション (2)	環境倫理学、都市問題、住宅問題の概要を説明し、購読するテキストを決める。
3	文献購読 (1)	テキストの購読を行う。
4	文献購読 (2)	テキストの購読を行う。
5	文献購読 (3)	テキストの購読を行う。
6	文献購読 (4)	テキストの購読を行う。
7	文献購読 (5)	テキストの購読を行う。
8	文献購読 (6)	テキストの購読を行う。
9	文献購読 (7)	テキストの購読を行う。
10	文献購読 (8)	テキストの購読を行う。
11	文献購読 (9)	テキストの購読を行う。
12	文献購読 (10)	テキストの購読を行う。
13	アメニティマップ製作	アメニティマップを製作する。
14	アメニティマップ発表	アメニティマップを用いて発表を行う。
15	中間考察	テキストと地図作りから得られた知見について話し合う。
16	文献購読 (11)	テキストの購読を行う。
17	文献購読 (12)	テキストの購読を行う。
18	文献購読 (13)	テキストの購読を行う。
19	文献購読 (14)	テキストの購読を行う。
20	文献購読 (15)	テキストの購読を行う。
21	文献購読 (16)	テキストの購読を行う。
22	文献購読 (17)	テキストの購読を行う。
23	文献購読 (18)	テキストの購読を行う。
24	文献購読 (19)	テキストの購読を行う。
25	文献購読 (20)	テキストの購読を行う。
26	文献購読 (21)	テキストの購読を行う。
27	文献購読 (22)	テキストの購読を行う。
28	まとめの議論	テキストから得られた知見について話し合う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

担当者はテキストを読んでレジュメをつくってこよう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

参加者と相談して決めます。

【参考書】

吉永明弘『都市の環境倫理』勁草書房、2014 年
吉永明弘『ブックガイド環境倫理』勁草書房、2017 年
吉永明弘・福永真弓編『未来の環境倫理学』勁草書房、2018 年

【成績評価の方法と基準】

担当分のレジュメ (50%) と期末レポート (50%)。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【関連の深いコース】

人間文化コース

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

You can understand environmental ethics, urban problems and housing problems.

LAW400HA

研究会 B

横内 恵

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火 5/Tue.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国立公園指定地域、とりわけ世界自然遺産登録地をめぐるには、豊かな自然に触れる機会を人々に開くことが求められる一方で、美しい自然の風景や希少な動植物を保護しなくてはならないという、矛盾した要請が生じる。本演習では、それらに関してどのような制度がつくられてきたのか、そして、その制度の下、各国立公園のエリアが実際にどのような状況になっている、どのような課題を抱えているのか、どのような取り組みがなされているのか、といったことを調査し、検討する。

【到達目標】

本演習は、世界遺産・国立公園の制度について基礎的な知識を習得することと、具体的な事例をとりあげ、その現状を調査し、現在の制度やその運用における課題を見出すことを目標とするものである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

本授業の開始日は4月21日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

成績評価の具体的な方法と基準は、授業開始日までに学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本研究会のテーマについて解説し、課題文献を決定する
第2回	課題文献に関する報告とディスカッション	報告担当者が課題文献の指定箇所について概要を報告し、それについて全員でディスカッションを行う
第3回	課題文献に関する報告とディスカッション	報告担当者が課題文献の指定箇所について概要を報告し、それについて全員でディスカッションを行う
第4回	課題文献に関する報告とディスカッション	報告担当者が課題文献の指定箇所について概要を報告し、それについて全員でディスカッションを行う
第5回	課題文献に関する報告とディスカッション	報告担当者が課題文献の指定箇所について概要を報告し、それについて全員でディスカッションを行う
第6回	課題文献に関する報告とディスカッション	報告担当者が課題文献の指定箇所について概要を報告し、それについて全員でディスカッションを行う
第7回	課題文献に関する報告とディスカッション	報告担当者が課題文献の指定箇所について概要を報告し、それについて全員でディスカッションを行う
第8回	課題文献に関する報告とディスカッション	報告担当者が課題文献の指定箇所について概要を報告し、それについて全員でディスカッションを行う
第9回	課題文献に関する報告とディスカッション	報告担当者が課題文献の指定箇所について概要を報告し、それについて全員でディスカッションを行う
第10回	課題文献に関する報告とディスカッション	報告担当者が課題文献の指定箇所について概要を報告し、それについて全員でディスカッションを行う
第11回	課題文献に関する報告とディスカッション	報告担当者が課題文献の指定箇所について概要を報告し、それについて全員でディスカッションを行う
第12回	ディベート (1)	特定のテーマについて、グループに分かれてディベートを行う
第13回	ディベート (2)	特定のテーマについて、グループに分かれてディベートを行う
第14回	春学期まとめ	春学期の総復習を行う
第15回	オリエンテーション	春学期の復習をし、秋学期の課題文献を決定する
第16回	課題文献に関する報告とディスカッション	報告担当者が課題文献の指定箇所について概要を報告し、それについて全員でディスカッションを行う

第 17 回	課題文献に関する報告とディスカッション	報告担当者が課題文献の指定箇所について概要を報告し、それについて全員でディスカッションを行う
第 18 回	課題文献に関する報告とディスカッション	報告担当者が課題文献の指定箇所について概要を報告し、それについて全員でディスカッションを行う
第 19 回	課題文献に関する報告とディスカッション	報告担当者が課題文献の指定箇所について概要を報告し、それについて全員でディスカッションを行う
第 20 回	課題文献に関する報告とディスカッション	報告担当者が課題文献の指定箇所について概要を報告し、それについて全員でディスカッションを行う
第 21 回	課題文献に関する報告とディスカッション	報告担当者が課題文献の指定箇所について概要を報告し、それについて全員でディスカッションを行う
第 22 回	課題文献に関する報告とディスカッション	報告担当者が課題文献の指定箇所について概要を報告し、それについて全員でディスカッションを行う
第 23 回	課題文献に関する報告とディスカッション	報告担当者が課題文献の指定箇所について概要を報告し、それについて全員でディスカッションを行う
第 24 回	課題文献に関する報告とディスカッション	報告担当者が課題文献の指定箇所について概要を報告し、それについて全員でディスカッションを行う
第 25 回	課題文献に関する報告とディスカッション	報告担当者が課題文献の指定箇所について概要を報告し、それについて全員でディスカッションを行う
第 26 回	ディベート (1)	特定のテーマについて、グループに分かれてディベートを行う
第 27 回	ディベート (2)	特定のテーマについて、グループに分かれてディベートを行う
第 28 回	まとめ	1 年間の復習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習の際に紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をしてください。毎回、報告担当者だけでなく全受講者が、課題文献を熟読してください。課題文献に関連して紹介された参考文献についても、適宜、読んでもらいます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて指定します。

【参考書】

必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

総合評価（目安としては、平常点 70%、課題 30%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This seminar is designed to explore the issues of national parks and World Natural Heritage sites.

SOC400HA

研究会 B

佐伯 英子

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：金 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会学的視点を養いながら、実践的な社会科学の調査（質的調査）のスキルを身につけるための研究会です。

【到達目標】

- 質的調査の方法を学ぶ。
- 英語文献・論文を探し、読み、使いこなせるようになる。
- 各人のテーマに沿って研究計画書を執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 24 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

講義、発表、グループディスカッション、グループワークを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	研究会の概要と目標; 年間計画の確認; 自己紹介
第 2 回	社会学の「社会の見方」;	ジャーナリズムと社会学; 質的調査と量的調査
第 3 回	個人研究 ワークショップ	何を知りたいか; どのような方法で調べたいか
第 4 回	個人研究に使用する文献 (日本語) の発表	報告、質疑応答とディスカッション
第 5 回	英語文献の探し方 (図書)	図書館にてワークショップ
第 6 回	個人研究に使用する文献 (英文図書) の発表	報告、質疑応答とディスカッション
第 7 回	英語資料の探し方 (新聞、雑誌記事、学術論文)	データベースの使い方
第 8 回	個人研究に使用する文献の発表 (英語論文)	報告、質疑応答とディスカッション
第 9 回	英語論文の読み方	構成を知る; 目的に沿った読み方; 読み方のコツ
第 10 回	半構造インタビュー、フォーカス・グループ	インタビューの依頼; 準備; 手法; ラポール
第 11 回	参与観察	観察の方法; フィールドノートの取り方; 整理方法
第 12 回	テキスト分析	雑誌、新聞、テレビ番組等の内容をどのように社会調査に使うか
第 13 回	質的データの分析方法	データの管理; 整理と分析; コーディング
第 14 回	春学期のまとめ	これまでの学びのふりかえり; 夏季休暇中の課題の確認; 秋学期の進め方についての説明
第 15 回	ガイダンス	秋学期の計画について確認
第 16 回	リサーチクエスション	問いの立て方; 先行研究とのつながり
第 17 回	研究計画書の書き方	内容と構成
第 18 回	先行研究のまとめかた	研究課題との繋げ方
第 19 回	先行研究のまとめについて発表	個人研究のために用意した先行研究のまとめの報告とディスカッション
第 20 回	調査方法のワークショップ	個人研究で使用する調査方法に関するグループワークとグループディスカッション
第 21 回	調査方法についての発表	個人研究で使用する調査方法について発表
第 22 回	研究計画書の発表	個人研究の計画書について発表、質疑応答
第 23 回	研究計画書の発表	個人研究の計画書について発表、質疑応答
第 24 回	研究計画書の発表	個人研究の計画書について発表、質疑応答
第 25 回	研究計画書の発表	個人研究の計画書について発表、質疑応答
第 26 回	研究計画書の発表	個人研究の計画書について発表、質疑応答
第 27 回	研究計画書の発表	個人研究の計画書について発表、質疑応答

第 28 回 1 年間のまとめ 今年度の学習内容と研究活動のふりか
えり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
課題を定められた期間内に仕上げる、文献を読み、報告やディスカッ
ションに備えること、自主的に研究を進めることが求められます。本授業の準備
学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示します。

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 20%; 課題 60%; 最終レポート 20%

【学生の意見等からの気づき】

グループワークやディスカッションの時間を増やし、学生がより主体的に参
加できるよう工夫します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使います。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This seminar is designed to have students obtain skills necessary
for conducting qualitative social research while cultivating sociological
perspectives.

HUG400HA

研究会 B

湯澤 規子

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火 5/Tue.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域経済、人文地理学、歴史学、民俗学、文化人類学などの視点から興味があ
るテーマを調べ、考え、議論します。受講生の問題関心に合わせて、2020 年
度の「研究テーマ」を設定します。

【到達目標】

この研究会では受講者でテーマを決定し、それをキーワードとして考えます。
①関連する文献や書籍を精読し、②自らの「問い」を立て、③主体的に調べ
(フィールドワークや資料分析)、④リサーチペーパーを作成することを目指
します。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力
を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習
成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

受講者の問題関心によって演習の方法は適宜調整しますが、基本的には①文
献・書籍の精読と研究会全体の議論、②テーマについてのグループワークと
フィールドワーク、③リサーチペーパーの作成と報告を、段階的に進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション（春）	研究会の進め方の説明、研究会メン バーの自己紹介、年間計画の相談をす る
第 2 回	「学び問う」、「調べ考え る」ことについて	研究を進めるにあたっての心構え、方 法などについて概説した後、研究会メン バーで共通テーマを決める
第 3 回	基礎文献購読と報告（1）	関連する文献を読み、担当グループの 報告にもとづき議論する
第 4 回	基礎文献購読と報告（2）	関連する文献を読み、担当グループの 報告にもとづき議論する
第 5 回	基礎文献購読と報告（3）	関連する文献を読み、担当グループの 報告にもとづき議論する
第 6 回	基礎文献購読と報告（4）	関連する文献を読み、担当グループの 報告にもとづき議論する
第 7 回	基礎文献購読と報告（5）	関連する文献を読み、担当グループの 報告にもとづき議論する
第 8 回	春のフィールドワーク	研究会全体で身にフィールドワークを 実施する
第 9 回	基礎文献購読と報告（1）	関連する文献を読み、担当グループの 報告にもとづき議論する
第 10 回	基礎文献購読と報告（2）	関連する文献を読み、担当グループの 報告にもとづき議論する
第 11 回	基礎文献購読と報告（3）	関連する文献を読み、担当グループの 報告にもとづき議論する
第 12 回	基礎文献購読と報告（4）	関連する文献を読み、担当グループの 報告にもとづき議論する
第 13 回	基礎文献購読と報告（5）	関連する文献を読み、担当グループの 報告にもとづき議論する
第 14 回	研究会（春）のまとめ	春学期の総括と秋学期の課題を話し合 う
第 15 回	オリエンテーション（秋）	秋学期の研究会の進め方について話し 合う
第 16 回	調査計画の報告（1）	グループごとに具体的な「問い」、問 題意識の背景、研究方法、調査対象な どをまとめた「調査計画」を報告し、 議論する
第 17 回	調査計画の報告（2）	グループごとに具体的な「問い」、問 題意識の背景、研究方法、調査対象な どをまとめた「調査計画」を報告し、 議論する
第 18 回	調査計画の報告（3）	グループごとに具体的な「問い」、問 題意識の背景、研究方法、調査対象な どをまとめた「調査計画」を報告し、 議論する
第 19 回	調査計画の報告（4）	グループごとに具体的な「問い」、問 題意識の背景、研究方法、調査対象な どをまとめた「調査計画」を報告し、 議論する

第 20 回	調査計画の報告（5）	グループごとに具体的な「問い」、問題意識の背景、研究方法、調査対象などをまとめた「調査計画」を報告し、議論する
第 21 回	秋のフィールドワーク	研究会全体で身にフィールドワークを実施する
第 22 回	グループ研究報告とディスカッション（1）	グループごとに研究成果を報告し、研究会全体で議論する
第 23 回	グループ研究報告とディスカッション（2）	グループごとに研究成果を報告し、研究会全体で議論する
第 24 回	グループ研究報告とディスカッション（3）	グループごとに研究成果を報告し、研究会全体で議論する
第 25 回	グループ研究報告とディスカッション（4）	グループごとに研究成果を報告し、研究会全体で議論する
第 26 回	グループ研究報告とディスカッション（5）	グループごとに研究成果を報告し、研究会全体で議論する
第 27 回	個別研究テーマの報告	個人ごとに研究テーマを報告し、議論する
第 28 回	年間のふりかえりとまとめ	共通テーマについて得られた知見と課題について議論する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。自らの問題意識に関わる論文、文献、資料などに積極的にアクセスし、自主的にそれを収集整理、熟読し、自分のオリジナリティに自覚的になることを目指してください。また、文献などだけでなく自分の5感でフィールドワークを体感してみてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

文献購読報告（30%）、グループ調査計画（20%）、グループ研究報告（30%）、個別研究計画報告（20%）を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ミニフィールドワークについては、参加者と相談の上テーマと日程を設定します。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

特にありません。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

We study, think and discuss topics of interest from the viewpoints of local economy, humanities geography, historical studies, folklore studies, cultural anthropology and so on. In accordance with the students' problem concerns, we will decide the "research theme" in 2020.

PHL400HA

研究会 B

吉永 明弘

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：木 3/Thu.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメニティマップづくり、冊子づくり：まちの調査を行い、それを地図上に表すとともに、魅力を伝える冊子を作成する。それを外部に公開する。

【到達目標】

身の回りの環境について観察し、自分なりの「良い環境」についての意見をもち、他者にそれを分かりやすく提示できるようにすること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

身近なまちの魅力と問題点を発見し、魅力を紹介するとともに、問題を解決するための方策を議論する。

アメニティマップ（魅力ある場所と問題のある場所を色分けして記したマップ）の製作や、まちの魅力を紹介する冊子をつくり配布する。調査結果を外部や他大学の人たちに発表する（パワーポイントによるプレゼンテーション）。この授業は5月7日（木）から行います。連絡は学習支援システムで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（1）	自己紹介を行い、研究会の進め方について話し合う。
2	ガイダンス（2）	アメニティマップと冊子の作り方を説明する。
3	調査対象地の選定	調査対象地を決める。
4	調査報告（1）	調査の進捗状況を発表する。
5	調査報告（2）	調査の進捗状況を発表する。
6	調査報告（3）	調査の進捗状況を発表する。
7	調査報告（4）	調査の進捗状況を発表する。
8	調査報告（5）	調査の進捗状況を発表する。
9	調査報告（6）	調査の進捗状況を発表する。
10	調査報告（7）	調査の進捗状況を発表する。
11	調査報告（8）	調査の進捗状況を発表する。
12	アメニティマップ製作（1）	アメニティマップをつくる。
13	アメニティマップ製作（2）	アメニティマップをつくる。
14	アメニティマップ発表	アメニティマップを用いて発表を行う。
15	冊子の製作（1）	冊子の製作を行う。
16	冊子の製作（2）	冊子の製作を行う。
17	冊子の製作（3）	冊子の製作を行う。
18	冊子の製作（4）	冊子の製作を行う。
19	冊子の製作（5）	冊子の製作を行う。
20	冊子の製作（6）	冊子の製作を行う。
21	冊子の製作（7）	冊子の製作を行う。
22	冊子の製作（8）	冊子の製作を行う。
23	冊子の製作（9）	冊子の製作を行う。
24	冊子の製作（10）	冊子の製作を行う。
25	冊子の製作（11）	冊子の製作を行う。
26	冊子の製作（12）	冊子の製作を行う。
27	冊子の製作（13）	冊子の製作を行う。
28	まとめ	この研究会で得たものについて話し合う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各人の関心のあるテーマについて調べておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

吉永明弘『都市の環境倫理』勁草書房、2014年
吉永明弘『ブックガイド 環境倫理』勁草書房、2017年
吉永明弘・福永真弓編『未来の環境倫理学』勁草書房、2018年

【成績評価の方法と基準】

マップ（40%）と冊子（60%）の製作に対して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Making map of amenity and booklet.

ECN400HA

研究会 B

國則 守生

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本研究会は、経済学の基礎的な考え方を学びつつ、「良き社会」(good society)、「持続可能な社会」(sustainable society)を求めて環境政策などを実践するために必要な素養を獲得することを目的とする。同時に、発表・ディスカッションなどの能力を獲得することも目的とする。そのために、具体的な例をもとに、経済学やその周辺の専門分野の考え方の理解・応用を易しいレベルから行う（自分の言葉で理解・判断する能力と他人と協力して問題を解決するチームワーク能力の獲得を図る）。

【到達目標】

重要な経済学の基礎的な考え方を集中して学び、環境問題の軽減・解決を含む「よき社会」、「持続可能な社会」を考えるために必要な素養を、発表、議論、批判的検討を通じて獲得することを旨とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとりま各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月28日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

研究会は演習形式および資料に基づく学習形式で行う。研究会では、経済学などに関する各種資料・論文などを輪読し、それに関してディスカッションを行う。その際、経済学に関するベーシックで重要な考え方、捉え方をしっかりと身につけるため、お互いとの意見交換を重視する。また、グループで調査・研究・発表を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	ゼミの進め方、スケジュールについて討議
第2回	課題発表(1)	指定された課題図書読書の発表および議論
第3回	課題発表(2)	指定された課題図書読書の発表および議論の続き
第4回	文献講読(1)	報告および討論
第5回	文献講読(2)	報告および討論
第6回	文献講読(3)	報告および討論
第7回	文献講読(4)	報告および討論
第8回	文献講読(5)	報告および討論
第9回	文献講読(6)	報告および討論
第10回	文献講読(7)	報告および討論
第11回	文献講読(8)	報告および討論
第12回	文献講読(9)	報告および討論
第13回	文献講読(10)	報告および討論
第14回	春学期総括	春学期学習のまとめ
第15回	課題発表(3)	指定された課題図書読書の発表と議論
第16回	文献講読(4)	指定された課題図書読書の発表と議論の続き
第17回	文献講読(11)	報告および討論
第18回	文献講読(12)	報告および討論
第19回	文献講読(13)	報告および討論
第20回	文献講読(14)	報告および討論
第21回	文献講読(15)	報告および討論
第22回	文献講読(16)	報告および討論
第23回	文献講読(17)	報告および討論
第24回	文献講読(18)	報告および討論
第25回	文献講読(19)	報告および討論
第26回	文献講読(20)	報告および討論
第27回	文献講読(21)	報告および討論
第28回	秋学期総括	秋学期学習のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。

- 1) 演習ノートを用意し、毎週、決められた範囲の課題の予習・復習を行う。
- 2) サブゼミに出席する。
- 3) 各種課題を提出する。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

必要に応じて、テーマごとに関連資料、論文等を適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（80％）および各人のテーマの取り組み姿勢と提出されたレポート等執筆（20％）によって総合評価する。無断で研究会を欠席することは厳禁とする。

【学生の意見等からの気づき】

最初の時期にできるだけ各学生の意見が積極的に発せられるように、雰囲気作りに配慮したい。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This seminar deals with how to construct a good and sustainable society, including the environment. It will cover various real issues to find a concrete agenda. To that goal, the students are encouraged to participate actively in the discussion.

SOC400HA

研究会 B

西城戸 誠

配当年次／単位：2～4年／4単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火 6/Tue.6

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習は、環境社会学、地域社会学、都市社会学、農村社会学などの文献を講読し、それぞれの領域の最先端の議論を理解するとともに、実証的な社会学研究を自ら行うための方法論を学ぶことを目的とする。

【到達目標】

本研究会では、環境社会学、地域社会学、都市社会学、農村社会学などの実証的な社会学的研究を集中的に講読し、「環境」「都市」「地域」に対する社会学的なまなざし、アプローチの特徴を理解することができる。また、実証的な社会学の方法論を学ぶ事ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

研究会参加者の関心に従い、環境社会学、地域社会学、都市社会学、農村社会学などの実証的な社会学的研究（国内外）を決定し、講読する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	演習内容に関するオリエンテーションの実施。演習の年間計画を立てる。
第2回	文献購読（1）	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第3回	文献購読（2）	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第4回	文献購読（3）	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第5回	文献購読（4）	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第6回	文献購読（5）	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第7回	文献購読（6）	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第8回	文献購読（7）	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第9回	文献購読（8）	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第10回	文献購読（9）	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第11回	文献購読（10）	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第12回	文献購読（11）	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第13回	文献購読（12）	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第14回	講読文献の内容の比較検討（1）	春学期に講読した文献を比較検討し、実証研究の方法論の検討する。
第15回	文献購読（13）	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第16回	文献購読（14）	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第17回	文献購読（15）	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
第18回	文献購読（16）	課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。

- 第 19 回 文献購読 (17) 課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
- 第 20 回 文献購読 (18) 課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
- 第 21 回 文献購読 (19) 課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
- 第 22 回 文献購読 (20) 課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
- 第 23 回 文献購読 (21) 課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
- 第 24 回 文献購読 (22) 課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
- 第 25 回 文献購読 (23) 課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
- 第 26 回 文献購読 (24) 課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
- 第 27 回 文献購読 (25) 課題図書を購入し、内容に関するディスカッションによって、社会学の実証研究への理解を深める。
- 第 28 回 講読文献の内容の比較検討 (2) 秋学期に講読した文献を比較検討し、実証研究の方法論の検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。関連文献の講読。および、研究会修了論文執筆に向けた一連の作業（文献購読、調査、論文執筆等）。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

随時、指定する。

【参考書】

随時、指定する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (100%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

本演習は火曜日 5 時限目にサブゼミとして延長して実施することがある。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

The aim of this seminar is to understand the latest discussions in the fields of environmental sociology, community sociology, urban sociology, rural sociology. This seminar also offers how to create a research design for sociological empirical study and how to write a research paper.

ENV400HA

研究会 B

高田 雅之

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：木 2/Thu.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

千代田区を学びの対象のひとつとしながら、都市全体を視野に入れ、以下のテーマに取り組みます。

- ①緑・水・多様な生物など都市の自然を構成している個々の要素について理解と知識を深めます。
- ②街路樹・公園・都市農業・河川や海岸など都市を構成する自然的空間の果たす役割と機能を考えます。
- ③環境教育・コミュニティ・企業活動・景観・維持管理など人間の果たす役割について探求します。
- ④認証制度・都市計画・グリーンインフラなどこれらに関連づける仕組みやシステムから持続的な都市を提案します。

【到達目標】

本ゼミでは「緑・水・生物」の視点から人と自然にとって持続可能な都市を探求します。防災・造園・生物多様性・計画・教育など様々な分野からのアプローチを試み、多面的知識と俯瞰的な視点から都市環境を考え、その実現をイメージできる実践的な思考力（コンサルタント力・デザイン力）を高めます。併せて、千代田区が取り組んでいる環境マネジメントシステムである CES（千代田エコシステム）への貢献も目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

- ①グループ研究…半期に 2 テーマ程度を設定し、グループで調査・討論・取りまとめ・プレゼンテーションを行い、「課題設定 → 情報収集 → 分析評価 → 伝達・発信」を通して課題への知識と理解を高めます。
- ②個人研究 1…共通テーマを設定し、日替わり交代で短い発表を行い、それらを統合し俯瞰することでテーマの様相や課題を考えます。
- ③個人研究 2…個々人の関心に応じた研究テーマを自由に設定して調査と意見交換を行い、到達目標に掲げた能力を高めていきます。
- ④フィールド研究…半期に数回程度、様々な取り組みの実際を学ぶ、グループで観察記録して評価する、環境教育に関わるイベント（神田児童館や千代田区主催の行事等を予定）に参加する等の活動を行います。
- ⑤実践提案まとめ…これらを積み重ね、組み合わせで持続可能な都市に向けた提言を取りまとめることを通して、俯瞰力・構想力・実践的思考力を高めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	研究会の進め方
第 2 回	基礎学習 1（テーマ 1）	テーマ 1 に関する基礎知識の習得
第 3 回	基礎学習 2（テーマ 1）	テーマ 1 に関する基礎知識の習得
第 4 回	基礎学習 3（テーマ 2）	テーマ 2 に関する基礎知識の習得
第 5 回	基礎学習 4（テーマ 2）	テーマ 2 に関する基礎知識の習得
第 6 回	フィールド学習 1	現地調査 1
第 7 回	グループ研究 1	緑地に関するグループ討議
第 8 回	グループ研究 2	緑地に関するグループ討議・発表
第 9 回	グループ研究 3	水辺に関するグループ討議
第 10 回	グループ研究 4	水辺に関するグループ討議・発表
第 11 回	フィールド学習 2	現地調査 2
第 12 回	グループ研究 5	生物に関するグループ討議
第 13 回	グループ研究 6	生物に関するグループ討議・発表
第 14 回	春学期まとめ	総括講義と意見交換
第 15 回	ガイダンス	秋学期の研究会の進め方
第 16 回	グループ研究 7	認証と評価に関するグループ討議
第 17 回	グループ研究 8	認証と評価に関するグループ討議・発表
第 18 回	グループ研究 9	計画とデザインに関するグループ討議
第 19 回	グループ研究 10	計画とデザインに関するグループ討議・発表
第 20 回	フィールド学習 3	現地調査 3
第 21 回	個人研究 1	テーマ検討と意見交換
第 22 回	個人研究 2	研究構成の検討と意見交換
第 23 回	個人研究 3	研究のプッシュアップ
第 24 回	実践提案の検討	持続可能に都市に向けた提案の検討
第 25 回	実践提案のまとめ	持続可能に都市に向けた提案のまとめ
第 26 回	個人研究成果の発表 1	研究結果の発表と討論 1
第 27 回	個人研究成果の発表 2	研究結果の発表と討論 2
第 28 回	年間まとめ	総括講義と意見交換

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。各自の研究に係る文献・資料収集、実地調査のほか、共同の活動としてゼミ時間以外に、各種イベントの準備と実施、施設見学や現地調査等を実施します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】

講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（100%）：活動参加、学習意欲、受講態度、グループワークや学内外のイベント活動（環境展やエコプロなど）への貢献、ゼミ運営への率先と貢献、提出物の内容と期日遵守等を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

過大な負担や知識の詰め込みにならないよう、個人学習、グループ学習、フィールド学習、自主活動のバランスをとって、できる限り自発性と協調性を重視しこれを促すよう学習していきます。

【その他の重要事項】

「自然環境政策論Ⅰ・Ⅱ」「サイエンスカフェⅢ」「自然環境論Ⅳ」などの関連する講義科目の履修を推奨します。

【実務経験のある教員による授業】

公務員、独立行政法人、民間企業

【Outline and objectives】

In this course, students will learn practically the following themes mainly for Chiyoda Ward as one of the study field with a view to the entire urban area.

- ① The factors that compose urban nature, such as greenery, waterfront, and wildlife.
- ② The role and function of natural spaces that make up urban areas, such as street trees, parks, urban agriculture, rivers and coasts.
- ③ The role of human beings to urban nature, such as environmental education, activities at community, corporate activities, landscape creation and maintenance activities.
- ④ The mechanisms and systems that link urban nature, such as evaluation systems, urban planning and green infrastructure.

OTR200HA

人間環境セミナー（災害の時代を生き抜く実践知）**人間環境学部教員**

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土3/Sat.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

持続可能な社会の実現にむけて、自然災害に強い社会を構築することは重要である。この授業を通じて様々な自然災害とそれらに対する取り組みを概観し、自然災害に対する基礎的な知識と考え方を習得する。

【到達目標】

セメスターは(1)気象に関連した災害、(2)地震・火山に関連した災害、(3)太陽・宇宙に関連した災害の三つのシリーズから構成される。学生はこれらの分野についての基本的な知識を習得することができる。また取り組みの現場における最新の状況を聴講することによって他の授業の理解を深め、さらに実生活における災害時の行動等にも活かすことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業開始：5月2日

本セミナーでは、自然災害の専門分野の講師を学外から招き、毎回それぞれのテーマに関する講演を聴講する。講義の後に質疑応答の時間を設けるので、学生の質疑応答への積極的な参加が期待される。

受講者は各回にコメントペーパー（講師からの質問への回答や、講師や講義内容への質問を記すもの）の記入と提出が求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	セミナーの目的、進め方等の説明。講義の全体像の解説。
第2回	セミナー	外部講師による講義
第3回	セミナー	外部講師による講義
第4回	セミナー	外部講師による講義
第5回	セミナー	外部講師による講義
第6回	セミナー	外部講師による講義
第7回	セミナー	外部講師による講義
第8回	セミナー	外部講師による講義
第9回	セミナー	外部講師による講義
第10回	セミナー	外部講師による講義
第11回	セミナー	外部講師による講義
第12回	セミナー	外部講師による講義
第13回	セミナー	外部講師による講義
第14回	まとめと試験	これまでのセミナー内容の総括とそれらに関する試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

予習：次週以降のテーマにつき自分なりの予備知識を得て、質問や意見等を用意しておく。

復習：講義で配布されたプリントや、聴講した内容について復習し、いっそうの理解や興味を深めていく。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。必要に応じ外部講師によるプリント（資料）が配布される。

【参考書】

外部講師や教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績評価の基準は、平常点（出席、コメントペーパーの内容、授業内の発言等）が40%、期末試験が60%とする。良い質問をした学生は平常点に加点される。

毎回出席を確認する。10分以上遅れて入室することは認められず、欠席扱いとなる。原則として、4回以上無断で欠席した者は、成績評価を行わない。

講義中のスマートフォンの使用は禁止する（授業改善アンケートへの回答作業は除く）。パソコン・タブレットの使用については許可制とする。ルールを守らない場合は、平常点で減点対象とする。

【学生の意見等からの気づき】

学生が興味を持ち、自主的に学習できるようなテーマを選ぶ。

【その他の重要事項】

【履修方法】本セミナーは定員制である。事前に学習支援システムに仮登録をした学生の中から抽選によって履修者を決定する。

講演後に質問時間が設けられるので、積極的に質問を行うこと。

本セミナーの詳しいテーマおよび外部講師については、掲示板および学部ウェブサイトで発表する。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This course mainly consists of invited lectures by experts who work for natural disasters. Students will be able to understand natural disasters and to have an introductory knowledge of them.

OTR200HA

人間環境セミナー（食と健康）

人間環境学部教員

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 3/Sat.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本セミナーでは、現在企業や地域で実施されている「食や健康」の取組み（食育、食品ロス対策、働き方改革、健康経営など）に関わっている専門家の講義を通じて、将来において持続可能な企業経営または地域経営を実現していくために必要とされる方法を学習することを目的とします。

【到達目標】

本セミナーでは、自治体、事業者、消費者のそれぞれの視点から、企業または地域で行われている食品ロスの削減対策や従業員の健康保持・増進の取組みなどに関する現状や課題を理解し、それを通じて、当該企業や地域の持続可能性を高めていくための最適な方法を検討していくことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

- ①各講師の具体的な活動や努力、体験などの話を聴講します。
- ②質疑応答の時間を設け、講義内容に関する意見や質問などをします。
- ③コメントペーパー（講師からの質問への回答や、講師や講義内容に関する意見・質問など）を記入し、提出します。

担当：金藤正直

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	セミナーの目的、進め方等の説明。講義の全体像の解説をします。
第2回	セミナー	外部講師による講義
第3回	セミナー	外部講師による講義
第4回	セミナー	外部講師による講義
第5回	セミナー	外部講師による講義
第6回	セミナー	外部講師による講義
第7回	セミナー	外部講師による講義
第8回	セミナー	外部講師による講義
第9回	セミナー	外部講師による講義
第10回	セミナー	外部講師による講義
第11回	セミナー	外部講師による講義
第12回	セミナー	外部講師による講義
第13回	セミナー	外部講師による講義
第14回	まとめと試験	これまでのセミナー内容の総括とこれらに関する試験を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料などを使用して必ず予習・復習をしてください。
 予習：次週以降のテーマにつき自分なりの予備知識を得て、質問や意見などを用意しておいてください。
 復習：講義で配布されたプリントや、聴講した内容について復習し、いっそうの理解や興味を深めていきます。本セミナーの準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。必要に応じて外部講師によるプリント（資料）が配布されます。

【参考書】

外部講師や教員が必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（参加姿勢、コメントペーパーの内容、授業中の発言など）：40%
 テスト・レポート：60%
 ・原則として、4回以上無断で欠席した者は、成績評価を行いません（D評価となります）。
 ・講義開始から10分以上遅れて入室することは認められず、欠席扱いとします。
 ・講義中のスマートフォンの使用は禁止します（授業改善アンケートへの回答作業は除く）。パソコン・タブレットの使用については許可制とします。ルールを守らない場合は、減点または欠席扱いとします。

【学生の意見等からの気づき】

学生が興味を持ち、自主的に学習できるようなテーマを選んでください。

【その他の重要事項】

講演後に質問時間が設けられるので、積極的に質問を行ってください。
 本セミナーの詳しいテーマおよび外部講師については、掲示板および学部ウェブサイトで発表します。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

The purpose of this lecture is to learn the management method for food and health conducted in companies and regions.

OTR200HA

人間環境セミナー（デジタル社会を考える）**人間環境学部教員**

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 6/Wed.6

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータ、インターネット、AI（人工知能）などに代表されるデジタル技術は21世紀に入り、これまでにないスケールと速さで経済社会に大きな変化をもたらしつつある。このセミナーでは歴史的経緯なども含めて、デジタル技術と社会の持続可能性の関連など、さまざまな側面からデジタル技術が社会に及ぼす影響とそれらの背景について考えることを目的とする。

【到達目標】

本セミナーでは、経済社会に大きな影響を与えつつあるデジタル技術の発展と社会での受容・普及に関して、受講者がそれぞれに基本的な考え方を身につけることを目標とする。

デジタル技術は20世紀後半から社会に影響を与えはじめたが、21世紀に入ってからさまざまなデジタル技術が経済の網の目のなかで広範に適用・応用されるようになり、人々の働き方、物やサービスの生産、消費・投資などに顕著な影響を及ぼしつつある。このような現状に立って、いま何が起きつつあるのか、またそれらの将来像などに関しての情報・知識を得るだけでなく、人々はこれらの変化に対してどのように対処して行けばよいのか、持続可能な社会との関連は何なのかなどを考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

本セミナーは、①基盤としてのデジタル技術の発展、②デジタル技術の既存社会との適応課題、③デジタル技術の利用現場の3つの分野から、それぞれの分野で活躍されている専門の講師を招き、基本的な視点から、各講師の知見や意見、体験などを聴講する。また、外部講師による講義に代えて、複数の教員によるディスカッションの場合も想定する。

受講者はそれぞれの回に講師から示されるキーワードなどの質問への回答などを記述したペーパーの提出が求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	セミナーの目的と進め方、各講師の講義タイトルの紹介と全体の構成の紹介など
第2回	セミナー	外部講師による講義
第3回	セミナー	外部講師による講義
第4回	セミナー	外部講師による講義
第5回	セミナー	外部講師による講義
第6回	セミナー	外部講師による講義
第7回	セミナー	外部講師による講義
第8回	セミナー	外部講師による講義
第9回	セミナー	外部講師による講義
第10回	セミナー	外部講師による講義
第11回	セミナー	外部講師による講義
第12回	セミナー	外部講師による講義
第13回	セミナー	外部講師による講義
第14回	まとめと試験	総括とこれまでのセミナーに関する試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。各回の講義で紹介される資料等を使用して、必ず予習・復習をすること。そこで紹介された参考資料などに目を通し、個別のデジタル技術の内容とその影響を確認すること。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。必要に応じて外部講師が資料を配付する。

【参考書】

参考書（資料）は、外部講師が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績評価の基準は、平常点30%、期末試験が70%とする。出席は毎回取ります。10分以上遅れて入室することは認められず、欠席扱いとなります。また、4回以上の欠席はD評価となりますので、注意してください。期末試験は、各講師が示したポイント等について出題されます。

【学生の意見等からの気づき】

学生が興味を持ち、自主的に学習できるようなテーマを選択します。

【その他の重要事項】

講義後に講師への質問の時間が設けられるので、積極的に質問をして下さい。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

Digital technologies, such as computers, the internet, and artificial intelligence, have been changing society at an unprecedented pace in the twenty-first century. This seminar provides students with detailed information on various impacts of digital technologies, as well as their background. Students will learn the basics of digital technologies in the context of attaining a sustainable society.

OTR200HA

フィールドスタディ

人間環境学部教員

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国内外のさまざまな「現場（フィールド）」を訪問し、人間環境学部での多様な学びに関連するテーマについて、直接的に触れ、実習を行う。社会との交流・連携を重視する当学部カリキュラムの特色を体現する教育プログラムであり、課題解決型学習（PBL）のひとつでもある。

【到達目標】

教室での講義や文献から学んだ事柄を、「現場」における実体験を通じて検証し、当該フィールドにおけるトピックス、テーマに関する知識を習得するとともに、人間環境学部で学ぶ自らの問題意識を高めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

各コースでは、実施テーマに応じて事前学習を行う。それに基づいて現地での観測・観察や調査、施設での実習などを行う。現地学習終了後は事後の学習や報告会などを行う。各コースの構成はそれぞれ異なるので、掲示に注意すること。また「履修の手引き」も参照すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	事前オリエンテーション	フィールドスタディの概略。
第2回～	事前講義	各コースに関連する事項、参加にあたっての注意事項等。
第4回		
第5回～	現地実習・観察	現地に赴き、観察や調査、施設での実習などを行う。実習の日数や宿泊の有無はコースによって異なる。合計4日間の実習が原則であるが、国内遠距離地域や海外でのフィールドスタディの場合には1週間から10日前後に及ぶこともある。
第10回		
第11回	事後講義	現地体験の総括講義、報告会等。
～第13回		
第14回	レポート提出	与えられたテーマについてレポートを作成し、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コースに応じ、オリエンテーションなどで適宜指示する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

コースに応じ、オリエンテーションなどで適宜指示する。

【参考書】

コースに応じ、オリエンテーションなどで適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

コースに応じ、オリエンテーションなどで適宜指示する。

【学生の意見等からの気づき】

非実施科目につき該当なし

【その他の重要事項】

参加確定後はやむを得ない事情がない限りキャンセルを認めない。
参加には交通機関や宿泊施設など別途費用がかかるので、注意すること。自己都合でキャンセルした場合には、原則として費用は返還されない。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This is a combination of lectures and off-campus visit for deepening knowledge and experiences related to sustainability issues in reality. Students are expected to learn sustainability issue deeply, to interrelate class-room knowledge with reality in the ground, and to strengthen their motivations to study further.

OTR200HA

フィールドスタディ

人間環境学部教員

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国内外のさまざまな「現場（フィールド）」を訪問し、人間環境学部での多様な学びに関連するテーマについて、直接的に触れ、実習を行う。社会との交流・連携を重視する当学部カリキュラムの特色を体現する教育プログラムであり、課題解決型学習（PBL）のひとつでもある。

【到達目標】

教室での講義や文献から学んだ事柄を、「現場」における実体験を通じて検証し、当該フィールドにおけるトピックス、テーマに関する知識を習得するとともに、人間環境学部で学ぶ自らの問題意識を高めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

各コースでは、実施テーマに応じて事前学習を行う。それに基づいて現地での観測・観察や調査、施設での実習などを行う。現地学習終了後は事後の学習や報告会などを行う。各コースの構成はそれぞれ異なるので、掲示に注意すること。また「履修の手引き」も参照すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	事前オリエンテーション	フィールドスタディの概略。
第2回～	事前講義	各コースに関連する事項、参加にあたっての注意事項等。
第4回		
第5回～	現地実習・観察	現地に赴き、観察や調査、施設での実習などを行う。実習の日数や宿泊の有無はコースによって異なる。合計4日間の実習が原則であるが、国内遠距離地域や海外でのフィールドスタディの場合には1週間から10日前後に及ぶこともある。
第10回		
第11回	事後講義	現地体験の総括講義、報告会等。
～第13回		
第14回	レポート提出	与えられたテーマについてレポートを作成し、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コースに応じ、オリエンテーションなどで適宜指示する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

コースに応じ、オリエンテーションなどで適宜指示する。

【参考書】

コースに応じ、オリエンテーションなどで適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

コースに応じ、オリエンテーションなどで適宜指示する。

【学生の意見等からの気づき】

非実施科目につき該当なし

【その他の重要事項】

参加確定後はやむを得ない事情がない限りキャンセルを認めない。
参加には交通機関や宿泊施設など別途費用がかかるので、注意すること。自己都合でキャンセルした場合には、原則として費用は返還されない。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline and objectives】

This is a combination of lectures and off-campus visit for deepening knowledge and experiences related to sustainability issues in reality. Students are expected to learn sustainability issue deeply, to interrelate class-room knowledge with reality in the ground, and to strengthen their motivations to study further.

OTR400HA

SCOPE Seminar

Atsuko Watanabe

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火5/Tue.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This seminar offers students opportunities to discuss contemporary issues and prospects associated with globalization. Although it is said that information technology (IT) has made a massive amount of knowledge accessible to us, it is entirely unclear how we can effectively use it to make the world more sustainable. On the contrary, we tend to be drawn in a sea of information. This seminar encourage students to gain skills to critically analyse knowledge in the age of globalization.

【到達目標】

- 1) learn critical reading skills.
- 2) learn critical thinking skills.
- 3) understand how 'concepts' are used analytically.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

The course will consist of short lectures, discussions, and presentations by students. While we are reading the same textbook together, each student is encouraged to find news to share and discuss in class. In addition to midterm report on what is learned from the textbook, each student is required to complete his/her final project (essay, poem, drawing, video, etc).

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Introduction to the course
Week 2	Reading academic literature (1)	Short lecture and discussion
Week 3	Reading academic literature (2)	Short lectures and discussion
Week 4	Reading academic literature (3)	Short lecture and discussion
Week 5	Reading academic literature (4)	Short lecture and discussion
Week 6	Reading academic literature (5)	Short lecture and discussion
Week 7	Reading academic literature (6)	Short lecture and discussion
Week 8	Reading academic literature (7)	Short lecture and discussion
Week 9	Reading academic literature (8)	Short lectures and discussion
Week 10	Reading academic literature (9)	Short lectures and discussion
Week 11	Reading academic literature (10)	Short lectures and discussions
Week 12	Reading academic literature (11)	Short lecture and discussion
Week 13	Reading academic literature (12)	Short lecture and discussion
Week 14	Conclusion	Reflections and final remarks

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

Textbook will be introduced in the first class.

【参考書】

References will be introduced in class.

【成績評価の方法と基準】

Class participation and discussions: 50%
Presentations: 20%
Final assignment: 30%

【学生の意見等からの気づき】

We will look into media coverage more in addition to academic texts.

【学生が準備すべき機器他】

No specified equipment is needed.

【その他の重要事項】

Please note that if the number of students attending the first class significantly exceeds expectations, in order for the instructor to effectively manage the class, the number of students who are allowed to register for the course may be limited.

OTR400HA

SCOPE Seminar

Masaatsu TAKEHARA

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 5/Wed.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This seminar offers students opportunities to acquire knowledge and skills to analyze the role of business to contribute to global issues described in the SDGs, U.N. Sustainable Development Goals. As governments alone cannot solve problems such as climate change, poverty and various forms of inequalities, there is growing expectation for businesses and civil society to play more important roles. Companies are uniquely positioned to work with their stakeholders to reduce negative impact across their value chains and deliver high-impact business solutions to challenging sustainability issues. Through this course, students learn various efforts of global companies to solve challenges on the earth and how they are creating shared value (CSV) and realizing sustained growth.

【到達目標】

Students aim at achieving the following goals:

- (1) Learn global sustainability challenges and how companies are creating shared values (CSV) and realizing their sustained growth.
- (2) Develop logical thinking skills to systematically analyze by setting agenda and collecting necessary information.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

Under current circumstances, in this 2020 spring semester, at least the first half, lectures will be held online. Any changes to the class schedule will be presented to the learning managing system(the new Hoppii) each time. The start of this class is April 22, but we plan to spend first two weeks for orientation and guidance and concrete classes will start from May 6.

(updated on April 17)

The course will consist of short lectures, discussions, and presentations by students. To acquire basic knowledge on global sustainability and roles of companies, students will review selected academic literature and sustainability/Integrated reports issued by major global companies. The summary of those materials will be reported by students. If students are interested in a specific industry or company, they can conduct research and share the research findings with other members of this course.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation	Introduction to the course. Short lectures and discussions
2	Reading academic literature (1)	Short lectures and discussions
3	Reading academic literature (2)	Student presentation and discussions
4	Reading academic literature (3)	Student presentation and discussions
5	Reading academic literature (4)	Student presentation and discussions
6	Reading academic literature (5)	Student presentation and discussions
7	Reading academic literature (6)	Student presentation and discussions
8	Reading academic literature (7)	Student presentation and discussions
9	Reading academic literature (8)	Student presentation and discussions
10	Reading academic literature (9)	Student presentation and discussions
11	Reading academic literature (10)	Student presentation and discussions
12	Reading academic literature (11)	Student presentation and discussions
13	Reading academic literature (12)	Student presentation and discussions
14	Reading academic literature (13)	Student presentation and discussions

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to attend each class fully prepared by reading textbooks and references. Also, students are required to complete all assignments on time. If students want to maximize learning effectiveness, approximately 2 hours for preparation for each class is required.

【テキスト（教科書）】

Textbook will be introduced during the orientation.

【参考書】

References will be introduced in class.

【成績評価の方法と基準】

Grading will be decided based on the following criteria:

- (1)Active participation in the class discussion: 50%
- (2)In-class presentations:25%
- (3)Final writing assignment:25%

Please note if students miss four or more classes, they cannot receive credit unless they have a justifiable reason. Even with a justifiable reason, if students miss four or more classes, their grading may be adjusted.

【学生の意見等からの気づき】

More actual business cases will be reviewed and discussed.

【学生が準備すべき機器他】

No special equipment is needed in this course.

【その他の重要事項】

In this course, all discussions will be conducted in English therefore it would be preferable for students thinking of taking this course to have advanced English communication skills.

OTR400HA

SCOPE Seminar

Atsuko Watanabe

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火5/Tue.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This seminar invites you to think about the concept of peace: what does it mean? Peace is re-attracting attention because the growingly globalizing and diversifying world, in which conflicts are rather increasing, and asks us to reconsider its fundamental meaning. In Japan, the revision of the peace constitution is causing controversy. Indeed, peace is much more vague and ambiguous a concept than we think. We first study general theories of peace and then its historical development. We invite some people who work for their various fields to discuss the topic with us. Students are required to work on their own project to think about how peace can be re-imagined to make the world be more sustainable.

【到達目標】

By the end of the course, students will be able to:

- 1) Gain knowledge about global conceptual history and the concept of peace.
- 2) Critically think about the difference in world politics.
- 3) Improve presentation, writing, and discussion skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

Short lectures, students' presentations, and discussions led by students. We have a field visit and a guest lecture.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction: What is peace?	What is the issue of peace?
Week 2	Defining peace	How can peace as a concept defined?
Week 3	Peace in history	Discuss how the concept of peace has evolved historically particularly in the European context
Week 4	Modern conception of peace	Understand peace in modernity
Week 5	Peace and war	Understand the relation between peace and war
Week 6	Contemporary peace	Discuss the contemporary issue of peace. Why does peace difficult to attain in this age of globalization?
Week 7	Peace in Asia	Understand cultural difference in the concept of peace
Week 8	Peace and Japan I	Understand Japan's peace constitution historically
Week 9	Peace and Japan II	Examine the debate of Japan's constitutional revision
Week 10	Peace and Japan III	Discuss the debate of Japan's constitutional revision
Week 11	Field visit	Visit a location that is significant in considering issues surrounding peace
Week 12	Guest lecture	Lecture by an expert on peace
Week 13	Student presentations	Student presentations and discussions
Week 14	Presentations and conclusion	Wrap up and final guidance for the final report

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students need to prepare for and review each session by using the textbook and distributed materials. Students are required to carry out their projects with close supervision from the instructor. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

Richmond O.P. 2014 Peace: A Very Short Introduction (Oxford University Press)

Reading materials are distributed in class.

【参考書】

The reference list is distributed in class.

【成績評価の方法と基準】

Class participation and discussions: 20%

Class presentation: 20%

Midterm report: 20%

Final project: 40%

【学生の意見等からの気づき】

The course will help you increase critical thinking power.

【学生が準備すべき機器他】

No equipment is needed in this class.

【その他の重要事項】

N/A

OTR400HA

SCOPE Seminar

Masaatsu TAKEHARA

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 5/Wed.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This seminar offers students opportunities to acquire knowledges and skills to analyze the role of business to contribute to global issues described in the SDGs, U.N. Sustainable development Goals. As governments alone cannot solve those problems such as climate change, poverty and various forms of inequalities, there is growing expectation for businesses and civil society to play more important roles. Companies are uniquely positioned to work with their stakeholders across their value chains to deliver high-impact business solutions to challenging sustainability issues. Through this course, we learn various efforts of global companies to solve challenges on the Earth and how they are Creating Shared Values (CSV) and enhancing their corporate values.

【到達目標】

We aim at achieving following goals:

- (1) Learn global sustainability challenges and how companies are creating shared values (CSV) and enhancing their corporate values.
- (2) Train logical thinking skill to consider systematically by setting agenda individually and collecting, analyzing necessary information.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

Under current circumstances, in this 2020 spring semester, at least the first half, lectures will be held online. Any changes to the class schedule will be presented to the learning managing system(the new Hoppii) each time. The start of this class is April 22, but we plan to spend first two weeks for orientation and guidance and concrete classes will start from May 6.

(updated on April 17)

The course will consist of short lectures, discussions, and presentations by students. To acquire basic knowledge on global sustainability and role of companies, we will review selected academic literatures and sustainability/Integrated reports issued by major global companies. The summary of those materials will be reported by students. If students are interested in a specific industry or company, he or she can conduct research and share the research findings with other members of this course.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation	Introduction to the course Short lectures and discussions
2	Reading academic literatures (1)	Short lectures and discussions
3	Reading academic literatures (2)	Student presentation and discussions
4	Reading academic literatures (3)	Student presentation and discussions
5	Reading academic literatures (4)	Student presentation and discussions
6	Reading academic literatures (5)	Student presentation and discussions
7	Reading academic literatures (6)	Student presentation and discussions
8	Reading academic literatures (7)	Student presentation and discussions
9	Reading academic literatures (8)	Student presentation and discussions
10	Reading academic literatures (9)	Student presentation and discussions
11	Reading academic literatures (10)	Student presentation and discussions
12	Reading academic literatures (11)	Student presentation and discussions
13	Reading academic literatures (12)	Student presentation and discussions
14	Reading academic literatures (13)	Student presentation and discussions

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students need to prepare for and review each session by using textbooks, references, and distributed materials.
Students are expected to attend each class fully prepared and complete all assignments on time. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

Textbook will be introduced during the orientation.

【参考書】

References will be introduced in class.

【成績評価の方法と基準】

Grading will be decided based on following criteria:

- (1)Active participation in the class discussion: 50%
- (2)In-class presentations:25%
- (3)Final writing assignment:25%

Please note if you miss four or more classes, you cannot receive credit without a justifiable reason. Even with a justifiable reason, if you miss four or more class, your evaluation may be adjusted.

【学生の意見等からの気づき】

We will be reviewing more actual business cases.

【学生が準備すべき機器他】

No special equipment is needed in this course.

【その他の重要事項】

In this course, all discussions will be conducted in English therefore students who are thinking of taking this course need to have advanced English communication skills.

OTR400HA

SCOPE Seminar

Hidemi YOSHIDA

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this seminar, students will learn climate change and inequality by reading a UN report and discussing related cases.

【到達目標】

We aim at achieving following goals:

- (1) learn about inequalities that divide the society,
- (2) understand the cause and effect of inequality,
- (3) have skill to read reports with statistical data.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

The course will consist of students' report summary, complementary lecture and discussion.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation	Introduction to the course Short lectures and discussions
2	Reading UN report (1)	Short lectures and discussions
3	Reading UN report (2)	Student presentation and discussions
4	Reading UN report(3)	Student presentation and discussions
5	Reading UN report (4)	Student presentation and discussions
6	Reading UN report (5)	Student presentation and discussions
7	Reading UN report(6)	Student presentation and discussions
8	Reading UN report (7)	Student presentation and discussions
9	Reading UN report (8)	Student presentation and discussions
10	Reading UN report(9)	Student presentation and discussions
11	Reading UN report(10)	Student presentation and discussions
12	Reading UN report(11)	Student presentation and discussions
13	Reading UN report(12)	Student presentation and discussions
14	Reading UN report (13)	Student presentation and discussions

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students need to prepare for and review each session by using textbooks, references, and distributed materials.
Students are expected to attend each class fully prepared and complete all assignments on time. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

"World Social Report 2020 - Inequality in a rapidly changing world (Chapter 3. Climate Change: exacerbating poverty and inequality)." Department of economic and social affairs, UN

【参考書】

References will be introduced in class.

【成績評価の方法と基準】

Grading will be decided based on following criteria:

- (1) Active class participation:40%
- (2) Completion of in-class reporting(presentation) assignments: 40%
- (3) Final writing assignments:20%

【学生の意見等からの気づき】

Reading materials are subject to change based on students' understanding and interest.

【学生が準備すべき機器他】

No special equipment is needed in this course.

【その他の重要事項】

We welcome those who are not confident in their English reading comprehension and are willing to do their best.

OTR400HA

SCOPE Seminar

Hidemi YOSHIDA

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火5/Tue.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this seminar, students will learn about inequality by reading a UN report and discussing related cases.

【到達目標】

We aim at achieving following goals:

- (1) learn about inequalities that divide the society,
- (2) understand the cause and effect of inequality,
- (3) have skill to read reports with statistical data.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

The course will consist of students' report summary, complementary lecture and discussion.

< Important Notice >

The revised schedule, learning methods, homework, and scoring method for this class will be posted on the bulletin board in the LMS 2020 by noon on April 16th.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation	Introduction to the course Short lectures and discussions
2	Reading UN report (1)	Short lectures and discussions
3	Reading UN report (2)	Student presentation and discussions
4	Reading UN report (3)	Student presentation and discussions
5	Reading UN report (4)	Student presentation and discussions
6	Reading UN report (5)	Student presentation and discussions
7	Reading UN report(6)	Student presentation and discussions
8	Reading UN report(7)	Student presentation and discussions
9	Reading UN report(8)	Student presentation and discussions
10	Reading UN report (9)	Student presentation and discussions
11	Reading UN report (10)	Student presentation and discussions
12	Reading UN report (11)	Student presentation and discussions
13	Reading UN report(12)	Student presentation and discussions
14	Reading UN report (13)	Student presentation and discussions

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students need to prepare for and review each session by using textbooks, references, and distributed materials.

Students are expected to attend each class fully prepared and complete all assignments on time. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

"World Social Report 2020 - Inequality in a rapidly changing world (Chapter 1. Where we stand today)" by Department of Economic and Social Affairs, UN.

【参考書】

References will be introduced in class.

【成績評価の方法と基準】

Grading will be decided based on following criteria:

- (1) Active class participation: 40%
- (2) Completion of in-class reporting(presentation) assignments: 40%
- (3) Final writing assignments: 20%

【学生の意見等からの気づき】

Reading materials are subject to change based on students' understanding and interest.

【学生が準備すべき機器他】

No special equipment is needed in this course.

【その他の重要事項】

We welcome those who are not confident in their English reading comprehension and are willing to do their best.

OTR400HA

SCOPE Seminar

Shamik Chakraborty

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Join us in the seminar course to gain understanding on fundamental aspects of landscapes and sustainability through engaging with local socio-ecological landscapes/seascapes. We will learn through active learning. This course is directly related to the aims of the Sustainability Co-creation Programme (SCOPE) at Hosei University.

Students will also directly learn from local stakeholders. A vital attribute of the seminar course is developing a “class project” where the students are required to bring their own research questions while employing a suitable method to explore the answer (e.g., interview, questionnaire, observation) from field study. Students will then be required to write a report, summing up their investigations. Students will also get unique chances to learn from local stakeholders/resource managers regarding various local sustainability problems.

【到達目標】

The course is designed as an advanced seminar course for undergraduate students. Those who are interested to know about socioecological landscapes (such as Satoyama, Satoumi, urban green spaces etc.) by directly visiting these landscapes and learning from local stakeholders are welcome. By completing this seminar, students will gain a critical understanding of the various challenges of sustainable resource use from fieldwork-based experiences, critical thinking, and discussion.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

Lectures and personal guidance will be carried out regarding each of the student's class project. There will be opportunities for discussion and feedback on the individual project. The course will mainly be based on on-campus classes and field trips.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction and orientation 1	Guidance for the seminar course. What are socioecological landscapes? How socioecological landscapes can inform sustainability studies.
Week2	Introduction and orientation 2	Guidance for the seminar course. What are socioecological landscapes? How socioecological landscapes can inform sustainability studies.
Week 3	Research methods 1	Guidance and discussion on research methods
Week 4	Research methods 2	Guidance and discussion on research methods
Week 5	Guest lecture	Experienced and knowledgeable person will be invited to give lecture followed by a question and answer session
Week 6	Critical thinking and discussion	Discussion and presentations on field study/guest lecture
Week 7	Commons in socioecological landscapes	Commons in socioecological landscapes, change, degradation and resilience
Week 8	Indigenous and local knowledge	Indigenous and local knowledge in socioecological landscape resilience
Week 9	Discussions on individual projects 1	Guidance on students' class projects
Week 10	Discussions on individual projects 2	Guidance on students' class projects
Week 11	Discussions on individual projects 3	Guidance on students' class projects
Week 12	Discussions on individual projects 4	Guidance on students' class projects
Week 13	Presentations	Students presentations on their research projects

Week 14 Summary

Summary of the course. What we have learnt from the course and looking forward.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each. Students need to prepare for and review each session by using textbooks, references, and distributed materials.

【テキスト（教科書）】

There is no specific textbook; all materials will be distributed in the class.

【参考書】

References will be provided in the class.

【成績評価の方法と基準】

Class participation and discussions: 20%

Class presentation: 30%

Final report: 50%

【学生の意見等からの気づき】

No significant changes were made based on students' comments.

【学生が準備すべき機器他】

N/A

【その他の重要事項】

Please note that if the number of students attending the first class significantly exceeds expectations, in order for the instructor to effectively manage the class, the number of students who are allowed to register for the course may be limited.

OTR400HA

SCOPE Seminar

Shamik Chakraborty

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水3/Wed.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）

Seminar (Advanced)

Join us in the seminar course to gain understanding on fundamental aspects of landscapes and sustainability through engaging with local socio-ecological landscapes/seascapes. This seminar will be a continuation of the seminar held in the fall semester and give an insight into the concept of landscape studies and its application in studying sustainability.

A major part of the field research will link the notion of cultural landscapes, together with learning from local knowledgeable stakeholders to have a critical understanding of landscapes and sustainability. A vital attribute of the seminar class is developing (or continuing) a "class project" where the students are required to bring their own research questions while employing a suitable method to explore the answer (e.g., interview, questionnaire, observation) from topics introduced. Students will then be required to write a report, summing up their investigations.

【到達目標】

The course is designed as an advanced seminar course for undergraduate students. Those who are interested to know about cultural landscapes (such as the traditional agriculture and/or fisheries-based systems) by directly visiting these ecosystems coupled with a detailed review of the literature are welcome. Students are encouraged to learn from local stakeholders -whenever possible- through their research projects. By completing this seminar, students will gain a critical understanding of their research projects. They will also work through fieldwork-based experiences, critical thinking, discussion, and writing to explore workable solutions to their chosen research problems. Students will learn vital oral and written communication skills. These skills will help them in their future studies and research.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

Lectures and personal guidance will be carried out regarding each of the student's class project. There will be opportunities for discussion and feedback on the individual project. The course will mainly be based on on-campus classes and field trips.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction landscapes studies	What is "landscapes study" and what are its relations to sustainability studies? Evolution of the notion of landscape studies in sustainability science
Week 2	Landscape studies for sustainable landscape governance	How the notion of landscapes can be used for an integrated landscape governance
Week 3	Guidance on research design 1.	Guidance and discussion on research methods and research design for students' individual research projects.
Week 4	Guidance on research design 2.	Deepen discussion based on the previous class (i.e., week 3)
Week 5	Guidance on academic writing 1.	Guidance and discussion on academic writing, how to reflect critical thinking while writing. Guidance on IMRaD writing style.
Week 6	Guidance on academic writing 2.	Deepen discussion based on the previous class (i.e., week 5)
Week 7	Critical thinking and discussion	Discussion and presentations on field study/ invited lecture.
Week 8	Resilience of landscapes, the notion of cultural landscapes	Cultural landscapes and resilience (reflection through the field studies and invited lecture).
Week 9	Field visit	Location TBA

Week 10	Invited lecture	Experienced and knowledgeable person from the local stakeholders or experts will be invited to give a lecture followed by a question and answer session.
Week 11	Indigenous and local knowledge	Indigenous and local knowledge in cultural landscapes and their resilience (reflection through the field studies and invited lecture).
Week 12	Critical thinking and discussion	Discussion and presentations on field study/Invited lecture.
Week 13	Class presentation	Class presentations by students on their chosen research project
Week 14	Class presentation and course summary	Class presentations by students (reserve day) Wrap up, final guidance for writing report.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students need to prepare for and review each session by using assigned texts, references, and distributed materials.

Students are required to carry out their field studies with close supervision from the instructor. They are encouraged to raise fresh issues or offer critical viewpoints on the readings. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

There is no specific textbook; all materials will be distributed in the class

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Class attendance and discussions: 20%

Class presentation: 30%

Final report: 50%

【学生の意見等からの気づき】

I would like to facilitate more discussion in the class as well as explain technical terms for easy understanding.

【学生が準備すべき機器他】

No equipment is needed in this class.

【その他の重要事項】

N/A

